

---

行 田 市

---

# 築道下遺跡Ⅰ

---

行田南部工業団地造成事業関係埋蔵文化財発掘調査報告Ⅰ

1997

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



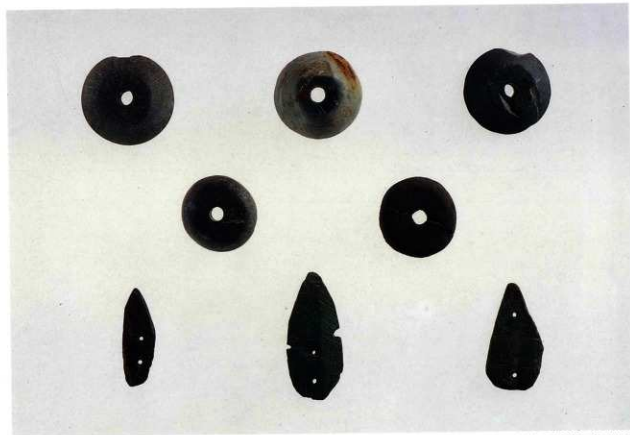
18号住居跡出土遺物



25号住居跡出土遺物



築道下遺跡出土須恵器



築道下遺跡出土石製品

## 序

埼玉県は豊かな自然環境などと調和の取れた均衡ある発展をめざした産業の振興を図っております。特に、都心から50km以遠の県北地域を対象に先端技術産業などの導入を軸とした創造的で活力あふれた地域社会をめざすテクノグリーン構想に基づく工業の振興を進めております。

行田市の南部地域に計画された行田南部工業団地は、テクノグリーン構想を積極的に推進すると共に、利根地域の産業振興と雇用機会の拡大をめざす事業であります。

事業の進められている行田市域は、自然環境に恵まれた豊かな田園地域であると共に、歴史と伝統に培われた街でもあります。特に、事業地の東に広がる埼玉は、埼玉県ゆかりの地であり、金錯銘鉄剣で知られる埼玉古墳群が知られるほか、多くの古代から遺跡が残されております。

工業団地造成事業地内にも築道下遺跡、ハッ島遺跡の所在が確認されておりました。そこで、埋蔵文化財の取り扱いについて関係機関と協議を重ねられてまいりましたが、当事業団が発掘調査を実施し、記録保存の措置を講ずることになりました。

今回報告いたします築道下遺跡の発掘調査では、古墳時代から中世に至るまでの多くの遺構・遺物が発見されております。発掘調査は現在も進めておりますが、元荒川河畔に沿って営まれた、長大な集落跡の全貌が次第に明らかになりつつあります。また調査区の一画では中世墳墓が発見され、県内でも有数の調査例となるものであります。

発掘調査が長期に及ぶため順次成果を報告していく予定ですが、今回、平成7年度の成果を中心に第一冊目として刊行することといたします。本書が埋蔵文化財保護行政の基礎資料として、また、学術研究や教育・啓発の資料として広く活用していただければ幸いです。

刊行に当たり、発掘調査から本書の刊行に至るまで多大な御指導・御協力いただきました埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課をはじめ、埼玉県企業局、行田市教育委員会、並びに地元関係者各位に対しまして厚くお礼申し上げます。

平成9年3月

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団  
理事長 荒井 桂

## 例言

1. 本書は、行田市に所在する築道下遺跡の発掘調査報告書である。
2. 遺跡の略号と代表地番及び発掘調査届に対する指示通知は、以下のとおりである。  
築道下遺跡（68-144）  
行田市大字野字築道下186番地  
平成7年4月28日付教文第2の23号  
平成8年4月15日付教文第2の12号
3. 発掘調査は、行田南部工業団地造成事業に伴うものであり、埼玉県教育局生涯部文化財保護課が調整し、埼玉県企業局の委託を受け、財団法人埼玉埋蔵文化財調査事業団が実施した。
4. 発掘調査は、第1章の組織により実施した。本事業のうち発掘調査については、平成7年度（平成7年4月1日～平成8年3月31日）を劔持和夫・吉田稔・君島勝秀・松澤浩一が担当し、同年10月より浜野美代子が松澤と担当を交替して、実施した。なお、発掘調査は、平成8年度も継続して実施している。整理報告書作成事業は、吉田稔が担当し、平成8年4月1日から平成9年3月31日まで実施した。平成8年度の調査区における整理範囲は、A区、D区、及びB区56溝以北の遺構・遺物である。ただし、57・58・59・61号溝については、56号溝との関連性を考慮して本報告に掲載した。
5. 遺跡の基準点測量は、株式会社アイシーに委託した。また口絵カラー写真は小川忠博氏に委託した。土器胎土分析については、第4紀地質研究所へ委託した。
6. 本書の執筆は、I-1を文化財保護課が、他を吉田が担当した。また、填輪についての事実記載は大谷徹が、中世陶磁器の鑑定は、浅野晴樹が行った。須恵器の産地同定は、酒井清治が行った。  
図版作成、写真撮影は、下記の者が行った。  
図版作成 吉田 稔  
発掘調査写真撮影 濱野美代子 劔持和夫  
吉田 稔 君島勝秀  
松澤浩一  
遺物写真撮影 吉田 稔
7. 本書の編集は、吉田があたった。
8. 本書にかかる資料は、平成9年度以降埼玉県立埋蔵文化財センターが保管する。
9. 本書の作成にあたり下記の方々から御教示、御協力を賜った。記して謝意を表します。（敬称略）  
堀口萬吉 栗原文蔵 斉藤国夫 塚田良道  
中島洋一 門脇伸一 行田市教育委員会

## 凡例

1. 本遺跡における遺構番号表示については、発掘調査時点での番号と、報告書掲載番号を以下に記載するとおり変更するものとする。  
A区…調査時の番号に一致する。但し、平成8年度調査部分については、継続番号を付与した。  
D区…調査時の遺構開始番号500番台（ピットは1000番台）を一桁の開始番号に改めた。  
B区…調査時の番号に一致する。但し、A区から継続表示された番号の為、A区に使用された番号は、欠番とする。  
その他、整理時に遺構と認められないものについては、欠番とした。
2. X・Yによる座標表示は、国家標準直角座標第Ⅹ系に基づく座標値を示し、方位は全て座標北を表す。
3. 挿図の縮尺は、遺跡全測図1/500、住居跡1/60、掘立柱建物跡1/60、火葬跡1/60、土塋1/60、井戸跡1/60、ピット1/60、溝1/100、溝断面図1/50、土師器・須恵器・陶器・木製品実測図1/4、縄文土器拓影図・石器実測図1/3、磁器実測図1/2、石製品・土製品・鉄製品実測図1/2、古銭拓影図1/1、板碑1/6とした。  
その他、遺跡位置図、周辺地形図、遺跡全体図、遺物分布図等は、その都度、スケール協に縮尺率を示した。
4. 全測図等に示す遺構表記の略号は、以下のとおりである。SA…柵列、SB…掘立柱建物跡、SD…溝、SE…井戸跡、SJ…竪穴式住居跡、SK…土塋、ST…火葬跡、P…ピット、SX…不明遺構
5. 遺構図中に示したドットは、遺物の出土位置および接合関係を示し、ナンバーは、遺物実測図のそれと一致する。
6. 挿図中のスクリーンは、次のことを表示した。遺跡全測図中の斜線は、攪乱の範囲を示した。また、網かけは、行田市教育委員会による発掘調査区を示した。遺構図中の網かけは、支脚の位置を土師器実測図の網かけは、赤彩土器の赤彩範囲を示した。
7. 遺物観察表の凡例は、以下のとおりである。計測値の( )内数値は推定値であり、単位はcmを示す。胎土は、土器に含まれる含有鉱物を以下の記号で示した。A…石英、B…白色粒子、C…長石、D…角閃石、E…赤色粒子、F…黒色粒子、G…雲母、H…片岩、I…白色針状物質、J…砂粒、K…チャート、L…小礫。  
色調は、『新版標準土色帖』（農林省水産技術会議事務局監修1967）に照らし最も近い色相を記した。彩度や明度は無視した為、かなり幅のあるものである。残存率は5%刻みで表したが、破片の場合図で示した残存部位に対するもので、必ずしも全体に占める残存率を表示していない。  
焼成は、次のように区分した。1…硬質・堅致、2…良好、3…普通、4…劣・不良、5…軟質・脆弱。
8. 巻末に遺跡出土の石製品一覧表を掲載した。

# 目次

口 絵		
序 言		
凡 例		
目 次		
I 調査の概要	1	
1 発掘調査に至るまでの経過	1	
2 発掘調査・報告書作成の経過	2	
3 発掘調査・整理・報告書刊行の組織	3	
II 遺跡の立地と環境	4	
III 遺跡の概要	7	
IV A区の調査	11	
1 遺跡の概観	11	
2 遺構と遺物	13	
(1) 住居跡	13	
(2) 掘立柱建物跡	15	
(3) 火葬跡・土壇・ピット	20	
(4) 不明遺構(渡場)	37	
(5) 井戸跡	38	
(6) 溝	48	
V D区の調査	76	
1 遺跡の概観	76	
2 遺構と遺物	77	
(1) 掘立柱建物跡	77	
(2) 土壇・ピット	85	
(3) 井戸跡	91	
(4) 溝・柵列	94	
VI B区の調査	106	
1 遺跡の概観	106	
2 遺構と遺物	108	
(1) 住居跡	108	
(2) 掘立柱建物跡	215	
(3) 土壇・ピット	241	
(4) 井戸跡	269	
(5) 方形周溝状遺構	273	
(6) 溝・堀・柵列	273	
VII 遺構外出土遺物	294	
(1) 縄文・弥生時代出土土器	294	
(2) 埴輪	296	
(3) 古墳時代以降出土遺物	297	
VIII まとめ	310	
IX 付編 築道下遺跡出土土器胎土分析	316	

## 挿図目次

第1図	埼玉県の地形図	4	第33図	井戸跡出土遺物(2)	47
第2図	周辺遺跡分布図	6	第34図	溝(1)	52
第3図	遺跡周辺の地形図	8	第35図	溝(2)	53
第4図	調査区全測図(1)	9	第36図	溝(3)	54
第5図	調査区全測図(2)	10	第37図	溝(4)	55
第6図	A区全測図	12	第38図	溝(5)	56
第7図	1号住居跡	13	第39図	溝(6)	57
第8図	1号住居跡出土遺物	14	第40図	溝(7)	58
第9図	2号住居跡	15	第41図	溝(8)	59
第10図	1号掘立柱建物跡	16	第42図	溝(9)	60
第11図	2号掘立柱建物跡	16	第43図	溝(10)	61
第12図	3号掘立柱建物跡	17	第44図	溝(11)	62
第13図	4号掘立柱建物跡	18	第45図	溝(12)	63
第14図	5号掘立柱建物跡	19	第46図	溝(13)	64
第15図	6号掘立柱建物跡	19	第47図	溝(14)	65
第16図	7号掘立柱建物跡	20	第48図	溝(15)	66
第17図	火葬跡・土塋・ピット(1)	21	第49図	溝(16)	67
第18図	火葬跡・土塋・ピット(2)	23	第50図	溝(17)	68
第19図	火葬跡・土塋・ピット(3)	24	第51図	溝(18)	69
第20図	火葬跡・土塋・ピット(4)	25	第52図	溝出土遺物(1)	70
第21図	火葬跡・土塋・ピット(5)	27	第53図	溝出土遺物(2)	71
第22図	火葬跡・土塋・ピット(6)	28	第54図	溝出土遺物(3)	72
第23図	火葬跡・土塋・ピット(7)	30	第55図	溝出土遺物(4)	73
第24図	火葬跡・土塋・ピット(8)	31	第56図	D区全測図	76
第25図	火葬跡・土塋・ピット出土遺物(1)	34	第57図	1号掘立柱建物跡	77
第26図	火葬跡・土塋・ピット出土遺物(2)	35	第58図	2号掘立柱建物跡	78
第27図	不明遺構(波塼)	37	第59図	3号掘立柱建物跡	79
第28図	井戸跡(1)	39	第60図	4号掘立柱建物跡	80
第29図	井戸跡(2)	41	第61図	掘立柱建物跡出土遺物	81
第30図	井戸跡(3)	43	第62図	5号掘立柱建物跡	82
第31図	井戸跡(4)	45	第63図	6号掘立柱建物跡	83
第32図	井戸跡出土遺物(1)	46	第64図	7号掘立柱建物跡	84
			第65図	8号掘立柱建物跡	85
			第66図	土塋・ピット(1)	87



第67図	土壌・ピット(2)	88	第104図	28号住居跡出土遺物敷細図	128
第68図	土壌・ピット(3)	89	第105図	46・47・73号住居跡	129
第69図	土壌・ピット出土遺物	90	第106図	47号住居跡出土遺物敷細図	130
第70図	井戸跡(1)	92	第107図	13・20・21・28・46・47号住居跡 出土遺物	131
第71図	井戸跡(2)	94	第108図	18号住居跡	133
第72図	井戸跡出土遺物	94	第109図	18号住居跡出土遺物状況図	134
第73図	溝・櫛列(1)	97	第110図	19号住居跡	135
第74図	溝・櫛列(2)	98	第111図	18・19号住居跡出土遺物(1)	136
第75図	溝・櫛列(3)	99	第112図	18・19号住居跡出土遺物(2)	137
第76図	溝・櫛列(4)	100	第113図	重複住居跡群(3)	138
第77図	溝・櫛列(5)	101	第114図	17号住居跡	139
第78図	溝・櫛列(6)	102	第115図	26号住居跡	140
第79図	溝・櫛列出土遺物(1)	103	第116図	30号住居跡	142
第80図	溝・櫛列出土遺物(2)	104	第117図	27・31・63号住居跡	143
第81図	B区全測図	107	第118図	42号住居跡(1)	144
第82図	3号住居跡	108	第119図	42号住居跡(2)	145
第83図	4号住居跡	109	第120図	42号住居跡カマド出土遺物状況図	146
第84図	5号住居跡	110	第121図	44号住居跡	146
第85図	6号住居跡	111	第122図	43号住居跡	147
第86図	7号住居跡	112	第123図	17・26号住居跡出土遺物	148
第87図	4・5・6・7号住居跡出土遺物	113	第124図	26・27・30・31・42~44・63号住居跡 出土遺物	149
第88図	重複住居跡群(1)	114	第125図	79号住居跡	151
第89図	8号住居跡	115	第126図	84号住居跡	152
第90図	9・10号住居跡	116	第127図	79・84号住居跡出土遺物	152
第91図	12号住居跡	117	第128図	重複住居跡群(4)	153
第92図	60号住居跡	118	第129図	64号住居跡	154
第93図	11号住居跡	119	第130図	65・87号住居跡	155
第94図	29・36号住居跡	120	第131図	64・65・80・86号住居跡出土遺物	156
第95図	8・11・12号住居跡出土遺物	121	第132図	80号住居跡	157
第96図	15・16号住居跡	122	第133図	86号住居跡	158
第97図	22号住居跡	123	第134図	68号住居跡	159
第98図	15・22号住居跡出土遺物	123	第135図	83号住居跡	160
第99図	重複住居跡群(2)	124	第136図	92号住居跡	161
第100図	13号住居跡	124	第137図	93号住居跡	162
第101図	20号住居跡	125	第138図	68・83・92・93号住居跡出土遺物	163
第102図	21号住居跡	126			
第103図	28号住居跡	127			

第139图	重複住居跡群(5)	164	第171图	49・50・51・55・57号住居跡	
第140图	25号住居跡	165		出土遺物(3)	194
第141图	25号住居跡出土遺物微細図	166	第172图	56・75号住居跡	196
第142图	38号住居跡	167	第173图	54号住居跡	197
第143图	39号住居跡	168	第174图	62号住居跡	198
第144图	61号住居跡	168	第175图	82号住居跡	198
第145图	40号住居跡	169	第176图	81号住居跡	199
第146图	25・38・39・40・61号住居跡		第177图	52号住居跡	200
	出土遺物(1)	170	第178图	70号住居跡	200
第147图	25・38・39・40・61号住居跡		第179图	53号住居跡	201
	出土遺物(2)	171	第180图	48号住居跡	202
第148图	37号住居跡	172	第181图	48・52・53・54・56・62・75号住居跡	
第149图	45号住居跡	173		出土遺物	203
第150图	41号住居跡	174	第182图	14・117号住居跡	205
第151图	23・24号住居跡	175	第183图	113号住居跡	206
第152图	23・41号住居跡出土遺物	176	第184图	98号住居跡	207
第153图	重複住居跡群(6)	177	第185图	99号住居跡	208
第154图	32号住居跡(1)	178	第186图	114・115号住居跡	208
第155图	32号住居跡(2)	179	第187图	14・98・113号住居跡出土遺物	209
第156图	69号住居跡	180	第188图	97号住居跡	210
第157图	33・34・35号住居跡(1)	181	第189图	94・95・96号住居跡	211
第158图	33・34・35号住居跡(2)	182	第190图	89号住居跡	212
第159图	76号住居跡	183	第191图	94・95・96・97・99・114号住居跡	
第160图	59号住居跡	183		出土遺物	213
第161图	32・33・34・59・69号住居跡		第192图	89・94~97号住居跡出土遺物	214
	出土遺物	184	第193图	7号掘立柱建物跡	216
第162图	58号住居跡	186	第194图	8号掘立柱建物跡	217
第163图	重複住居跡群(7)	186	第195图	9号掘立柱建物跡	218
第164图	49号住居跡	187	第196图	10号掘立柱建物跡	219
第165图	50号住居跡	188	第197图	11号掘立柱建物跡	220
第166图	57号住居跡	189	第198图	12号掘立柱建物跡	221
第167图	55号住居跡	190	第199图	13号掘立柱建物跡	222
第168图	51号住居跡	191	第200图	14号掘立柱建物跡	223
第169图	49・50・51・55・57号住居跡		第201图	15号掘立柱建物跡	224
	出土遺物(1)	192	第202图	16・17号掘立柱建物跡	225
第170图	49・50・51・55・57号住居跡		第203图	19号掘立柱建物跡	226
	出土遺物(2)	193	第204图	18号掘立柱建物跡	227

第205図	20号掘立柱建物跡	227	第241図	井戸跡(2)	271
第206図	21号掘立柱建物跡	228	第242図	井戸跡出土遺物	272
第207図	22号掘立柱建物跡	228	第243図	方形周溝状遺構	273
第208図	23号掘立柱建物跡	229	第244図	溝・堀・柵列(1)	276
第209図	24号掘立柱建物跡	230	第245図	溝・堀・柵列(2)	277
第210図	25号掘立柱建物跡	230	第246図	溝・堀・柵列(3)	278
第211図	26号掘立柱建物跡	231	第247図	溝・堀・柵列(4)	279
第212図	27号掘立柱建物跡	231	第248図	溝・堀・柵列(5)	280
第213図	28号掘立柱建物跡(1)	232	第249図	溝・堀・柵列(6)	281
第214図	28号掘立柱建物跡(2)	233	第250図	溝・堀・柵列(7)	282
第215図	29号掘立柱建物跡	234	第251図	溝・堀・柵列(8)	283
第216図	35・36号掘立柱建物跡	234	第252図	溝・堀・柵列(9)	284
第217図	44号掘立柱建物跡	235	第253図	溝・堀・柵列(10)	285
第218図	46号掘立柱建物跡	237	第254図	溝・堀・柵列(11)	286
第219図	45号掘立柱建物跡	237	第255図	溝・堀・柵列(12)	287
第220図	47号掘立柱建物跡	238	第256図	溝・堀・柵列(13)	288
第221図	48号掘立柱建物跡	239	第257図	溝・堀・柵列(14)	289
第222図	掘立柱建物跡出土遺物	240	第258図	溝・堀・柵列(15)	290
第223図	土塙・ピット(1)	243	第259図	溝・堀・柵列(16)	291
第224図	土塙・ピット(2)	244	第260図	溝出土遺物	292
第225図	土塙・ピット出土遺物(1)	245	第261図	遺構外出土遺物(縄文・弥生式土器)	295
第226図	土塙・ピット(3)	248			295
第227図	土塙・ピット(4)	249	第262図	遺構外出土遺物(埴輪)	297
第228図	土塙・ピット(5)	250	第263図	遺構外出土遺物(古墳時代以降1)	299
第229図	土塙・ピット(6)	251			299
第230図	土塙・ピット出土遺物(2)	252	第264図	遺構外出土遺物(古墳時代以降2)	300
第231図	土塙・ピット出土遺物(3)	253			300
第232図	土塙・ピット(7)	256	第265図	遺構外出土遺物(古墳時代以降3)	301
第233図	土塙・ピット(8)	257			301
第234図	土塙・ピット出土遺物(4)	258	第266図	出土土製品	303
第235図	土塙・ピット出土遺物(5)	259	第267図	出土土製品(1)	304
第236図	土塙・ピット(9)	262	第268図	出土土製品(2)	305
第237図	土塙・ピット(10)	263	第269図	出土木製品	307
第238図	土塙・ピット(11)	264	第270図	出土板碑	308
第239図	土塙・ピット出土遺物(6)	265	第271図	出土磁器	308
第240図	井戸跡(1)	270	第272図	出土鉄製品・古銭	309

## 図版目次

- 図版1 A区全景(北西より) A区全景(南西より)
- 図版2 1号住居跡 2号住居跡 1号掘立柱建物跡  
2号掘立柱建物跡 3号掘立柱建物跡  
4号掘立柱建物跡
- 図版3 5号掘立柱建物跡 21・30・31号溝 24・25  
号溝 8～11号溝 5号溝 P-18グリット  
井戸跡群
- 図版4 1号火葬跡 82号土壇 84号土壇 2号井戸  
跡 3号井戸跡 4号井戸跡 13号井戸跡遺  
物出土状態 ビット55遺物出土状態
- 図版5 D区全景(北より) D区全景(南より)
- 図版6 1号掘立柱建物跡 2号掘立柱建物跡  
3・4号掘立柱建物跡 5号掘立柱建物跡  
6号掘立柱建物跡 8号掘立柱建物跡
- 図版7 2号土壇 4号土壇 2号井戸跡 3号井戸  
跡 6号井戸跡 8号井戸跡 12号井戸跡  
4・5号溝
- 図版8 B区全景(北西より) B区全景(南東より)
- 図版9 4号住居跡 5号住居跡 6号住居跡 7号  
住居跡 8・9・10号住居跡 11号住居跡
- 図版10 13号住居跡 14号住居跡 15・16号住居跡  
17号住居跡 18号住居跡 19号住居跡
- 図版11 21号住居跡 22号住居跡 23・24号住居跡  
25号住居跡 26号住居跡 20・28号住居跡
- 図版12 27号住居跡 29・36号住居跡 30号住跡  
27・30・31・63号住居跡 32号住居跡  
34・35号住居跡
- 図版13 11・60号住居跡 37号住居跡 38号住居跡  
39号住居跡 40号住居跡 41号住居跡
- 図版14 42号住居跡 43号住居跡 45号住居跡  
46・73号住居跡 47号住居跡 48号住居跡
- 図版15 49号住居跡 51号住居跡 52号住居跡  
52・56号住居跡 53号住居跡 54号住居跡
- 図版16 58号住居跡 59号住居跡 64・65号住居跡
- 69号住居跡 70号住居跡 76号住居跡
- 図版17 79号住居跡 80号住居跡 68・83号住居跡  
55・81・82号住居跡 68号住居跡 82号住居  
跡
- 図版18 84号住居跡 86・87・88号住居跡 89号住居  
跡 98・113号住居跡 114・115号住居跡  
7号掘立柱建物跡
- 図版19 8号掘立柱建物跡 9号掘立柱建物跡  
10号掘立柱建物跡 11号掘立柱建物跡  
12号掘立柱建物跡 13号掘立柱建物跡
- 図版20 14号掘立柱建物跡 16・17号掘立柱建物跡  
19・22号掘立柱建物跡 23号掘立柱建物跡  
24号掘立柱建物跡 25号掘立柱建物跡
- 図版21 26号掘立柱建物跡 27号掘立柱建物跡  
28号掘立柱建物跡 29号掘立柱建物跡  
35・36号掘立柱建物跡 46号掘立柱建物跡
- 図版22 47号掘立柱建物跡 48号掘立柱建物跡  
1号方形周溝状遺構 堀(南東より)  
堀(北西より) 46号溝
- 図版23 104号土壇出土板碑 119号土壇 132号土壇  
126・127号土壇 135号土壇 143号土壇  
152号土壇 208号土壇
- 図版24 231号土壇 234号土壇 21号井戸跡  
24号井戸跡 26号井戸跡  
5号住居跡遺物出土状況  
6号住居跡遺物出土状況  
17号住居跡カマド遺物出土状況
- 図版25 18号住居跡遺物出土状況  
19号住居跡カマド遺物出土状況  
22号住居跡貯蔵穴遺物出土状況  
25号住居跡カマド遺物出土状況  
47号住居跡遺物出土状況  
54号住居跡カマド遺物出土状況  
98号住居跡カマド遺物出土状況

8号掘立柱建物跡出土柱根

- 図版26 土師器坏  
(A区83・84・85号土壌・ビット298・8・13号井戸跡)
- 図版27 土師器坏・鉢  
(A区13号井戸跡・18・19・21号溝・D区ビット61・B区5・6号住居跡)
- 図版28 土師器坏  
(B区12・14・17・21・25号住居跡)
- 図版29 土師器坏  
(B区25・26・27・30・31・38・39号住居跡)
- 図版30 土師器坏  
(B区43・47・54・55・57・59・63号住居跡)
- 図版31 土師器坏  
(B区83・89・92・94・96号住居跡)
- 図版32 土師器坏  
(B区94~97・98・99・113号住居跡・28・47号掘立柱建物跡・109・112・119・122号土壌)
- 図版33 土師器坏  
(B区126・127・152・167・174・176・234号土壌)
- 図版34 須恵器坏・高台坏・円面硯  
(A区1号住居跡・78号土壌・6・8・13号井戸跡・14・18・21号溝)
- 図版35 須恵器坏・壺・播鉢・蓋・山茶碗  
(A区1号住居跡・32号溝・D区2号土壌・13号井戸跡・B区11・32・57号住居跡・48号掘立柱建物跡・135・147号土壌・38号溝・グリッド)
- 図版36 須恵器蓋  
(A区80号土壌14・18・19・26号溝・B区57・75・80・97号住居跡・127号土壌・グリッド)
- 図版37 土師器小形壺・無頸壺・高坏・須恵器鉢・高坏  
(A区ビット55・B区5・25号住居跡・112・174・208号土壌)
- 図版38 土師器高坏・壺・須恵器甕  
(A区14~18号溝・22・41・93号住居跡・143号土壌・57号溝)
- 図版39 土師器鉢・甕  
(A区8号井戸跡・B区19・28・47号住居跡・132号土壌)
- 図版40 土師器甕  
(B区5・18・27・41・号住居跡)
- 図版41 土師器甕  
(B区54・97号住居跡・155・167・208号土壌)
- 図版42 土師器櫃・須恵器高台・円面硯・坏墨痕  
(A区78号土壌・21号溝・D区2号溝・B区18号住居跡)
- 図版43 壺形土器・土師器甕  
(A区28号溝・B区17号住居跡・125号土壌)
- 図版44 土師器甕  
(B区18・20・28号住居跡)
- 図版45 土師器甕  
(B区49・54・57・98号住居跡)
- 図版46 土師器甕・台付甕  
(B区98号住居跡・147・156号土壌)
- 図版47 土師器甕  
(B区156号土壌・グリッド)
- 図版48 土師器櫃  
(B区17・18・25・47号住居跡)
- 図版49 土師器甕  
(B区54・164・167号土壌・グリッド)
- 図版50 104号土壌出土板碑1 104号土壌出土板碑2  
157号土壌出土板碑  
8号掘立柱建物跡出土柱根
- 図版51 出土土製品 出土石製品1
- 図版52 出土石製品2 出土石製品3
- 図版53 出土鉄製品 出土縄文・弥生式土器
- 図版54 出土埴輪 出土磁器

# I 調査の概要

## 1. 発掘調査に至るまでの経過

埼玉県では自然環境の保全、生活環境の整備に配慮しつつ、県土の調和と均衡のある発展を目指して基盤整備を進めるため、各種の施策を実施している。その一環として県企業局では、工場誘致と適切な工場配置を行うために、行田市大字野地内に行田工業団地の造成を計画した。県教育局文化財保護課では、このような開発事業に対応するため、開発関係部局と事前協議を行い、文化財の保護について遺漏のないように調整を進めてきた。

行田工業団地の造成計画にあたり、平成6年2月1日付けの企局土二第280号で、県企業局土地造成課長から教育局文化財保護課長あて、行田工業団地造成予定地内における「埋蔵文化財の有無及び取扱いについて」の照会があった。

工業団地予定地内には、既に周知の埋蔵文化財包蔵地として、古墳～平安時代にわたる集落跡である築道下遺跡及び八ツ島遺跡の二遺跡が登録されていたが、それぞれの遺跡範囲については不明であった。遺跡の範囲を明らかとすることは、開発事業との円滑な調整を図る意味でも重要なことでもあるため、照会を受けた県文化財保護課では平成7年3月6日～9日、4日間にわたって工業団地造成予定地内の遺跡範囲確認調査を実施した。

範囲確認調査の結果、築道下遺跡の立地する元荒川の左岸の自然堤防上には、ほゞ例外なく古墳時代から

平安時代にわたる住居跡が存在することが判明し、周知の包蔵地の範囲が西及び南東側に大きく広がることが明らかとなった。

この結果を踏まえて平成7年3月15日付け教文第125-1号をもって、文化財保護課長から埼玉県企業局土地開発第二課長あて、次のように通知した。

### 1 埋蔵文化財の所在

工業地内には、築道下遺跡(68-144)、八ツ島遺跡(68-146)が所在する。

### 2 取扱い

上記の埋蔵文化財包蔵地は現状保存することが望ましいが、事業計画上、やむを得ず現状を変更する地区については、事前に記録保存のための発掘調査を実施すること。

なお、発掘調査の実施については当課と協議すること。

その後、発掘調査の実施について協議した結果、緑地や公園として現状保存の図られる場所を除き、記録保存のための発掘調査もやむを得ないとの結論に至り、平成7年4月1日より、(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団による調査が行われることとなった。発掘調査に係わる通知が平成7年4月28日付け教文第2-23号をもってなされている。

(文化財保護課)

## 2. 発掘調査・報告書作成の経過

### 発掘調査

築道下遺跡の調査は、平成7年4月1日から平成8年3月31日にわたって実施した。調査対象面積は、14,000㎡であった。発掘調査は、平成8年度も継続している。

4月上旬、企業局、行田市と当事業団担当者の打合せを行った。

重機による表土の掘削をA区より開始した。現場事務所のプレハブをB区北側に設置することとして、これに至る搬入路の整備を実施した。これらに並行して、補助員の募集を行った。

4月中旬から下旬にかけては、引続き本格的な発掘調査に向けての準備を行った。重機による表土掘削は、A区北側から行い、隣接する調査区外に残土を仮置きした。下旬には、D区に表土掘削を移行した。

5月上旬にプレハブが完成し、発掘用器材を搬入した。中旬に方眼杭の設置をし、調査の準備に目度がついた為、補助員を導入して発掘作業を開始した。発掘作業は、A区より開始した。表土掘削は、B区に移行した。

6月。遺構確認調査を引続き行った。A区の遺構状況が判明し、溝より遺構精査に入った。調査区外より多量の出水があり、重機により調査区内に水切り側溝を切り回した。D区は出水により水没した。

7月。A区の遺構精査を終了し、図面作成作業を残してB区の遺構確認作業に入った。遺構確認では多数の住居跡が重複し線引に困難を極めた。

8月。B区の遺構状況が判明し、調査区北側から遺構精査を開始した。これに伴い、上面で検出された中世墓址の調査も行った。

10月より補助員を増員して、調査範囲を拡大して調査を行った。重複する遺構の為、調査の進行に支障をきたした。また相前後して、2回に渡り中世墓址の航空測量を実施した。

11月。退水したD区へ、班を分けて調査に入った。D区の調査は、掘立柱建物の調査が主で、12月一杯で終了した。また中世墓址の調査も11月中に終了した。

平成8年1月よりB区の調査に集中し調査区南側に向かって進められた。

3月。遺構精査は、56号溝を越えて進められ、整理対象範囲である、56号溝までの図面作成及び写真撮影を終了して発掘作業を終了した。下旬には、プレハブを残し、器材を撤収して平成7年度の調査事業を終了した。

平成8年4月より未買収用地であったA区の隣接地の調査を行った。昨年度調査区に続く溝等が検出され、6月上旬をもって調査を終了した。

### 整理作業

平成8年4月1日から平成9年3月31日にわたって実施した。

4月当初から図面整理・遺物接合・復原を行い、順次遺物実測を行った。

6月中旬、A区未調査部分の資料を受取り、順次接合・復原・実測を行った。

9月より遺構・遺物のトレースに入った。

11月より版組・割り付けを行い、遺物写真撮影及び、原稿の執筆を開始した。

2月に原稿執筆・編集を終了し、印刷製本に入り校正をへて、平成9年3月31日に報告書を発行した。

### 3. 発掘調査・整理・報告書刊行の組織

主体者 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

(1) 発掘調査 (平成7年度)		(2) 発掘調査 (平成8年度)		(3) 整理事業 (平成8年度)	
理事長	荒井 桂	理事長	荒井 桂	理事長	荒井 桂
副理事長	富田真也	副理事長	富田真也	副理事長	富田真也
専務理事	古川國男	専務理事	古川國男	専務理事	古川國男
常務理事		常務理事		常務理事	
兼管理部長	新井秀直	兼管理部長	稲葉文夫	兼管理部長	稲葉文夫
理事		理事		理事	
兼調査部長	小川良祐	兼調査部長	小川良祐	兼調査部長	小川良祐
管理部		管理部		管理部	
庶務課長	及川孝之	庶務課長	依田 透	庶務課長	依田 透
主査	市川有三	主査	西沢信行	主査	西沢信行
主任	長滝美智子	主任	長滝美智子	主任	長滝美智子
主事	菊池 久	主事	菊池 久	主事	菊池 久
専門調査員		専門調査員		専門調査員	
兼経理課長	関野栄一	兼経理課長	関野栄一	兼経理課長	関野栄一
主任	江田和暎	主任	江田和暎	主任	江田和暎
主任	福田昭美	主任	福田昭美	主任	福田昭美
主任	巖塚雄二	主任	巖塚雄二	主任	巖塚雄二
調査部		調査部		資料部	
調査部副部長	高橋一夫	調査部副部長	高橋一夫	資料部長	梅沢太久夫
調査第三課長	村田健二	調査第四課長	酒井清治	主幹	
主査	濱野美代子	主査	今井 宏	兼資料部副部長	谷井 彪
主任調査員	昼間孝志	主任調査員	劔持和夫	専門調査員	
主任調査員	劔持和夫	主任調査員	赤熊浩一	兼資料整理第二課長	鈴木敏昭
主任調査員	吉田 稔	主任調査員	岩瀬 譲	主任調査員	吉田 稔
調査員	君島勝秀	主任調査員	山本 靖		
調査員	松澤浩一	主任調査員	大屋道則		
		調査員	栗岡 潤		



## II 遺跡の立地と環境

築道下遺跡は、埼玉県行田市大字野字築道下に所在し、縄文時代晩期から中世にまたがる複合遺跡である。遺跡は、J R高崎線北鴻巣駅から1.2km北東に位置し、国道17号熊谷バイパスに接している。

本遺跡は、行政区域で北埼玉郡行田市の南端に位置し、北西は足立郡次上町に、南西は鴻巣市に、南東は北埼玉郡川里村に、接している。遺跡周辺部の地形は、大宮台地から連なる台地が埋没する地域にあたり、また加須低地の西端部に位置する。周辺地域には、北西から南東へ連なる幾筋もの埋没台地を含む、微高地とその後背湿地からなり、南東流する元荒川に接している。本遺跡は、行田市街から南下する忍川に沿う、細長い微高地上に位置する。また、遺跡北側で忍川と合流して洗路を換える元荒川によって氾濫、浸食を受けている。

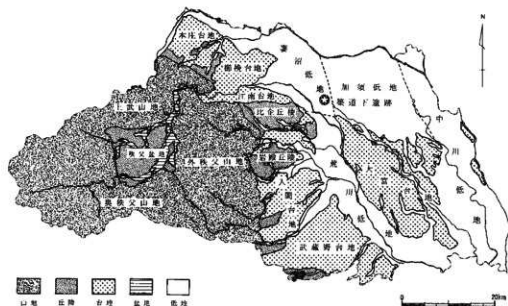
本遺跡の標高は15mで、北西方向に緩やかに傾斜し、水田部との比高差は1mである。中世の遺構は、元荒川の氾濫による灰黄褐色のシルト質土壌の直下から構

築されていたが、古墳時代から奈良時代の遺構は、その下の暗褐色土から構築されていた。さらに下層には、埋没ロームまたは二次堆積ローム土と考えられる黄褐色粘土質土壌が堆積している。

本遺跡の調査に先立ち、平成5年度に東京電力の鉄塔建て替え工事に伴い、行田市教育委員会によって発掘調査が実施された。その結果古墳時代後期から奈良時代にかけての遺構・遺物が検出され、その成果が報告されている。

本遺跡から検出された遺構は、古墳時代から始まるが、縄文時代晩期以降の遺物が出土した。周辺域での縄文時代の遺跡は、埋没ローム台地上に形成された行田市長野中学校校庭遺跡、川里村赤城遺跡の他に、鴻巣市赤台遺跡、中三谷遺跡、北本市上手遺跡など大宮台地上に多く分布している。この内、中三谷遺跡は、本遺跡に接して流れる元荒川の、下流5kmに位置する縄文時代後期の環状集落である。

第1図 埼玉県の地形図



また、晩期を主体とした遺跡に限れば、川里村赤城遺跡を始めとし、羽生市発戸遺跡、菫浦町地獄田遺跡、桶川市後谷遺跡、大宮市寿能泥炭層遺跡、岩槻市裏慈恩寺遺跡、真福寺遺跡、田端前遺跡など、中川水系に面した埋没ローム台地を含む、大宮台地末端部の沖積低地との変換部に立地する傾向が窺える。

これ以降弥生時代中期までの遺跡は、周辺地域には見当たらず、岡部四十坂遺跡、深谷市上敷面遺跡、熊谷市横間栗遺跡、行田市池上・小敷田遺跡などの県北部及び東松山市周辺部、大宮台地南部などの荒川水系地域に多くの遺跡が分布している。これは、当時の生産基盤となる水田耕作地に適した後背湿地及び谷地帯が形成されず、河川の氾濫の多い地域であった可能性も考えられるが、周辺地域にも当該期の遺跡の発見が期待される。

この状況は、弥生時代後期にいたっても認められるが、菫浦町西堀遺跡では、前野町式の土器が出土している他、同期の遺跡は鴻巣市域などの大宮台地上に分布している。また、本遺跡の北東側500mに所在する袋・台遺跡では、弥生時代後期の住居跡並びに方形周溝墓が検出された他、古墳時代中期から後期にかけての住居跡・古墳跡が検出されている。これらの遺構は本遺跡に繋がる微高地上に形成されたものと考えられ、時期的には先行するものである。

古墳時代前期以降に入ると本遺跡周辺部でも遺跡が増加してくる。小沼耕地遺跡では、前期の方形周溝墓5基と住居跡1軒が検出されている。このうち方形周溝墓の方台部からは、4本の方形配置となると考えられる柱穴が検出され上屋構造が想定されている。この他周辺部では、行田市鴻地・武内内・高知遺跡が方形周溝墓を伴う集落遺跡として発掘調査されている。

古墳時代後期には、上記の小沼耕地遺跡で帆立貝式古墳が検出された他、加須市及び羽生市で埋没古墳が確認されている。隣接する吹上町、鴻巣市では、宝養寺古墳、愛宕神社古墳、三嶋神社古墳、笠原古墳群、安養寺古墳群及び、埴輪窯跡を伴う生出家古墳、新屋敷遺跡、集落跡として中三谷遺跡などが所在する。市内では、本遺跡の北側3kmの地点に、辛亥銘手鉄剣が出土したことで知られる、埼玉古墳群がある他、若王子古墳群、若小玉古墳、佐間古墳群、真名板高山古墳等がある。7世紀後半には、「関東の石舞台」と呼ばれる八幡山古墳が築かれている。

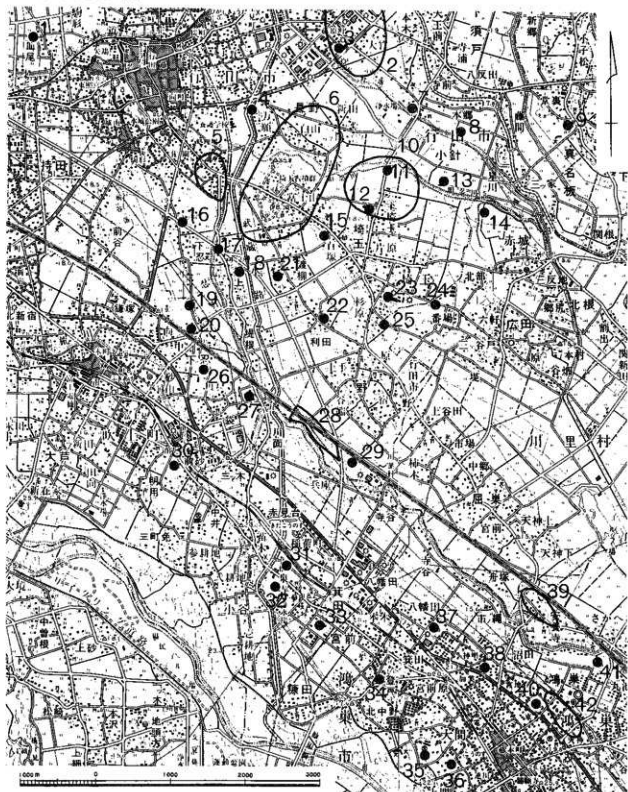
古墳時代後期から奈良・平安時代にかけての集落は、県北部地域においては、近年の国道17号深谷ハイパス発掘調査及び上武国道発掘調査の事例から、自然堤防上に多く立地することが判明している。加須市水深遺跡、行田市小倉遺跡など、本遺跡と同様に周辺部の自然堤防上に、集落跡が検出される可能性がある。また、本遺跡の北3kmの地点には、古代寺院跡である旧盛徳寺跡が所在する。盛徳寺境内には、当時の礎石が現存している。この北側で調査された愛宕遺跡では、同期の集落跡が検出されている。

中世には、市内に、真名板氏館跡、満願寺館跡、渡柳氏館跡などが所在する。また隣接する吹上町、鴻巣市には、角戸館跡をはじめ、中三谷遺跡、源経基館跡、箕田館跡などが所在する。

戦国時代には、後北条氏の支城である忍城が築かれ、石田三成による水攻めの際に築かれた石田堤は、部分的ながら現存している。

江戸時代には、元荒川の水運が発達し、流域には多くの河岸場及び、渡船場が設けられた。

第2図 周辺遺跡分布図



1. 早宮山尾遺跡
2. 若小玉古墳群
3. 八幡山古墳
4. 長野神明遺跡
5. 佐間古墳群
6. 埼玉古墳群
7. 小針館塚古墳
8. 小針北遺跡
9. 真名取高山古墳
10. 若王子古墳群
11. 愛宕通遺跡
12. 旧鷹橋寺跡
13. 小針遺跡
14. 赤城遺跡
15. 百塚通遺跡
16. 高畑遺跡
17. 武良内遺跡
18. 陽池遺跡
19. 下忍向山遺跡
20. 愛宕神社古墳
21. 内郷遺跡
22. 船原内郷通遺跡
23. 福河通遺跡
24. 光安寺遺跡
25. 杉原遺跡
26. 宝篋寺古墳
27. 袋・台遺跡
28. 筆道下遺跡
29. 八ツ島遺跡
30. 三嶋神社古墳
31. 九右衛門遺跡
32. 富士山遺跡
33. 宮前本田遺跡
34. 皇門新田遺跡
35. 城山遺跡
36. 原遺跡
37. 神明遺跡
38. 宮地二丁目遺跡
39. 安養寺古墳群
40. 新屋敷遺跡
41. 中三谷遺跡
42. 生田塚遺跡

### Ⅲ 遺跡の概要

築道下遺跡は、大宮台地が加須低地に移行して埋没する台地と荒川扇状地南端部の境に位置する。遺跡は、行田市街から忍川に沿って南下する細長い微高地上に形成され、南西側を元荒川によって浸食され、北東側には、後背湿地が続いている。調査区の標高は、15～16mで北東側に僅かに傾斜している。周辺低地部との比高差は1mであるが、周辺部一帯が圃場整備されているため、現況では確認し難い。

調査区は、便宜上JR上越新幹線及び、千間堀悪水路、道路によって6区に区分されている。A区は、JR上越新幹線の北側にあり、千間堀悪水路、農業用水路、国道17号熊谷バイパス野交差点から進入する市道によって囲まれた台形状の区画である。D区は、A区に隣接し、市道を挟んだ小区画である。B区は、JR上越新幹線の南側にあり、市境と元荒川旧河道及び、国道17号熊谷バイパス野交差点から進入する市道が農道として元荒川堤防まで延長された部分で囲まれた調査区である。C・E・F区は、これ以南に位置しE・F区は千間堀悪水路によって区分されている。

本報告書に掲載する調査範囲は、A区、D区及びB区第56溝以北の遺構・遺物である。

今回の調査に先立ち行田市教育委員会により、東京電力鉄塔建て替え工事に際してA区及び、C区に隣接する2基の鉄塔部分の発掘調査が行われた。その成果として、古墳時代後期から奈良時代の遺構・遺物が報告され、本報告書で報告する遺構・遺物と中世を除き概ね一致している。

今回の発掘調査で検出された遺構は、古墳時代後期から奈良時代の竪穴式住居跡93軒、同期に属すると考えられる掘立柱建物跡45棟、土壇225基、井戸跡61基、中世火葬跡2基、溝85条、櫓列11列、堀1条であった。このほかに時期不明のピット多数が検出された。

出土した遺物は、縄文時代晚期土器、弥生時代中期土器、埴輪、土師器、須恵器、陶磁器、土製品、鉄製品、石製品、板碑、木製品、古銭などであった。

縄文時代の遺物については、大部分が周辺地域からの流入と考えられるが、不定形の暗褐色土の落ち込みから土器がまとめて出土した例があり、当時すでに陸性化し、遺構として認定すべき可能性も考えられる。

出土した埴輪については、遺跡北側に古墳群があり周辺地域も含めて流入遺物であると考えられる。

古墳時代後期から形成が開始された集落跡は、元荒川に沿う細長く周辺域でも最も標高の高い微高地上に集中して構築されていた。このため狭い範囲に前後左右、上下に重複していた。これに並行して、旧地形で細い谷地形を成す部分に掘立柱建物跡群が構築されていた。但し、住居跡、掘立柱建物跡とも新幹線北側調査区であるA・D区に検出され、散在して分布する傾向も伺える。

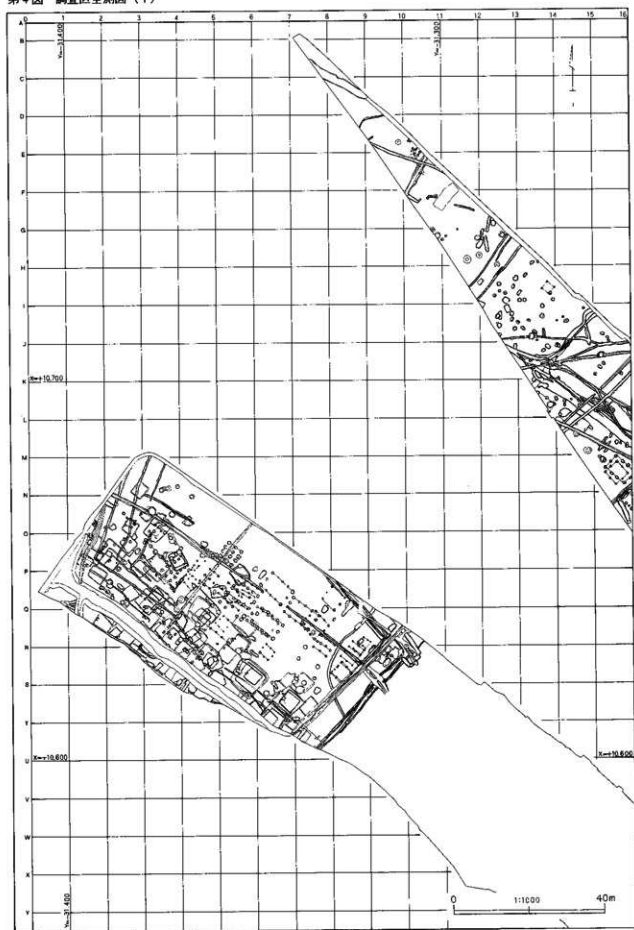
集落に前後して構築されたと考えられる溝は、概ね微高地に並行するものとこれに直行するものが検出された。土層観察の結果後者に属する多くの溝が新しく構築されていたことが判明した。また、A区で検出された1号溝は、一次調査の結果から遺跡北東限界を区画する溝であることが判明した。

中世の遺構は、火葬跡、土壇、井戸跡、溝、堀などが検出された。火葬跡は、B区で検出された中世墳墓との関連性が考えられる。D区の井戸跡からは、県内でも出土例の少ない山茶碗が出土した。また、B区の土壇からは、上半部を欠損する板碑が直立した状態で出土した。堀については、調査区北西端の小河川に連結し南西側を元荒川旧河道によって浸食され失われているものの、56号溝に続いて、コの字形であった可能性も考えられる。

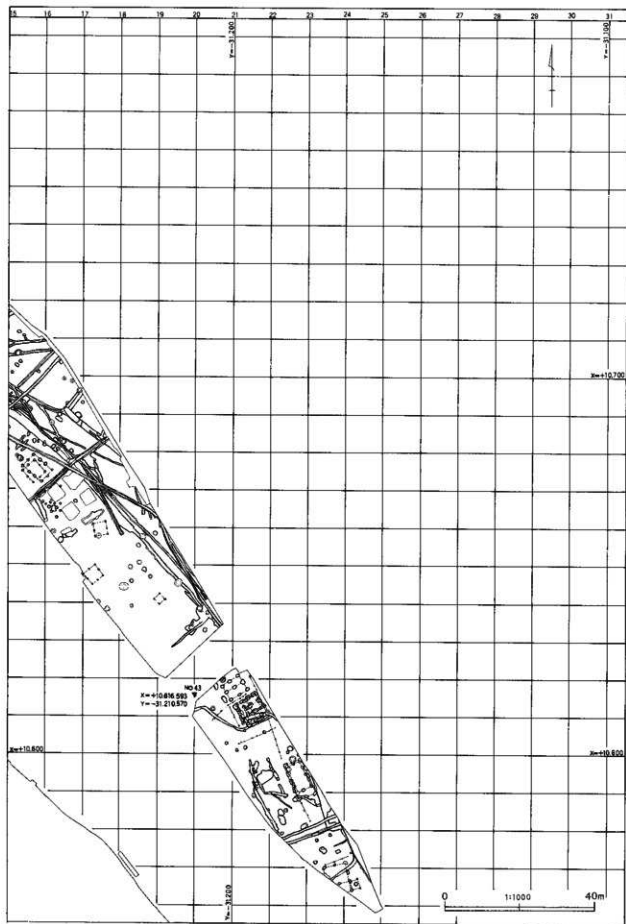
第3図 遺跡周辺の地形図



第4図 調査区全測図(1)



第5図 調査区全測図(2)



## IV A区の調査

### 1 遺跡の概観

調査区は、JR上越新幹線北側に位置し、千間堀水路と農業用水路に挟まれた細長い台形状の区画であった。南東側は、市道によってD区と区分された調査対象面積は5,300㎡であった。

遺構確認面での標高は、15mであった。調査区全体での自然地形は、北西-南東に延びる細長い微高地地形の末端部にあたり、東側調査区外に向かって緩やかに傾斜していた。谷地形を500m隔てた対岸には、野の集落が存在する。

確認面の基盤土壌は、暗黄褐色でB区に比べやや粘性の高いシルト質土壌であった。この上には、古代から中世にかけて堆積したと考えられる暗褐色の遺物を含む粘土質土壌が堆積していたが、部分的に現水田耕作によって削平を受けていた。

確認された遺構は、竪穴住居跡2軒、掘立柱建物跡7棟、火葬跡2基、土壇2基、井戸跡36基、溝44条、不明遺構4基、ピット多数であった。遺構の総体としての分布は、調査区に並行する21号溝の西側に、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、井戸跡などの多くの生活関連遺構が検出された。並行する溝より東側には、土壇、ピットなどが多く分布するもの、遺構が希薄になる傾向が認められた。

竪穴住居跡は調査区東側隅に検出され、このうち2号住居跡からは、8世紀代の須恵器坏・蓋などが出土した。掘立柱建物跡は21号溝及び、22号溝に囲まれた範囲内に、ほぼ主軸を同じくして3棟まとめて検出された。1号掘立柱建物跡からは、柱根が出土した。3号掘立柱建物跡と4号掘立柱建物跡は、重複して検出され、桁行きの長くなる4号掘立柱建物跡が新しい

ことが確認された。また、これらに隣接して8世紀代に属する、8・13号井戸跡2基が検出され、多量の土師器坏が覆土上層より出土した。4号掘立柱建物跡及び13号井戸跡の間からは、21号溝と28号溝をまたぐ形で、細長い渡り場状の溝が検出された。これらの遺構に隣接する21号溝覆土からは、須恵器円面硯を始めとして、多くの遺物が出土した。

これら遺構・遺物の分布から判断して、21号溝と22号溝で囲まれた区画が、調査区内での8世紀代における生活関連遺構の中心的な位置を占めていたことが解った。

このほか、55号ピットからは、須恵器漆塗、18号土壇から馬歯、84号土壇から小型坏がまとめて出土した。また17号井戸跡からは、中世の漆器が出土した。

中世の火葬跡はT字形で、火床面は、よく焼けていた。また、付近には墓坑と考えられる遺構は検出されなかった。

中世の井戸跡は円形で、衆掘りのものが大半を占めていた。滞水面は基盤層下部に堆積している青灰色シルト層にあたりと考えられる。

溝は、17・28・34号溝のように北東-南西方向に並走するものと、これにほぼ直行する14・24・25・32号溝などが検出された。いずれも後者の溝が新しかった。第24号溝及び、32号溝は調査区中央部で陸橋部があることが判明した。また、並走する8・9・10・11号溝で挟まれた部分には、土層観察の結果硬化面が認められた為、本来は道路跡であったと考えられる。時期については、中世以降であるとされる。



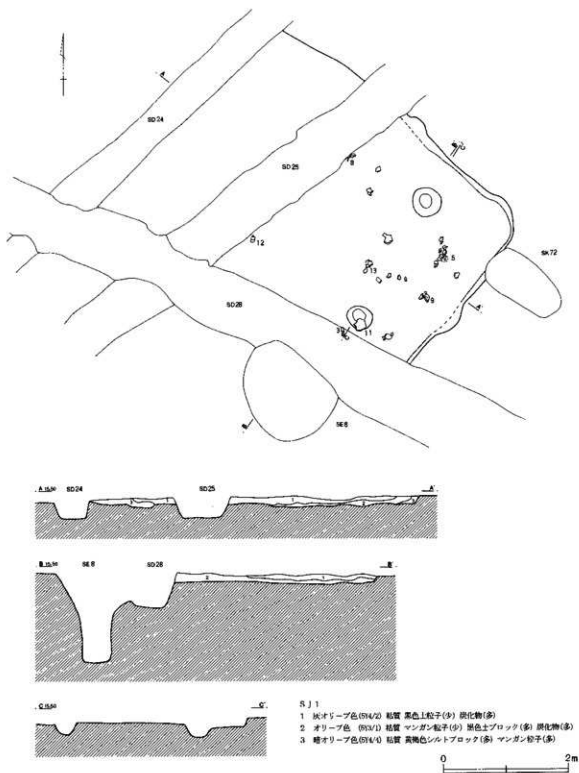
第6图 A区全测图



## 2 遺構と遺物

### (1) 住居跡

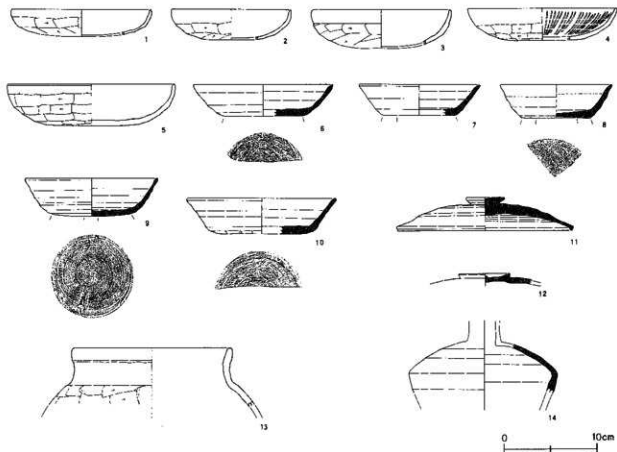
第7図 1号住居跡



### 1号住居跡（第7・8図）

L-14グリッドに位置していた。24・25・28号溝及び、72号土壌に切られていた。カマドは溝によって壊されたものと考えられ、検出されなかった。平面形は方形で、規模は不明であった。床面までの深さは0.15mで、不均一であった。主軸は推定でN-55°-Wであった。柱穴は南東コーナーよりと28号溝脇の2本があった。

第8図 1号住居跡出土遺物



A区1号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	土師器杯	(15.0)	(2.9)	(8.6)	EJ	3	橙色	10%	覆土
2	土師器杯	(13.0)	(3.3)	(6.2)	ADJ	3	にぶい橙色	10%	覆土
3	土師器杯	(15.0)	(4.1)	(7.0)	EJ	3	橙色	10%	覆土
4	土師器杯	(16.0)	(3.4)	(8.4)	EJ	3	橙色	20%	覆土 放射暗文
5	土師器杯	(18.0)	4.4	(10.0)	BJ	3	明赤褐色	20%	覆土
6	須恵器杯	(15.0)	3.4	(8.4)	AFIL	2	灰白色	30%	南比企 巻上水挽成形 回転ヘラ切
7	須恵器杯	(13.0)	3.3	(7.6)	AFIJ	2	灰白色	5%	南比企 覆土 回転ヘラ切
8	須恵器杯	(12.0)	3.6	7.4	AFI	2	灰色	20%	南比企 覆土 糸切周辺ヘラ
9	須恵器杯	(14.2)	4.0	8.5	BFIL	2	灰色	40%	南比企 巻上水挽成形 墨書 覆土
10	須恵器杯	(16.0)	3.8	(9.4)	AFI	1	灰色	20%	南比企 巻上水挽成形 覆土
11	須恵器杯蓋	19.0	3.5	-	ABFI	2	灰白色	70%	南比企 覆土
12	須恵器杯蓋	-	-	-	BF	1	灰白色	10%	覆土
13	土師器鉢	(17.0)	-	-	AEJ	2	灰褐色	5%未満	覆土
14	須恵器長頸壺	胴径(16.0)	-	-	BF	1	灰白色	5%未満	湖西 自然釉覆土

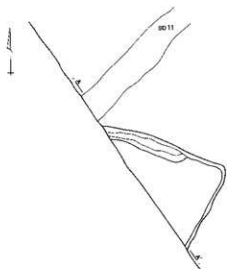
検出された。いずれも掘り込みは浅く柱痕は検出されなかった。

出土遺物は床面直上より、土師器杯、須恵器杯・蓋、長頸壺、甕が出土した。このうち、9の須恵器杯底部外面中央部に逆「Z」字状の一字の墨書が認められた。

## 2号住居跡 (第9図)

I-12グリッドに位置していた。住居跡南東コーナー部分のみ検出され、遺構の大半は調査区外にあった。11号溝に切られていた。カマドは調査区外にあったと考えられ、検出されなかった。平面形及び規模は、不明であった。床面までの深さは0.15mで、均一であ

第9図 2号住居跡



った。主軸は、推定でN-60°-Wであった。柱穴は、検出されなかった。北東壁に沿って、一部周溝が検出された。

出土遺物は覆土より土師器小片が少量出土したが、図示できるものはなかった。



SJ2

- 1 灰色 (5Y4/1) シルト質 焼土粒子、炭化物粒子(少)
- 2 灰色 (7.5Y/1) 粘質 団粒上
- 3 緑灰色 (N 3.5) 粘質 焼土粒子、炭化物粒子(少)



## (2) 掘立柱建物跡

### 1号掘立柱建物跡 (第10・269図)

K-13・14グリッドに位置していた。柱穴4本のみ検出され、遺構の大部分は調査区外にあった。20号土壌を切っていた。主軸は推定N-55°-Wで、21号溝とはほぼ平行していた。規模は不明であった。柱間寸法は北西-南東方向で2.7m、北東-南西方向で2.5mであった。各柱穴の規模は長径50~120cm、深さ55~85cmで、柱穴1のみ平面楕円形であった。柱痕は3本検出され、柱穴3からは柱根抜き取り後の柱根残片が出土した。

出土遺物は、上記の柱根(第269図6)が出土したのみであった。

### 2号掘立柱建物跡 (第11図)

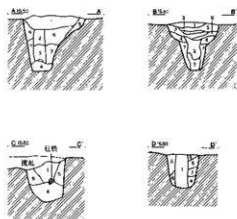
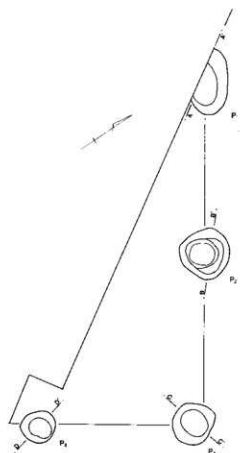
H-13グリッドに位置していた。主軸はN-50°-Wであった。規模は1×1間で桁行3.2m、梁行2.75

mであった。各柱穴の平面は柱穴4を除いて円形であった。規模は長径50~90cm、深さ20~65cmで、柱痕は2本検出された。出土した遺物はなかった。

### 3号掘立柱建物跡 (第12図)

M-15グリッドに位置していた。土層観察の結果から、4号掘立柱建物跡に先行して構築されたと考えられる。主軸はN-40°-Wであった。規模は2×2間で桁行4.7m、梁行4.7mであった。柱間寸法は桁行、梁行ともに2.1mであった。各柱穴の平面形は、長方形及び楕円形の二種類が検出された。規模は長径40~65cm、深さ40~50cmであった。柱痕は6本検出され、柱穴7からは2本検出された。また掘り方底面の柱根据付部分が、柱痕部分と異なる位置にも検出されたことから、建て替えが行なわれたと考えられる。出土した遺物はなかった。

第10図 1号掘立柱建物跡

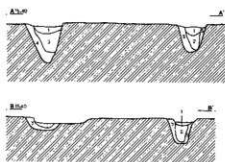
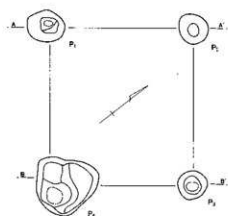


S B 1

- 1 灰色 (GY4/4) 粘質 炭分(少) 黄褐色シルト粒子(少)
- 2 暗オリーブ色(GY4/4) 粘質 炭分(少) 黄褐色シルト粒子(少)
- 3 オリーブ黒色(GY4/4) シルト質 黄褐色シルト粒子, 腐ブロック(多)
- 4 オリーブ黒色(GY4/4) 粘質 黄褐色シルト粒子, 炭分(微) 炭化物粒子(微)
- 5 オリーブ黒色(GY4/4) シルト質 黄褐色シルト粒子(多) 腐ブロック(微) 炭化物粒子(少)
- 6 灰白色 (L.W7/1) 粘質 粘性强
- 7 オリーブ色 (GY4/4) 粘質 灰白色上黄褐色+ブロックの互層

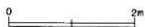


第11図 2号掘立柱建物跡

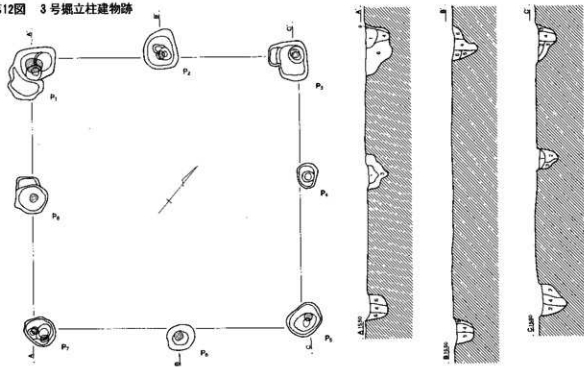


S B 2

- 1 オリーブ黒色(GY3/1) 粘質 焼土粒子(少) 炭化物粒子(少)
- 2 灰オリーブ色(GY4/2) 粘質 (柱頭)
- 3 灰色 (Z.W6/1) 粘質 (礎土)
- 4 黒色 (GY2/1) シルト質 炭化物, 灰, 焼土粒子(多) 黄褐色+ブロック(少)
- 5 オリーブ色 (GY4/4) 粘質 黄褐色+焼土, 明灰色粘土(少) (礎石)



第12図 3号掘立柱建物跡



SBS

- |   |                       |                                |
|---|-----------------------|--------------------------------|
| 1 | 黒褐色 (2.273/1) 粘質      | 遺物、施土粒(多) 黄褐色シルトブロック(少)        |
| 2 | オレンジ褐色 (2.274/2) 粘質   | 遺物(多) 黄褐色シルトブロック(多)            |
| 3 | 黄褐色 (2.275/4) 粘質      | 黄褐色上ブロック(多) 遺物(微)              |
| 4 | 黒褐色 (2.273/2) 粘質      | 遺物(少) 黄褐色シルト粘土(少) 灰化物粒(少) (柱芯) |
| 5 | オレンジ褐色 (2.274/2) シルト質 | 遺物(少) 黄褐色シルトブロック(多)            |
| 6 | 黒褐色 (2.273/2) 粘質      | 遺物(少) 施土ブロック(微)                |

#### 4号掘立柱建物跡 (第13図)

M-15・16グリッドに位置していた。3号掘立柱建物跡発掘後に構築されたと考えられる。主軸はN-47°-Wであった。規模は3×2間で桁行7.2m、梁行4.9mであった。柱間寸法は桁行梁行ともに2.2mであった。各柱穴の平面形は、長方形及び楕円形の二種類が検出された。規模は長径60~90cm、深さ15~40cmであった。柱痕は全ての柱穴から検出され、柱穴3・4・6からは複数検出された。また掘り方底面の柱根付部分が、柱痕部分と異なる位置にも検出されたことから、建て替えが行なわれたと考えられる。出土した遺物はなかった。

#### 5号掘立柱建物跡 (第14図)

O-17グリッドに位置していた。主軸はN-12°-Wであった。規模は2×1間で桁行3.85m、梁行3.85mの平面正方形であった。柱間寸法は桁行1.9m・1.6m、梁行3.5mであった。各柱穴の平面形は円形であ

った。規模は長径40~60cm、深さ25~35cmであった。柱痕は検出されなかった。出土した遺物はなかった。

#### 6号掘立柱建物跡 (第15図)

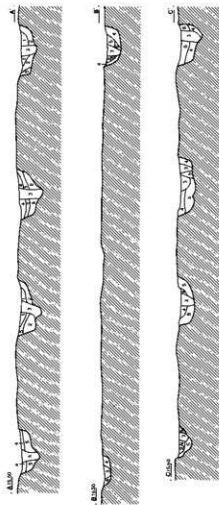
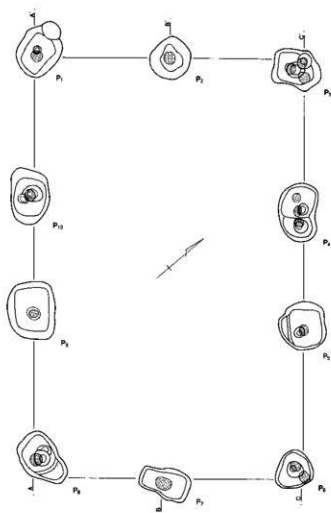
P-17グリッドに位置していた。主軸はN-52°-Eであった。規模は2×2間で桁行4.6m、梁行4.1mであった。柱間寸法は桁行2.0m、梁行1.8mであった。各柱穴の平面形は柱穴2を除いて円形であった。規模は長径35~50cm、深さ15~30cmであった。柱痕は柱穴1・8から検出された。

出土遺物は、土師器環(第16図1)が出土した。

#### 7号掘立柱建物跡 (第16図)

Q-19グリッドに位置していた。主軸はN-48°-Wであった。規模は1×1間で桁行2.6m、梁行2.4mであった。柱間寸法は桁行2.3m、梁行2.1mであった。各柱穴の平面形は不整形円形であった。規模は長径45~60cm、深さ20~40cmであった。柱痕は検出されなかった。出土した遺物はなかった。

第13図 4号掘立柱建物跡

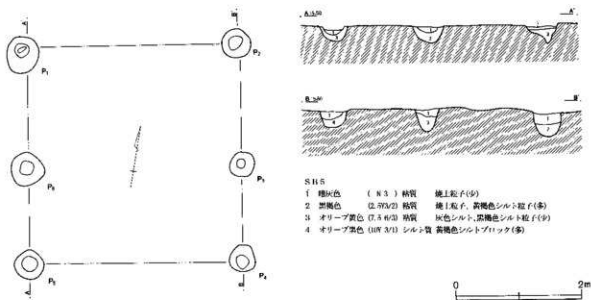


S B 4

- |                    |               |                          |
|--------------------|---------------|--------------------------|
| 1 黒褐色              | (Q. 812/1) 粘質 | 黄褐色シルト砂子, 同ブコック(少)       |
| 2 暗灰色              | (K 3) 粘質      | 焼土粒子(少)                  |
| 3 暗褐色              | (Q. 812/2) 粘質 | 焼土粒子, 黄褐色シルトブロック(少) (非穴) |
| 4 暗灰色              | (Y 3) 粘質      | 黄褐色シルトブロック(少)            |
| 5 暗灰色              | (S 3) シルト質    | 黄褐色シルトブロック(多) 焼土粒子(少)    |
| 6 ナイーブ灰色(Q. 812/1) | 粘質            | 焼土粒(少) 遺物(微)             |

0 2m

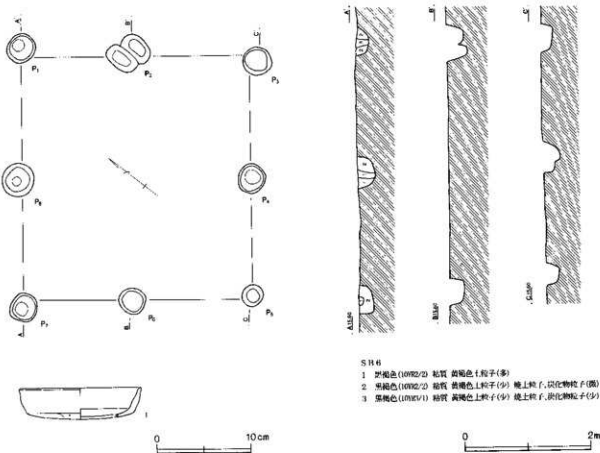
第14図 5号掘立柱建物跡



- S 115
- 1 褐色 (N3) 粘質 焼土粒子(少)
  - 2 黒褐色 (2.9Y3/2) 粘質 焼土粒子、黄褐色シルト粒子(多)
  - 3 オリーブ灰色 (7.5B/3) 粘質 灰色シルト、黄褐色シルト粒子(少)
  - 4 オリーブ灰色 (10Y 3/1) シルト質 黄褐色シルトブロック(多)

0 2m

第15図 6号掘立柱建物跡



- S 116
- 1 黒褐色 (10YR2/2) 粘質 黄褐色土粒子(多)
  - 2 黒褐色 (10YR2/2) 粘質 黄褐色土粒子(少) 焼土粒、炭化物粒(微)
  - 3 黒褐色 (10YR/1) 粘質 黄褐色土粒子(少) 焼土粒、炭化物粒子(少)

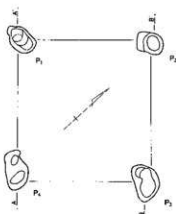
0 10cm

0 2m

A区6号掘立柱建物出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	十部器坏	(13.0)	(3.3)	(11.4)	BD	3	にぶい橙色	5%未満	





### (3) 火葬跡・土壌・ピット

#### 1号火葬跡 (第17図)

D-10グリッドに位置していた。平面形はT字形であった。主軸はN-74°-Eであった。規模は、長軸1.1m、短軸0.6m、深さ0.25mであった。焚き口が西側中央部に取り付いていた。底面は平坦で焚き口に向かって傾斜していた。主体部側壁は被熱により赤化していた。覆土中層より少量の骨片と、下層より多量の灰及び炭化物層が検出された。上記以外の出土遺物は、なかった。

#### 2号火葬跡 (第17図)

I-13グリッドに位置していた。平面形はT字形であった。主軸はN-82°-Wであった。規模は、長軸0.55m、短軸0.5m、深さ0.15mであった。焚き口が西側北よりに取り付いていた。底面は平坦で焚き口に続いていた。焚き口奥及び主体部側壁は被熱により赤化していた。覆土下層より少量の骨片と、多量の灰及び炭化物層が検出された。上記以外の出土遺物は、なかった。

土壌及びピットについての事実記載は、主に遺物出土状況の説明を要するもの及び、遺構の性格上重要と考えられるもののみを記載することとする。また、各土壌、ピットの位置及び諸計測値、主軸方位、時期など判明しているものについては、一覧表として掲載した。尚、時期の項目にある縄文の表示は、遺構覆土が



B区で検出された、縄文時代の遺物を伴う落ち込みと同質であることから判断した。従って確実な時期を示すものではないことを記しておく。

#### 1号土壌 (第17図)

G-10グリッドに位置していた。平面形は隅丸方形で、規模は長軸1.2m、短軸0.95m、深さ0.16mであった。主軸はN-50°-Wであった。覆土は、黄褐色土と灰白色粘土の一拵埋土であった。遺物の出土は、なかった。

#### 5号土壌 (第17図)

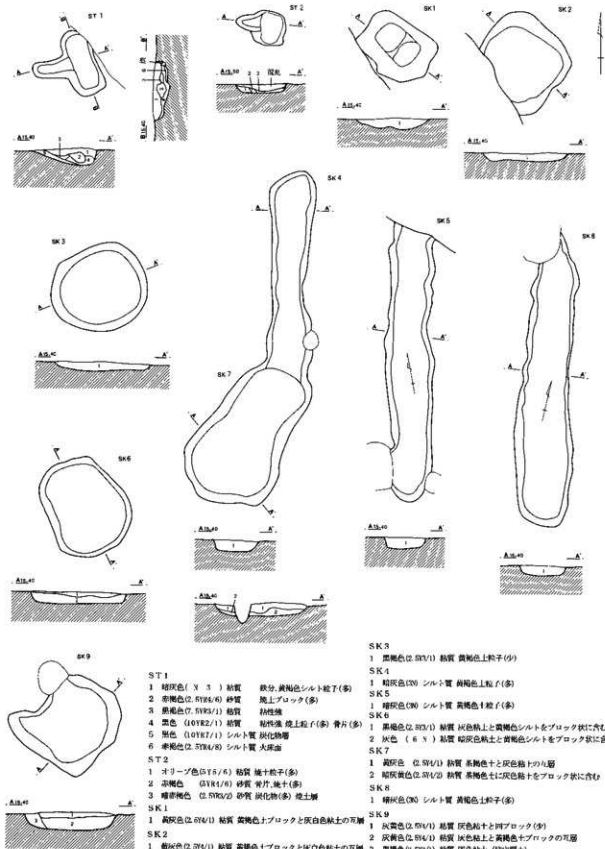
F-12グリッドに位置していた。隣接して検出された4・8号土壌と同じ形態であった。平面形は長楕円形で、規模は長軸4.34m、短軸0.76m、深さ0.18mであった。主軸はN-21°-Wであった。覆土は、黄褐色土と暗灰色土の一拵埋土であった。遺物の出土は、なかった。

#### 10号土壌 (第18・25図)

I-13グリッドに位置していた。13号溝を切っていた。平面形は不整形円で、規模は長軸1.6m、短軸1.22m、深さ0.18mであった。主軸はN-0°であった。覆土は、下層に炭化物が帯状に堆積していた。

遺物は、土師器環、甕、甗がまとまった状態で出土した。

第17図 火跡跡・土塊・ピット(1)



ST 1

- 1 緑灰色(Y 3) 粘質 鉄分、黄褐色シルト粒(多)
- 2 赤褐色(G 5R5/6) 砂質 焼上ブロック(多)
- 3 赤褐色(G 5R5/1) 粘質 粘性强
- 4 黑色 (10YR2/1) 粘質 粘性强 焼上粒(多) 骨片(多)
- 5 黑色 (10YR7/1) シルト質 炭化物層
- 6 赤褐色(G 5R4/8) シルト質 火床面

ST 2

- 1 オリーブ色(5Y 5/4) 粘質 焼上粒(多)
- 2 赤褐色 (5YR4/6) 砂質 骨片、焼上(多)
- 3 暗赤褐色 (G 5R5/2) 砂質 炭化物(多) 焼上層

SK 1

- 1 黄灰色(G 6Y/1) 粘質 黄褐色土ブロックと灰白色粘土の互層
- 2 黄灰色(G 6Y/1) 粘質 黄褐色土ブロックと灰白色粘土の互層
- 3 黄灰色(G 6Y/1) 粘質 黄褐色土ブロックと灰白色粘土の互層

SK 3

- 1 黒褐色(G 3Y/1) 粘質 黄褐色土粒子(少)

SK 4

- 1 黄灰色(G 5Y) シルト質 黄褐色土粒(多)

SK 5

- 1 暗褐色(G 3Y) シルト質 黄褐色土粒(多)

SK 6

- 1 黒褐色(G 3Y/1) 粘質 灰色粘土と黄褐色シルトをブロック状に含む
- 2 灰色 (6 Y) 粘質 暗灰色粘土と黄褐色シルトをブロック状に含む

SK 7

- 1 黄灰色 (G 5Y/1) 粘質 系陶器土と灰色粘土の互層
- 2 暗灰褐色(G 3Y/2) 粘質 系陶器土に灰色粘土をブロック状に含む

SK 8

- 1 黄灰色(G 5Y) シルト質 黄褐色土粒子(多)

SK 9

- 1 灰黄色(G 5Y/1) 粘質 灰色粘土と河ブロック(少)
- 2 灰黄色(G 5Y/2) 粘質 灰色粘土と黄褐色土ブロックの互層
- 3 黄褐色(G 5Y/1) 粘質 灰色粘土 (註火層上)



### 13号土壌 (第18図)

K-15グリッドに位置していた。24・25号溝に接していた。平面形は不整形で、規模は長軸1.86m、短軸1.68m、深さ0.30mであった。主軸はN-42°-Wであった。覆土上層には炭化物の帯状堆積が認められ、下層には黄褐色土ブロック及び灰白色土ブロックが堆積していた。

遺物は土師器環、甕の細片が覆土上層から出土したが図示できるものはなかった。

### 18号土壌 (第18・25図)

K-14グリッドに位置していた。1号掘立柱建物跡に隣接していた。平面形は楕円形で、規模は長軸1.26m、短軸0.76m、深さ0.22mであった。主軸はN-04°-Wであった。覆土は黄褐色土と暗灰色土の一括埋土であった。

遺物は土師器環、須恵器蓋が覆土上層から出土した。

### 21号土壌 (第18・25図)

K-14グリッドに位置していた。1号掘立柱建物跡21・24・28号溝に隣接していた。平面形は楕円形で、規模は長軸2.86m、短軸2.12m、深さ0.14mであった。主軸はN-58°-Eであった。覆土には、黄白色粘土ブロックが堆積していた。

遺物は土師器環が覆土上層から出土した。

### 22号土壌 (第18・54図)

L-16グリッドに位置していた。21号溝を切って構築していた。平面形は長方形で、規模は長軸1.40m、短軸0.96m、深さ0.18mであった。主軸はN-42°-Eであった。覆土には灰白色粘土ブロックが堆積していた。

付近から須恵器面皿が出土した。

### 24号土壌 (第19・267図)

L-16グリッドに位置していた。18号溝に切られていた。平面形は長方形で、規模は長軸1.56m、短軸0.88m、深さ0.22mであった。主軸はN-52°-Wであった。覆土は黄褐色シルトブロックが帯状に堆積していた。

遺物は砥石 (第267図4) が出土した。

### 34号土壌 (第19図)

I-12グリッドに位置していた。P411に切られていた。平面形は方形で、規模は長軸1.69m、短軸1.57m、深さ0.12mであった。主軸はN-48°-Wであった。覆土は黄褐色土ブロックと暗灰色土の一括埋土であった。遺物の出土は、なかった。

### 38号土壌 (第19・25図)

I-13グリッドに位置していた。平面形は円形で、規模は長軸1.45m、短軸1.21m、深さ0.31mであった。主軸はN-73°-Wであった。覆土上層には焼土と炭化物が帯状に堆積していた。

遺物は土師器甕が覆土上層から出土した。

### 56号土壌 (第20・25図)

H-13グリッドに位置していた。2号掘立柱建物跡隣接していた。平面形は隅丸方形で、規模は長軸0.95m、短軸0.94m、深さ0.06mであった。主軸はN-0°であった。覆土は黄褐色土と暗灰色土の一括埋土であった。

遺物は土師器環が出土した。

### 59号土壌 (第20図)

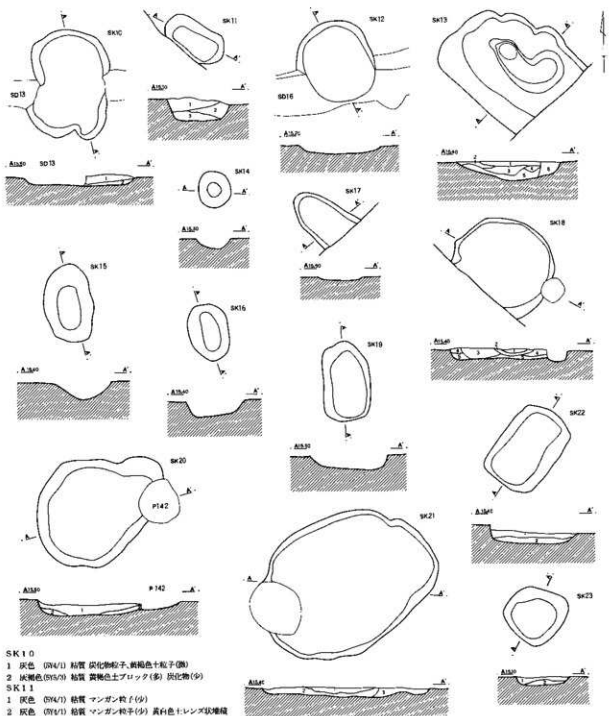
J-15グリッドに位置していた。55号土壌に隣接していた。平面形は楕円形で、規模は長軸1.23m、短軸0.91m、深さ0.27mであった。主軸はN-47°-Wであった。覆土は暗褐色土で、硬くしまった堆積土であった。遺物の出土は、なかった。

### 69号土壌 (第21・25図)

J-16グリッドに位置していた。25号溝に隣接し、一部調査区外にあった。平面形は方形で、規模は長軸0.9m、短軸0.9m、深さ0.21mであった。主軸はN-44°-Eであった。覆土は黄褐色土と暗灰色土の一括埋土であった。

遺物は須恵器長脚高杯の脚部が出土した。

第18図 火葬跡・土坑・ピット (2)



SK 1 0

- 1 灰色 (S14/1) 粘質 炭化物粒子, 黄褐色土粒子(多)
- 2 灰褐色 (S15/3) 粘質 黄褐色土ブロック(多) 炭化物(少)

SK 1 1

- 1 灰色 (S14/1) 粘質 マンガン粒子(少)
- 2 灰色 (S14/1) 粘質 マンガン粒子(少) 黄白色土レンガ状塊
- 3 黄白色(S16/3) 粘質 灰色土ブロック(多)

SK 1 3

- 1 灰色 (S14/1) 粘質 マンガン粒子(多) 炭化物粒子層状塊
- 2 灰色 (S14/1) 粘質 黄褐色土粒子(少) マンガン粒子(多)
- 3 緑オリーブ色(S14/3) 粘質 黄褐色土ブロック, 銅粒子(多) マンガン粒子(多)
- 4 灰オリーブ色(S14/2) 粘質 黄褐色土ブロック(多)
- 5 黄褐色 (S15/6) 粘質 黄褐色土ブロック(多)
- 6 オリーブ灰色(S13/1) 粘質 灰白色土ブロック(多) 粘時強

SK 1 8

- 1 黄褐色(S16/1) 粘質 灰白色土(多) 黄褐色土粒子(多) 焼土粒子(多)
- 2 黑色 (2 X) シルト質 炭層 焼土ブロック(少) (地層出土)
- 3 暗灰色(3 X) シルト質 焼土ブロック, 灰, 暗灰色粘土の塊
- 4 灰色 (S15/1) 粘質
- 5 灰褐色(S16/2) 粘質

SK 2 0

- 1 灰オリーブ色(S14/2) シルト質 黄褐色シルト粒子(少) 銅ブロック(少)
- 2 明黄褐色 (S16/3) シルト質 黄褐色シルトブロック(少)

SK 2 1

- 1 オリーブ灰色 (S13/2) シルト質 焼土粒子(多) 白色シルト粒子(少)
- 2 灰オリーブ色 (S14/2) 粘質 黄褐色シルトブロック(多)
- 3 オリーブ灰色 (S13/1) 粘質 灰白色土ブロック(少) 鉄分沈着

SK 2 2

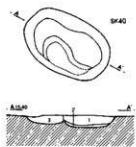
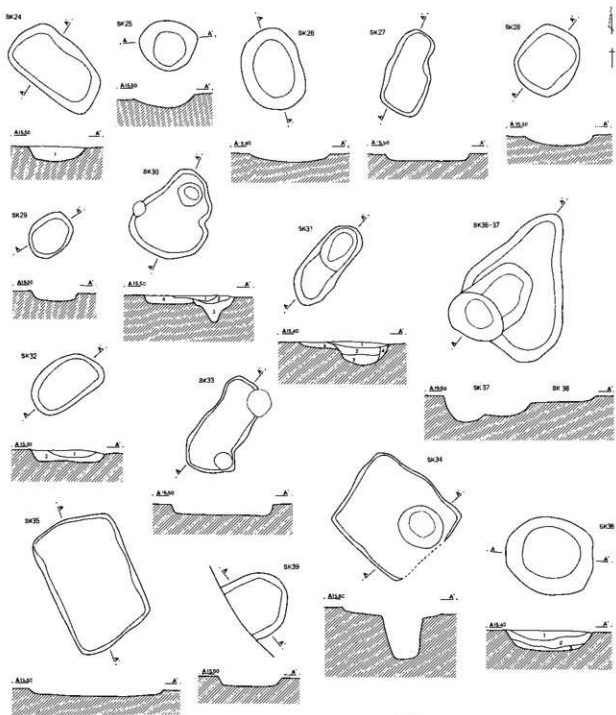
- 1 オリーブ灰色(S13/2) 粘質 灰白色土ブロック(少)
- 2 黑色 (S12/1) 粘質 灰白色土(少) マンガン粒子(少)

SK 2 3

- 1 灰色 (S15/1) 粘質 黄褐色土ブロック(多)
- 2 オリーブ灰色(S13/2) 粘質 マンガン粒子(少)



第19図 火葬跡・土坑・ピット(3)

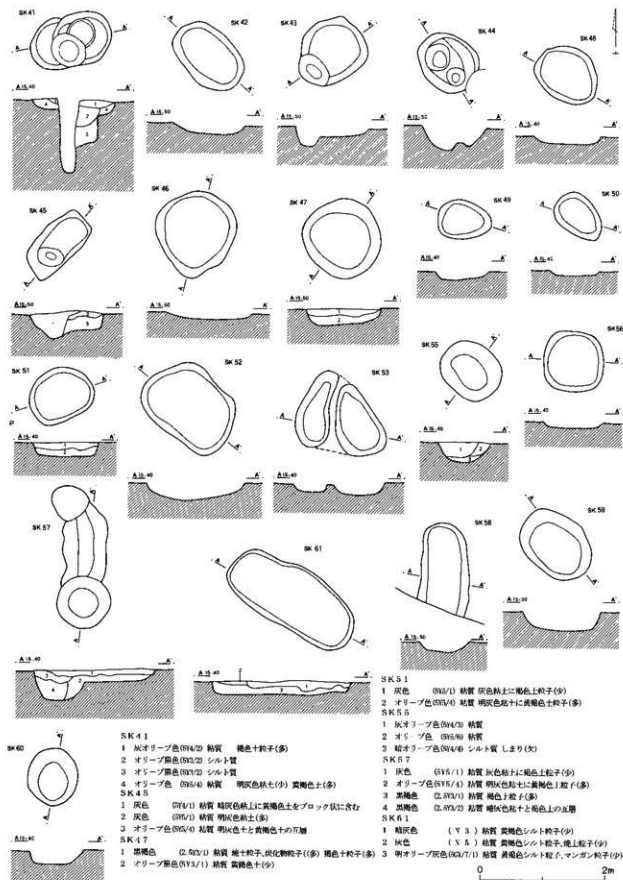


- SK 2 4  
1 褐色色(0) シルト質 黄褐色シルトブロック形状残塊
- SK 3 0  
1 褐色色 (2.R4/1) 粘質 焼土粒子(少)  
2 黒褐色 (2.R3/1) 粘質 黄褐色土粒子(少)  
3 黒褐色 (2.R3/1) 粘質 (HKG)  
4 オリーブ色(5.Y5/4) 粘質 明灰色上に黄褐色土粒子(多)
- SK 3 1  
1 褐色色 (2.R4/1) 粘質 焼土粒子(少)  
2 黒褐色 (2.R3/1) 粘質 黄褐色土粒子(少)  
3 黒褐色 (2.R3/1) 粘質 (HKG)  
4 オリーブ色(5.Y5/4) 粘質 明灰色上に黄褐色土粒子(多)

- SK 3 2  
1 灰色 (5.Y5/1) 粘質 灰色粘土上に褐色土粒子(少)  
2 オリーブ色(5.Y5/4) 粘質 明灰色粘土上に黄褐色土粒子(多)
- SK 3 8  
1 黒褐色 (2.R3/1) 粘質 焼土粒子・炭化物粒子(少)  
2 褐色色 (2.R4/1) 粘質 灰色粘土上に黄褐色土粒子を含む  
3 オリーブ色(5.Y5/4) 粘質 黄褐色土と明灰色粘土との互層
- SK 4 0  
1 黒褐色 (2.R3/1) 粘質 褐色土粒子(少)  
2 オリーブ色(5.Y5/4) 粘質 灰色粘土と黄褐色土の互層  
3 灰色 (5.Y5/1) 粘質 明灰色粘土上に黄褐色土(少)



第20図 火葬跡・土壇・ピット (4)



#### 70号土壌 (第21図)

H-12グリッドに位置していた。9号溝に切られていた。平面形は楕円形で、規模は長軸1.66m、短軸1.0m、深さ1.03mであった。主軸はN-54°-Eであった。覆土には、灰白色粘土ブロックが堆積していた。遺物の出土は、なかった。

#### 78号土壌 (第21・25図)

L-14グリッドに位置していた。1号独立柱建物跡及びF21号土壌に隣接し、24・28号溝に切られていた。平面形は不整形で、規模は長軸2.01m、短軸1.01m、深さ0.14mであった。主軸は不明であった。覆土は黄褐色土と暗灰色土の一括埋土であった。

遺物は須恵器杯・蓋・長頸壺・把手が、覆土上層から出土した。

#### 80号土壌 (第21・25図)

M-15グリッドに位置していた。3・4号独立柱建物跡に隣接し、18号井戸跡に切られていた。平面形は円形で、規模は長軸1.80m、短軸1.61m、深さ0.49mの二段掘り込みであった。主軸はN-61°-Wであった。覆土中から多くの炭化物が出土した。

遺物は土師器杯、須恵器蓋が覆土下層から出土した。

#### 82号土壌 (第22・25図)

N-17グリッドに位置していた。5号独立柱建物跡に隣接していた。調査区で最大規模の土壌であった。平面形は長楕円形で、規模は長軸6.46m、短軸1.79m、深さ0.45mであった。主軸はN-59°-Eで二段掘り込みであった。覆土中層に焼土ブロックが堆積していた。

遺物は土師器杯、盤状杯、須恵器長頸壺、甕が出土した。

#### 83号土壌 (第22・25図)

O-16グリッドに位置していた。83・84号土壌に隣接していた。平面形は不整形で、規模は長軸1.70m、短軸1.51m、深さ0.10mであった。主軸はN-34°-Eであった。覆土は黄褐色土と暗灰色土の一括埋土であった。

遺物は土師器杯が覆土上層から出土した。いずれも

84・85号土壌からの流れ込みによるものと考えられる。

#### 84号土壌 (第22・26図)

O-16グリッドに位置していた。85号土壌と北東辺を接し83号土壌に隣接していた。平面形は不整形で、規模は長軸1.08m、短軸0.88m、深さ0.16mであった。主軸はN-22°-Wであった。覆土は黄褐色土と暗灰色土の一括埋土であった。

遺物は覆土中位に土師器杯がまとめて出土した。

#### 85号土壌 (第22・26図)

O-16グリッドに位置していた。84号土壌と南西辺を接し83号土壌に隣接していた。平面形は楕円形で、規模は長軸2.97m、短軸2.70m、深さ0.61mであった。主軸はN-67°-Wであった。土壌は、覆土1・2層を主体とする平面不整形のもの、覆土3・4・5層を主体とする長楕円形のものに区分される可能性がある。

遺物は土師器杯が覆土上層から出土した。

#### 86号土壌 (第22・26図)

N-16グリッドに位置していた。P659・662に切られていた。平面形は不整形で、規模は長軸1.68m、短軸1.32m、深さ0.13mであった。主軸はN-33°-Wであった。覆土には多量の炭化物、焼土が堆積していた。

遺物は土師器杯が出土した。

#### ビット7～13・99・122～124 (第23・26図)

D・E-10グリッドに位置していた。P7・11・13・123・124で囲まれた範囲の一連の柱穴で構築されていたと考えられる。主軸はN-44°-Wであった。各柱穴の平面形は円形及び不整形で、規模は径35～124cm、深さ20～80cmであった。覆土は暗灰色粘土の一括埋土で、柱痕は検出されなかった。

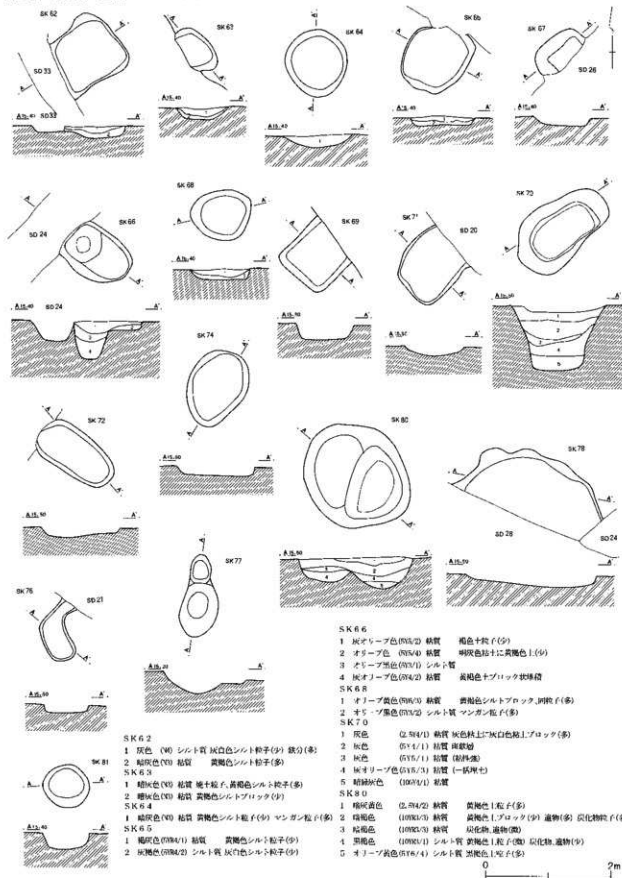
遺物はP9より片口鉢が出土した。

#### ビット55 (第24・26図)

G-11グリッドに位置していた。平面形は円形であった。主軸はN-0°であった。規模は径76cm、深さ101cmで垂直に近い掘り込みであった。

遺物は、須恵器壺、甕が底面から出土した。須恵器

第21図 火跡跡・土塊・ピット (5)



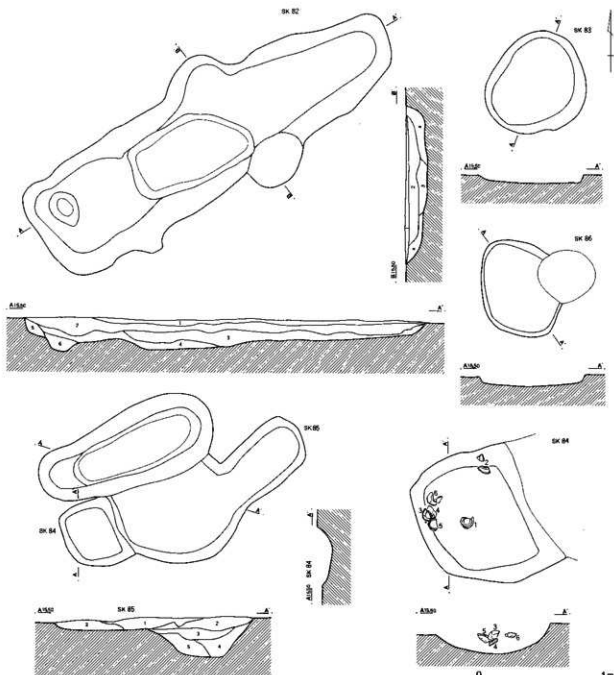
- SK 6 2  
 1 灰色 (N0) シルト質 灰白色シルト粒子(少) 鉄分(多)  
 2 暗灰色(N0) 粘質 黄褐色シルト粒子(多)
- SK 6 3  
 1 暗灰色(N0) 粘質 焼土粒・黄褐色シルト粒子(多)  
 2 暗灰色(N0) 粘質 黄褐色シルトブロック(少)
- SK 6 4  
 1 暗灰色(N0) 粘質 黄褐色シルト粒子(少) マンガン粒子(多)
- SK 6 5  
 1 暗灰色(N0/K1) 粘質 黄褐色シルト粒子(少)  
 2 灰褐色(N0/K2) シルト質 灰白色シルト粒子(少)

- SK 6 6  
 1 灰オリーブ色(N5/2) 粘質 褐色 褐色土粒(少)  
 2 オリーブ色(N5/4) 粘質 明灰色粘土に黄褐色土(少)  
 3 オリーブ灰色(N5/1) シルト質  
 4 灰オリーブ色(N5/2) 粘質 黄褐色土ブロック状硬結
- SK 6 8  
 1 オリーブ黄色(N5/3) 粘質 黄褐色シルトブロック・洞粒子(多)  
 2 オリーブ灰色(N5/2) シルト質 マンガン粒子(多)
- SK 7 0  
 1 灰色 (G.50/1) 粘質 灰色粘土上・灰白色土ブロック(多)  
 2 灰色 (G.51/1) 粘質 硬硬砂  
 3 灰色 (G.52/1) 粘質 (砂状土)  
 4 灰オリーブ色(G.53/3) 粘質 (一灰埋土)  
 5 暗緑灰色 (G.54/1) 粘質
- SK 8 0  
 1 暗灰色 (G.24/2) 粘質 黄褐色土粒子(多)  
 2 暗褐色 (G.09/3) 粘質 黄褐色土ブロック(少) 遺物(多) 炭化物粒子(多)  
 3 暗褐色 (G.09/3) 粘質 炭化物・遺物(多)  
 4 暗褐色 (G.09/3) シルト質 黄褐色土粒子(多) 炭化物・遺物(少)  
 5 オリーブ黄色(G.6/4) シルト質 黄褐色土粒子(多)





第22図 火跡跡・土壇・ピット(6)



SK 82

- 1 オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘質 焼土粒子, 黄褐色土粒子(少)
- 2 灰オリーブ色 (5Y4/2) 粘質 黄褐色シルト粒子兼状堆積
- 3 緑褐色 (5G2/1) シルト質 焼土ブロック, 黄褐色シルト粒子(少)
- 4 オリーブ黒色 (7.5Y3/2) シルト質 焼土ブロック(少)
- 5 暗灰色 (N 3) 粘質 黄褐色シルト粒子(多)
- 6 オリーブ色 (5Y5/9) シルト質

SK 85

- 1 暗灰色 (N 3) 粘質 黄褐色土ブロック(少) 焼土粒子(少)
- 2 暗灰色 (N 3) 粘質 黄褐色土ブロック(少)
- 3 暗灰色 (N 3) 粘質 黄褐色土粒子(少) 焼土粒子(少)
- 4 灰色 (K 4) シルト質 黄褐色シルトブロック(多)
- 5 黄褐色 (10Y5/9) シルト質 黄褐色土粒子(多)

壺は内面に漆膜の痕跡が付着していた。

**ビット58 (第24・26図)**

G-11グリッドに位置していた。平面形は円形であった。主軸はN-0°であった。規模は長径60cm、深さ81cmであった。

遺物は土師器甕が出土した。

**ビット119 (第24・26図)**

F-10グリッドに位置していた。平面形は不整形円形であった。主軸はN-05°-Eであった。規模は長径66cm、深さ22cmであった。覆土上層に炭化物が堆積していた。

遺物は土師器甕が出土した。

**ビット138 (第24・26図)**

J-13グリッドに位置していた。平面形は円形であった。主軸はN-0°であった。規模は径46cm、深さ56cmで垂直に近い掘り込みであった。

遺物は須恵器提瓶、甕が出土した。

**ビット296 (第24・26図)**

I-14グリッドに位置していた。平面形は円形であった。主軸はN-0°であった。規模は径59cm、深さ96cmで垂直に近い掘り込みであった。

遺物は土師器甕が出土した。

**ビット298 (第24・26図)**

I-14グリッドに位置していた。平面形は不整形円形であった。主軸はN-30°-Eであった。規模は長径

68cm、深さ101cmで垂直に近い掘り込みであった。

遺物は覆土中層より、土師器杯、甕、須恵器甕が出土した。

**ビット354 (第24・26図)**

G-13グリッドに位置していた。平面形は不整形円形であった。主軸はN-25°-Wであった。規模は長径75cm、深さ56cmであった。

遺物は土師器甕が出土した。

**ビット638・652・653・656 (第23図)**

N-15・16グリッドに位置していた。4本の柱穴で囲まれる中に関連性のある柱穴群があった。各柱穴の平面形は円形で、規模は長径70~102cm、深さ26~60cmであった。主軸はN-50°-Wであった。全ての柱穴から柱痕が検出された。遺物は出土しなかった。

**ビット659 (第23図)**

N-16グリッドに位置していた。平面形は楕円形であった。主軸はN-43°-Wであった。規模は長径56cm、深さ96cmで断面台形の掘り込みであった。覆土上層に炭化物が堆積していた。遺物は出土しなかった。

**ビット660 (第23図)**

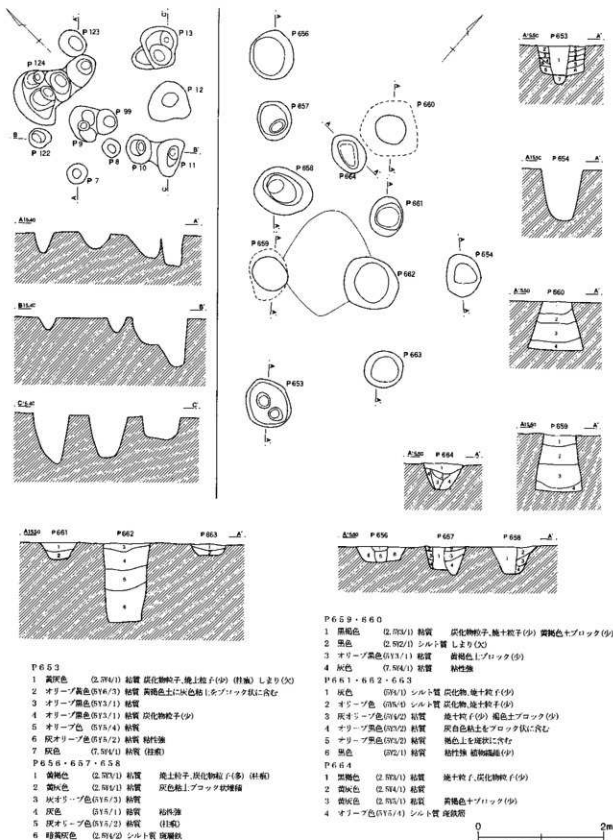
N-16グリッドに位置していた。P659と同一形態であった。平面形は楕円形であった。主軸はN-0°であった。規模は長径44cm、深さ78cmで断面台形の掘り込みであった。覆土上層に炭化物が堆積していた。

遺物は出土しなかった。

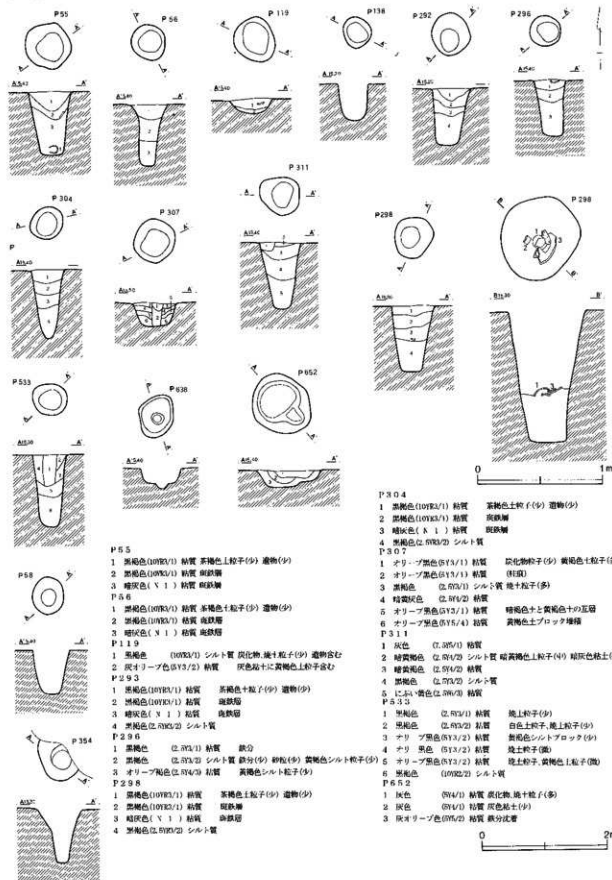
A区土壌一覧表 (1)

番号	位置	形態	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	主軸方位	出土遺物	時期	備考
1	G-10	隅丸方形	1.20	0.95	0.16	N-50°-W			
2	G-10	隅丸方形	1.34	1.20	0.12	N-51°-W			
3	G-11	楕円	1.52	1.34	0.12	N-68°-E		古代	
4	G-12	長楕円	3.22	0.60	0.16	N-0°			
5	F-12	長楕円	4.34	0.76	0.18	N-21°-W			
6	F-12	楕円	1.60	1.26	0.16	N-26°-W			
7	G-12	楕円	2.40	1.28	0.20	N-30°-E			
8	G-12	長楕円	4.68	0.72	0.14	N-16°-W			
9	G-12	不整形	1.18	1.34	0.28	N-42°-W			
10	I-13	不整形	1.60	1.22	0.18	N-0°	杯 甕 甕	古墳	
11	J-13	楕円	1.02	0.52	0.36	N-60°-W			
12	J-15	楕円	1.30	1.20	0.10	N-20°-W			
13	K-15	不整形	1.68	1.68	0.30	N-42°-W			pit有り
14	K-14	円	0.58	0.54	0.12	N-0°			
15	K-14	楕円	1.22	0.76	0.28	N-11°-W			

第23図 火葬跡・土坑・ピット(7)



第24図 火跡・土壇・ピット (8)



- P 3 0 4**  
 1 黒褐色 (10YR2/1) 粘質 茶褐色土粒子 (少) 遺物 (少)  
 2 黒褐色 (10YR3/1) 粘質 炭鉄屑  
 3 暗灰色 (5 Y 1) 粘質 炭鉄屑  
 4 黒褐色 (10YR2/2) シルト質
- P 3 0 7**  
 1 オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘質 炭化物粒子 (少) 黄褐色土粒子 (多)  
 2 オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘質 (柱状)  
 3 黒褐色 (10YR2/2) シルト質 焼土粒子 (多)  
 4 暗褐色 (10YR2/2) 粘質  
 5 オリーブ黒色 (5Y2/1) 粘質 暗褐色土と黄褐色土の互層  
 6 オリーブ黒色 (5Y5/4) 粘質 黄褐色土ブロック堆積
- P 3 1 1**  
 1 灰色 (7.5R5/1) 粘質  
 2 暗黄褐色 (10YR4/2) シルト質 暗黄褐色土粒子 (少) 暗灰色粘土 (少)  
 3 暗黄褐色 (10YR4/2) 粘質  
 4 黒褐色 (10YR2/2) シルト質  
 5 灰色 (7.5R5/2) 粘質  
 6 オリーブ黒色 (5Y3/2) 粘質 焼土粒子 (少)  
 7 灰色 (5Y5/2) 粘質 白色土粒子、焼土粒子 (少)  
 8 ナリ 黒色 (5Y3/2) 粘質 黄褐色シルトブロック (少)  
 9 ナリ 黒色 (5Y3/2) 粘質 焼土粒子 (多)  
 10 オリーブ黒色 (5Y2/2) 粘質 焼土粒子、黄褐色土粒子 (多)  
 11 黒褐色 (10YR2/2) シルト質
- P 5 5 2**  
 1 灰色 (7.5R5/1) 粘質 炭化物、焼土粒子 (多)  
 2 灰色 (5Y4/2) 粘質 炭土 (少)  
 3 灰オリーブ色 (5Y5/2) 粘質 炭分

- P 5 5**  
 1 黒褐色 (10YR2/1) 粘質 茶褐色土粒子 (少) 遺物 (少)  
 2 黒褐色 (10YR3/1) 粘質 炭鉄屑  
 3 暗灰色 (5 Y 1) 粘質 炭鉄屑
- P 5 6**  
 1 黒褐色 (10YR3/1) 粘質 茶褐色土粒子 (少) 遺物 (少)  
 2 黒褐色 (10YR3/1) 粘質 炭鉄屑  
 3 暗灰色 (5 Y 1) 粘質 炭鉄屑
- P 1 1 9**  
 1 黒褐色 (10YR2/1) シルト質 炭化物、焼土粒子 (少) 遺物 (多)  
 2 灰オリーブ色 (5Y3/2) 粘質 灰色粘土に黄褐色土粒子を含む
- P 2 9 3**  
 1 黒褐色 (10YR3/1) 粘質 茶褐色土粒子 (少) 遺物 (少)  
 2 黒褐色 (10YR3/1) 粘質 炭鉄屑  
 3 暗灰色 (5 Y 1) 粘質 炭鉄屑  
 4 黒褐色 (10YR2/2) シルト質
- P 2 9 6**  
 1 茶褐色 (10YR3/1) 粘質 炭分  
 2 黒褐色 (10YR2/1) 粘質 炭鉄屑  
 3 オリーブ褐色 (10Y4/2) 粘質 黄褐色シルト粒子 (少)
- P 2 9 8**  
 1 茶褐色 (10YR3/1) 粘質 茶褐色土粒子 (少) 遺物 (少)  
 2 黒褐色 (10YR2/1) 粘質 炭鉄屑  
 3 暗灰色 (5 Y 1) 粘質 炭鉄屑  
 4 黒褐色 (10YR2/2) シルト質

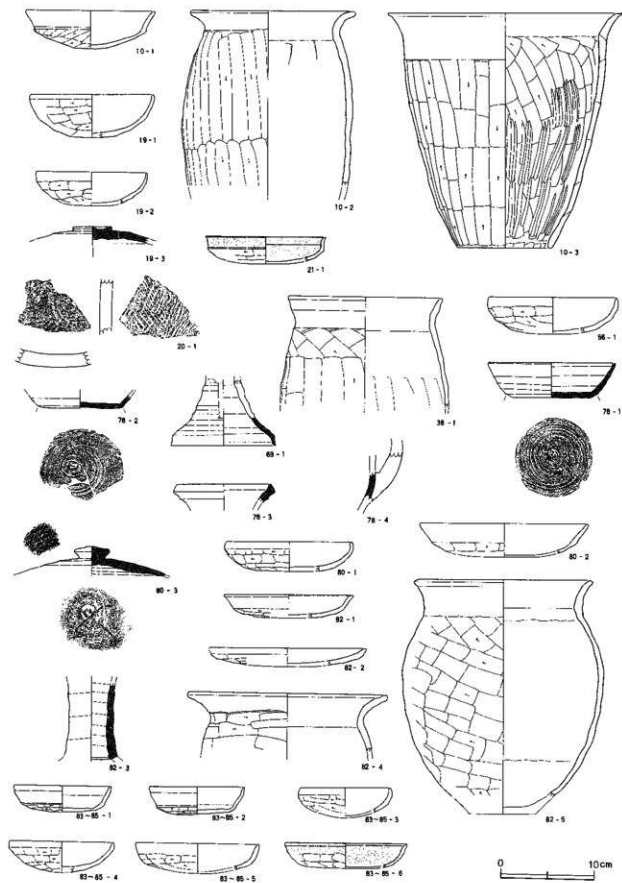
A区土壌一覧表(2)

番号	位置	形態	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	主軸方位	出土遺物	時期	備考
16	K-14	楕円	0.90	0.64	0.24	N-25°-W		古代	
17	K-14	楕円	0.96	0.68	0.04	N-48°-W			
18	L-16	円	1.62	1.28	0.16	N-62°-W			馬歯出土
19	K-14	楕円	1.26	0.76	0.22	N-04°-W	杯 須忠益	古代	
20	K-13	不整形円	2.20	1.68	0.23	N-66°-E	平瓦	古代	
21	K-14	楕円	2.86	2.12	0.14	N-58°-E	杯	古墳	
22	L-16	長方形	1.40	0.96	0.18	N-42°-E			
23	L-16	不整形	0.88	0.88	0.13	N-61°-W			
24	L-16	長方形	1.56	0.88	0.22	N-52°-W			
25	II-12	円	0.80	0.90	0.18	N-0°			
26	I-13	楕円	1.28	0.94	0.12	N-30°-W			
27	H-12	不整形	1.32	0.74	0.09	N-20°-E			
28	H-12	円	1.10	0.94	0.16	N-37°-E		古代	
29	H-12	楕円	0.76	0.60	0.10	N-52°-E			
30	H-13	不整形	1.46	1.16	0.43	N-31°-E			
31	H-13	楕円	1.48	0.63	0.33	N-37°-E			pit有り 二段掘込
32	G-13	楕円	1.17	0.75	0.16	N-54°-E			
33	H-13	不整形楕円	1.62	0.73	0.16	N-36°-E			
34	I-12	方形	1.69	1.57	0.12	N-48°-W			
35	I-12	長方形	2.08	1.38	0.10	N-24°-W			
36	I-12	不整形	2.26	1.78	0.08	N-28°-E			
37	I-13	楕円	1.41	0.87	0.39	N-42°-E			二段掘込
38	I-13	円	1.45	0.21	0.31	N-73°-W	葉	古代	
39	I-12	円	0.88	1.00	0.12	N-65°-E			
40	I-13	楕円	1.46	0.93	0.20	N-60°-W			二段掘込
41	I-14	楕円	1.34	0.83	0.69	N-78°-E			pit有り
42	I-13	楕円	1.27	0.81	0.14	N-48°-W			
43	I-12	不整形円	1.17	0.98	0.26	N-52°-E			pit有り
44	I-13	楕円	0.98	0.84	0.36	N-46°-W			pit有り
45	I-12	長方形	1.18	0.62	0.30	N-46°-E			pit有り
46	I-12	円	1.37	1.30	0.08	N-0°		古代	
47	I-12	円	1.23	1.20	0.26	N-0°			
48	I-15	不整形円	1.06	0.93	0.09	N-57°-W			
49	I-15	不整形円	0.86	0.62	0.12	N-73°-W			
50	I-15	不整形円	0.87	0.58	0.06	N-43°-W			
51	J-13	不整形円	1.06	0.82	0.21	N-70°-E			
52	J-13	不整形	1.57	1.16	0.23	N-52°-W			
53	J-14	不整形	1.49	1.23	0.16	N-77°-W			
55	J-15	楕円	1.00	0.82	0.32	N-50°-W		縄文	
56	H-13	隅丸方形	0.95	0.94	0.06	N-0°	杯	古代	
57	I-13	不整形	2.00	0.70	0.46	N-0°			二段掘込
58	J-12	楕円	1.40	0.77	0.13	N-0°		縄文	
59	J-15	楕円	1.23	0.91	0.27	N-47°-W		縄文	
60	J-15	円	0.88	0.82	0.21	N-0°			
61	L-16	楕円	2.20	0.96	0.20	N-55°-W			
62	L-16	方形	1.06	0.97	0.17	N-52°-E			
63	L-16	不整形	0.81	0.43	0.17	N-46°-W			
64	M-16	円	1.06	1.00	0.18	N-0°			
65	M-16	隅丸方形	1.10	1.00	0.10	N-25°-E			
66	J-15	楕円	1.10	0.80	0.61	N-48°-W			二段掘込
67	K-16	不整形	0.90	0.50	0.10	N-50°-E			
68	K-16	不整形円	0.94	0.78	0.15	N-90°-E			
69	J-16	方形	0.90	0.90	0.21	N-44°-E	須忠器脚部	古墳	

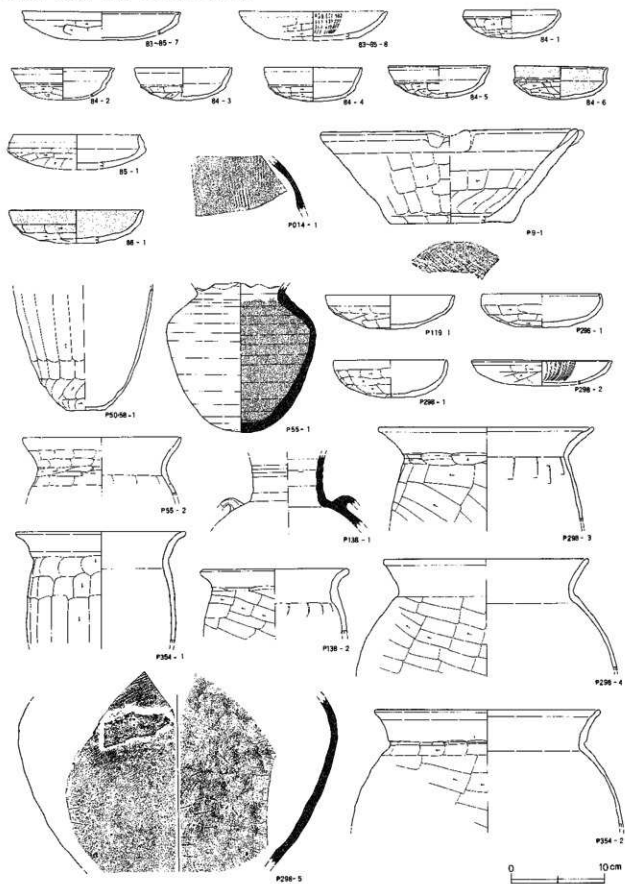
A区土壌一覽表(3)

番号	位置	形態	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	上軸方位	出土遺物	時期	備考
70	H-12	楕円	1.66	1.00	1.03	N-54°-E			二段掘込
71	K-13	不整形	1.03	0.95	0.10	N-45°-E			
72	L-15	楕円	1.23	0.69	0.16	N-53°-W			
74	L-15	不整円	1.22	0.90	0.10	N-30°-E			
76	L-15	不整形	0.77	0.44	0.12	N-22°-W			
77	L-15	不整形	1.31	0.59	0.30	N-07°-E			二段掘込
78	L-14	不整形	2.01	1.01	0.14	不明	坏 須恵 長頸壺	古代	
80	M-15	円	1.80	1.61	0.49	N-61°-W	坏 須恵 蓋	古代	二段掘込
81	K-14	円	0.73	0.68	0.21	N-0°		縄文	
82	N-17	長楕円	6.46	1.79	0.45	N-59°-E	坏 甕 須恵 長頸壺	古代	二段掘込
83	O-16	不整円	1.70	1.51	0.10	N-34°-E	坏	古代	
84	O-16	不整形	1.08	0.88	0.16	N-22°-W	坏	古代	
85	O-16	楕円	2.97	2.70	0.61	N-67°-E	坏	古代	二段掘込
86	N-16	不整形	1.68	1.32	0.13	N-33°-W	坏	古代	
P7	E-10	円	0.34		0.30	N-0°		中世	
P8	E-10	円	0.30		0.22	N-0°		中世	
P9	E-10	円	0.60		0.25	N-0°	片口鉢	中世	
P10	E-10	円	0.45		0.40	N-0°		中世	
P11	E-10	不整形	0.58	0.40	0.75	N-10°-E		中世	
P12	E-10	不整形	0.67	0.58	0.80	N-32°-E		中世	
P13	E-10	不整形	0.66	0.58	0.35	N-10°-W		中世	
P99	E-10	円	0.38		0.42	N-0°		中世	
P122	D-10	円	0.36		0.20	N-0°		中世	
P123	D-10	円	0.45		0.48	N-0°		中世	
P124	D-10	不整形	1.42	0.92	0.40	N-50°-E		中世	二基接
P55	G-11	円	0.76		1.01	N-0°	漆壺 甕	古代	
P56	G-11	円	0.55		0.96	N-0°	甕		
P119	F-10	不整円	0.66	0.56	0.22	N-05°-E	坏	古代	
P138	J-13	円	0.46		0.56	N-0°	炭焼 甕	古墳	
P293	I-14	円	0.58		0.96	N-0°			
P296	I-14	円	0.59		0.96	N-0°	坏	古代	
P298	I-14	不整円	0.68	0.62	1.01	N-30°-E	坏 甕	古代	
P304	J-13	円	0.52		1.06	N-0°			
P307	I-13	円	0.66		0.38	N-0°			
P311	I-13	不整円	0.66	0.60	1.08	N-75°-W			
P533	M-16	円	0.56		1.16	N-0°			
P638	N-16	不整円	0.70	0.60	0.30	N-20°-E			柱痕
P652	N-16	楕円	1.02	0.89	0.26	N-38°-W			
P653	N-16	円	0.76		0.60	N-0°			柱痕
P654	N-16	楕円	0.67	0.52	0.79	N-45°-W			
P656	N-15	円	0.77		0.24	N-0°			柱痕
P657	N-16	円	0.60		0.44	N-0°			柱痕
P658	N-16	楕円	0.94	0.74	0.42	N-60°-E			柱痕
P659	N-16	楕円	0.56	0.48	0.96	N-43°-W			断面台形
P660	N-16	円	0.44		0.78	N-0°			断面台形
P661	N-16	楕円	0.62	0.52	0.26	N-40°-W			
P662	N-16	円	0.81		1.24	N-0°			
P663	N-16	円	0.60		0.18	N-0°			
P664	N-16	楕円	0.67	0.50	0.38	N-80°-W			柱痕
P58	G-11	円	0.60	0.53	0.81	N-0°	甕		
P354	G-13	不整円	0.75	0.50	0.86	N-25°-W	甕		

第25図 火葬跡・土壇・ピット出土遺物(1)



第26図 火葬跡・土壌・ピット出土遺物(2)





A区土壌・ピット出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
10-1	土師器杯	(14.0)	4.1	(12.0)	BE	3	褐色	40%	
10-2	土師器甕	18.8	-	-	ABEL	3	褐色	50%	
10-3	土師器瓶	(25.0)	(25.0)	(10.0)	AEL	3	にぶい褐色	30%	
19-1	土師器杯	(13.6)	(4.5)	(11.5)	BJ	3	褐色	20%	覆土
19-2	土師器杯	(12.0)	(3.6)	(10.6)	EF	3	浅黄褐色	5%	
19-3	須恵器杯蓋	-	-	-	BF	2	灰色	10%	
20-1	平瓦	-	-	-	BD	3	灰白色		
21-1	土師器杯	(13.0)	(2.9)	(12.6)	EJ	3	にぶい褐色	5%未満	内外面赤彩
38-1	土師器甕	(16.4)	-	-	BEL	3	赤褐色	10%	
56-1	土師器杯	(14.0)	(3.9)	(12.2)	DJ	3	にぶい褐色	5%	
69-1	須恵器長脚高杯(脚部)	-	-	(11.2)	BF	2	灰色	10%	覆土
78-1	須恵器杯	(13.6)	3.7	8.2	AF1	1	灰色	50%	南比企 巻上水挽成形 回転ヘラ切
78-2	須恵器杯	-	-	8.4	F1	2	灰白色	20%	南比企 覆土
78-3	須恵器長頸壺	(10.0)	-	-	B	1	灰白色	5%未満	東海西部 覆土
78-4	須恵器長頸壺把手	-	-	-	BF	1	灰白色	5%未満	東海西部 自然釉
80-1	土師器杯	(13.8)	(3.2)	(11.1)	BJL	3	褐色	20%	覆土
80-2	土師器杯	(18.0)	(3.5)	(15.5)	BJ	3	褐色	10%	覆土
80-3	須恵器杯蓋	-	-	-	ABFL	2	灰白色	70%	未野 表裏ヘラ描「×」印 覆土
82-1	土師器杯	(14.0)	(2.5)	(9.8)	EJ	3	にぶい褐色	5%	覆土
82-2	土師器盤状杯	(17.0)	(2.0)	(15.0)	BEJ	3	にぶい褐色	5%未満	覆土
82-3	須恵器長頸壺	頸部径4.7	-	-	BJ	1	灰色	5%未満	湖西 覆土
82-4	土師器長脚壺	21.4	-	-	AEJ	3	褐色	5%	覆土
82-5	土師器甕	(19.1)	(25.0)	-	AEL	3	にぶい褐色	40%	
83~85-1	土師器杯	10.4	2.8	8.9	EFJ	4	にぶい褐色	80%	覆土
83~85-2	土師器杯	10.2	3.0	8.6	EFJ	4	にぶい褐色	50%	覆土
83~85-3	土師器杯	(10.0)	(3.2)	(7.8)	J	3	褐色	10%	覆土
83~85-4	土師器杯	(11.4)	(3.3)	(10.2)	DEJ	3	にぶい褐色	30%	覆土
83~85-5	土師器杯	(13.2)	(3.2)	(11.2)	BDG	3	褐色	10%	覆土
83~85-6	土師器杯	(13.1)	(2.7)	(10.0)	EJ	3	褐色	5%	内外面赤彩 覆土
83~85-7	土師器盤状杯	(17.0)	(3.0)	(13.3)	BJ	2	にぶい褐色	5%未満	
83~85-8	土師器杯	(16.0)	(3.1)	(10.0)	EF	3	褐色	5%未満	放射暗文
84-1	土師器杯	10.2	3.0	8.9	FJ	3	褐色	80%	覆土
84-2	土師器杯	(11.0)	(3.4)	(9.0)	DJ	3	灰白色	20%	内外面黒色化 覆土
84-3	土師器杯	10.5	3.5	9.2	FFJ	3	褐色	90%	覆土
84-4	土師器杯	10.6	3.6	9.4	BDJ	3	灰白色	70%	内外面黒色化
84-5	土師器杯	(11.0)	(3.5)	(9.7)	BEF	3	褐色	40%	覆土
84-6	土師器杯	10.0	3.5	9.5	BFJL	3	褐色	100%	
85-1	土師器杯	(13.8)	(3.8)	(14.2)	BEJ	3	にぶい褐色	15%	内外面赤彩
86-1	土師器杯	(14.4)	(3.5)	(11.8)	BEF	3	灰白色	20%	内外面赤彩
P9-1	片口鉢	(17.8)	9.8	(13.0)	ABJ	3	-	30%	瓦質
P014-1	須恵器甕	-	-	-	FI	2	灰色	5%未満	南比企
P50-58-1	土師器長脚壺	-	-	4.1	BEJ	4	褐色	10%	
P55-1	須恵器甕	-	-	6.2	BC	2	灰色	90%	湖西か 内面漆膜付着
P55-2	土師器甕	(17.0)	-	-	BGJ	3	にぶい褐色	5%未満	
P119-1	土師器杯	(14.0)	3.6	(11.7)	AJ	3	にぶい褐色	30%	
P138-1	須恵器提瓶	-	-	-	BF	1	灰白色	10%	東海西部
P138-2	土師器甕	(16.0)	-	-	BJL	3	灰褐色	5%未満	
P296-1	土師器杯	(12.6)	3.6	11.5	BDE	3	褐色	40%	
P298-1	土師器杯	12.2	4.0	11.1	ABD	3	褐色	100%	
P298-2	土師器盤状杯	(15.1)	(2.7)	(13.8)	BD	2	灰白色	5%未満	放射暗文
P298-3	土師器長脚壺	(23.2)	-	-	BE	3	明赤褐色	10%	
P298-4	土師器甕	(22.0)	-	-	BEJ	3	にぶい褐色	5%未満	
P298-5	須恵器甕	-	-	-	BFL	-	5%	不明	自然釉
P354-1	土師器長脚壺	(18.0)	-	-	BE	3	にぶい褐色	5%未満	
P354-2	土師器甕	24.0	-	-	BEJ	3	褐色	5%	

#### (4) 不明遺構 (渡場)

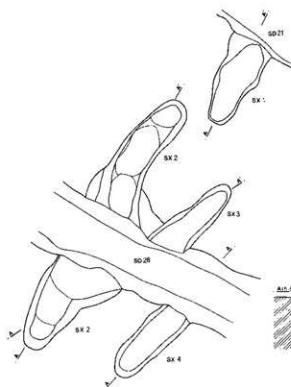
##### 1号渡場 (第27図)

L-15グリッドに位置していた。20号溝に北東側に接していた。また、2・3・4号渡場と隣接していた。平面形は長楕円形で、21号溝に対して直角に取り付いていた。また、溝に接する部分では、末広りの形態であった。主軸はN-40°-Eであった。規模は長軸で1.45m、短軸で0.65mであった。底面はやや凹凸があり、21号溝に向かって緩やかに傾斜していた。遺物は出土しなかった。

##### 2号渡場 (第27図)

L-15グリッドに位置していた。28号溝の両岸に渡って構築していた。また、1・3・4号渡場と隣接していた。平面形は長楕円形で、28号溝に対してほぼ直角に取り付いていた。また、溝に接する部分では、末広りの形態であった。主軸はN-30°-Eであった。規模は溝を跨ぐ長軸で4.6m、短軸で0.65mであった。底面はやや凹凸があり、28号溝に向かって緩やかに傾斜していた。遺物は出土しなかった。

第27図 不明遺構 (渡場)

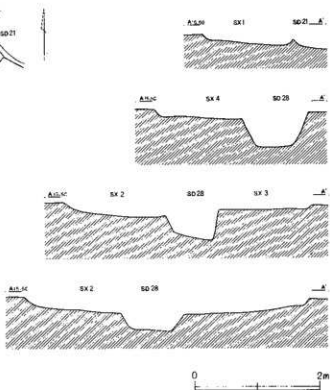


##### 3号渡場 (第27図)

L-15グリッドに位置していた。28号溝に南西側に接していた。また、1・2・4号渡場と隣接していた。平面形は長楕円形で、28号溝に対して斜めに2号渡場方向に取り付いていた。また、溝に接する部分では、末広りの形態であった。主軸はN-45°-Eであった。規模は長軸で1.45m、短軸で0.55mであった。底面はやや凹凸があり、28号溝に向かって緩やかに傾斜していた。遺物は出土しなかった。

##### 4号渡場 (第27図)

L-15グリッドに位置していた。28号溝に北東側に接していた。また、1・2・3号渡場と隣接していた。平面形は長楕円形で、28号溝に対してほぼ直角に取り付いていた。また、溝に接する部分では、やや末広りの形態であった。主軸はN-42°-Eであった。規模は長軸で1.4m、短軸で0.55mであった。底面はやや凹凸があり、28号溝に向かって緩やかに傾斜していた。遺物は出土しなかった。



## (5) 井戸跡

### 1号井戸跡 (第28図)

D-9グリッドに位置していた。4号溝及び1号火葬跡に隣接していた。平面形は円形で、規模は長径1.25m、短径1.19m、深さ1.05mであった。掘り込みはロート状で、底面は平坦であった。覆土は粘質土が主体を占め、下層には砂粒が堆積していた。遺物の出土は、なかった。

### 2号井戸跡 (第28図)

G-11・12グリッドに位置していた。8号土壇及び3号井戸跡に隣接していた。平面形は円形で、規模は径1.60m、深さ1.05mであった。掘り込みはロート状で、底面は平坦であった。覆土上層には黄褐色シルトブロックが含まれ、下層には砂粒が堆積していた。遺物の出土は、なかった。

### 3号井戸跡 (第28・269図)

D-11グリッドに位置していた。2号井戸跡に隣接していた。平面形は円形で、規模は長径2.30m、短径2.20m、深さ2.5mであった。掘り込みはロート状で、底面は平坦であった。覆土は黄褐色シルト質土が主体を占め、下層には砂粒が堆積していた。10層中位より湧水していた。

遺物は曲物蓋板(第269図2)が出土した。

### 4号井戸跡 (第28図)

H-12グリッドに位置していた。8号溝及び12号溝構築以前の遺構であった。平面形は円形で、規模は径1.4m、深さ1.37mであった。掘り込みは上面が段状に開口し、下層は垂直であった。底面は平坦であった。覆土は粘質土が主体を占め、下層には砂粒が堆積していた。遺物の出土は、なかった。

### 5号井戸跡 (第28図)

J-13グリッドに位置していた。18号溝を切って構築していた。平面形は楕円形で、規模は長径1.2m、短径0.9m、深さ0.8mであった。掘り込みは二段で、底面は平坦であった。覆土は粘質土が主体を占めていた。遺物の出土は、なかった。

### 6号井戸跡 (第28・32図)

J-13グリッドに位置していた。16・17・18号溝を切って構築していた。平面形は不整形円形で、規模は長径1.85m、短径1.3m、深さ1.45mであった。掘り込みは二段で、底面は丸底であった。覆土は粘質土が主体を占め、下層には砂粒が堆積していた。

遺物は覆土上層に流入して、土師器杯(第32図6-1・2)、須恵器碗(第32図6-3)が出土した。

### 7号井戸跡 (第28・269図)

N-17グリッドに位置していた。30号溝を切って構築していた。平面形は円形で、規模は径1.12m、深さ1.6mであった。掘り込みはロート状で、底面は丸底であった。覆土は粘質土が主体を占め、下層には砂粒及び植物繊維が堆積していた。

遺物は覆土下層より漆器(高台付皿)(第269図1)が出土した。

### 8号井戸跡 (第28・32図)

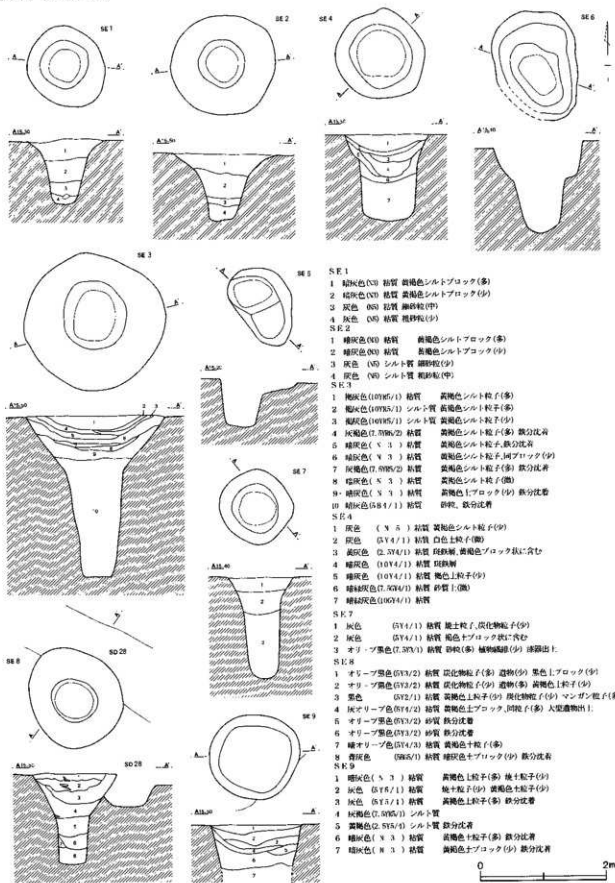
L-14グリッドに位置していた。28号溝を切って構築していた。また1号住居跡に隣接していた。平面形は円形で、規模は長径1.6m、短径1.45m、深さ1.45mであった。掘り込みはロート状で、底面は平坦であった。覆土上層には多量の炭化物が堆積し、4層以上で完形に近い遺物がまとも出土した。

遺物は土師器杯、須恵器杯、甕が出土した。

### 9号井戸跡 (第28図)

L-17グリッドに位置していた。26号溝及び32号溝を切って構築していた。平面形は円形で、規模は長径1.45m、短径1.35mで、湧水により完掘できなかった。覆土は粘質土が主体を占めていた。遺物の出土は、なかった。

第28図 井土跡 (1)



#### 10号井戸跡 (第29図)

H-13グリッドに位置していた。11号井戸跡に隣接していた。平面形は円形で、規模は径1.06m、深さ2.15mであった。掘り込みはほぼ垂直で、底面は丸底であった。覆土上層には黄褐色土ブロック粘質土を含み、下層には小砂礫が堆積していた。遺物の出土は、なかった。

#### 11号井戸跡 (第29図)

D-13グリッドに位置していた。10号井戸跡に隣接していた。平面形は円形で、規模は長径1.03m、短径0.86m、深さ2.0mであった。掘り込みは垂直で、底面は平坦であった。覆土は粘質土が主体を占め、下層には植物繊維が堆積していた。遺物の出土は、なかった。

#### 12号井戸跡 (第29図)

H-12グリッドに位置していた。3号土壇に隣接していた。平面形は円形で、規模は長径0.86m、短径0.79m、深さ1.21mであった。掘り込みはほぼ垂直で、底面は平坦であった。覆土上層には埴土及び炭化物を含み、下層には粘質土が堆積していた。遺物の出土は、なかった。

#### 13号井戸跡 (第29・32・33・267図)

L-14グリッドに位置していた。調査区で最も多くの遺物が出土した。8・18号井戸跡及び3・4号掘立柱建物跡に隣接していた。平面形は不整形円形で、東よりに柱穴があった。規模は長径2.0m、短径1.85m、深さ1.6mであった。掘り込みはロート状で、底面は平坦であった。覆土上層には多量の焼土と炭化物が帯状に堆積し、遺物がまとまって出土した。

遺物は土師器杯・盤状杯、須恵器杯、甕及び、砥石(第267図5)が出土した。

#### 14号井戸跡 (第29・269図)

K-16グリッドに位置していた。26号溝を切って構築していた。平面形は円形で、規模は径1.2m、深さ1.5mであった。掘り込みはほぼ垂直で、底面は平坦であった。覆土は粘質土が主体を占めていた。

遺物は曲物蓋板(第269図4)及び用途不明木製品

(第270図13)が底面付近から出土した。

#### 15号井戸跡 (第29図)

K-16グリッドに位置していた。16号井戸跡に隣接していた。平面形は楕円形で、規模は長径1.04m、短径0.82m、深さ1.08mであった。掘り込みはほぼ垂直で、底面は平坦であった。覆土は灰白色シルト質土が主体を占めていた。遺物の出土は、なかった。

#### 16号井戸跡 (第29図)

K-16グリッドに位置していた。14・15号井戸跡に隣接していた。平面形は円形で、規模は長径0.96m、短径0.90m、深さ1.20mであった。掘り込みはほぼ垂直で、底面は丸底であった。覆土は灰白色シルト質土が主体を占めていた。遺物の出土は、なかった。

#### 17号井戸跡 (第29・33図)

L-16グリッドに位置していた。33号溝を切って構築していた。平面形は不整形円形で、規模は径1.25m、深さ1.45mであった。掘り込みはロート状で、底面は平坦であった。覆土上層には灰白色シルト質土が堆積していた。

遺物は常滑産の甕(第33図17-1)が出土した。

#### 18号井戸跡 (第30図)

M-15グリッドに位置していた。80号土壇を切って構築していた。平面形は円形で、規模は長径0.95m、短径0.9m、深さ1.0mであった。掘り込みはロート状で、底面は平坦であった。覆土は炭化物を含む粘質土が主体を占めていた。遺物の出土は、なかった。

#### 19号井戸跡 (第30図)

O-16グリッドに位置していた。83・84・85号土壇に隣接していた。平面形は不整形円形で、規模は径1.25m、深さ1.1mであった。掘り込みはほぼ垂直で、底面は凹凸があった。覆土は黄褐色シルト質土が主体を占めていた。遺物の出土は、なかった。



#### 20号井戸跡 (第30図)

O-17グリッドに位置していた。5号掘立柱建物跡廃絶後に構築していた。平面形は円形で、規模は長径1.30m、短径1.24m、深さ1.0mであった。掘り込みはロート状で、底面は平坦であった。覆土は黄褐色シルト質土が主体を占めていた。遺物の出土は、なかった。

#### 21号井戸跡 (第30・267・271図)

P-18グリッドに位置していた。31号井戸跡に隣接していた。平面形は楕円形で、規模は長径2.4m、短径2.1mであった。掘り込みはロート状で、湧水のため完掘できなかった。覆土上層には焼土及び炭化物が堆積し、下層には黄褐色粘質土が堆積していた。

遺物は平瓦及び、砥石(第267図6)、青磁碗(第271図6)が出土した。

#### 22号井戸跡 (第30図)

Q-20グリッドに位置していた。21号溝を切って構築していた。平面形は円形で、規模は長径1.27m、短径1.23mであった。掘り込みは垂直で、湧水のため完掘できなかった。覆土上層には焼土、炭化物が堆積し、下層には砂粒が堆積していた。遺物の出土は、なかった。

#### 23号井戸跡 (第30・268図)

P-19グリッドに位置していた。21号溝を切って構築していた。平面形は円形で、規模は長径1.9m、短径1.83mであった。掘り込みはロート状で、湧水のため完掘できなかった。覆土は黄褐色粘質土が主体を占め、下層には砂粒が堆積していた。

遺物は、滑石製紡錘車(第268図23)及び、加工された灰岩が出土した。

#### 24号井戸跡 (第30・271・272図)

Q-17グリッドに位置していた。遺構の一部が調査区外にあった。平面形は円形で、規模は長径1.12mであった。掘り込みは垂直で、湧水のため完掘できなかった。覆土上層には焼土及び炭化物が堆積していた。

遺物は青磁碗(第271図7)及び古銭(第272図16)が出土した。古銭の刻印は篆書体による「元符通寶」で、初年は1089年である。

#### 25号井戸跡 (第30・271図)

Q-17グリッドに位置していた。24号井戸跡に隣接していた。平面形は不整形円形で、規模は径1.3mであった。掘り込みは垂直で、湧水のため完掘できなかった。覆土は黄灰白色粘質土が主体を占めていた。

遺物は青磁碗(第271図4)が出土した。

#### 26号井戸跡 (第31図)

O-18グリッドに位置していた。21号溝を切って構築していた。平面形は円形で、規模は長径1.6m、短径1.5mであった。掘り込みはロート状で、湧水のため完掘できなかった。覆土上層には焼土及び炭化物が堆積していた。

遺物は覆土上層より中世製の破砕片が出土した。

#### 27号井戸跡 (第31図)

P-18グリッドに位置していた。28・30号井戸跡に隣接していた。平面形は円形で、規模は長径1.24m、短径1.1mであった。掘り込みはほぼ垂直で、湧水のため完掘できなかった。覆土は灰白色粘質土が主体を占めていた。遺物の出土は、なかった。

#### 28号井戸跡 (第31・33・271図)

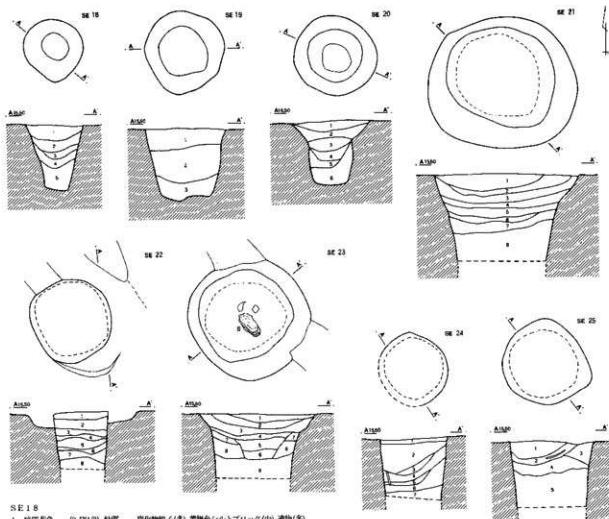
P-18グリッドに位置していた。27・29号井戸跡に隣接していた。平面形は不整形円形で、規模は長径1.42m、短径1.18mであった。掘り込みはほぼ垂直で、湧水のため完掘できなかった。覆土は粘質土が主体を占めていた。

遺物は中世の鉢(第33図28-1)及び甕(第33図28-1)、白磁碗(第271図9)が出土した。

#### 29号井戸跡 (第31図)

P-18グリッドに位置していた。28号井戸跡に隣接していた。平面形は円形で、規模は長径1.0m、深さ1.0mであった。掘り込みは垂直で、底面は平坦であった。覆土には炭化物が堆積していた。遺物の出土は、なかった。

第30図 井土跡 (3)



SE 1 8

- 1 緑灰色 (2, 53/2) 粘質 炭化物粒子(多) 黄褐色シルトブロック(少) 遺物(多)
- 2 黒褐色 (2, 53/1) 粘質 炭化物粒子(少) 黄褐色土粒子(少) 遺物(少)
- 3 黒色 (2, 53/2) 粘質 粘性強 黄褐色土粒子(多)
- 4 オリーブ褐色(2, 53/4) シルト質 黄褐色シルト(多) 炭化物粒子, 遺物(少)
- 5 オリーブ黒色(53/3) シルト質 炭化物粒子(少)

SE 1 9

- 1 オリーブ黒色(103/1) 粘質 黄褐色シルト粒子, 同ブロック(少)
- 2 オリーブ黒色(53/1) 粘質 黄褐色シルトブロック(少) マンガン粒子(多)
- 3 黒褐色 (2, 53/1) 粘質 マンガン粒子(少)

SE 2 0

- 1 オリーブ黒色(103/1) 粘質 黄褐色シルト粒子(少)
- 2 オリーブ黒色(53/1) シルト質 黄褐色シルトブロック(多)
- 3 黒褐色 (53/2) 粘質 炭化物粒子(多)
- 4 黒褐色 (2, 53/1) 粘質 黄褐色シルト粒子, マンガン粒子(多)
- 5 オリーブ黒色(53/2) 粘質 マンガン粒子(多)
- 6 オリーブ黒色(103/2) 粘質 マンガン粒子(多)

SE 2 1

- 1 黒褐色 (103/2) 粘質 焼土粒子, 炭化物粒子(多)
- 2 黒褐色 (103/2) 粘質 焼土粒子, 炭化物粒子(多) 黄褐色土粒子(少)
- 3 黒褐色 (103/3) 粘質 焼土粒子, 炭化物粒子(多) 黄褐色土ブロック(多) 遺物(少)
- 4 黒褐色 (103/3) 粘質 焼土粒子, 炭化物粒子(少) 黄褐色土ブロック(少) 鉄分比若
- 5 緑灰色 (103/4) 粘質 黄褐色土粒子(多)
- 6 緑灰色 (103/4) 粘質 黄褐色土粒子(多)
- 7 黒褐色 (103/3) 粘質 黄褐色土粒子(多) 同ブロック(多) 炭化物粒子(少)
- 8 緑灰色(7, 53/1) 粘質 黄褐色土粒子(少)

SE 2 2

- 1 黒褐色 (103/2) 粘質 焼土粒子, 炭化物粒子(少)
- 2 黒褐色 (103/2) 粘質 焼土粒子(少) 黄褐色土ブロック(少)
- 3 黒褐色 (103/3) 粘質 焼土粒子(少) 炭化物粒子(多) 鉄分(多)
- 4 黒褐色 (103/3) 粘質 黄褐色土ブロック(少) 炭化物粒子(多)
- 5 黒褐色 (103/1) 粘質 黄褐色土ブロック(多)

SE 2 3

- 6 黒褐色 (103/3) 粘質 焼土粒子(多)
- 7 緑褐色 (103/3) 粘質 鉄分(多)
- 8 緑オリーブ灰色(2, 53/3) 粘質 砂粒(少) 炭化物粒子(多)

SE 2 3

- 1 黒褐色 (103/2) 粘質 黄褐色土粒子(少)
- 2 黒褐色 (103/2) 粘質 黄褐色土ブロック(少) 焼土粒子(少) 炭化物粒子(多)
- 3 黒褐色 (103/2) 粘質 黄褐色土ブロック(少) 焼土粒子, 炭化物粒子(多) 鉄分比若
- 4 黒褐色 (103/1) 粘質 黄褐色土ブロック(多) 粘性強
- 5 黒褐色 (103/1) 粘質 黄褐色土ブロック(多) 粘性強 鉄分(少)
- 6 黒褐色 (103/1) 粘質 黄褐色土ブロック(多) 粘性強 鉄分(多)
- 7 黒褐色 (103/1) 粘質 黄褐色土粒子, 焼土粒子(少) 粘性強
- 8 黒褐色 (103/2) 粘質 黄褐色土粒子(少) 粘性強 鉄分(多)
- 9 緑褐色(7, 53/1) 粘質 炭化物粒子(少) 砂粒(少)

SE 2 4

- 1 黒褐色 (103/2) 粘質 白色土粒子(少) (灰土)
- 2 黒褐色 (103/2) 粘質 焼土粒子(多) 黄褐色土ブロック(少) 炭化物粒子(多)
- 3 黒褐色 (103/2) 粘質 焼土粒子, 黄褐色土粒子(少)
- 4 黒褐色 (103/2) 粘質 黄褐色土粒子(多) 黄褐色土ブロック(少)
- 5 黒褐色 (103/2) 粘質 黄褐色土粒子(多) 黄褐色土ブロック(少) 粘性強
- 6 緑褐色 (103/3) 粘質 炭化物粒子(多) 鉄分(多)
- 7 黒褐色 (103/3) 粘質 黄褐色土粒子(少) 粘性強

SE 2 5

- 1 緑褐色(103/3) 粘質 黄褐色土粒子(少) 焼土粒子, 黄褐色土粒子(少)
- 2 黒褐色 (103/2) 粘質 灰層
- 3 緑褐色 (103/3) 粘質 黄褐色土粒子(多) 黄褐色土粒子(多)
- 4 緑褐色 (103/3) 粘質 黄褐色土粒子(多) 黄褐色土粒子, 炭化物粒子(少) 粘性強
- 5 黄褐色 (103/2) 粘質 黄褐色土粒子(少) 粘性強





### 30号井戸跡 (第31図)

P-18グリッドに位置していた。27号井戸跡に隣接していた。平面形は円形で、規模は長径1.26m、短径1.14mであった。掘り込みはロート状で、湧水のため完掘できなかった。覆土は粘質土が主体を占めていた。遺物の出土は、なかった。

### 31号井戸跡 (第31図)

P-18グリッドに位置していた。21号井戸跡に隣接していた。平面形は円形で、規模は長径1.08m、短径1.0m、深さ0.8mであった。掘り込みはほぼ垂直で、底面は平坦であった。覆土は黄褐色粘質土が主体を占めていた。遺物の出土は、なかった。

### 32号井戸跡 (第31図)

O-18グリッドに位置していた。26号井戸跡に隣接していた。平面形は円形で、規模は径1.21mであった。掘り込みはロート状で、湧水のため完掘できなかった。覆土は黄褐色質土が主体を占めていた。遺物の出土は、なかった。

### 33号井戸跡 (第31図)

Q-18グリッドに位置していた。21号井戸跡に隣接していた。平面形は不整形で、規模は長径1.18m、短径1.06mであった。掘り込みはほぼ垂直で、湧水のため完掘できなかった。覆土上層には焼土及び炭化物が堆積していた。遺物の出土は、なかった。

### 34号井戸跡 (第31・271図)

O-18グリッドに位置していた。30・39号溝に隣接していた。平面形は円形で、規模は径1.3mであった。掘り込みはほぼ垂直で、湧水のため完掘できなかった。覆土は粘質土が主体を占めていた。

遺物は青磁碗 (第271図5) が出土した。

### 35号井戸跡 (第31図)

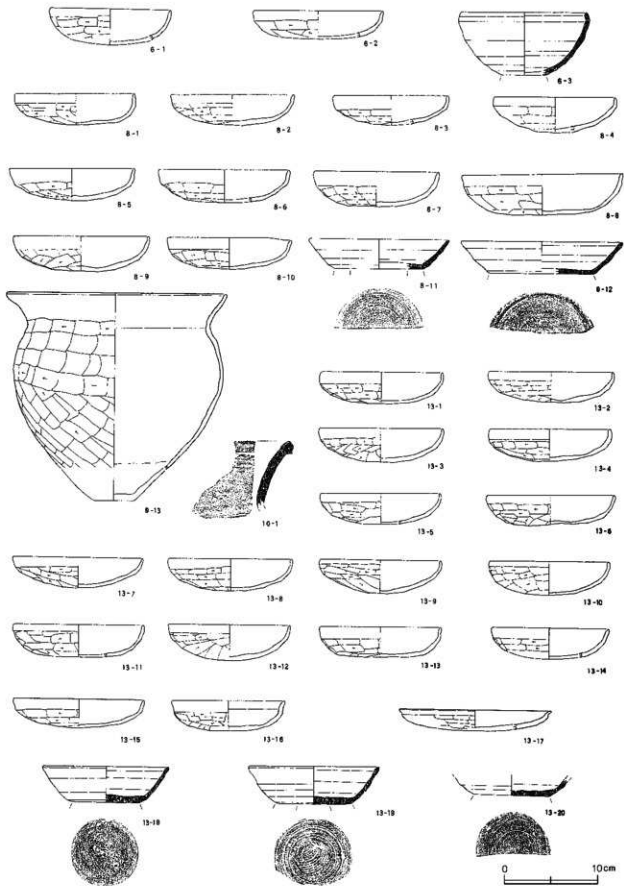
Q-20グリッドに位置していた。調査区南東部にあった。平面形は円形で、規模は径1.04mであった。掘り込みは垂直で、湧水のため完掘できなかった。覆土は粘質土が主体を占めていた。遺物の出土は、なかった。

### 36号井戸跡 (第31図)

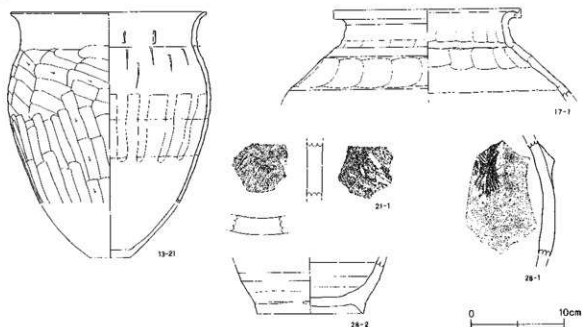
Q-20グリッドに位置していた。21号溝を切って構築していた。平面形は不整形で、規模は長径0.9m、短径0.86mであった。掘り込みは垂直で、湧水のため完掘できなかった。覆土は粘質土が主体を占めていた。遺物の出土は、なかった。



第32図 井土跡出土遺物 (1)



第33図 井土跡出土遺物(2)



A区井戸跡出土遺物観察表(1)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
6-1	土師器杯	(13.0)	(3.8)	(11.7)	BJ	3	橙色	10%	
6-2	土師器杯	(14.0)	(3.0)	(11.9)	BE	3	にぶい黄橙色	5%	口唇部油塗痕
6-3	須恵器碗	(14.1)	6.6	(4.8)	AL	-	灰色		南比企 (SD18と同一個体破片)
6-1	土師器杯	(13.0)	(3.8)	(11.7)	BJ	3	橙色	10%	
6-2	土師器杯	(14.0)	(3.0)	(11.9)	BE	3	にぶい黄橙色	5%	口唇部油塗痕
6-3	須恵器碗	(14.1)	6.6	(4.8)	AL	-	灰色		南比企 (SD18と同一個体破片)
8-1	土師器杯	12.8	3.3	10.8	ADJ	4	橙色	90%	覆土
8-2	土師器杯	13.2	3.3	10.4	BEJ	3	橙色	60%	覆土上層
8-3	土師器杯	(12.4)	(3.2)	(10.0)	FJ	3	にぶい橙色	30%	覆土上層
8-4	土師器杯	(13.2)	(3.8)	(11.4)	BJ	3	橙色	20%	覆土
8-5	土師器杯	13.4	3.4	10.0	BEJ	3	橙色	90%	
8-6	土師器杯	(14.0)	(3.5)	(11.3)	BJ	3	橙色	20%	
8-7	土師器杯	(13.4)	3.7	10.8	BIJ	3	橙色	50%	覆土上層
8-8	土師器杯	(17.4)	4.3	12.2	BEJ	3	にぶい橙色	70%	覆土上層
8-9	土師器杯	14.7	3.8	10.1	AD	3	にぶい橙色	80%	覆土上層
8-10	土師器杯	13.3	3.3	10.5	BDJ	3	橙色	80%	覆土上層
8-11	須恵器杯	(15.0)	3.1	(9.4)	AIL	2	灰色	10%	南比企 回転ヘラ切
8-12	須恵器杯	(17.2)	3.4	(11.2)	BFL	2	灰白色	30%	南比企 回転ヘラ切
8-13	土師器甕	23.8	(22.0)	-	BEF	3	橙色	70%	
10-1	須恵器甕	-	-	-	BIJ	2	灰色	5%未満	末野
13-1	土師器杯	13.3	3.4	10.9	BFF	3	にぶい赤褐色	80%	
13-2	土師器杯	3.6	3.3	11.6	BJL	4	橙色	70%	
13-3	土師器杯	13.4	3.5	11.4	BDJ	3	にぶい橙色	80%	
13-4	土師器杯	13.2	3.4	12.1	BDJ	3	橙色	70%	
13-5	土師器杯	(13.0)	(3.3)	(10.6)	BDJ	3	橙色	20%	
13-6	土師器杯	13.9	3.3	11.7	BDJ	3	橙色	80%	
13-7	土師器杯	(14.0)	3.2	(12.4)	BIJ	3	にぶい橙色	30%	
13-8	土師器杯	(13.4)	3.4	11.3	BDJ	3	橙色	30%	
13-9	土師器杯	(13.1)	3.6	11.9	BJL	3	にぶい橙色	50%	
13-10	土師器杯	13.1	3.6	11.2	BDJ	3	橙色	80%	
13-11	土師器杯	(14.1)	(3.5)	(11.2)	FJ	3	橙色	20%	
13-12	土師器杯	(13.0)	3.8	(12.0)	DJ	3	にぶい橙色	30%	
13-13	土師器杯	13.2	3.2	9.6	J	3	にぶい橙色	90%	口唇部油塗痕跡 覆土

A区井戸跡出土遺物観察表(2)

番号	器種	口径	器高	底径	胎上	焼成	色調	残存	備考
13-14	土師器杯	12.6	(3.3)	9.9	FJ	3	にぶい褐色	30%	
13-15	土師器杯	(14.1)	3.1	11.4	BEF	4	にぶい褐色	40%	
13-16	土師器杯	(12.2)	3.2	11.6	BJ	3	にぶい褐色	30%	
13-17	土師器盤状杯	(16.2)	(2.2)	(14.3)	BDJ	3	にぶい褐色	5%未満	
13-18	須恵器杯	(13.5)	3.8	7.3	AIL	2	灰色	60%	南比企 漆原跡 大津痕 回転ヘラ切
13-19	須恵器杯	(14.0)	4.0	8.0	AFIL	2	灰白色	50%	南比企 糸切周辺ヘラ
13-20	須恵器杯	-	-	8.0	BFJ	2	灰色	20%	南比企 回転ヘラ切
13-21	土師器甕	21.0	(26.3)	-	BCE	2	にぶい褐色	30%	
17-1	甕	-	-	-	AFJ	2	灰色	5%未満	常滑
21-1	平瓦	-	-	-	BD	3	灰白色	-	
28-1	四耳壺	-	-	-	BF	1	灰色	5%未満	施釉 (中世)
28-2	鉢	(11.4)	-	-	BF	2	灰白色	10%	(中世)

## (6) 溝

## 1号溝(第34・48図)

B・7～C・9グリッドに位置していた。両端は、調査区外に続いていた。1次調査で遺跡北東限界を区画していた溝に繋がる溝であった。微高地状の地形に沿って構築されたと考えられる。主軸はN-60°-Eで直線であった。規模は幅2.2m、深さ0.2mで、底面は平坦であった。覆土は粘質土が堆積していた。出土した遺物は、なかった。

## 2号溝(第34・35・48図)

D・8～D・9グリッドに位置していた。両端は、調査区外に続いていた。調査区内で北東方向から東へ屈曲していた。規模は幅0.5m、深さ0.1mで、断面逆U字形であった。覆土は粘質土が堆積していた。出土した遺物は、なかった。

## 3号溝(第35図)

D・9グリッドに位置していた。西端は、調査区外に続き、東側は立ち上がっていた。主軸はN-60°-Wで直線であった。規模は幅0.3m、深さ0.2mで、断面逆U字形であった。覆土は粘質土が堆積していた。出土した遺物は、なかった。

## 4号溝(第35・36・48図)

D・9～E・11グリッドに位置していた。両端は、調査区外に続いていた。5号溝に切られていた。主軸はN-68°-Eで直線であった。規模は幅0.7m、深さ0.3mで、断面逆台形であった。覆土上層に火山灰(F A)の帯状堆積が検出された。

## 5号溝(第35・36・48・52・272図)

F・10～E・11グリッドに位置していた。両端は、調査区外に続いていた。4号溝を切って構築していた。主軸はN-25°-Eで直線であった。規模は幅1.6m、深さ0.24mで、部分的に二段の掘り込みであった。覆土は粘質土が堆積していた。

遺物は土師器杯・甕及び、用途不明鉄製品(第272図15)が出土した。

## 6号溝(第36図)

F・10グリッドに位置していた。底面近くで検出したため一部のみ残存していた。主軸はN-85°-Wで直線であった。規模は幅0.45m、深さ0.2mで、断面U字形であった。覆土は粘質土が堆積していた。出土した遺物は、なかった。

## 7号溝(第36・37・48図)

F・11グリッドに位置していた。底面近くで検出したため一部のみ残存していた。主軸はN-82°-Wで直線であった。規模は幅0.5m、深さ0.2mで、断面U字形であった。覆土は粘質土が堆積していた。出土した遺物は、なかった。

## 8・9・10・11号溝(第37・48図)

H・10～G・13グリッドに位置していた。第2号住居跡を切っていた。4条共に同一覆土、同一形態であった。8号溝及び11号溝間の断面上部に硬化面が検出された。主軸はN-35°-Eで直線であった。主軸は旧地割とほぼ一致していた。各溝の規模は幅0.35～0.6m、深さ0.2mで、断面U字形であった。覆土は粘質土が堆積していた。出土した遺物は、なかった。

#### 12号溝 (第36・48図)

F・10グリッドに位置していた。5号溝に接しL字状に屈曲して立ち上がっていた。主軸はN-60°-Wであった。規模は幅0.9m、深さ0.15mで、断面箱形であった。覆土は粘質土が堆積していた。出土した遺物は、なかった。

#### 13号溝 (第38・39図)

J・12~15グリッドに位置していた。両端は調査区外に続いていた。14号溝を切っていた。また15号溝に切られていた。主軸はN-0°で僅かに蛇行していた。規模は幅0.6m、深さ0.25mで、断面逆台形であった。覆土は粘質土が堆積していた。出土した遺物は、なかった。

#### 14号溝 (第38・39・48・49・52図)

J・12~I・15グリッドに位置していた。両端は調査区外に続いていた。17・18・23号溝を切っていた。また13号溝に切られていた。調査区内で南東方向から北東方向に湾曲していた。規模は幅1.7m、深さ0.2mで二段の掘り込みであった。覆土は炭化物を含む粘質土が堆積していた。

遺物は土師器杯、須恵器杯・蓋・短頸壺・長頸壺が出土した。

#### 15号溝 (第39・40・48・49図)

J・14~15グリッドに位置していた。東端は調査区外に続いていた。13号溝を切っていた。また16号溝に切られていた。主軸はN-68°-Eで、僅かに蛇行していた。規模は幅0.55m、深さ0.2mで、断面逆台形であった。覆土は粘質土が堆積していた。出土した遺物は、なかった。

#### 16号溝 (第38・39・40・49図)

J・13~16グリッドに位置していた。両端は調査区外に続いていた。15・17・18・19号溝を切っていた。また6号井戸跡、12号土壌に切られていた。主軸はN-80°-Eで直線であった。規模は幅0.7m、深さ0.30mで、断面逆台形であった。覆土は粘質土が堆積していた。出土した遺物は、なかった。

#### 17号溝 (第39・40・42・49・52・266・267図)

J・14~M・16グリッドに位置していた。両端は16号溝及び32号溝に切られていた。また、25号溝に切れ18号溝と部分的に共有していた。主軸はN-40°-Wで、大きく蛇行していた。規模は幅0.6m、深さ0.3mで、断面逆台形であった。覆土は粘質土が堆積していた。

遺物は土師器杯、須恵器杯・蓋・長頸壺及び、土鍾(第266図9)、砥石(第267図8)が出土した。

#### 18号溝 (第38・39・40・42・49・52・53・267・268図)

J・12~L・16グリッドに位置していた。西端は調査区外に東側に26号溝に切られていた。また14・25号溝に切れ、17号溝と部分的に共有していた。主軸はN-55°-Wでほぼ直線であった。規模は幅1.0m、深さ0.3mで、断面逆台形であった。覆土は粘質土が堆積していた。

遺物は土師器杯、須恵器杯・高台杯・高台盤・蓋・鉢・長頸壺・甕、鉢、台付甕及び、流入して磨製石斧(第267図1)、剣形(第268図29)が出土した。

#### 19号溝 (第39・41・49・53図)

J・15~K・14グリッドに位置していた。両端は16号溝及び27号溝に切られていた。21号溝と並走していた。主軸はN-60°-Wで直線であった。規模は幅0.75m、深さ0.25mで、断面箱形であった。覆土は粘質土が堆積していた。

遺物は土師器杯、須恵器杯・蓋・壺・長頸壺、台付甕が出土した。

#### 20号溝 (第39・41・42・49図)

K・15~L・15グリッドに位置していた。西端は25号溝に切れ、東側は21号溝に合流していた。主軸はN-52°-Wで、直線であった。規模は幅0.7m、深さ0.3mで、断面U字形であった。覆土は粘質土が堆積していた。出土した遺物は、なかった。

#### 21号溝 (第39・41・42・49・53・54図)

K・13～Q・20グリッドに位置していた。両端は調査区外に続いていた。24・25・32・35号溝に切られていた。19・20・30号溝と部分的に共有していた。主軸はN-52°-Wで、地形に沿って構築していた。規模は幅2.3m、深さ0.3mで、断面箱形であった。覆土下層には灰白色粘土が堆積していた。

遺物は土師器環・盤状環、須恵器環・円面硯・甕、甕が覆土上層より出土した。

#### 22号溝 (第39・41・42・49・54図)

K・15グリッドに位置していた。両端は18号溝及び25号溝に切られていた。20・27号溝と並走していた。主軸はN-60°-Wで、僅かに蛇行していた。規模は幅0.55m、深さ0.15mで、断面箱形であった。覆土は粘質土が堆積していた。

遺物は土師器環が出土した。

#### 23号溝 (第39・49図)

I・14～J・14グリッドに位置していた。北端は調査区外に続き南端は13号溝を跨いだところで立ち上がっていた。14・15号溝に切られていた。主軸はN-15°-Wで、大きく屈曲していた。規模は幅0.75m、深さ0.3mで、断面逆台形であった。覆土は粘質土が堆積していた。遺物の出土は、なかった。

#### 24号溝 (第40・41・50図)

L・14～M・16グリッドに位置していた。両端は調査区外に続いていた。21・27・28号溝を切っていた。25号溝と並走していた。調査区中央17号溝南脇で立ち上がっていた。主軸はN-42°-Eで直線であった。規模は幅0.7m、深さ0.4mで、断面逆台形であった。覆土上層には炭化物が堆積していた。遺物の出土は、なかった。

#### 25号溝 (第40・41・50・54図)

L・14～M・16グリッドに位置していた。両端は調査区外に続いていた。17・18・21・27・28号溝及び1号住居跡を切っていた。24号溝と並走していた。主軸はN-42°-Eで直線であった。規模は幅0.8m、深さ0.3mで、断面逆台形であった。覆土上層には炭化物

が堆積していた。

遺物は須恵器環、土師器高環が出土した。

#### 26号溝 (第42・43・50・54図)

K・16～M・18グリッドに位置していた。両端は調査区外に続いていた。17号溝を切っていた。32号溝に切られていた。主軸はN-51°-Wで、17号溝接点で直角に屈曲していた。規模は幅1.5m、深さ0.3mで、断面箱形の二段掘り込みであった。覆土は灰白色粘土が堆積していた。

遺物は須恵器環・蓋・高環・壺が出土した。

#### 27号溝 (第41・42図)

K・14・15グリッドに位置していた。北側は19号溝に合流し南側は17号溝に切られていた。また、24・25号溝に切られていた。22号溝と並走していた。主軸はN-60°-Wで、僅かに蛇行していた。規模は幅0.6m、深さ0.25mで、断面U字形であった。覆土は粘質土が堆積していた。出土遺物は、なかった。

#### 28号溝 (第41・42・43・45・46・50・54図)

L・14～N・18グリッドに位置していた。両端は調査区外に続いていた。21・24・25・31・32・35号溝に切られていた。34号溝と並走していた。主軸はN-60°-Wで直線であった。規模は幅0.95m、深さ0.6mで、断面逆台形であった。断面観察の結果、溝を造り替えていることが判明した。

遺物は須恵器環・甕、土師器甕が出土した。

#### 29号溝 (第45図)

N・18グリッドに位置していた。北側は調査区外に南側は28号溝を跨いだところで立ち上がっていた。28号溝を切っていた。主軸はN-20°-Wで、僅かに蛇行していた。規模は幅0.55m、深さ0.2mで、断面箱形であった。覆土は粘質土が堆積していた。出土した遺物は、なかった。

### 30号溝 (第43・45・46・47・50・54図)

M・17～P・19グリッドに位置していた。北端は31号溝に、南端は40号溝に切られていた。主軸はN-40°-Wで直線であった。規模は幅0.85m、深さ0.2mで、断面逆台形であった。覆土は粘質土が堆積していた。

遺物は中世の甕(第54図30-1・2)が出土した。

### 31号溝 (第43・50・54図)

M・17グリッドに位置していた。北端は32号溝に接し南端は30号溝を切って立ち上がっていた。主軸はN-25°-Wで、僅かに蛇行していた。規模は幅0.8m、深さ0.2mで、断面箱形であった。覆土は粘質土が堆積していた。

遺物は須恵器環(第54図31-1)が出土した。

### 32号溝 (第42・43・44・51・54図)

N・15～L・17グリッドに位置していた。両端は調査区外に続いていた。21・26・28号溝を切っていた。また、21号溝両脇で掘り込みが浅くなっていた。主軸はN-50°-Eで直線であった。規模は幅1.4m、深さ0.6mで、断面逆台形であった。断面観察の結果、溝を造り替えていることが判明した。

遺物は土師器甕、須恵器甕が出土した。

### 33号溝 (第42・51図)

K・15～L・16グリッドに位置していた。北側は18号溝に合流し、南側は17号溝に切られていた。17号井戸跡に切られていた。主軸はN-30°-Wで直線であった。規模は幅0.5m、深さ0.15mで、断面箱形であった。覆土は粘質土が堆積していた。出土した遺物は、なかった。

### 34号溝 (第42・43・51図)

L・15～M・18グリッドに位置していた。北側は17号溝に切れ、南側は調査区外に続いていた。32・33号溝に切られていた。また、28号溝と並走していた。主軸はN-65°-Wで直線であった。規模は幅0.3m、深さ0.15mで、断面U字形であった。覆土は粘質土が堆積していた。出土した遺物は、なかった。

### 35号溝 (第43・45・50図)

M・17～N・17グリッドに位置していた。両端は32

号溝手前及び21号溝を跨いだところで立ち上がっていた。交差する全ての溝を切っていた。主軸はN-30°-Wで直線であった。規模は幅0.9m、深さ0.45mで、断面逆台形であった。覆土は粘質土が堆積していた。出土した遺物は、なかった。

### 36号溝 (第44・51図)

N・15グリッドに位置していた。北側は32号溝に接し、調査区内で立ち上がっていた。主軸はN-30°-Wで直線であった。規模は幅1.2m、深さ0.2mで、断面箱形であった。覆土は粘質土が堆積していた。出土した遺物は、なかった。

### 37号溝 (第46図)

N・18グリッドに位置していた。28号溝に接し、すぐに立ち上がっていた。主軸はN-13°-Wで直線であった。規模は幅0.6m、深さ0.2mで、断面箱形であった。覆土は粘質土が堆積していた。出土した遺物は、なかった。

### 38号溝 (第46図)

N・18グリッドに位置していた。28号溝に接し、すぐに立ち上がっていた。主軸はN-30°-Wで直線であった。規模は幅0.6m、深さ0.2mで、断面箱形であった。覆土は粘質土が堆積していた。出土した遺物は、なかった。

### 39号溝 (第46図)

O・19グリッドに位置していた。40号溝に接し、すぐに立ち上がっていた。主軸はN-02°-Wで直線であった。規模は幅0.6m、深さ0.2mで、断面箱形であった。覆土は粘質土が堆積していた。出土した遺物は、なかった。

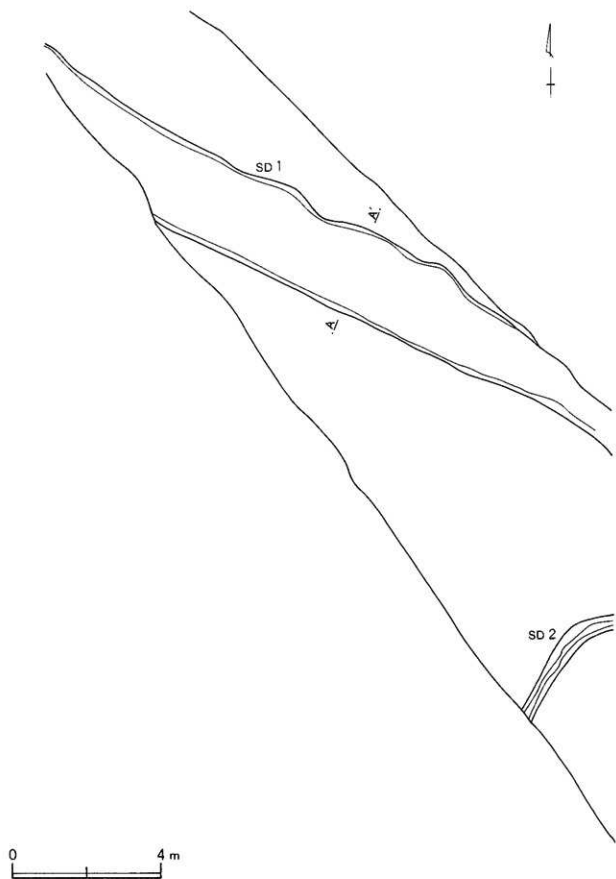
### 40号溝 (第46・47・51・55・271図)

N・19～Q・20グリッドに位置していた。両端は調査区外に続いていた。21・41号溝を切っていた。主軸はN-30°-Wで直線であった。規模は幅1.1m、深さ0.22mで二段掘り込みであった。覆土は白色粘質土が堆積していた。

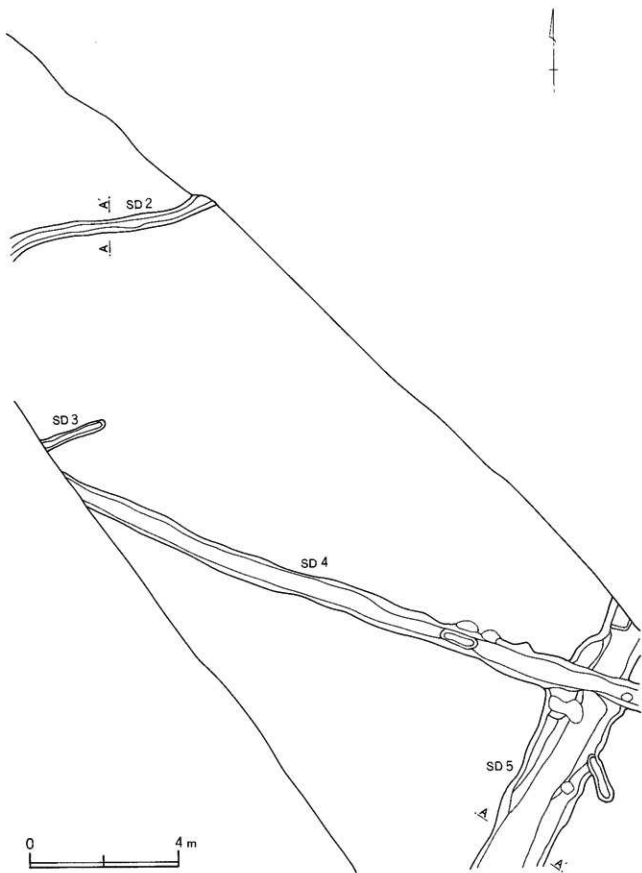
遺物は土師器環、須恵器水瓶、及び中世の播鉢、青磁碗(第271図1)が出土した。



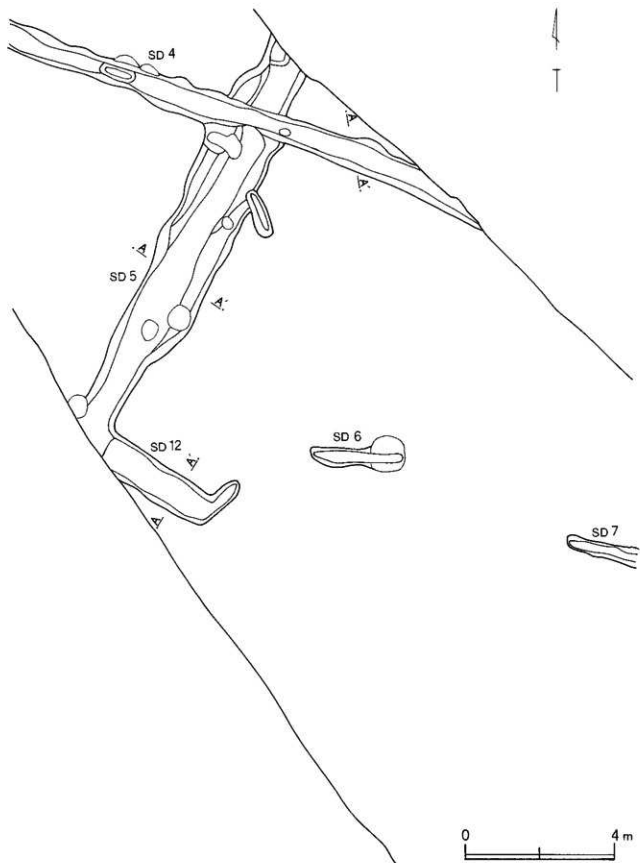
第34回 溝 (1)



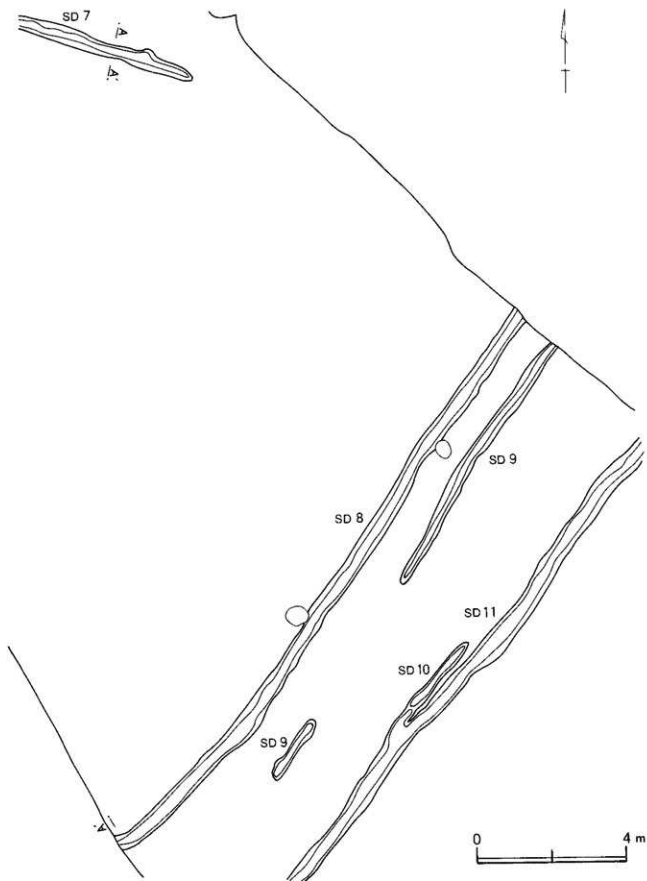
第35圖 溝 (2)



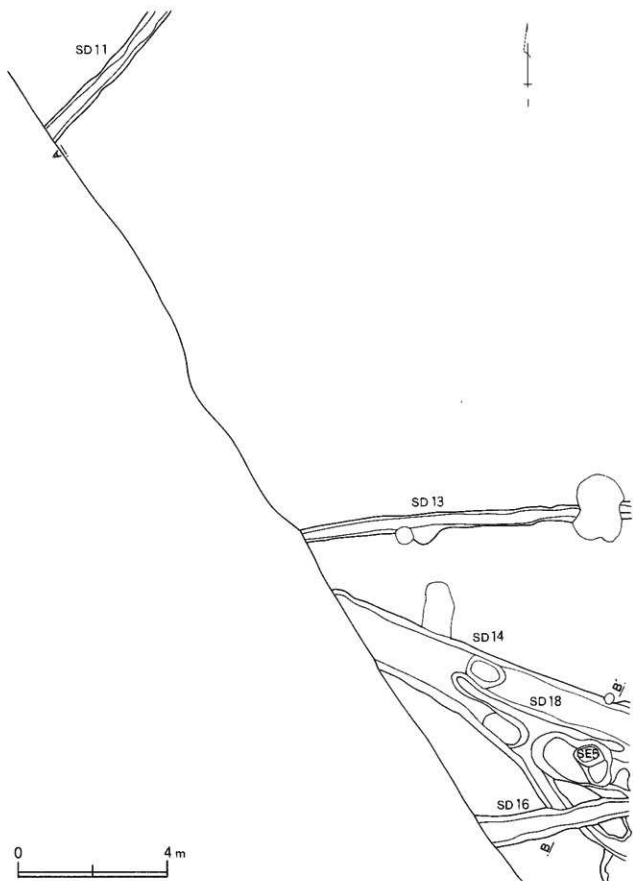
第36回 溝 (3)



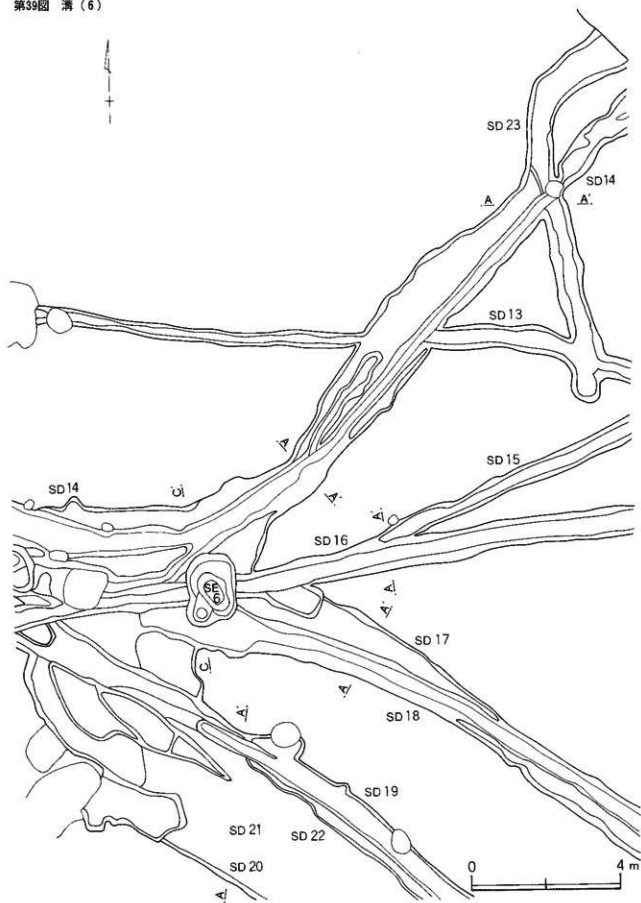
第37図 溝 (4)



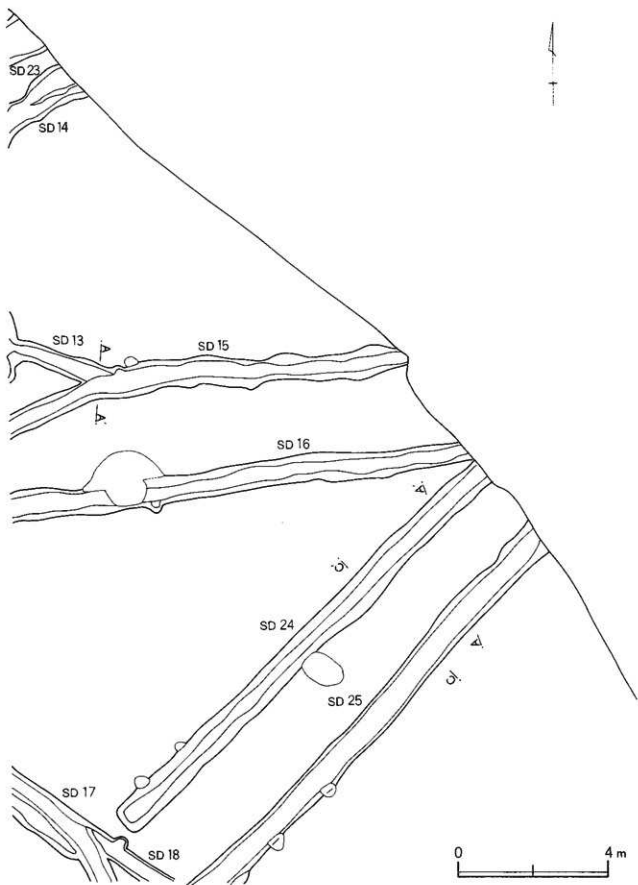
第38回 溝 (5)



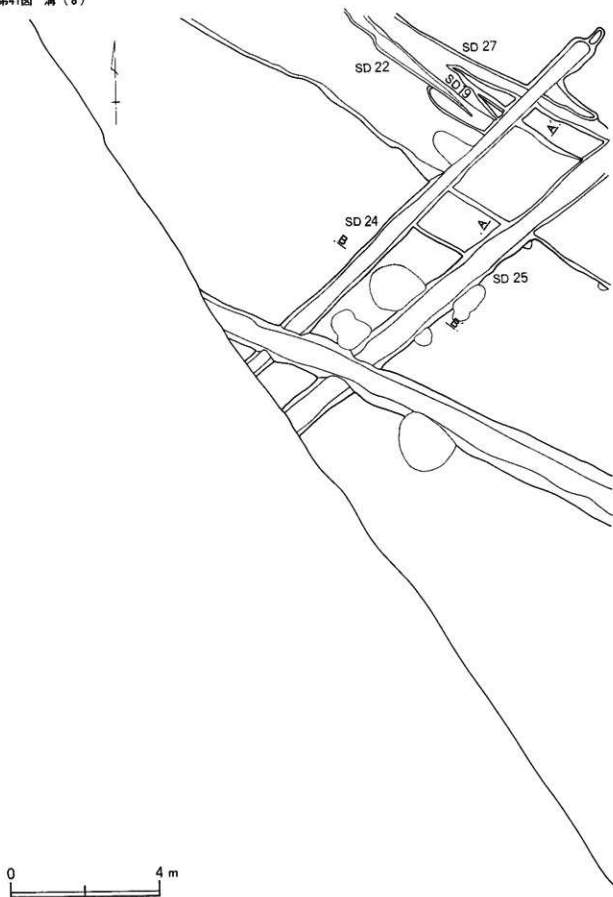
第39圖 溝 (6)



第40圖 溝 (7)

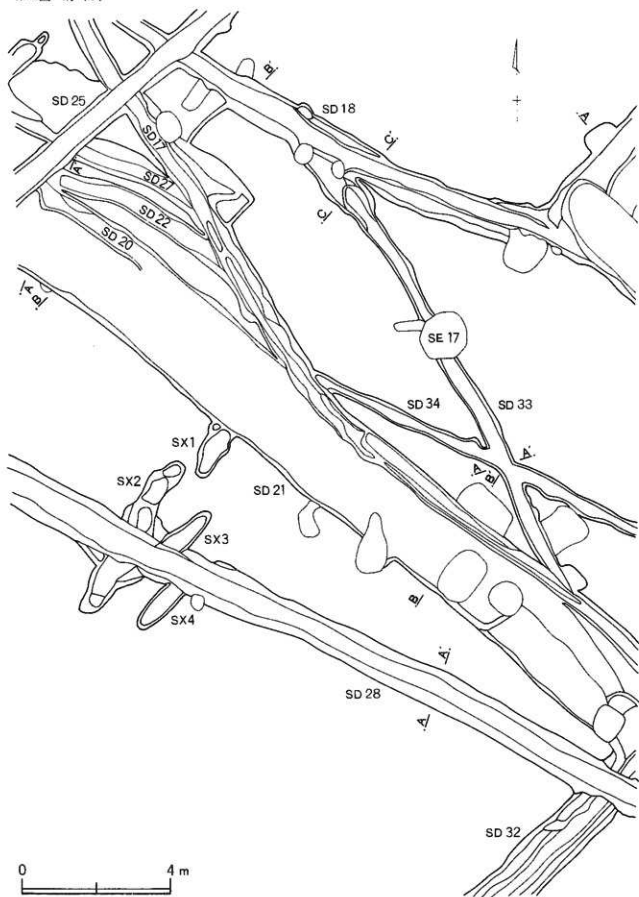


第41図 溝 (8)

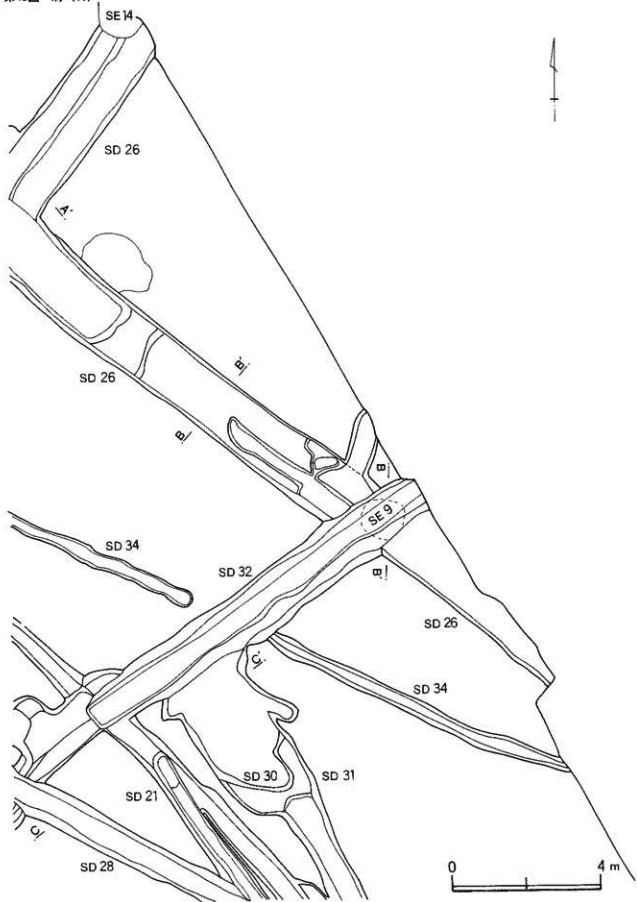




第42圖 溝 (9)



第43圖 溝 (10)



#### 41号溝 (第46・47・51図)

N・19～P・20グリッドに位置していた。両端は調査区外に続いていた。40号溝に切られていた。主軸はN-30°-Wで僅かに湾曲していた。規模は幅0.6m、深さ0.15mで断面箱形であった。覆土は粘質土が堆積していた。出土した遺物は、なかった。

#### 42号溝 (第47・51・55図)

P・19～Q・20グリッドに位置していた。21号溝に並走し切られていた。主軸はN-45°-Wで直線であった。規模は幅0.6m、深さ0.15mで断面箱形であった。覆土は白色粘質土が堆積していた。

遺物は43号溝との接点で土師器杯、須恵器蓋が出土した。

#### 43号溝 (第47・51・55図)

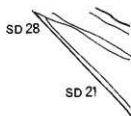
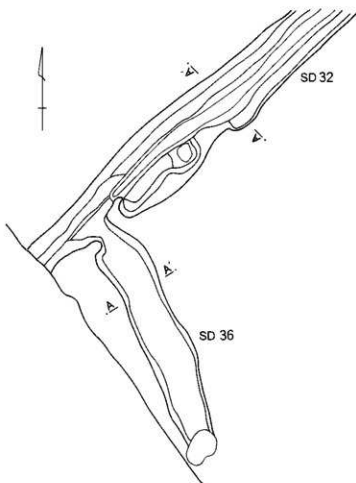
R・19～Q・20グリッドに位置していた。西側は調査区内で立ち上がり東側は調査区外に続いていた。主軸はN-50°-Eで直線であった。規模は幅0.7m、深さ0.2mで断面箱形であった。覆土は粘質土が堆積していた。

遺物は土師器杯、須恵器蓋、土師器甕が出土した。

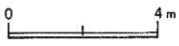
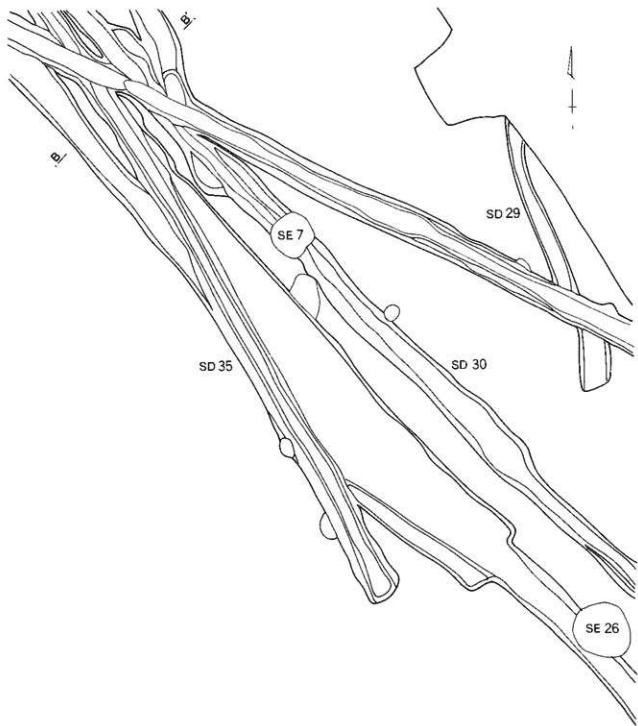
#### 44号溝 (第47図)

20グリッドに位置していた。両端は調査区外に続いていた。主軸はN-30°-Wで直線であった。規模は幅0.5m、深さ0.2mで断面箱形であった。覆土は粘質土が堆積していた。出土した遺物は、なかった。

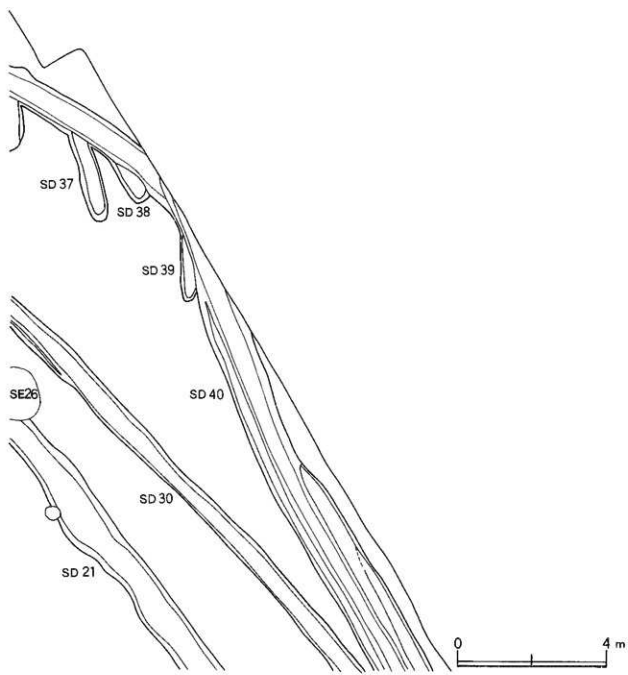
第44図 溝 (11)



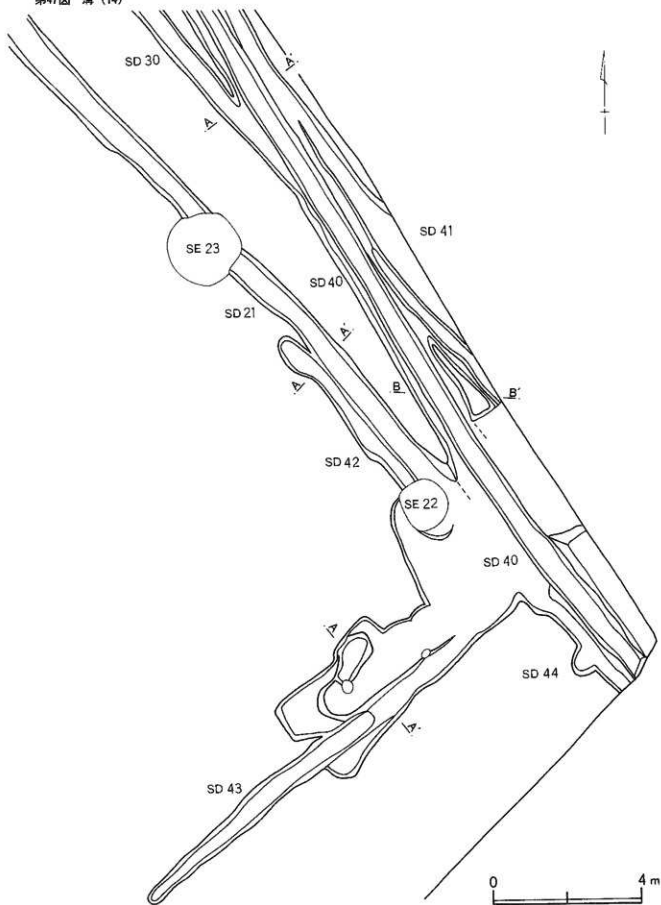
第45圖 溝 (12)



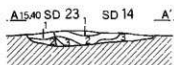
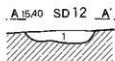
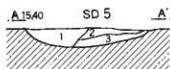
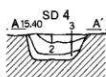
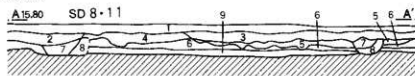
第46圖 溝 (13)



第47図 溝 (14)



第48回 溝 (15)



SD 4

- 1 黄灰色 (2.5Y4/1) シルト質 黄褐色土粒子(少) 鉄分沈着 底面に火山灰(FA?)
  - 2 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘質 黄褐色土粒子(少)
  - 3 黒色 (2.5Y2/1) 粘質 珽鉄層
- SD 5

- 1 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘質 黄褐色土粒子(少)
  - 2 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘質 鉄分沈着
  - 3 暗灰黄色 (2.5Y4/2) シルト質 黄褐色土粒子(多)
- SD 7

- 1 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘質

SD 8-11

- 1 灰オリーブ色 (10Y5/2) 耕作土 (浅間A含む)
- 2 灰色 (7.5Y4/1) 粘質 珽鉄層 (しまり(良))
- 3 灰色 (7.5Y5/1) 粘質 埋埋土 (浅間A含む)
- 4 灰オリーブ色 (7.5Y3/1) 粘質 明灰色土ブロック(多) (硬化面)
- 5 灰色 (5Y3/1) 粘質 珽鉄層 (硬化面)
- 6 灰色 (5Y5/1) 粘質 珽鉄層 灰白粘土 (硬化面)
- 7 灰色 (7.5Y5/1) 粘質 珽鉄層
- 8 灰色 (7.5Y4/1) 粘質
- 9 暗オリーブ色 (5Y4/3) 粘質

SD 1 2

- 1 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘質 黄褐色土ブロックと灰色粘土の瓦層 (一粘埋土)

SD 1 4

- 1 黒灰色 (5Y3/1) 粘質 黄褐色シルト粒子(微)
- 2 暗灰色 (N 3) 粘質 鉄分(多) 炭化物(少)
- 3 暗灰色 (N 3) シルト質 黄褐色シルト粒子(少)

- 4 灰オリーブ色 (5Y4/2) 粘質 灰色粘土に黄褐色土をブロック状に含む

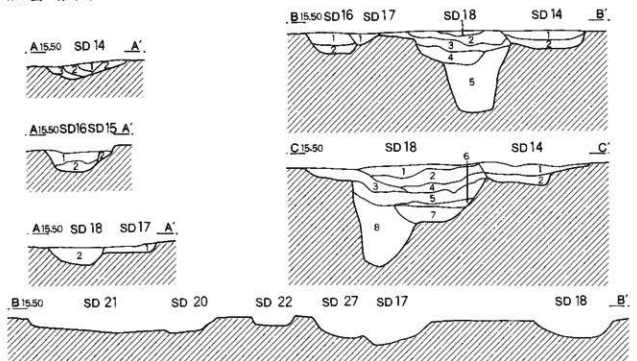
SD 1 5

- 1 暗灰色 (N) 粘質 黄褐色シルト粒子(少)
- 2 暗灰色 (N3) 粘質 黄褐色シルトブロック、細粒子(少)

SD 2 3

- 1 灰色 (5Y4/1) 粘質 暗灰色粘土 珽鉄層
- 2 灰色 (5Y4/1) 粘質 暗灰色粘土に黄褐色土をブロック状に含む

第49図 溝 (16)



SD 16

1 オリーブ色(0.5/4) 粘質 黄褐色シルト粒子(多)

2 オリーブ色(0.5/4) 粘質 黄褐色シルト粒子(多)

SD 17

1 暗灰色(3) 粘質 黄褐色土ブロック(多)

SD 18

1 黒灰色(N 3) 粘質 黄褐色シルト粒子(多)

2 暗灰色(10.0R/1) 粘質 炭化物粒子, 黄褐色シルト粒子(少)

3 暗灰色(10.0R/1) 粘質 マンガン粒子(少) 灰色粘土ブロック(多)

4 暗灰色(7.5Y4/1) 粘質 炭化物粒子, 黄褐色シルト粒子(少)

5 灰色(5Y4/1) 粘質 黄褐色土粒子(多)

6 灰色(5Y4/1) 粘質 黄褐色土ブロック(少) 炭化物片状堆積

7 暗灰色(7.5Y4/1) 粘質 黄褐色土ブロック(少) 炭化物粒子(少)

8 灰色(5Y4/1) 粘質 黄褐色土ブロック(少)

SD 19

1 暗灰色(7.5Y4/1) 粘質 黄褐色土粒子, 同ブロック(多) 鉄分(多)

2 暗灰色(7.5Y4/1) 粘質 黄褐色土粒子, 同ブロック(多)

SD 19・20・21

1 灰色(10Y4/1) 粘質 黄褐色土粒子(少) マンガン粒子(少)

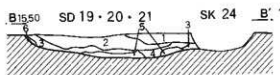
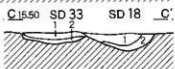
2 暗灰色(N 5) 粘質 黄褐色シルトブロック帯状堆積

3 オリーブ黒色(7.5Y3/1) 粘質 マンガン粒子, 黄褐色シルトブロック(少)

4 暗灰色(5Y4/1) 粘質 マンガン粒子(多) 黄褐色シルトブロック(多)

5 黄褐色(2.5Y5/4) 粘質 灰白色シルトブロック(少)

6 灰色(10Y4/1) 粘質 黄褐色シルトブロック(多)



SD 20

1 灰オリーブ色(0.5/4) 粘質 黄褐色土粒子(多)

SD 21

1 にごり黄褐色(10.0R4/2) 粘質 黄褐色土粒子(多)

2 褐色(10.0R4/4) 粘質 黄褐色土粒子(多) 鉄分(多)

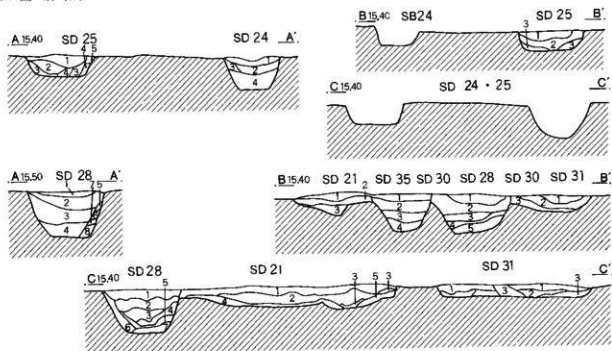
SD 22

1 暗灰色(7.5Y4/1) 粘質 黄褐色土ブロック(多)





第50図 溝 (17)



SD 24・25

- 1 灰オリーブ色(5Y4/1) 粘質 黄褐色土ブロック(少) 炭化物粒子(多)
- 2 灰色 (5Y3/1) シルト質 灰色粘土(少) 焼土粒子、炭化物粒子(微)
- 3 灰色 (5Y4/1) 粘質 暗灰色粘土(少) 鉄分沈着
- 4 オリーブ黒色(5Y3/2) 粘質 暗灰色粘土に黄褐色土ブロックを含む 砂粒(少)
- 5 明黄褐色 (2.5Y6/6) 粘質 黄褐色土に暗灰色粘土粒を少量含む (上部崩壊土)

SD 26

- 1 暗灰色(N 3) 粘質 黄褐色土粒子(多) 鉄分(多) 焼土粒子(少)
- 2 灰色 (5Y5/1) 粘質 鉄分(多) 焼土粒子(微)
- 3 灰色 (5Y5/1) シルト質 灰白色シルトブロック(多)
- 4 暗灰色(N 3) 粘質 鉄分(多) 黄褐色土粒子(多)
- 5 灰色 (5Y6/1) 粘質 黄褐色土ブロック(多)
- 6 灰色 (5Y6/1) 粘質 黄褐色土ブロック(少)
- 7 黄灰色(2.5Y6/1) シルト質

SD 28

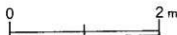
- 1 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3) 粘質 炭化物粒子(微) 黄褐色土粒子(少)
- 2 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘質 黄褐色土粒子(少) 暗灰色粘土(少)
- 3 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘質 暗灰色粘土に褐色土を含む
- 4 オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘質 暗灰色粘土に黄褐色土をブロック状を含む
- 5 黒褐色 (2.5Y3/2) 粘質 (旧溝覆土)
- 6 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘質 黄褐色土粒子(多) (旧溝覆土)
- 7 灰色 (5Y4/1) 粘質 灰色粘土
- 8 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘質 灰色粘土と黄褐色土の互層

SD 30

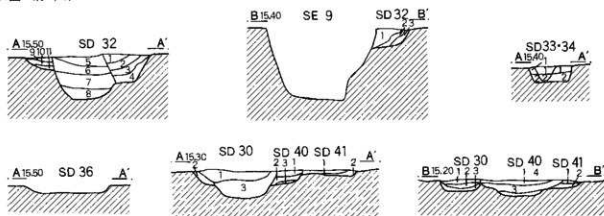
- 1 黒褐色 (10Y3/2) 粘質 黄褐色土粒子(少) 鉄分(少)
- 2 黒褐色 (10Y3/2) 粘質 黄褐色土粒子(多) 焼土粒子、炭化物粒子(少)
- 3 灰黄褐色(10Y4/2) 粘質 黄褐色土粒子(多)

SD 31・35

- 1 灰オリーブ色(5Y5/2) シルト質 灰褐色シルト粒子(多)
- 2 灰色 (5Y4/2) 粘質 黄褐色シルト粒子(多) 鉄分(多)
- 3 灰色 (5Y2/1) 粘質 鉄分(多)
- 4 灰色 (5Y4/1) 粘質 灰白色シルト粒子(多) 鉄分(多)
- 5 灰オリーブ色(5Y5/2) 粘質 灰白色シルト粒子(多) 灰色粘土(少)



第51図 溝 (18)



SD 3 2

- 1 灰オリーブ色 (5W/2) 砂質 鉄分(多)
- 2 オリーブ黒色 (5V3/2) 粘質 焼土粒子(多) 遺物(多) 鉄分(多)
- 3 オリーブ黒色 (5V3/1) 粘質 黄灰色粘土ブロック, 焼土粒子(少)
- 4 オリーブ黒色 (5V3/1) 粘質 黄灰色粘土ブロック(多)
- 5 灰色 (5W/1) 粘質 黄褐色粘土ブロック(中) 炭化物(少)
- 6 灰色 (5V5/1) 粘質 黄灰色シルトブロック(中) 遺物, 炭化物(少)
- 7 灰色 (5V5/1) 粘質 黄灰色シルトブロック(中) しまり(欠)
- 8 灰色 (5W/1) 粘質 黄褐色粘土ブロック(多)
- 9 灰色 (5V4/1) シルト質 黄褐色シルトブロック(多) 鉄分(少) 焼土粒子(少)
- 10 灰色 (5V4/1) シルト質 黄褐色シルトブロック(多)
- 11 灰オリーブ色 (5V5/2) 粘質 暗黄灰色粘土ブロック(稀) 灰色粘土(少) しまり(欠)

SD 3 3

- 1 灰オリーブ色 (5Y6/2) 粘質 鉄分(少) 黄褐色シルト粒子(少)
- 2 灰色 (7.5Y4/1) シルト質 黄褐色シルト(多) 鉄分(微)

SD 3 4

- 1 灰色 (5V5/1) 粘質 灰白色土粒子(少)
- 2 オリーブ色 (5Y7/4) 粘質 鉄分(多)

SD 4 0

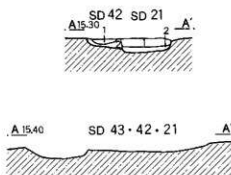
- 1 オリーブ灰色 (5G7/1) 粘質 白色土粒子(多) 焼土粒子(少)
- 2 オリーブ灰色 (5G7/1) シルト質 黄褐色土粒子(多) 砂粒(多) しまり(欠)
- 3 灰色 (N 5) 粘質 白色土粒子(少) 黄褐色土ブロック(少)
- 4 明オリーブ灰色 (5GY7/1) シルト質 黄褐色土粒子(多) 砂粒(多) しまり(欠)

SD 4 1

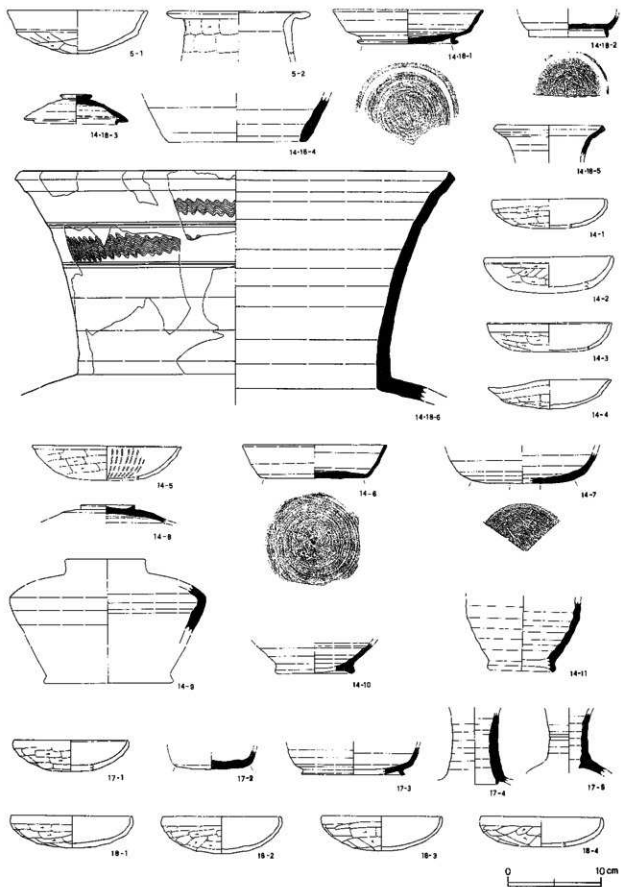
- 1 黒褐色 (10Y3/2) 粘質 黄褐色土粒子(多) 焼土粒子(少)
- 2 にぶい黄褐色 (10Y4/3) 粘質 黄褐色土ブロック(多) 鉄分(少)

SD 4 2

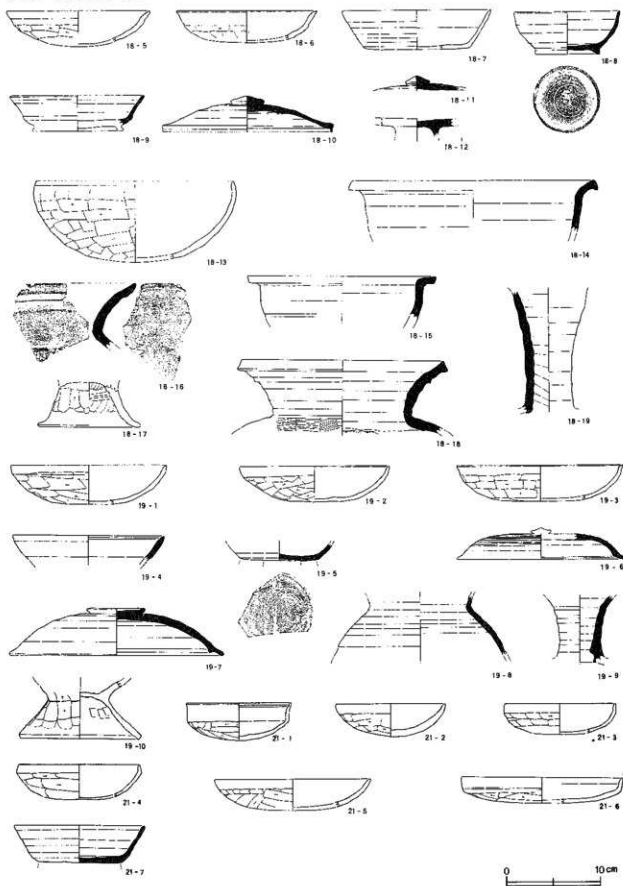
- 1 にぶい黄褐色 (10Y4/3) 粘質 黄褐色土粒子(少)
- 2 にぶい黄褐色 (10Y5/4) 粘質 黄褐色土粒子(多)



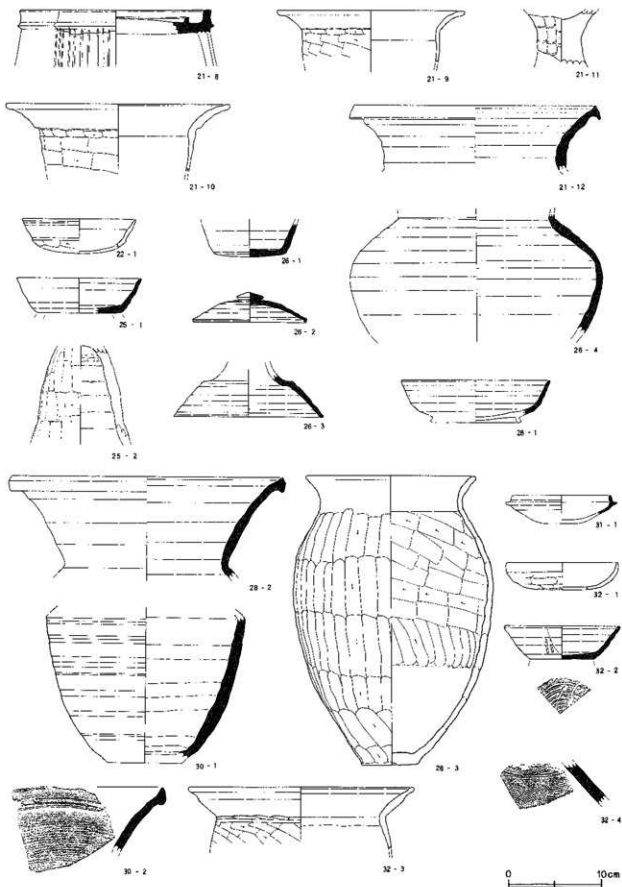
第52図 溝出土遺物 (1)



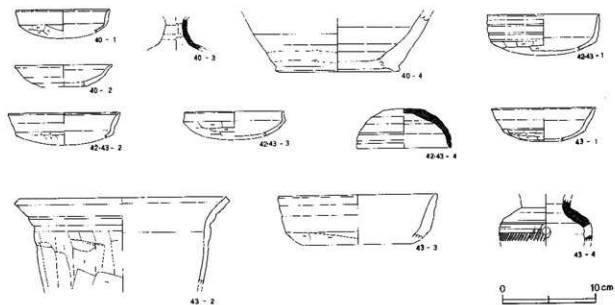
第53図 溝出土遺物(2)



第54図 溝出土遺物(3)



第55図 溝出土遺物(4)



A区溝出土遺物観察表(1)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
5-1	土師器杯	(15.0)	4.6	(13.0)	FF	3	灰白色	20%	
5-2	土師器甕	(15.4)	-	-	BEL	4	橙色	5%未満	
14.18-1	須恵器高台付杯	(16.0)	3.6	(10.8)	AB	1	灰白色	30%	南比企 巻上水挽成形
14.18-2	須恵器高台付杯	-	-	8.4	BF	2	灰色	5%未満	不明
14.18-3	須恵器杯蓋	(11.2)	4.1	2.8	BF	1	灰色	60%	湖西(かえり蓋) 巻上水挽成形
14.18-4	須恵器甕	-	-	(14.8)	AB	2	灰色	5%未満	南比企
14.18-5	須恵器長形壺	(11.2)	-	-	F	1	灰白色	5%未満	湖西
14.18-6	須恵器甕	47.2	-	-	BF	1	灰白色	10%	東海 胴部同一破片
14-1	土師器杯	(12.4)	(3.1)	(11.2)	BDJ	3	にぶい橙色	15%	
14-2	土師器杯	(14.0)	(3.8)	11.6	J	3	灰白色	5%未満	
14-3	土師器杯	(13.4)	(3.1)	(10.8)	J	3	にぶい橙色	5%	
14-4	土師器杯	(13.2)	3.1	10.3	BJ	4	にぶい橙色	50%	変形
14-5	土師器杯	(16.0)	(3.6)	(8.3)	BEJ	3	明赤褐色	5%	放射線文
14-6	須恵器杯	(15.5)	3.5	10.4	AFIL	2	灰白色	30%	南比企 巻上水挽成形 回転ヘラ切
14-7	須恵器杯	-	-	(9.8)	BI	2	灰色	10%	南比企 回転ヘラ切
14-8	須恵器蓋	-	-	(6.8)	AP	2	灰白色	30%	
14-9	須恵器短頸壺	胴径(21.0)	-	-	BL	2	灰色	5%未満	東海西部
14-10	須恵器壺	-	-	(8.4)	BF	1	灰白色	5%未満	湖西
14.11	須恵器壺	胴径(12.3)	-	(7.4)	BJ	1	灰白色	5%	湖西
17-1	土師器杯	(12.4)	(3.3)	(11.0)	J	3	橙色	20%	
17-2	須恵器杯	-	-	8.3	BEJ	3	表 灰色	20%	粗悪品? 内面橙色
17-3	須恵器高台付杯	-	-	(11.0)	B	1	灰色	10%	湖西

A区溝跡出土遺物観察表(2)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
17-4	須恵器長頸壺	-	-	-	BF	1	灰白色	5%未満	湖西
17-5	須恵器長頸壺	-	-	-	HJ	1	灰白色	5%未満	東海西部 自然釉
18-1	土師器坏	13.2	3.5	12.5	BDJ	3	褐色	60%	
18-2	土師器坏	(13.0)	4.0	12.0	BJ	3	にぶい褐色	70%	
18-3	土師器坏	13.0	3.7	10.3	BJ	3	褐色	90%	
18-4	土師器坏	(13.2)	(3.2)	(12.5)	BDJ	3	明赤褐色	15%	
18-5	土師器坏	(15.4)	(3.8)	(13.8)	BDJ	3	にぶい褐色	10%	
18-6	土師器坏	(15.0)	(3.4)	(13.3)	BF	2	黒褐色	5%未満	内外面黒色化
18-7	土師器坏	(16.0)	4.2	(11.0)	BEJ	3	褐色	20%	回転台使用
18-8	須恵器高台付坏	(11.3)	4.5	6.9	BFJ	2	灰白色	50%	南比企 巻上水挽成形 覆土
18-9	須恵器高台付坏	(14.4)	(3.8)	-	BF	2	灰色	10%	湖西
18-10	須恵器坏蓋	18.3	3.8	10.3	BJ	3	灰白色	60%	
18-11	須恵器坏蓋	-	-	-	B	2	灰白色	20%	
18-12	須恵器脚付盤	脚径4.5	-	-	BF	2	灰色	5%未満	南比企
18-13	土師器鉢	(21.7)	(8.6)	(15.0)	BDEL	3	褐色	20%	
18-14	須恵器鉢	(26.8)	-	-	AB	2	灰色	5%未満	南比企
18-15	須恵器鉢	20.2	-	-	BJK	2	灰色	5%未満	南比企
18-16	須恵器壺	(20.0)	-	-	BFJ	2	灰色	5%未満	末野
18-17	台坏(脚部)	-	-	11.2	BEL	3	赤褐色	5%	
18-18	須恵器壺	(21.4)	-	-	ABF	2	灰色	5%未満	不明
18-19	須恵器長頸壺	-	-	-	BF	1	灰白色	5%未満	湖西
19-1	土師器坏	(16.7)	(4.1)	(13.5)	BL	2	赤褐色	40%	
19-2	土師器盤状坏	16.1	3.8	14.0	BEF	3	赤褐色	70%	
19-3	土師器坏	(17.8)	(3.8)	(14.2)	BEJ	2	赤褐色	20%	
19-4	須恵器坏	(16.2)	-	-	BF	2	灰色	5%未満	南比企
19-5	須恵器坏	-	-	8.4	BFJ	2	灰白色	20%	南比企 糸切周辺ヘラ
19-6	須恵器蓋	(18.0)	(3.2)	-	BF	1	灰色	10%	湖西
19-7	須恵器坏蓋	(23.0)	(5.1)	(9.7)	BFJ	2	灰色	20%	末野
19-8	須恵器壺	-	-	-	BF	2	灰白色	5%未満	湖西
19-9	須恵器長頸壺	-	-	-	BFL	1	灰白色	5%未満	東海西部 内外面自然釉
19-10	台坏(脚部)	-	-	13.0	BEJ	3	にぶい褐色	5%未満	
21-1	土師器坏	11.2	4.0	10.9	AEFL	3	にぶい褐色	90%	内外面赤彩覆土
21-2	土師器坏	11.8	3.5	9.9	BEJ	3	赤褐色	30%	
21-3	土師器坏	(12.0)	3.3	(9.7)	BF	3	にぶい褐色	5%	
21-4	土師器坏	(13.4)	(3.6)	(10.4)	BF	3	褐色	10%	
21-5	土師器坏	(16.6)	(3.3)	(14.2)	EL	2	にぶい褐色	10%	
21-6	土師器盤状坏	(17.2)	(2.8)	(16.2)	BEJ	2	にぶい褐色	10%	
21-7	須恵器坏	14.0	4.0	8.8	BJ	2	灰色	70%	南比企
21-8	須恵器内面硯	(20.5)	-	-	ABL	1	灰色	5%未満	南比企
21-9	土師器長脚壺	20.0	-	-	BEJ	3	褐色	5%未満	
21-10	土師器長脚壺	(24.0)	-	-	BJ	3	褐色	5%未満	
21-11	土師器(脚部)	-	-	-	ABEF	3	赤褐色	5%未満	
21-12	須恵器坏	(26.8)	-	-	BF	1	灰白色	5%未満	湖西
22-1	土師器坏	(12.2)	(3.6)	10.1	FJ	3	褐色	10%	
25-1	須恵器坏	(13.4)	3.7	(9.0)	ABI	2	灰色	30%	南比企 回転糸切
25-2	土師器高坏(脚部)	-	-	-	AJ	3	褐色	20%	
26-1	須恵器坏	-	-	(7.4)	BI	2	灰色	30%	南比企
26-2	須恵器坏蓋	12.0	3.1	-	BI	2	灰色	60%	南比企
26-3	須恵器高台付帯	16.0	-	-	IJ	2	外 青灰白色	5%未満	不明 内面赤褐色
26-4	須恵器短頸壺	脚径(27.0)	-	-	BFL	1	灰白色	10%	湖西
28-1	須恵器高台付坏	(16.0)	(4.5)	(9.8)	BF	1	灰白色	5%未満	湖西
28-2	須恵器壺	29.6	-	-	BL	1	灰色	5%	不明
28-3	土師器長脚壺	18.1	30.6	6.0	ABCEL	3	にぶい褐色	70%	

A区溝出土遺物観察表 (3)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
30-1	須恵器甕	胴径(21.4)	-	(8.0)	AJ	1	灰色	5%	不明
30-2	須恵器甕	-	-	-	AL	1	灰赤色	5%未満	南比企
31-1	須恵器杯	(10.6)	(3.0)	(4.0)	BF	2	灰色	5%未満	湖西
32-1	土師器杯	(12.0)	(2.9)	(10.6)	BJ	4	明赤褐色	5%	
32-2	須恵器杯	(12.4)	3.5	(6.7)	BL	2	灰色	20%	南比企 表面ヘラ描 回転糸切
32-3	土師器杯	(24.2)	-	-	DGJ	3	にぶい橙色	5%未満	
32-4	須恵器甕	-	-	-	BG	2	灰色	5%未満	茨城新治窯跡群 雲母多量含
40-1	土師器杯	(10.0)	(3.0)	(9.4)	BDE	3	橙色	5%未満	内外面赤彩
40-2	鉄釉小皿	(10.3)	2.3	(6.2)	B	1	明赤褐色	20%	
40-3	須恵器高杯	-	-	-	BF	2	灰白色	5%	湖西
40-4	播鉢	(13.2)	-	-	BL	2	灰色	10%	(中世)
42.43-1	土師器杯	(12.1)	(4.3)	(11.4)	ABEF	4	橙色	10%	
42.43-2	土師器杯	(12.0)	(3.4)	(10.6)	DE	3	浅黄褐色	10%	内外面黒色処理
42.43-3	土師器杯	(10.6)	(3.0)	(11.0)	BD	3	橙色	10%	
42.43-4	須恵器杯蓋	(10.2)	-	-	B	2	灰色	30%	湖西
43-1	杯	(11.2)	(3.5)	(8.8)	BDE	3	浅黄褐色	25%	
43-2	甕	(23.0)	-	-	BF	3	浅黄褐色	5%未満	
43-3	土師器皿	17.0	-	-	BDE	3	にぶい橙色	5%	
43-4	須恵器甕	-	-	-	BF	2	灰白色	10%	東海西部 表面自然釉付着



## V D区の調査

### 1 遺跡の概観

調査区は、J R上越新幹線北側に位置し、千間編悪水路と農業用水路に挟まれた細長い三角形状の区画であった。北西側は、市道によってA区と区分された。調査対象面積は1,200㎡であった。

遺構確認面での標高は、15mであった。調査区全体での自然地形は、北西—南東に延びる細長い微高地地形が南側に方向を換える先端部にあたり、東側調査区外に向かって緩やかに傾斜していた。

確認面の基盤土壌は、暗黄褐色でB区に比べやや粘性の高いシルト質土壌であった。この上には、古代から中世にかけて堆積したと考えられる暗褐色の遺物を含む粘土質土壌が堆積していたが、部分的に現水田耕作によって削平を受けていた。

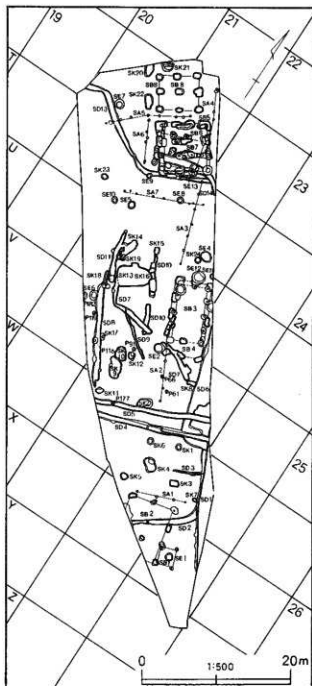
確認された遺構は、掘立柱建物跡8棟、土壇24基、井戸跡13基、溝13条、柵列跡7列、ピット多数であった。遺構の総体としての分布は、調査区長辺に並行して掘立柱建物跡がほぼ等間隔で立ち並び、これに沿って柵列跡が検出された。また、溝は地形に平行するものと直行するものが検出された。土壇、ピットなどは、掘立柱建物跡周辺部に多く分布していた。井戸跡は全て中世に属するものであった。

調査区北側に位置する5・6・7号掘立柱建物跡は3棟の重複で、このうち5・6号掘立柱建物跡は掘り込みのしっかりした布堀を持ち、同位置での重複であった。また重複する3・4号掘立柱建物跡の両側には柵列跡が軸を合わせて並んでいた。

平行する4号溝及び5号溝は、出土遺物から中世に属すると考えられるが、覆土の堆積状況から溝間に構築物が存在した可能性がある。

このほか、2号土壇は多量の焼土・炭化物・灰が帯状に堆積し、破砕された8世紀代の遺物から廃棄土坑であったと考えられる。また13号井戸跡からは界内でも数少ない中世の山茶碗が出土した。

第56図 D区全測図



## 2 遺構と遺物

### (1) 掘立柱建物跡

#### 1号掘立柱建物跡 (第57・61図)

X-24グリッドに位置していた。2号掘立柱建物跡を切って構築していた。主軸はN-11°-Wであった。規模は1×1間で桁行2.5m、梁行2.4mであった。各柱穴の平面形は不整形円で、規模は長径45~50cm、深さ25~47cmであった。柱痕は柱穴2・3から検出された。

遺物は、土師器片が柱穴1から出土した。

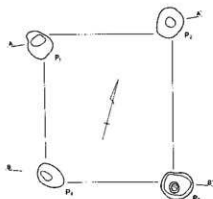
#### 2号掘立柱建物跡 (第58・61図)

X-23・24グリッドに位置していた。1号掘立柱建物跡及び、2号溝に切られていた。柱穴8本のみの検出で、一部は調査区外にあった。主軸はN-11°-Wであった。規模は3×2間の総柱で桁行8.16m、梁行7.00mであった。柱間寸法は桁行2.5m、梁行2.7mであった。各柱穴の平面形は楕円形で、規模は長径75~120cm、深さ20~50cmであった。柱痕は柱穴8以外の全てで本検出された。

遺物は、柱穴1より土師器片が出土した。

#### 3号掘立柱建物跡 (第59・61図)

U・V-22・23グリッドに位置していた。土層観察の結果から、4号掘立柱建物跡に先行して構築された第57図 1号掘立柱建物跡



511

- 1 棕色 (515/1) 粘質 灰化粉粒土 (少) (柱間)
- 2 オリーブ褐色 (516/3) 粘質 黄褐色土粒土 (多) 灰褐色土粒土 (少)
- 3 赤褐色 (517/1) 粘質 赤褐色土と黄褐色土の互層
- 4 黄灰色 (518/1) 粘質 灰化粉粒土 (少) 焼土粒土 (少)
- 5 黄灰色 (519/1) 粘質 灰化粉粒土と黄褐色土の互層 (壁方)

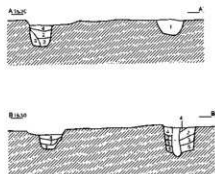
と考えられる。また、3号井戸跡に切られていた。主軸はN-23°-Wであった。規模は4×2間で桁行8.0m、梁行4.84mであった。柱間寸法は桁行、梁行ともに1.9mであった。各柱穴の平面形は方形で、規模は長径52~100cm、深さ30~50cmであった。全ての柱穴から柱痕が検出された。

遺物は柱穴6・10・11より土師器片が出土した。

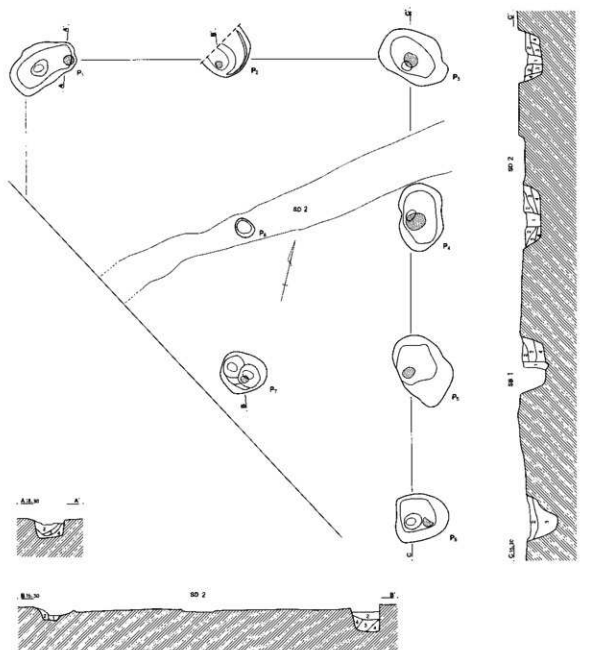
#### 4号掘立柱建物跡 (第60・61図)

U・V-22・23グリッドに位置していた。3号掘立柱建物跡築絶後に構築されたと考えられる。また、2・12号井戸跡及び7号溝に切られていた。主軸はN-23°-Wであった。規模は4×2間で桁行11.06m、梁行5.7mであった。柱間寸法は桁行2.3m、梁行2.1mであった。各柱穴の平面形は長方形で、柱穴1はL字形であった。また、柱穴10・11間には布堀が検出された。規模は長径50~123cm、深さ25~55cmであった。柱痕は8本検出された。また、覆土に版築状の堆積が認められた。

遺物は土師器片が柱穴12より出土した。



第58図 2号掘立柱建物跡

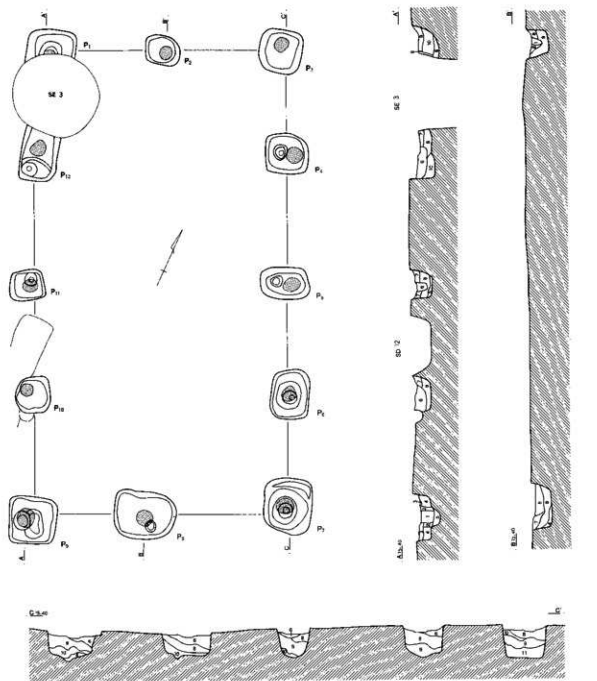


S 11 2

- 1 灰色 (109K/1) 粘質 褐色物粒子(少) 灰白色土粒子(少) (柱痕)
- 2 暗茶灰色(2.5)4/2) 粘質 褐色物粒子(少) 黄土粒子(少) 黄褐色土ブロック(少)
- 3 黒褐色 (2.5)3/3) 粘質 褐色土粒上 黒褐色土と灰白色土粒上の互層
- 4 黄褐色 (2.5)5/3) 粘質 灰白色上に黄褐色土がブロック状に堆積 (陥方)

0 2m

第59図 3号掘立柱建物跡

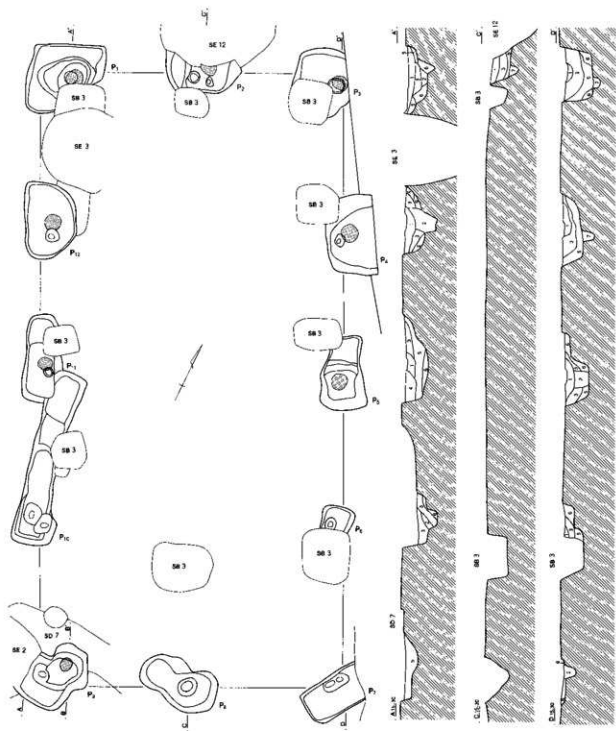


SB 3

- 1 オリーブ黒(V3/1) 粘質 灰白色土粒子(少) 炭化物(多)
- 2 黄灰色 (2.5N/1) 粘質 暗黄褐色土粒子(多)
- 3 暗灰黄色 (2.5Y/1) 粘質 暗黄褐色土ブロック(少)
- 4 黄褐色 (2.5YR/6) 粘質 暗黄褐色土粒子(多) 2層に隔断
- 5 灰色 (2.5Y/1) 粘質
- 6 暗灰黄色 (2.5Y/1) 粘質 暗黄褐色土粒子(多) 同ブロック(多) 焼土粒子(多)
- 7 暗灰黄色 (2.5Y/1) 粘質 暗黄褐色土ブロック(多) 焼土粒子(少)
- 8 黄褐色 (2.5Y/1) 粘質 暗黄褐色土ブロック(多)
- 9 黒褐色 (10YR/3) 粘質 灰白色土粒子(多) 焼土ブロック(多)
- 10 黒褐色 (2.5Y/2) 粘質 灰白色土ブロック(少) 暗黄褐色土粒子(多) 同ブロック(少)
- 11 黄褐色 (2.5YR/6) 粘質 暗黄褐色土ブロック(多)

0 2m

第60図 4号掘立柱建物跡



SB 4

- 1 黄灰色 ① 205/70 粘質 黄土粒子(少) 炭化物粒子(少)
- 2 赤灰色 ① 97/0 粘質 黄褐色土と紅灰色粘土の互層、こまり(X) 柱状炭灰(X)
- 3 紅黄灰色 ① 99/20 粘質 黄土粒子 炭化物粒子(少) 暗灰色粘土と黄褐色土ブロックの互層
- 4 オリーブ褐色 ① 94/30 粘質 黄土粒子、炭化物粒子(多) 黄褐色土粒子(多)
- 5 暗黄灰色 ① 94/20 粘質 紅灰色粘土、黄褐色土ブロック(X)
- 6 オリーブ褐色 ① 94/0 粘質 黄褐色土と灰白色粘土の互層 (層方)
- 7 灰白-黄色 ① 206/20 粘質 暗灰色粘土と灰白色粘土を含む (円底)



0 2m

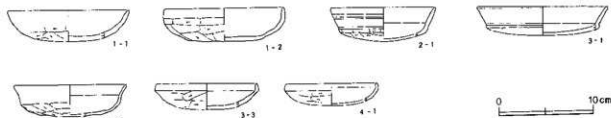
### 5号掘立柱建物跡 (第62図)

S・T-21グリッドに位置していた。6号掘立柱建物跡廃絶後、同一規模で建て替えたものと考えられる。また、7号掘立柱建物跡を切り、13号井戸跡、14号溝に切られていた。主軸はN-35°-Wであった。規模は3×3間の総柱で、桁行6.4m、梁行6.27mであった。柱間寸法は桁行、梁行とも2.1mであった。各柱穴の平面形は長方形で、規模は長径75~90cm、深さ25~82cmであった。梁側中間柱及び柱穴10・11で布堀が検出された。全ての柱穴から柱痕が検出された。また、覆土に版築状の堆積が認められた。出土した遺物は、なかった。

### 6号掘立柱建物跡 (第63図)

S・T-21グリッドに位置していた。5号掘立柱建物跡に切られていた。また、7号掘立柱建物跡を切り、13号井戸跡、14号溝に切られていた。主軸はN-35°-Wであった。規模は3×3間の総柱で、桁行7.2m、梁行7.1mであった。柱間寸法は桁行、梁行とも2.1mであった。各柱穴の平面形は長方形で、コーナー部分はL字形であった。規模は長径120~160cm、深さ45~96cmであった。梁側中間柱及び西側桁柱で、布堀が検出された。柱痕は検出されなかった。また、覆土に版築状の堆積が認められた。底面の柱穴据付部が複数検出されたことからさらに建て替えが行われた可能性

### 第61図 掘立柱建物跡出土遺物



D区掘立柱建物跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1-1	土師器杯	(13.0)	(3.3)	(10.0)	BEF	3	明赤褐色	5%未満	
1-2	土師器杯	(13.0)	3.5	11.5	BEF	3	にぶい橙色	20%	
2-1	土師器杯	(11.2)	(3.6)	(9.6)	BDG	3	灰白色	20%	
3-1	土師器杯	(14.0)	(3.0)	(12.2)	BEF	3	浅黄褐色	5%未満	
3-2	土師器杯	(12.0)	(3.4)	(10.5)	BF	3	橙色	20%	
3-3	土師器杯	(11.1)	(2.8)	(11.0)	BJ	3	にぶい橙色	5%未満	
4-1	土師器杯	(10.0)	(2.3)	(8.6)	BF	3	橙色	5%未満	

がある。出土した遺物は、なかった。

### 7号掘立柱建物跡 (第64図)

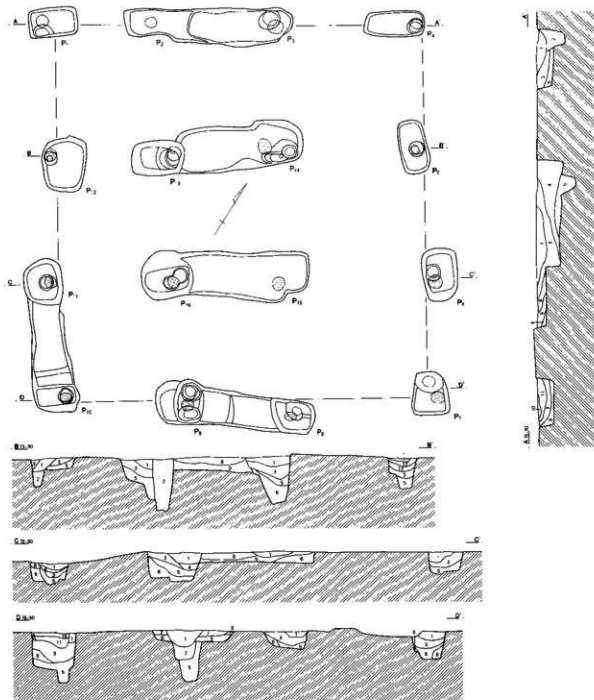
S・T-21グリッドに位置していた。5・6号掘立柱建物跡に切られていた。また、13号井戸跡、14号溝に切られていた。主軸はN-65°-Eであった。規模は3×2間の総柱で、桁行6.62m、梁行4.9mであった。柱間寸法は桁行2.0m、梁行1.8mであった。各柱穴の平面形は円形または方形で、規模は長径50~116cm、深さ35~90cmであった。5本の柱穴から柱痕が検出された。また、覆土に版築状の堆積が認められた。柱痕と底面柱根据付部の位置がずれていたことから柱根が抜き取られた可能性がある。出土した遺物は、なかった。

### 8号掘立柱建物跡 (第65・266図)

S-20・21グリッドに位置していた。5号掘立柱建物跡に隣接していた。主軸はN-60°-Eであった。規模は2×2間の総柱で、桁行6.2m、梁行4.9mで長方形であった。柱間寸法は桁行2.2m、梁行2.0mであった。各柱穴の平面形は方形で、規模は長径87~106cm、深さ40~100cmであった。全ての柱穴から柱痕が検出された。また、覆土に版築状の堆積が認められた。底面柱根据付部が複数検出されたことから建て替えが行われた可能性がある。

遺物は、柱穴8より土玉(第266図14)が出土した。

第62図 5号独立柱建物跡

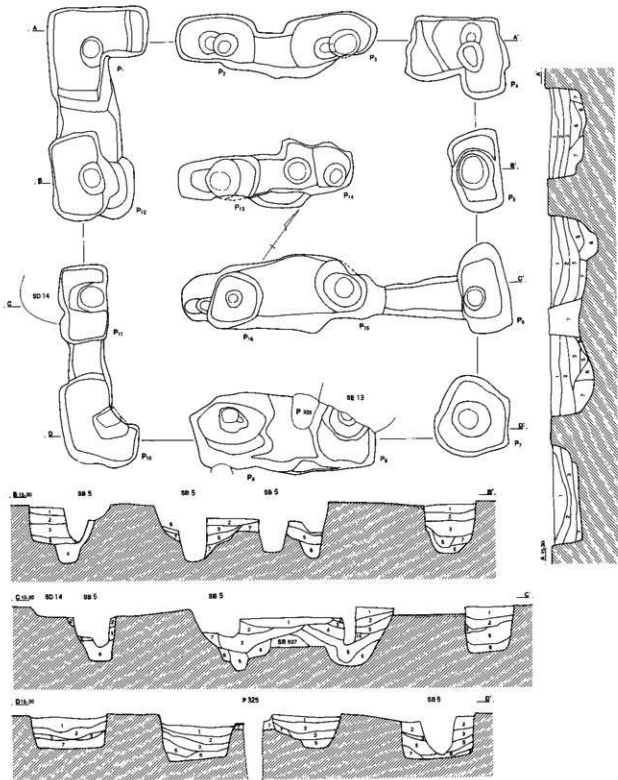


SB5

- |   |                  |                             |    |                  |                           |
|---|------------------|-----------------------------|----|------------------|---------------------------|
| 1 | 灰色 (S14/1) 粘質    | 黄褐色土粒子(少) 炭化物粒子(少) 遺物(少)    | 8  | 黄褐色 (S20/2) 粘質   | 黄褐色土粒子、黄褐色土ブロック(少) しまり(少) |
| 2 | 灰色 (S15/1) 粘質    | 炭化物粒子(多) (柱状)               | 9  | 黄褐色 (S20/1) 粘質   | 黄褐色土と黄褐色土ブロックを含む しまり(少)   |
| 3 | オリーブ黒色(S13/1) 粘質 | 焼土粒子、炭化物粒子(少)               | 10 | 粘黄灰色 (S14/2) 粘質  | 黄褐色土と焼土白色粘土の夾層 しまり(少)     |
| 4 | オリーブ黒色(S13/1) 粘質 | 炭化物粒子(多)                    | 11 | オリーブ褐色(S14/3) 粘質 | 黄褐色土、黄褐色土ブロック(多) しまり(少)   |
| 5 | 黒色 (S12/1) 粘質    | 黒土土粒子(少) 黄褐色土粒子(少)          | 12 | オリーブ褐色(S14/3) 粘質 | 焼土粒(少) 炭化物粒子(多)           |
| 6 | オリーブ褐色(S14/3) 粘質 | 黄褐色土、灰白色粘土(少)               | 13 | 黄褐色 (S20/2) 粘質   | 黄褐色土、黄褐色土ブロック(少)          |
| 7 | 黄灰色 (S14/1) レント質 | 焼土粒(少)、炭化物粒子(少) 黄褐色土ブロック(少) |    |                  |                           |

0 2m

第63図 6号掘立柱建物跡



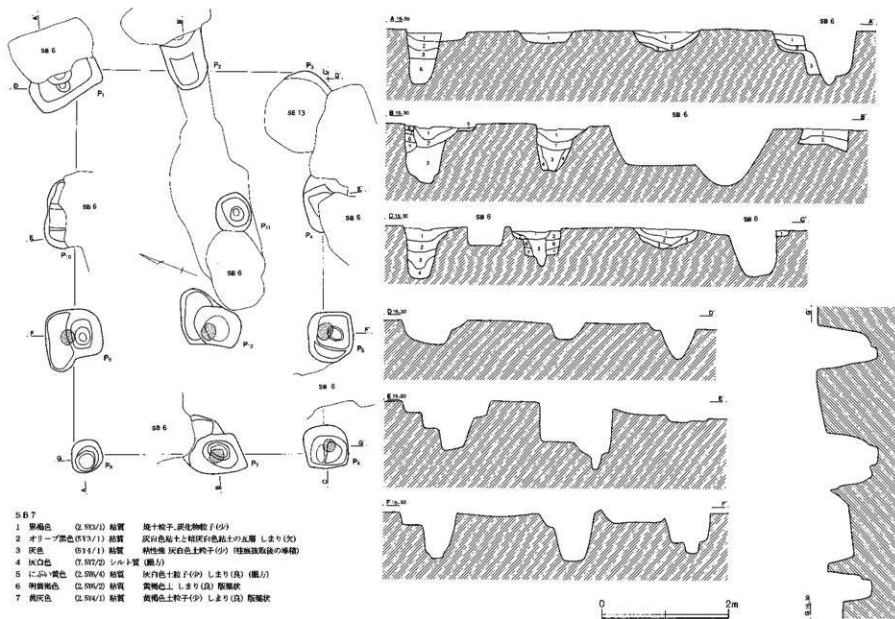
S 各名

- 1 黄灰色 (G. 014/1) 粘質 焼土粒子、炭化物粒 (灰) 黒褐色土、黄褐色土上小ブ  
ロック (多) こまり (X)
- 2 黒褐色 (G. 013/1) 粘質 黄褐色土、黄褐色土上ブロック (少) しまり (X)
- 3 黒褐色 (G. 010/2) 粘質 黄褐色土上黄褐色土の互層 黄褐色土の層状堆積し  
まり (X)
- 4 灰白色 (G. 017/2) 粘質 黄褐色土上 (少)

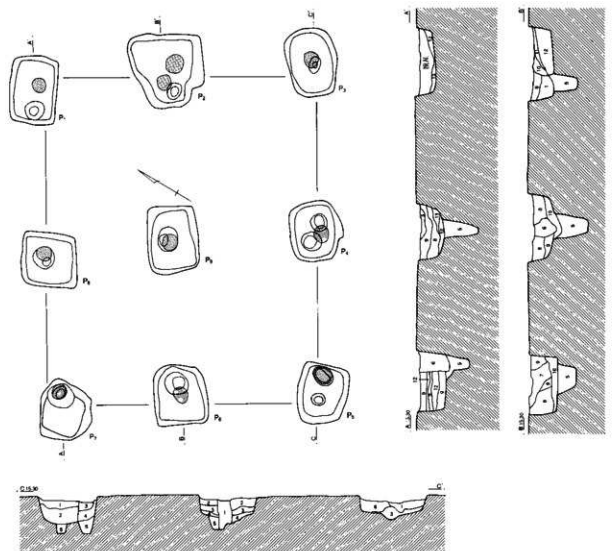
- 5 黄褐色 (G. 015/2) 粘質 粘性強 灰白色粘土に黄褐色土上をブロック状に含む  
(柱状部取戻の堆積)
- 6 灰白色 (G. 017/2) 粘質 粘性強
- 7 灰白色 (G. 010/1) シルト質 (層状)







第65図 8号掘立柱建物跡



S B 8

- |   |  |
|---|--|
| 1 黄灰色 (2.095/1) 粘質 暗黄褐色土粒子(多) 暗黄褐色土ブロック(少)            | 8 黄褐色 (2.095/4) 粘質 暗黄褐色土粒子(多) 暗黄褐色土ブロック(多) 白色土粒(多) |
| 2 黄灰色 (0.098/1) 粘質 暗黄褐色土粒子(多) 暗黄褐色土ブロック(多) 白色土粒(多)    | 9 黄褐色 (2.095/1) 粘質 暗黄褐色土粒子(少) 暗黄褐色土ブロック(少)         |
| 3 オリーブ褐色(2.094/2) 粘質 暗黄褐色土粒子(多) 暗黄褐色土ブロック(多) 白色土粒子(多) | 10 ナリ-ブ褐色(2.094/3) 粘質 暗黄褐色土粒子(多) 暗黄褐色土ブロック(多)      |
| 4 暗黄褐色 (2.094/2) 粘質 暗黄褐色土粒子(多) 暗黄褐色土ブロック(少)           | 11 黄灰色 (2.094/1) 粘質 暗黄褐色土粒子(少) 暗黄褐色土ブロック(多)        |
| 5 白-黄灰色 (2.096/2) 粘質 しまり(少)                           | 12 暗黄褐色 (2.096/4) 粘質 灰白色土粒子, 暗ブロック(多)              |
| 6 黄灰色 (2.095/1) 粘質 暗黄褐色土粒子(多) 暗黄褐色土ブロック(多)            | 13 黄褐色 (2.095/1) 粘質 灰白色土ブロック(少)                    |
| 7 黄褐色 (2.095/6) 粘質 暗黄褐色土粒子(多) 暗黄褐色土ブロック(多) 白色土粒(多)    |  |

## (2) 土壌・ピット

土壌についての事実記載は、主に遺物出土状況の説明を要するもの及び、遺構の性格上重要と考えられるもののみを記載することとする。また、各土壌及びの位置及び諸計測値、主軸方位、時期など判明しているものについては、一覧表として掲載した。

### 1号土壌 (第66図)

W-23グリッドに位置していた。平面形は楕円形で、規模は長軸0.9m、短軸0.69m、深さ0.07mであった。主軸はN-70°-Wであった。覆土は黄褐色土と灰白色粘土の一括土であった。遺物の出土は、なかった。

## 2号土壌 (第66・69図)

V-22グリッドに位置していた。5号溝に切られていた。平面形は楕円形で、規模は長軸2.16m、短軸1.34m、深さ0.26mであった。主軸はN-31°-Eであった。覆土は多量の焼土及び炭化物・灰が帯状に堆積していた。

遺物は、土師器杯 (第69図2-1~3)、須恵器杯 (第69図2-4・5)・高台碗 (第69図2-6)・壺 (第69図2-7)、土師器甕 (第69図2-8)の破片が出土した。

## 9号土壌 (第66・69図)

V-22グリッドに位置していた。10号土壌に隣接していた。平面形は不整形で、規模は長軸2.70m、短軸1.55m、深さ0.14mであった。主軸はN-28°-Wであった。覆土上面は擾乱により削平されていたが、下層には2号土壌と同様に多量の焼土及び、炭化物が堆積していた。

遺物は土師器杯 (第69図9-1)が出土した。

## 10号土壌 (第66・69図)

V-22グリッドに位置していた。9号土壌に隣接していた。平面形は長方形で、規模は長軸1.91m、短軸1.29m、深さ0.16mであった。主軸はN-38°-Wであった。覆土は黄褐色土と灰白色粘土の一括埋土であった。

遺物は土師器甕 (第69図10-1)が出土した。

## 11号土壌 (第66・69図)

W-22グリッドに位置していた。5号溝に隣接していた。平面形は不整形楕円形で、規模は長軸1.14m、短軸0.72m、深さ0.33mであった。主軸はN-56°-Eであった。覆土は暗褐色土に焼土を含んでいた。

遺物は土師器杯 (第69図11-1・2)が出土した。

## 13号土壌 (第66・69図)

U-21グリッドに位置していた。10号溝に切られていた。平面形は不整形で、規模は長軸4.55m、短軸2.62m、深さ0.12mであった。主軸はN-61°-Eであった。覆土は黄褐色土と灰白色粘土の一括埋土であった。

遺物は土師器甕 (第69図13-1)が出土した。

## 19号土壌 (第67・69図)

U-21グリッドに位置していた。14号土壌及び、11号溝に隣接していた。平面形は不整形で、規模は長軸0.96m、短軸0.5m、深さ0.22mであった。主軸はN-70°-Wであった。覆土上層には焼土が堆積していた。

遺物は土師器盤状杯 (第69図19-1)、須恵器高台碗 (第69図19-2)が出土した。

## 21号土壌 (第67図)

S-20グリッドに位置していた。遺構の一部は調査区外にあった。平面形は不整形で、規模は長軸1.88m、短軸1.08m、深さ0.43mで二段掘り込みであった。主軸はN-56°-Eであった。覆土上層には焼土及び炭化物が、下層には灰白色粘土が堆積していた。

遺物は土師器細片が出土したが、図示できるものは、なかった。

## 23号土壌 (第67・69図)

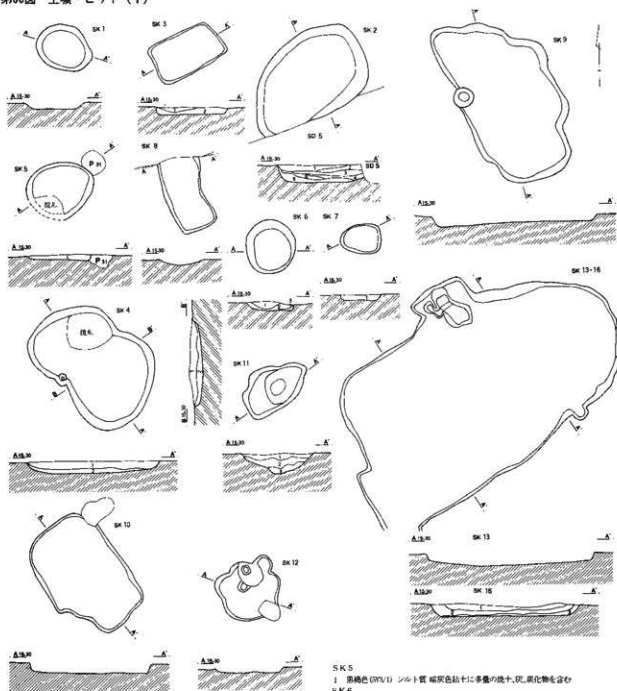
T-20グリッドに位置していた。平面形は円形で、規模は長軸0.86m、短軸0.74m、深さ0.26mであった。主軸はN-0°であった。覆土上層には炭化物及び、焼土が堆積していた。

遺物は須恵器鉢 (第69図23-1)及び中世の甕 (第69図23-2)が出土した。

## 24号土壌 (第67図)

T-22グリッドに位置していた。平面形は円形であった。規模は長軸0.84m、短軸0.73m、深さ0.36mであった。主軸はN-0°であった。覆土は、黄褐色土と灰白色粘土の一括埋土であった。出土した遺物は、なかった。

第66図 土壌・ピット(1)



SK 2

- 1 黄灰色 (G.05/1) 粘質 焼土粒子(少) 炭化物粒子(少) 褐色土粒子(多)
- 2 黄灰色 (G.05/1) 粘質 焼土粒子(多) 炭化物粒子(多) 褐色土粒子(少)
- 3 灰色 (G.5/4/1) 粘質 焼土粒子(少) 炭化物粒子(少) 遺物(少)
- 4 灰色 (G.5/2/1) シルト質 炭化物粒子の堆積増殖 遺物(少)
- 5 灰色 (G.5/1/1) 粘質 灰白色土ブロック(多)
- 6 黄褐色 (G.05/4) 粘質 黄褐色土、灰白色粘土、黄褐色粘土上の丸層

SK 3

- 1 黄灰色(G.05/1) 粘質 炭化物粒子(多) 灰白色土粒子(多)
- 2 黄褐色(G.05/1) 粘質 炭化物粒子(多) 暗褐色土粒子(少) 灰白色土粒子(少)

SK 4

- 1 黄灰色 (G.05/1) 粘質 焼土粒子(少) 層中に炭化物の雲状増殖
- 2 暗褐色(G.05/2) 粘質 黄褐色土と炭褐色土の互層

SK 5

- 1 黄褐色(G.05/1) シルト質 暗灰色粘土に多量の焼土、炭、炭化物を含む

SK 6

- 1 黄褐色(G.05/1) 粘質 焼土粒子(少) 炭化物粒子(少) 遺物(少)
- 2 灰色 (G.5/4/1) 粘質 焼土粒子(多)
- 3 黄灰色(G.05/4/1) 粘質 黄褐色土粒子(少)

SK 7

- 1 暗褐色(G.05/2) 粘質 暗褐色土粒子(多)

SK 11

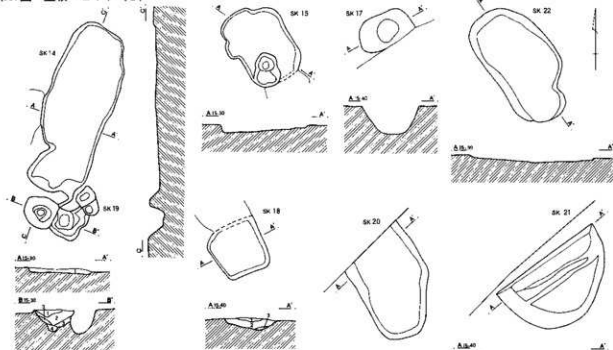
- 1 黄褐色 (0001/1) 粘質 暗褐色土ブロック(多) 焼土粒子(多) しまり(少)
- 2 黄褐色 (0001/1) 粘質 暗褐色土ブロック(少) 焼土粒子(多) しまり(少)
- 3 しまり(黄褐色) (0007/2) 粘質 暗褐色土(少) 炭分(多) しまり(少)

SK 15

- 1 黄褐色(0001/2) 粘質 暗褐色土(多) 焼土粒子(多) しまり(多)
- 2 黄褐色(0002/2) 粘質 黄褐色土(多) 焼土粒子(多) 灰白色土粒子(多) しまり(少)
- 3 灰黄色(G.05/2) 粘質 粘質(多) 暗黄褐色土(少)



第67図 土坑・ピット(2)



- SK 14  
1 基底部 ①:RY6/00 粘質 黄褐色土(少) しより(良)
- SK 15  
1 灰褐色 ①:RY6/20 粘質 黄褐色土粒子、焼土粒子(多) しより(良)  
2 黒褐色 ①:RY6/20 粘質 焼土粒子(少) 暗褐色土粒子(多)  
3 黄褐色 ②:RY5/4 粘質 灰白色土(少)
- SK 17  
1 暗オリーブ褐色 ①:RY2/0 粘質 暗褐色土ブロック(多) 焼土粒子(多) しより(良)  
2 暗褐色 ②:RY3/0 粘質 暗褐色土ブロック(多) 焼土粒子(多) 鉄分(多)  
3 オリーブ褐色 ③:RY3/2 粘質 灰白色土ブロック(少) しより(良)  
4 灰オリーブ色 ④:RY3/3 粘質 オリーブ褐色土(少) しより(良)
- SK 18  
1 暗褐色 ①:RY4/20 粘質 焼土粒子、炭化物粒子(少) 暗褐色土粒子(少) 遺物(多)  
2 灰白色 ②:RY4/0 粘質 焼土粒子、炭化物粒子(少) 灰白色土粒子(少)  
3 黒色 ③:RY2/0 粘質 炭化物粒子、骨炭塊、灰白色土粒子(少)  
4 オリーブ褐色 ④:RY4/4 粘質 灰白色土上と暗灰白色土上の互層
- SK 19  
1 暗オリーブ褐色 ①:RY3/0 粘質 焼土粒子、炭化物粒子(少) 遺物(多)  
2 黒褐色 ②:RY3/2 粘質 焼土粒子、炭化物粒子(少) (佳例)  
3 オリーブ褐色 ③:RY4/20 粘質 灰白色土上と灰白色土上の互層
- SK 20  
1 灰褐色 ①:RY4/0 粘質 炭化物粒子、灰(多) 焼土粒子(少) 遺物(多)  
2 黒色 ③:RY2/0 粘質 焼土粒子、炭化物粒子(少) (佳例)  
3 オリーブ褐色 ④:RY4/20 粘質 灰白色土上と灰白色土上の互層
- SK 21  
1 黒褐色 ①:RY3/0 粘質 焼土粒子、炭化物粒子(少) 遺物(少)  
2 黒褐色 ②:RY3/2 粘質 鉄分状者、黄褐色土粒子(少)  
3 黄褐色 ③:RY4/0 粘質 暗褐色土粒子(少)
- SK 22  
1 暗褐色 ①:RY2/0 粘質 暗褐色土ブロック(多) 焼土粒子(多) しより(良)  
2 暗褐色 ②:RY3/0 粘質 暗褐色土ブロック(多) 焼土粒子(多) 鉄分(多)  
3 オリーブ褐色 ③:RY3/2 粘質 灰白色土ブロック(少) しより(良)  
4 灰オリーブ色 ④:RY3/3 粘質 オリーブ褐色土(少) しより(良)
- SK 23  
1 暗褐色 ①:RY4/20 粘質 焼土粒子、炭化物粒子(少) 暗褐色土粒子(少) 遺物(多)  
2 灰白色 ②:RY4/0 粘質 焼土粒子、炭化物粒子(少) 灰白色土粒子(少)  
3 黒色 ③:RY2/0 粘質 炭化物粒子、骨炭塊、灰白色土粒子(少)  
4 オリーブ褐色 ④:RY4/4 粘質 灰白色土上と暗灰白色土上の互層
- SK 24  
1 暗褐色 ①:RY4/20 粘質 焼土粒子、炭化物粒子(少) 暗褐色土粒子(少) 遺物(多)  
2 灰白色 ②:RY4/0 粘質 焼土粒子、炭化物粒子(少) 灰白色土粒子(少)  
3 黒色 ③:RY2/0 粘質 炭化物粒子、骨炭塊、灰白色土粒子(少)  
4 オリーブ褐色 ④:RY4/4 粘質 灰白色土上と暗灰白色土上の互層

0 2m

ピット01 (第68・69図)

V-23グリッドに位置していた。平面形は円形であった。規模は長径0.45m、深さ0.75mであった。覆土は黄褐色土を基調とし、焼土、炭化物を含んでいた。

遺物は土師器杯(第69図P61-1)が出土した。

ピット06 (第68・69図)

V-22グリッドに位置していた。2号欄柵跡上の柱穴であった。平面形は円形であった。規模は長径0.32m、深さ0.16mであった。覆土には灰白色粘土を含んでいた。

遺物は須恵器杯(第69図P66-1)が出土した。

ピット01 (第68・69図)

V-22グリッドに位置していた。平面形は円形であった。規模は長径0.53m、深さ0.16mであった。覆土は暗褐色粘質土が堆積していた。

遺物は土師器杯(第69図P91-1)が出土した。

ピット115 (第68・69図)

V-21グリッドに位置していた。平面形は円形であった。規模は長径1.0m、深さ1.14mであった。覆土は、黄褐色土を基調とし、焼土、炭化物を含んでいた。

遺物は須恵器長頸壺（第69図P115-1）が出土した。

#### ビット119（第68・69図）

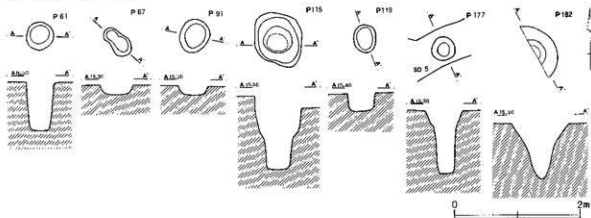
V-21グリッドに位置していた。平面形は円形であった。規模は長径0.45m、深さ0.14mであった。覆土は黄褐色土を基調とし、焼土、炭化物を含んでいた。

遺物は須恵器台付長頸壺（第69図P119-1）が出土した。

#### ビット177（第68・69図）

W-22グリッドに位置していた。5号溝内にあった。

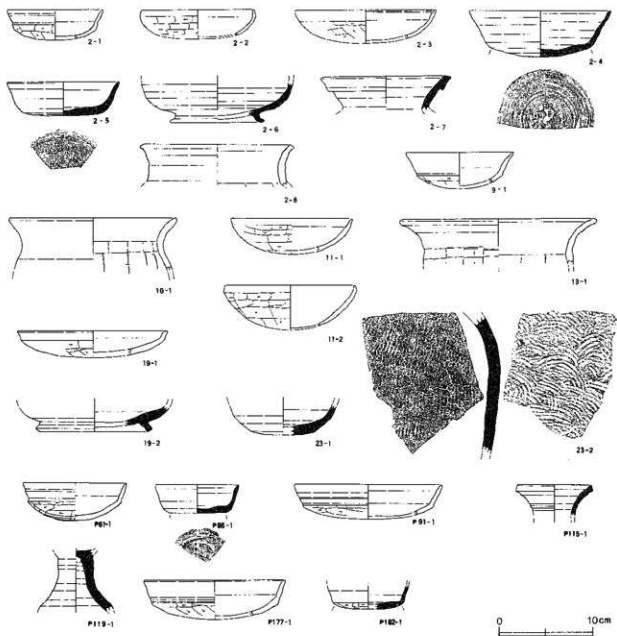
#### 第68図 土壌・ビット（3）



D区土壌一覧表

番号	位置	形態	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	主軸方位	出土遺物	時期	備考
1	W-23	楕円	0.90	0.69	0.07	N-70°-W			
2	V-22	楕円	2.16	1.34	0.26	N-31°-E	坏壺	古代	
3	W-23	長方形	1.10	0.68	0.11	N-63°-E			
4	W-23	不整形	2.10	1.51	0.18	N-40°-W			
5	W-23	不整形	1.02	0.89	0.08	N-59°-E			
6	W-23	円	0.83		0.12	N-0°			
7	V-22	楕円	0.64	0.44	0.00	N-87°-E			
8	V-23	長方形	1.21	0.67	0.05	N-18°-W			
9	V-22	不整形	2.70	1.55	0.14	N-28°-W	坏	古墳	
10	V-22	長方形	1.91	1.29	0.16	N-38°-W	壺	古墳	
11	W-22	不整形	1.14	0.72	0.33	N-56°-E	坏	古代	二段掘込
12	V-22	不整形	1.04	0.90	0.07	N-20°-E	壺	古代	pit有り
13	U-21	不整形	4.55	2.62	0.12	N-61°-E			
14	U-21	長方形	2.75	1.06	0.08	N-17°-E			
15	U-22	不整形	1.28	0.86	0.10	N-25°-W			pit有り
16	U-22	不整形	4.55	2.22	0.20	N-61°-E			
17	V-22	楕円	0.86	0.51	0.39	N-60°-E			
18	U-21	方形	0.82	0.80	0.16	N-63°-E			
19	U-21	不整形	0.96	0.50	0.22	N-70°-W	坏碗	古代	pit有り
20	S-20	不整形	1.52	1.16	0.14	N-34°-W			
21	S-20	不整形	1.88	1.08	0.43	N-56°-E			二段掘込
22	S-20	不整形	2.00	1.09	0.10	N-35°-W			
23	T-20	円	0.86	0.74	0.26	N-0°	須恵器 鉢		pit有り
24	T-20	円	0.84	0.73	0.36	N-0°		古代	

第69図 土城・ピット出土遺物



D区土城出土遺物観察表 (1)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
2-1	土師器杯	10.2	3.2	9.1	AD	4	灰白色	25%	
2-2	土師器杯	(12.0)	(3.0)	(10.7)	BD/E	3	橙色	5%	
2-3	土師器杯	(15.0)	(3.5)	(14.3)	BEF	3	明赤褐色	5%	
2-4	須恵器杯	(15.0)	4.9	(10.5)	ABF	1	灰白色	40%	湖西 回転ヘラ切
2-5	須恵器杯	(12.0)	3.5	(8.5)	BF	2	灰白色	30%	回転ヘラ切
2-6	須恵器高台付碗	-	-	(10.0)	BF	2	暗青灰色	5%	不明
2-7	須恵器甕	14.0	-	-	BI	2	灰色	5%未満	南比企
2-8	土師質篋 (胴張)	(15.2)	-	-	BEF	3	明赤褐色	5%未満	
9-1	土師器杯	(11.4)	(3.9)	(9.2)	BEF	4	橙色	25%	
10-1	土師器甕	(18.0)	-	-	ACE	3	橙色	5%未満	

D区土壌出土遺物観察表 (2)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
11-1	土師器杯	(13.0)	(3.8)	(11.3)	DJ	3	褐色	10%	
11-2	土師器杯	14.0	4.6	11.8	ABCD	3	褐色	20%	
13-1	土師器壺	(21.0)	-	-	BCE	3	にぶい褐色	5%未満	
19-1	土師器椀状杯	(16.1)	(2.8)	(15.2)	BCG	3	灰白色	5%未満	内外面黒色化
19-2	須恵器杯高台付壺	-	-	(12.4)	ABF	2	灰白色	5%未満	未野
23-1	須恵器鉢	-	-	6.6	BF	2	灰白色	5%未満	不明
23-2	須恵器壺	-	-	-	BCL	1	灰色	5%未満	不明
P61-1	土師器杯	13.1	4.0	9.9	BCE	4	褐色	90%	
P66-1	須恵器杯	(8.8)	(3.0)	(6.0)	ABF	2	灰白色	30%	瀬西
P91-1	土師器杯	(15.8)	(3.5)	(14.0)	BEF	3	褐色	5%未満	内外面黒色処理 ?
P115-1	須恵器長頸壺	8.0	-	-	BF	1	灰白色	5%未満	東海西部
P19-1	須恵器台付長頸壺(台部)	-	-	-	BF	1	灰白色	5%未満	瀬西
P177-1	須恵器杯	(15.2)	(4.2)	(13.6)	BE	3	にぶい褐色	5%	瀬西 内面おこげ付着
P182-1	須恵器杯	-	-	(7.6)	BF	2	灰色	20%	不明 回転ヘラ切

### (3) 井戸跡

#### 1号井戸跡(第70図)

X-24グリッドに位置していた。1号掘立柱建物跡に隣接していた。平面形は円形で、規模は長径1.02m、短径0.96m、深さ1.26mであった。掘り込みは垂直で、底面は平坦であった。覆土は粘質土が主体を占め、下層には植物繊維が堆積していた。遺物の出土は、なかった。

#### 2号井戸跡(第70・266図)

V-22グリッドに位置していた。3号掘立柱建物跡を切っていた。平面形は円形で、規模は長径1.45m、短径1.36m、深さ1.38mであった。掘り込みはロート状で、底面は平坦であった。覆土上層には炭化物が含まれ、下層には植物繊維が堆積していた。

遺物は土錘(第266図11)が出土した。

#### 3号井戸跡(第70図)

U-22グリッドに位置していた。3号掘立柱建物跡に隣接していた。平面形は円形で、規模は長径1.40m、短径1.35m、深さ1.6mであった。掘り込みはほぼ垂直で、底面は平坦であった。覆土上層には炭化物・焼土が帯状に堆積し、下層には植物繊維が堆積していた。出土した遺物は、なかった。

#### 4号井戸跡(第70・72図)

T-22グリッドに位置していた。平面形は円形で、規模は長径1.52m、短径1.38m、深さ1.68mであった。

掘り込みはロート状で、底面は平坦であった。覆土上層には炭化物が帯状に堆積し、下層には植物繊維が堆積していた。

遺物は土師器高杯(第72図4-1)が出土した。

#### 5号井戸跡(第70図)

T-21グリッドに位置していた。平面形は円形で、規模は径0.98m、深さ1.14mであった。掘り込みは垂直で、底面は平坦であった。覆土上層は攪乱で壊され、下層には灰褐色土ブロックが堆積していた。遺物の出土は、なかった。

#### 6号井戸跡(第70図)

V-21グリッドに位置していた。8号溝に切られていた。平面形は不整形円で、規模は長径1.2m、短径1.08m、深さ2.0mであった。掘り込みはほぼ垂直で、底面は平坦であった。覆土は粘質土が主体を占め、下層には砂粒が堆積していた。出土遺物は、なかった。

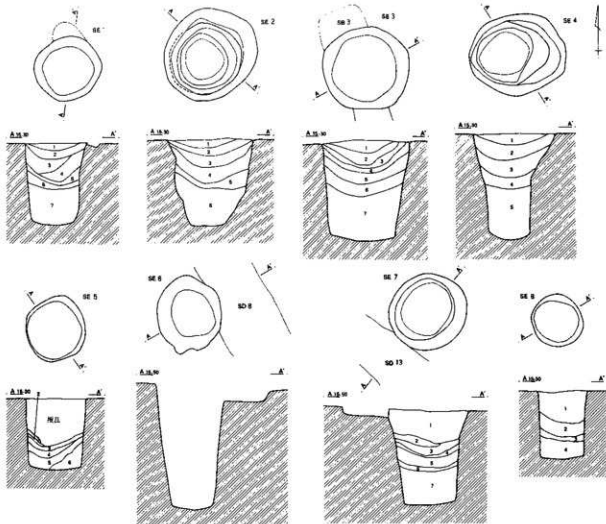
#### 7号井戸跡(第70・269図)

S-20グリッドに位置していた。13号溝を切って構築していた。平面形は円形で、規模は径1.25m、深さ1.48mであった。掘り込みはロート状で、底面は平坦であった。覆土は暗褐色土が主体を占めていた。

遺物は覆土下層より曲物蓋板(第269図3)が出土した。



第70図 井戸跡(1)



- SE 1
- 1 暗黄灰色 (G. 374/2) 粘質 灰白色土微粒子(少) 炭化物粒子、焼土粒子(僅) 遺物(少)
  - 2 暗灰色 (G. 374/1) 粘質 黄褐色土粒子(少) 炭化物粒子、焼土粒子(少) 遺物(少)
  - 3 灰色 (G. 374/3) シルト質 黄褐色土粒子(多) 小礫炭化材(少) 焼土粒子(少)
  - 4 灰色 (G. 374/3) シルト質 黄褐色土をブロック状に含む
  - 5 黑色 (G. 372/1) 粘質 炭化物塊
  - 6 黄灰色 (G. 375/1) 粘質 暗褐色土ブロック(少) 植物繊維(少)
  - 7 暗緑灰色 (G. 5 ) 粘質 植物繊維(多)
- SE 2
- 1 オリーブ褐色 (G. 374/3) 粘質 焼土粒子(多) 炭化物粒子(多) 遺物(多) 灰白色土粒子(僅量B)(少)
  - 2 オリーブ褐色 (G. 374/3) 粘質 焼土粒子(4) 炭化物粒子(少) 遺物(中) 灰白色土粒子(多) (炭層II) 底面に暗灰色粘土層状に堆積
  - 3 黒褐色 (G. 373/1) 粘質 多量の炭化物を伴う反層 焼土粒子(少) 灰白色土粒子(少) (炭層II)
  - 4 暗黄灰色 (G. 374/2) 粘質 鉄砂層 暗灰色粘土層状に堆積
  - 5 暗黄灰色 (G. 374/2) シルト質 多量の植物繊維を含む
  - 6 灰色 (G. 374/1) 粘質 植物繊維(少)

SE 3

- 1 オリーブ褐色 (G. 374/3) シルト質 白色土微粒子(少) 焼土粒子、炭化物粒子(中) 遺物(多)
- 2 灰色 (G. 375/1) シルト質 焼土粒子、炭化物粒子(少) 遺物(中) 底面に灰層堆積
- 3 暗オリーブ色 (G. 374/3) シルト質 焼土粒子、炭化物粒子(中) 暗褐色土粒子(多) 遺物(中)
- 4 黒褐色 (G. 373/1) 粘質 焼土粒子(少) 暗褐色土粒子(中) 炭化物粒子層状に堆積
- 5 暗灰色 (G. 374/1) 粘質 焼土粒子(中) 灰白色土ブロック(中) 中層遺物出土
- 6 暗黄灰色 (G. 374/2) 粘質 植物繊維(多)
- 7 暗緑灰色 (G. 372/1) 粘質 植物繊維(少)

SE 4

- 1 灰オリーブ色 (G. 375/2) シルト質 灰白色土微粒子(少) 焼土粒子、炭化物粒子(少)
- 2 灰色 (G. 374/1) シルト質 焼土ブロック(少) 暗褐色土粒子(少) 遺物(中)
- 3 灰色 (G. 374/1) 粘質 灰白色粘土ブロック(中) 鉄分(多)
- 4 暗緑灰色 (G. 373/1) 粘質 灰白色粘土ブロック(多)
- 5 暗緑灰色 ( G. 5 ) 粘質 植物繊維(多)

SE 5

- 1 黒褐色 (G. 373/1) 粘質 暗褐色土粒子(中) 反ブロック(少)
- 2 オリーブ褐色 (G. 374/3) 粘質 暗褐色土粒子、反ブロック(多)
- 3 オリーブ褐色 (G. 372/2) 粘質 灰色土ブロック(少)
- 4 暗褐色 (G. 373/1) 粘質 灰褐色土粒子(多) 鉄分(多)
- 5 黄灰色 (G. 375/1) 粘質 灰褐色土ブロック(少)
- 6 暗オリーブ色 (G. 374/3) シルト質 粘黄褐色土粒子(多)

SE 7

- 1 黒褐色 (G. 373/1) 粘質 暗褐色土(中) 鉄分(多) 暗黄褐色土ブロック(多)
- 2 オリーブ褐色 (G. 373/1) 粘質 暗褐色土ブロック(中)
- 3 オリーブ褐色 (G. 374/1) 粘質 灰白色土ブロック(多) 鉄分(多)
- 4 オリーブ褐色 (G. 373/1) 粘質 暗黄褐色土粒子(多) 鉄分(中)
- 5 灰色 (G. 375/1) 粘質 鉄分(多) 暗褐色土(中)
- 6 オリーブ灰色 (G. 374/2) 粘質 暗黄褐色土(中)
- 7 オリーブ褐色 (G. 374/3) シルト質 粘黄褐色土粒子(多)

SE 8

- 1 暗黄褐色 (G. 374/2) シルト質 灰白色土粒子(中) 焼土粒子、炭化物粒子(中) 底面に植物繊維を含む
- 2 黄灰色 (G. 375/1) 粘質 暗褐色土粒子(少)
- 3 オリーブ褐色 (G. 373/1) シルト質 植物繊維(多)
- 4 黒褐色 (G. 373/1) 粘質 植物繊維(多)



#### 8号井戸跡（第70図）

T-21グリッドに位置していた。平面形は円形で、規模は径0.78m、深さ1.06mであった。掘り込みは垂直で、底面は平坦であった。覆土上層には炭化物が堆積し、下層には植物繊維が堆積していた。出土した遺物は、なかった。

#### 9号井戸跡（第71図）

T-21グリッドに位置していた。13号溝を切っていた。平面形は円形で、規模は径0.7mで、深さ0.8mであった。掘り込みは垂直で、底面は平坦であった。覆土は灰白色粘土が主体を占め、下層には植物繊維が堆積していた。また覆土中層より破砕された安山岩がままとまって出土した。

#### 10号井戸跡（第71図）

T-21グリッドに位置していた。5号井戸跡に隣接していた。平面形は楕円形で、規模は長径0.85m、短径0.68m、深さ0.78mであった。掘り込みはほぼ垂直で、底面は平坦であった。覆土上層には灰白色粘土ブロックが堆積していた。遺物の出土は、なかった。

#### 11号井戸跡（第71図）

U-22グリッドに位置していた。遺構の一部は調査区外にあった。平面形は円形で、規模は径0.85m、深さ0.76mであった。掘り込みは垂直で、底面は平坦であった。覆土は灰白色粘土が主体を占め、下層には植物繊維が堆積していた。遺物の出土は、なかった。

#### 12号井戸跡（第71・269図）

U-22グリッドに位置していた。4号掘立柱建物跡を切っていた。平面形は楕円形で、規模は長径1.84m、短径1.46m、深さ1.4mであった。掘り込みはロート状で、底面は平坦であった。覆土上層には焼土及び炭化物を含み、下層には植物繊維が堆積していた。

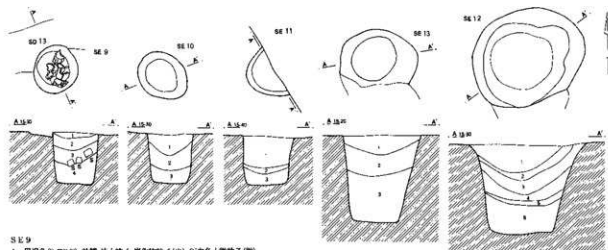
遺物は板状の杭（第269図7）が出土した。

#### 13号井戸跡（第71・72図）

S-21グリッドに位置していた。5・6号掘立柱建物跡及び13号溝を切っていた。平面形は不整形で、規模は長径1.22m、短径0.84m、深さ1.38mであった。掘り込みはほぼ垂直で、底面は平坦であった。覆土上層には多量の焼土と炭化物が帯状に堆積し、下層には植物繊維が堆積していた。

遺物は中世の山茶碗（第72図13-1）が覆土下層より出土した。

第71図 井戸跡(2)



SE 9

- 1 黒褐色(色 592/1) 粘質 焼土粒子,炭化物粒子(少) 灰白色土微粒子(多)
- 2 黒褐色(色 592/1) 粘質 炭化物粒子(少) 遺物(多)
- 3 灰褐色(色 595/4) 粘質 灰白色粘土(多) 灰山石(多)
- 4 灰褐色(色 594/1) 粘質 植物繊維(少)

SE 10

- 1 黄褐色(色 594/1) シルト質 灰白色土微粒子(中) 黄褐色土粒子(少) 炭化物粒子,焼土粒子(少)

- 2 黒褐色(色 592/1) 粘質 灰白色粘土ブロック(多)
- 3 灰褐色(色 594/1) 粘質 植物繊維(少)

SE 11

- 1 黒色(色 592/1) 粘質 炭化物粒子,焼土粒子(少) 遺物(少) 灰白色土微粒子(少)

- 2 オリーブ褐色(色 594/1) シルト質 褐色土粒子 植物繊維
- 3 灰褐色(色 594/1) 粘質 灰白色土(多) 植物繊維(少)

SE 12

- 1 粉黄褐色(色 594/2) シルト質 焼土粒子,小ブロック 炭化物粒子(多) 灰白色土微粒子(多) 遺物(多)

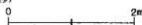
- 2 黄褐色(色 594/1) 粘質 焼土粒子,炭化物粒子(少) 粘褐色土ブロック(少)
- 3 黒褐色(色 592/2) 粘質 粘褐色土ブロック(中) 植物繊維(多)

- 4 黄褐色(色 594/1) 粘質 植物繊維(少)
- 5 黄褐色(色 592/1) 粘質 粘土塊

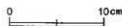
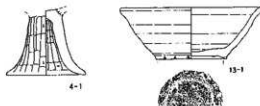
- 6 灰褐色(色 594/1) 粘質 植物繊維(少) 黄褐色土微粒子(少)

SE 13

- 1 黒褐色(色 592/2) シルト質 白色土微粒子(少) 焼土粒子,炭化物粒子(少) 炭分沈着
- 2 黒褐色(色 592/1) 粘質 灰白色土微粒子(多) 粘褐色土ブロック(少)
- 3 緑褐色(色 592/1) 粘質 植物繊維(少)



第72図 井戸跡出土遺物



D区井戸跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
4-1	高环(脚部)	-	-	-	ABF	3	明褐色	10%	
13-2	山茶碗	(15.0)	5.4	7.6	C	1	灰白色	30%	外面煤付着(中性)

#### (4) 溝・柵列

##### 1号溝(第73・74・79・267図)

V・23~X・24グリッドに位置していた。両端は、調査区外に続いていた。遺構の大部分が調査区外にあった。緩高地状の地形に沿って構築されたと考えられる。主軸はN-22°-Wで直線であった。規模は幅1.5m、深さ0.5mで、断面は箱形で底面は平坦であった。覆土は上層に炭化物が堆積し、下層に灰白色粘土が堆

積していた。

遺物は土器器环・盤状环・高环、須恵器盤・蓋・長頸壺・甕及び、砥石(第267図10)が覆土上層より出土した。

## 2号溝 (第73・79図)

X・23～W・24グリッドに位置していた。西端は、調査区外に東側は1号溝に切られていた。2号掘立柱建物跡を切っていた。主軸はN-51°-Eで直線であった。規模は幅0.7m、深さ0.1mで、断面箱形であった。覆土は粘質土が堆積していた。

遺物は須恵器蓋(第79図2-1・2)が出土した。

## 3号溝 (第73図)

W・23～24グリッドに位置していた。底面近くで検出したため一部のみ残存していた。東側は1号溝を切っていた。主軸はN-60°-Eで直線であった。規模は幅0.35m、深さ0.25mで、断面U字形であった。覆土は粘質土が堆積していた。出土した遺物は、なかった。

## 4号溝 (第74・79図)

W・22～V・23グリッドに位置していた。両端は調査区外に続いていた。5号溝と同一規模、同一形態であった。1・6号溝を切っていた。主軸はN-65°-Eで直線であった。規模は幅0.7m、深さ0.3mで、断面逆台形であった。覆土下層に暗褐色土と黄褐色土の互層が認められ、5号溝側からの流入によるものと考えられる堆積状況を示していた。

遺物は土師器杯・甕、須恵器杯・碗・長頸壺及び、中世の標鉢・片口鉢・壺・甕が出土した。

## 5号溝 (第74・80・267図)

W・22～V・23グリッドに位置していた。両端は、調査区外に続いていた。4号溝と同一規模、同一形態であった。1・6号溝及び、2号土壇を切っていた。主軸はN-65°-Eで直線であった。規模は幅0.7m、深さ0.3mで、断面逆台形であった。覆土下層に暗褐色土と黄褐色土の互層が認められ、4号溝側からの流入によるものと考えられる堆積状況を示していた。

遺物は中世の灯明皿(第80図5-1)・甕及び磁石(第267図9)が出土した。

## 6号溝 (第74・80・268図)

U・23～V・23グリッドに位置していた。両端は、調査区外に続いていた。遺構の大部分は調査区外にあ

った。1・4・5号溝に切られていた。主軸はN-16°-Wで直線であったが、南端部は直角に屈曲して東側調査区外に繋がると考えられる。規模は幅3.7m、深さ0.24mで、断面箱形であった。覆土上層は炭化物が堆積し、下層には灰白色粘土が堆積していた。

遺物は土師器杯・鉢・甕、須恵器蓋・長頸壺・甕及び、子持勾玉(第268図31)、白玉(第268図34～37)が出土した。

## 7号溝 (第74・75・80図)

V・22～23グリッドに位置していた。9・11号溝に接続していた。底面近くで検出したため一部のみ残存していた。主軸はN-80°-Wで湾曲していた。規模は幅0.65m、深さ0.2mで、断面箱形であった。覆土は暗褐色土ブロックが堆積していた。

遺物は土師器甕(第80図7-1)が混入して出土した。

## 8号溝 (第74・75・80図)

U・21～W・22グリッドに位置していた。底面近くで検出したため一部のみ残存していた。6号井戸跡を切っていた。主軸はN-27°-Wで直線であった。規模は幅0.95m、深さ0.2mで、断面箱形であった。覆土は粘質土が堆積していた。

遺物は土師器杯(第80図8-1・2)が混入して出土した。

## 9号溝 (第75図)

V・22グリッドに位置していた。底面近くで検出したため一部のみ残存していた。7号溝に接続していた。主軸はN-52°-Wで直線であった。規模は幅0.3m、深さ0.2mで、断面U字形であった。覆土は粘質土が堆積していた。出土遺物は、なかった。

## 10号溝 (第75図)

U・21～V・22グリッドに位置していた。底面近くで検出したため一部のみ残存していた。8号溝と並走していた。主軸はN-27°-Wで直線であった。規模は幅0.75m、深さ0.14mで、断面箱形であった。覆土は粘質土が堆積していた。出土した遺物は、なかった。

#### 11号溝 (第75図)

U・21グリッドに位置していた。底面近くで検出したため一部のみ残存していた。7号溝に接続していた。主軸はN-17°-Wで僅かに湾曲していた。規模は幅0.8m、深さ0.1mで、断面箱形であった。覆土は粘質土が堆積していた。出土した遺物は、なかった。

#### 13号溝 (第76図)

S・20~22グリッドに位置していた。調査区内をクランク状に蛇行していた。主軸は不明であった。規模は幅0.8m、深さ0.15mで、断面箱形であった。覆土は粘質土が堆積していた。出土した遺物は、なかった。

#### 14号溝 (第76図)

T・21~S・22グリッドに位置していた。東端は調査区外に、西端は13号溝手前で立ち上がっていた。5・6号掘立柱建物跡を切っていた。また13号井戸跡に切られていた。主軸N-80°-Eで僅かに湾曲していた。規模は幅1.0m、深さ0.2mで、断面箱形であった。覆土は粘質土が堆積していた。出土した遺物は、なかった。

#### 1号掘立柱 (第73図)

W・23~24グリッドに位置していた。2号掘立柱建物跡に平行していた。柱穴は4本検出された。主軸はN-70°-Eで僅かに湾曲していた。各柱穴の平面形は円形で、規模は径20~40cm、深さ20~40cmであった。覆土は灰白色粘質土が堆積していた。出土した遺物は、なかった。

#### 2号掘立柱 (第74図)

V・22~23グリッドに位置していた。4号掘立柱建物跡に平行していた。柱穴は6本検出された。主軸はN-26°-Wで直線であった。各柱穴の平面形は円形で、規模は径20~55cm、深さ30~100cmであった。覆土は灰白色粘質土が堆積していた。

遺物は66号柱穴より須恵器坏が出土した。

#### 3号掘立柱 (第75・76・77図)

T・22~U・22グリッドに位置していた。4号掘立柱建物跡に平行していた。柱穴は7本検出された。主軸はN-20°-Wで直線であった。各柱穴の平面形は

円形で、規模は径20~30cm、深さ15~60cmであった。

覆土は黄褐色土ブロックが堆積していた。出土した遺物は、なかった。

#### 4号掘立柱 (第76・77図)

R・21~S・21グリッドに位置していた。5号掘立柱建物跡を挟んで3号掘立柱に平行していた。柱穴は8本検出された。主軸はN-20°-Wで直線であった。各柱穴の平面形は円形で、規模は径20~50cm、深さ10~40cmであった。覆土は黄褐色土ブロックが堆積していた。出土した遺物は、なかった。

#### 5号掘立柱 (第76・77図)

S・20~S・21グリッドに位置していた。5・8号掘立柱建物跡の間に位置していた。柱穴は9本検出された。主軸はN-60°-Eで途中で屈曲していた。各柱穴の平面形は円形で、規模は径20~40cm、深さ10~100cmであった。覆土は灰白色粘質土が堆積していた。出土した遺物は、なかった。

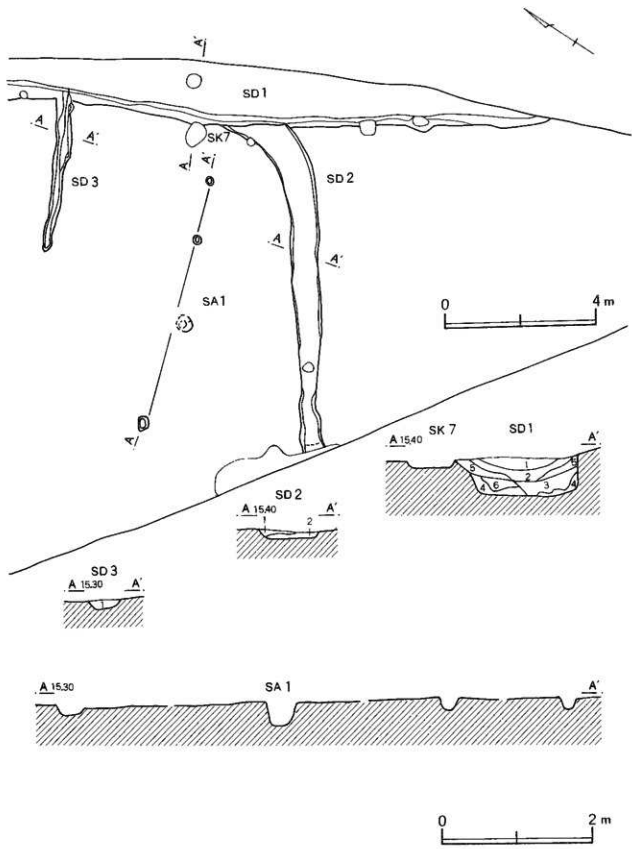
#### 6号掘立柱 (第76・77図)

S・20~T・21グリッドに位置していた。5号掘立柱建物跡に平行していた。柱穴は6本検出された。主軸はN-32°-Wで直線であった。各柱穴の平面形は円形で、規模は径20~40cm、深さ10~25cmであった。覆土は黄褐色土ブロックが堆積していた。出土した遺物は、なかった。

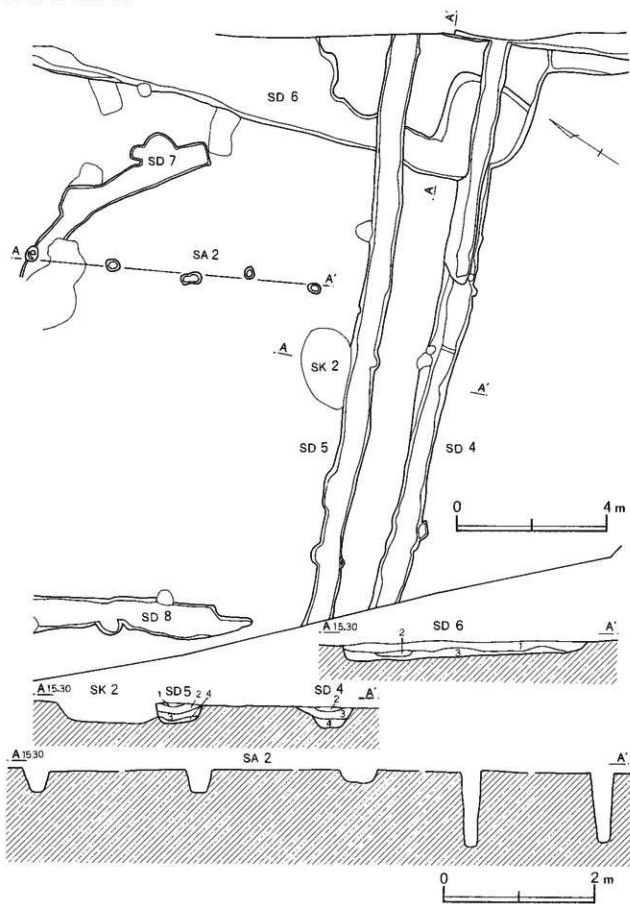
#### 7号掘立柱 (第76・77図)

T・21~22グリッドに位置していた。5号掘立柱建物跡に平行していた。また、3号掘立柱と交差していた。柱穴は8本検出された。主軸はN-66°-Eで直線であった。各柱穴の平面形は円形で、規模は径20~30cm、深さ10~30cmであった。覆土は灰白色粘質土が堆積していた。出土した遺物は、なかった。

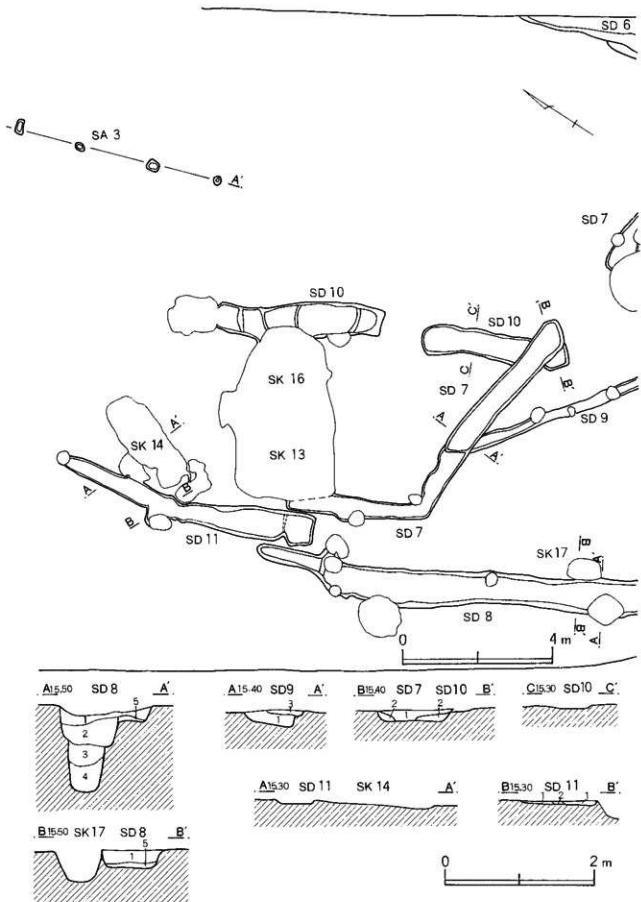
第73図 溝・横列 (1)



第74圖 溝・欄列 (2)

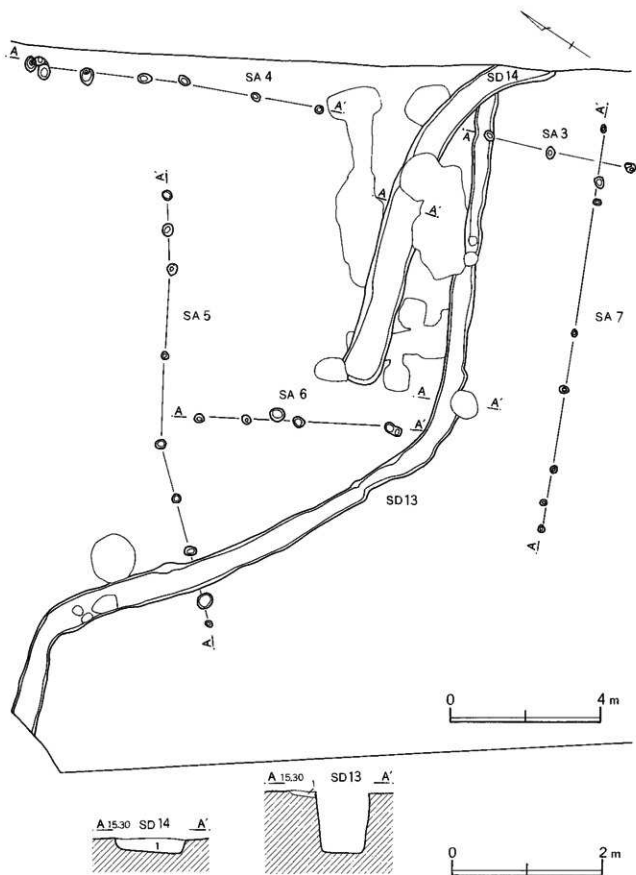


第75図 溝・溝列 (3)

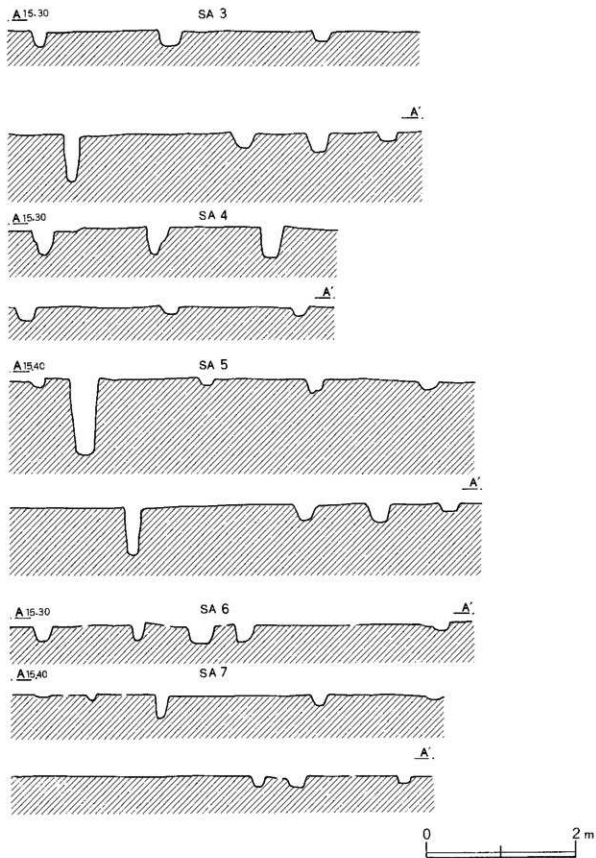




第76図 溝・欄列(4)



第77図 溝・欄列 (5)



第78図 溝・欄列 (6)

SD 1

- 1 黒褐色 (2.53/1) 粘質 白色土微粒子(少) 炭化物粒子、焼土粒子(少)
- 2 暗灰黄色 (2.54/2) シルト質 小砂粒(少) 遺物(多) 炭化物粒子(少)
- 3 灰色 (7.54/1) 粘質 炭化物粒子(微) 鉄分沈着
- 4 オリーブ褐色(2.54/3) 粘質 黄褐色土と灰色粘土の互層
- 5 黒褐色 (2.53/1) 粘質 炭化物粒子(少) 黄褐色土粒子(多)
- 6 灰色 (10Y4/1) 粘質 粘性強

SD 2

- 1 黒褐色 (2.53/1) 粘質 白色土微粒子(微) 焼土粒子、炭化物粒子(少) 遺物含む
- 2 暗灰黄色(2.54/2) 粘質 黄褐色土と暗灰色粘土の互層

SD 3

- 1 灰色(5Y4/1) 粘質 暗褐色土粒子、灰白色土粒子(多)

SD 4・SD 5

- 1 黄灰色 (2.54/1) 粘質 白色土微粒子(微) 黄褐色土粒子(多)
- 2 黄灰色 (2.54/1) 粘質 白色土微粒子(少) 焼土粒子(少) 鉄分沈着
- 3 灰色 (5Y4/1) 粘質 焼土粒子(微) 黄褐色土粒子(少)
- 4 オリーブ褐色(2.54/5) 粘質 黄褐色土と暗灰色粘土の互層

SD 6

- 1 黄灰色(2.54/1) 粘質 暗褐色土微粒子(少) 焼土粒子、炭化物粒子(微)
- 2 黒褐色(2.54/1) 粘質 灰白色粘土(多) 焼土粒子(少)
- 3 黄褐色(2.55/4) 粘質 灰白色粘土(少)

SD 7・SD 9

- 1 オリーブ褐色(2.54/3) 粘質 暗褐色土ブロック(多) 黄褐色土(多)
- 2 黄褐色 (2.55/4) 粘質 オリーブ褐色土(少)
- 3 黄灰色 (2.54/2) 粘質 暗黄褐色土ブロック(少) 鉄分(多)

SD 8

- 1 黄灰色 (2.54/1) 粘質 暗黄褐色土ブロック(多) 乳白色土(少)
- 2 褐灰色 (10Y8/1) 粘質 乳白色土ブロック(多) 鉄分(多)
- 3 にぶい黄色(2.56/4) 粘質 にぶい黄色土ブロック、褐灰色土(微) 鉄分(多) しまり(欠)
- 4 黒褐色 (2.53/1) 粘質 層中に含む物なし
- 5 明黄褐色 (2.56/5) 粘質 褐灰色土を層中に含む しまり(良)

SD 10

- 1 オリーブ褐色(2.54/3) 粘質 暗褐色土ブロック(多) 黄褐色土(多)

SD 11

- 1 褐灰色 (10Y8/1) 粘質 2層の土を層中に含む しまり(良)
- 2 にぶい黄色(2.56/4) 粘質 灰褐色土ブロック(少) しまり(良)

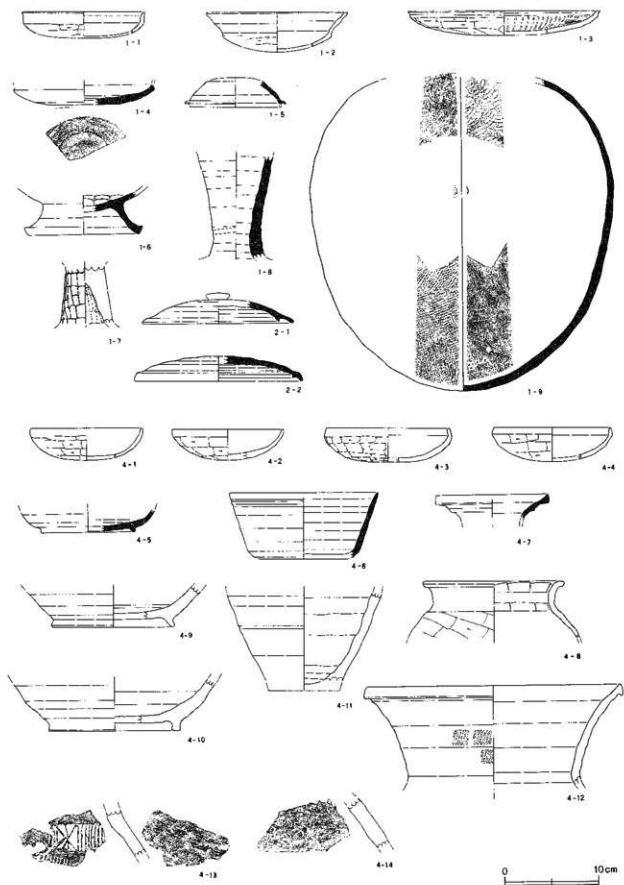
SD 13

- 1 灰白色(5Y4/1) 粘質 灰白色粘土(少) 炭化物粒子、焼土粒子(微)

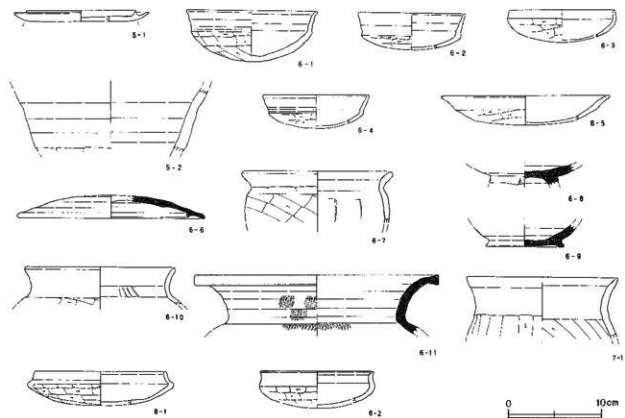
SD 14

- 1 黒色(2.52/1) 粘質 褐色土粒子(少) 底面に灰白色粘土を帯状堆積

第79圖 溝・柵列出土遺物(1)



第80図 溝・横列出土遺物(2)



D区溝出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎上	脱成	色調	残存	備考
1-1	土師器杯	(13.2)	(2.8)	(13.0)	BEF	3	にぶい橙色	5%	内外面赤彩
1-2	土師器杯	(15.0)	(4.2)	(11.6)	BE	3	浅黄褐色	5%未満	
1-3	土師器盤状杯	(20.4)	(2.6)	(7.0)	DGJ	3	にぶい橙色	20%	内面磨後 放射暗文 覆土
1-4	須恵器甕	-	-	(15.0)	IJ	2	灰色	20%	南比企
1-5	須恵器杯蓋	(11.0)	-	-	BF	2	灰色	5%未満	
1-6	須恵器高台付壺	-	-	(12.0)	BL	2	灰色	5%未満	不明 覆土
1-7	高杯(脚葺)	-	-	-	BEF	3	浅黄褐色	10%	赤彩
1-8	須恵器長頸壺	-	-	-	AB	2	黒緑灰色	5%未満	南比企
1-9	須恵器甕	-	-	(10.0)	BF	1	灰白色	20%	表面上部自然釉(暗オリーブ)
2-1	須恵器杯蓋	(16.0)	-	-	BCF	2	灰色	5%未満	東海
2-2	須恵器杯蓋	(18.0)	-	-	BF	1	灰白色	20%	
4-1	土師器杯	(12.0)	(3.4)	(10.2)	BCD	3	橙色	10%	
4-2	土師器杯	(12.0)	(3.2)	(10.0)	ABDE	4	にぶい橙色	10%	
4-3	土師器杯	(13.0)	(3.5)	(11.0)	ABD	3	にぶい橙色	30%	内面蒨書「×」印有り
4-4	土師器杯	(13.4)	(3.5)	(11.5)	ABF	3	橙色	5%	
4-5	須恵器高台付杯	-	-	(10.0)	AF	3	灰白色	5%	末野
4-6	須恵器碗	(16.0)	(7.0)	(9.2)	BF	2	灰白色	5%	不明
4-7	須恵器長頸壺	(11.2)	-	-	BF	1	灰白色	5%未満	湖西
4-8	土師器甕	(15.0)	-	-	BEF	3	浅黄褐色	5%未満	
4-9	楯鉢	-	-	(13.0)	CF	2	灰白色	5%未満	(中世)
4-10	片口鉢	-	-	14.0	BL	1	灰白色	10%	(中世)
4-11	壺	-	-	-	BF	1	灰赤色	5%未満	(中世)
4-12	甕	(27.0)	-	-	BCFL	2	赤褐色	5%未満	(中世)
4-13	常滑甕	-	-	-	BC	1	灰色	5%未満	(中世)
4-14	甕	-	-	-	ABEF	1	明オリーブ/灰色	5%未満	表面施釉(暗オリーブ)(中世)
5-1	須恵器灯明皿	(14.4)	1.3	(12.0)	BCF	2	にぶい赤褐色	15%	不明
5-2	甕	-	-	-	CF	1	灰白色	5%未満	(中世)
6-1	土師器杯	(14.0)	5.4	(13.0)	ACFG	3	明赤褐色	30%	
6-2	土師器杯	(11.4)	(3.9)	(10.7)	BF	3	橙色	10%	外面底部煤付着
6-3	土師器杯	(11.2)	(3.5)	(10.0)	BE	2	にぶい橙色	5%	
6-4	土師器杯	(11.2)	(3.4)	(9.5)	BF	3	にぶい橙色	10%	
6-5	土師器杯	(18.0)	(3.1)	(15.0)	BD	3	にぶい橙色	5%未満	ビット出土
6-6	須恵器杯蓋	20.0	-	-	BCL	2	灰色	15%	末野
6-7	土師器鉢	(15.6)	-	-	ABF	3	橙色	5%未満	
6-8	須恵器台付壺	-	-	-	BF	1	灰白色	5%未満	陶色 透孔有り
6-9	須恵器長頸壺	-	-	-	BF	1	灰白色	5%未満	湖西
6-10	土師器甕	(16.0)	-	-	BEF	3	橙色	5%未満	
6-11	須恵器甕	26.0	-	-	ABF	2	褐灰色	5%未満	不明
7-1	土師器甕	(16.0)	-	-	AEG	3	にぶい橙色	5%未満	
8-1	土師器杯	(14.0)	(3.5)	(15.6)	BDE	3	橙色	10%	
8-2	土師器杯	(12.2)	(3.9)	(12.4)	BEF	3	浅黄褐色	10%	内外面赤彩

## VI B区の調査

### 1 遺跡の概観

調査区は、JR上越新幹線南側に位置し、千間堀恵水路と元荒川に挟まれた長方形の区画であった。北西側は吹上町境界により、南東側は市道によってC区と区分された。整理対象面積は4,000㎡であった。

遺構確認面での標高は、15.5mであった。調査区全体での自然地形は、北西-南東に延びる細長い微高地地形の中央部にあたり、調査区内に南東方向へ延びる浅い谷地形があった。また、南西側は、元荒川の旧河道によって浸食を受け遺構の一部は壊されていた。

遺構確認面の基盤土壌は、暗黄褐色土でC区に比べやや粘性の高いシルト質土壌であった。この上には、古代から中世にかけて堆積したと考えられる暗褐色の遺物を含む粘土質土壌が堆積していた。また、その上層には、元荒川の洪水によると考えられる、灰黄褐色のシルト質土が厚く堆積していた。

確認された遺構は、竪穴住居跡91軒、掘立柱建物跡30棟、土壇119基、井戸跡2基、溝28条、不明遺構1基、櫓列4列、ピット多数であった。遺構の総体としての分布は調査区長辺に並行し、元荒川よりの最も標高の高い細長い帯状の地域に、竪穴住居跡が集中して営まれていた。また、掘立柱建物跡の多くは、住居跡より一段低い谷地形部分に、長軸方向をほぼ合わせた状態で検出された。土壇、ピットなどは、住居跡、掘立柱建物跡周辺部に多く分布していた。溝は微高地形に沿うものと、これに直行するものが検出され、直行する溝の多くが新しいことが判明した。このほか、遺構覆土及び遺構外から滑石製模造品が出土した。

竪穴住居跡は6世紀から8世紀に属するものであった。住居跡は列状に重複して検出され、さらに同位置での拡張及び、建て替えが行なわれていた。カマドの設置方向は北西方向を基調としながらも、北東方向及び南西方向にも認められた。このうち26号住居跡からは、用途不明（櫛払？）の鉄製品が出土した。17号住居跡では6世紀代の日常容器の良好な資料が出土し

た。25号住居跡からは、所謂「埼玉型環」と呼ばれている焼きの白い環が纏まって出土した。また32号住居跡は調査区内で最大規模の住居跡であった。

掘立柱建物跡は総柱のものと側柱のものが認められた。総柱建物跡の多くには、版築状の覆土が確認された。いずれも、8世紀代の住居跡を避けて構築していること及び、出土遺物が当該期にあたることから、この時期に集中して建てられた可能性が高い。また、8・13号掘立柱建物跡柱穴より柱根が検出された。

土壇の多くは、住居跡及び掘立柱建物跡脇で検出されたほか、住居跡を切って構築しているものも認められた。127号土壇からは7世紀末から8世紀初頭にかけての土師器・須恵器が纏まって出土した。174号土壇からは須恵器高杯が出土した。このほか、104号土壇からは、2枚の板碑が出土し、この内1枚は直立していた。

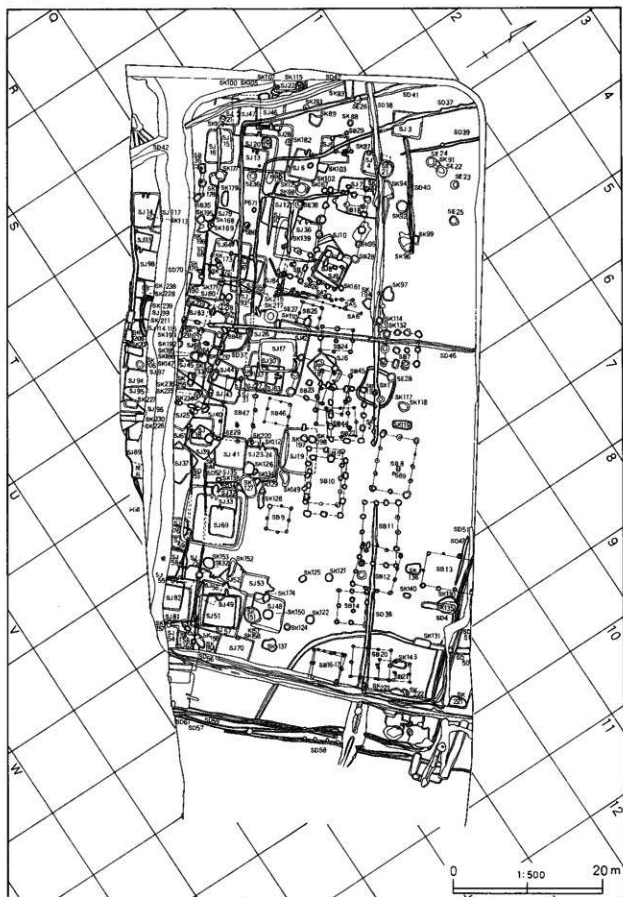
井戸跡は全て中世に属していた。いずれも素掘りの井戸で、基盤層下層にあたる青灰色シルト質土壌からの湧水により、滯水する構造であった。このうち、29号井戸跡からは片口鉢が出土した。

中世の堀は断面逆台形で、複数回の掘り替えが行なわれていた。また、調査区北側で旧小河川に接続していた。

56号溝及び57・58・59・61号溝は、平行し、類似する覆土及び構造から2条一対のものと考えられ、溝間に道路状の遺構が想定された。また56号溝覆土上層は中世の溝が切っており堀に接続していた。

このほか、144号土壇覆土上部からは、縄文時代晩期の土器片が出土し、遺構覆土に混入した状態で縄文時代晩期土器片及び、埴輪破片が出土した。

第81图 B区全测图





## 2 遺構と遺物

### (1) 住居跡

#### 3号住居跡 (第82図)

M-2・3グリッドに位置していた。37号溝に切られていた。カマドは溝によって壊されたものと考えられ、検出されなかった。平面形は方形で、規模は長軸3.85m、短軸3.32mであった。床面までの深さは0.08mで、均一であった。主軸はN-41°-Eであった。貯蔵穴は北東コーナーに検出され平面楕円形であった。柱穴は3本が検出された。いずれも掘り込みが浅かったが柱痕の抜き取り痕跡が検出された。壁際には掘り込みの深い壁周溝が巡っていたが、北西辺中央部は切れていた。

出土した遺物は、なかった。

#### 4号住居跡 (第83・87図)

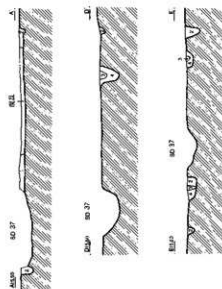
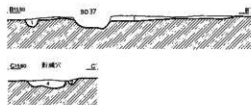
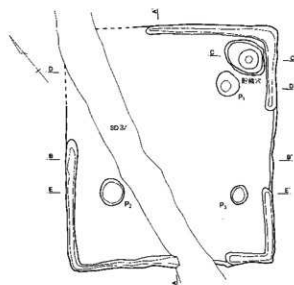
N-2・3グリッドに位置していた。38号溝及び、21号井戸跡、87号土壌に切られていた。カマドは溝及び井戸跡によって壊されたものと考えられ、検出されなかった。平面形は方形で、規模は長軸3.16m、短軸

3.02mであった。床面までの深さは0.08mで、均一であった。主軸は推定でN-42°-Wであった。柱穴及び貯蔵穴は検出されなかった。壁際には壁周溝が巡っていたが、南西コーナー部は切れていた。

遺物は土師器環 (第87図4-1) が出土した。

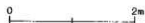
#### 5号住居跡 (第84・87・266図)

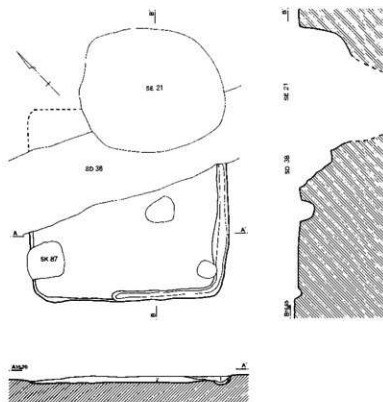
N・O-2グリッドに位置していた。6号住居跡及び37号溝、29号掘立柱建物跡に切られていた。平面形は方形で、規模は長軸3.78m、短軸3.62mであった。床面までの深さは0.16mで、均一であった。主軸はN-36°-Eであった。カマドは北東側中央やや東寄りに設置されていた。袖部は造り付けであった。また以降説明のない限りカマド袖部は造り付けであることを基本とする。貯蔵穴はカマド東脇に検出された。平面方形で下段が円形となる二段掘り込みであった。貯蔵穴最上面上には火山灰が薄く堆積していた。また、貯蔵穴とカマドの間にベンガラと考えられる赤色顔料が検



#### S 33

- 1 緑オリーブ色 (L 5Y3/3) 粘質 黄褐色土ブロック (多)
- 2 赤褐色 (10YR5/1) 粘質 黄褐色土塊 (少)
- 3 赤褐色 (10YR2/1) 粘質 黄褐色土塊 (多) (柱痕)
- 4 褐色 (10YR4/6) 粘質 黄褐色土ブロック (多) (柱穴)





出された。柱穴は4本検出され、いずれも掘り込みが浅かった。壁際には壁周溝が巡っていたが、南西辺側が一部切れていた。

遺物は貯蔵穴より土師器高坏(5-3)及び甌(5-4)、粘土塊(第266図2)が、カマド脇より壺口縁部(5-5)が、床面直上より土師器坏(5-1・2)が出土した。

**6号住居跡(第85・87図)**

O-2・3グリッドに位置していた。5号住居跡及び103号土壌を切っていた。また、37号溝に切られていた。平面形は方形で、規模は長軸3.8m、短軸3.64mであった。床面までの深さは0.14mで、不均一であった。主軸はN-41°-Wであった。カマドは北西側中央に設置されていた。焚き口の掘り込みは浅く煙道部は削平されていた。貯蔵穴はカマド西脇に検出された。平面長方形で下段が楕円形となる二段掘り込みであった。貯蔵穴には多量の炭化物が堆積していた。柱穴は8本検出され、建て替えが行なわれたと考えられる。壁際には壁周溝が巡っていた。

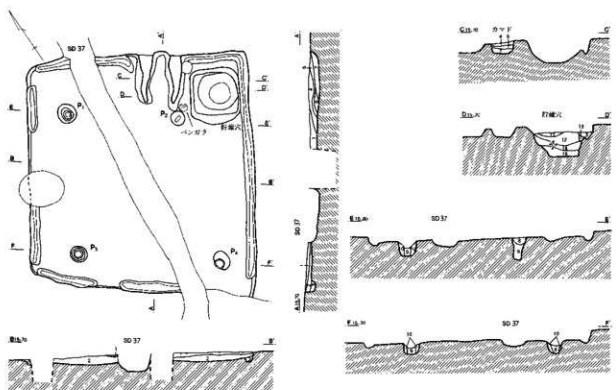
遺物は貯蔵穴より土師器坏(6-1)及び甌(6-5)が、カマド周辺より壺下半部(6-2)が、床面直上より土師器甕及び台付甕底部(6-3・4・7・8)が出土した。

**7号住居跡(第86・87・266図)**

N・O-3グリッドに位置していた。18・28号掘立柱建物跡及び、38号溝、90号土壌に切られていた。平面形は長方形で、規模は長軸5.54m、短軸4.9mであった。床面までの深さは0.08mで、均一であった。主軸はN-39°-Eであった。カマド及び貯蔵穴は検出されなかった。柱穴は6本検出され、建て替えが行なわれたと考えられる。

遺物は床面直上より土師器坏(7-1・2・3)及び須恵器長頸壺(7-4)、土師器甕(7-5)、土錘(第266図12)が出土した。

第84図 5号住居跡

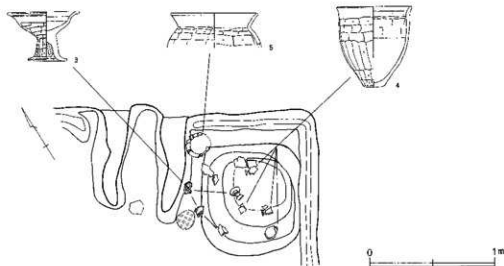


S J 5

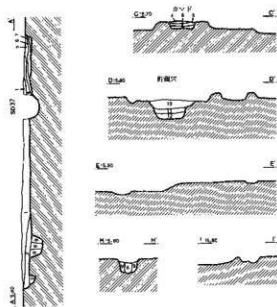
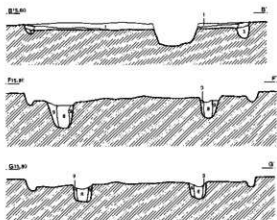
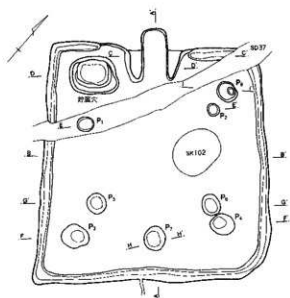
- |        |           |      |                              |
|--------|-----------|------|------------------------------|
| 1 赤褐色  | (2.513/1) | 粘質   | 焼土粒子、炭化物粒子(微)                |
| 2 暗赤灰色 | (2.514/2) | 粘質   | 焼土粒子、炭化物粒子(微)、黄褐色土粒子(少)      |
| 3 黒褐色  | (2.513/2) | 粘質   | (吸漙層七)                       |
| 4 黒褐色  | (2.513/1) | シルト質 | 焼土粒子、炭化物粒子(少)、黄褐色土粒子(少)(カマド) |
| 5 灰色   | (514/1)   | 砂質   | 焼土アロツク(多) 灰層                 |
| 6 暗赤褐色 | (514/6)   |      | 焼土硬化面                        |
| 7 黒色   | (2.512/1) | 粘質   | 層方(カマド)                      |
| 8 赤褐色  | (2.513/1) | 粘質   | 焼土粒子、炭化物粒子(多)(柱穴)            |
| 9 黒褐色  | (2.513/2) | 粘質   | 柱眼(柱穴)                       |

- |           |           |    |                                    |
|-----------|-----------|----|------------------------------------|
| 10 暗灰黄色   | (2.514/2) | 粘質 | 層方(柱穴)                             |
| 11 暗灰黄色   | (2.514/2) | 砂質 | 白色練砂粒子(大田原)形状堆積、焼土粒子、炭化物粒子(少)(貯蔵穴) |
| 12 黒褐色    | (2.513/1) | 粘質 | 焼土粒子、炭化物粒子(多)(貯蔵穴)                 |
| 13 オリーブ褐色 | (2.514/3) | 粘質 | 無方(貯蔵穴)                            |
| 14 暗赤灰色   | (2.514/2) | 粘質 | 黒褐色+ブツツク(少)、焼土粒子(少)(貯蔵穴)           |
| 15 黄灰色    | (2.514/1) | 粘質 | 灰色粘土+黄褐色土の互層                       |

0 2m



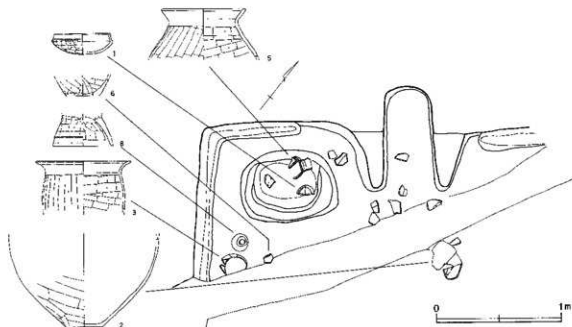
第85図 6号住居跡



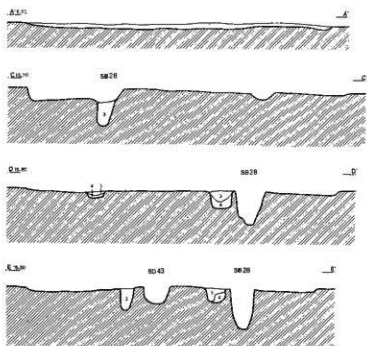
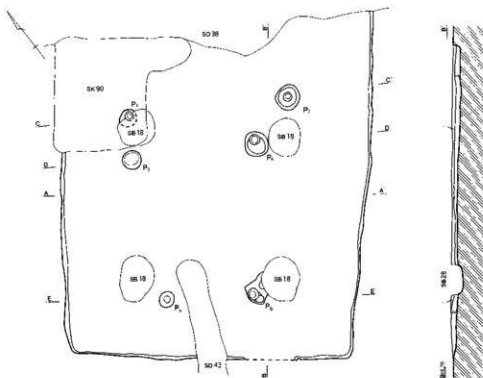
S 16

- |                          |                          |
|--------------------------|--------------------------|
| 1 オリーブ黒色 (S Y 3 / 1) 粘質  | 粘土粒子 (少)、炭化物粒子 (微)       |
| 2 灰ナリーブ色 (S Y 4 / 2) 粘質  | 黄褐色土粒子 (少)               |
| 3 オリーブ黒色 (S Y 3 / 2) 粘質  | (明溝層上)                   |
| 4 黒褐色 (S 203 / 2) シルト質   | 粘土粒子 (多)、炭化物粒子 (多) (カマド) |
| 5 黒褐色 (S 203 / 2) 砂質     | 焼土ブロック、灰層 (カマド)          |
| 6 暗赤褐色 (S 500 / 2) 粘質    | 焼土層化面 (カマド)              |
| 7 黒褐色 (S 513 / 2) 粘質     | (竈跡)                     |
| 8 黒褐色 (S 513 / 2) 粘質     | 柱穴 (柱穴)                  |
| 9 暗赤褐色 (S 514 / 2) 粘質    | (柱穴)                     |
| 10 ナリーブ黒色 (S Y 3 / 2) 粘質 | 粘土粒子、炭化物粒子 (少) (貯蔵穴)     |
| 11 灰色 (S Y 4 / 1) 粘質     | 黄褐色土粒子 (少) (貯蔵穴)         |
| 12 灰ナリーブ色 (S Y 4 / 2) 粘質 | 粘土粒子 (少)、炭化物粒子 (多) (貯蔵穴) |

0 2m



第86図 7号住居跡



S J 7

- 1 オリーブ褐色 (2.316/4) 粘質 黄褐色土ブロック (多)
- 2 灰ナリーブ色 (S14/2) 粘質 黄褐色土ブロック (少), 焼土粒子 (濃)
- 3 黒色 (2.312/1) 粘質 黄褐色土ブロック (少), 焼土粒子 (少) (柱穴)
- 4 黒色 (2.312/1) 粘質 (柱穴)

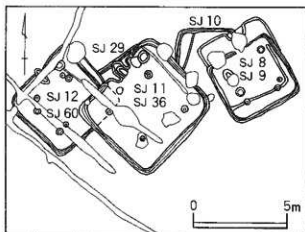




B区4・5・6・7号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
4-1	土師器杯	(11.0)	(2.5)	(8.6)	ABD	3	にぶい棕色	5%未満	
5-1	土師器杯	12.0	4.6	12.0	BDG	3	にぶい棕色	80%	
5-2	土師器鉢	(10.0)	(5.0)	(4.0)	CDG	3	にぶい棕色	20%	
5-3	土師器高杯	15.6	10.5	8.4	AEFH	3	にぶい棕色	95%	内外面赤彩 貯穴出土
5-4	土師器甕	20.3	17.2	4.2	ACF	3	棕色	60%	貯穴出土
5-5	土師器甕	(19.0)	-	-	BCL	3	棕色	10%	貯穴出土
6-1	土師器杯	12.2	4.4	13.1	BEF	4	棕色	80%	SJ6とSK88で接合
6-2	土師器壺	-	-	7.7	BEFL	4	浅黄棕色	15%	
6-3	土師器長胴甕	(20.6)	-	-	ACL	3	棕色	20%	
6-4	土師器長胴甕	(15.0)	-	-	BCC	4	棕色	20%	
6-5	土師器甕	(18.0)	-	-	BL	4	棕色	10%	
6-6	土師器甕	-	-	9.2	ACE	3	棕色	5%未満	
6-7	土師器甕	-	-	(5.0)	BFL	3	棕色	5%未満	
6-8	台付甕(台部)	-	-	13.0	ACD	3	棕色	5%未満	
7-1	土師器杯	(13.0)	(3.2)	(10.0)	ABD	3	棕色	5%未満	
7-2	土師器杯	(13.0)	(2.9)	(11.4)	BD	3	棕色	5%未満	ビット出土
7-3	土師器壺状杯	(14.0)	(6.3)	(13.2)	BEF	3	にぶい棕色	20%	内外面黒色化
7-4	須恵器長頸壺(頸部)	-	-	-	B	1	灰白色	5%未満	東海西部
7-5	土師器長胴甕	20.0	-	-	CDE	4	棕色	5%未満	

第88図 重積住居跡群(1)

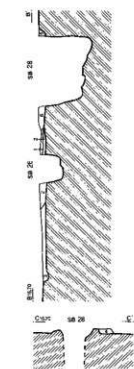
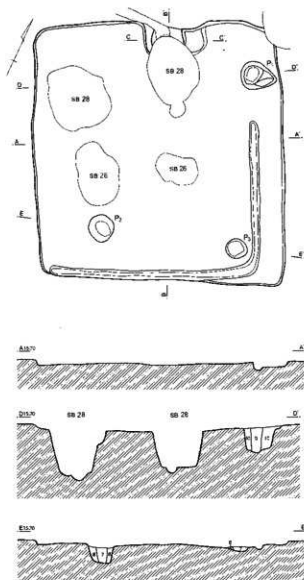


8号住居跡(第89・95・272図)

O-3・4グリッドに位置していた。9・10号住居跡を切っていた。また、28号掘立柱建物跡に切られていた。平面形は方形で、規模は長軸4.1m、短軸4.0mであった。床面までの深さは0.1mで、不均一であった。主軸はN-25°-Wであった。カマドは北西側中央に設置されていたが、大部分を28号掘立柱建物跡柱穴によって壊されていた。焚き口の掘り込みは浅く煙道部は削平されていた。貯蔵穴は検出されなかった。柱穴は3本検出され、柱痕が確認された。南側壁際から住居跡内東側にかけて壁間溝が巡っていた。

遺物は覆土より土師器杯(8-1・2・3)及び鉢(8-6)、小型壺(8-7)、須恵器杯(8-4)、蓋(8-5)、棒状鉄製品(第272図1)が出土した。

第89図 8号住居跡



SJ8

1	黒褐色 (2.513/1)	粘質	炭化物粒、焼土粒子(多)
2	黒褐色 (2.513/2)	粘質	炭化物粒、焼土粒子(少)
3	オリーブ褐色 (2.516/3)	粘質	炭褐色土粒子(多)
4	暗灰褐色 (2.516/2)	シルト質	焼土ブロック(多)、灰層含む(カマド残土)
5	ブルーグレー褐色 (2.516/2)	粘質	炭褐色土粒子(多)(カマド基方)
6	暗灰褐色 (2.514/2)	シルト質	(2)Pカマド層土の灰及び焼土ブロック含む
7	黒灰色 (2.514/1)	粘質	柱穴(柱穴)
8	暗灰褐色 (2.514/2)	粘質	柱穴(柱穴)
9	灰褐色 (2.515/1)	粘質	柱穴(柱穴)
10	暗灰褐色 (2.515/2)	粘質	柱穴(柱穴)



9号住居跡 (第90図)

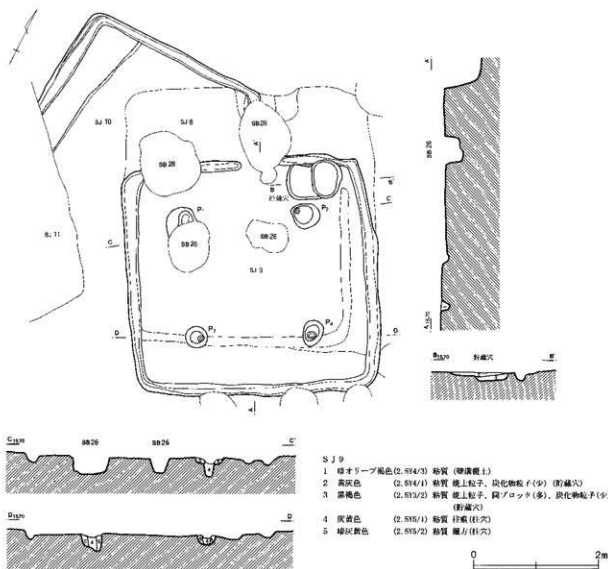
0-3・4グリッドに位置していた。10号住居跡を切っていた。また、8号住居跡に切られていた。平面形は方形で、規模は長軸4.0m、短軸3.7mであった。床面までの深さは0.02mで、大部分を8号住居跡によって壊されていた。主軸はN-25°-Wであった。カマドは28号掘立柱建物跡によって壊され、北側中央貯蔵穴脇床面に、僅かに焚き口部焼土が検出された。貯蔵穴はカマド東脇に検出された。平面長方形で下段が楕円形となる二段掘り込みであった。貯蔵穴には少量の炭化物が堆積していた。柱穴は4本検出され、3本から柱痕が検出された。壁際には壁間溝が巡っていた。

出土した遺物は、なかった。

10号住居跡 (第90図)

0-3グリッドに位置していた。8・9・10号住居跡及び28号掘立柱建物跡に切られていた。また、床面及び壁間溝の一部のみの検出であった。平面形は推定方形で、規模及び主軸は不明であった。柱穴は検出されなかった。出土した遺物は、なかった。





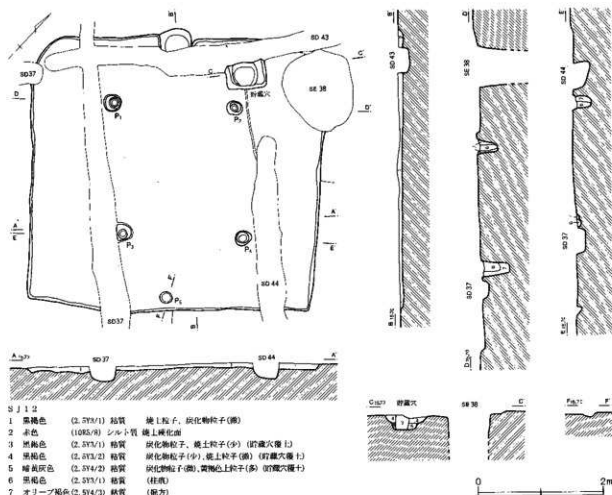
12号住居跡 (第91・95図)

O-2・3グリッドに位置していた。11号住居跡を切っていた。60号住居跡と重複し切っていた。また、39・43・44号溝及び38号井戸跡に切られていた。平面形は方形で、規模は長軸4.6m、短軸4.4mであった。床面までの深さは0.1mで、60号住居跡を埋め戻して張り床を構築していた。主軸はN-45°-Wであった。カマドは北西側中央に設置されていたが、大部分が43号溝によって壊されていた。焚き口の掘り込みは浅く煙道部袖部は削平されていた。貯蔵穴はカマド東脇に検出された。平面長方形で下段が円形となる二段掘り

込みであった。貯蔵穴には少量の炭化物が堆積していた。柱穴は5本検出され、柱穴1・2・3・4から柱痕が確認された。柱穴5は出入口施設に関連するものと考えられる。

遺物は覆土より土器器杯(12-1・2・3・4)が出土した。

第91図 12号住居跡



60号住居跡 (第92図)

0-2・3グリッドに位置していた。11号住居跡及び38号井戸跡に切られていた。また、12号住居跡と重複していた。平面形は方形で、規模は長軸4.24m、短軸4.08mであった。床面までの深さは0.04mで、不均一であった。主軸はN-50°-Wであった。カマドは北西側中央に設置されていたが、大部分を39・43・44号溝によって壊されていた。焚き口の掘り込みはやや深く壁道部は削平されていた。貯蔵穴は検出されなかった。柱穴は4本検出された。うち柱穴1・2・3から柱痕が検出された。東側壁際には壁周溝が検出された。出土した遺物は、なかった。

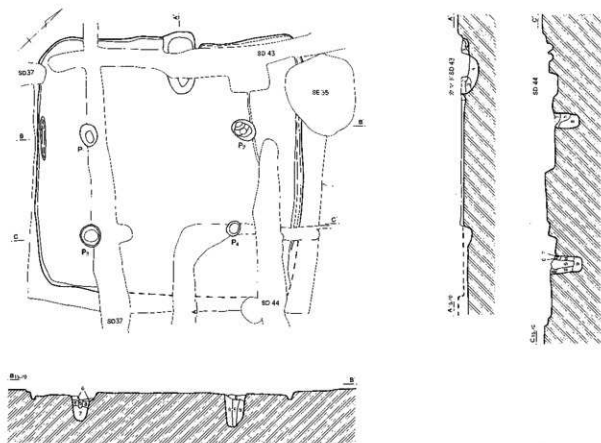
11号住居跡 (第93・95・268図)

0-3グリッドに位置していた。29号住居跡を切っていた。また、36号住居跡と重複し、切っていた。12

号住居跡及び、28号掘立柱建物跡、44号溝に切られていた。平面形は方形で、規模は長軸5.64m、短軸5.3mであった。床面までの深さは0.1mで、36号住居跡床面を埋め戻し貼り床を構築していた。主軸はN-46°-Wであった。カマドは北西側中央に設置されていた。焚き口の掘り込みはやや深く壁道部は削平されていた。貯蔵穴はカマド東脇に検出された。平面は円形で浅い掘り込みであった。貯蔵穴には多量の炭化物が堆積していた。柱穴は4本検出され、全ての柱穴から柱痕が確認された。壁際には壁周溝が巡っていた。

遺物はカマドより高坏 (11-6) が、覆土より土師器坏 (11-1・2・3・4) 及び小型壺 (11-7)、甕 (11-8・9)、須恵器坏 (11-5) が出土した。このほか、カマド脇より滑石製紡錘車 (第268図24) が出土した。

第92図 60号住居跡



S 3 6 0

- |   |                  |            |         |                             |     |                 |            |                         |                       |
|---|------------------|------------|---------|-----------------------------|-----|-----------------|------------|-------------------------|-----------------------|
| 1 | オレンジ色 (I. 574/3) | 砂質         |         | 6                           | 黒褐色 | (I. 575/2)      | 粘質         | 暗褐色土粒子(多), 黄土粒子(薄) (柱穴) |                       |
| 2 | 黒褐色              | (I. 575/1) | シルト質    | 塊上段下, 同ブロック(少), 暗褐色土ブロック(多) | 7   | 黄褐色             | (I. 575/4) | シルト質                    | 暗褐色土粒子, 同ブロック(少) (柱穴) |
|   |                  |            | (カマド覆土) |                             | 8   | 暗オレンジ色 (S 74/3) | 粘質         | 暗褐色土粒子(多) (柱穴)          |                       |
| 3 | 灰黄褐色             | (I. 574/2) | 粘質      | 塊上段下(薄), 暗褐色土粒子(少) (カマド覆土)  | 9   | 灰オレンジ色 (S 74/2) | 粘質         | 柱穴                      |                       |
| 4 | 暗褐色              | (I. 575/3) | シルト質    | 黄土質土ブロック(少), 暗褐色土ブロック(多)    |     |                 |            |                         |                       |
|   |                  |            | (カマド覆土) |                             |     |                 |            |                         |                       |
| 5 | 暗灰色              | (I. 574/2) | 粘質      | 灰白色土粒子(多), 同ブロック(少) (柱穴)    |     |                 |            |                         |                       |

0 2m

### 36号住居跡 (第94図)

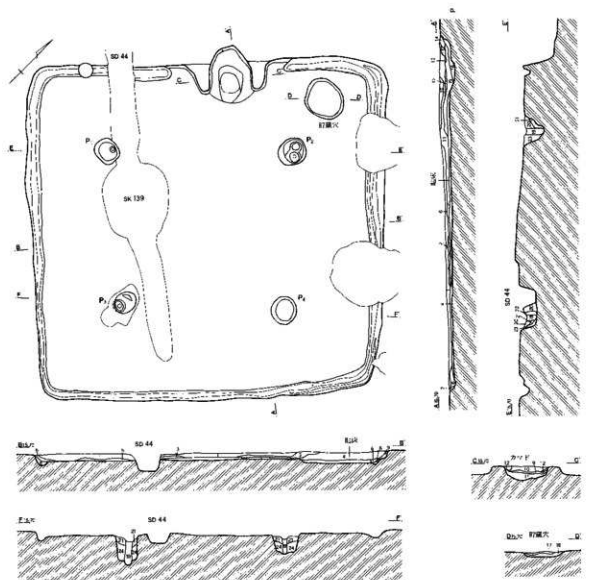
0-3グリッドに位置していた。29号住居跡を切っていた。11号住居跡と重複し切られていた。また28号掘立柱建物跡及び、44号溝に切られていた。平面形は方形で、規模は長軸5.36m、短軸5.04mであった。床面までの深さは0.05mで、不均一であった。また床面の大部分を11号住居跡によって壊されていた。主軸はN-46°-Wであった。カマドは北西側中央に設置されていた。焚き口の掘り込みは浅く煙道部は削平されていた。貯蔵穴はカマド西脇に検出された。平面楕円形で下段が円形となる二段掘り込みであった。貯蔵穴には多量の炭化物が堆積していた。柱穴は5本検出さ

れ、柱穴2・3・4から柱痕が確認された。壁際には壁周溝が巡っていた。出土した遺物は、なかった。

### 29号住居跡 (第94図)

0-3グリッドに位置していた。11・36号住居跡に切られていた。遺構の大部分を11号住居跡によって壊されていた。平面形は推定方形で、規模及び主軸は不明であった。柱穴は2本検出された。壁際には壁周溝が巡っていた。出土した遺物は、なかった。

第93図 11号住居跡

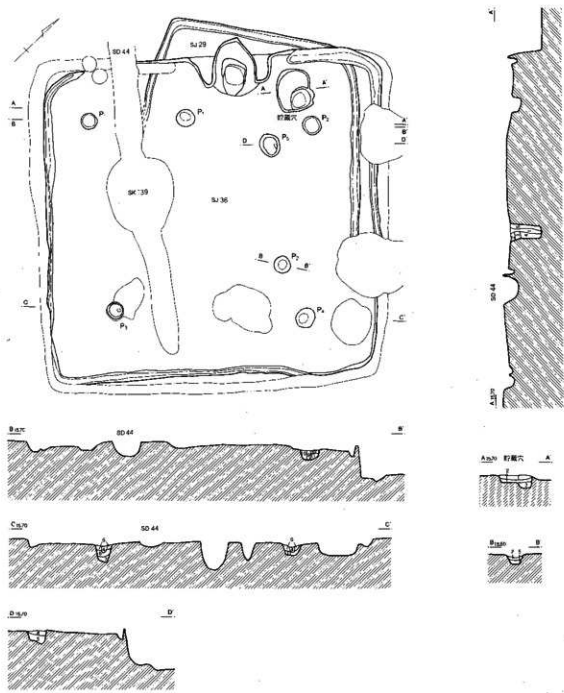


S J 1 1

- |    |        |                |                                |    |      |                |                                |
|----|--------|----------------|--------------------------------|----|------|----------------|--------------------------------|
| 1  | 黒灰色    | (10YR5/1) 粘質   | 黒褐色土粒子(多)、炭化物粒子(少)             | 15 | 黒色   | (10YR3/2) シルト質 | 焼土粒子、同ブロック(少)(カマド覆土)           |
| 2  | 赤色     | (10YR2/1) 粘質   | 炭化物粒子層状堆積                      | 16 | 灰黄褐色 | (10YR4/2) 粘質   | 黄褐色土粒子、同ブロック(多)、焼土粒子(多)(カマド覆土) |
| 3  | 黄灰色    | (2.5Y7/1) 粘質   | 明褐色土粒子(多)、黄褐色土ブロック(多)          | 17 | 褐色   | (10YR4/4) シルト質 | (貯蔵穴)                          |
| 4  | 黄灰色    | (2.5Y4/1) 粘質   | 暗褐色土粒子(多)、焼土粒子(多)              | 18 | 暗灰色  | (10YR4/1) 粘質   | 炭化物粒子(多)(貯蔵穴)                  |
| 5  | 暗黄褐色   | (2.5Y5/2) 粘質   | 暗黄褐色土ブロック(少)                   | 19 | 暗灰色  | (10YR4/1) シルト質 | 焼土粒子、炭化物粒子(多)、灰褐色土ブロック(多)(住居)  |
| 6  | 黄灰色    | (2.5Y5/1) 粘質   | 黄灰色土粒子(多)                      | 20 | 暗灰色  | (10YR4/1) 粘質   | 焼土粒子(少)、灰褐色土粒子(少)(柱穴)          |
| 7  | 黄灰色    | (2.5Y4/1) 粘質   | 黄灰色土粒子(中)                      | 21 | 暗灰色  | (10YR4/1) 粘質   | 焼土粒子、炭化物粒子(少)                  |
| 8  | オリーブ褐色 | (2.5Y4/6) 粘質   | 暗灰色土ブロック(多)暗黄褐色土ブロック(少)        | 22 | 灰白色  | (10YR7/1) 粘質   | 焼土粒子(少)(柱穴)                    |
| 9  | にぶい黄褐色 | (10YR5/4) 粘質   |                                | 23 | 褐色   | (10YR4/4) シルト質 |                                |
| 10 | 暗灰色    | (10YR3/1) 粘質   | 焼土粒子(少)、黄褐色土粒子(多)              | 24 | 黒褐色  | (10YR3/1) 粘質   | 黄褐色土粒子(少)                      |
| 11 | 灰黄褐色   | (10YR4/2) 粘質   | 焼土粒子、同ブロック(多)                  |    |      |                |                                |
| 12 | 赤色     | (10YR2/1) 砂質   | 炭化物粒子(多)(カマド覆土)                |    |      |                |                                |
| 13 | 暗赤褐色   | (2.5Y3/2) シルト質 | 灰褐色土粒子(多)、焼土粒子、同ブロック(多)(カマド覆土) |    |      |                |                                |
| 14 | 暗赤褐色   | (2.5Y3/2) シルト質 | 焼土粒子、同ブロック(多)、炭化物粒子(少)(カマド覆土)  |    |      |                |                                |

0 2m

第94図 29・36号住居跡

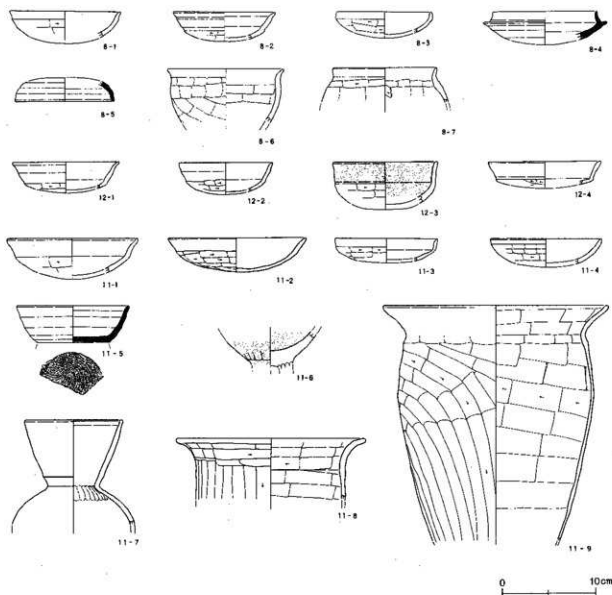


- S J 3 6
- 1 褐色 (10YR1/4) シルト質 粘土粒子(少) (貯蔵穴)
  - 2 褐色 (10YR1/1) シルト質 炭化物粒子(多) (貯蔵穴)
  - 3 褐色 (10YR1/4) 粘質 炭化物粒子(少), 焼土粒子(少)
  - 4 オリーブ褐色(2.5Y4/3) 粘質 灰白色粒子(少), 緑黄褐色土粒子(少) (柱痕)
  - 5 オリーブ褐色(2.5Y4/3) 粘質 灰白色粒子(少), 緑黄褐色土粒子(少), 焼土粒子(少)
  - 6 オリーブ褐色(2.5Y4/2) 粘質 灰白色粒子(多), 焼土ブロック(多)
  - 7 灰オリーブ色(5Y4/2) 粘質 緑黄褐色土粒子(少)
  - 8 黄灰色 (10YR1/1) 粘質 緑黄褐色土粒子(少), 焼土粒子(少)
  - 9 オリーブ褐色(2.5Y4/6) 粘質 黄灰色土粒子(少) (柱痕)
  - 10 緑灰褐色 (2.5Y4/3) 粘質 緑黄褐色土粒子(多)
  - 11 オリーブ褐色(2.5Y4/3) 粘質 黄灰色土粒子(少)

- S J 2 9
- 1 暗オリーブ色(5Y4/3) 粘質 緑黄褐色土ブロック(多) (柱痕)
  - 2 暗黄褐色 (2.5Y4/2) 粘質 緑黄褐色土粒子(少)
  - 3 灰オリーブ色(5Y4/2) 粘質 緑黄褐色土ブロック(多)
  - 4 灰オリーブ色(7.5Y4/2) 粘質 緑黄褐色土粒子(少)
  - 5 オリーブ色 (5Y5/4) 粘質 緑黄褐色土粒子(多), 同ブロック(少)



第95図 8・11・12号住居跡出土遺物



B区8・11・12号住居跡出土遺物観察表 (1)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
8-1	土師器坏	(11.8)	(3.4)	(10.2)	BDE	3	橙色	5%未滿	
8-2	土師器坏	(11.0)	(3.1)	8.6	BDE	4	にぶい褐色	10%	
8-3	土師器坏	(10.0)	(2.8)	(9.2)	BCD	4	橙色	20%	
8-4	須恵器坏	(11.0)	(3.5)	(13.2)	BCE	2	灰色	5%未滿	
8-5	須恵器坏蓋	(10.6)	(2.5)	-	BC	2	灰色	5%未滿	
8-6	土師器鉢	(12.4)	-	-	ACEL	4	にぶい橙色	20%	
8-7	土師器小形壺	(11.0)	-	-	CDE	3	橙色	5%未滿	
12-1	土師器坏	(11.4)	(3.3)	(9.0)	BD	3	にぶい橙色	5%	
12-2	土師器坏	10.0	3.4	8.4	BD	4	にぶい橙色	5%	
12-3	土師器坏	11.2	5.1	10.8	BEF	3	にぶい黄褐色	10%	内外面赤彩

B区8・11・12号住居跡出土遺物観察表(2)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
12-4	杯	(12.0)	(2.9)	(10.4)	BE	3	橙色	5%未満	
11-1	上脩器杯	(14.0)	(4.3)	(12.2)	BI)	3	橙色	5%未満	
11-2	土師器杯	14.9	3.6	13.0	BD	4	橙色	60%	貯穴出土
11-3	上脩器杯	(11.0)	(2.6)	(10.8)	AEF'	4	橙色	10%	
11-4	土師器杯	(12.0)	(3.0)	(8.0)	BD	3	橙色	10%	
11-5	須恵器杯	(12.0)	3.9	(7.8)	BT'1	2	灰色	30%	南比企 回転糸切
11-6	上脩器高杯	-	-	-	ABDFG	4	にぶい橙色	10%	カマド出土
11-7	土師器小形壺	(10.4)	-	-	BDE	3	橙色	5%	
11-8	上脩器長胴壺	20.2	-	-	BEF'G	3	橙色	5%	
11-9	土師器長胴壺	24.0	-	-	BEF	3	明赤褐色	20%	

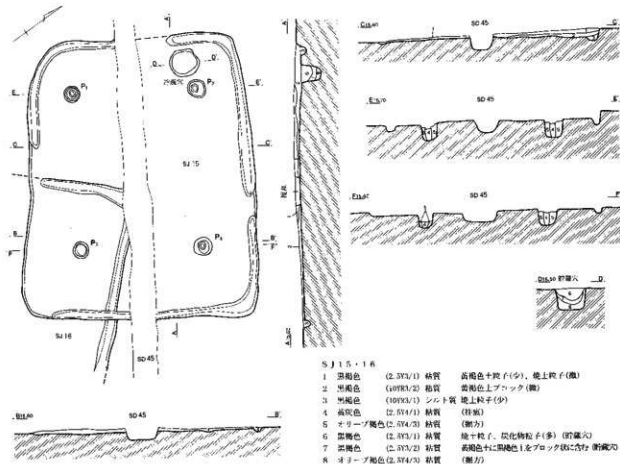
## 15号住居跡(第96・98図)

O・P-1グリッドに位置していた。16号住居跡を切っていた。また、45号溝に切られていた。平面形は長方形で、規模は長軸4.4m、短軸3.75mであった。床面までの深さは0.1mで、均一であった。主軸はN-55°-Wであった。カマドは45号溝に壊されたと考えられ検出されなかった。貯蔵穴は北東コーナーに検

第96図 15・16号住居跡

出され、平面円形であった。覆土には多量の炭化物が堆積していた。柱穴は4本検出され全ての柱穴から柱痕が確認された。壁際には壁周溝が巡っていたが、南側が一部切れていた。

遺物は覆土より土師器壺(15-1)が出土した。



### 16号住居跡 (第96図)

O・P-1グリッドに位置していた。15号住居跡及び45号溝に切られていた。また遺構確認面が浅く床面の一部は削平されていた。平面形は推定方形で、規模及び主軸は不明であった。カマド、貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。北側コーナー部分で壁周溝が検出された。出土した遺物は、なかった。

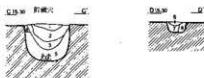
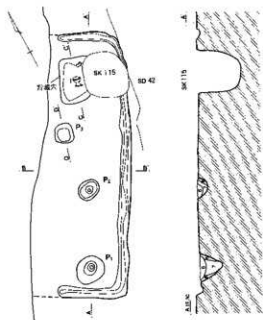
### 22号住居跡 (第97・98図)

N・O-1グリッドに位置していた。旧小河道によって遺構の大部分を壊されていた。また、115号土壌

及び42号溝に切られていた。平面形は方形で、規模は長軸4.18mであった。床面までの深さは0.20mで、不均一であった。主軸はN-25°-Eであった。カマドは検出されなかった。貯蔵穴は北側コーナーに検出された。平面方形で掘り込みが深かった。貯蔵穴には多量の焼土及び炭化物が堆積していた。柱穴は3本検出された。実際には壁周溝が巡っていた。

遺物は貯蔵穴底面より土師器高坏(22-1)が横転した状態で出土した。

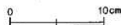
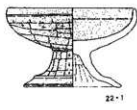
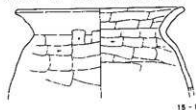
第97図 22号住居跡



#### SJ22

- |   |                          |                     |
|---|--------------------------|---------------------|
| 1 | 黒褐色 (2.5Y5/1) 粘質         | 焼土粒子、炭化物粒子(少) (貯蔵穴) |
| 2 | 黄褐色 (2.5Y5/4) 粘質         | 焼褐色上ブコック(少) (貯蔵穴)   |
| 3 | 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘質         | 焼土粒子(少) (貯蔵穴)       |
| 4 | オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘質      | 焼土粒子(多) (貯蔵穴)       |
| 5 | 褐色 (5Y2/1) 粘質            | 焼土粒子、炭化物粒子(多) (貯蔵穴) |
| 6 | 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘質         | 黄褐色土粒子(多) (柱穴)      |
| 7 | 灰色 (5Y4/1) 粘質            | (柱穴敷き残の壁土)          |
| 8 | オリーブ黄色 (5Y5/3) シルト質 (細方) |                     |

第98図 15・22号住居跡出土遺物

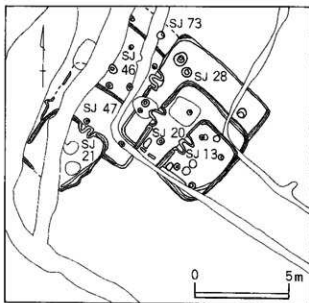


B区15・22号住居跡出土遺物観察表

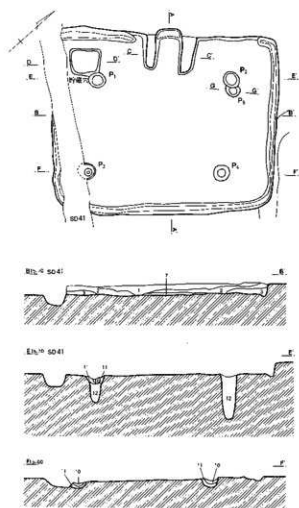
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
15-1	土師器残	18.0	-	-	AEFG	3	褐色	5%未満	
22-1	土師器高坏	13.4	8.4	10.4	ACEF	3	浅黄褐色	90%	貯穴出土 内外面赤彩



第99図 重複住居跡群(2)



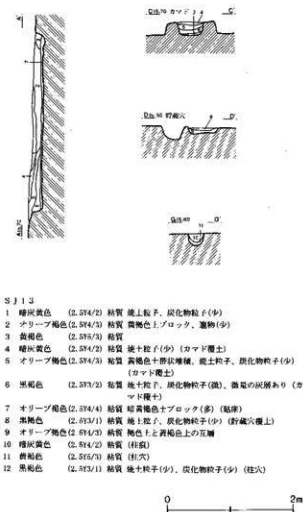
第100図 13号住居跡



13号住居跡(第100・107図)

O-1・2グリッドに位置していた。20・28号住居跡を切っていた。また、41号溝に切られていた。平面形は長方形で、規模は長軸4.52m、短軸2.94mであった。床面までの深さは0.20mで、均一であった。主軸はN-48°-Wであった。カマドは北西側中央に設置されていた。焚き口の掘り込みは浅く煙道部は削平されていた。貯蔵穴はカマド西脇に検出された。平面長方形で浅い掘り込みであった。貯蔵穴には少量の炭化物が堆積していた。柱穴は5本検出され、柱穴2と5は重複していた。壁際には壁周溝が巡っていた。

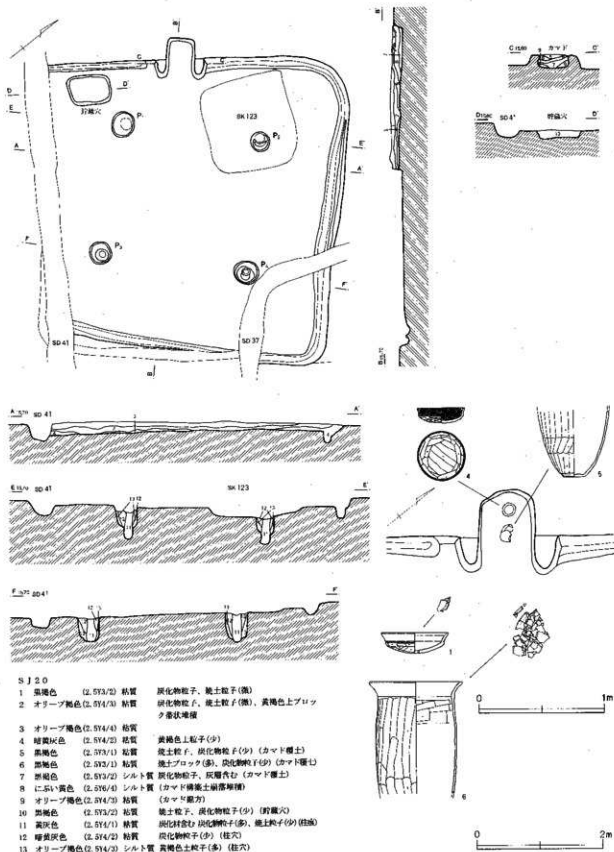
遺物は覆上より土部器環(13-1)が出土した。



SJ 13

- 1 暗灰黄色 (2.574/2) 粘質 焼土粒子、炭化物粒子(少)
- 2 オリーブ褐色(2.574/3) 粘質 黄褐色土ブロック、遺物(少)
- 3 黄褐色 (2.575/3) 粘質
- 4 暗灰黄色 (2.574/2) 粘質 焼土粒子(少)(カマド覆土)
- 5 オリーブ褐色(2.574/3) 粘質 黄褐色土部状堆積、焼土粒子、炭化物粒子(少)(カマド覆土)
- 6 黒褐色 (2.573/2) 粘質 焼土粒子(微)、微量の炭屑あり(カマド覆土)
- 7 オリーブ褐色(2.574/4) 粘質 暗黄褐色土ブロック(多)(陥床)
- 8 赤褐色 (2.573/1) 粘質 焼土粒子、炭化物粒子(少)(貯蔵穴覆上)
- 9 オリーブ褐色(2.574/3) 粘質 褐色土と黄褐色土上の互層
- 10 暗灰黄色 (2.574/2) 粘質 (柱底)
- 11 黄褐色 (2.575/3) 粘質 (柱穴)
- 12 黒褐色 (2.573/1) 粘質 焼土粒子(少)、炭化物粒子(少)(柱穴)

第101図 20号住居跡



5 J 2 0

- |    |                  |      |                                |
|----|------------------|------|--------------------------------|
| 1  | 黒褐色 (2.5Y3/2)    | 粘質   | 炭化物粒子、焼土粒子(多)                  |
| 2  | オリーブ褐色 (2.5Y4/3) | 粘質   | 炭化物粒子、焼土粒子(多)、黄褐色上ブロック<br>形状塊線 |
| 3  | オリーブ褐色 (2.5Y4/4) | 粘質   |                                |
| 4  | 緑黄灰色 (2.5Y4/2)   | 粘質   | 黄褐色上粒子(少)                      |
| 5  | 黒褐色 (2.5Y3/1)    | 粘質   | 焼土粒子、炭化物粒子(少) (カマド層土)          |
| 6  | 黒褐色 (2.5Y2/1)    | 粘質   | 焼土ブロック(多)、炭化物粒子(少) (カマド層土)     |
| 7  | 黒褐色 (2.5Y2/2)    | シルト質 | 炭化物粒子、灰層含む (カマド層土)             |
| 8  | にがい黄色 (2.5Y6/4)  | シルト質 | 炭化物粒子、灰層含む (カマド層土)             |
| 9  | オリーブ褐色 (2.5Y4/2) | 粘質   | (カマド層土)                        |
| 10 | 黒褐色 (2.5Y2/2)    | 粘質   | 焼土粒子、炭化物粒子(少) (貯蔵穴)            |
| 11 | 黄灰色 (2.5Y4/1)    | 粘質   | 炭化物粒子、炭化物粒子(多)、焼土粒子(少) (柱穴)    |
| 12 | 暗黄灰色 (2.5Y4/2)   | 粘質   | 炭化物粒子(少) (柱穴)                  |
| 13 | オリーブ褐色 (2.5Y4/2) | シルト質 | 黄褐色土粒子(多) (柱穴)                 |

0 1m

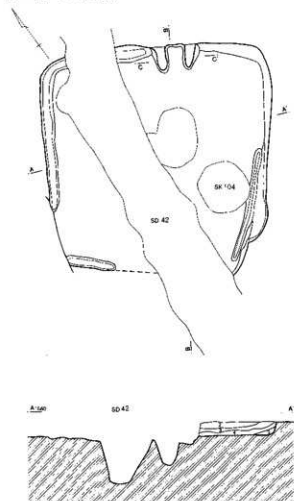
0 2m

### 20号住居跡 (第101・107・267図)

0-1・2グリッドに位置していた。28号住居跡を切っていた。また、13号住居跡及び123号土塼、37・41号溝に切られていた。平面形は方形で、規模は長軸4.88m、短軸4.6mであった。床面までの深さは0.18mで、均一であった。主軸はN-50°-Wであった。カマドは北西側中央に設置されていた。焚き口の掘り込みは浅く煙道部は削平されていた。貯蔵穴はカマド西脇に検出された。平面長方形で浅い掘り込みであった。貯蔵穴には少量の炭化物が堆積していた。柱穴は4本検出され、全ての柱穴で柱痕が確認された。壁際には境溝が巡っていた。

遺物はカマド内より土師器杯(20-4)及び土師器甕(20-5)が、焚き口周辺部より土師器杯(20-1)、甕(20-6)が潰れた状態で出土した。また、貯蔵穴より土師器杯(20-2)が、覆土より土師器杯(20-

第102図 21号住居跡

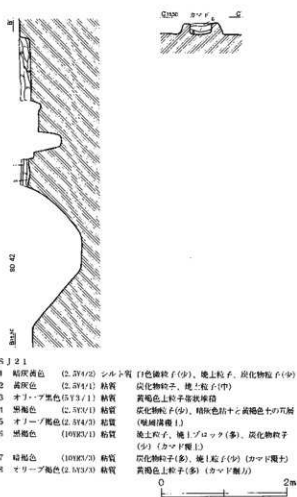


3)及び磁石(第267図11)が出土した。

### 21号住居跡 (第102・107・266・267図)

0-1グリッドに位置していた。47号住居跡を切っていた。また、104号土塼及び42号溝に切られていた。平面形は方形で、規模は長軸3.7m、短軸3.6mであった。床面までの深さは0.2mで、不均一であった。主軸はN-38°-Eであった。カマドは北東側中央に設置されていた。焚き口の掘り込みは浅く煙道部は削平されていた。貯蔵穴及び柱穴は検出されなかった。壁際には壁周溝が巡っていたが北東コーナー一部周辺で切れていた。

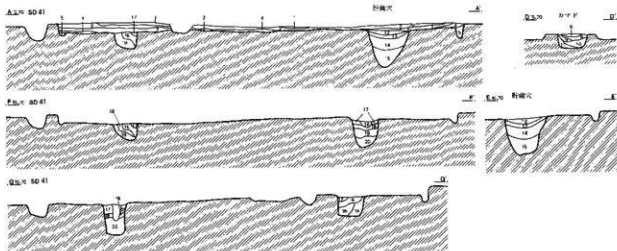
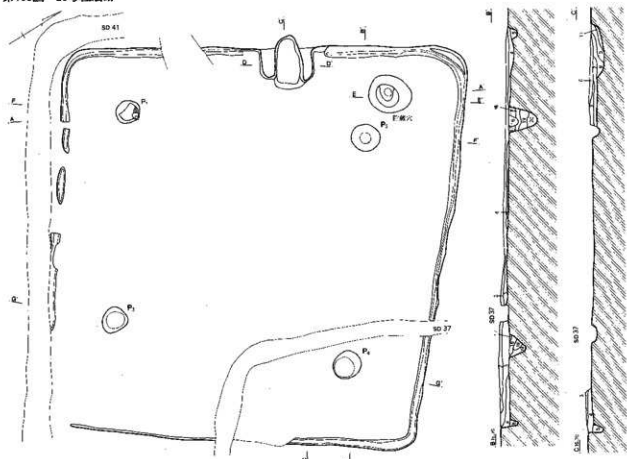
遺物はカマドより土師器杯(21-2)が、覆土より土師器杯(21-1)及び土師器甕(21-3)が出土した。このほか、ミニチュア土器(第266図20)、磁石(第267図12)が出土した。



#### SJ21

- 1 結核褐色 (2.294/2) シルト質 (白色焼粒子(少)、焼土粒子、炭化物粒子(少))
- 2 黄灰色 (2.294/1) 粘質 (炭化物粒子、焼土粒子(中))
- 3 オリーブ黒色(5.73/1) 粘質 (黄褐色土粒子層状堆積)
- 4 紫褐色 (2.313/1) 粘質 (炭化物粒子(少)、結核色粘土+黄褐色土の元層(層状堆積))
- 5 オリーブ黒色(2.314/2) 粘質 (焼土粒子、焼土ブロック(多)、炭化物粒子(少)(カマド層))
- 6 黒褐色 (10.933/1) 粘質 (焼土粒子(多)、焼土粒子(少)(カマド層))
- 7 結核色 (10.933/2) 粘質 (炭化物粒子(多)、焼土粒子(少)(カマド層))
- 8 マリアン褐色(2.313/3) 粘質 (黄褐色土粒子(多)(カマド層))

第103図 28号住居跡



S J 2 8

- |   |   |
|---|---|
| 1 暗黒褐色 (2.514/2) 粘質 白色炭化物(微)、焼土粒子(少)、遺物(少)                | 12 黒褐色 (2.513/2) 粘質 焼土粒子、白ブロック(中)、炭化物粒子(少) (貯蔵穴)        |
| 2 黒褐色 (2.513/2) 粘質 焼土粒子、炭化物粒子(少)                          | 13 暗赤褐色 (2.514/2) 粘質 焼土粒子、白ブロック(少) (貯蔵穴)                |
| 3 黒褐色 (2.513/1) 粘質 炭化物粒子(中)、焼土粒子(少)、遺物(中)                 | 14 暗オリーブ褐色(2.513/3) 粘質 焼土粒子(少)、黄褐色土ブロック(少)、炭化物(少) (貯蔵穴) |
| 4 オリーブ褐色 (2.513/1) 粘質 黄褐色土粒子(多) (貯蔵)                      | 15 黄灰色 (2.514/1) 粘質 黄褐色土ブロック(多)、焼土ブロック(微)、遺物(少) (貯蔵穴)   |
| 5 暗オリーブ褐色(2.513/3) 粘質 (壁内溝)                               | 16 桃褐色 (1018/1) 粘質 灰白色粒子(多)、黄褐色土粒子(少) (柱礎)              |
| 6 桃褐色 (5184/1) 砂質 灰と焼土の互層 (カマド敷)                          | 17 暗オリーブ褐色(2.513/3) 粘質 灰白色粒子(少)、黄褐色土粒子(多) (柱礎)          |
| 7 灰褐色 (1018/1) 粘質 焼土ブロック(中)、炭化物粒子(中) (カマド敷)               | 18 オリーブ褐色 (2.514/3) 粘質 黄褐色土ブロック(多) (柱礎)                 |
| 8 黒褐色 (1018/2) 粘質 焼土ブロック(微)、焼土粒子(少)、炭化物粒子(微) (カマド敷)       | 19 オリーブ褐色 (2.514/3) 粘質 黄褐色土ブロック(多)、暗褐色土ブロック(中) (柱礎)     |
| 9 黄灰色 (2.514/1) 粘質 大型炭化物粒子(中)、焼土粒子(少)、黄褐色土ブロック(少) (カマド敷上) | 20 灰オリーブ色 (7.319/2) 粘質 灰白色焼土ブロック(多) (柱礎)                |
| 10 黒褐色 (2.513/2) 粘質 炭化物粒子(微)、黄褐色土粒子(中) (カマド敷)             |   |
| 11 オリーブ褐色 (2.514/3) 粘質 黄褐色土と灰色焼土の互層 炭化物粒子(微)              |   |

0 2m

## 28号住居跡 (第103・104・107図)

O-1・2グリッドに位置していた。46・47・73号住居跡を切っていた。また、13・20号住居跡及び37・41号溝に切られていた。平面形は方形で、規模は長軸6.3m、短軸6.2mであった。床面までの深さは0.18mで、均一であった。主軸はN-58°-Wであった。カマドは北西側中央やや東寄りに設置されていた。焚き口の掘り込みは浅く煙道部は削平されていた。貯蔵穴はカマド東側に検出された。平面楕円形で下段が円形となる二段掘り込みであった。貯蔵穴には少量の焼土及び炭化物が堆積していた。柱穴は4本検出され、やや深い掘り込みであった。壁際には壁周溝が巡っていた。

遺物は貯蔵穴上部より土器器甕(28-6)が潰れた状態で出土したほか、覆土より土器器環(28-1~4)、甕(28-5・7)が出土した。

## 46号住居跡 (第105・107図)

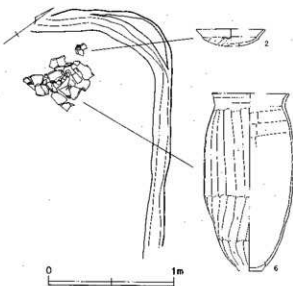
O-1グリッドに位置していた。47・73号住居跡を切っていた。また、28号住居跡及び41・42号溝に切られていた。平面形は推定方形で、規模は長軸4.85m、短軸2.72mであった。床面までの深さは0.1mで、不均一であった。主軸は推定でN-58°-Wであった。カマド及び貯蔵穴は42号溝によって壊されたものと考えられ、検出されなかった。柱穴は4本検出され、柱穴1より柱痕が確認された。壁際には壁周溝が巡っていたが、北西辺側は切れていた。

遺物は覆土より土器器環(46-1)が出土した。

## 47号住居跡 (第105・106・107・267・268図)

O-1グリッドに位置していた。73号住居跡を切っていた。また、21・28・46号住居跡及び41・42号溝に切られていた。平面形は推定長方形で、規模は長軸5.3m、短軸4.0mであった。床面までの深さは0.04mで、不均一であった。主軸は不明であった。柱穴は5本検出された。南西コーナー際に壁周溝が一部検出された。

## 第104図 28号住居跡出土遺物微細図



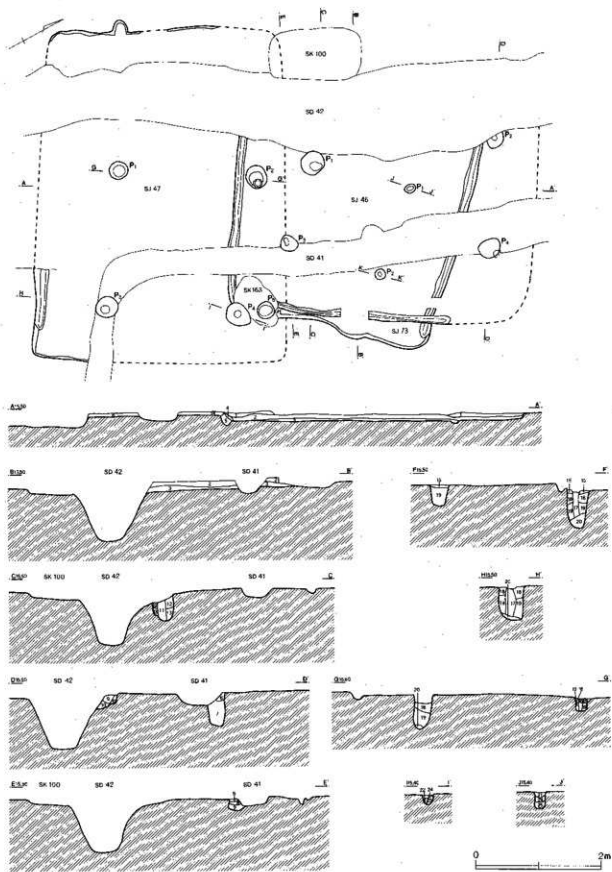
遺物は南西コーナー周辺部より土器器環(47-1~4)及び甕(47-5・6)、甕(47-7)が纏まって出土した。また、覆土より線刻のある滑石製模造品(第268図33)及び、砥石(第267図15)が出土した。

## 73号住居跡 (第105図)

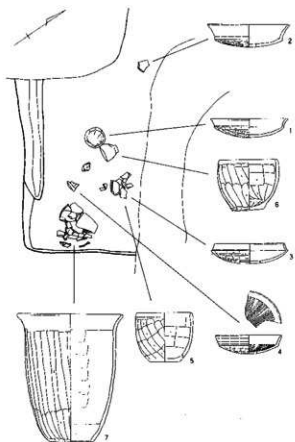
O-1グリッドに位置していた。28・46・47号住居跡及び41・42号溝に切られていた。また床面のみの検出であった。平面形は推定方形で、規模は長軸3.85m、短軸3.36mであった。床面は不均一であった。主軸は不明であった。カマド及び柱穴は42号溝に壊されたものと考えられ検出されなかった。

柱穴は2本検出され、小規模のものであった。壁際には壁周溝が巡っていたが、南東辺は切れていた。出土した遺物は、なかった。

第105图 46·47·73号住居跡



第106図 47号住居跡出土遺物微細図

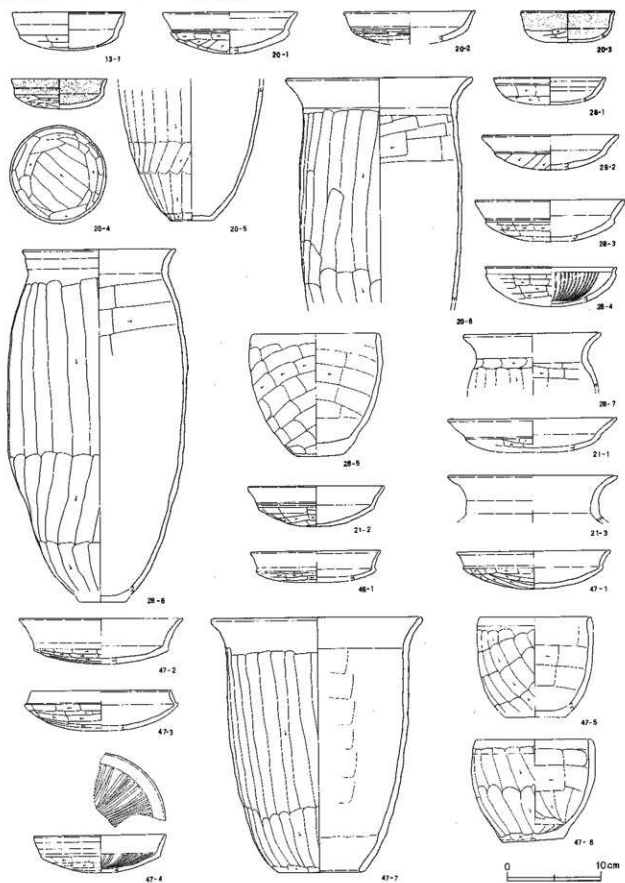


SJ46・47・73

- |    |                   |      |                                       |
|----|-------------------|------|---------------------------------------|
| 1  | 黒褐色 (10YR3/2)     | シルト質 | 暗黄褐色上ブロック(少)、灰褐色土粒子(少) (S140)         |
| 2  | 緑オリーブ褐色 (2.5Y3/2) | シルト質 | 暗黄褐色上ブロック(多)、黄土粒子(微)、炭化物粒子(少) (S146)  |
| 3  | オリーブ褐色 (2.5Y4/4)  | 粘質   | 灰褐色土粒子(多) (S146)                      |
| 4  | 黒褐色 (2.5Y3/1)     | シルト質 | 灰褐色土粒子(多) (S146)                      |
| 5  | オリーブ褐色 (2.5Y4/4)  | シルト質 | 黒褐色土(少) (S146)                        |
| 6  | 黒褐色 (10YR2/2)     | 粘質   | 黄褐色土粒子(多)、黒褐色上ブロック(多) (S146)          |
| 7  | 黒褐色 (2.5Y3/1)     | 粘質   | 黒褐色上ブロック(少) (S146)                    |
| 8  | 黄褐色 (2.5Y5/6)     | 粘質   | 暗褐色土粒子(多) (S146)                      |
| 9  | オリーブ灰色 (5Y3/1)    | 粘質   | 暗褐色土ブロック(少) (S146)                    |
| 10 | オリーブ色 (5Y5/6)     | シルト質 | 黄褐色上ブロック(多)、暗褐色土粒子(少) (S146)          |
| 11 | 黒褐色 (2.5Y3/2)     | 粘質   | 黄土粒子(少)、炭化物粒子(少)、黄褐色土粒子(少)(柱面) (S146) |
| 12 | オリーブ褐色 (2.5Y4/2)  | シルト質 | 黄土粒子(微)、黄褐色土粒子(多) (S146)              |
| 13 | 黒褐色 (2.5Y3/1)     | 粘質   | 黄褐色土粒子(少) (S146)                      |
| 14 | 暗褐色 (10YR3/4)     | 粘質   | 暗黄褐色上ブロック(多) (S147)                   |
| 15 | 黄褐色 (2.5Y5/4)     | 粘質   | 暗黄褐色土粒子(少) (S147)                     |
| 16 | オリーブ灰色 (5Y3/2)    | シルト質 | 灰白色土粒子(多)、炭化物粒子(多) (S147)             |
| 17 | 灰オリーブ色 (5Y4/2)    | 粘質   | 暗黄褐色土粒子、黒ブロック(少)、灰白色土粒子(多) (S147)     |
| 18 | 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/2) | 粘質   | 暗黄褐色土粒子(多)、黄土粒子(微) (S147)             |
| 19 | 灰オリーブ色 (5Y4/2)    | 粘質   | 灰白色土粒子(多) (S147)                      |
| 20 | オリーブ褐色 (2.5Y4/4)  | 粘質   | 暗黄褐色上ブロック(少) (S147)                   |
| 21 | 暗灰色 (10YR6/1)     | 粘質   | 暗黄褐色上ブロック(多)、白色土粒子(少) (S170)          |
| 22 | にがい黄褐色 (10YR6/1)  | 粘質   | 白色土粒子(多) (S170)                       |
| 23 | 暗黄褐色 (2.5Y6/5)    | 粘質   | 白色土粒子(多) (S170)                       |
| 24 | 暗オリーブ色 (2.5Y3/2)  | シルト質 | 黒褐色土粒子(少)、暗褐色土粒子(多) (S170)            |
| 25 | 黒褐色 (2.5Y3/2)     | 粘質   | 黒褐色土粒子(少)、白色土粒子(多) (S170)             |



第107図 13・20・21・28・46・47号住居跡出土遺物





B区13・20・21・28・46・47号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
13-1	土師器杯	-	-	-	-	-	-	-	-
20-1	土師器杯	14.4	4.4	13.0	BEF	3	にぶい・橙色	40%	カマド出土
20-2	土師器杯(高坏)	14.0	-	-	ABDE	4	にぶい・橙色	10%	貯穴出土
20-3	土師器杯	(10.0)	(3.4)	(9.3)	BEF	3	橙色	5%未満	内外面赤彩
20-4	土師器杯	10.2	3.2	9.5	BEF	3	にぶい・橙色	90%	内外面赤彩 カマド出土
20-5	土師器長胴甕	-	-	4.4	BDE	3	橙色	10%	カマド出土
20-6	土師器長胴甕	20.0	-	-	BEFG	3	橙色	50%	
28-1	土師器杯	(12.0)	(2.9)	(9.5)	BDE	3	灰白色	5%	内面黒色処理?
28-2	土師器杯	(14.7)	(3.7)	(12.0)	BEF	3	橙色	20%	
28-3	土師器杯	(16.0)	(4.4)	(13.8)	BEF	3	橙色	15%	
28-4	土師器杯	(14.0)	(4.2)	(12.3)	BDE	3	にぶい・橙色	10%	放射暗文
28-5	土師器甕	13.6	13.0	5.2	AFHL	3	にぶい・褐色	50%	
28-6	土師器長胴甕	16.5	(37.8)	-	BEFL	3	橙色	80%	
28-7	土師器甕	(14.8)	-	-	BEF	3	にぶい・橙色	5%未満	
21-1	土師器杯	18.0	3.5	14.4	BDE	4	浅黄褐色	10%	
21-2	土師器杯	(14.6)	4.3	(13.4)	BEF	4	橙色	50%	二次焼成受ける カマド出土
21-3	土師器甕	9.0	-	-	ABEF	3	橙色	5%未満	
46-1	土師器杯	(14.0)	(3.3)	(12.8)	BEF	3	橙色	15%	
47-1	土師器杯	16.4	4.0	15.0	ABEF	3	橙色	100%	内外面黒色処理?
47-2	土師器杯	(17.6)	(4.9)	(14.4)	BDE	3	橙色	20%	
47-3	土師器杯	(15.0)	(4.2)	(16.3)	ABDE	3	にぶい・橙色	40%	
47-4	土師器杯	(12.2)	(4.0)	(12.8)	BD	3	にぶい・橙色	20%	内面黒色処理 放射状ミガキ
47-5	土師器甕	(11.8)	(10.5)	-	ABEF	3	橙色	30%	
47-6	土師器甕	12.4	10.8	6.5	ABEH	3	橙色	100%	
47-7	土師器甕	22.6	27.3	8.8	AFH	3	橙色	60%	

## 18号住居跡(第108・109・111・112・268図)

P-4・5グリッドに位置していた。19・23・44・45号掘立柱建物跡に切られていた。本住居跡内からは多量の遺物が纏まって出土した。平面形は長方形で、規模は長軸4.22m、短軸2.9mであった。床面までの深さは0.18mで、不均一であった。主軸はN-79°-Eであった。カマドは東側中央やや南寄りに設置されていた。規模は小さく、焚き口の掘り込みは浅く煙道部は削平されていた。貯蔵穴はカマド左脇に検出されたが一部を45号掘立柱建物跡柱穴によって壊されていた。平面は楕円形で深い掘り込みであった。貯蔵穴には多量の焼土及び炭化物が堆積していた。柱穴は4本検出され、浅い掘り込みであった。壁際には壁周溝が巡っていた。

遺物はカマド内より土師器杯(18-3)及び甕(18-20)が、カマド周辺より杯(18-5・7)、高坏(18-11)、甕(18-18・19)が、貯蔵穴より土師器杯(18-8)が、床面直上より土師器杯・高坏・碗・甕

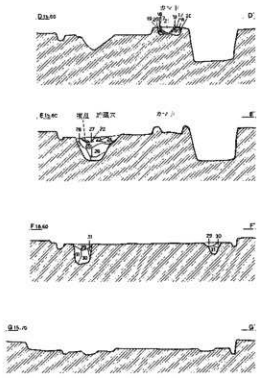
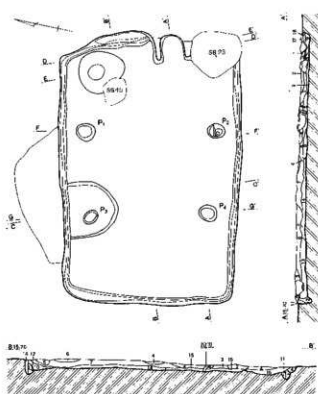
・甕が出土した。このほか、滑石製紡錘車(第268図25)及び模造品(第268図32)が覆土より出土した。

## 19号住居跡(第110・112図)

Q-5・6グリッドに位置していた。112号土壇及び10・15号掘立柱建物跡に切られていた。また遺構確認面が浅くカマドを除き床面からのみの検出であった。平面形は隅丸長方形で、規模は長軸6.06m、短軸4.9mであった。床面は不均一であった。主軸はN-50°-Wであった。カマドは北西側中央に設置されていた。焚き口の掘り込みは浅く煙道部は削平されていた。燃焼部左寄りに土製支脚が検出された。貯蔵穴は検出されなかった。柱穴は4本検出され、浅い掘り込みであった。壁際及び中央に周溝が巡っていたことから、建て替えの可能性が考えられる。

遺物はカマド内より土師器鉢(19-1)及び壺(19-2)が出土した。

第108図 18号住居跡



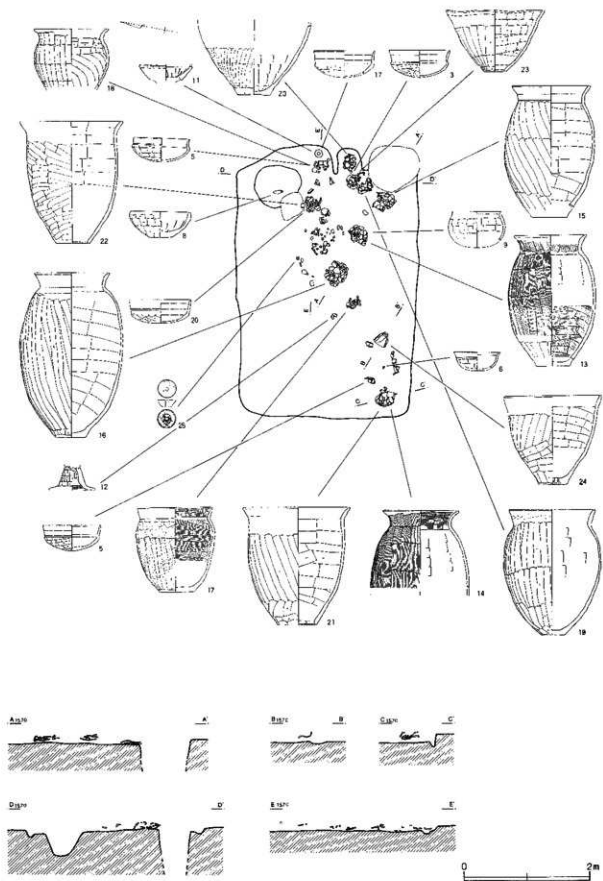
S J 1 8

- 1 黒褐色 (10YR5/1) シルト質 焼土ブロック(多)
- 2 黒褐色 (10YR2/2) シルト質 焼土粒子(少), 炭化物粒子(多)
- 3 黒褐色 (10YR2/3) 粘質 焼土ブロック(多), 炭化物粒子(濃)
- 4 黒色 (10YR2/1) 粘質 炭化物粒子(少)
- 5 茶褐色 (10YR2/2) 粘質 炭化物粒子(濃), 黄褐色土粒子(少)
- 6 褐色 (10YR4/1) 砂質 炭化物粒子(多), 灰色粘土ブロック(濃)
- 7 暗褐色 (10YR3/3) 粘質 炭化物粒子(濃), 黄褐色土粒子(少)
- 8 茶褐色 (10YR2/2) 粘質 炭化物粒子(少), 焼土粒子(多)
- 9 褐色 (10YR3/0) 粘質 炭化物粒子(多)
- 10 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘質 炭化物粒子(少)
- 11 茶褐色 (10YR2/2) 粘質 炭化物粒子(多)
- 12 暗褐色 (10YR2/3) 粘質 炭化物粒子(少), 磁片(多)
- 13 暗褐色 (10YR3/1) 粘質 炭化物粒子(多), 焼土粒子(濃)
- 14 褐色 (10YR4/1) シルト質 炭化物粒子(多), 焼土粒子(多), 灰色粘土ブロック(多)

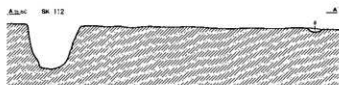
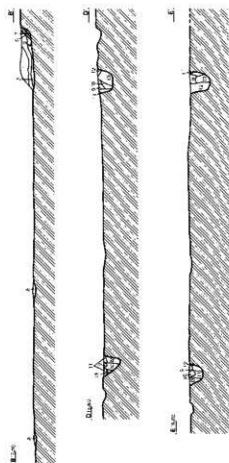
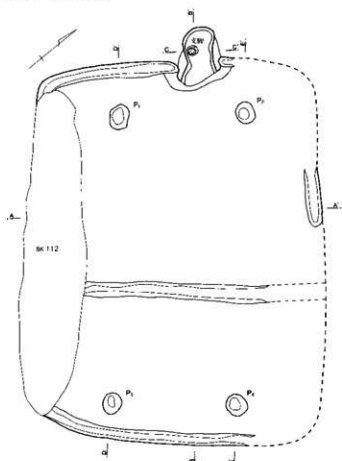
- 15 暗褐色 (10YR3/1) 粘質 炭化物粒子(少), 焼土粒子(少), 黄褐色土粒子(多)
- 16 暗褐色 (10YR3/1) 粘質 炭化物粒子(濃)
- 17 褐色 (10YR4/1) シルト質 焼土粒子(中) (カマド層上)
- 18 二色(黄褐色) (10YR3/2) シルト質 焼土粒子(多) (カマド層上)
- 19 茶褐色 (10YR2/1) シルト質 焼土粒子(多), 炭化物粒子(多) (カマド層上)
- 20 暗褐色 (10YR3/1) シルト質 焼土小ブロック(少) (カマド層上)
- 21 灰白色 (10YR7/1) 粘質 灰色粘土粒子(多), 焼土粒子, 炭化物粒子(少)
- 22 茶褐色 (10YR3/1) シルト質 炭化物粒子(多), 焼土粒子(濃), 灰白色火山灰(OA)層状堆積(貯蔵穴)
- 23 茶褐色 (10YR2/3) シルト質 炭化物粒子(多), 焼土粒子(濃), 黄褐色土粒子(少) (貯蔵穴)
- 24 茶褐色 (10YR2/2) 粘質 炭化物粒子(濃), 焼土粒子(濃) (貯蔵穴)
- 25 茶褐色 (10YR3/2) 粘質 炭化物粒子(多), 白色火山灰粒子(濃) (貯蔵穴)
- 26 茶褐色 (10YR2/1) 粘質 炭化物粒子(多), 灰色粘土ブロック(少), 遺物(少) (貯蔵穴)
- 27 茶色 (10YR2/1) 粘質 炭化物粒子(少) (貯蔵穴)
- 28 茶褐色 (10YR3/1) 粘質 炭化物粒子(濃), 焼土粒子(濃) (貯蔵穴)
- 29 茶褐色 (10YR3/1) 粘質 炭化物粒子(多), 焼土粒子(多), 黄褐色土粒子(多) (柱穴)
- 30 茶褐色 (10YR2/2) シルト質 炭化物粒子(多), 黄褐色土粒子(濃) (柱穴)
- 31 褐色 (10YR4/1) 粘質 炭化物粒子(濃), 黄褐色土粒子(多) (柱穴)



第109图 18号住居跡出土遺物状況図

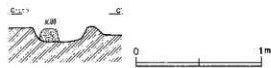
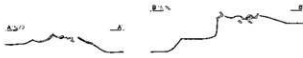
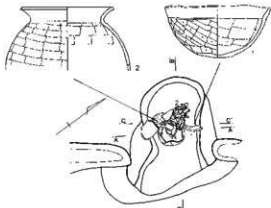


第110図 19号住居跡

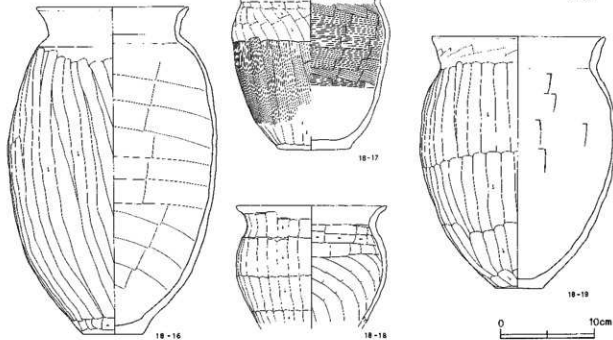
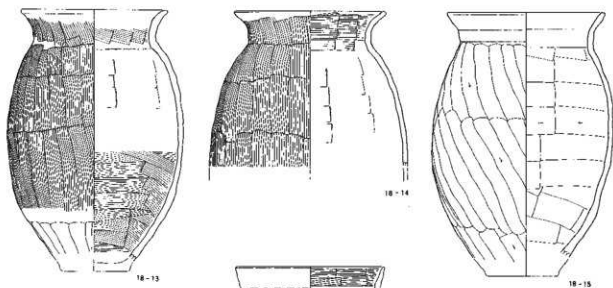
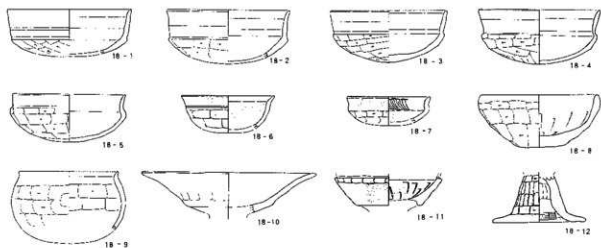


S J 1 9

- |           |            |      |                         |
|-----------|------------|------|-------------------------|
| 1 雑灰色     | (7.5YR4/1) | 粘質   | 焼土粒子、炭化物粒子(少)(カマド層土)    |
| 2 雑灰色     | (10YR4/1)  | シルト質 | 焼土粒子(多)(カマド層土)          |
| 3 茶褐色     | (7.5YR3/2) | シルト質 | 焼土粒子(微)                 |
| 4 茶褐色     | (10YR3/1)  | 粘質   | 焼土粒子(少)                 |
| 5 茶褐色     | (10YR3/2)  | 粘質   | 焼土粒子、炭化物粒子(微)、灰色粘土粒子(少) |
| 6 茶褐色     | (10YR2/2)  | 粘質   | 焼土粒子(微)、灰色粘土粒子(多)       |
| 7 茶褐色     | (7.5YR2/1) | 砂質   | 焼土粒子(多)、炭化物粒子(微)        |
| 8 茶褐色     | (10YR1/1)  | 粘質   | 炭化物粒子(微)(壁層底)           |
| 9 暗褐色     | (10YR3/4)  | 粘質   | 炭化物粒子(少)                |
| 10 暗褐色    | (10YR3/3)  | 粘質   | 炭化物粒子(微)、鉄分(多)          |
| 11 黒褐色    | (10YR3/2)  | 粘質   | 焼土粒子、炭化物粒子(微)、Lまじり(少)   |
| 12 黒褐色    | (10YR3/1)  | 粘質   | 炭化物粒子(微)                |
| 13 に近い黄褐色 | (10YR4/2)  | 粘質   | 炭化物粒子、鉄分(多)             |

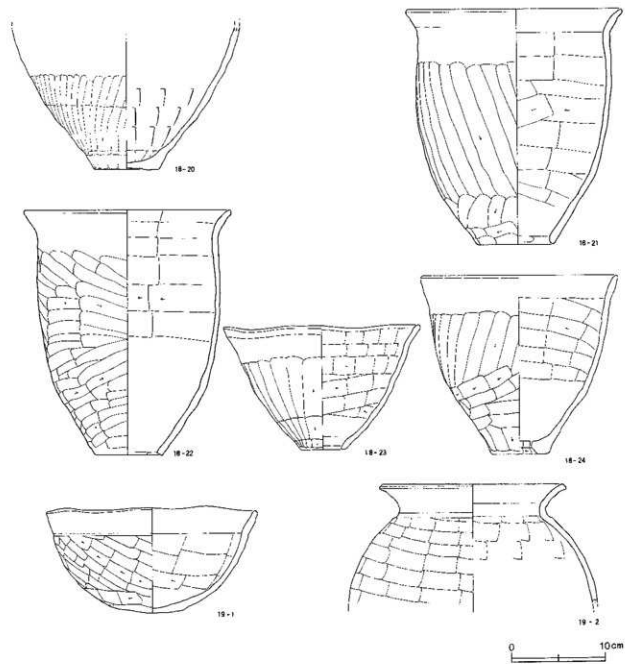


第111圖 18・19号住居跡出土遺物(1)



0 10cm

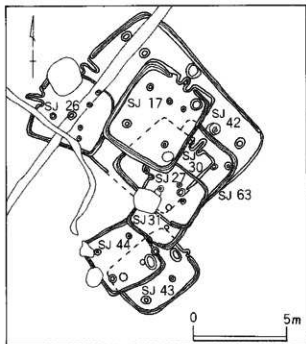
第112図 18・19号住居跡出土遺物(2)



B区18・19号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
18-1	土師器杯	(13.2)	(5.0)	(12.4)	BDE	4	浅黄褐色	5%	
18-2	土師器杯	(13.2)	(5.7)	(12.8)	BCEF	3	褐色	5%未満	
18-3	土師器杯	(12.4)	5.5	11.8	BDE	4	にぶい褐色	50%	
18-4	土師器杯	(13.0)	(5.8)	(12.2)	BF'F'	3	褐色	20%	
18-5	土師器杯	12.0	5.1	12.3	ABF'	4	褐色	90%	
18-6	土師器杯	(10.0)	(3.9)	(5.7)	ABF'	3	にぶい褐色	10%	内外面赤彩
18-7	土師器杯	(9.0)	(3.1)	(8.7)	ABL	3	にぶい褐色	10%	内外面赤彩
18-8	土師器鉢	(12.5)	(5.5)	(5.2)	ABCDF	3	にぶい褐色	40%	
18-9	土師器碗	(12.4)	(7.5)	(9.5)	ABKL	3	褐色	10%	内面赤彩
18-10	土師器高杯	(18.6)	-	-	BCE	4	にぶい褐色	20%	内面赤彩痕跡
18-11	土師器高杯	-	-	-	AGL	3	にぶい褐色	20%	内外面赤彩
18-12	土師器高杯(胴部)	-	-	(10.0)	BCE	4	にぶい褐色	10%	
18-13	土師器長胴甕	15.6	27.9	7.5	AEF'	3	褐色	90%	内外面ハケ目
18-14	土師器長胴甕	16.2	-	-	ACE	3	褐色	25%	内外面ハケ目
18-15	土師器長胴甕	16.9	(28.0)	(7.6)	ABEF'	3	にぶい褐色	70%	
18-16	土師器長胴甕	16.3	35.0	6.4	BEFH	3	にぶい黄褐色	90%	
18-17	土師器甕	16.0	18.0	7.7	BEFC	3	浅黄褐色	50%	内外面ハケ目
18-18	土師器甕	(16.0)	-	-	BCEL	3	明赤褐色	25%	
18-19	土師器長胴甕	18.4	26.7	5.2	ABEF'	4	褐色	80%	
18-20	土師器甕	-	-	(7.0)	AEGL	4	褐色	30%	
18-21	土師器甕	23.0	25.0	8.2	ABEF'	3	褐色	60%	
18-22	土師器甕	22.1	25.0	7.2	BEFG	3	褐色	70%	
18-23	土師器甕	21.1	14.1	4.8	AEFH	3	にぶい褐色	80%	
18-24	土師器鉢	21.1	18.9	6.2	ABEF'	3	褐色	50%	
19-1	土師器鉢	22.6	11.1	6.9	BEF'	3	褐色	70%	カマド出土
19 2	土師器壺	20.0	-	-	BEF'	3	褐色	20%	カマド出土

第113図 重複住居跡群(3)

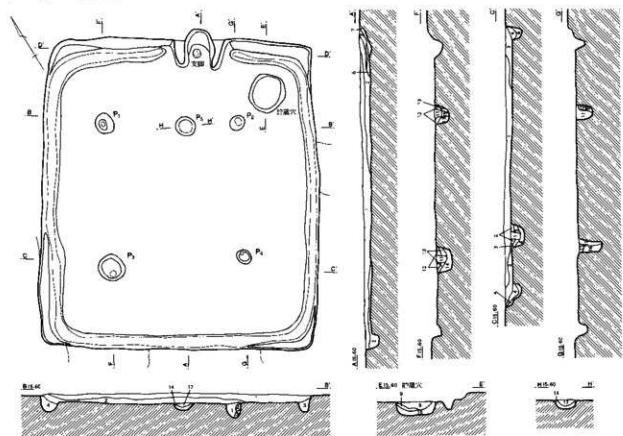


17号住居跡(第114・123図)

P・Q-4グリッドに位置していた。26・27・30・31・42・63号住居跡を切っていた。平面形は方形で、規模は長軸4.94m、短軸4.44mであった。床面までの深さは0.16mで、均一であった。主軸はN-31°-Eであった。カマドは北東側中央に設置されていた。焚き口の掘り込みは浅く煙道部は削平されていた。また燃焼部中央より土製支脚が検出された。貯蔵穴はカマド右脇に検出された。平面円形で浅い掘り込みであった。貯蔵穴には多量の焼土及び炭化物が堆積していた。柱穴は5本検出され、柱穴5を除いて柱痕が検出された。壁際には壁周溝が巡っていたが、北西辺はやや内側にあった。

遺物は焚き口及び両袖部跡より甕(17-19)が潰れた状態で出土したほか、及び周辺部から甕(17-14・15)が潰れた状態で出土した。また覆土より土師器杯(17-1~9)、須恵器蓋(17-10)、土師器高杯(17-11)、甕(17-12・13・16)、甕(17-17・18)が出土した。

第114図 17号住居跡

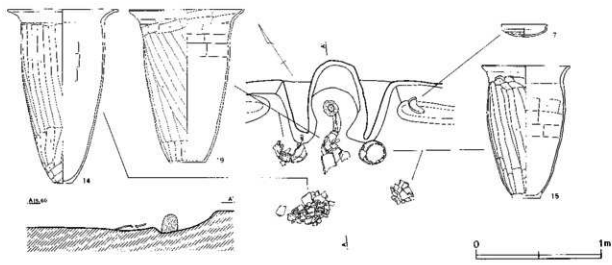


- 8 褐色 (10TR/1) 粘質 焼土粒子、炭化物粒子(少) (貯蔵穴)
- 9 褐色 (10TR/1) シルト質 焼土粒子、炭化物粒子(多) (貯蔵穴)
- 10 にぶい黄褐色(10TR5/4) 粘質 黄褐色土粒子(多)、同ブロック(少)
- 11 褐色 (10TR4/1) シルト質 黄褐色土粒子(少)、焼土粒子、炭化物粒子(多) (貯蔵)
- 12 褐色 (10TR5/1) 粘質 黄褐色土粒子(少)、同ブロック(多) (柱穴)
- 13 褐色 (10TR5/1) 粘質 黄褐色土粒子(少) (柱穴)
- 14 にぶい黄褐色(10TR5/4) 粘質 黄褐色土粒子、同ブロック(多) (柱穴)
- 15 にぶい黄褐色(10TR6/4) 粘質 黄褐色土粒子(多)、粘粒強 (柱穴)
- 16 にぶい黄褐色(10TR4/3) 粘質 粘粒強 (柱穴)
- 17 黄褐色 (10TR4/2) シルト質 焼土粒子、同ブロック(多)、炭化物粒子(多)

0 2m

S J 17

- 1 褐色 (10TR4/1) 粘質 黄褐色土ブロック(多)
- 2 褐色 (10TR4/1) 粘質 黄褐色土ブロック(少)、炭化物粒子(多)
- 3 褐色 (10TR5/1) 粘質 黄褐色土粒子(少)同ブロック(多)
- 4 褐色 (10TR5/1) 粘質 灰白色土ブロック(多) 焼土粒子、同ブロック(多)
- 5 灰黄褐色 (10TR4/2) 粘質 黄褐色土ブロック(少)
- 6 灰黄褐色 (10TR4/1) 粘質 焼土粒子(少) (カマド裏 L)
- 7 黒褐色 (10TR3/1) シルト質 炭化物粒子(多)



0 1m



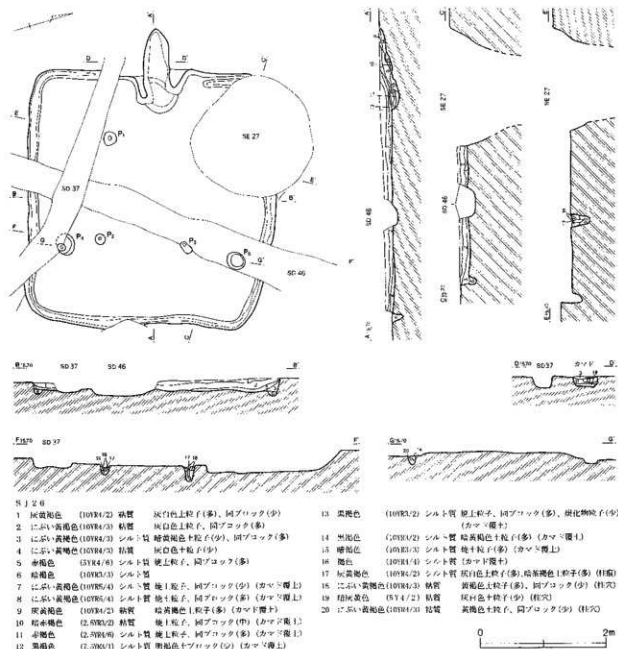
26号住居跡 (第115・123・124・267・272図)

P-3・4、Q-3・4グリッドに位置していた。42・93号住居跡を切っていた。また、17号住居跡、27号井戸跡、37・46号溝に切られていた。平面形は方形で、規模は長軸4.0m、短軸3.96mであった。床面までの深さは0.16mで、均一であった。主軸はN-75°-Wであった。カマドは四隅中央に設置されていた。焚き口の掘り込みはやや深く、底面の平坦な煙道部が

付いていた。貯蔵穴は検出されなかった。柱穴は5本検出され、柱穴1・2・3より柱痕が確認された。壁際には壁周溝が巡っていた。

遺物は覆土より土師器環(26-1~6)及び甕(26-7・8)のほか、カマド脇より砥石(第267図14)が、覆土より用途不明鉄製品(樺弘?)(第272図2)が出土した。

第115図 26号住居跡



### 30号住居跡 (第116・124図)

Q-4グリッドに位置していた。31・42・63号住居跡を切っていた。また、17・27号住居跡及び133号土壌に切られていた。平面形は方形で、規模は長軸4.0m、短軸3.8mであった。床面までの深さは0.1mで、均一であった。主軸はN-45°-Eであった。カマドは北東側中央やや東寄りに設置されていた。焚き口の掘り込みは浅く、煙道部は削平されていた。貯蔵穴は北東コーナーに検出された。平面円形で浅い掘り込みであった。柱穴は5本検出され、柱穴1・2・5より柱痕が確認された。壁際には壁周溝が巡っていたが、南東辺は切れていた。

遺物はカマド内より土師器杯(30-3)及び甕(30-4)が、カマド周辺部より土師器杯(30-1・2)及び甕(30-5)が、貯蔵穴より甕(30-6)が出土した。

### 27号住居跡 (第117・124図)

Q-4グリッドに位置していた。30・31・42・63号住居跡を切っていた。また、17号住居跡及び133号土壌に切られていた。平面形は方形で、規模は長軸3.16m、短軸3.06mであった。床面までの深さは0.08mで、均一であった。主軸はN-54°-Wであった。カマドは北西側中央に設置されていたが、人部分を17号住居跡によって壊されていた。焚き口の掘り込みは浅く、煙道部は削平されていた。貯蔵穴は北東コーナーに検出された。平面円形で下段が円形の二段掘り込みであった。柱穴は3本検出され、不規則な配置であった。また、柱穴2・3より柱痕が確認された。壁際には壁周溝が巡っていたが、南西辺は切れていた。

遺物は覆土より土師器杯(27-1~3)及び甕(27-4・5)、甕(27-6)が出土した。

### 31号住居跡 (第117・124図)

Q-4グリッドに位置していた。42号住居跡を切っていた。また、27・30号住居跡及び133号土壌に切られていた。平面形は推定方形で、規模は長軸2.76mであった。床面までの深さは0.06mで、均一であった。主軸は不明であった。カマド及び貯蔵穴は検出されな

かった。柱穴は2本検出され、浅い掘り込みであった。壁際には壁周溝が巡っていたが、南西辺は27号住居跡によって壊されていた。

遺物は覆土より土師器杯(31-1)が出土した。

### 63号住居跡 (第117・124図)

Q-4グリッドに位置していた。42号住居跡を切っていた。また、17・27・30号住居跡に切られていた。平面形は方形で、規模は長軸3.7m、短軸3.55mであった。床面までの深さは0.12mで、不均一であった。主軸は不明であった。カマドは検出されなかった。貯蔵穴は検出されなかったが、柱穴5が該当する可能性がある。柱穴は5本検出され、柱穴1・3・4より柱痕が確認された。壁際には壁周溝が巡っていたが、南側コーナー部分は切れていた。

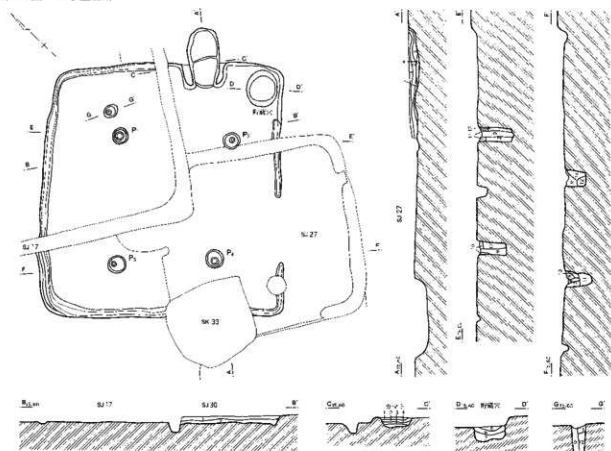
遺物は覆土より土師器杯(63-1~4)が出土した。

### 42号住居跡 (第118・119・120・124図)

P・Q-4グリッドに位置していた。17・25・27・30・31・63号住居跡及び23号獨立柱建物跡、27号井戸跡、37・46号溝に切られていた。平面形は長方形で、規模は長軸10.04m、短軸7.71mであった。床面までの深さは0.04mで床面の大部分を他の住居跡によって壊されていた。主軸はN-50°-Wであった。カマドは北西側中央に設置されていたが大部分を26号住居跡及び27号井戸跡によって壊されていた。焚き口の掘り込みは浅く、煙道部は削平されていた。また燃焼部右寄りに上製支脚が検出された。貯蔵穴は北東コーナーに検出された。平面円形でやや深い掘り込みであった。覆土には黄褐色土が堆積していた。柱穴は5本検出され、柱穴1・3・4より柱痕が確認された。壁際には壁周溝が巡っていたが、南東辺は切れていた。

遺物はカマド焚き口より土師器甕(42-3)が潰れた状態で、覆土より土師器杯(42-1)及び高杯(42-2)が出土した。

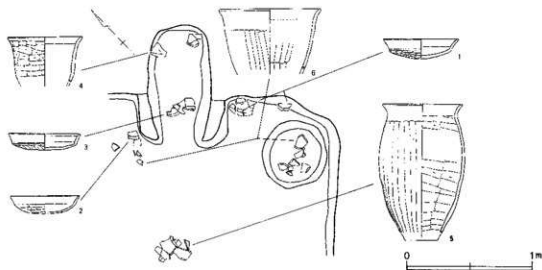
第116図 30号住居跡

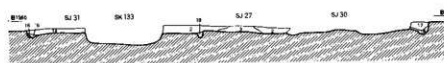
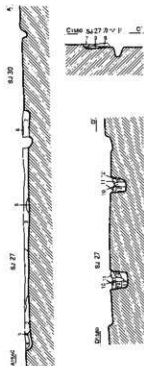
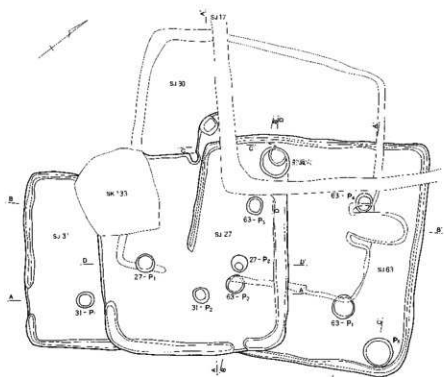


S J 3 0

- |  |  |
|--|--|
| 1 灰黄褐色 (10184/2) 粘質 灰白色土粒(少)、黄褐色土粒(少)              | 6 灰オリーブ色(514/2) シルト質 粘土粒子、炭化物粒子(濃) (貯蔵穴)     |
| 2 結核黄色 (2.514/2) シルト質 焼土粒(多)、同ブロック(多)、黄褐色土粒子(少)    | 7 メリョブ褐色(2.514/6) 粘質 炭褐色土粒(多)、結核黄色土ブロック(少)   |
| 3 オリーブ褐色(2.514/3) シルト質 黄褐色土粒子、同ブロック(少) (5マド層上)     | 8 灰黄褐色 (10184/2) 粘質 炭褐色土粒子、同ブロック(多) (柱痕跡穴)   |
| 4 結核褐色 (5183/2) シルト質 焼土粒、同ブロック(多)、黄褐色土粒(多) (カマド層上) | 9 黄褐色 (2.515/4) シルト質 灰白色土粒子(多) (柱痕)          |
| 5 黄褐色 (2.515/3) シルト質 焼土粒子、炭化物粒子(多)、結核褐色土粒(少) (貯蔵穴) | 10 粘灰色 (10184/1) 粘質 炭褐色土粒子(中) (柱穴)           |
|  | 11 オリーブ褐色(2.514/4) 粘質 (柱穴)                   |
|  | 12 オリーブ褐色(2.514/3) 粘質 灰白色土粒(少)、暗褐色土粒(少) (柱穴) |

0 2m





SJ 27・31・63

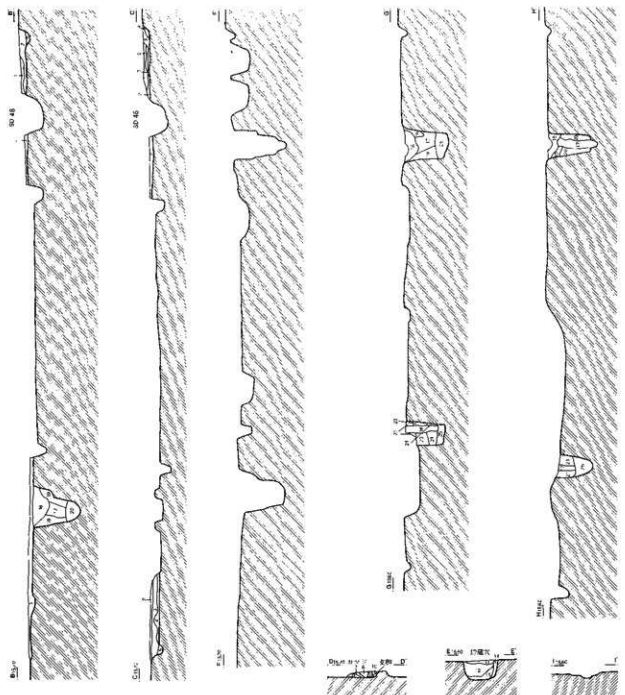
- 1 暗灰色 (2.514/2) シルト質 焼土粒子,炭化物粒子(多)
- 2 褐色 (7.514/4) シルト質 焼土粒子(多),炭化物粒子(多)
- 3 暗褐色 (10133/4) シルト質 焼土粒子(多),黄褐色土粒子(多),黒褐色ブロック(多)
- 4 オリーブ褐色(2.514/1) 粘質 黄褐色上ブロック(多)
- 5 黄褐色 (2.515/6) 粘質 暗褐色土粒子(多)
- 6 暗灰黄色 (2.514/2) 粘質 黄土ブロック(多),黄褐色土粒子(多)(カマド覆土)
- 7 暗オリーブ色(5.14/3) シルト質 黄土粒子,炭化物粒子(多)(カマド覆土)
- 8 にぶい黄褐色(10134/3) シルト質 黄土粒子,炭化物粒子(多)A層及び(カマド覆土)
- 9 オリーブ褐色(2.514/6) 粘質 灰白色土粒子,黄褐色土粒子(少)(カマド覆土)
- 10 にぶい黄褐色(10135/3) シルト質 灰白色土粒子,黄褐色土粒子(多)(柱穴)
- 11 褐色 (10134/4) シルト質 灰白色土粒子(多)(柱穴)
- 12 にぶい黄褐色(10134/3) シルト質 灰白色土粒子(多),暗褐色土粒子(多)(柱穴)
- 13 黄褐色 (2.515/4) 粘質 灰白色土粒子,黄土ブロック(多)(柱穴)
- 14 にぶい黄褐色(10134/3) 粘質 灰白色土粒子(多),黄土ブロック(少)(S131)

- 15 オリーブ褐色(2.514/3) 粘質 黄褐色上ブロック(多)(S131)
- 16 黄灰色 (2.514/1) 粘質 S131
- 17 灰オリーブ色(5.14/2) シルト質 焼土粒子,黄土ブロック(多),炭化物粒子(少)(S132)
- 18 オリーブ褐色(2.514/3) 粘質 黄褐色土粒子,黄土ブロック(少)(S134)
- 19 黒褐色 (2.515/1) 粘質 暗褐色土粒子(多),黄土ブロック(少)(貯蔵穴)
- 20 暗オリーブ色(5.14/3) 粘質 暗褐色土粒子,黄土ブロック(多)(貯蔵穴)
- 21 暗オリーブ色(5.14/4) 粘質 (貯蔵穴)
- 22 オリーブ色(5.15/6) 粘質 暗褐色土粒子(多)(貯蔵穴)
- 23 にぶい黄褐色(2.515/3) 粘質 焼土粒子,黄土ブロック(多),炭化物粒子(少)(柱穴)
- 24 黒褐色 (2.515/1) シルト質 灰白色土粒子(多),黄土ブロック(少),黄土粒子(少)(柱穴)
- 25 オリーブ褐色(2.514/3) 粘質 暗褐色土粒子(少)(柱穴)
- 26 オリーブ褐色(2.514/4) 粘質 焼土粒子,黄土ブロック(多),灰白色土粒子(多)(柱穴)





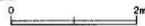
第119図 42号住居跡(2)



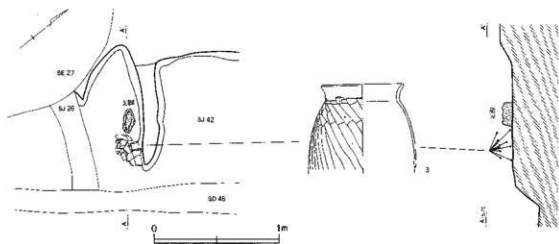
S J 4 2

- 1 黄褐色 (2.5Y5/4) 粘質 暗黄褐色土粒子・同ブロック(少)
- 2 オリーブ褐色(2.5Y4/3) 粘質 暗黄褐色土粒子(少)
- 3 黄褐色 (2.5Y5/4) 粘質 灰白色土粒子(多)・焼土粒子(少)
- 4 暗オリーブ褐色(5Y4/3) 粘質 灰白色土粒子(少)・暗褐色土粒子(少)
- 5 オリーブ褐色(5Y4/6) 粘質 炭化動物粒子・炭土粒子(多)
- 6 赤褐色 (5Y4/6) シルト質 炭土粒子・同ブロック(多) (カマド覆土)
- 7 暗赤褐色 (5Y3/2) シルト質 炭土粒子・同ブロック(多)・高温焼熟緑化(カマド覆土)
- 8 黒褐色 (5Y2/2) シルト質 炭土粒子・同ブロック(多)・炭化動物粒子(多) (カマド覆土)
- 9 明褐色 (7.5Y5/4) 粘質 粘柱体 (カマド配方)
- 10 にぶい赤褐色(5Y3/3) シルト質 暗黄褐色土粒子(多) (カマド覆土)
- 11 灰黄褐色 (10Y5/2) 粘質 黄褐色土粒子(多)・同ブロック(少) (貯蔵穴)
- 12 赤褐色 (10Y3/2) 粘質 黄褐色土粒子(多)・鉄分(多) (貯蔵穴)
- 13 暗褐色 (10Y3/3) 粘質 黄褐色土粒子(少) (貯蔵穴)

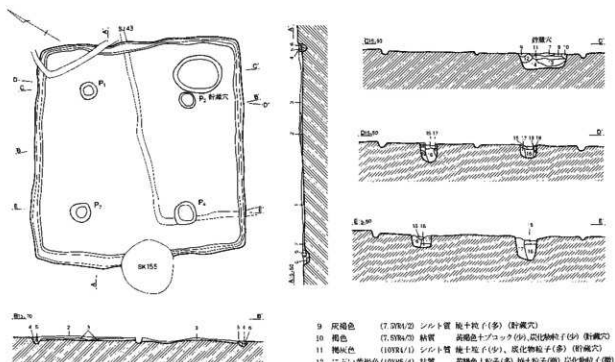
- 14 褐色 (10Y5/6) 粘質 黄褐色土粒子(多)・鉄分(多) (貯蔵穴)
- 15 暗灰褐色 (2.5Y4/2) 粘質 暗黄褐色土粒子(多)・同ブロック(少)
- 16 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘質 暗黄褐色土粒子(少) (柱穴)
- 17 黒褐色 (10Y3/2) 粘質 暗黄褐色土粒子(少)・同ブロック(少) (柱穴)
- 18 オリーブ褐色(2.5Y4/3) 粘質 灰白色土粒子(多)・同ブロック(多) (柱穴)
- 19 黒褐色 (2.5Y2/1) 粘質 暗黄褐色土(少)・同ブロック(少) (柱穴)
- 20 オリーブ褐色(2.5Y4/3) 粘質 暗褐色土(多) (柱穴)
- 21 黒褐色 (10Y3/1) 粘質 暗褐色土ブロック(多)・灰褐色土ブロック(多) (柱穴)
- 22 黄褐色 (2.5Y5/6) 粘質 灰褐色土粒子(少) (柱穴)
- 23 暗オリーブ褐色(5Y4/3) 粘質 灰褐色土粒子(多) (柱穴)
- 24 暗オリーブ褐色(5Y4/4) 粘質 (柱穴)
- 25 オリーブ褐色(2.5Y4/6) 粘質 (柱穴)



第120図 42号住居跡カマド出土遺物状況図



第121図 44号住居跡



- S J 4 4
- 1 茶褐色 (7.708/1) 粘質
  - 2 黒褐色 (10183/2) シルト質 焼土粒子(多), 炭化物粒子(多)
  - 3 にぶい黄褐色(10184/3) 粘質 焼土粒子(多), 炭化物粒子(多)
  - 4 緑灰色 (10184/1) 粘質 黄褐色土粒子(多), 炭化物粒子(少)
  - 5 茶褐色 (10182/2) シルト質 炭化物粒子(多)
  - 6 暗褐色 (10182/4) 粘質 炭化物粒子(少)
  - 7 黒褐色 (51723/1) シルト質 焼土粒子(多), 炭化物粒子(多), 遺物(多)の附着
  - 8 黄褐色 (10185/6) 粘質 炭化物粒子(多) (貯蔵穴)

- 9 灰褐色 (7.708/2) シルト質 焼土粒子(多) (貯蔵穴)
- 10 褐色 (7.5184/2) 粘質 黄褐色土ブロック(少), 炭化物粒子(少) (貯蔵穴)
- 11 緑灰色 (10184/1) シルト質 焼土粒子(少), 炭化物粒子(多) (貯蔵穴)
- 12 にぶい黄褐色(10185/4) 粘質 黄褐色土粒子(多), 焼土粒子(多), 炭化物粒子(多) (貯蔵穴)
- 13 灰黄褐色 (10184/2) 粘質 焼土粒子(多), 炭化物粒子(多) (貯蔵穴)
- 14 黄褐色 (10185/6) 粘質 焼土粒子(少) (貯蔵穴)
- 15 緑灰色 (10184/1) 粘質 炭化物粒子(少) (柱穴)
- 16 黒褐色 (10183/1) シルト質 黄褐色土粒子(少) (柱穴)
- 17 にぶい黄褐色(10185/4) 粘質 黄褐色土ブロック(多)
- 18 灰黄褐色 (10184/2) 粘質 黄褐色土粒子(少), 炭化物粒子(多)
- 19 にぶい黄褐色(10184/3) 粘質 炭化物粒子(少)

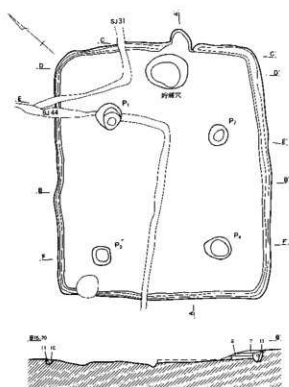


#### 44号住居跡 (第121・124図)

Q・R-4グリッドに位置していた。43号住居跡を切っていた。また、31号住居跡及び155号土壌に切られていた。平面形は方形で、規模は長軸3.54m、短軸3.31mであった。床面までの深さは0.06mで、不均一であった。主軸は推定でN-60°-Eであった。カマドは31号住居跡によって壊されたと考えられ検出されなかった。貯蔵穴は北東コーナーに検出された。平面楕円形でやや深い掘り込みであった。覆土には多量の焼土及び炭化物が堆積していた。柱穴は4本検出され、全ての柱穴より柱痕が確認された。壁際には壁周溝が巡っていた。

遺物は覆土より土師器環 (44-1) が出土した。

#### 第122図 43号住居跡



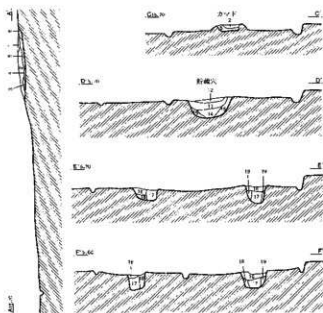
S J 4 3

- 1 黒褐色 (10YR2/1) 粘質 (カマド敷上)
- 2 黒褐色 (10YR2/2) 粘質 炭化物粒子(少) (カマド覆土)
- 3 灰黄褐色 (10YR4/2) シルト質 焼土粒子(多)、炭化物粒子(多) (カマド覆土)
- 4 棕色 (10YR2/1) シルト質 炭化物粒子(少)、焼土粒子(少) (カマド覆上)
- 5 黒褐色 (10YR4/2) 粘質 炭化物粒子(多)、焼土粒子(多) (カマド覆上)
- 6 褐色 (10YR4/6) 粘質 焼土ブロック(少) (カマド覆上)
- 7 黒褐色 (10YR1/1) 粘質 黄褐色土粒子(多)、焼土粒子(多)
- 8 褐色 (10YR4/1) シルト質 黄褐色土粒子(多)、焼土粒子(多)、炭化物粒子(多)
- 9 黒褐色 (10YR2/2) 粘質 炭化物粒子(多)
- 10 黒褐色 (10YR2/2) シルト質 焼土粒子(多)、炭化物粒子(多)

#### 43号住居跡 (第122・124図)

Q・R-4グリッドに位置していた。31・44号住居跡に切られていた。平面形は長方形で、規模は長軸4.06m、短軸3.39mであった。床面までの深さは0.12mで、不均一であった。主軸はN-48°-Eであった。カマドは北東側中央に設置され、小規模であった。焚き口の掘り込みは浅く、煙道部は削平されていた。貯蔵穴は焚き口手前やや左寄りに検出された。平面楕円形で、やや深い掘り込みであった。覆土には多量の焼土及び、炭化物が堆積していた。柱穴は4本検出され、全ての柱穴より柱痕が確認された。壁際には壁周溝が巡っていた。

遺物は覆土より土師器環 (43-1・2) が出土した。

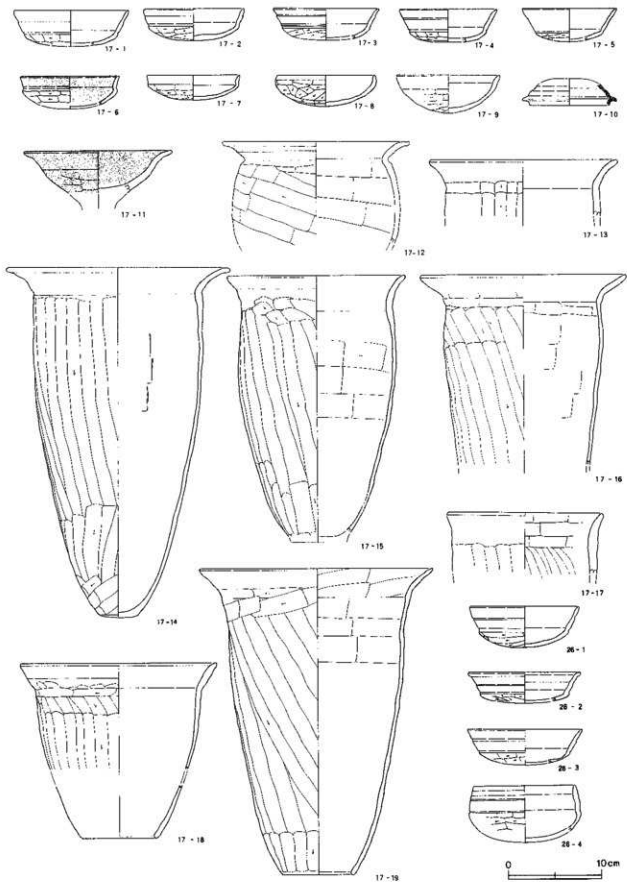


- 11 暗褐色 (10YR3/4) 粘質 炭化物粒子(少)
- 12 黒褐色 (10YR1/1) シルト質 黄褐色土粒子(少)、焼土粒子(多)、炭化物(多) (貯蔵穴)
- 13 灰黄褐色 (10YR4/2) シルト質 黄褐色土粒子(多)、焼土粒子(多)、炭化物粒子(多) (貯蔵穴)
- 14 褐色 (10YR4/1) 粘質 炭褐色土粒子(少)、焼土粒子(多)、炭化物粒子(多) (貯蔵穴)
- 15 暗褐色 (10YR3/2) 粘質 炭化物粒子(多) (貯蔵穴)
- 16 黒褐色 (10YR2/2) シルト質 黄褐色土ブロック(多)、炭化物粒子(多) (柱穴)
- 17 黒褐色 (10YR1/1) シルト質 焼土ブロック(少)、炭化物粒子(多) (柱痕)
- 18 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘質 炭化物粒子(多) (柱穴)
- 19 褐色 (10YR4/1) シルト質 炭化物粒子(多) (柱穴)

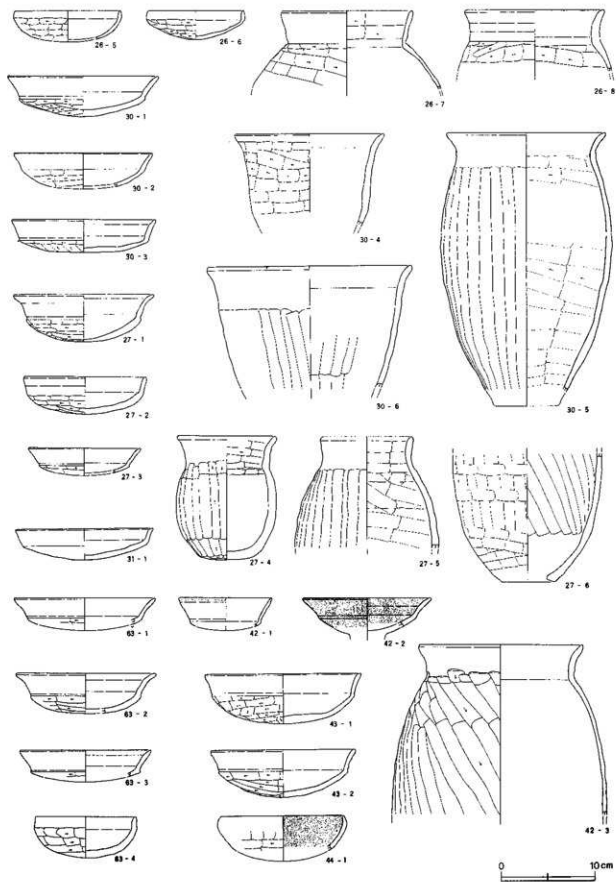
0 2m



第123図 17・26号住居跡出土遺物



第124図 26・27・30・31・42~44・63号住居跡出土遺物



B区17・26・27・30・31・42～44・63号住居跡出土遺物観察表

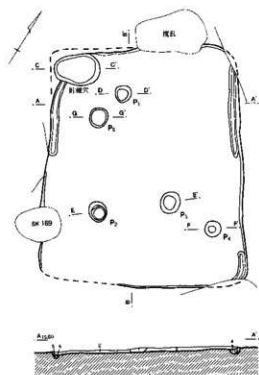
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	施成	色調	残存	備考
17-1	土師器杯	(12.2)	(3.9)	(10.0)	ABEF	4	にぶい橙色	20%	
17-2	土師器杯	(10.8)	3.4	(9.8)	BEF	3	にぶい黄褐色	20%	
17-3	土師器杯	(11.2)	(3.4)	(9.6)	BD	3	にぶい黄褐色	20%	内外面黒色処理?
17-4	土師器杯	(10.4)	(3.5)	(8.2)	BD	3	にぶい黄褐色	20%	外面黒色気味
17-5	土師器杯	(10.0)	(3.6)	(7.0)	BD	3	にぶい黄褐色	15%	
17-6	土師器杯	(10.6)	(3.4)	(10.2)	BEF	3	褐色	10%	
17-7	土師器杯	9.8	2.7	9.7	BEF	3	褐色	70%	
17-8	土師器杯	10.6	3.3	9.0	BD	3	褐色	60%	
17-9	土師器杯	(11.0)	4.0	(10.0)	BDE	3	褐色	20%	
17-10	須恵器杯蓋	(10.0)	(2.9)	-	BF	2	灰色	5%未満	湖西
17-11	土師器高杯	(16.0)	-	-	AEF	3	にぶい褐色	10%	
17-12	土師器甕	20.0	-	-	BDE	3	明赤褐色	15%	
17-13	土師器長胴甕	(20.0)	-	-	BEF	3	褐色	5%未満	
17-14	土師器長胴甕	23.8	37.1	4.0	BEF	3	褐色	70%	
17-15	土師器長胴甕	19.0	(28.3)	-	BDE	3	褐色	60%	
17-16	土師器長胴甕	22.0	-	-	BEF	3	にぶい褐色	10%	
17-17	土師器瓶	(16.8)	-	-	BEF	3	にぶい褐色	5%未満	
17-18	土師器瓶	21.0	(18.5)	(8.0)	BEFH	3	にぶい褐色	25%	
17-19	土師器瓶	(24.9)	(32.5)	(7.6)	BDE	3	浅黄褐色	30%	
26-1	土師器杯	11.8	4.8	9.6	BDE	3	にぶい褐色	65%	
26-2	土師器杯	(12.0)	(3.3)	(9.6)	BDE	3	褐色	5%	
26-3	土師器杯	(12.2)	(3.8)	(9.8)	BD	3	にぶい褐色	15%	
26-4	土師器杯	(11.0)	(6.0)	(12.0)	ADE	3	にぶい褐色	5%	
26-5	土師器杯	(13.4)	(3.3)	(9.7)	BDE	3	褐色	10%	
26-6	土師器杯	(10.2)	3.0	(9.0)	BD	3	褐色	50%	
26-7	土師器甕	14.0	-	-	BEF	3	褐色	15%	
26-8	土師器甕	(15.0)	-	-	BD	3	にぶい褐色	5%未満	
30-1	土師器杯	16.2	4.3	13.4	BEF	3	褐色	80%	カマド出土
30-2	土師器杯	(15.0)	(3.8)	(13.2)	BDE	3	褐色	10%	カマド出土
30-3	土師器杯	(15.4)	(3.5)	(14.0)	BDE	4	浅黄褐色	30%	カマド出土
30-4	土師器甕	16.0	-	-	BEF	3	褐色	20%	カマド出土
30-5	土師器長胴甕	17.0	-	-	BEF	3	褐色	15%	カマド出土
30-6	土師器瓶	(22.0)	-	-	AFP	3	にぶい黄褐色	10%	貯穴出土
27-1	土師器杯	(15.0)	5.0	(12.2)	BEF	3	浅黄褐色	30%	
27-2	土師器杯	(15.2)	4.0	(12.2)	AEH	3	にぶい褐色	30%	
27-3	土師器杯	(12.0)	(2.9)	(9.6)	BD	3	浅黄褐色	15%	
27-4	土師器甕	10.6	13.0	5.7	AHL	3	にぶい黄褐色	60%	
27-5	土師器甕	(9.9)	-	-	BEF	3	褐色	10%	
27-6	土師器瓶	-	-	(5.6)	BEF	3	にぶい赤褐色	5%未満	
31-1	土師器杯	14.7	3.3	13.2	BEF	3	褐色	50%	
42-1	土師器杯	(10.0)	(3.5)	(7.6)	BD	3	灰白色	5%	
42-2	土師器高杯	(13.8)	-	-	AEF	3	にぶい褐色	5%未満	内外面赤彩
42-3	土師器長胴甕	(17.6)	-	-	ABEF	3	褐色	20%	カマド出土
43-1	土師器杯	(16.6)	5.3	(15.2)	BDE	3	浅黄褐色	25%	
43-2	土師器杯	(15.4)	5.0	(14.6)	BDE	3	浅黄褐色	30%	
44-1	土師器杯	(13.0)	(4.8)	(10.8)	AF	3	褐色	5%未満	
63-1	土師器杯	(15.0)	(3.4)	(12.3)	BEF	3	褐色	5%未満	
63-2	土師器杯	(15.0)	(4.2)	(11.8)	BEF	3	褐色	20%	
63-3	土師器杯	(14.0)	(3.4)	(11.6)	BEF	3	褐色	5%未満	
63-4	土師器杯	10.8	4.4	11.0	ABEF	3	明赤褐色	80%	

### 79号住居跡 (第125・127図)

P-2グリッドに位置していた。169号土城及び41号溝に切られていた。平面形は方形で、規模は長軸3.78m、短軸3.2mであった。床面までの深さは0.04mで、均一であった。主軸は推定でN-35°-Wであった。カマドは検出されなかった。貯蔵穴は北西コーナーに検出された。平面楕円形で、浅い掘り込みであった。覆土には多量の焼土が堆積していた。柱穴は5本検出され、不規則な配置であった。壁際には一部壁周溝が巡っていた。

遺物は覆土より土器器環 (79-1~4) が出土した。

第125図 79号住居跡



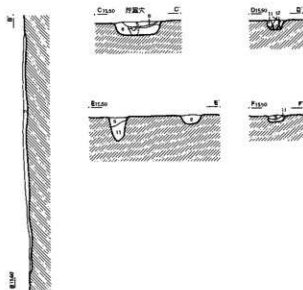
S J 7 9

- 1 オリーブ褐色 (S.V3/1) 粘質 灰白色ブロック (少)
- 2 黒褐色 (2.S.V3/1) 粘質 暗褐色土ブロック (多)、焼土粒子 (多)
- 3 灰オリーブ色 (S.V4/2) 粘質 暗褐色土粒子 (少)
- 4 オリーブ褐色 (S.V3/2) 粘質 暗褐色土粒子 (多)、同ブロック (少)
- 5 オリーブ褐色 (2.S.V4/3) 粘質 暗褐色土粒子 (多)、焼土粒子 (多) (貯蔵穴)
- 6 オリーブ褐色 (2.S.V4/4) シルト質 暗褐色土粒子 (多)、焼土粒子 (多) (貯蔵穴)
- 7 黒褐色 (2.S.V3/2) シルト質 焼土粒子 (多)、灰白色粒子 (多) (貯蔵穴)

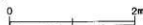
### 84号住居跡 (第126・127図)

P-3グリッドに位置していた。遺構確認面が浅く床面の一部のみの検出であった。平面形は推定方形で、規模は不明であった。主軸はN-90°-Eであった。カマドは東側中央に設置されていたが、燃焼部火床面のみ検出された。貯蔵穴は南側コーナーに検出された。平面楕円形で下段が長方形の二段掘り込みであった。柱穴は検出されなかった。また、南側一部に壁周溝が巡っていた。

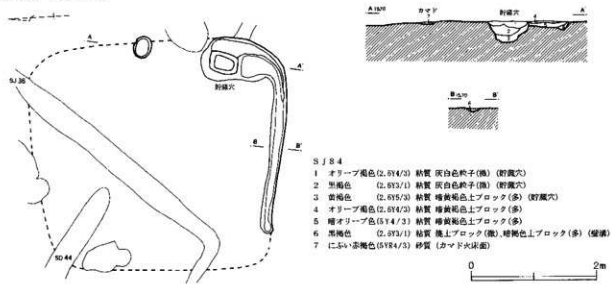
遺物は貯蔵穴より土器器壺 (84-1) が潰れた状態で出土した。



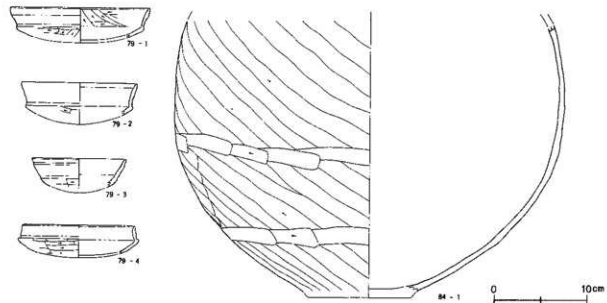
- 8 黒褐色 (2.S.V3/2) 粘質 焼土粒子 (少) (貯蔵穴)
- 9 黒褐色 (2.S.V3/2) シルト質 焼土粒子 (中)、灰白色粒子 (多) (柱穴)
- 10 黒褐色 (2.S.V3/2) 粘質 焼土粒子 (少) (柱穴)
- 11 オリーブ褐色 (2.S.V4/4) 粘質 焼土粒子 (多) (柱穴)
- 12 オリーブ褐色 (2.S.V4/6) 粘質 焼土粒子 (多) (柱穴)



第126図 84号住居跡



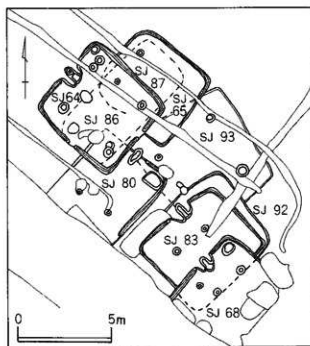
第127図 79・84号住居跡出土遺物



B区79-84号住居跡出土土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
79-1	土師器杯	(15.0)	(3.8)	(13.6)	BE	3	橙色	5%未満	内外面黒色処理
79-2	土師器杯	(12.2)	(4.4)	(9.4)	BEF	3	橙色	5%未満	
79-3	土師器杯	(10.0)	(3.9)	(8.2)	BDE	3	灰白色	5%	
79-4	土師器杯	(12.0)	(3.5)	(13.0)	BEF	3	橙色	5%	
84-1	土師器壺	-	-	(11.2)	ABEF	3	橙色	30%	

第128図 重複住居跡群(4)



64号住居跡(第129・131・267・272図)

P-2・3グリッドに位置していた。65・80・86・87号住居跡を切っていた。また、173号土壇及び41号溝に切られていた。平面形は方形で、規模は長軸5.4m、短軸5.04mであった。床面までの深さは0.08mで、均一であった。主軸はN-45°-Wであった。カマドは北西側中央に設置されていた。焚き口の掘り込みが二段の深い掘り込みで、煙道部は削平されていた。貯蔵穴は北東コーナーに検出された。平面円形で浅い掘り込みであった。柱穴は6本検出され、深い掘り込みであった。壁際には壁周溝が巡っていたが、南西辺及び、南東辺中央部は切れていた。

遺物はカマド内より土師器壺(64-5・7)が、覆土より土師器杯(64-1・2)及び須恵器蓋(64-3)、土師器鉢(64-4)、壺(64-6)が出土した。この

ほか、柱穴内より砥石(第267図16)及び刀子(第272図5)が出土した。

65号住居跡(第130・131図)

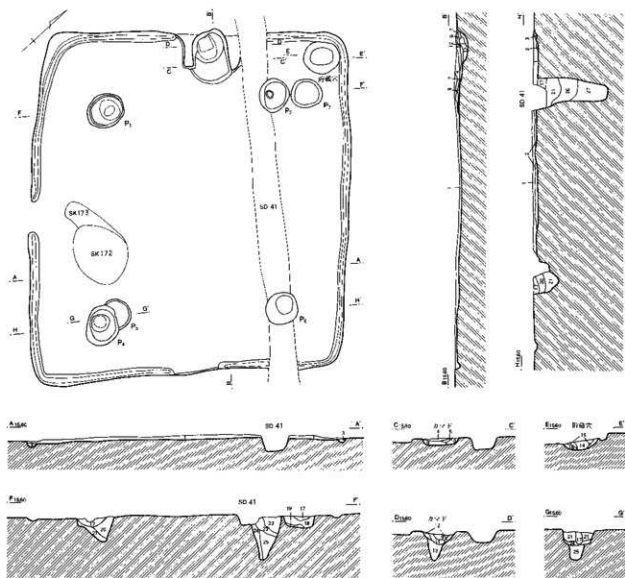
P-3グリッドに位置していた。86・87・93号住居跡を切っていた。また、37・41号溝に切られていた。平面形は方形で、規模は長軸5.0m、短軸4.42mであった。床面までの深さは0.08mで、均一であった。主軸は推定でN-55°-Wであった。カマドは64号住居跡に壊されたと考えられ検出されなかった。貯蔵穴は検出されなかった。柱穴は4本検出され柱穴より柱痕が確認された。壁際には壁周溝が巡っていたが、南西辺中央部及び、北西辺は切れていた。

遺物は覆土より土師器杯(65-1)及び壺(65-2)が出土した。

87号住居跡(第130図)

P-2・3グリッドに位置していた。64・65・86号住居跡及び37・41号溝に切られていた。平面形は長方形で、規模は長軸3.96m、短軸2.96mであった。床面までの深さは0.08mで、均一であった。主軸は不明であった。カマド及び貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。壁際には壁周溝が巡っていたが、南西コーナー部は切れていた。出土した遺物は、なかった。

第129図 64号住居跡

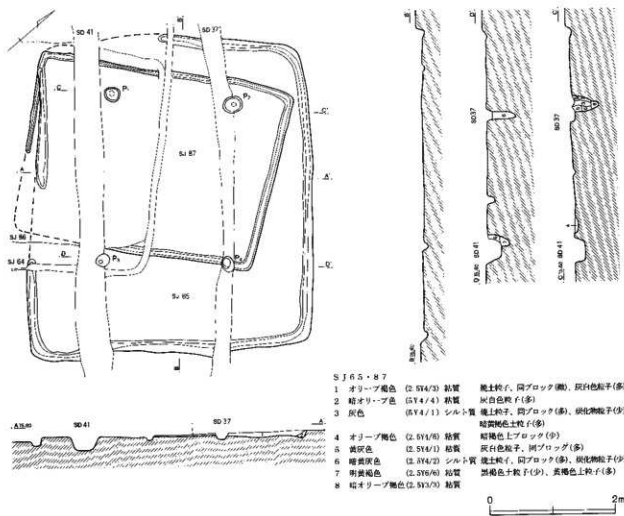


S J 6 4

- |            |            |      |                                      |           |            |      |                                  |
|------------|------------|------|--------------------------------------|-----------|------------|------|----------------------------------|
| 1 暗灰黄色     | (2. 514/2) | 粘質   | 灰白色粘土(多), 同ブロック(少)                   | 14 暗灰黄色   | (2. 514/2) | 粘質   | 灰褐色土ブロック(少) (貯蔵穴)                |
| 2 黒褐色      | (2. 513/2) | 粘質   | 灰白色粘土(少), 同ブロック(稀)                   | 15 暗灰黄色   | (2. 514/2) | 粘質   | 灰褐色土ブロック(少) (貯蔵穴)                |
| 3 黄褐色      | (2. 514/4) | 粘質   | 暗黄褐色土ブロック(少)                         | 16 形質褐色   | (2. 516/5) | 粘質   | 黄褐色土粘土(多), 黒褐色土粘土(少) (貯蔵穴)       |
| 4 黄灰色      | (2. 514/1) | 砂質   | 暗灰黄色土粘土(少), 黄土粘土, 同ブロック(少) (カマド覆土)   | 17 灰色     | (5Y4/1)    | 粘質   | 暗褐色土粘土(多), 黄土粘土(多), 炭化物粘土(少)     |
| 5 暗灰黄色     | (2. 515/2) | 砂質   | 黄土粘土, 同ブロック(多), 炭化物粘土(少) (カマド覆土)     | 18 暗オリーブ色 | (5Y4/3)    | 粘質   | 暗黄褐色土粘土(少)                       |
| 6 黒褐色      | (2. 513/2) | 砂質   | 黄土粘土, 同ブロック(多), 灰白色粘土(少) (カマド覆土)     | 19 オリーブ褐色 | (2. 514/4) | 粘質   | 暗黄褐色土ブロック(多)                     |
| 7 オリーブ褐色   | (2. 514/3) | 砂質   | 黄土ブロック(多)                            | 20 オリーブ褐色 | (2. 514/4) | 粘質   | 暗黄褐色土ブロック(多), 黄土粘土(少)            |
| 8 黒褐色      | (10Y3/2)   | 粘質   | 灰白色粘土(多)                             | 21 暗灰黄色   | (2. 514/2) | 粘質   | 灰褐色土ブロック(少)                      |
| 9 濃い赤褐色    | (5Y4/8)    | シルト質 | 黄土粘土(多), 同ブロック(少), 炭化物粘土(少) (カマド覆土)  | 22 暗灰黄色   | (2. 514/2) | 粘質   | 黄土粘土(多), 同ブロック, 炭化物粘土(少)         |
| 10 暗オリーブ褐色 | (1. 5Y3/3) | 粘質   | 黄土粘土(少), 炭化物粘土(多) (カマド覆土)            | 23 灰オリーブ色 | (5Y4/2)    | 粘質   | 黄土ブロック(少), 炭化物粘土(少), 灰褐色土ブロック(多) |
| 11 明褐色     | (7. 5Y5/5) | シルト質 | 黄土粘土(多), 同ブロック(多), 炭化物粘土(多) (カマド覆土)  | 24 明黄褐色   | (2. 516/6) | 粘質   | 黄褐色土粘土(少), 黄褐色土粘土(少)             |
| 12 明黄褐色    | (2. 516/6) | 粘質   | 黄褐色土粘土(多), 黒褐色土粘土(少) (カマド覆土)         | 25 黒褐色    | (2. 513/2) | シルト質 | 黄土ブロック(多), 炭化物粘土, 同ブロック(多)       |
| 13 灰色      | (5Y4/1)    | シルト質 | 暗黄褐色土粘土(少), 黄土粘土, 同ブロック(多), 炭化物粘土(少) | 26 オリーブ藍色 | (7. 5Y3/2) | 粘質   | 灰褐色土ブロック(多)                      |
|            |            |      |                                      | 27 オリーブ藍色 | (5Y2/2)    | 粘質   | 黄褐色土粘土(少)                        |

0 2m

第130図 65・87号住居跡



### 80号住居跡 (第131・132図)

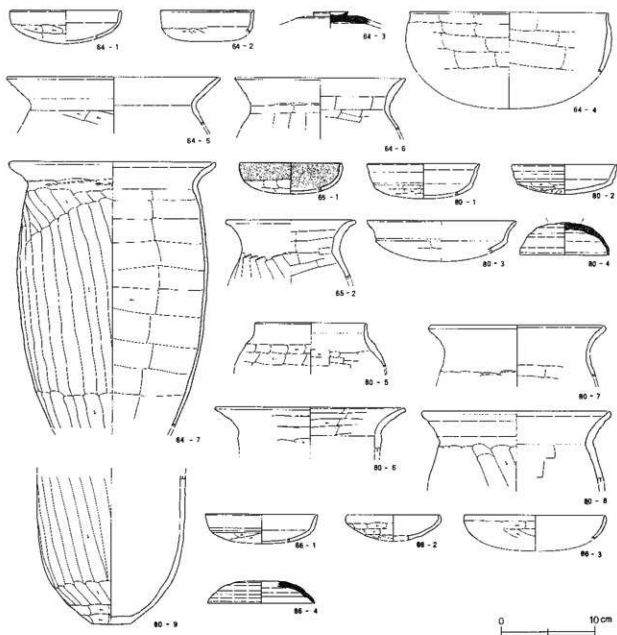
Q-2・3グリッドに位置していた。80号住居跡を切っていた。また、64号住居跡及び170・172・217・190号土塊、68号溝に切られていた。平面形は方形で、規模は長軸4.8m、短軸4.5mであった。床面までの深さは0.08mで、均一であった。主軸はN-41°-Eであった。カマドは北東側中央に設置されていた。焚き口の掘り込みは浅く、煙道部は削平されていた。また

袖部分は壊されていた。貯蔵穴は北東コーナーに検出された。平面長方形で浅い掘り込みであった。柱穴は4本検出され、全ての柱穴より柱痕が確認された。壁際には壁周溝が巡っていたが、南西辺は切れていた。

遺物は貯蔵穴より須恵器蓋(80-4)及び、土師器甕(80-6・8・9)が、覆土より土師器杯(80-1・2・3)及び、甕(80-5・7)が出上した。



第131図 64・65・80・86号住居跡出土遺物



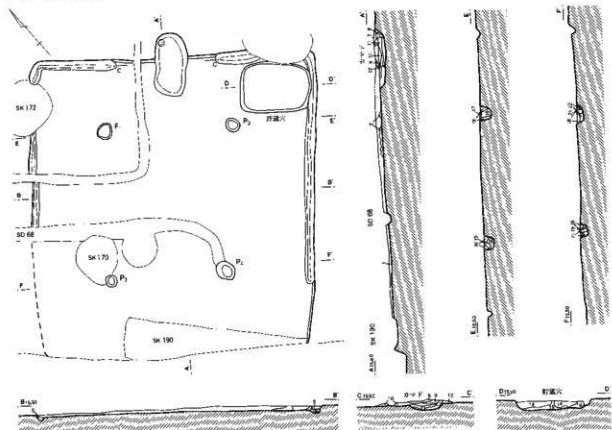
B区64・65・80・86号住居跡遺物観察表 (1)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
64-1	土師器杯	(12.0)	(3.5)	(11.6)	BD	3	にぶい橙色	5%	
64-2	土師器杯	(10.0)	(3.4)	(9.8)	BEF	3	橙色	5%未満	
64-3	須恵器杯	-	-	-	BF	2	灰色	5%未満	不明
64-4	土師器杯	(21.0)	-	-	BDE	3	橙色	5%	
64-5	土師器甕	(22.8)	-	-	BDE	3	橙色	5%未満	カマド出土
64-6	土師器甕	(18.0)	-	-	ABEF	3	にぶい橙色	5%未満	
64-7	土師器長胴甕	(22.0)	-	-	BDE	3	橙色	30%	
65-1	土師器杯	(11.0)	(3.6)	(8.4)	ABF	3	橙色	5%未満	
65-2	土師器甕	(14.0)	-	-	ABDE	3	にぶい黄橙色	5%未満	
80-1	土師器杯	(12.0)	(3.7)	(10.6)	BDE	3	橙色	5%	
80-2	土師器杯	(11.2)	(3.1)	(10.2)	BDE	3	橙色	25%	

B区64・65・80・86号住居跡遺物観察表 (2)

番号	器種	口径	器高	口径	胎土	焼成	色調	残存	備考
80-3	上師器杯	(16.0)	(4.3)	(14.2)	BF	3	褐色	5%	
80-4	須恵器杯蓋	9.6	3.4	-	B	2	灰白色	40%	湖西 貯穴出土
80-5	土師器甕	(12.0)	-	-	BDE	3	赤色	5%未満	
80-6	上師器長胴壺	(20.2)	-	-	ABDE	3	褐色	5%未満	貯穴出土
80-7	土師器長胴壺	(19.0)	-	-	BDE	3	にぶい褐色	5%未満	
80-8	土師器長胴壺	(20.2)	-	-	BDE	3	褐色	5%未満	貯穴出土
80-9	上師器長胴壺	-	-	4.1	BDE	3	褐色	15%	貯穴出土
86-1	上師器杯	(12.0)	(3.1)	(11.0)	BDE	3	褐色	5%未満	
86-2	土師器杯	(10.0)	(2.8)	(8.4)	BD	3	にぶい褐色	20%	貯穴出土
86-3	土師器杯	(15.0)	-	-	BD	3	にぶい褐色	5%未満	
86-4	須恵器杯蓋	(13.4)	-	-	BF	2	灰色	20%	南比企 貯穴出土

第132図 80号住居跡



## SJS80

- |                       |  |                         |                                   |
|-----------------------|--|-------------------------|-----------------------------------|
| 1 黒褐色 (2.573/1) 粘質    | 暗赤褐色土粒子(多), 同ブロック(少)                       | 14 オリーブ褐色(2.574/3) 粘質   | 暗赤褐色土粒子(多), 同ブロック(多), 灰白色(少), 貯穴  |
| 2 暗灰黄色 (2.574/2) 粘質   | 暗赤褐色土粒子(多), 同ブロック(多)                       | 15 オリーブ褐色(2.574/4) シルト質 | 暗赤褐色土粒子(多), 貯穴                    |
| 3 オリーブ褐色(5.71/1) 粘質   | 灰白色土ブロック(多)                                | 16 黒褐色 (2.573/2) 粘質     | 暗赤褐色土粒子(少), 同ブロック(多), 地上粒子(多), 貯穴 |
| 4 オリーブ褐色(5.71/2) 粘質   | 暗赤褐色土ブロック(少)                               | 17 灰色 (5.74/1) 粘質       | 暗赤褐色土粒子(多), 同ブロック(少), 貯穴          |
| 5 黒褐色 (0.976/2) 粘質    | 焼土粒子(少), 暗赤褐色土粒子(少)                        | 18 黄褐色 (2.574/1) 粘質     | 暗赤褐色土粒子(多), 同ブロック(多), 貯穴          |
| 6 オリーブ褐色(2.574/4) 粘質  | 暗赤褐色土粒子(多), 灰白色土粒子(多) (カマド壁)               | 19 灰褐色 (2.573/1) 粘質     | 暗赤褐色土粒子(多), 同ブロック(多), 貯穴          |
| 7 オリーブ褐色(5.71/2) 粘質   | 暗赤褐色土粒子(多) (カマド壁)                          | 20 暗オリーブ色(5.74/3) シルト質  | 暗赤褐色土粒子(多), 貯穴                    |
| 8 暗オリーブ色(5.74/3) 粘質   | 暗赤褐色土粒子(多), 灰白色土粒子(多), 暗赤褐色土ブロック(多) (カマド壁) | 21 オリーブ褐色(7.574/4) 粘質   | 暗赤褐色土粒子(多), 貯穴                    |
| 9 灰オリーブ色(5.74/2) 砂質   | 暗赤褐色土粒子(多), 灰白色土粒子(多), 暗赤褐色土ブロック(多) (カマド壁) | 22 暗オリーブ色(5.74/3) 粘質    | 暗赤褐色土粒子(多)                        |
| 10 褐色 (7.573/2) シルト質  | 焼土粒子(多), 同ブロック(多), 炭化物(多)                  |                         |                                   |
| 11 暗灰色 (0.976/1) シルト質 | 暗赤褐色土粒子(多), 焼土粒子(多), 白色土粒子(多), 炭化物(少)      |                         |                                   |
| 12 暗褐色 (7.573/2) 粘質   | 灰白色土粒子(多) (カマド壁)                           |                         |                                   |
| 13 暗オリーブ色(5.74/3) 粘質  | 暗赤褐色土粒子(多) (カマド壁)                          |                         |                                   |

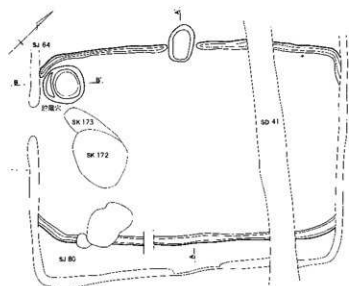
0 2m

### 86号住居跡 (第131・133図)

P-2・3グリッドに位置していた。87号住居跡を切っていた。また、64・65・80号住居跡及び172・173号土壌、41号溝に切られていた。平面形は長方形で、規模は長軸5.0m、短軸3.18mであった。床面までの深さは0.04mで、不均一であった。主軸はN-45°-Wであった。カマドは北西側中央に設置されていた。焚き口の掘り込みは浅く、煙道部及び袖部は削平されていた。貯蔵穴は北西コーナーに検出された。平面円形で下段が円形の二段掘り込みであった。柱穴は検出されなかった。壁際には壁周溝が巡っていたが、南西辺は切れていた。

遺物は覆土より土師器杯(86-1・2・3)及び須恵器蓋(86-4)が出土した。

第133図 86号住居跡

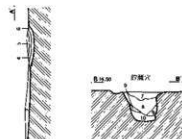


- |                      |                                     |         |
|----------------------|-------------------------------------|---------|
| 5 J 8 6              |                                     |         |
| 1 黒褐色 (10YR/1) 粘質    | 暗黄褐色土粒子、同ブロック(多)                    |         |
| 2 オリーブ褐色(2.5Y4/4) 粘質 | 暗黄褐色土粒子、同ブロック(少)                    |         |
| 3 オリーブ褐色(2.5Y4/3) 粘質 | 暗黄褐色土粒子、同ブロック(少)                    |         |
| 4 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘質  | 暗黄褐色土粒子(少)                          |         |
| 5 褐色 (7.5YR/4) シルト質  | 暗黄褐色土粒子(少)、焼土粒子、同ブロック(多)<br>(カマド壁上) |         |
| 6 に近い黄褐色(10YR/2) 粘質  | 暗黄褐色土粒子、同ブロック(多)                    | (カマド壁上) |

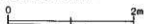
### 88号住居跡 (第68・138図)

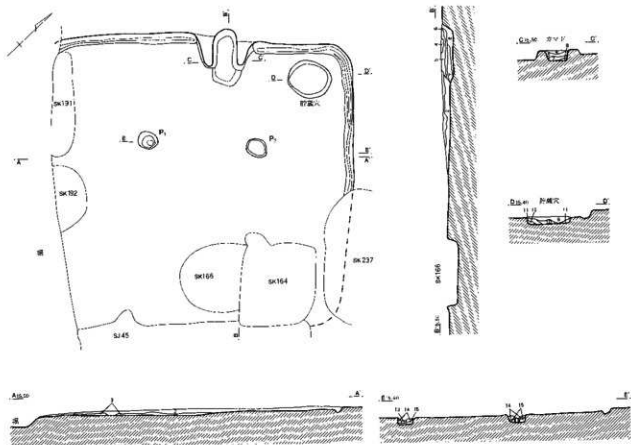
Q-3グリッドに位置していた。83号住居跡を切っていた。また、堀及び48号掘立柱建物跡、164・166・191・192・237号土壌に切られていた。また、45号住居跡との新旧関係は不明であった。平面形は方形で、規模は推定で長軸4.8m、短軸4.5mであった。床面までの深さは0.1mで、不均一であった。主軸はN-46°-Wであった。カマドは北西側中央やや東寄りに設置されていた。焚き口の掘り込みは浅く、煙道部は削平されていた。貯蔵穴は北東コーナーに検出された。平面楕円形で浅い掘り込みであった。柱穴は2本検出され、浅い掘り込みであった。壁際には壁周溝が巡っていたが、南東辺は切れていた。

遺物は覆土より土師器杯(68-1・2・3)及び高坏(68-4・5)が出土した。



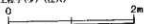
- |                      |                                   |
|----------------------|-----------------------------------|
| 7 オリーブ褐色(2.5Y4/3) 粘質 | 暗黄褐色土粒子、同ブロック(多)、焼土粒子(少)<br>(貯蔵穴) |
| 8 黒褐色 (2.5Y3/2) 粘質   | 暗黄褐色土粒子、同ブロック(少)、焼土粒子(少)<br>(貯蔵穴) |
| 9 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘質  | 暗黄褐色土粒子、同ブロック(多) (貯蔵穴)            |
| 10 オリーブ褐色(5Y3/1) 粘質  | 暗黄褐色土粒子(少) (貯蔵穴)                  |





S J 6 表

1 黒褐色 (10YR3/2) 粘質 灰白色土粒子(少), 焼土粒子(多)	8 暗オリーブ色 (5Y4/3) 粘質 焼土粒子(多), 暗黄褐色土粒子(少), 同ブロック(多)
2 暗褐色 (10YR3/2) 粘質 暗褐色土ブロック(多), 焼土粒子(少), 白色点	9 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘質 暗黄褐色土粒子多, 同ブロック多貯蔵穴
3 黄褐色 (10YR5/6) 粘質 暗褐色土粒子(少)	10 暗灰褐色 (2.5Y6/6) 粘質 暗黄褐色土ブロック(多) (貯蔵穴)
4 暗灰褐色 (2.5Y4/2) 粘質 灰白色土粒子(多), 焼土粒子, 同ブロック(少)	11 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘質 暗黄褐色土ブロック(多) (貯蔵穴)
5 黄褐色 (2.5Y5/3) 粘質 暗黄褐色土粒子, 同ブロック(多), 焼土粒子(少)	12 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 粘質 (貯蔵穴)
6 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/2) 粘質 灰白色土(多), 同ブロック(少) (カマド覆上)	13 オリーブ茶色 (5Y3/1) 粘質 灰白色土粒子(少) (柱穴)
7 オリーブ茶色 (5Y3/1) 粘質 焼土粒子(多), 暗黄褐色土粒子(少)	14 オリーブ茶色 (5Y3/2) 粘質 暗黄褐色土粒子(少) (柱穴)
	15 黄褐色 (5Y5/6) 粘質 暗褐色土粒子(少) (柱穴)



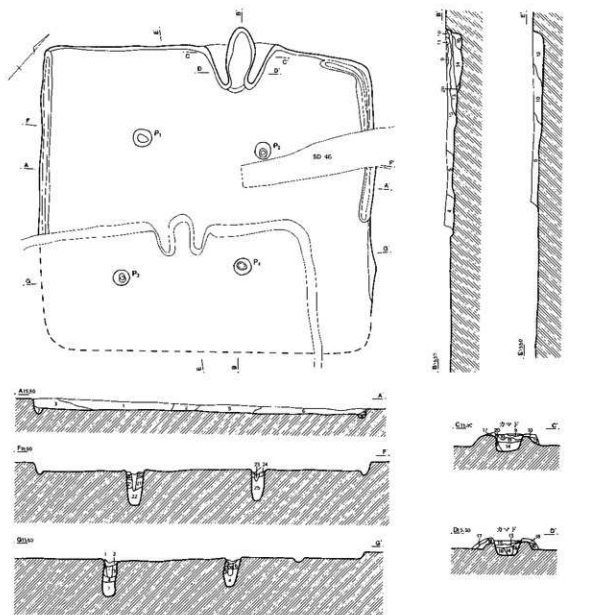
83号住居跡 (第135・138図)

Q-3グリッドに位置していた。92・93号住居跡及び219号土壌を切っていた。また、68号住居跡及び46号溝に切られていた。平面形は方形で、規模は長軸5.3m、短軸4.78mであった。床面までの深さは0.16mで、均一であった。主軸はN-45°-Wであった。カマドは北西側中央に設置されていた。焚き口の掘り込

みは浅く、煙道部は削平されていた。貯蔵穴は検出されなかった。柱穴は4本検出され深い掘り込みで、全ての柱穴より柱痕が確認された。壁際には壁周溝が巡っていたが、南東辺は切れていた。

遺物は覆土より土師器環(83-1~15)及び高環(83-16)、須恵器甕(83-17)、土師器瓶(83-18・19)が出土した。

第135図 83号住居跡



S. 83

- |                        |   |                       |                                      |
|------------------------|---|-----------------------|--------------------------------------|
| 1 緑灰黄色 (2.574/2) 粘質    | 灰白色粘土(多), 焼土粒子(微)                         | 16 灰オリーブ色(5Y4/2) シルト質 | 暗黄褐色土粒子(多), 同ブロック(多) (カマド壁)          |
| 2 オリーブ黒色(5Y3/1) 粘質     | 暗黄褐色土粒子(少), 同ブロック(多)                      | 17 オリーブ黒色(7.5Y4/2) 粘質 | 暗褐色土粒子(少)                            |
| 3 黒褐色 (2.5Y3/2) 粘質     | 暗黄褐色土粒子, 同ブロック(多), 焼土粒子(微)                | 18 黒褐色 (2.5Y3/1) シルト質 | 焼土粒子(微)                              |
| 4 黄褐色 (2.5Y5/4) シルト質   | 焼土粒子(少), 同ブロック(多)                         | 19 黒褐色 (2.5Y3/2) 粘質   | 暗黄褐色土粒子(多), 同ブロック(少), 焼土粒子(微)        |
| 5 オリーブ褐色(2.5Y4/3) 粘質   | 暗黄褐色土粒子, 同ブロック(多)                         | 20 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘質   | 暗黄褐色土粒子(多), 同ブロック(多), 焼土粒子(微) (柱穴)   |
| 6 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘質     | 暗黄褐色土粒子, 同ブロック(多)                         | 21 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘質   | 暗黄褐色土粒子, 同ブロック(少) (柱穴)               |
| 7 黒褐色 (10Y3/1) 粘質      | 焼土粒子(多), 黄褐色土粒子(少)                        | 22 オリーブ黒色(5Y3/2) 粘質   | 暗黄褐色土粒子(少), 同ブロック(多) (柱穴)            |
| 8 黄褐色 (2.5Y5/4) 粘質     | 暗褐色土粒子(少)                                 | 23 黄灰色 (10Y4/1) 粘質    | 暗黄褐色土粒子(少), 同ブロック(少), 灰白色土粒子(少) (柱穴) |
| 9 赤褐色 (5Y4/6) シルト質     | 焼土粒子, 同ブロック(多)                            |                       |                                      |
| 10 にがい黄褐色(10Y4/3) シルト質 | 暗黄褐色土粒子(多), 焼土粒子(多)                       |                       |                                      |
| 11 にがい黄褐色(10Y4/3) 粘質   | 暗黄褐色土粒子(多), 同ブロック(多)                      | 24 黄褐色 (7.5Y4/4) シルト質 | 暗褐色土(少), 灰白色土(多)                     |
| 12 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘質    | 暗黄褐色土粒子(多), 同ブロック(多)                      | 25 暗オリーブ色(5Y4/3) 粘質   | 暗褐色土(多)                              |
| 13 暗オリーブ色(5Y4/3) シルト質  | 暗黄褐色土粒子(多), 焼土粒子(多), 灰白色土粒子(少) (カマド壁)     | 26 灰オリーブ色(5Y4/2) 粘質   | 暗褐色土(少), 灰白色土(多)                     |
| 14 暗オリーブ色(5Y4/3) シルト質  | 暗黄褐色土粒子(多), 焼土粒子(多), 灰白色土粒子(少) (カマド壁)     |                       |                                      |
| 15 黒褐色 (2.5Y3/2) 粘質    | 暗褐色土(少), 灰白色土(多), 暗褐色土(少), 灰白色土(多) (カマド壁) |                       |                                      |

0 2m

### 92号住居跡 (第136・138図)

Q-3グリッドに位置していた。93号住居跡を切っていた。また、68・83号住居跡及び48号独立柱建物跡、46号溝に切られていた。平面形は推定長方形で、規模は長軸5.18m、短軸3.46mであった。床面までの深さは0.1mで、床面の大部分を他の住居跡によって壊されていた。主軸はN-35°-Wであった。カマドは北西側中央に設置されていた。焚き口部及び燃焼部のみ検出された。貯蔵穴は北西コーナーに検出された。遺構の大部分を他の柱穴によって壊されていた。平面方形で下段が円形の二段浅掘り込みであった。覆土には多量の焼土及び、炭化物が堆積していた。柱穴は検出されなかった。

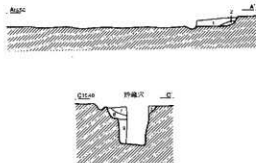
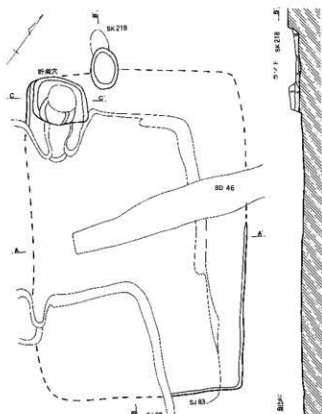
遺物は貯蔵穴上部より土師器杯 (92-1) が出土した。

### 93号住居跡 (第137・138・266・267・268・272図)

P・Q-3グリッドに位置していた。26・80・83・92号住居跡及び、217・218号土塼、37・41・46号溝に切られていた。平面形は方形で、規模は長軸6.0m、短軸5.41mであった。床面までの深さは0.22mで、均一であった。主軸は不明であった。カマド及び貯蔵穴は検出されなかった。柱穴は4本検出され、全ての柱穴より柱根が確認された。

遺物は覆土より土師器高杯 (93-1・2・3) 及び床面直上より土師器高杯 (93-4) のほか、土玉 (第266図19)、白玉 (第268図41)、鉄製品 (第272図7・9) 及び、混入して石棒 (第267図2) が出土した。

第136図 92号住居跡

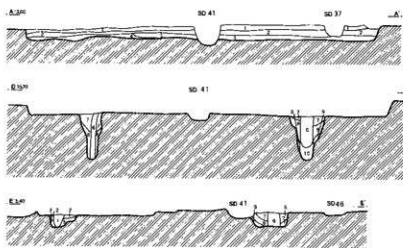
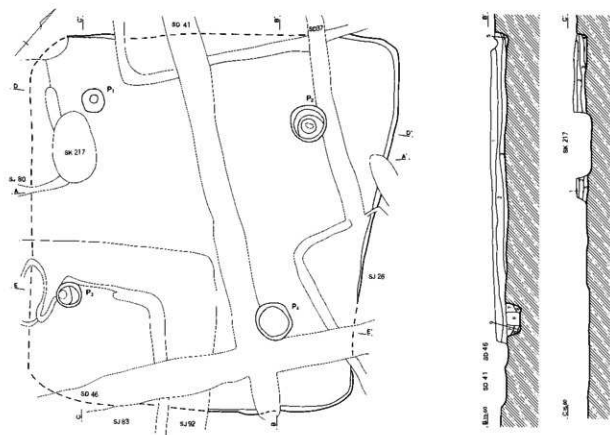


#### SJ92

- |   |         |           |      |                             |
|---|---------|-----------|------|-----------------------------|
| 1 | 黒褐色     | (2.3Y3/2) | 粘質   | 焼土粒子、炭化物粒子(少)               |
| 2 | オリーブ褐色  | (2.3Y4/2) | 粘質   | 黄褐色土粒子(多)                   |
| 3 | 黄褐色     | (2.3Y5/3) | シルト質 | 黄褐色土粒子(多)、焼土粒子、炭化物粒子(少)     |
| 4 | 緑オリーブ褐色 | (2.3Y3/3) | 粘質   | 黄褐色土粒子(少)、焼土粒子、炭化物粒子(少)     |
| 5 | 黒褐色     | (2.3Y3/2) | 粘質   | 焼土粒子(多)、炭化物粒子(少)(カマド覆土)     |
| 6 | 黒褐色     | (2.3Y3/2) | 粘質   | 焼土粒子(多)、炭化物(多)、炭層帯硬塊(カマド覆土) |
| 7 | 暗黄褐色    | (2.5Y4/2) | シルト質 | 炭化物粒子、焼土粒子(多)(貯蔵穴)          |
| 8 | 暗黄褐色    | (2.5Y4/2) | 粘質   | 炭化物粒子、焼土粒子(少)(貯蔵穴)          |
| 9 | 黄褐色     | (2.5Y5/0) | 粘質   | 灰化粘土と黄褐色土の互層(貯蔵穴)           |



第137図 93号住居跡



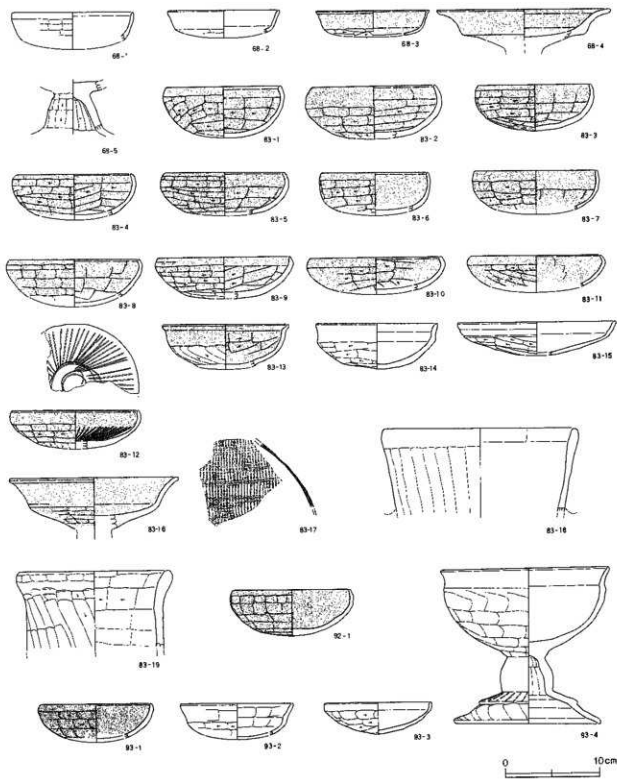
S J 9 3

- 1 黒褐色 (2.513/2) 粘質 白色塵粒子(少)、炭化物粒子、焼土粒子(少)
- 2 黒褐色 (2.513/2) 粘質 粘性強 増灰色粘土(多)、焼土粒子、炭化物粒子(微)
- 3 暗オリーブ色(2.513/3) 粘質 黄褐色土粒子(多)、炭化物粒子(微)
- 4 オリーブ褐色(2.514/3) 粘質 灰色粘土(多)、焼土粒子(少)
- 5 黒褐色 (2.513/1) 粘質 黒色土粒子(少) (雜方)

- 6 黒褐色 (2.513/1) 粘質 炭化物粒子(多)、しまり(X) (柱穴)
- 7 暗黄灰色 (2.514/2) 粘質 焼土粒子、炭化物粒子(微) (柱穴)
- 8 オリーブ褐色(2.514/3) 粘質 黄褐色土ブロック(多) (柱穴)
- 9 黄褐色 (2.515/4) 粘質 灰色粘土+黄褐色土の互層(雜方) (柱穴)
- 10 灰オリーブ色(2.515/2) 粘質 粘性強 しまり(X) (柱穴)



第138图 68·83·92·93号住居跡出土遺物

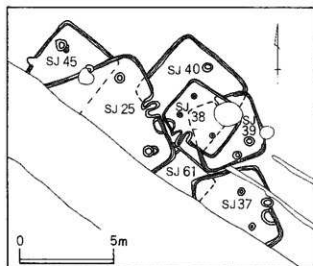




B区68-83-92-93号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
68-1	土師器杯	(13.0)	(3.9)	(11.0)	EF	3	にぶい橙色	5%未満	
68-2	土師器杯	12.0	4.0	10.4	BEF	3	橙色	5%未満	
68-3	土師器杯	(12.0)	(2.8)	(10.4)	BEF	3	橙色	10%	内外面赤彩
68-4	土師器高杯	(18.4)	-	-	ABEH	3	にぶい橙色	5%未満	内外面赤彩
68-5	土師器高杯(脚部)	-	-	-	ABEF	3	橙色	10%	
83-1	土師器杯	12.2	5.4	6.4	ABEFH	3	橙色	80%	内外面赤彩
83-2	土師器杯	(13.2)	(5.5)	(8.0)	BEF	3	橙色	20%	内外面赤彩
83-3	土師器杯	(12.2)	4.9	(9.8)	BDE	3	にぶい橙色	30%	内外面赤彩
83-4	土師器杯	(12.5)	(4.8)	(9.6)	BEF	3	浅黄橙色	25%	内外面赤彩
83-5	土師器杯	(12.6)	(4.6)	(8.4)	BDE	3	橙色	30%	内外面赤彩
83-6	土師器杯	(13.4)	(4.5)	(9.8)	ABDE	3	にぶい橙色	20%	内外面赤彩
83-7	土師器杯	(13.1)	(4.6)	(9.0)	BDE	3	にぶい橙色	15%	内外面赤彩
83-8	土師器杯	(14.0)	(5.0)	(11.0)	BD	3	にぶい橙色	20%	内外面赤彩
83-9	土師器杯	(14.0)	(4.4)	(9.0)	BEF	3	橙色	35%	内外面赤彩
83-10	土師器杯	(14.0)	(3.9)	(11.0)	BF	3	にぶい橙色	5%未満	内外面赤彩
83-11	土師器杯	(13.8)	(3.9)	(10.0)	BEF	3	赤灰色	10%	内外面赤彩
68-12	土師器杯	(13.6)	4.0	(8.6)	BEF	3	橙色	30%	内外面赤彩 暗文
83-13	土師器杯	(13.4)	(4.8)	(5.8)	BEF	3	にぶい黄橙色	30%	内外面赤彩
83-14	土師器杯	(13.0)	4.8	12.6	ABEF	3	浅黄橙色	30%	
83-15	土師器杯	(17.0)	(3.6)	(15.4)	BEF	4	にぶい橙色	30%	
83-16	土師器高杯	(18.0)	-	-	ABDE	3	橙色	5%未満	内外面赤彩
83-17	須恵器甕	-	-	-	BC	2	灰色	5%未満	東面
83-18	土師器瓶	(21.0)	-	-	ABFH	3	橙色	5%未満	
83-19	土師器瓶	(16.8)	-	-	BEFH	3	にぶい黄橙色	5%	
92-1	土師器杯	12.6	4.9	10.5	ADH	3	橙色	90%	全面赤彩
93-1	土師器杯	(12.0)	(4.0)	(8.0)	ABFH	3	浅黄橙色	10%	内外面赤彩
93-2	土師器杯	(12.0)	(3.9)	(10.4)	BEF	3	橙色	5%	
93-3	土師器杯	(11.4)	3.4	(11.5)	BD	3	橙色	40%	
93-4	土師器高杯	17.0	16.6	15.7	BEF	3	橙色	80%	脚部放射状暗文

第139図 重複住居跡群(5)



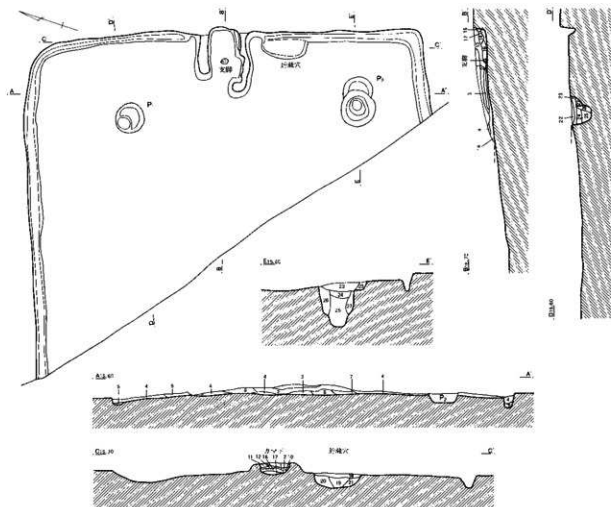
25号住居跡(第140・141・146・267図)

R-4グリッドに位置していた。45・61号住居跡を切っていた。また、遺構の半分を堀によって壊され、48号掘立柱建物跡に切られていた。平面形は推定方形

で、規模は長軸6.54m、短軸5.2mであった。床面までの深さは0.16mで、掘削床面は削平されていた。主軸はN-70°-Eであった。カマドは東側中央に設置されていた。焚き口の掘り込みは浅く、煙道部は削平されていた。また、右側袖部が焚き口を取り囲むように延び、燃焼部中央より土製支脚が検出された。貯蔵穴はカマド右脇に検出された。平面楕円形で浅い掘り込みであった。覆土には多量の炭化物が堆積していた。柱穴は2本検出された。壁際には壁溝溝が巡っていた。

遺物はカマド内より土師器甕(25-13・14)及び甎(25-16)が、右脇貯蔵穴周辺より土師器杯(25-5・6・8・11)が、カマド左脇より土師器杯(25-1・7)及び小型壺(25-12)、甕(25-15)が出土した。このほか、覆土より土師器杯(25-2・3・4・7・9・10)及び砥石(第267図13)が出土した。

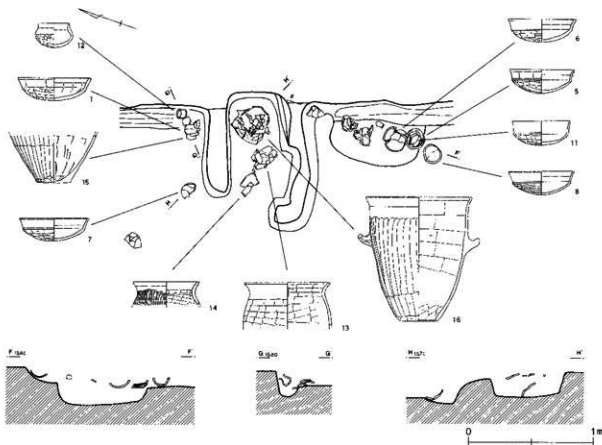
第140図 25号住居跡



SJ25

1	オリーブ褐色	(2.514/6)	粘質	灰白色粘土粒子(微), 燧十粒子(少)	15	明赤褐色	(2.5165/0)	粘質	粘土ブロック(少) (埋藏層上)
2	オリーブ褐色	(2.514/6)	粘質	灰白色粘土粒子(少), 炭化物粒子(微), 燧十粒子(少)	16	明赤褐色	(2.5165/0)	粘質	(カマド天井部埋藏層上)
3	オリーブ褐色	(5.158/4)	粘質	灰白色粘土ブロック(多), 燧十ブロック(多) (カマド天井部埋藏層上)	17	赤褐色	(5.158/6)	粘質	粘土粒子(微), 炭化物粒子(微) (カマド壁)
4	黄褐色	(2.515/0)	粘質	燧十ブロック, 炭化物粒子(少)	18	赤褐色	(10.193/1)	シルト質	粘土粒子(多), 炭化物粒子(少) (貯蔵穴)
5	オリーブ褐色	(2.514/3)	粘質	黄褐色土粒子(多)	19	紫灰色	(10.193/2)	粘質	炭化物粒子(多) (貯蔵穴)
6	オリーブ褐色	(2.514/3)	シルト質	黄土粒子(多), 炭化物粒子(少)	20	紫褐色	(10.193/2)	粘質	炭化物粒子(微) (貯蔵穴)
7	オリーブ褐色	(2.514/3)	粘質	黄土粒子(少), 炭化物粒子(中)	21	暗褐色	(10.193/3)	粘質	黄土粒子(多), 炭化物粒子(多) (柱穴)
8	オリーブ褐色	(2.514/4)	粘質	黄土粒子(微), 炭化物粒子(微), 黄褐色土粒子(多)	22	暗褐色+	(10.193/3)	シルト質	黄土粒子(多), 炭化物粒子(多) (柱穴)
9	暗褐色	(10.193/4)	粘質	黄土ブロック(少), 黄土粒子, 炭化物粒子(多)	23	にがい-黄褐色	(10.193/4)	粘質	黄褐色土粒子(多), 炭化物粒子(少) (柱穴)
10	暗キーン褐色	(2.513/3)	粘質	灰白色粘土粒子(少) (カマド壁)	24	紫褐色	(10.193/2)	粘質	黄土粒子(多), 炭化物粒子(微) (柱穴)
11	暗褐色	(10.193/3)	シルト質	灰白色粘土(多), 燧十粒子(多), 炭化物粒子(多) (カマド壁)	25	紫褐色	(10.193/2)	粘質	黄土粒子, 炭化物粒子(少)
12	紫褐色	(10.193/2)	シルト質	灰白色粘土粒子(多) (カマド埋藏層上)	26	暗褐色	(10.193/4)	粘質	黄褐色土粒子(多), 炭化物粒子(少)
13	紫褐色	(10.192/3)	シルト質	黄土粒子(多), 炭化物粒子(多) (カマド壁)	27	褐色	(10.193/6)	粘質	
14	紫褐色	(10.193/4)	粘質	黄土粒子(微), 炭化物粒子(微) (カマド壁)					

第141図 25号住居跡出土遺物微細図



38号住居跡 (第142・146図)

R-4グリッドに位置していた。39・40号住居跡を切っていた。また、29号井戸跡に切られていた。平面形は長方形で、規模は長軸3.74m、短軸3.02mであった。床面までの深さは0.14mで、均一であった。主軸はS-35°-Wであった。カマドは南西側中央やや西寄りに設置されていた。焚き口の掘り込みは浅く、煙道部は削平されていた。貯蔵穴はカマド右脇に検出された。平面楕円形で浅い掘り込みであった。柱穴は3本検出され、全ての柱穴より柱痕が確認された。壁際には壁周溝が巡っていた。

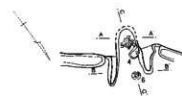
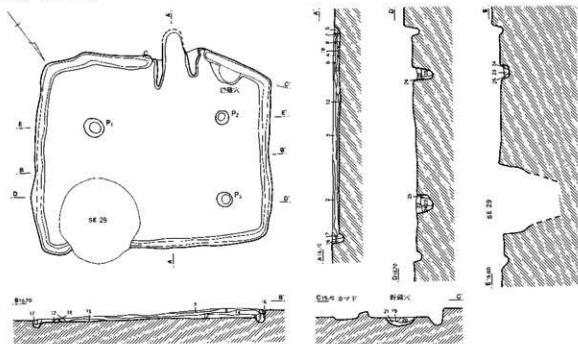
遺物はカマド内より支脚の代用として土師器高杯(38-4・5)が、焚き口より鉢(38-6)が出土したほか、覆土より土師器杯(38-1)及び土師器高杯(38-2・3)、土師器甕(38-7・8)が出土した。

39号住居跡 (第143・146図)

R-4・5グリッドに位置していた。40・41号住居跡を切っていた。また、38号住居跡及び29号井戸跡に切られていた。平面形は方形で、規模は長軸3.65m、短軸3.6mであった。床面までの深さは0.08mで、均一であった。主軸はN-13°-Wであった。カマドは北側中央に設置されていたが、焚き口が29号井戸跡によって壊されていた。また、煙道部は削平されていた。貯蔵穴は検出されなかった。柱穴は5本検出され、全ての柱穴より柱痕が確認された。また、柱穴5は出入口施設に関連する可能性がある。壁際には壁周溝が巡っていたが、柱穴5手前及び東辺一部は切れていた。

遺物は覆土より土師器杯(39-1)及び土師器鉢(39-2)、甕(39-3)が出土した。

第142図 38号住居跡



S J 3 8

- 1 赤褐色 (10YR2/2) 粘質 焼土粒子(少), 炭化物粒子(多)
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 粘質 焼土粒子(少), 炭化物粒子(多)
- 3 赤褐色 (10YR3/1) シルト質 黄褐色焼土粒子(少), 焼土粒子(多), 炭化物粒子(多)
- 4 赤褐色 (10YR3/1) 粘質 炭化物粒子(多) (カマド覆土)
- 5 緑赤褐色 (10YR3/2) シルト質 焼土ブロック(多) (カマド覆土)
- 6 焼褐色 (10YR4/1) シルト質 焼土粒子(多), 焼土粒子(多) (カマド覆土)
- 7 緑赤褐色 (10YR3/2) シルト質 焼土粒子(多), 焼土粒子(多) (カマド覆土)
- 8 暗褐色 (10YR2/3) 粘質 黄褐色焼土粒子(多), 炭化物粒子(少) (カマド覆土)
- 9 灰黄褐色 (10YR4/2) シルト質 焼土粒子(多)
- 10 暗灰色 (10YR4/1) シルト質 焼土粒子(多), 炭化物粒子(多) (カマド覆土)
- 11 褐色 (10YR4/6) シルト質 焼土粒子(多)
- 12 暗褐色 (10YR2/4) 粘質 焼土ブロック(少), 焼土粒子(少)
- 13 赤褐色 (10YR3/1) 粘質 黄褐色焼土粒子(多), 炭化物粒子(多)
- 14 黒褐色 (10YR2/2) シルト質 黄褐色焼土粒子(多), 焼土粒子(多), 炭化物粒子(多)

- 15 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘質 黄褐色焼土粒子(多), 炭化物粒子(少)
- 16 褐色 (10YR4/3) 粘質 炭化物粒子(多)
- 17 黒褐色 (10YR2/3) 粘質 黄褐色焼土粒子(少), 炭化物粒子(少)
- 18 暗褐色 (10YR3/4) 粘質 黄褐色焼土粒子(多)
- 19 黒褐色 (10YR2/2) シルト質 焼土粒子(多), 炭化物粒子(多) (貯蔵穴)
- 20 暗褐色 (10YR3/3) 粘質 炭化物粒子(多), 遺物(少)
- 21 暗褐色 (10YR3/1) 粘質 炭化物粒子(多), 遺物(少) (貯蔵穴)
- 22 紫褐色 (10YR3/4) 粘質 焼土粒子(少), 炭化物粒子(少) (柱穴)
- 23 黒褐色 (10YR2/2) シルト質 炭化物粒子(多), 焼土粒子(多) (柱溝)
- 24 暗褐色 (10YR3/3) 粘質 炭化物粒子(多) (柱穴)
- 25 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘質 黄褐色土ブロック(少), 炭化物粒子(多)

0 2m

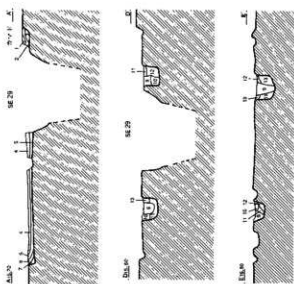
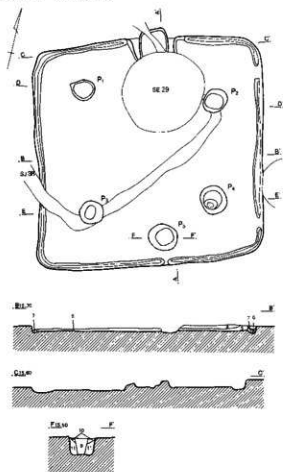
40号住居跡 (第145・147・266図)

R-4グリッドに位置していた。41号住居跡を切っていた。また、25・38・39号住居跡及び29号井戸跡に切られていた。平面形は方形で、規模は長軸4.72m、短軸4.58mであった。床面までの深さは0.18mで、均一であった。主軸は推定でS-35°-Wであった。カマドは検出されなかった。貯蔵穴は南西コーナーに検

出された。平面円形で浅い掘り込みであった。柱穴は4本検出され、全ての柱穴より柱底が確認された。壁際には壁間溝が巡っていた。

遺物は覆土より十師器杯(40-1・2・3)及び小型壺(40-4)が出土したほか、粘土皿(第266図3)が出土した。

第143図 39号住居跡



- S J 3 9
- |    |                    |                          |
|----|--------------------|--------------------------|
| 1  | 黒褐色 (7.09X/2) 粘質   | 焼土粒 (少) (カマド層上)          |
| 2  | 黒灰色 (7.09X/1) シルト質 | 焼土粒, 炭化物粒 (多) (カマド層上)    |
| 3  | 暗褐色 (7.09X/2) 粘質   | 焼土粒, 炭化物粒 (少) (池田層酸化)    |
| 4  | 黒褐色 (10YR3/2) 粘質   | 黄褐色土粒 (多), 炭化物粒 (多)      |
| 5  | 暗灰色 (10YR4/1) シルト質 | 焼土粒, 炭化物粒 (多), 遺物 (多)    |
| 6  | 黒褐色 (10YR3/1) 粘質   | 焼土粒, 炭化物粒 (多)            |
| 7  | 黒褐色 (10YR3/2) シルト質 | 焼土粒, 炭化物粒 (多) (壁周縁)      |
| 8  | 暗褐色 (10YR3/4) 粘質   | 炭化物粒 (少)                 |
| 9  | 黒褐色 (10YR3/1) シルト質 | 黄褐色土粒 (少), 炭化物粒 (少) (柱穴) |
| 10 | 黒褐色 (10YR3/2) シルト質 | 炭化物粒 (多) (柱穴)            |
| 11 | 黒灰色 (10YR4/1) 粘質   | 焼土粒, 炭化物粒 (少) (柱穴)       |
| 12 | 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘質  | 黄褐色土粒 (少), 炭化物粒 (多) (柱穴) |
| 13 | 褐色 (10YR4/4) 粘質    | 炭化物粒 (少)                 |



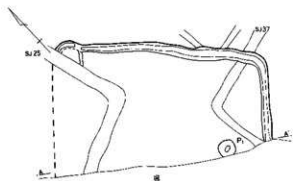
61号住居跡 (第144・147図)

R-4グリッドに位置していた。37号住居跡を切っていた。また、遺構の大部分を堀によって壊され、25号住居跡に切られていた。平面形は推定方形で、規模は不明であった。床面までの深さは0.02mで、均一であった。主軸はN-48°-Eであった。カマドは北東側に設置されていたが、大部分を25住居跡によって壊

されていた。また煙道部及び袖部は削平されていた。貯蔵穴は検出されなかった。柱穴は1本のみ検出され、浅い掘り込みであった。壁際には壁周溝が巡っていた。

遺物は覆土より土器高坏 (61-1) 及び土器器臺 (61-2) が出土した。

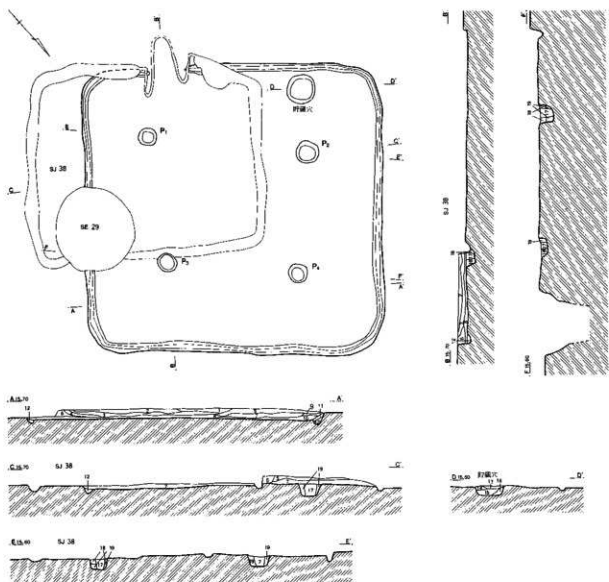
第144図 61号住居跡



- S J 6 1
- |   |                    |                         |
|---|--------------------|-------------------------|
| 1 | 黒褐色 (10YR3/1) シルト質 | 焼土粒, 炭化物粒 (多) (柱穴)      |
| 2 | 暗褐色 (10YR3/3) 粘質   | 黄褐色土粒 (少), 焼土粒 (少) (柱穴) |
| 3 | 黒灰色 (10YR4/1) 粘質   | 焼土粒, 炭化物粒 (少)           |



第145图 40号住居跡

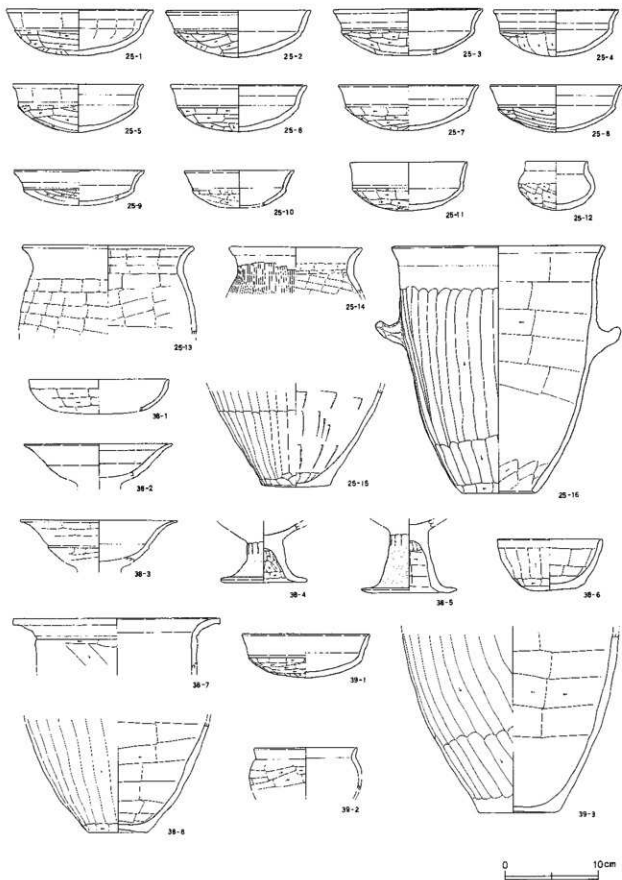


S J 4 0

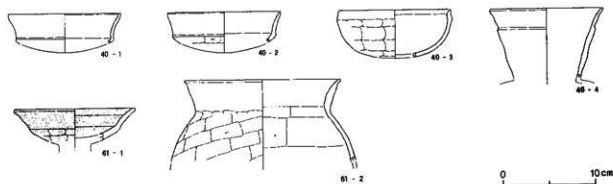
- |  |  |
|--|--|
| 1 黒褐色 (10YR2/2) 粘質 焼土粒子、炭化物粒子(少)         | 12 黒褐色 (10YR3/2) 粘質 焼土粒子、炭化物粒子(少)                  |
| 2 黒褐色 (10YR2/2) 粘質 炭化物粒子(散)、黄褐色土粒子(多)    | 13 明赤褐色 (10YR5/6) シルト質 焼土粒子(多) (貯蔵穴)               |
| 3 黒褐色 (10YR2/2) シルト質 焼土粒子、炭化物粒子(多)、遺物(多) | 14 褐灰色 (10YR4/1) 粘質 炭化物粒子(少)、黄褐色土粒子(多) (貯蔵穴)       |
| 4 黒褐色 (10YR2/2) 粘質 焼土粒子(少)、黄褐色土粒子(多)     | 15 黒褐色 (10YR3/1) シルト質 焼土粒子、炭化物粒子(多) (貯蔵穴)          |
| 5 黒褐色 (10YR3/1) シルト質 焼土粒子(多)、遺物(少)       | 16 暗褐色 (10YR3/4) 粘質 炭化物粒子(散) (貯蔵穴)                 |
| 6 黒色 (10YR2/1) 粘質 炭化物粒子(散)               | 17 暗褐色 (10YR3/3) シルト質 炭化物粒子(多)、黄褐色土粒子(少) (柱礎)      |
| 7 暗褐色 (10YR3/3) 粘質 炭化物粒子(散)、黄褐色土粒子(少)    | 18 褐灰色 (10YR4/1) シルト質 焼土粒子、炭化物粒子(多)、黄褐色土粒子(多) (柱礎) |
| 8 暗灰色 (10YR4/1) シルト質 炭化物粒子(多)、焼土粒子(少)    | 19 灰黄褐色 (10YR4/2) シルト質 炭化物粒子(少)                    |
| 9 黒褐色 (10YR2/2) 粘質 焼土粒子、炭化物粒子(散)         |  |
| 10 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘質 炭化物粒子(散)、黄褐色土粒子(多)  |  |
| 11 暗褐色 (10YR3/4) 粘質 炭化物粒子(少)             |  |

0 2m

第146図 25・38・39・40・61号住居跡出土遺物(1)



第147図 25・38・39・40・61号住居跡出土遺物(2)



B区25・38・39・40・61号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
25-1	土師器杯	15.8	4.9	13.9	BEF	3	橙色	90%	
25-2	土師器杯	15.6	5.0	13.6	BDF	3	橙色	100%	
25-3	土師器杯	(16.0)	(5.0)	(14.2)	BE	3	橙色	20%	
25-4	土師器杯	(13.4)	5.0	(12.0)	BEF	3	橙色	50%	
25-5	土師器杯	(14.0)	5.1	12.9	BEF	3	にぶい橙色	30%	
25-7	土師器杯	14.6	5.0	13.0	BEF	3	浅黄橙色	100%	
25-7	土師器杯	15.0	4.8	13.3	BEF	3	橙色	55%	
25-8	土師器杯	14.2	5.0	12.5	ABE	3	浅黄橙色	100%	
25-9	土師器杯	(14.0)	(3.8)	(11.9)	BEF	3	浅黄橙色	5%	
25-10	土師器杯	(11.8)	(4.0)	(10.0)	BEF	3	橙色	10%	
25-11	土師器杯	12.6	5.1	12.0	BEF	4	橙色	100%	
25-12	小形甕(ミニチュア)	6.8	5.2	5.1	BDE	3	浅黄橙色	45%	
25-13	土師器甕	(18.4)	-	-	ACE	3	橙色	20%	
25-14	土師器甕	(14.2)	-	-	AL	4	橙色	5%未満	カマド出土 外青ハケノ目
25-15	土師器甕	-	-	7.4	ABEF	3	橙色	10%	
25-16	土師器瓶	22.8	26.5	8.0	BEF	3	橙色	90%	カマド出土
38-1	土師器杯	(15.0)	(3.6)	(11.0)	BDE	3	橙色	5%	
38-2	土師器高杯	(16.0)	-	-	BEH	3	橙色	5%未満	外面赤彩
38-3	土師器高杯	17	-	-	ABF	4	にぶい橙色	5%	
38-4	土師器高杯	-	-	9.3	ABEH	3	橙色	25%	内外面赤彩
38-5	土師器高杯	-	-	(10.2)	ABEF	3	橙色	20%	
38-6	土師器鉢	11.2	5.5	4.6	ABE	3	橙色	90%	長胴甕底部と整形同じ
38-7	土師器長胴甕	(22.0)	-	-	BEFH	3	にぶい橙色	5%未満	
38-8	土師器甕	-	-	6.4	BEF	3	橙色	10%	上底
39-1	土師器杯	13.7	4.6	12.2	BDE	3	浅黄橙色	90%	
39-2	土師器鉢	(11.0)	-	-	BEF	3	橙色	5%	
39-3	土師器甕	-	-	8.2	BEF	3	明赤褐色	20%	
40-1	土師器杯	(12.0)	(4.1)	(10.4)	BDE	3	浅黄褐色	5%未満	
40-2	土師器杯	(12.0)	(4.4)	(11.0)	BEF	3	橙色	5%未満	
40-3	土師器杯	12.0	5.1	7.7	BDE	4	橙色	5%	
40-4	土師器甕	(12.0)	-	-	BDE	3	浅黄褐色	5%未満	
61-1	土師器高杯	(13.0)	-	-	BE	3	にぶい橙色	5%	内外面赤彩
61-2	土師器甕	(16.6)	-	-	ABEF	3	橙色	5%	



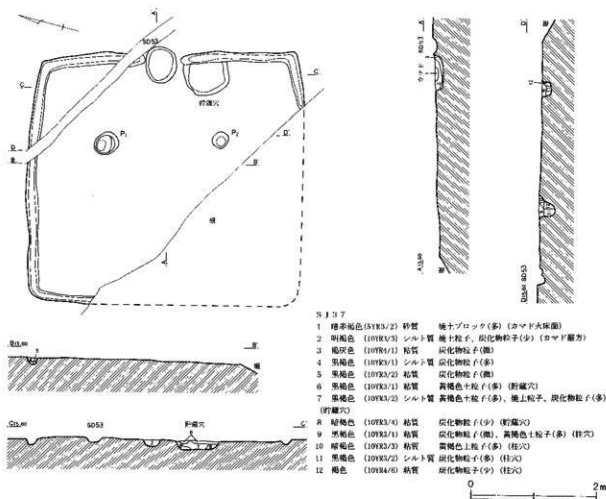
### 37号住居跡 (第148図)

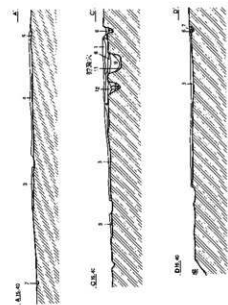
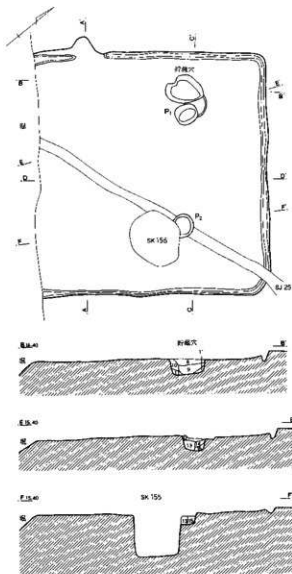
R-4・5グリッドに位置していた。遺構確認面が浅く床面での検出であった。また、堀及び61号住居跡、53号溝に切られていた。平面形は推定方形で、規模は長軸4.34m、短軸4.0mであった。主軸はN-75°-Eであった。カマドは北東側中央に設置されていた。焚き口の掘り込みは浅く、煙道部及び袖部は削平されていた。貯蔵穴はカマド右脇に検出された。平面楕円形で浅い掘り込みであった。覆土には多量の灰土及び炭化物が堆積していた。柱穴は2本検出され、浅い掘り込みであった。壁際には壁周溝が巡っていた。出土した遺物は、なかった。

### 45号住居跡 (第149図)

Q・R-34グリッドに位置していた。25号住居跡及び堀、155号土壕に切られていた。平面形は方形で、規模は長軸3.84m、短軸3.78mであった。床面までの深さは0.1mで、均一であった。主軸はN-50°-Wであった。カマドは北西側中央やや西寄りに設置されていたが、燃焼部火床面のみを検出であった。貯蔵穴は北側コーナーに検出された。平面不整形でやや深い掘り込みであった。覆土には多量の炭化物が堆積していた。柱穴は2本検出され、浅い掘り込みであった。壁際には壁周溝が巡っていた。出土した遺物は、なかった。

第148図 37号住居跡





S J 4 5

- 1 茶色 (10YR2/1) 粘質 焼土粒子、炭化物粒子(多)
- 2 紅褐色 (10YR3/3) 粘質 焼土粒子(多)、炭化物粒子(少)
- 3 黄褐色 (10YR4/2) シルト質 焼土粒子(少)、炭化物粒子(多)
- 4 黒灰色 (10YR4/1) 粘質 焼土粒子(少)、炭化物粒子(少)
- 5 黒褐色 (10YR3/1) シルト質 焼土粒子(多)(カマド層)
- 6 黒褐色 (10YR2/2) シルト質 炭化物粒子(多)
- 7 黒褐色 (10YR3/2) シルト質 焼土粒子(少)、炭化物粒子(多)
- 8 褐色 (10YR4/1) 粘質 黄褐色土粒子(微)、焼土粒子、炭化物粒子(少)(貯蔵穴)
- 9 黒褐色 (10YR2/2) シルト質 黄褐色土粒子(多)、焼土粒子(多)、炭化物粒子(多)(貯蔵穴)
- 10 暗褐色 (10YR3/3) 粘質 炭化物粒子(少)(貯蔵穴)
- 11 濃い黄褐色 (10YR4/3) シルト質 黄褐色土粒子(多)、炭化物粒子(多)(貯蔵穴)
- 12 黒褐色 (10YR2/2) シルト質 黄褐色土粒子(多)、炭化物粒子(多)
- 13 黒褐色 (10YR3/1) シルト質 炭化物粒子(多)
- 14 褐色 (10YR4/1) 粘質 焼土粒子(少)、炭化物粒子(少)
- 15 濃い黄褐色 (10YR4/3) 粘質 炭化物粒子(少)



41号住居跡 (第150・152図)

P-2・3グリッドに位置していた。23・24・39・40号住居跡及び47号掘立柱建物跡に切られていた。平面形は方形で、規模は長軸4.3m、短軸4.04mであった。床面までの深さは0.18mで、均一であった。主軸はS-39°-Wであった。カマドは南西側中央に設置されていた。焚き口の掘り込みは深く、煙道部及び袖部は削平されていた。貯蔵穴はカマド左脇に検出された。平面楕円形で下段が円形の二段掘り込みであった。柱穴は4本検出され、全ての柱穴より柱根が検出された。壁際には壁周溝が巡っていた。

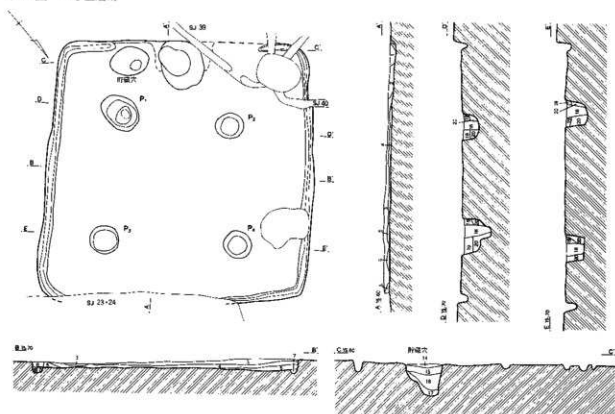
遺物はカマド内より土器高坏(41-1)が倒立

て出土し、高坏の左脇より壺(41-2)が、右脇より甕(41-3)が斜めに傾いた状態で出土した。

23号住居跡 (第151・152図)

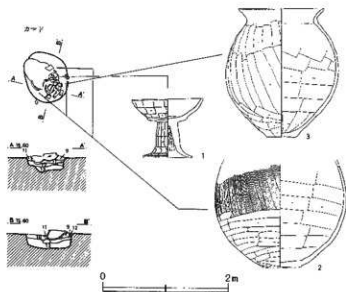
Q・R-5グリッドに位置していた。24号住居跡を同軸上で建て替えたものと考えられる。41号住居跡を切っていた。また126・127号土壌に切られていた。平面形は方形で、規模は長軸4.27m、短軸4.14mであった。床面までの深さは0.14mで、均一であった。主軸はN-52°-Wであった。カマドは北西側中央に設置されていた。焚き口の掘り込みは浅く底面の平坦な煙道部に続いていた。また、燃焼部中央より土製支脚が出土した。貯蔵穴は検出されなかった。柱穴は4本検

第150図 41号住居跡



S J 41

- |  |   |
|--|---|
| 1 黒褐色 (10YR2/3) シルト質 焼土粒子(多)、銅ブロック(少) (カマド跡露上) | 13 灰黒褐色 (10YR4/2) 粘質 焼土粒子(少) (カマド覆土)                  |
| 2 黒褐色 (10YR2/2) シルト質 焼土粒子(少)、炭化物粒子(多) (カマド跡露上) | 14 暗灰色 (10YR4/3) 粘質 黄褐色土粒子(多)、炭化物粒子(多) (貯蔵穴)          |
| 3 黄褐色 (10YR3/1) シルト質 焼土粒子(多)、炭化物粒子(中)          | 15 黄褐色 (10YR3/2) シルト質 炭化物粒子(多)、遺物(多) (貯蔵穴)            |
| 4 暗褐色 (10YR3/4) 粘質 黄褐色土粒子(少)、焼土粒子、炭化物粒子(多)     | 16 黄褐色 (10YR3/1) シルト質 炭化物粒子(多)、焼土粒子(多) (貯蔵穴)          |
| 5 灰黒褐色 (10YR4/2) 粘質 炭化物粒子(少)                   | 17 暗褐色 (10YR3/4) 粘質 黄褐色土粒子(多)、焼土粒子、炭化物粒子(少) (貯蔵穴)     |
| 6 黒褐色 (10YR2/2) 粘質 炭化物粒子(多)、黄褐色土粒子(少)          | 18 黄褐色 (10YR2/2) シルト質 炭化物粒子(多) (柱礎)                   |
| 7 黒褐色 (10YR2/3) シルト質 焼土粒子、炭化物粒子(多)             | 19 黄褐色 (10YR3/1) シルト質 炭化物粒子(多)、焼土粒子(多)、黄褐色土粒子(少) (柱穴) |
| 8 暗褐色 (10YR3/4) 粘質 黄褐色土粒子(少)、炭化物粒子(多)          | 20 暗灰色 (10YR4/1) 粘質 炭化物粒子(少)、黄褐色土ブロック(多) (柱穴)         |
| 9 黄褐色 (7.5YR2/2) 粘質 炭化物粒子(少) (カマド覆土)           |   |
| 10 褐色 (7.5YR4/4) シルト質 炭化物粒子(少)、焼土粒子(多) (カマド覆土) |   |
| 11 赤褐色 (2.5YR4/3) 粘質 焼土粒子、黒色土粒子(少) (カマド覆土)     |   |
| 12 赤褐色 (7.5YR2/3) シルト質 焼土粒子、銅ブロック (カマド覆土)      |   |



出され、柱穴4を除いて深い掘り込みであった。壁際には壁周溝が巡っていた。

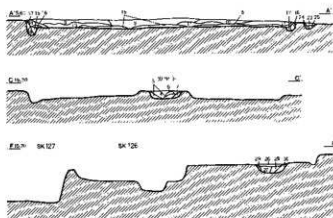
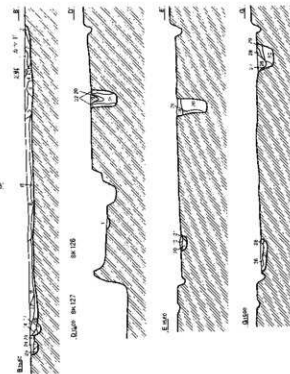
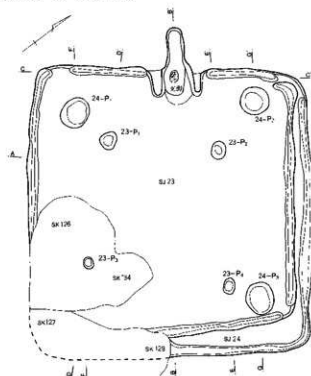
遺物は覆土より土師器杯(23-1~7)及び須恵器杯(23-8)が出土した。

#### 24号住居跡(第151図)

Q・R-5グリッドに位置していた。23号住居跡と重複し切られていた。また、126・127号土塊に切れ

ていた。平面形は方形で、規模は長軸4.56m、短軸4.55mであった。床面までの深さは0.1mで、床面の大部分を23号住居跡によって覆されていた。主軸はN52°Wであった。カマドは23号住居跡と同位置に設置していたと考えられる。貯蔵穴は検出されなかった。柱穴は3本検出され、浅い掘り込みであった。壁際には壁周溝が巡っていた。出土した遺物はなかった。

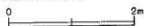
第151図 23・24号住居跡

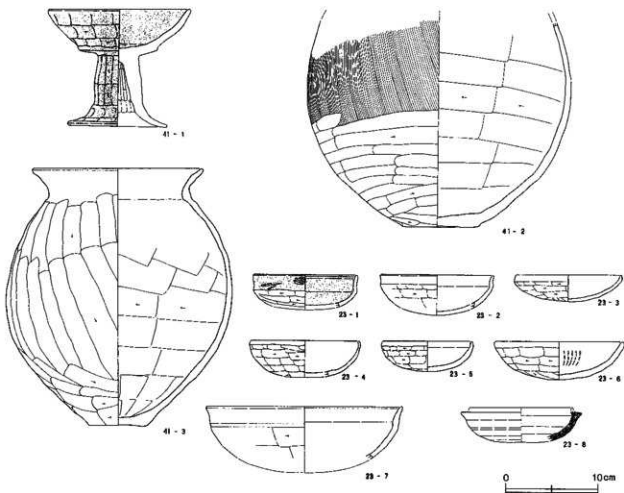


#### SJ 23・24

- |          |                |                                |
|----------|----------------|--------------------------------|
| 1 赤褐色    | (7.50X/2) 粘質   | 焼土粒子(微)(カマド層上)                 |
| 2 栗褐色    | (7.50X/2) シルト質 | 焼土ブロック(多)(カマド層上)               |
| 3 赤褐色    | (10YR3/1) シルト質 | 黄褐色粘土・ブロック(微)(カマド層上)           |
| 4 灰黄褐色   | (10YR4/2) 粘質   | 焼土粒子・炭化物粒子(微)、黄褐色土粒子(多)(カマド層上) |
| 5 粘褐色    | (10YR3/2) 粘質   | 焼土ブロック多(カマド層上)                 |
| 6 黄褐色    | (2.5Y/4) 粘質    | 黄褐色粘土ブロック(少)(カマド層上)            |
| 7 二色い黄褐色 | (10YR4/3) 粘質   | 黄褐色粘土粒子(少)、炭化物粒子(微)(カマド層上)     |

- |           |                |                        |
|-----------|----------------|------------------------|
| 8 赤褐色     | (10YR3/2) 粘質   | 焼土粒子、炭化物粒子(微)          |
| 9 赤褐色     | (10YR2/2) 粘質   | 焼土粒子(微)、黄褐色土粒子(微)      |
| 10 赤褐色    | (10YR2/3) シルト質 | 炭化物粒子(多)               |
| 11 黒色     | (10YR2/1) シルト質 | 炭化物粒子(多)、しまり(欠)        |
| 12 黒褐色    | (10YR3/2) シルト質 | 焼土粒子、炭化物粒子(多)、しまり(X)   |
| 13 灰黄褐色   | (10YR4/2) シルト質 | 炭化物粒子(多)、黄褐色土粒子(少)     |
| 14 暗褐色    | (10YR3/3) 粘質   | 焼土粒子、炭化物粒子(少)、しまり(欠)   |
| 15 二色い黄褐色 | (10YR5/3) シルト質 | 焼土粒子、炭化物粒子(多)          |
| 16 暗褐色    | (10YR3/4) 粘質   | 焼土粒子、炭化物粒子(微)、しまり(欠)   |
| 17 黒褐色    | (10YR3/1) 粘質   | 炭化物粒子(多)、黄褐色土粒子(少)     |
| 18 二色い黄褐色 | (10YR4/3) 粘質   | 焼土粒子、炭化物粒子(少)          |
| 19 赤褐色    | (10YR2/2) 粘質   | 焼土粒子、炭化物粒子(少)(柱穴)      |
| 20 暗褐色    | (10YR3-1) 粘質   | 炭化物粒子(少)(柱穴)           |
| 21 黒褐色    | (10YR3/2) シルト質 | 炭化物粒子(多)(柱穴)           |
| 22 灰黄褐色   | (10YR4/2) 粘質   | 炭化物粒子(多)(柱穴)           |
| 23 赤褐色    | (10YR3-1) 粘質   | 炭化物粒子(少)(柱穴)           |
| 24 暗褐色    | (10YR3-3) 粘質   | 炭化物粒子(少)、焼土粒子(微)(SJ24) |
| 25 暗褐色    | (10YR3-4) 粘質   | 炭化物粒子(微)(SJ24)         |
| 26 赤褐色    | (10YR3-1) 粘質   | 焼土粒子(少)(柱穴)(SJ24)      |
| 27 赤褐色    | (10YR2/2) シルト質 | 焼土粒子(微)、炭化物粒子(多)(柱穴)   |
| 28 赤褐色    | (10YR2/3) シルト質 | 焼土粒子(多)(柱穴)            |
| 29 暗褐色    | (10YR3-3) 粘質   | 炭化物粒子(微)(柱穴)           |
| 30 暗褐色    | (10YR3-4) 粘質   | 炭化物粒子(少)(柱穴)           |

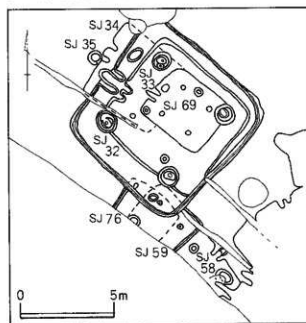




B区23・41号住居跡遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
41-1	土師器高杯	15.2	12.5	10.6	ADEH	3	橙色	90%	内外面赤彩
41-2	土師器壺	-	-	8.0	ABEF	3	浅黄色	50%	外面ハケメ目
41-3	土師器甕	18.2	27.4	6.2	BEFL	3	橙色	70%	
23-1	土師器杯	(11.2)	(3.6)	(11.1)	BEF	3	にぶい橙色	10%	内外面赤彩
23-2	土師器杯	(12.0)	(4.3)	(10.2)	BEF	3	にぶい橙色	10%	
23-3	土師器杯	13.4	2.9	9.5	BD	4	橙色	70%	
23-4	土師器杯	(11.6)	(3.9)	8.7	BF	3	にぶい橙色	20%	
23-5	土師器杯	9.6	3.2	8.8	BDE	3	橙色	30%	
23-6	土師器杯	13.9	4.0	9.8	BEF	4	橙色	80%	放射暗文
23-7	土師器杯	(21.0)	(7.0)	(20.0)	BEF	3	橙色	5%未滿	
23-8	須恵器杯	12.9	3.7	-	BF	1	灰白色	5%未滿	陶呂

第153図 重複住居跡群 (6)



32号住居跡 (第154・155・161・272図)

R・S-5・6グリッドに位置していた。調査区内で最大規模の住居跡であった。33・34・35・69号住居跡を切っていた。また、126・127号土壌及び52号溝に切られていた。平面形は方形で、規模は長軸8.42m、短軸8.21mであった。床面までの深さは0.12mで、69号住居跡を埋めて貼り床を構築していた。主軸はN-50°-Wであった。カマドは北西側中央に設置されていた。焚き口の掘り込みは浅く、煙道部は削平されていた。また左側袖部がやや長く造られていた。貯蔵穴はカマド右脇に検出された。平面楕円形で浅い掘り込みであった。覆土には多量の焼土及び炭化物が堆積していた。柱穴は6本検出された。柱穴1~4は平面円形で、規模は径108~114cm、深さ70~90cmの二段掘り込みであった。柱穴5・6は中間に位置し、平面円形で規模は径48cm、深さ42~92cmであった。壁際には幅広い壁周溝が巡っていた。

遺物は覆土より土師器杯 (32-1・2・3) 及び須恵器蓋 (32-4)、須恵器コップ形土器 (32-5) 土師器甕 (32-6・7・8) が出土のほか、鉄製鎌 (第272図3) が出土した。

69号住居跡 (第156・161図)

R-5・6グリッドに位置していた。32号住居跡内に位置し同居居跡によって埋め戻されていた。平面形は長方形で、規模は長軸3.9m、短軸3.36mであった。床面までの深さは0.12mで、均一であった。主軸はN-51°-Wであった。カマドは北西側中央やや西寄りに設置されていた。焚き口の掘り込みは浅く、煙道部は削平されていた。貯蔵穴はカマド右脇に検出された。平面楕円形で浅い掘り込みであった。柱穴は4本検出され、全ての柱穴より柱痕が確認された。壁際には壁周溝が巡っていた。

遺物は覆土より土師器杯 (69-1・2・3) が出土した。

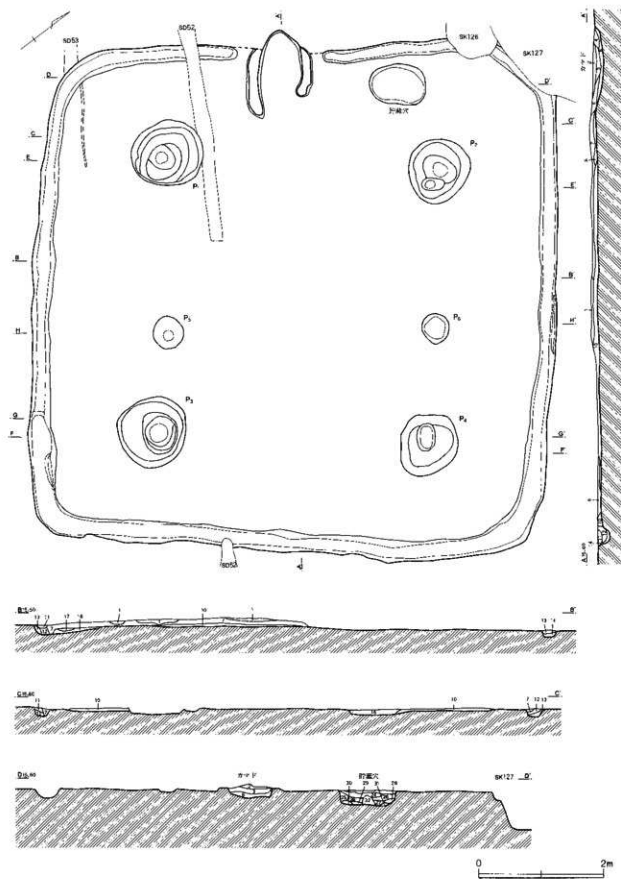
33号住居跡 (第157・161図)

R・S-5・6グリッドに位置していた。32号住居跡内に位置し切られていた。また52号溝に切られていた。

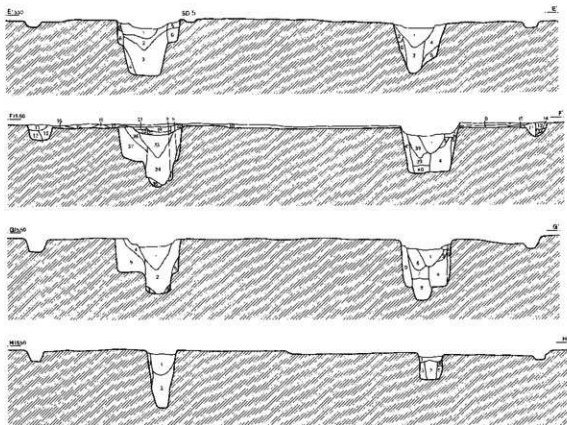
平面形は方形で、規模は長軸6.46m、短軸6.21mであった。床面は32号住居跡とほぼ同一レベルであった。主軸はN-52°-Wであった。カマドは北西側中央やや西寄りに設置されていたが上面を32号住居跡によって壊されていた。貯蔵穴はカマド右脇に検出された。平面円形で浅い掘り込みであった。覆土には多量の焼土及び炭化物が堆積していた。柱穴は4本検出され、全ての柱穴より柱痕が確認された。壁際には壁周溝が巡っていた。

遺物は覆土より土師器杯 (33-1・2・3) 及び暗紋付盤状杯 (33-4)、甕 (33-5) が出土した。

第154图 32号住居跡(1)



第155図 32号住居跡(2)



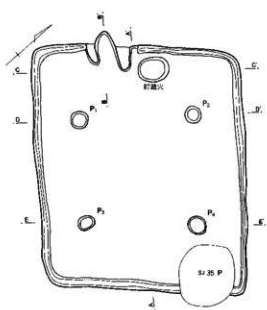
S J 32

1 黒褐色	(10YR5/1) 粘質	粘土粒子(少)	23 黒褐色	(10YR5/1) シルト質	粘土ブロック(多) (貯蔵穴)
2 黒褐色	(7.5YR5/2) シルト質	粘土ブロック(多) (カマド層上)	24 暗褐色	(10YR3/2) シルト質	粘土粒子(多), 炭化物粒子(多) (貯蔵穴)
3 赤褐色	(7.5YR5/2) 粘質	粘土粒子(濃) (カマド層上)	25 灰黄褐色	(10YR4/2) 粘質	粘土粒子(少), 炭化物粒子(少) (貯蔵穴)
4 灰黄褐色	(10YR4/2) 粘質	炭化物粒子(少) (カマド層上)	26 黒褐色	(10YR2/2) シルト質	炭化物粒子(多), 粘土粒子(多) (貯蔵穴)
5 暗灰色	(10YR4/1) 粘質	炭化物粒子(少) (カマド層上)	27 暗灰色	(10YR4/1) 粘質	炭化物粒子(少) (貯蔵穴)
6 暗褐色	(7.5YR5/4) シルト質	粘土ブロック(少), しまり(穴) (カマド層上)	28 赤褐色	(10YR2/2) 粘質	黄褐色土粒子(多), 炭化物粒子(多) (貯蔵穴)
7 暗灰色	(10YR4/1) シルト質	粘土粒子(多), 炭化物粒子(濃), 遺物(多)	29 暗褐色	(10YR3/2) 粘質	炭化物粒子(少) (貯蔵穴)
8 暗褐色	(10YR3/3) シルト質	粘土粒子(濃), しまり(穴)	30 褐色	(10YR4/2) 粘質	粘土粒子(少), 炭化物粒子(少) (貯蔵穴)
9 暗褐色	(10YR2/4) シルト質	粘土粒子(濃), 炭化物粒子(多)	31 褐色	(10YR4/4) 粘質	炭化物粒子(少) (貯蔵穴)
10 二色(黄褐色)	(10YR4/3) 粘質	砂(多), 粘土粒子(多)	32 灰黄褐色	(10YR5/2) 粘質	黄褐色土ブロック(多)
11 黄褐色	(10YR2/2) 粘質	黄褐色土粒子(多), 炭化物粒子(少)	33 暗褐色	(10YR3/2) シルト質	粘土粒子(濃), 炭化物粒子(多), 遺物(少) (柱穴)
12 灰色	(10YR2/1) シルト質	粘土粒子(多), 炭化物粒子(少)	34 黄褐色	(10YR4/1) 粘質	粘土粒子(濃), 炭化物粒子(濃) (柱穴)
13 暗灰色	(10YR4/1) 粘質	黄褐色土ブロック(多), 粘土粒子(濃), 炭化物粒子(多), しまり(穴)	35 褐色	(10YR4/4) 粘質	粘土粒子(濃) (柱穴)
14 灰黄褐色	(10YR4/2) 粘質	炭化物粒子(少)	36 暗褐色	(10YR3/4) シルト質	黄褐色土ブロック(多), 炭化物粒子(多) (柱穴)
15 褐色	(10YR4/1) 粘質	粘土粒子(少)	37 灰黄褐色	(10YR4/2) 粘質	炭化物粒子(少) (柱穴)
16 褐色	(10YR2/1) シルト質	粘土粒子(多), 遺物(多)	38 黄褐色	(10YR2/3) シルト質	黄褐色土粒子(多), 粘土粒子(多) (柱穴)
17 黄褐色	(10YR2/2) 粘質	黄褐色土粒子(多), 粘土粒子(少), 炭化物粒子(少)	39 暗褐色	(10YR3/2) シルト質	黄褐色土粒子(多), 炭化物粒子(多) (柱穴)
18 黄褐色	(10YR4/1) 粘質	黄色粘土(多), 炭化物粒子(少)	40 暗灰色	(10YR2/3) 粘質	黄褐色土粒子(多), 炭化物粒子(濃) (柱穴)
19 黄褐色	(10YR2/2) 粘質	炭化物粒子(濃), 粘土粒子(少), 黄褐色土粒子(少)	41 黄灰色	(2.5Y4/1) 粘質	炭化物粒子(少) (柱穴)
20 暗褐色	(10YR2/3) 粘質	粘土粒子(濃), 炭化物粒子(濃)			
21 黄褐色	(10YR3/1) 粘質	炭化物粒子(多), 粘土粒子(少)			
22 暗灰色	(10YR4/1) 粘質	炭化物粒子(濃)			



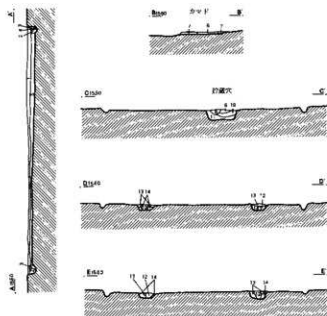


第156図 69号住居跡



SJ69

- |        |                |                        |
|--------|----------------|------------------------|
| 1 高灰色  | (2.518/1) 粘質   | 黒褐色土粒子(少)、焼土(少)、しより(散) |
| 2 黒褐色  | (7.503/1) シルト質 | 炭化物粒子(多)               |
| 3 焼灰色  | (10YR/1) シルト質  | 炭化物粒子(多)               |
| 4 灰黄褐色 | (10YR/3) 粘質    | 炭化物粒子(散)               |
| 5 黒褐色  | (10YR2/3) シルト質 | 焼土粒子、炭化物粒子(多)          |
| 6 黒褐色  | (7.503/1) シルト質 | 焼土ブロック(多)(カマド覆上)       |
| 7 灰黄褐色 | (10YR/2) 粘質    | 炭化物粒子(少)(カマド覆方)        |



- |          |               |                              |
|----------|---------------|------------------------------|
| 8 焼灰色    | (10YR/1) 粘質   | 黄褐色土粒子(多)、焼土粒子、炭化物粒子(少)(貯蔵穴) |
| 9 黒褐色    | (10YR/1) 粘質   | 炭化物粒子(少)(貯蔵穴)                |
| 10 黒褐色   | (10YR/2) シルト質 | 焼土粒子、炭化物粒子(少)(貯蔵穴)           |
| 11 灰黄褐色  | (10YR/2) 粘質   | 焼土粒子、炭化物粒子(少)(貯蔵穴)           |
| 12 黒褐色   | (10YR2/2) 粘質  | 黄褐色土粒子(多)、炭化物粒子(少)(柱痕)       |
| 13 黒褐色   | (10YR/2) 粘質   | 焼土粒子、炭化物粒子(少)(柱穴)            |
| 14 近い黄褐色 | (10YR/3) 粘質   | 炭化物粒子(少)(柱穴)                 |

### 34号住居跡 (第157・158・161図)

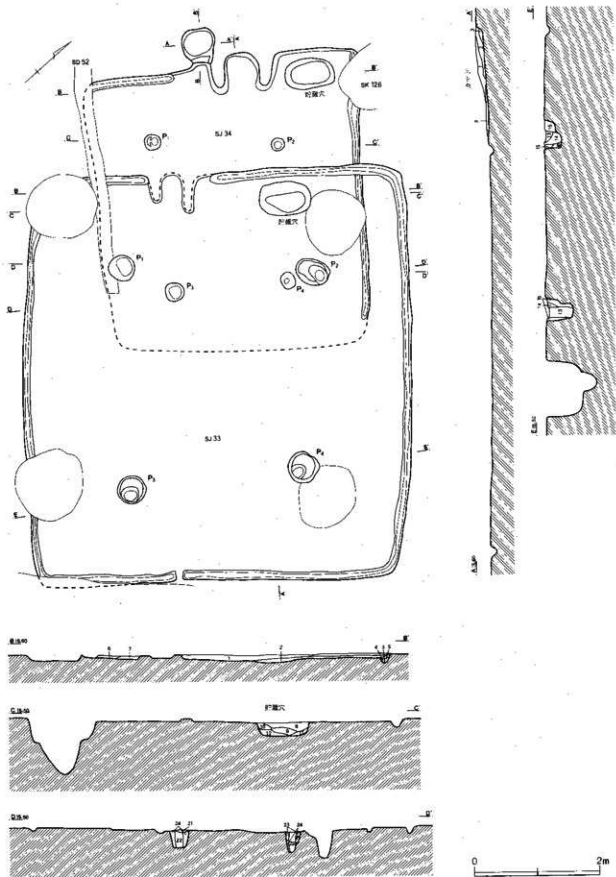
R-5グリッドに位置していた。32・33・69号住居跡、126号土壌、52号溝に切られていた。平面形は方形で、規模は長軸4.4m、短軸4.34mであった。床面までの深さは0.12mであったが大部分を32号住居跡によって壊されていた。主軸はN-55°-Wであった。カマドは北西側中央に設置されていた幅広い燃焼部であった。また、煙道部は削平されていた。貯蔵穴はカマド右隣に検出された。平面楕円形で浅い掘り込みであった。覆土には多量の炭化物が堆積していた。柱穴は4本検出され、全ての柱穴より柱痕が確認された。壁際には壁周溝が巡っていたが、貯蔵穴周辺部は切れていた。

遺物は覆土より土師器片(34-1・2)が出土した。

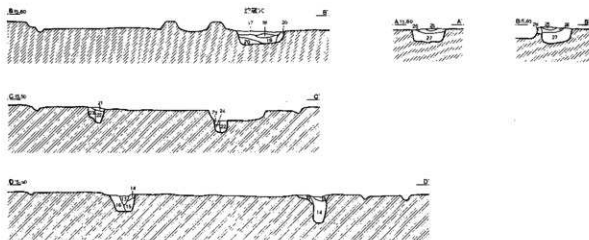
### 35号住居跡 (第157・158図)

R-5グリッドに位置していた。遺構確認面が浅く、カマドのみ検出された。住居跡の規模及び時期等は不明であった。カマドは焚き口の掘り込みが深く少量の焼上及び炭化物が堆積していた。出土した遺物はなかつた。

第157图 33·34·35号住居跡 (1)



第158図 33・34・35号住居跡(2)



S J 33・34・35

- |   |  |
|---|--|
| 1 黄灰色 (2.574/1) シルト質 焼土粒子(多)、栗褐色土(少) (SJ33)           | 16 焼灰色 (10184/1) 粘質 炭化物粒子(少) (SJ33)                  |
| 2 オリーブ褐色 (2.574/3) 粘質 焼土粒子、炭化物粒子(少) (SJ33)            | 17 栗褐色 (10182/2) シルト質 黄褐色土粒子(多)、焼土粒子、炭化物粒子(多) (SJ34) |
| 3 焼灰色 (10184/1) 粘質 焼土粒子(多)、炭化物粒子(多) (SJ33)            | 18 黒褐色 (10183/1) シルト質 灰黄褐色土粒子(少)、炭化物の少量 (SJ34)       |
| 4 栗褐色 (2.573/2) 粘質 黄褐色土粒子(少)、炭化物粒子(多) (SJ33)          | 19 黒色 (10182/1) シルト質 黄褐色土粒子(少)、炭化物粒子(多) (SJ34)       |
| 5 暗オリーブ褐色(2.573/3) 粘質 炭化物粒子(少) (SJ33)                 | 20 焼灰色 (10184/1) 粘質 炭化物粒子(多) (SJ34)                  |
| 6 暗褐色 (10183/3) シルト質 焼土ブロック(多) (SJ33)                 | 21 暗褐色 (10183/3) シルト質 黄褐色土粒子(多)、焼土粒子、炭化物粒子(多) (SJ34) |
| 7 灰黄褐色 (10185/2) 粘質 焼土粒子、炭化物粒子(少) (SJ33)              | 22 黒褐色 (10182/3) 粘質 黄褐色土粒子(多)、炭化物粒子(多) (SJ34)        |
| 8 栗褐色 (10182/2) シルト質 黄褐色土ブロック(少)、焼土粒子、炭化物粒子(多) (SJ33) | 23 灰黄褐色 (10184/2) 粘質 黄褐色土粒子(多)、焼土粒子、炭化物粒子(少) (SJ34)  |
| 9 栗褐色 (10182/3) シルト質 焼土ブロック(多)、焼土粒子、炭化物粒子(多) (SJ33)   | 24 暗褐色 (10183/1) 粘質 黄褐色土粒子(多)、炭化物粒子(少) (SJ34)        |
| 10 栗褐色 (10183/2) 粘質 黄褐色土粒子(少)、焼土粒子、炭化物粒子(少) (SJ33)    | 25 明赤褐色 (2.5705/0) シルト質 焼土ブロック(多) (カマド部構築層) (SJ30)   |
| 11 黒褐色 (10183/1) 粘質 炭化物粒子(少) (SJ33)                   | 26 黒褐色 (10183/1) 粘質 焼土粒子、炭化物粒子(多) (SJ33)             |
| 12 焼灰色 (10184/1) 粘質 炭化物粒子(少) (SJ33)                   | 27 黒褐色 (10183/2) 粘質 炭化物粒子(少) (SJ33)                  |
| 13 栗褐色 (10182/2) シルト質 炭化物粒子(多) (貯蔵) (SJ33)            | 28 暗褐色 (10183/3) 粘質 焼土粒子(少) (SJ35)                   |
| 14 栗褐色 (10183/2) シルト質 焼土粒子、炭化物粒子(多) (SJ33)            |  |
| 15 栗褐色 (10182/3) シルト質 炭化物粒子(多) (SJ33)                 |  |



### 76号住居跡(第159・266図)

S-5グリッドに位置していた。59号住居跡を切っていた。また、遺構の大部分を堀によって壊され、32号住居跡に切られていた。平面形は推定方形で、規模は長軸3.45mであった。床面までの深さは0.2mで、不均一であった。主軸は推定でN-45°-Wであった。カマドは検出されなかった。貯蔵穴は北側コーナーに検出された。平面楕円形で浅い掘り込みであった。覆土には少量の炭化物が堆積していた。柱穴は1本のみ検出され、浅い掘り込みであった。壁際には壁周溝が巡っていたが、北東辺及び、南東辺中央部は切れていた。

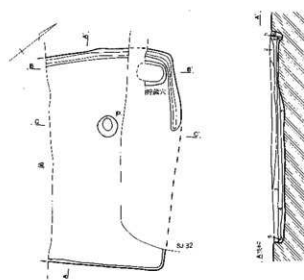
遺物は覆土より土玉(第266図18)が出土した。

### 59号住居跡(第160・161図)

S-5グリッドに位置していた。58号住居跡を切っていた。また、遺構の大部分を堀によって壊され、32・76号住居跡及び53号溝に切られていた。平面形は推定方形で、規模は長軸3.26mであった。床面までの深さは0.18mで、均一であった。主軸はN-45°-Wであった。カマドは北西側に設置され、焚き口の痕跡のみ検出された。貯蔵穴は北側コーナーに検出された。平面楕円形で浅い掘り込みであった。覆土には少量の炭化物が堆積していた。柱穴は2本検出され、全ての柱穴より柱痕が確認された。壁際には壁周溝が巡っていた。

遺物は床面直上より土師器環(59-1・2・3)及び土師器碗(59-4)、甕(59-5)が出土した。

第159図 76号住居跡

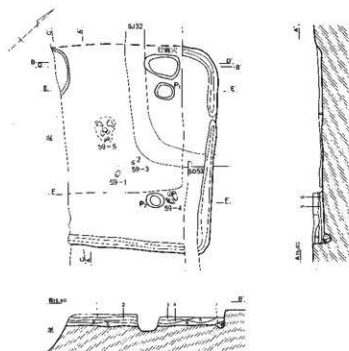


S J 7 6

- |         |                 |                             |
|---------|-----------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色   | (10YR3/1) 粘質    | 焼土粒子、炭化物粒子(多)               |
| 2 黒褐色   | (10YR2/2) シルト質  | 炭化物粒子(多)                    |
| 3 黒褐色   | (7.5YR2/2) シルト質 | 焼土粒子(多)                     |
| 4 灰黄褐色  | (7.5YR5/2) 粘質   | 基面硬化                        |
| 5 赤褐色   | (7.5YR3/2) シルト質 | 炭化物粒子(多)                    |
| 6 褐色    | (7.5YR4/4) 粘質   | 炭化物粒子(少)                    |
| 7 濃い黄褐色 | (10YR4/7) 粘質    | 黄褐色土粒子(多) 炭化物粒子(少) (貯蔵穴)    |
| 8 黒褐色   | (10YR3/1) 粘質    | 黄褐色土粒子(少) 炭化物粒子(多) (貯蔵穴)    |
| 9 黒褐色   | (10YR3/2) 粘質    | 黄褐色土粒子(多) 焼土、炭化物粒子(少) (貯蔵穴) |
| 10 褐色   | (10YR4/1) 粘質    | 黄褐色土粒子(少) 炭化物粒子(少) (貯蔵穴)    |
| 11 黒褐色  | (10YR3/2) シルト質  | 黄褐色土粒子(少) 炭化物粒子(多) (柱穴)     |
| 12 褐色   | (10YR4/1) 粘質    | 黄褐色土粒子(多) 焼土、炭化物粒子(多) (柱穴)  |
| 13 灰黄褐色 | (10YR4/2) 粘質    | 炭化物粒子(少) (柱穴)               |

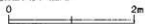


第160図 59号住居跡

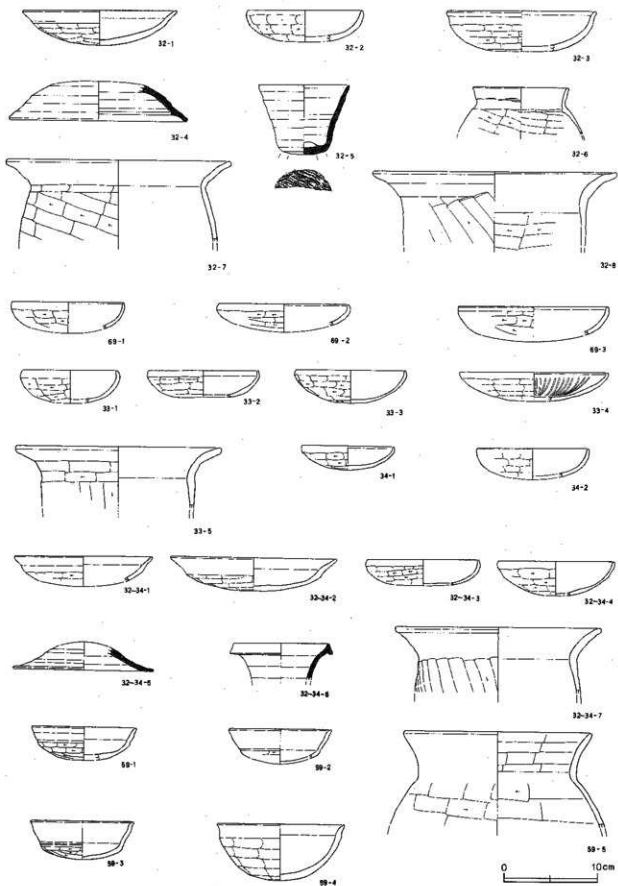


S J 5 9

- |             |                |                             |
|-------------|----------------|-----------------------------|
| 1 赤褐色       | (10YR3/1) 粘質   | 黄褐色土粒子(少) 焼土、炭化物粒子(少)       |
| 2 褐色        | (10YR2/1) シルト質 | 焼土、炭化物粒子(多)                 |
| 3 褐色        | (10YR4/1) 粘質   | 焼土、炭化物粒子(少)                 |
| 4 灰黄褐色      | (10YR4/2) 粘質   | 黄褐色土粒子(多) 炭化物粒子(少)          |
| 5 赤褐色       | (10YR2/2) シルト質 | 炭化物粒子(多) 黄褐色土粒子(多)          |
| 6 (2.5Y)黄褐色 | (10YR4/7) 粘質   | 炭化物粒子(多)                    |
| 7 黒褐色       | (7.5YR2/2) 粘質  | 炭化物粒子(多)                    |
| 8 褐色        | (7.5YR4/4) 粘質  | 黄褐色土粒子(少) 炭化物粒子(少)          |
| 9 赤褐色       | (5YR3/1) シルト質  | 焼土、炭化物粒子(多) 炭層在(カマド覆上)      |
| 10 暗黄褐色     | (5YR3/2) 砂質    | 焼土粒子(多) 炭層無硬化               |
| 11 褐色       | (7.5YR4/3) 粘質  | 炭化物粒子(少) (カマド覆上)            |
| 12 褐色       | (10YR2/1) 粘質   | 黄褐色土粒子(多) 焼土、炭化物粒子(少) (貯蔵穴) |
| 13 赤褐色      | (10YR2/2) 粘質   | 炭化物粒子(多)                    |
| 14 赤褐色      | (10YR2/3) 粘質   | 炭化物粒子(少) 黄褐色土粒子(少) (貯蔵穴)    |
| 15 灰黄褐色     | (10YR4/2) 粘質   | 炭化物粒子(多) 黄褐色土粒子(多) (貯蔵穴)    |
| 16 黒褐色      | (10YR3/1) シルト質 | 焼土、炭化物粒子(多) 黄褐色土粒子(多) (柱穴)  |
| 17 褐色       | (10YR4/1) 粘質   | 炭化物粒子(多) 黄褐色土粒子(多) (柱穴)     |
| 18 褐色       | (10YR4/1) 粘質   | 炭化物粒子(少) (柱穴)               |



第161图 32·33·34·59·69号住居跡出土遺物



B区32・33・34・59・69号住居跡出土土物観察表

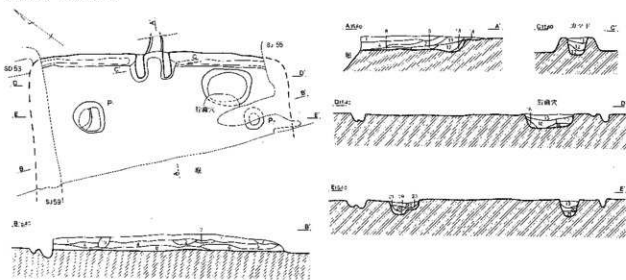
番号	器種	口径	器高	底径	胎上	焼成	色調	残存	備考
32-1	土師器杯	(16.5)	3.7	(14.3)	BDE	3	橙色	35%	ビット出土
32-2	土師器杯	(12.4)	(3.4)	(9.7)	BDE	3	にぶい橙色	20%	
32-3	土師器杯	(16.0)	(4.8)	(12.2)	BEF	3	にぶい橙色	20%	
32-4	須恵器蓋	(19.0)	(4.2)	-	BL	2	灰色	10%	未野
32-5	須恵器コップ形土器	(9.7)	(7.4)	-	BF	2	灰色	30%	東海西部
32-6	土師器甕	(10.2)	-	-	BEF	3	にぶい橙色	5%未満	
32-7	土師器長胴壺	(24.0)	-	-	BDE	3	橙色	5%未満	
32-8	土師器長胴壺	(26.0)	-	-	BD	3	にぶい黄橙色	5%未満	ビット出土
69-1	土師器杯	(12.0)	(3.3)	(9.4)	BI)	3	にぶい橙色	5%未満	
69-2	土師器杯	(14.0)	(13.2)	(11.2)	ABDE	3	橙色	5%未満	
69-3	土師器杯	(16.0)	(3.7)	(12.0)	BF	3	橙色	5%未満	
33-1	土師器杯	(10.0)	(3.5)	(7.8)	BEF	3	にぶい橙色	15%	
33-2	土師器杯	(11.9)	(2.9)	(9.0)	BDE	3	橙色	15%	
33-3	土師器杯	(12.0)	(3.5)	(9.7)	BDE	3	にぶい橙色	30%	
33-4	土師器杯(壺状杯)	(15.9)	(3.1)	(14.0)	BI)F	3	橙色	15%	放射線文
33-5	土師器長胴壺	(22.0)	-	-	BF	3	にぶい橙色	5%未満	
34-1	土師器杯	(10.0)	(2.6)	(8.0)	BDE	3	にぶい橙色	25%	
34-2	土師器杯	(12.0)	(3.3)	(11.0)	BDE	3	橙色	5%未満	
32.34-1	土師器杯	(14.8)	(3.2)	(12.5)	BD	3	橙色	5%未満	
32.34-2	土師器杯	(17.8)	(3.5)	(14.4)	BD	3	橙色	20%	
32.34-3	土師器杯	(12.0)	(2.8)	(10.0)	BDE	3	橙色	5%	
32.34-4	土師器杯	(12.6)	(3.6)	(11.0)	BD	3	橙色	20%	
32.34-5	須恵器蓋	(15.0)	(3.0)	-	BF1	2	灰白色	10%	南比企
32.34-6	須恵器長頸壺	(10.0)	-	-	BF	1	灰白色	5%未満	瀬西
32.34-7	土師器長胴壺	(22.0)	-	-	BDE	3	橙色	5%未満	
59-1	土師器杯	(11.2)	(3.5)	(9.8)	BCDE	4	浅黄橙色	40%	
59-2	土師器杯	(11.0)	(3.7)	(8.5)	BDE	3	橙色	5%	内面黒色処理
59-3	土師器杯	(11.0)	4.1	(8.8)	BDE	3	橙色	30%	内外面黒色処理
59-4	土師器碗	13.6	6.0	4.2	ABEF	3	橙色	90%	
59-5	土師器甕	(20.0)	-	-	BEF	4	橙色	5%未満	

## 59号住居跡(第162図)

S-5・6グリッドに位置していた。遺構の大部分を堀によって壊され、55・59号住居跡に切られていた。平面形は推定方形で、規模は長軸4.12mであった。床面までの深さは0.25mで、均一であった。主軸はN-52°-Eであった。カマドは北東側中央に設置されて

いた。焚き口の掘り込みは浅く、底面の平坦な煙道部に続いていた。貯蔵穴は北東コーナーに検出された。平面積円形で浅い掘り込みであった。覆土には少量の焼土及び灰化物が堆積していた。柱穴は2本検出され、浅い掘り込みであった。壁際には壁周溝が巡っていた。出土した遺物は、なかった。

第162図 58号住居跡



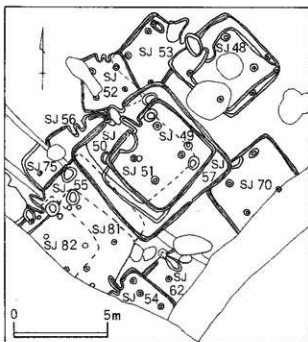
S J 58

- |          |                |                           |
|----------|----------------|---------------------------|
| 1 黒褐色    | (10YR3/2) 粘質   | 黄褐色土粒子(少) 焼土粒子, 炭化物粒子(微)  |
| 2 黒褐色    | (10YR3/1) シルト質 | 焼土粒子, 炭化物粒子(多)            |
| 3 灰黄褐色   | (10YR4/2) シルト質 | 黄褐色土粒子(多) 焼土粒子, 炭化物粒子(多)  |
| 4 褐色     | (10YR4/3) シルト質 | 黄褐色土粒子(微) 焼土粒子(多)         |
| 5 暗褐色    | (10YR3/3) シルト質 | 黄褐色土粒子, 灰色粘土粒子(少) 焼土粒子(多) |
| 6 暗褐色    | (10YR3/4) 粘質   | 黄褐色土粒子(微) 焼土粒子(中)         |
| 7 暗褐色    | (10YR2/2) 粘質   | 黄褐色土粒子(少)                 |
| 8 に近い黄褐色 | (10YR4/2) 粘質   | 黄褐色土粒子(多) 遺物(多)           |
| 9 茶褐色    | (10YR2/2) 粘質   | 焼土粒子, 炭化物粒子(微)            |
| 10 褐色    | (10YR4/2) 粘質   | 黄褐色土粒子(多) 炭化物(多)          |
| 11 茶褐色   | (10YR4/3) シルト質 | 焼土粒子(多) (カマド壁)            |
| 12 褐色    | (10YR3/2) シルト質 | 炭化物粒子(少) 黄褐色土粒子(多) (カマド壁) |
| 13 黒褐色   | (10YR4/1) シルト質 | 焼土粒子, 炭化物粒子(多) (カマド壁)     |

- |           |                |                                  |
|-----------|----------------|----------------------------------|
| 14 に近い黄褐色 | (10YR4/3) シルト質 | 焼土粒子(多) 炭化物(微)                   |
| 15 黒褐色    | (10YR3/1) 粘質   | 焼土粒子, 炭化物粒子(少) (貯蔵穴)             |
| 16 褐色     | (10YR4/1) 粘質   | 焼土粒子(少) 黄褐色土粒子(少) (貯蔵穴)          |
| 17 黒褐色    | (10YR2/2) シルト質 | 焼土粒子(多) 黄褐色土粒子(少) 炭化物粒子(微) (貯蔵穴) |
| 18 に近い黄褐色 | (10YR4/3) 粘質   | 焼土粒子, 炭化物(少)                     |
| 19 茶褐色    | (10YR3/2) 粘質   | 黄褐色土粒子(多) (柱穴)                   |
| 20 暗褐色    | (10YR3/3) 粘質   | 黄褐色土粒子(多) 焼土粒子, 炭化物粒子(少) (柱穴)    |
| 21 に近い黄褐色 | (10YR4/3) 粘質   | 炭化物粒子(少) (柱穴)                    |
| 22 暗褐色    | (10YR3/2) シルト質 | 焼土粒子(多) (柱穴)                     |
| 23 灰黄褐色   | (10YR4/2) 粘質   | 焼土, 炭化物粒子(少) (柱穴)                |

0 2m

第163図 重複住居跡群(7)

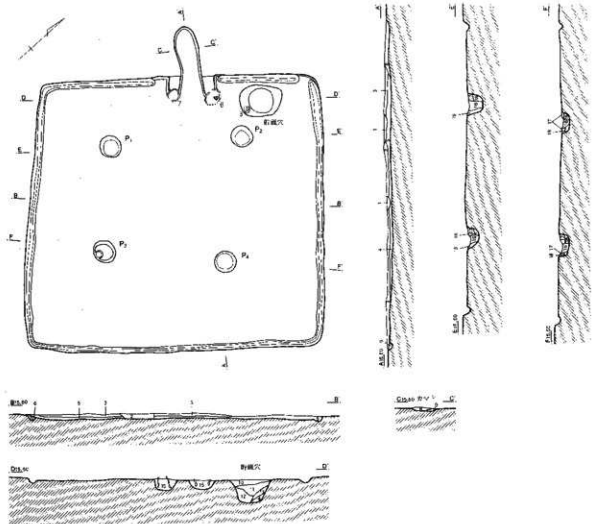


49号住居跡(第164・169・272図)

S-6・7グリッドに位置していた。50・56・57号住居跡を切っていた。平面形は方形で、規模は長軸4.8m、短軸4.32mであった。床面までの深さは0.08mで、均一であった。主軸はN-46°-Wであった。カマドは北西側中央に設置されていた。焚き口の掘り込みは浅くそのまま煙道部に続いていた。また、両袖部先端に補強材として、土師器甕2個体が倒立の状態で見出されていた。貯蔵穴はカマド右脇に見出された。平面枡形でやや深い掘り込みであった。覆土には多量の炭化物が堆積していた。壁際には壁周溝が巡っていた。

遺物はカマド両袖部より土師器甕(49-6・7)が、貯蔵穴より土師器杯(49-3)が、覆土より土師器杯(49-1・2)、須恵器蓋(49-4)、土師器高杯(49-5)が出土した。このほか、木質部が付着した用途不明鉄製品(第272図4)が出土した。

第164図 49号住居跡



S J 49

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 粘質 灰色粘土(少)
- 2 黒褐色 (10YR2/2) 粘質 焼土粒子(少)、炭化物粒子(微)
- 3 暗褐色 (10YR3/3) 粘質 焼土粒子、炭化物粒子(微)
- 4 暗灰色 (10YR4/1) シルト質 焼土粒子(微)、炭化物粒子(多)
- 5 暗褐色 (10YR3/4) シルト質 焼土粒子(多)、炭化物粒子(微)
- 6 黒褐色 (10YR3/1) シルト質 炭化物粒子(多) (壁面層)
- 7 灰黒褐色 (10YR4/2) 粘質 炭化物粒子(微) (壁面層)
- 8 暗褐色 (10YR2/2) シルト質 焼土ブロック(多) (コマ下層上)
- 9 暗褐色 (10YR2/2) シルト質 焼土粒子(少) 灰黒塗層炭化
- 10 黒褐色 (10YR2/2) 粘質 焼土粒子、炭化物粒子(微)、黄褐色土粒子(少) (貯蔵穴)
- 11 黒褐色 (10YR3/1) シルト質 焼土粒子、炭化物粒子(多)、遺物(多) (貯蔵穴)

- 12 黒褐色 (10YR2/2) シルト質 焼土粒子(微)、炭化物粒子(多) (貯蔵穴)
- 13 暗褐色 (10YR3/3) 粘質 焼土粒子、炭化物粒子(微)、黄褐色土粒子(少) (貯蔵穴)
- 14 暗灰色 (10YR4/1) シルト質 炭化物粒子(多)、黄褐色土粒子(多) (貯蔵穴)
- 15 暗褐色 (10YR2/3) シルト質 焼土ブロック(少)
- 16 黒褐色 (10YR3/1) シルト質 炭化物粒子(多)、黄褐色土粒子(多) (柱穴)
- 17 黒褐色 (10YR3/2) シルト質 焼土粒子、炭化物粒子(多) (柱穴)
- 18 暗灰色 (10YR4/1) 粘質 炭化物粒子(微)、黄褐色土粒子(多) (柱穴)
- 19 暗褐色 (10YR3/4) 粘質 炭化物粒子(微) (柱穴)

0 2m



### 50号住居跡 (第165・169図)

S-6グリッドに位置していた。57号住居跡を切っていた。また、遺構の大部分を49号住居跡によって壊されていた。平面形は方形で、規模は長軸4.13m、短軸3.92mであった。床面までの深さは0.04mで、均一であった。主軸はN-16°-Wであった。カマドは北側中央に設置されていた。焚き口の掘り込みは浅く、煙道部は削平されていた。貯蔵穴は北東コーナーに検出された。平面楕円形で浅い掘り込みであった。覆土には多量の炭化物が堆積していた。柱穴は4本検出され、全ての柱穴より柱痕が検出された。

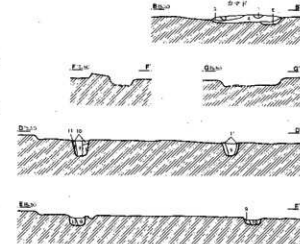
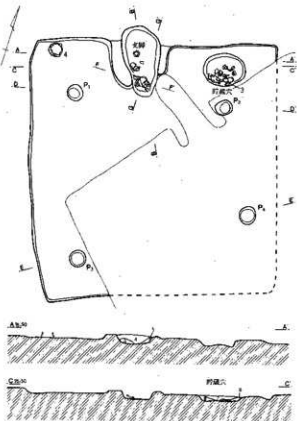
遺物はカマド内より土師器壺(50-4)が、貯蔵穴より土師器甕(50-3)が、柱穴4より土師器盤状杯(50-2)が、覆土より土師器杯(50-1)が出土した。

### 57号住居跡 (第166・169・268図)

S-6・7グリッドに位置していた。51・52・53・55・70号住居跡を切っていた。また、49・50号住居跡に切られていた。平面形は方形で、規模は長軸6.54m、

短軸6.52mであった。床面までの深さは0.18mで、均一であった。主軸はN-40°-Wであった。カマドは北西側中央に設置されていた。焚き口の掘り込みは浅く、煙道部は削平されていた。また左袖部が欠失していた。貯蔵穴は北側コーナーに検出された。平面楕円形で下段が楕円形の二段掘り込みであった。覆土には多量の炭化物が堆積していた。柱穴は4本検出され、深い掘り込みであった。壁際には壁周溝が巡っていたが、南東辺中央部は切れていた。

遺物はカマド内袖部より土師器甕(57-21・23)が、カマド周辺部より土師器杯(57-7)及び土師器甕(57-19)が、貯蔵穴周辺部より土師器杯(57-4)、盤状杯(57-9)、碗(57-14)、鉢(57-17)が、南東コーナーより土師器杯(57-8)、須恵器蓋(57-12)、碗(57-15)等が出土した。このほか、覆土より石製模造品(剣形)(第268図30)が出土した。

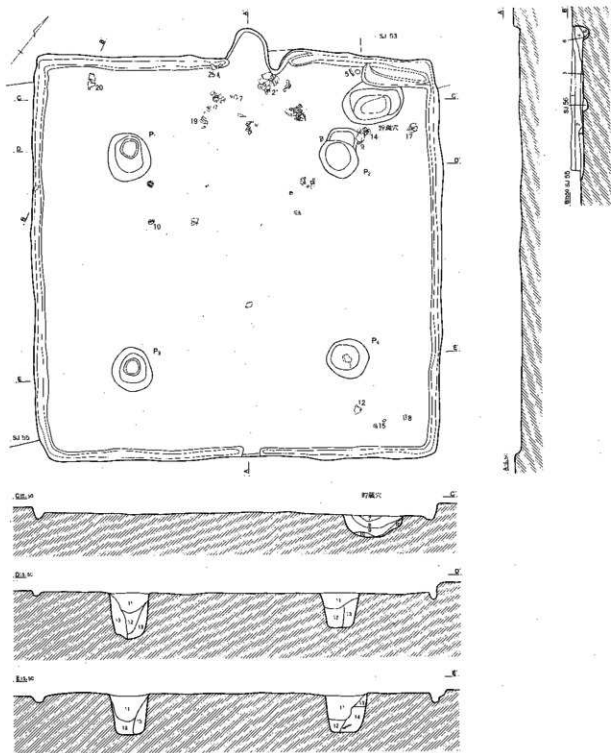


#### S150

- |                        |                               |
|------------------------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 (101K2/1) 粘質     | 炭化物粒子(多) (カマド覆土)              |
| 2 黒褐色 (7.01K4/1) 粘質    | 塵土粒子、炭化物粒子(少)、灰色粒上(少) (カマド覆土) |
| 3 灰褐色 (101K5/2) 粘質     | 炭化物粒子(多)、灰色粒上(多) (カマド覆土)      |
| 4 暗赤褐色 (2.01K3/2) シルト質 | 塵土粒子(多)、炭化物粒子(少) 炭素酸化物        |
| 5 暗赤褐色 (2.01K2/2) シルト質 | 塵土粒子(多)、黄褐色土粒(少) (カマド覆土)      |
| 6 暗褐色 (101K3/3) 粘質     | 炭化物粒子(多) (カマド覆土)              |
| 7 暗褐色 (101K3/1) シルト質   | 炭化物粒子(多)、塵土(多) (貯蔵穴)          |
| 8 暗褐色 (101K4/1) 粘質     | 塵土粒子、炭化物粒子(少)、塵土(多) (貯蔵穴)     |
| 9 黒褐色 (101K2/2) 粘質     | 塵土粒子、炭化物粒子(少) (柱穴)            |
| 10 黒褐色 (101K3/1) 粘質    | 炭化物粒子(多) (柱穴)                 |
| 11 黒褐色 (101K3/2) 粘質    | 塵土粒子、炭化物粒子(多) (柱穴)            |

0 2m

第166図 57号住居跡



S J 57

- 1 暗褐色 (10YR2/3) 粘質 焼土粒子、炭化物粒子(微)
- 2 黒褐色 (10YR2/3) 粘質 焼土粒子、炭化物粒子(少)
- 3 濃い赤褐色 (10YR4/2) 粘質 炭化物粒子(微)、黄褐色土粒子(多)
- 4 黄褐色 (10YR2/2) シルト質 焼土粒子、炭化物粒子(多)、黄褐色土粒子(少)
- 5 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘質 黄褐色土粒子(多)
- 6 黒褐色 (10YR2/2) シルト質 炭化物粒子(多)、黄褐色土粒子(微) (貯蔵穴)
- 7 黒褐色 (10YR2/1) 粘質 炭化物粒子(少)、黄褐色土粒子(微) (貯蔵穴)
- 8 暗褐色 (10YR2/3) シルト質 焼土粒子、炭化物粒子(多)、黄褐色土粒子(多) (貯蔵穴)

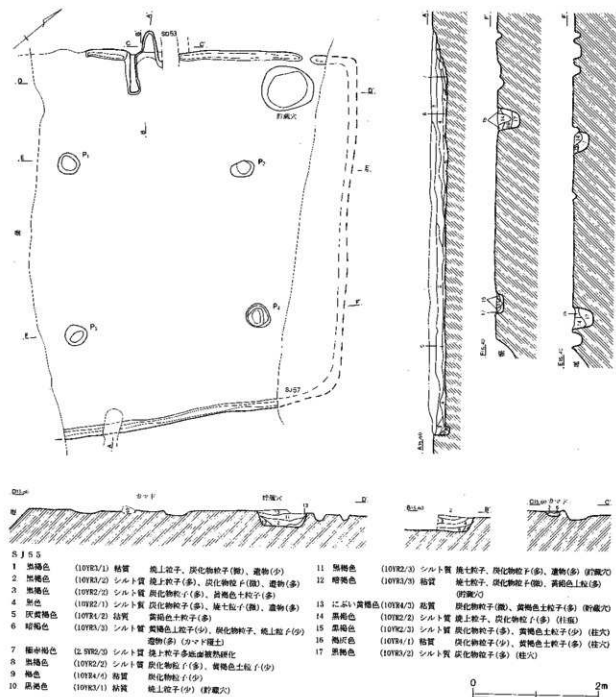
- 9 暗灰色 (10YR7/1) シルト質 炭化物粒子(多)、焼土粒子(微)、黄褐色土粒子(多) (貯蔵穴)
- 10 濃い黄褐色 (10YR6/3) 粘質 炭化物粒子(少)
- 11 黒褐色 (10YR2/1) シルト質 焼土粒子、炭化物粒子(多)、黄褐色土粒子(多) (貯蔵穴)
- 12 黒褐色 (10YR2/2) 粘質 炭化物粒子(少)、黄褐色土粒子(多) (柱穴)
- 13 暗褐色 (10YR2/3) 粘質 焼土粒子、炭化物粒子(少) (柱穴)
- 14 暗褐色 (10YR2/4) 粘質 炭化物粒子(少)、遺物(少)

0 2m

55号住居跡 (第167・169・170・171・266図)

S・T-6グリッドに位置していた。56・75・81・82号住居跡を切っていた。また、堀及び54・57号住居跡、53号溝に切られていた。平面形は推定方形で、規模は長軸6.1mであった。床面までの深さは0.26mで、均一であった。主軸はN-51°-Wであった。カマドは北西側中央に設置されていたが、右袖部を53号溝によって壊されていた。焚き口の掘り込みは浅く、やや急に立ち上がる煙道部に続いていた。貯蔵穴は北側

第167図 55号住居跡



コーナーに検出された。平面楕円形で浅い掘り込みであった。覆土には多量の焼土及び炭化物が堆積していた。柱穴は4本検出され、全ての柱穴より柱痕が確認された。壁際には壁周溝が巡っていた。

遺物はカマド内より土師器環 (55-3・5) 及び土師器甕 (55-15~19) が、覆土より土師器環 (55-1~10) 及び須恵器蓋 (55-11)、土師器甕 (55-13・14・20・21) が出土した。このほか、覆土より土玉 (第266図15) が出土した。

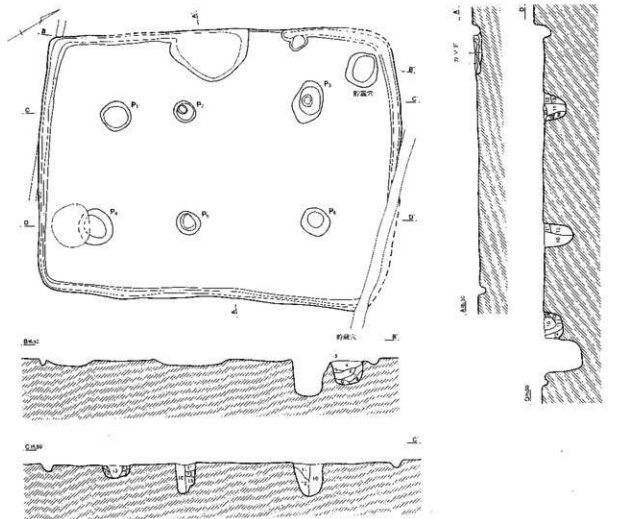
### 51号住居跡 (第168・170・171図)

S-6・7グリッドに位置していた。49・50・55・57に切られていた。平面形は長方形で、規模は長軸5.76m、短軸4.3mであった。床面は他の住居跡によって壊されていた。主軸はN-55°-Wであった。カマドは北西側中央に設置されていたが、焚き口廻り方

のみの検出であった。貯蔵穴は北側コーナーに検出された。平面円形でやや深い掘り込みであった。柱穴は6本検出され、全ての柱穴より柱痕が確認された。壁際には壁周溝が巡っていた。

遺物は覆土より土師器環(51-1~4)のほか、須恵器蓋(57-12)が出土し、57号住居跡出土蓋と接合し

第168図 51号住居跡

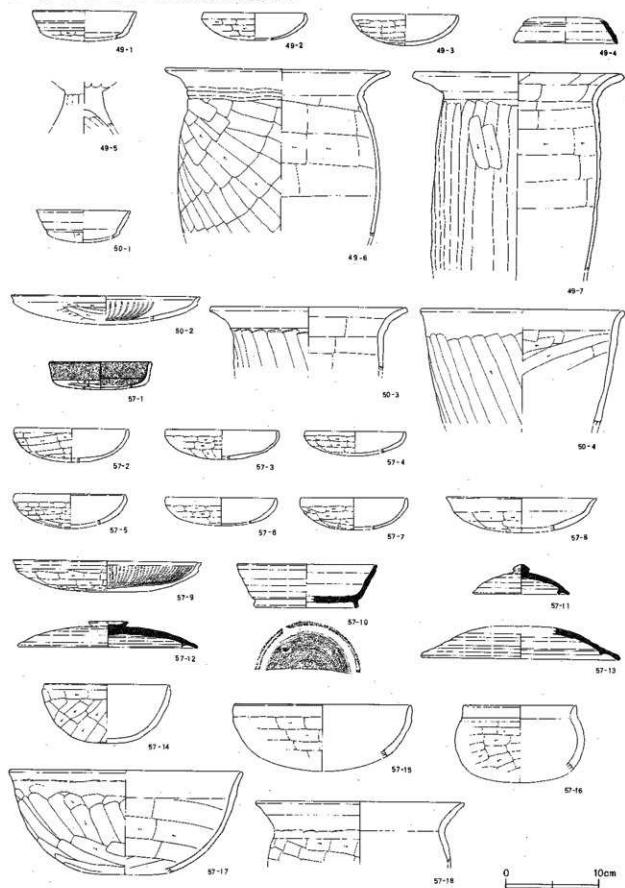


#### S J S I

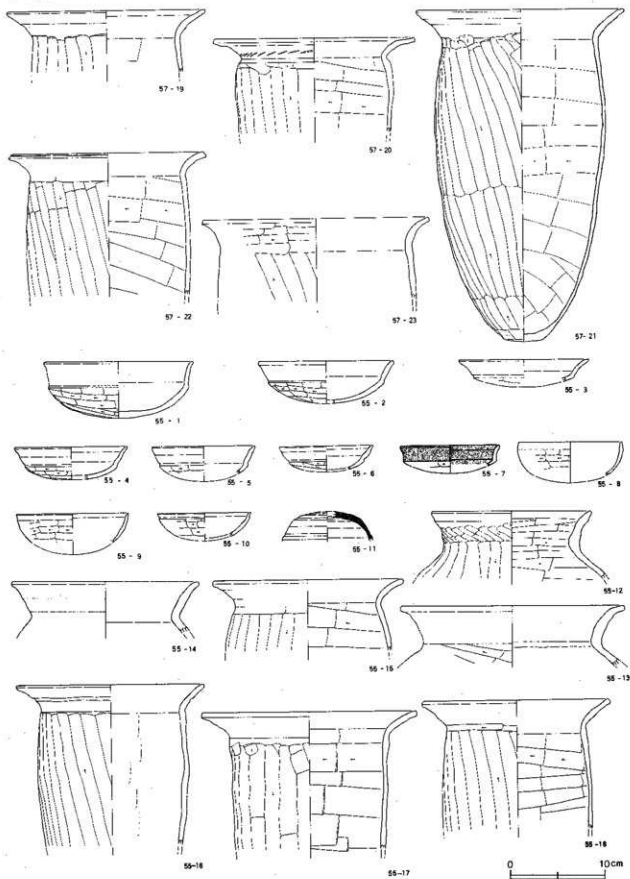
- |   |                     |                                |    |                     |                             |
|---|---------------------|--------------------------------|----|---------------------|-----------------------------|
| 1 | 赤褐色 (10182/2) 粘質    | 粘土粒子、炭化物粒子(少)、黄褐色土粒子(多)(カマド覆土) | 8  | 灰色-黄褐色(10184/3) 粘質  | 炭化物粒子(多)(貯蔵穴)               |
| 2 | 褐色 (10184/1) 粘質     | 粘土粒子、炭化物粒子(多)、黄褐色土粒子(多)(カマド覆土) | 9  | 褐色 (10184/4) 粘質     | 炭化物粒子(多)                    |
| 3 | 黄褐色 (10185/6) 粘質    | 炭化物粒子(多)(カマド覆土)                | 10 | 黒褐色 (10182/2) シルト質  | 粘土粒子、炭化物粒子(多)、黄褐色土粒子(少)(貯蔵) |
| 4 | 黒褐色 (10182/2) シルト質  | 粘土粒子、炭化物粒子(多)、黄褐色土粒子(多)        | 11 | 暗褐色 (10183/4) シルト質  | 炭化物粒子(多)、黄褐色土粒子(少)(貯蔵)      |
| 5 | 黒褐色 (10182/2) 粘質    | 粘土粒子、炭化物粒子(多)(貯蔵穴)             | 12 | 黒灰色 (10184/1) 粘質    | 炭化物粒子(少)(柱穴)                |
| 6 | 褐色 (10184/1) 粘質     | 炭化物粒子(少)、黄褐色土粒子(多)(貯蔵穴)        | 13 | 灰黄褐色 (10184/2) シルト質 | 炭化物粒子(多)、黄褐色土粒子(多)(柱穴)      |
| 7 | 灰黄褐色 (10184/2) シルト質 | 粘土粒子、炭化物粒子(多)、黄褐色土粒子(多)(貯蔵穴)   |    |                     |                             |

0 2m

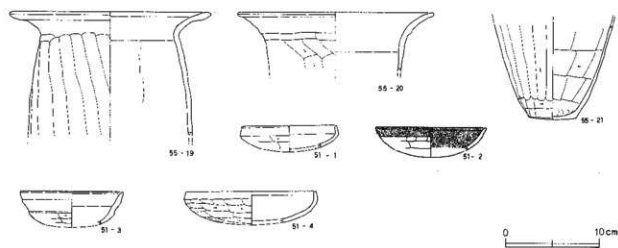
第169圖 49・50・51・55・57号住居跡出土遺物(1)



第170图 49·50·51·55·57号住居跡出土遺物(2)



第171図 49・50・51・55・57号住居跡出土遺物(3)



B区49・50・51・55・57号住居跡出土遺物観察表(1)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
49-1	上部器杯	(11.0)	(3.2)	(9.6)	BF	3	褐色	10%	
49-2	土師器杯	(10.8)	(2.9)	(7.0)	BDE	3	褐色	20%	
49-3	上部器杯	(14.2)	(3.3)	(9.7)	BDE	3	褐色	25%	
49-4	須恵器杯蓋	(11.0)	(2.7)	-	BF	2	灰白色	10%	
49-5	上部器高杯	-	-	-	BDE	3	にぶい褐色	5%未満	
49-6	土師器甕	25.0	-	-	BDE	3	褐色	50%	
49-7	土師器長胴甕	22.0	-	-	BEF	3	褐色	50%	
50-1	土師器杯	(10.0)	(3.4)	(7.8)	BD	3	灰白色	5%未満	
50-2	上部器器状杯	(20.0)	(3.0)	(19.5)	BEF	3	明赤褐色	5%未満	放射線文 ビット出十
50-3	土師器長胴甕	(21.0)	-	-	BEF	3	褐色	5%未満	
50-4	土師器甕	21.4	-	-	ABEF	3	褐色	30%	
57-1	土師器杯	11.0	3.9	10.2	BF	3	にぶい褐色	5%未満	
57-2	土師器杯	(12.2)	(3.6)	(10.8)	BDE	3	褐色	40%	
57-3	土師器杯	12.2	3.1	9	BD	3	褐色	20%	
57-4	土師器杯	(10.6)	(2.6)	(9.0)	BDE	3	褐色	10%	
57-5	土師器杯	(11.8)	(3.7)	(11.2)	ABDE	3	褐色	15%	
57-6	土師器杯	(12.0)	(3.0)	(9.4)	BDE	3	褐色	10%	
57-7	土師器杯	(11.4)	(3.4)	(10.2)	ABDE	3	褐色	20%	
57-8	土師器杯	(16.0)	(3.7)	(14.2)	ABD	3	褐色	10%	
57-9	土師器盤状杯	20.0	3.3	13.5	ABDE	3	にぶい赤褐色	60%	内面黒色処理、放射線文
57-10	須恵器高台付杯	15.0	4.6	11.0	BF	1	灰白色	20%	
57-11	須恵器杯蓋	10.4	3.2	-	B	2	灰色	30%	湖西
57-12	須恵器杯蓋	(19.2)	2.7	-	BF	2	灰色	25%	南北企
57-13	須恵器蓋	(21.0)	-	-	BF	2	灰色	15%	末野
57-14	土師器碗	(13.4)	6.2	(4.2)	ADE	3	明赤褐色	20%	
57-15	土師器碗	(19.0)	(7.1)	(13.0)	BEF	3	褐色	5%未満	
57-16	上部器和頸壺	(12.0)	(8.2)	(10.5)	BDE	3	にぶい黄褐色	15%	
57-17	土師器鉢	(25.0)	(11.1)	-	BEF	3	褐色	20%	
57-18	土師器甕	(22.2)	-	-	BDF	3	褐色	5%	
57-19	土師器長胴甕	(21.4)	-	-	BDE	3	褐色	5%未満	

B区49・50・51・55・57号住居跡出土遺物観察表(2)

番号	器種	口径	器高	底径	胎上	焼成	色調	残存	備考
57 20	土師器長胴甕	(21.6)	-	-	BEF	3	にぶい褐色	5%	
57-21	土師器長胴甕	22.2	35.2	4.0	BDE	3	褐色	70%	
57-22	土師器長胴甕	21.0	-	-	BEF	3	明赤褐色	15%	
57-23	土師器長胴甕	(24.0)	-	-	BEF	3	にぶい褐色	5%未満	
55-1	土師器杯	(16.0)	5.9	(15.0)	BDE	3	褐色	40%	
55-2	土師器杯	(14.4)	(4.5)	(12.4)	BEF	3	褐色	35%	
55-3	土師器杯	(14.0)	(2.9)	(10.8)	BDE	3	褐色	5%未満	カマド出土
55-4	土師器杯	(12.0)	(3.5)	(10.0)	BDE	4	褐色	30%	
55-5	土師器杯	(11.0)	(3.7)	(9.4)	BDE	3	にぶい褐色	20%	カマド出土
55-6	土師器杯	(10.0)	(2.8)	(8.0)	ABD	3	浅黄褐色	20%	
55-7	土師器杯	(10.7)	(3.0)	(10.0)	BF	3	褐色	5%未満	内外面赤彩
55-8	土師器杯	(11.0)	(4.4)	-	BD	3	褐色	5%	
55-9	土師器杯	(12.0)	(4.3)	-	BDE	4	浅黄褐色	10%	
55-10	土師器杯	(10.0)	(3.0)	(8.0)	BD	3	褐色	5%	
55-11	須恵器杯蓋	-	-	-	BF	2	灰白色	30%	湖西
55-12	土師器甕	(17.0)	-	-	ABEF	3	褐色	5%未満	
55-13	土師器甕	(24.0)	-	-	ABEF	3	褐色	5%未満	
55-14	土師器甕	(20.0)	-	-	AEFH	3	褐色	5%未満	
55-15	土師器長胴甕	(20.4)	-	-	ABDE	3	褐色	10%	カマド出土
55-16	土師器長胴甕	(20.2)	-	-	BDE	3	褐色	30%	カマド出土
55-17	土師器長胴甕	(23.0)	-	-	BEF	3	褐色	10%	カマド出土
55-18	土師器長胴甕	(20.0)	-	-	BEF	3	褐色	10%	カマド出土
55-19	土師器長胴甕	21.4	-	-	BDE	3	褐色	15%	カマド出土
55-20	土師器長胴甕	(21.0)	-	-	BF	3	にぶい褐色	5%未満	
55-21	土師器長胴甕	-	-	9.0	BEF	3	褐色	10%	
51-1	土師器杯	(10.0)	(2.8)	(10.4)	BDE	3	明灰褐色	5%未満	
51-2	土師器杯	(12.0)	(3.1)	(11.0)	BEF	3	にぶい褐色	5%未満	
51-3	土師器杯	(11.0)	(3.8)	(9.2)	BDE	3	浅黄褐色	5%未満	
51-4	土師器杯	(14.0)	(3.5)	(12.5)	AD	3	褐色	20%	

た。

#### 75号住居跡(第172・181図)

S-6グリッドに位置していた。遺構確認面が浅く、床面のみの検出であった。56号住居跡を切っていた。また、51・55・57号住居跡及び32号井戸跡、52号溝に切られていた。平面形は推定方形で、規模は長軸3.9mであった。床面までの深さは0.04mで不均一であった。主軸は不明であった。カマド及び貯蔵穴は検出されなかった。柱穴は4本検出され、浅い掘り込みであった。

遺物は覆土より土師器杯(75-1)及び須恵器蓋(75-2)が出土した。

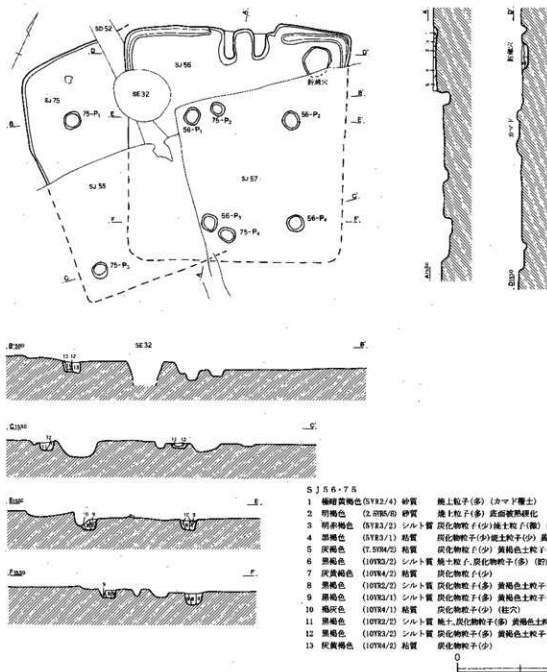
#### 56号住居跡(第172・181図)

S-6グリッドに位置していた。49・50・51・55・57号住居跡及び32号井戸跡、52号溝に切られていた。平面形は推定方形で、規模は長軸3.7m、短軸3.4mであった。床面までの深さは0.04mで、均一であった。主軸はN-25°-Wであった。カマドは北側中央に設置されていた。焚き口の掘り込みは浅く、煙道部は削平されていた。貯蔵穴は北東コーナーに検出された。平面円形で浅い掘り込みであった。覆土には多量の炭化物が堆積していた。柱穴は4本検出され、全ての柱穴より柱痕が確認された。壁際には壁周溝が巡っていた。

遺物は覆土より土師器杯(56-1)が出土した。



第172図 56・75号住居跡



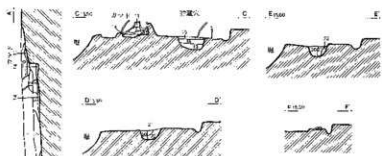
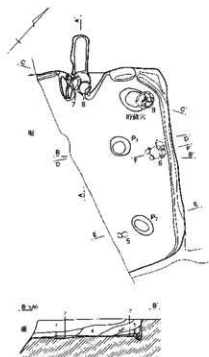
54号住居跡 (第173・181図)

T-6グリッドに位置していた。遺構の大部分を堀及び元荒川旧河道によって壊されていた。62号住居跡を切っていた。また、56号溝に切られていた。平面形は推定方形で、規模は長軸3.16mであった。床面までの深さは0.26mで、均一であった。主軸はN-41°-Wであった。カマドは北西側に設置されていた。焚き口の掘り込みは浅く、やや急な立ち上がりで壁道部に

続いていた。貯蔵穴は北側コーナーに検出された。平面楕円形で浅い掘り込みであった。覆土には多量の炭化物が堆積していた。柱穴は2本検出され、浅い掘り込みであった。壁際には壁周溝が巡っていた。

遺物はカマド内より土師器甕(54-8・9)が倒れた状態で、貯蔵穴より土師器甕(54-10)が倒立した状態で、東壁際より土師器甕(54-7)が潰れた状態で出土したほか、覆土より土師器杯(54-1~6)が出土した。

第173図 54号住居跡



- SJ54
- |                     |            |                         |                            |
|---------------------|------------|-------------------------|----------------------------|
| 1 黒褐色               | (10YR2/1)  | 粘質                      | 黄褐色土粒子(少) 焼土粒子、炭化物粒子(微)    |
| 2 暗褐色               | (10YR3/2)  | シルト質                    | 黄褐色土粒子(多) 炭化物粒子(多) 焼土粒子(微) |
| 3 黒色                | (10YR2/1)  | シルト質                    | 焼土(多) 黄褐色土粒子(少) 炭化物粒子(微)   |
| 4 暗褐色               | (10YR3/2)  | 粘質                      | 焼土、炭化物粒子(少)                |
| 5 黒褐色               | (10YR2/2)  | 粘質                      | 焼土粒子(微) 遺物(多)              |
| 6 黒褐色               | (10YR2/2)  | 粘質                      | 黄褐色土粒子(多) 焼土、炭化物粒子(微)      |
| 7 褐色                | (10YR4/4)  | シルト質                    | 炭化物粒子(少)                   |
| 8 灰褐色               | (10YR4/2)  | シルト質                    | 炭化物粒子(多)                   |
| 9 暗褐色               | (10YR3/1)  | シルト質                    | 焼土、炭化物粒子(多)                |
| 10 黒褐色              | (10YR2/1)  | シルト質                    | 焼土粒子、アブロック(多) (煙道)         |
| 11 黄褐色              | (10YR3/2)  | 粘質                      | 炭化物粒子(少) (カマド覆土)           |
| 12 灰褐色              | (10YR4/1)  | 粘質                      | 焼土、炭化物粒子(少) (カマド覆土)        |
| 13 赤褐色              | (2.5YR5/6) | 砂質                      | 焼土(多) 黄褐色土粒子(多) (カマド覆土)    |
| 14 灰黄褐色             | (10YR4/2)  | 粘質                      | 黄褐色土粒子(少) 炭化物粒子(少) (カマド覆土) |
| 15 に近い赤褐色(2.5YR5/6) | シルト質       | 焼土(少) 黄褐色土粒子(多) (カマド覆土) |                            |
| 16 灰黄褐色             | (10YR4/2)  | シルト質                    | 焼土、炭化物粒子(多) (貯蔵穴)          |
| 17 に近い黄褐色(10YR5/4)  | シルト質       | 焼土、炭化物粒子(多) (貯蔵穴)       |                            |
| 18 灰褐色              | (10YR4/1)  | 粘質                      | 炭化物粒子(少) (貯蔵穴)             |
| 19 黒褐色              | (10YR3/1)  | シルト質                    | 炭化物粒子(多) 焼土粒子(微) (貯蔵穴)     |
| 20 暗褐色              | (10YR3/1)  | シルト質                    | 黄褐色土粒子(少) 焼土粒子(微) 炭化物粒子(多) |
| 21 灰黄褐色             | (10YR4/2)  | 粘質                      | 焼土、炭化物粒子(微)                |
| 22 暗褐色              | (10YR3/2)  | 粘質                      | 炭化物粒子(微)                   |

0 2m

62号住居跡 (第174・181図)

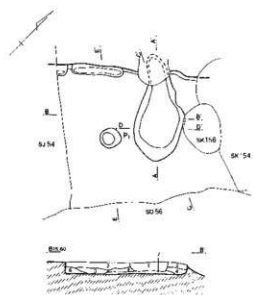
T-6・7グリッドに位置していた。54号住居跡及び154・156・158号土壌、56号溝に切られていた。平面形は推定方形で、規模は不明であった。床面までの深さは0.18mで、均一であった。主軸はN-40°-Wであった。カマドは北西側に設置されていた。焚き口の掘り込みは長く、煙道部は158号土壌によって壊されていた。貯蔵穴は検出されなかった。柱穴は1本のみ検出され、やや深い掘り込みであった。壁際には壁間溝が検出された。

遺物はカマドより手捏土器(第266図22)が、覆土より土師器杯(62-1~4)及び須恵器蓋(62-5)が出土した。

82号住居跡 (第175図)

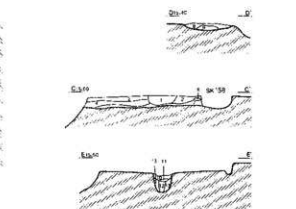
S・T-6グリッドに位置していた。81号住居跡を切っていた。また、遺構の大部分を堀によって壊され55・58号住居跡に切られていた。平面形は推定方形で、規模は長軸3.9mであった。床面までの深さは0.04mで、均一であった。主軸はN-45°-Wであった。カマドは北西側に設置されていた。焚き口の掘り込みは浅く、煙道部は削平されていた。貯蔵穴は北側コーナーに検出された。平面円形で下段が円形の二段掘り込みであった。覆土には多量の焼土及び炭化物が堆積していた。柱穴は4本検出され、全ての柱穴より柱痕が確認された。壁際には壁間溝が巡っていた。出土した遺物はなかった。

第174図 62号住居跡



S J 6 2

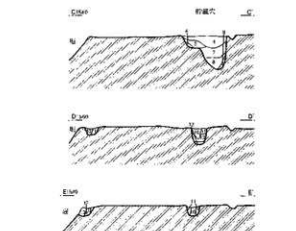
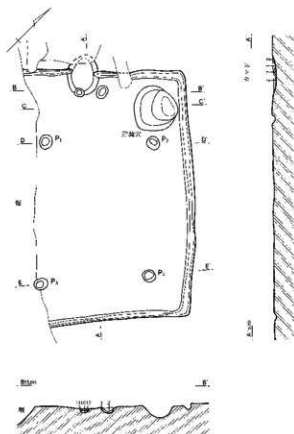
- 1 茶褐色 (07502/1) シルト質 焼土粒子,炭,炭化物粒子(多)
- 2 茶褐色 (10193/2) 粘質 焼土粒子,炭化物粒子(多) 黄褐色土粒(少)
- 3 茶褐色 (10192/3) シルト質 焼土粒,炭化物粒子(多)
- 4 茶褐色 (10193/3) 粘質 焼土粒,炭化物粒子(多) 黄褐色土粒(少)



- 5 褐色 (10194/1) 粘質 炭化物粒子(多) 黄褐色土粒(多)
- 6 緑褐色 (10193/2) 粘質 炭化物粒子(少)
- 7 灰黄褐色 (10194/2) シルト質 焼土粒子(多) 黄褐色土ブロック(少)
- 8 灰黄褐色 (10194/2) シルト質 焼土粒(多) (カマド裏土)
- 9 緑褐色 (10193/2) 粘質 炭化物粒子(多) 灰黄褐色土
- 10 褐色 (10194/1) シルト質 炭化物粒子(多) 黄褐色土粒(少) (柱穴)
- 11 灰黄褐色 (10194/2) 粘質 炭化物粒子(多) 黄褐色土粒(多) (柱穴)
- 12 茶褐色 (10193/2) シルト質 炭化物粒子(多) 黄褐色土粒(少) (柱穴)
- 13 に近い黄褐色 (10194/3) 粘質 黄褐色土粒(少)

0 2m

第175図 82号住居跡



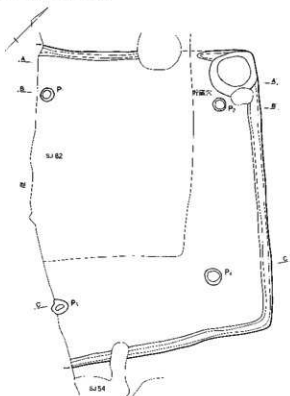
S J 8 2

- 1 黄褐色 (10193/2) シルト質 焼土粒子,炭化物粒子(少) (カマド裏土)
- 2 緑褐色 (10193/2) 粘質 焼土粒子,炭化物粒子(少) 灰黄褐色土
- 3 緑褐色 (10193/4) 粘質 焼土ブロック(多) (カマド裏土)
- 4 黄褐色 (10192/2) シルト質 焼土粒子(多) 黄褐色土粒(多) (貯蔵穴)
- 5 灰黄褐色 (10194/2) 粘質 炭化物粒子(少) 黄褐色土粒(多) (貯蔵穴)
- 6 褐色 (10194/4) 粘質 炭化物粒子(少) (貯蔵穴)
- 7 緑褐色 (10193/2) 粘質 焼土,炭化物粒子(少) (貯蔵穴)
- 8 緑褐色 (10193/2) シルト質 焼土粒子(多) 炭化物粒子(多) (貯蔵穴)
- 9 褐色 (10194/4) 粘質 炭化物粒子(少) (貯蔵穴)
- 10 茶褐色 (10192/2) シルト質 炭化物粒子(多) 黄褐色土粒(多) (柱穴)
- 11 緑褐色 (10193/2) 粘質 焼土,炭化物粒子(少) 黄褐色土粒(多) (柱穴)
- 12 褐色 (10194/1) 粘質 炭化物粒子(少) 黄褐色土粒(多) (柱穴)
- 13 に近い黄褐色 (10194/3) 粘質 炭化物粒子(多) (柱穴)

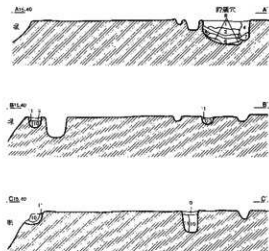
0 2m

### 81号住居跡 (第176図)

S・T-6グリッドに位置していた。遺構確認面が浅く床面での検出であった。また、堀及び54・55・82号住居跡に切られていた。平面形は推定方形で、規模は長軸5.0mであった。主軸は推定でN-44°-Wであった。第176図 81号住居跡



った。カマドは検出されなかった。貯蔵穴は北側コーナーに検出された。平面円形でやや深い掘り込みであった。覆土には多量の焼土及び炭化物が堆積していた。柱穴は4本検出され、浅い掘り込みであった。壁際には壁周溝が巡っていた。出土した遺物は、なかった。



#### S.J. 81

- |    |                  |      |                            |
|----|------------------|------|----------------------------|
| 1  | 黒褐色 (10YR2/2)    | 粘質   | 焼土、炭化物粒子(黒) 黄褐色土粒子(多)      |
| 2  | 黒褐色 (10YR2/3)    | シルト質 | 焼土粒子(多) 炭化物粒子(少) 黄褐色土粒子(微) |
| 3  | 暗褐色 (10YR3/4)    | 粘質   | 黄褐色土粒子(微) 遺物(少)            |
| 4  | 灰黄褐色 (10YR4/2)   | 粘質   | 炭化物粒子(微)                   |
| 5  | 暗褐色 (10YR3/2)    | 粘質   | 炭化物粒子(微)                   |
| 6  | にぶい黄褐色 (10YR4/2) | シルト質 | 黄褐色土粒子(多) 焼土、炭化物粒子(多)      |
| 7  | 褐色 (10YR4/4)     | シルト質 | 炭化物粒子(多)                   |
| 8  | 褐色 (10YR4/3)     | 粘質   | 炭化物粒子(微)                   |
| 9  | 黒褐色 (10YR3/2)    | 粘質   | 焼土、炭化物粒子(少) (柱穴)           |
| 10 | 黒褐色 (10YR2/2)    | シルト質 | 焼土粒子(微) 炭化物粒子(多) (柱穴)      |
| 11 | 黄褐色 (10YR4/1)    | 粘質   | 炭化物粒子(少) (柱穴)              |



### 52号住居跡 (第177・181図)

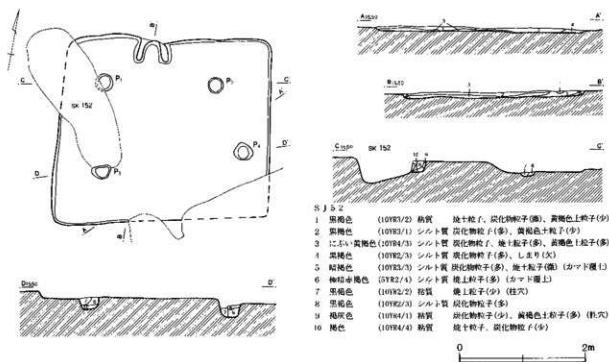
R・S-6グリッドに位置していた。53号住居跡を切っていた。また、50号住居跡及び152号土壌に切られていた。平面形は方形で、規模は長軸3.44m、短軸3.0mであった。床面までの深さは0.06mで、不均一であった。主軸はN-11°-Wであった。カマドは北側中央に設置されていた。焚き口の掘り込みは浅く、煙道部は削平されていた。貯蔵穴は検出されなかった。柱穴は4本検出され、浅い掘り込みであった。

遺物は覆土より土師器杯 (52-1・2・3) 及び土師器釜 (52-4) が出土した。

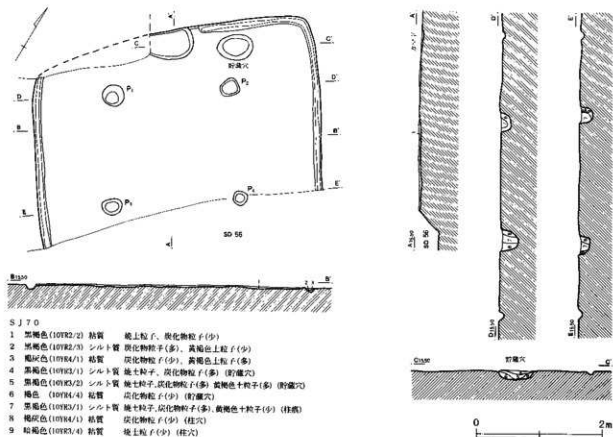
### 70号住居跡 (第178図)

S-7グリッドに位置していた。57号住居跡及び56号溝に切られていた。平面形は推定方形で、規模は長軸4.55mであった。床面までの深さは0.02mで、均一であった。主軸はN-31°-Wであった。カマドは北西側中央に設置されていたが、焚き口の掘り方のみ検出された。貯蔵穴はカマド右脇に検出された。平面楕円形で浅い掘り込みであった。覆土には多量の炭化物が堆積していた。柱穴は4本検出され、全ての柱穴より柱痕が確認された。壁際には壁周溝が巡っていた。出土した遺物は、なかった。

第177図 52号住居跡



第178図 70号住居跡



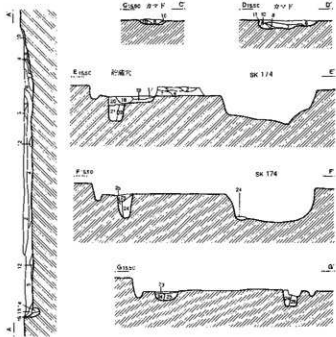
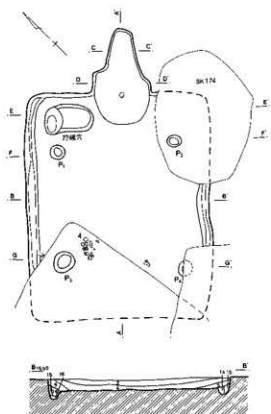
### 53号住居跡 (第179・181図)

R-6・7・S-6グリッドに位置していた。52・57号住居跡及び174号土壌に切られていた。平面形は推定長方形で、規模は長軸3.6m、短軸2.9mであった。床面までの深さは0.14mで、均一であった。主軸はN-42°-Eであった。カマドは北東側中央に設置され住居跡外部へやや突出していた。焚き口の掘り込みは浅く、底面の平坦な煙道部に続いていた。貯蔵穴はカ

マド左脇に検出された。平面楕円形で下段が円形の二段掘り込みであった。覆土には多量の灰化物が堆積していた。柱穴は4本検出され、深い掘り込みであった。壁際には壁周溝が巡っていたが、貯蔵穴付近は切れていた。

遺物はカマド内より土師器坏 (53-2) が、貯蔵穴より土師器坏 (53-3) が、覆土より土師器坏 (53-1) 及び土師器甕 (53-4) が出土した。

第179図 53号住居跡



#### S J 53

- |       |                |                            |
|-------|----------------|----------------------------|
| 1 褐灰色 | (10YR4/3) 粘質   | 焼土粒子(少)、黄褐色土粒子(多)          |
| 2 灰褐色 | (10YR5/2) シルト質 | 焼土粒子、灰化物粒子(多)              |
| 3 黒褐色 | (10YR5/1) シルト質 | 焼土粒子(少)、灰化物粒子(多)           |
| 4 粘褐色 | (10YR3/3) 粘質   | 焼土粒子、灰化物粒子(多)、黄褐色土粒子(多)    |
| 5 粘褐色 | (10YR2/4) シルト質 | 焼土粒子(多)、灰化物粒子(多)、黄褐色土粒子(多) |
| 6 黒褐色 | (10YR2/3) シルト質 | 焼土粒子(多)、焼土粒子(少) (カマド覆土)    |
| 7 粘褐色 | (10YR2/4) シルト質 | 焼土粒子(多)、灰化物粒子(少) (カマド覆土)   |
| 8 灰白色 | (10Y7/1) シルト質  | 焼土粒子、灰化物粒子(多)、灰燼 (カマド覆土)   |
| 9 褐色  | (10YR4/6) シルト質 | 灰化物粒子(多) (カマド覆土)           |
| 10 褐色 | (10YR4/6) 粘質   | 灰化物粒子(多) (カマド覆土)           |

- |                    |      |                                  |
|--------------------|------|----------------------------------|
| 11 二色い黄褐色(10YR4/3) | 粘質   | 灰化物粒子(少)、黄褐色土粒子(多) (カマド覆土)       |
| 12 灰黄褐色(10YR5/2)   | 粘質   | 灰化物粒子(多)                         |
| 13 粘褐色(10YR3/3)    | シルト質 | 焼土粒子(多)、黄褐色土粒子(多)                |
| 14 黒褐色(10YR3/2)    | 粘質   | 灰化物粒子(多)、しじり(土)                  |
| 15 二色い黄褐色(10YR5/4) | シルト質 | 灰化物粒子(多)、黄褐色土粒子(多)               |
| 16 黄褐色(10YR2/2)    | シルト質 | 灰化物粒子(多)                         |
| 17 黒褐色(10YR3/2)    | 粘質   | 焼土粒子(多)、黄褐色土粒子(多) (貯蔵穴)          |
| 18 黄褐色(10YR2/3)    | シルト質 | 焼土粒子、灰化物粒子(多)、黄褐色土粒子(多) (貯蔵穴)    |
| 19 二色い黄褐色(10YR4/3) | 粘質   | 灰化物粒子(多) (貯蔵穴)                   |
| 20 粘褐色(10YR3/3)    | シルト質 | 灰化物粒子(多)、黄褐色土粒子(多) (貯蔵穴)         |
| 21 粘褐色(10YR3/4)    | 粘質   | 灰化物粒子(少)、黄褐色土粒子(多) (貯蔵穴)         |
| 22 灰黄褐色(10YR4/2)   | 粘質   | 灰化物粒子(多)                         |
| 23 黒褐色(10YR3/1)    | 粘質   | 黒褐色土と灰黄褐色土の互層 焼土粒子、灰化物粒子(少) (柱穴) |
| 24 赤褐色(10YR2/3)    | シルト質 | 灰化物粒子(多)、黄褐色土粒子(多) (柱穴)          |
| 25 粘褐色(10YR3/4)    | 粘質   | 黄褐色土粒子(多) (柱穴)                   |



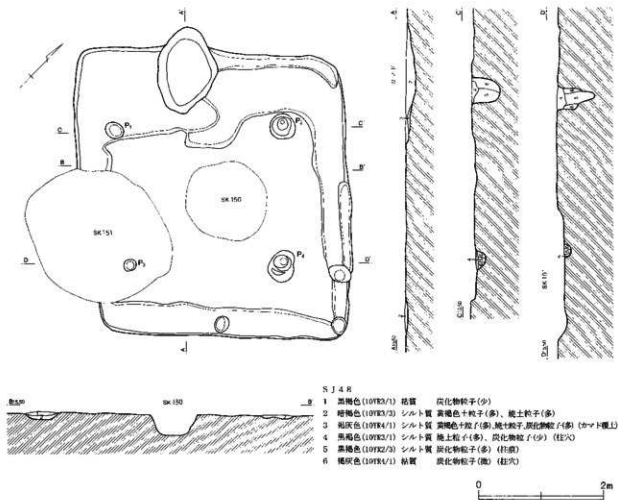
#### 48号住居跡 (第180・181図)

R・S-7グリッドに位置していた。174号土壌を切っていた。また、150・151号土壌に切られていた。平面形は方形で、規模は長軸4.5m、短軸4.36mであった。床面までの深さは0.08mで、壁際周辺部の掘り方が一段低くなっていた。主軸はN-45°-Wであった。カマドは北西側中央に設置されていた。焚き口の

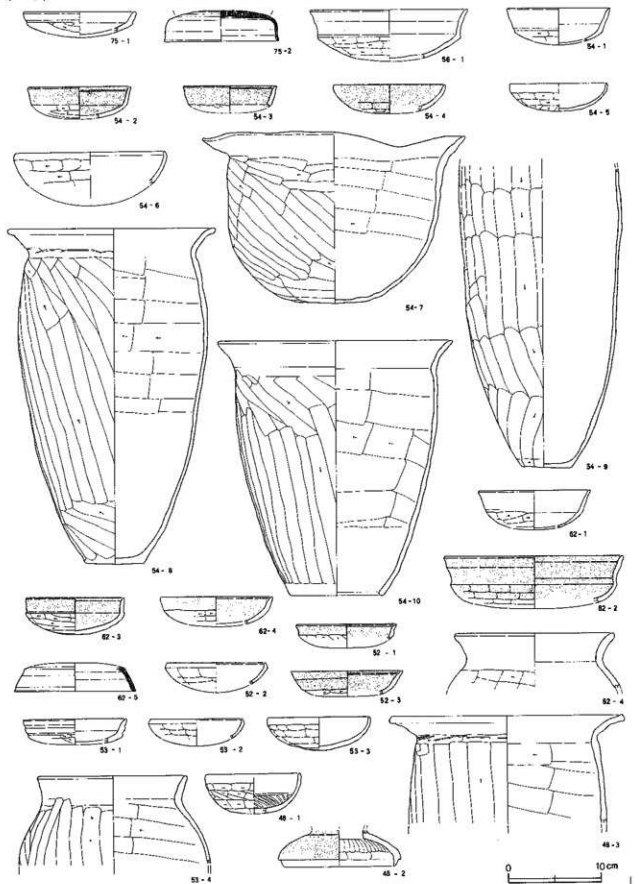
掘り込みは幅広く浅く、袖部及び煙道部は削平されていた。貯蔵穴は検出されなかった。柱穴は4本検出され、全ての柱穴より柱痕が確認された。壁際には一部壁間溝が巡っていた。

遺物は覆土より土師器杯(48-1)及び土師器蓋(48-2)、土師器甕(48-3)が出土した。

第180図 48号住居跡



第181图 48·52·53·54·56·62·75号住居跡出土遺物





B区48-52-53-54-62-75号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
75-1	土師器杯	(12.0)	(2.8)	(11.4)	BDE	3	赤褐色	5%未満	
75-2	須恵器蓋	(12.2)	3.3	-	BF	2	灰色	70%	南比企
56-1	土師器杯	(16.9)	5.5	15.3	BEF	3	浅黄褐色	20%	
54-1	土師器杯	(11.0)	(4.0)	(9.4)	BF	3	明赤褐色	5%	
54-2	土師器杯	(11.0)	(3.4)	(10.2)	BEF	3	にぶい褐色	10%	
54-3	土師器杯	(10.0)	(2.9)	(9.9)	BEF	3	にぶい褐色	5%未満	内外面赤彩
54-4	土師器杯	(12.0)	(3.1)	(5.4)	BDG	3	褐色	5%	
54-5	土師器杯	10.4	2.9	9.0	BCD	4	褐色	90%	
54-6	土師器杯	(16.0)	(5.7)	(12.0)	BD	3	にぶい黄褐色	5%未満	
54-7	土師器甕	28.2	18.0	7.4	BEFG	4	褐色	80%	
54-8	土師器長胴甕	22.2	35.6	6.2	BI	3	褐色	75%	
54-9	土師器長胴甕	-	-	5.3	BC	3	浅黄褐色	40%	
54-10	土師器甕	25.6	27.1	9.8	BD	3	にぶい黄褐色	90%	
62-1	土師器杯	(12.0)	(4.2)	(10.4)	BDE	3	にぶい褐色	10%	
62-2	土師器杯	(19.0)	(5.6)	(17.8)	BF	3	にぶい褐色	10%	内外面赤彩
62-3	土師器杯	(10.4)	(3.9)	(10.4)	BEF	3	褐色	30%	内外面赤彩
62-4	土師器杯	(12.0)	(3.2)	(11.2)	BEF	3	褐色	5%未満	
62-5	須恵器杯蓋	(13.0)	(3.0)	-	BF	1	灰白色	5%	南比企
52-1	土師器杯	(10.8)	(2.5)	(10.2)	BEF	3	褐色	5%未満	内外面赤彩
52-2	土師器杯	(10.6)	(3.2)	(11.0)	BEF	3	褐色	5%	
52-3	土師器杯(高杯)	(12.0)	(2.7)	(7.0)	BEF	3	褐色	5%未満	内外面赤彩
52-4	土師器甕	(17.2)	-	-	AEH	3	褐色	5%未満	
53-1	土師器杯	(11.0)	(2.7)	(10.0)	BDE	3	褐色	5%未満	
53-2	土師器杯	(10.0)	(2.9)	(10.3)	BEF	3	褐色	5%未満	
53-3	土師器杯	(11.0)	3.6	(8.8)	BEF	3	褐色	30%	カマド出土 貯穴出土
53-4	土師器甕	(16.0)	-	-	BDE	3	にぶい褐色	15%	
48-1	土師器杯	(10.2)	4.2	(5.0)	BFI	3	にぶい褐色	25%	内面繪文状ヘラミガキ
48-2	土師器蓋形土器	13.0	-	-	BEF	3	にぶい褐色	5%未満	外面赤彩
48-3	土師器長胴甕	(25.0)	-	-	BDE	3	にぶい褐色	5%未満	

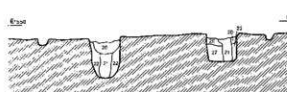
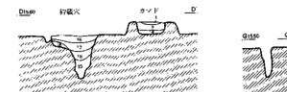
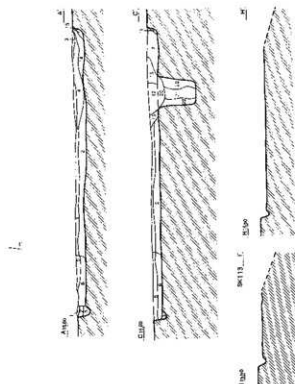
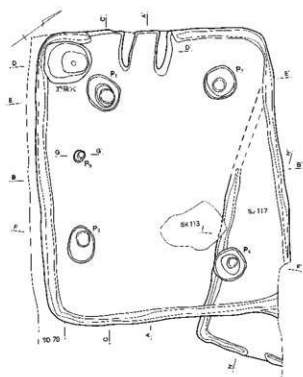
## 14号住居跡 (第182・187・267・268図)

Q-1・2グリッドに位置していた。117号住居跡を切っていた。また、遺構の一部を堀によって壊されていた。平面形は方形で、規模は長軸4.56m、短軸3.96mであった。床面までの深さは0.15mで、均一であった。主軸はN-55°-Wであった。カマドは北西側中央に設置されていた。焚き口の掘り込みは浅く、煙道部は削平されていた。貯蔵穴は北西コーナーに検出された。平面稍円形で下段が円形の二段掘り込みであった。柱穴は5本検出され、全ての柱穴より柱痕が確認された。壁際には壁周溝が巡っていた。

遺物は覆土より土師器杯(14-1~6)及び粘土塊(第267図1)、白玉(第268図38)が出土した。

## 117号住居跡 (第182図)

Q-2グリッドに位置していた。遺構の大部分を堀によって壊されていた。また、14号住居跡に切られていた。平面形は推定方形で、規模及び主軸は不明であった。また、検出されたのは床面及び壁周溝の一部のみであった。出土した遺物は、なかった。



5 J 1 4 - 1 1 7

- |    |         |           |      |                              |
|----|---------|-----------|------|------------------------------|
| 1  | 黒褐色     | (2.573/2) | 粘質   | 白色顔料(少)、焼土粒子、炭化物粒子(中)        |
| 2  | 暗灰黄色    | (2.574/2) | 粘質   | 白色顔料(少)、焼土粒子、炭化物粒子(少)        |
| 3  | 灰褐色     | (10YR3/1) | 砂質   | 焼土ブロック(多)                    |
| 4  | オリーブ褐色  | (2.5Y4/3) | 粘質   | 黄褐色土ブロック(少)、焼土粒子(中)          |
| 5  | 黒褐色     | (2.5Y3/1) | 粘質   | 焼土粒子(中)、炭化物粒子(少)             |
| 6  | 黒色      | (2.0Y2/1) | 粘質   | 焼土粒子(中)、炭化物粒子(少)、黄褐色土ブロック(少) |
| 7  | 黒褐色     | (2.5Y3/1) | 粘質   | 鉄分沈着                         |
| 8  | 黒色      | (2.5Y2/1) | 粘質   | 焼土粒子(多)(他遺構)                 |
| 9  | 黒褐色     | (2.5Y3/1) | 粘質   | 褐色土ブロック(少)                   |
| 10 | オリーブ褐色  | (5Y2/2)   | シルト質 | (田畑遺構土)                      |
| 11 | 暗オリーブ褐色 | (2.6Y3/1) | 粘質   | 焼土粒子、炭化物粒子(中)                |
| 12 | 黒褐色     | (2.5Y3/1) | 粘質   | 焼土粒子(少)(カマド構土)               |
| 13 | 暗灰黄色    | (2.5Y4/2) | 粘質   | (カマド構土)                      |
| 14 | 灰褐色     | (2.5Y3/2) | 粘質   | 焼土粒子(少)                      |
| 15 | オリーブ褐色  | (2.5Y4/3) | 粘質   | 焼土粒子、炭化物粒子(中)(貯蔵穴)           |
| 16 | 黒褐色     | (2.5Y3/1) | 粘質   | 焼土粒子、炭化物粒子(少)、暗褐色粘土(少)(貯蔵穴)  |
| 17 | 黒色      | (2.5Y2/1) | 粘質   | 炭化材(少)(貯蔵穴)                  |
| 18 | 黒褐色     | (2.5Y3/1) | 粘質   | (貯蔵穴)                        |
| 19 | オリーブ褐色  | (2.5Y4/3) | 粘質   | (貯蔵穴)                        |
| 20 | 黒褐色     | (2.5Y3/1) | 粘質   | 焼土粒子(少)、黄褐色土ブロック(少)(貯蔵穴)     |
| 21 | 暗オリーブ褐色 | (2.5Y3/2) | 粘質   | (注文)                         |
| 22 | 黒褐色     | (2.5Y3/1) | 粘質   | (竈方)                         |



### 113号住居跡 (第183・187図)

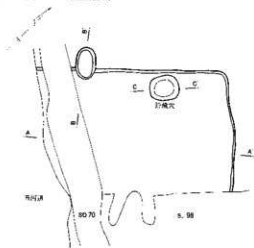
Q-2グリッドに位置していた。遺構の大部分を元荒川旧河道によって壊されていた。また、98号住居跡及び70号溝に切られていた。平面形は推定方形で、規模は不明であった。床面までの深さは0.08mで、均一であった。主軸はN-46°-Wであった。カマドは北西側に設置されていたが焚き口のみ検出された。貯蔵穴はカマド右脇に検出された。平面楕円形で浅い掘り込みであった。覆土には多量の炭化物が堆積していた。柱穴は検出されなかった。

遺物は覆土より土師器杯 (113-1・2) が出土した。

### 98号住居跡 (第184・187・266図)

Q-2グリッドに位置していた。遺構の大部分を元荒川旧河道及び堀によって壊されていた。また70号溝に切られていた。平面形は推定方形で、規模は長軸4.01mであった。床面までの深さは0.3mで、均一であった。主軸はN-48°-Wであった。カマドは北西側に設置されていた。焚き口の掘り込みは浅く、煙道部は削平されていた。また袖部先端に補強材として土師器甕2個体が、直立した状態で埋設されていた。貯蔵穴はカマド右脇に検出された。平面楕円形で浅い掘り込みであった。また、住居跡南側床面に本跡に伴うと考えられる円形の土壌が検出された。柱穴は2本検出され、いずれも柱長が確認された。

第183図 113号住居跡



遺物はカマド袖部より土師器甕 (98-24・25) が、焚き口より台付甕 (98-26) が、覆土より土師器杯 (98-1~26) 及び土師器甕 (98-21・22・23) が出土した。このほか、覆土より土製支脚 (第266図5) が出土した。

### 99号住居跡 (第185・191・272図)

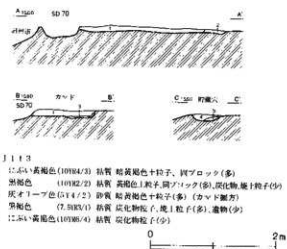
Q-2・R-2・3グリッドに位置していた。114・115号住居跡を切っていた。また、遺構の大部分を元荒川旧河道及び堀によって壊されていた。98号住居跡、211・228・238・239号土壌及び70号溝に切られていた。平面形は推定方形で、規模及び主軸は不明であった。床面までの深さは0.25mで、均一であった。カマド等の内部施設は検出されなかった。

遺物は覆土より土師器杯 (99-1~8) 及び、釵子状鉄製品 (第272図8) が出土した。

### 114・115号住居跡 (第186・187図)

R-2・3グリッドに位置していた。遺構の大部分を堀によって壊されていた。また、99号住居跡及び239号土壌に切られていた。平面形は推定隅丸方形で、規模及び主軸は不明であった。床面までの深さは0.02mで、均一であった。カマド及び貯蔵穴は検出されなかった。柱穴は2本検出され、浅い掘り込みであった。壁際には壁周溝が二重に巡っていた。

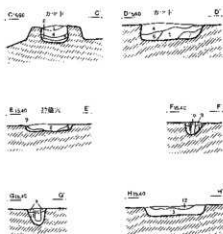
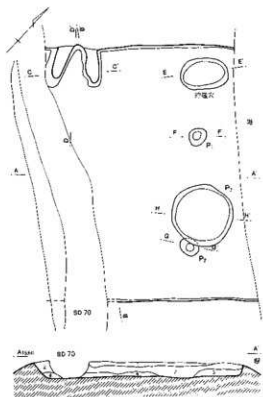
遺物は覆土より土師器杯 (114・115-1) が出土した。



#### 5 J I T 3

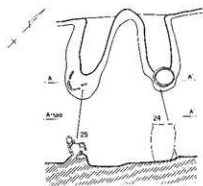
- 1: 赤褐色 (10184/3) 粘質 暗黄褐色土粒子、同ブロック (多)
- 2 黄褐色 (10182/2) 粘質 黄褐色土粒子、同ブロック (多)、炭化物、黒土粒子 (少)
- 3 灰オリーブ色 (514/2) 砂質 暗黄褐色土粒子 (多) (カマド裏方)
- 4 黄褐色 (7, 583/1) 粘質 灰化物 (多)、黒土粒子 (多)、遺物 (少)
- 5 1: 赤褐色 (10186/4) 粘質 炭化物 (多)

第184図 98号住居跡

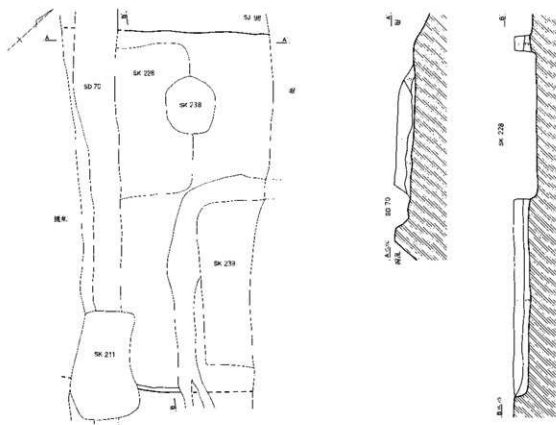


S J 9 8

- |   |                   |         |   |    |               |
|---|-------------------|---------|---|----|---------------|
| 1 | オリーブ褐色 (2.513/3)  | 粘質      | 暗褐色土粒子(少), 黄土粒子, 同ブロック(少)               | 12 | 黄褐色           |
| 2 | 暗オリーブ褐色 (2.513/3) | 粘質      | 暗褐色土粒子(少), 黄土粒子, 同ブロック(少)               | 13 | 黒褐色           |
| 3 | オリーブ褐色 (2.514/6)  | 粘質      | 灰白色粒子(多), 黄土粒子(多), 暗褐色土粒子(少)            |    |               |
| 4 | 暗灰黄色 (2.513/2)    | 粘質      | 灰白色粒子(多), 黄土粒子(少) (カマド覆土)               |    |               |
| 5 | 黒褐色               | 2.513/2 | シルト質 暗黄褐色土粒子(多), 黄土粒子, 同ブロック(多) (カマド覆土) |    |               |
|   |                   |         |   | 6  | 黒褐色 (2.513/2) |
|   |                   |         |   |    | 7             |
|   |                   |         |   |    | 8             |
|   |                   |         |   |    | 10            |
|   |                   |         |   |    | 11            |
|   |                   |         |   |    | 12            |
|   |                   |         |   |    | 13            |



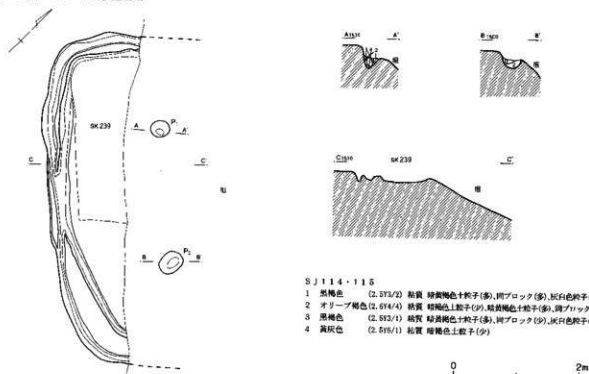
第185図 99号住居跡



S J 99

- 1 黄褐色 (2.575/1) 粘質 暗黄褐色土粒子(少)、同ブロック(多)
- 2 暗灰黄色 (2.574/2) 粘質 暗黄褐色土粒子(少)、粘土粒子(少)
- 3 オリーブ褐色(2.574/4) シルト質 黄土粒子(多)、同ブロック(多)

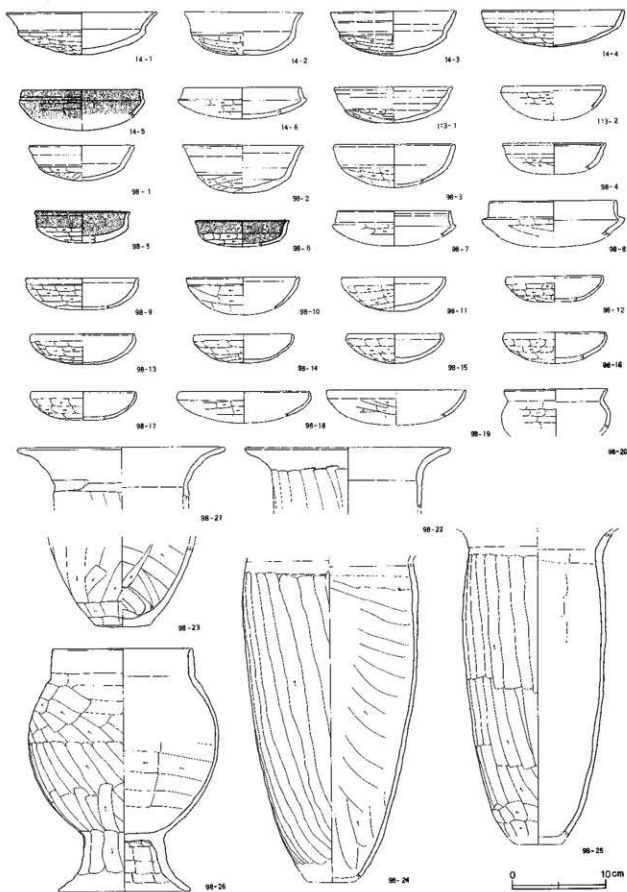
第186図 114・115号住居跡



S J 114・115

- 1 黒褐色 (2.573/2) 粘質 暗黄褐色土粒子(多)、同ブロック(多)、灰白色粒子(多)
- 2 オリーブ褐色(2.574/4) 粘質 暗黄褐色土粒子(少)、暗黄褐色土粒子(多)、同ブロック(多)
- 3 黒褐色 (2.573/1) 粘質 暗黄褐色土粒子(多)、同ブロック(少)、灰白色粒子(多)
- 4 黄灰色 (2.576/1) 粘質 暗褐色土粒子(少)

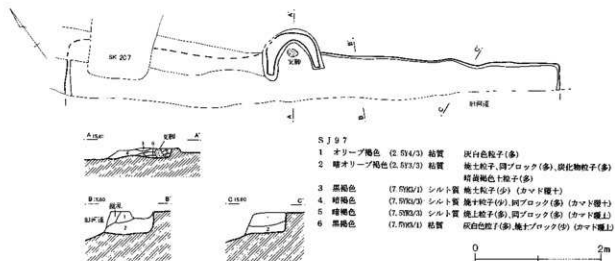
第187图 14·98·113号住居跡出土遺物



B区14・98・113号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	高さ	直径	胎土	焼成	色調	残存	備考
14-1	須恵器杯	(16.0)	4.5	(13.7)	BDE	3	灰白色	20%	
14-2	土師器杯	12.6	4.5	11.1	BEF	3	橙色	25%	
14-3	土師器杯	13.4	4.7	11.4	BEF	4	橙色	100%	
14-4	土師器杯	(15.2)	3.9	(14.2)	BEF	4	にぶい橙色	25%	内外面黒色処理
14-5	土師器杯	(12.8)	(4.3)	(10.4)	BEF	3	にぶい橙色	5%未満	内外面赤彩
14-6	土師器杯	(12.4)	(3.3)	(13.6)	BF	3	にぶい橙色	5%未満	
113-1	土師器杯	12.6	3.8	10.3	BDE	3	橙色	100%	貯穴出土
113-2	土師器杯	(11.0)	(3.6)	(8.0)	ABF	3	橙色	5%未満	
98-1	土師器杯	(11.2)	(3.8)	9.2	BDE	3	浅黄橙色	25%	
98-2	須恵器杯	12.9	5.0	10.0	BDE	3	明灰褐色	60%	
98-3	土師器杯	(13.0)	(4.6)	(11.4)	BEF	3	橙色	20%	
98-4	土師器杯	(11.0)	(3.3)	(10.0)	BEF	3	橙色	5%	
98-5	土師器杯	(10.0)	3.4	(9.8)	BEF	3	橙色	20%	
98-6	土師器杯	(10.0)	(2.8)	(9.4)	BEF	3	橙色	20%	内外面赤彩
98-7	土師器杯	(12.0)	-	-	BEF	3	橙色	5%未満	
98-8	土師器杯	(13.4)	(4.9)	(15.2)	ABF	3	にぶい橙色	5%未満	
98-9	土師器杯	(12.0)	(3.4)	(8.0)	ABDE	3	橙色	20%	
98-10	土師器杯	(12.1)	(4.0)	(8.8)	ABDE	3	橙色	10%	カマド出土
98-11	土師器杯	11.1	3.5	10.0	ABD	3	橙色	100%	
98-12	土師器杯	10.4	2.7	6.0	BD	3	橙色	25%	
98-13	土師器杯	11.0	3.2	7.4	BD	3	橙色	55%	
98-14	土師器杯	10.6	3.0	7.2	ABD	3	橙色	50%	
98-15	土師器杯	(10.0)	3.1	(10.4)	BDE	3	橙色	30%	
98-16	土師器杯	(10.6)	(3.3)	(6.2)	BD	3	橙色	20%	
98-17	土師器杯	(11.0)	(3.0)	(5.4)	BD	3	にぶい橙色	25%	
98-18	土師器杯	(14.4)	(3.2)	(10.2)	BD	3	橙色	5%未満	
98-19	土師器杯	(15.0)	(3.7)	(10.0)	BEF	3	橙色	5%未満	
98-20	土師器杯	(11.0)	-	-	BEF	3	橙色	5%未満	
98-21	土師器長胴壺	(22.2)	-	-	BEFG	3	にぶい橙色	5%未満	
98-22	土師器長胴壺	(22.0)	-	-	ABEF	3	橙色	5%未満	
98-23	土師器壺	-	-	6.0	BEF	3	にぶい黄橙色	5%	
98-24	土師器長胴壺	-	-	5.0	BEF	3	橙色	90%	カマド出土
98-25	土師器長胴壺	-	-	-	BEF	3	橙色	50%	カマド出土
98-26	土師器台付壺	15.0	(25.8)	14.0	BDE	3	橙色	50%	

第188図 97号住居跡



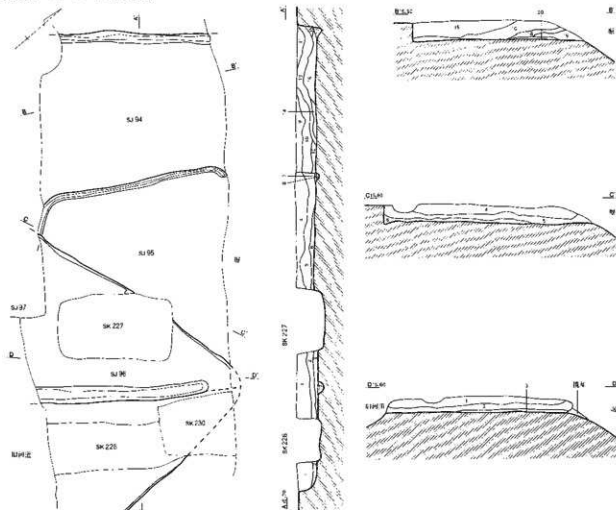
97号住居跡 (第188・191・192図)

R・S-3グリッドに位置していた。94・95・96号住居跡を切っていた。遺構の大部分を元荒川河道によって壊されていた。また、207号土壇及び70号溝に切られていた。平面形は推定方形で、規模は長幅7.92mであった。床面までの深さは0.32mで、不均一であった。主軸はN-37°-Eであった。カマドは北東側

中央に設置されていた。焚き口の掘り込みは浅く、煙道部は削平されていた。また、燃焼部中央より上製支脚が検出された。貯蔵穴及び柱穴は検出されなかった。

遺物はカマド内より須恵器蓋 (97-4) 及び土師器甕 (97-5) が、覆土より土師器環 (97-1・2・3) 及び土師器甕 (97-6・7) が出土した。

第189図 94・95・96号住居跡



SJ 94・95・96

- |    |                       |   |
|----|-----------------------|---|
| 1  | 暗オリーブ色 (G14/3) 粘質     | 灰白色粘土(多), 暗黄褐色土粒子(少) (S190)                 |
| 2  | 灰オリーブ色 (G14/2) 粘質     | 暗黄褐色上ブロック(多), 焼土粒子, 炭化物粘土(微) (S190)         |
| 3  | 暗オリーブ色 (G14/4) 粘質     | 暗黄褐色土粒子(微), 焼土粒子 (S190)                     |
| 4  | オリーブ色 (G15/4) 粘質      | 灰白色粘土(多), 焼土粒子(微) (S190)                    |
| 5  | オリーブ褐色 (G15/3) 粘質     | 灰白色粘土(多), 焼土粒子(多), 暗黄褐色土粒子(多) (S190)        |
| 6  | オリーブ褐色 (G15/1/1) シルト質 | 炭化物粘土, 同ブロック(多), 焼土粒子(少), 暗黄褐色土粒子(多) (S190) |
| 7  | オリーブ褐色 (G15/1/2) 粘質   | 焼土粒子(微), 暗黄褐色土粒子(多) (S190)                  |
| 8  | オリーブ褐色 (G15/1/4) 粘質   | 炭化物粘土(微), 暗黄褐色土粒子(多) (S190)                 |
| 9  | オリーブ褐色 (G15/1/3) 粘質   | 灰白色粘土(多), 暗黄褐色土粒子(多) (S190)                 |
| 10 | 暗オリーブ褐色 (G15/2) 粘質    | 灰白色粘土(多), 暗黄褐色土粒子, 同ブロック(多) (S190)          |

- |    |                     |                                       |
|----|---------------------|---------------------------------------|
| 11 | オリーブ色 (G15/4) 粘質    | 灰白色粘土(多), 暗黄褐色土粒子(多), 焼土粒子(少) (S190)  |
| 12 | 暗オリーブ褐色 (G15/3) 粘質  | 暗黄褐色土粒子, 同ブロック(多) (S190)              |
| 13 | 黒褐色 (G15/2/2) 粘質    | 暗黄褐色土粒子(少), 焼土粒子(微), 灰白色土粒子(微) (S190) |
| 14 | 黒褐色 (G15/2/3) シルト質  | 焼土粒子(少), 同ブロック(多) (S190)              |
| 15 | 暗オリーブ色 (G14/3) 粘質   | 焼土粒子(少), 暗黄褐色土粒子, 同ブロック(多) (S190)     |
| 16 | オリーブ褐色 (G15/2) シルト質 | 焼土粒子, 同ブロック(多), 暗黄褐色土粒子(多) (S190)     |
| 17 | オリーブ褐色 (G15/2) シルト質 | 炭化物粘土(多), 暗黄褐色土粒子(多) (S190)           |
| 18 | 暗褐色 (G10/3/2) 粘質    | 灰白色粘土, 同ブロック(多) (S190)                |
| 19 | 黒褐色 (G10/2/3) 粘質    | 暗黄褐色土粒子, 同ブロック(多), 焼土粒子(少) (S190)     |
| 20 | オリーブ褐色 (G15/1/4) 粘質 | 暗黄褐色土粒子, 同ブロック(多) (S190)              |

0 2m

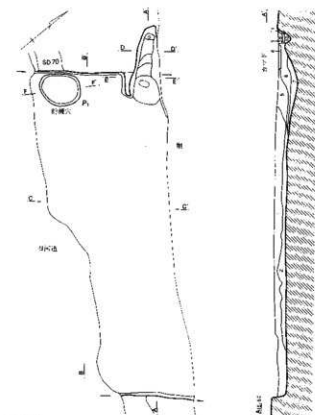


94・95・96号住居跡 (第189・191・192・266図)

R・S-3・4グリッドに位置していた。遺構の大部分を元荒川河道及び堀によって壊されていた。また、97号住居跡、226・230号土壌に切られていた。各住居跡の新旧関係は新しいほうから96・95・94の順であった。平面形は推定方形で、規模は不明であった。94・95号住居跡より壁周溝が検出された以外他の内部施設は検出されなかった。

遺物は96号住居跡覆土より土師器杯 (96-1~6) 及び土師器高杯 (96-7) が、95号住居跡覆土より土師器杯 (95-1~5) が、94号住居跡覆土より土師器杯 (94-1・2) 及び土師器甕 (94-3・4)、羽口 (第266図6) が出土した。このほか、各住居跡にまたがって出土した遺物 (94~97-1~10) があつた。

第190図 89号住居跡



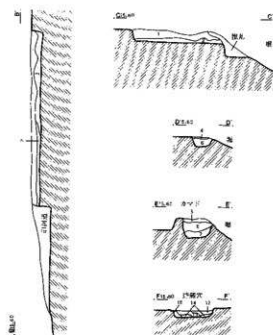
凡 89

- |   |                    |      |                                      |
|---|--------------------|------|--------------------------------------|
| 1 | 緑オリーブ褐色 (2. 573/3) | 粘質   | 暗黄褐色土粒子, 同ブロック (多), 焼土粒子 (少)         |
| 2 | 黒褐色 (2. 573/2)     | 粘質   | 暗黄褐色土粒子, 同ブロック (多), 灰白色土粒子 (多)       |
| 3 | オリーブ褐色 (2. 574/3)  | 粘質   | 暗黄褐色土粒子, 同ブロック (多)                   |
| 4 | 褐色 (2. 574/2)      | シルト質 | 暗黄褐色土粒子 (少), 焼土粒子, 同ブロック (多) (カマド覆土) |
| 5 | 緑灰色 (2. 574/2)     | 粘質   | 焼土粒子 (少) (カマド覆土)                     |
| 6 | 暗褐色 (107K3/3)      | シルト質 | 暗黄褐色土粒子 (多), 焼土粒子, 同ブロック (多) (カマド覆土) |

89号住居跡 (第190・192・272図)

S-4グリッドに位置していた。遺構の大部分を元荒川河道及び堀によって壊されていた。また、70号溝に切られていた。平面形は推定方形で、規模は長軸 5.16mであった。床面までの深さは0.2mで、均一であった。主軸はN-52°-Wであった。カマドは北西側に設置されていた。焚き口の掘り込みはやや深く、やや急な傾斜で煙道に続いていた。また、煙道部先端から円形の掘り込みが検出された。貯蔵穴はカマド左脇に検出された。平面積円形で浅い掘り込みであった。覆土には暗褐色土が堆積していた。柱穴は検出されなかった。

遺物は覆土より土師器杯 (89-1~4) 及び、土師器高杯 (89-5) のほか、刀子 (第272図6) が出土した。

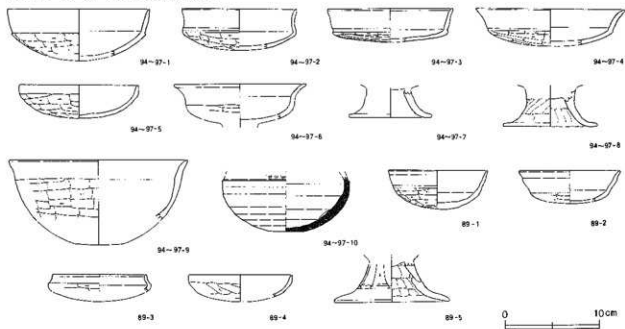


- |    |        |             |      |  |
|----|--------|-------------|------|--|
| 7  | 暗褐色    | (107K1/4)   | 粘質   | 暗黄褐色土粒子 (少), 焼土粒子 (少) (カマド覆土)                |
| 8  | 暗灰色    | (7. 57B4/2) | シルト質 | 暗黄褐色土粒子 (多), 焼土粒子, 同ブロック (多) 灰白色土粒子 (多) (煙道) |
| 9  | 灰黄褐色   | (107K4/2)   | 粘質   | 暗黄褐色土粒子 (少), 灰白色土粒子 (多) (煙道)                 |
| 10 | 黒褐色    | (2. 573/1)  | 粘質   | 暗黄褐色土粒子 (多), 焼土粒子 (多) (煙道)                   |
| 11 | 黒褐色    | (2. 573/1)  | 粘質   | 暗黄褐色土粒子 (多), 焼土粒子 (多) (煙道)                   |
| 12 | 暗灰黄色   | (2. 574/2)  | 粘質   | 灰白色土粒子, 同ブロック (多) (貯蔵穴)                      |
| 13 | オリーブ褐色 | (2. 574/3)  | 粘質   | 暗黄褐色土粒子, 同ブロック (多) (貯蔵穴)                     |
| 14 | オリーブ褐色 | (2. 574/6)  | 粘質   | 暗黄褐色土粒子 (多) (貯蔵穴)                            |
| 15 | 黒褐色    | (2. 573/2)  | 粘質   | 暗黄褐色土粒子, 同ブロック (多) (貯蔵穴)                     |

0 2m



第192図 89・94～97号住居跡出土遺物



B区94・95・97・99・114号住居跡出土遺物観察表 (1)

番号	器種	口径	器高	底径	胎上	焼成	色調	残存	備考
99-1	土師器杯	(12.0)	3.9	(10.4)	BD	3	褐色	30%	内外面黒色処理痕跡あり
99-2	土師器杯	(11.4)	(3.4)	(9.0)	BD	3	褐色	20%	
99-3	土師器杯	(10.6)	(3.5)	(9.4)	BDE	3	浅黄褐色	25%	内外面黒色処理
99-4	土師器杯	(12.0)	(3.0)	(10.1)	BED	3	褐色	5%未滿	
99-5	土師器杯	(12.0)	(2.8)	(11.5)	BEF	3	褐色	5%未滿	内外面赤彩
99-6	土師器杯	(12.1)	(2.9)	(8.2)	BDE	4	褐色	10%	
99-7	土師器杯	(15.0)	4.7	(9.4)	BDE	3	浅黄褐色	20%	
99-8	土師器杯	(14.0)	(3.5)	(10.0)	BD	3	褐色	15%	
114・115-1	土師器杯	(11.0)	(3.5)	(9.4)	BDE	3	褐色	5%未滿	
97-1	須恵器杯	(15.0)	4.0	(12.8)	BEF	4	褐色	5%未滿	
97-2	土師器杯	(12.0)	(3.2)	(10.2)	BDE	3	浅黄褐色	5%未滿	
97-3	土師器杯	(10.0)	(3.0)	(8.0)	BD	3	褐色	10%	
97-4	須恵器杯蓋	12.6	2.6	-	BF	1	灰白色	40%	湖内 外面淡緑色自然熱 カマド出土
97-5	土師器短頸壺	(10.2)	-	-	BD	3	褐色	10%	カマド出土
97-6	土師器甕	16.0	-	-	ABEF	3	にぶい黄褐色	5%未滿	
97-7	土師器甕	(15.7)	(28.5)	(5.9)	ABEF	3	褐色	30%	
96-1	土師器杯	(13.6)	(5.8)	(13.4)	BEF	3	褐色	20%	
96-2	土師器杯	12.2	4.8	11.1	BEF	3	褐色	55%	
96-3	土師器杯	(12.4)	4.6	11.4	BDE	3	褐色	50%	
96-4	土師器杯	(12.0)	(5.0)	(12.0)	BEF	4	褐色	15%	
96-5	土師器杯	(12.8)	(4.2)	(9.4)	BEF	3	褐色	20%	
96-6	土師器杯	(12.4)	(3.6)	(10.2)	BEF	3	褐色	25%	
96-7	土師器高杯	-	-	(9.1)	BD	3	浅黄褐色	30%	
95-1	土師器杯	(12.8)	(5.0)	(12.3)	BEF	3	明赤褐色	15%	
95-2	土師器杯	(12.2)	(5.2)	(11.2)	BEF	3	褐色	20%	
95-3	土師器杯	12.4	4.5	11.6	BDE	3	浅黄褐色	60%	
95-4	土師器杯	(14.0)	(4.6)	(12.2)	BEF	3	浅黄褐色	10%	
95-5	土師器杯	(11.0)	(3.6)	(8.8)	BF	3	にぶい褐色	5%未滿	
94-1	土師器杯	(13.2)	(3.9)	(12.0)	BDE	3	浅褐色	5%未滿	

B区94・95・96・97・99・114号住居跡出土遺物観察表 (2)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
94-2	土師器杯	14.6	5.6	10.9	BD	4	橙色	90%	内外面赤彩
94-3	土師器甕	14.3	-	-	BD	4	橙色	30%	内外面部分的赤彩有り
94-4	土師器甕	17.0	-	-	ABCEFG	3	にぶい橙色	30%	
94-97-1	土師器杯	(15.0)	(5.5)	(14.2)	BEF	3	橙色	20%	
94-97-2	土師器杯	12.2	4.4	12.1	BDE	3	浅黄橙色	30%	
94-97-3	土師器杯	(13.4)	(3.6)	(12.3)	BEFG	3	橙色	30%	
94-97-4	土師器杯	(16.0)	(4.0)	(13.2)	BDE	3	橙色	20%	
94-97-5	土師器杯	(12.8)	3.5	(9.6)	BD	3	橙色	50%	
94-97-6	土師器高杯	(14.0)	-	-	BDE	3	浅黄橙色	5%未滿	
94-97-7	土師器高杯(脚部)	-	-	8.9	BEF	3	浅黄橙色	15%	
94-97-8	土師器高杯(脚部)	-	-	(10.0)	BDE	3	浅黄橙色	10%	
94-97-9	土師器鉢	(19.0)	-	-	BH	3	灰白色	10%	又は 高杯坏部
94-97-10	須恵器蓋(踵)	-	-	(4.0)	AB	1	灰色	10%	陶色 外黄黒色 断面赤色
89-1	土師器杯	10.7	4.1	9.5	BDE	4	浅黄橙色	90%	
89-2	土師器杯	(10.8)	(3.5)	(8.4)	BDE	3	浅黄橙色	5%	
89-3	土師器杯	(10.0)	(2.9)	(11.0)	B	3	暗赤灰色	5%未滿	
89-4	土師器杯	(11.0)	(2.9)	(9.0)	BEF	3	橙色	5%未滿	
89-5	土師器台付甕(脚部)	-	-	(12.2)	BD	3	にぶい橙色	5%未滿	

## (2) 掘立柱建物跡

### 7号掘立柱建物跡 (第193・222・269図)

O-5グリッドに位置していた。46号溝構築以前に構築していた。柱穴4~12で構成される2×2間の総柱掘立柱建物跡を建て替えていた。主軸はN-38°-Eであった。規模は3×2間の総柱で桁行4.94m、梁行4.86mであった。柱間寸法は桁行1.5m、梁行2.0mであった。各柱穴の平面形は不整形で、規模は長径60~115cm、深さ50~96cmであった。全ての柱穴から柱痕が検出された。また柱穴6(第269図8・9)及び、柱穴12(第269図10・11)より根絡が検出された。覆土に版築状の堆積が認められた。

遺物は土師器杯が柱穴10から出土した。

### 8号掘立柱建物跡 (第194・222・269図)

P-6グリッドに位置していた。11号掘立柱建物跡に隣接していた。建物跡内に689号柱穴があった。柱穴8本のみの検出で、一部は調査区外にあった。主軸はN-45°-Wであった。規模は4×2間で桁行8.24m、梁行5.51mであった。柱間寸法は桁行1.8m、梁行2.4mであった。各柱穴の平面形は円形で、コーナー部柱穴は掘り込みが大きかった。規模は長径25~100cm、深さ5~72cmであった。全ての柱穴から柱痕が検出さ

れた。また、柱穴9より柱根(第269図12)が出土した。柱根の上部は腐朽し底面は平坦に削られていた。

遺物は、柱穴3より須恵器蓋が、柱穴10より土師器盃状杯が出土した。

### 9号掘立柱建物跡 (第195図)

R-6グリッドに位置していた。10号掘立柱建物跡に隣接していた。主軸はN-50°-Wであった。規模は2×2間で桁行3.46m、梁行3.18mであった。柱間寸法は桁行1.6m、梁行1.4mであった。各柱穴の平面形は円形で、規模は長径30~54cm、深さ22~64cmであった。全ての柱穴から柱痕が検出された。出土した遺物は、なかった。

### 10号掘立柱建物跡 (第196・222図)

Q-6グリッドに位置していた。15号掘立柱建物跡及び19号住居跡を切っていた。19号掘立柱建物跡に隣接していた。主軸はN-46°-Wであった。規模は4×2間で桁行8.1m、梁行5.22mであった。柱間寸法は桁行1.8m、梁行2.2mであった。各柱穴の平面形は長方形であった。規模は長径60~96cm、深さ12~32cmであった。全ての柱穴から柱痕が検出された。

遺物は土師器杯が柱穴4より出土した。

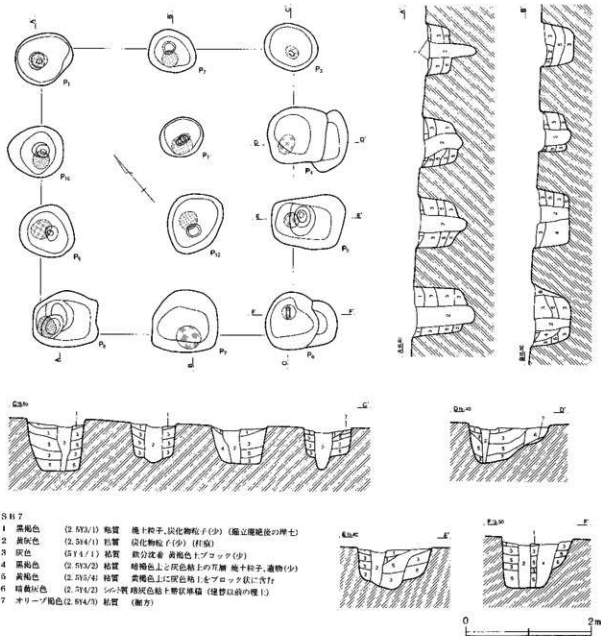
### 11号掘立柱建物跡 (第197・222図)

Q-7グリッドに位置していた。38号溝に切られていた。また、8号掘立柱建物跡に隣接していた。主軸はN-55°-Wであった。規模は4×3間で、桁行8.66m、梁行5.32mであった。柱間寸法は桁行2.0m、

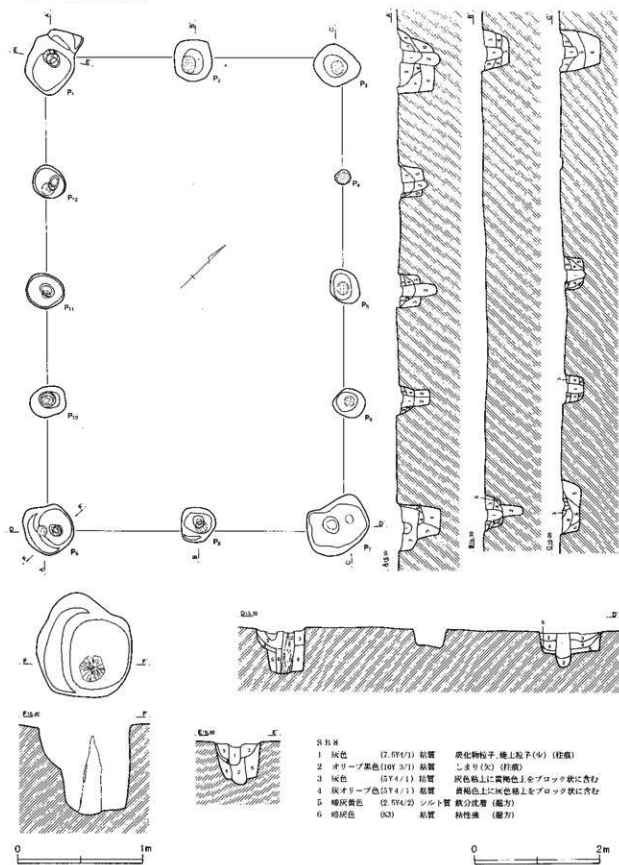
梁行1.6mであった。各柱穴の平面形は円形及び隅丸方形で、規模は長径54~80cm、深さ34~50cmであった。全ての柱穴から柱痕が検出された。また、覆土に版築状の堆積が認められた。

遺物は土師器環が柱穴11より出土した。

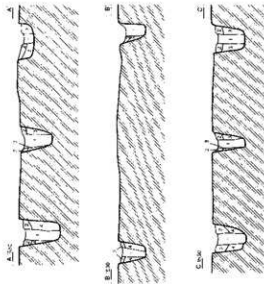
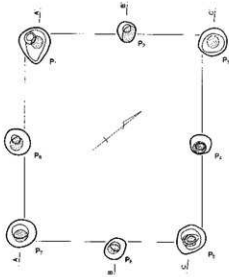
第193図 7号掘立柱建物跡



第194図 8号掘立柱建物跡



第195図 9号掘立柱建物跡



599

- 1 黒褐色 (10Y 2/3) 粘質 黄褐色土砂子(多) 灰白色(少) (柱底)
- 2 黒褐色 (10Y 2/3) 粘質 黄褐色土砂子(多)
- 3 黄褐色 (2.5Y 5/6) 粘質 黄褐色土ブロック(多) 灰白色土ブロック(多)
- 4 オリーブ褐色(2.0Y 4/4) 粘質 黄褐色土ブロック(多) 黄褐色土砂子(多)

### 12号掘立柱建物跡 (第198図)

Q-7グリッドに位置していた。38号溝及び11号掘立柱建物跡に切られていた。主軸はN-35°-Wであった。規模は3×3間で、桁行6.1m、梁行5.84mであった。柱間寸法は桁行1.75m、梁行1.7mであった。各柱穴の平面形は楕円形であった。規模は長径48~64cm、深さ12~42cmであった。柱痕は8本検出された。この内柱穴4では2本検出された。出土した遺物は、なかった。

### 13号掘立柱建物跡 (第199・222・269図)

P-7・8グリッドに位置していた。柱穴の一部は調査区外にあった。135・136号土壌に隣接していた。主軸はN-42°-Eであった。規模は推定3×2間で、桁行6.86m、梁行4.9mであった。柱間寸法は桁行1.6m、梁行2.2mで梁行棟持柱が外側へ張出していた。各柱穴の平面形は円形で、規模は長径28~64cm、深さ20~50cmであった。全ての柱穴から柱痕が検出された。また柱穴8より柱根(第269図5)が検出された。

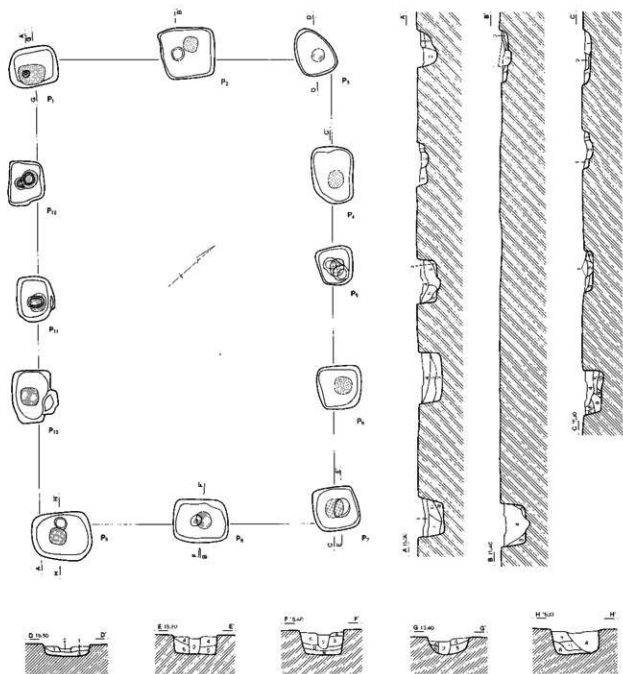
遺物は土師器環が柱穴5より出土した。

### 14号掘立柱建物跡 (第200・222・272図)

Q-7・R-7グリッドに位置していた。38号溝に切られていた。また、12号掘立柱建物跡に隣接していた。主軸はN-55°-Wであった。規模は3×2間の総柱で、桁行4.9m、梁行4.28mであった。南東側桁柱は5本検出された。柱間寸法は桁行1.4m、梁行1.9mであった。各柱穴の平面形は方形で、規模は長径52~70cm、深さ8~74cmであった。柱穴9・11以外の柱穴から柱痕が検出された。また、覆土に版築状の堆積が認められた。

遺物は土師器環が柱穴3より出土したほか、用途不明鉄製品(第272図10)が出土した。

第196図 10号掘立柱建物跡



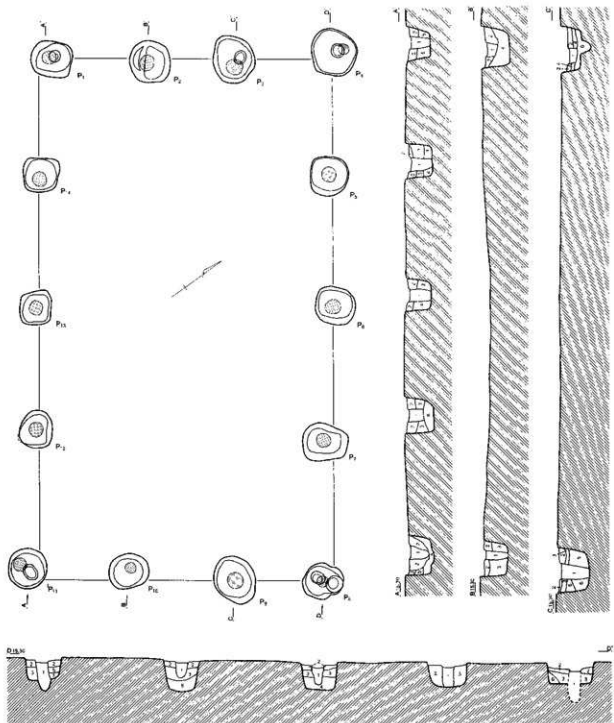
SB10

- |   |   |
|---|---|
| <p>1 黒褐色 (2.573/2) シルト質 焼土粒子(少) しまり(次)</p> <p>2 黒褐色 (2.573/1) 粘質 (柱床)</p> <p>3 暗灰黄色 (2.514/2) 粘質</p> <p>4 黒褐色 (2.573/2) シルト質 黄灰色シルトブロック、焼土粒子(少) しまり(次)</p> <p>5 黒褐色 (2.573/2) シルト質</p> <p>6 黒褐色 (2.573/2) シルト質 しまり(次)</p> <p>7 黒褐色 (2.573/2) シルト質 黄灰色シルトブロック(多)</p> | <p>8 暗灰黄色 (2.514/2) シルト質 黄灰色シルトブロック(少) しまり(次)</p> <p>9 黒褐色 (2.573/1) シルト質 焼土粒子、黄灰色シルトブロック(少)</p> <p>10 黄灰色 (2.574/1) シルト質 黄灰色シルトブロック(多) しまり(次)</p> <p>11 黒褐色 (2.573/2) シルト質 黄灰色シルトブロック(多) 焼土粒子(少)</p> |
|---|---|





第197図 11号掘立柱建物跡

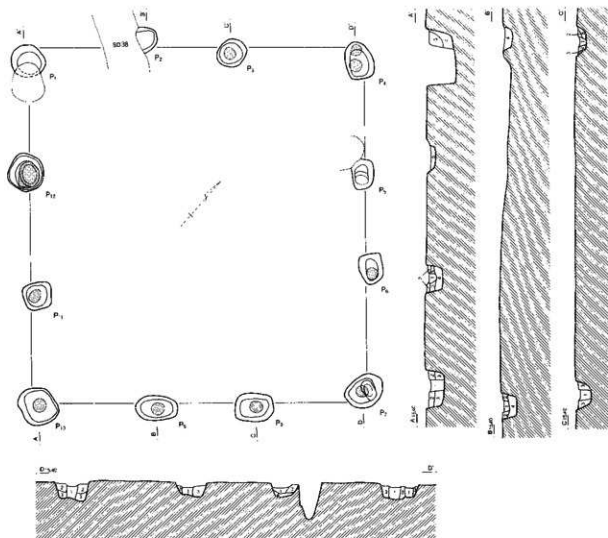


S B 1 1

- 1 黒褐色 (10YR2/2) シルト質 黄褐色土粒子(多) 炭化物粒子(多) (柱痕)
- 2 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3) 粘質 黄褐色土ブロックと黒褐色土ブロックの互層
- 3 黄褐色 (2.5Y5/6) 粘質 黄褐色土ブロック(多) 黒褐色土ブロック(少)
- 4 黒褐色 (10YR3/1) 粘質 黄褐色土ブロック(少) 炭化渣
- 5 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘質 黄褐色土粒子(多) 炭化物粒子(多)
- 6 黄褐色 (2.5Y5/6) 粘質 暗灰色土粒子、黒褐色土粒子(少)

0 2m

第198図 12号掘立柱建物跡



S B 1 Z

- 1 赤褐色 (10192/2) シルト質 黄褐色土粒子(少) 黒上粒子(少) (柱脚) しまり(欠)
- 2 赤褐色 (10192/2) 粘質 赤褐色土ブロック, 同粒子(少)
- 3 黄褐色 (10194/4) 粘質 黄褐色土に黄褐色土ブロックを含む
- 4 黄褐色 (10195/6) 粘質 黄褐色土粒子(多)
- 5 褐色 (10194/4) 粘質 黒褐色土ブロックと黄褐色土ブロックの丸層



### 15号掘立柱建物跡 (第201図)

Q-6グリッドに位置していた。10号掘立柱建物跡に切られていた。主軸はN-52°-Wであった。規模は3×2間で、桁行7.68m、梁行4.9mであった。柱間寸法は桁行1.75m、梁行2.3mであった。各柱穴の平面形は円形で、規模は長径52~62cm、深さ10~50cmであった。全ての柱穴から柱痕が検出された。出土した遺物はなかった。

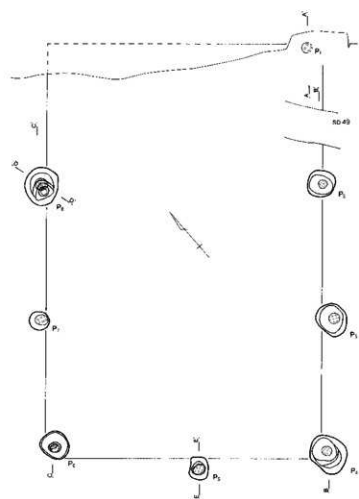
### 16号掘立柱建物跡 (第202図)

R-8グリッドに位置していた。56号溝に切られていた。また、17号掘立柱建物跡を切っていた。主軸はN-48°-Eであった。規模は3×2間で、桁行4.4m、梁行4.1mであった。56号溝側柱穴の一部は検出されなかった。柱間寸法は桁行1.35m、梁行1.9mであった。各柱穴の平面形は円形で、規模は長径30~48cm、深さ20~50cmであった。柱痕は4本検出された。出土した遺物はなかった。

### 17号掘立柱建物跡 (第202図)

R-8グリッドに位置していた。56号溝に切られていた。また、16号掘立柱建物跡に切られていた。主軸はN-46°-Eであった。規模は3×2間で、桁行、梁行共に4.1mであった。56号溝側柱穴の一部は検出されなかった。また桁行中間柱の配置が不規則であった。柱間寸法は梁行2.0mであった。各柱穴の平面形は円形で、規模は長径26~43cm、深さ22~68cmであった。柱痕は7本検出された。出土した遺物は、なかった。

第199図 13号掘立柱建物跡

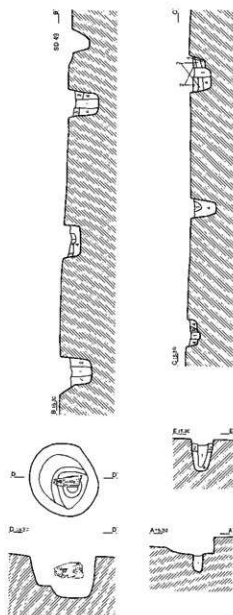


#### SB13

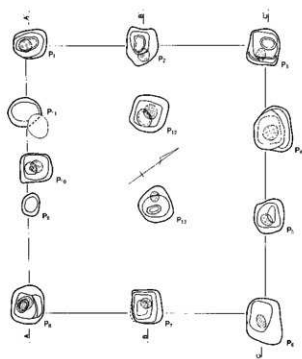
- |                         |                       |
|-------------------------|-----------------------|
| 1. 黒褐色 (2.313/20) シルト質  | 黄褐色土粒子(少) しまり(欠) (柱痕) |
| 2. 緑灰黄色 (2.314/20) 粘質   | 黄褐色土粒子(少)             |
| 3. オリーブ褐色 (2.314/60) 粘質 | 黄褐色土上層位上の草層           |
| 4. 黄褐色 (2.315/60) 粘質    | 灰褐色土ブロック(少)           |
| 5. オリーブ褐色 (2.314/30) 粘質 | 灰褐色土粒(多)              |

### 18号掘立柱建物跡 (第204図)

N・O-3グリッドに位置していた。7号住居跡を切っていた。また、28号掘立柱建物跡と重複していた。主軸はN-45°-Wであった。規模は1×1間で、桁行、梁行共に2.9mであった。各柱穴の平面形は円形で、規模は長径58~66cm、深さ54~66cmであった。柱痕は検出されなかった。堀方底面で柱根据付部が検出された。出土した遺物は、なかった。

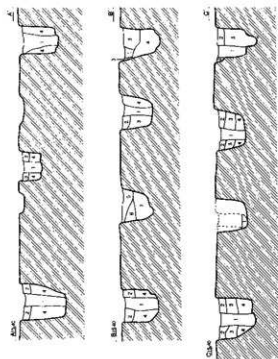


第200図 14号掘立柱建物跡



SH14

- |           |   |
|-----------|---|
| 1 黒褐色     | (2.513/1) シルト質 黄褐色土粒子(少) 炭化物粒子(少) しまり(少) (柱痕) |
| 2 黄褐色     | (2.315/6) 粘質 黄褐色土ブロックに黄褐色土を占T                 |
| 3 オリーブ褐色  | (2.514/3) 粘質 黄褐色土ブロック(少)                      |
| 4 暗オリーブ褐色 | (2.513/3) 粘質 黄褐色土(微) 粘性塊                      |
| 5 オリーブ褐色  | (2.514/6) シルト質 黄褐色土粒子(多) 焼土ブロック, 炭粒子(少)       |



- |          |                          |
|----------|--------------------------|
| 6 オリーブ褐色 | (5.73/1) 粘質 黄褐色土粒子(微)    |
| 7 黒褐色    | (2.513/2) 粘質 黄褐色土ブロック(多) |



### 19号掘立柱建物跡 (第203・222図)

P-6グリッドに位置していた。18号住居跡及び、23・44・45号掘立柱建物跡を切っていた。主軸はN-55°-Wであった。規模は4×2間で、桁行7.4m、梁行4.74mであった。柱間寸法は桁行1.75m、梁行2.0mであった。各柱穴の平面形は方形及び長方形で、規模は長径68~103cm、深さ24~52cmであった。柱穴2・3以外の柱穴から柱痕が検出された。覆上に版築状の堆積が認められた。

遺物として飾器杯が柱穴9より、須恵器壺が柱穴4より出土した。

### 20号掘立柱建物跡 (第205図)

R-8グリッドに位置していた。38号溝に切られていた。また、21号掘立柱建物跡に隣接していた。主軸はN-39°-Eであった。規模は3×2間の総柱で、桁行5.64m、梁行4.38mであった。柱間寸法は桁行1.75m、梁行2.0mであった。各柱穴の平面形は円形及び楕円形で、規模は長径20~48cm、深さ20~56cmであった。柱痕は3本検出された。出土した遺物はなかった。

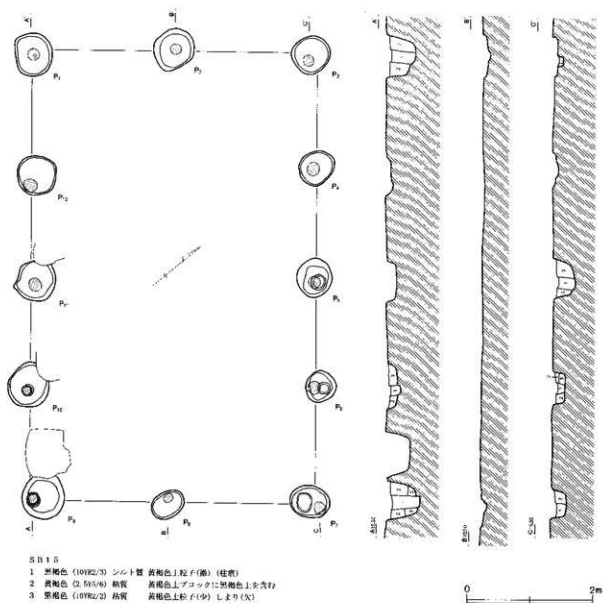
### 21号掘立柱建物跡（第206図）

Q-8グリッドに位置していた。143号土塼を切っていた。20号掘立柱建物跡に隣接していた。主軸はN-40°-Eであった。規模は2×2間で、桁行4.48m、梁行2.96mで長方形であった。柱間寸法は桁行2.0m、梁行1.3mであった。各柱穴の平面形は円形で、規模は長径24~36cm、深さ16~42cmであった。柱痕は8本検出された。出土した遺物はなかった。

### 22号掘立柱建物跡（第207図）

P-5グリッドに位置していた。19号掘立柱建物跡と重複していた。また、45号掘立柱建物跡を切っていた。主軸はN-39°-Eであった。規模は2×2間の総柱で、桁行、梁行共に4.0mであった。柱間寸法は桁行、梁行共に1.85mであった。各柱穴の平面形は円形で、規模は長径26~42cm、深さ16~68cmであった。柱痕は8本検出された。出土した遺物は、なかった。

第201図 15号掘立柱建物跡

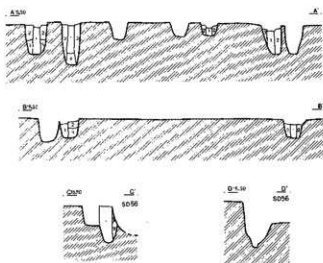
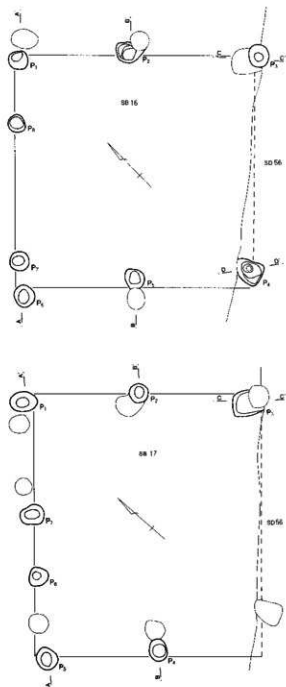


SB15

- 1 黒褐色 (10YR2/3) シルト質 黄褐色土粒子(微) (柱穴)
- 2 黄褐色 (2.5Y5/6) 粘質 黄褐色土アゾックに黒褐色土を含む
- 3 黒褐色 (10YR2/2) 粘質 黄褐色土粒子(少) しまり(穴)

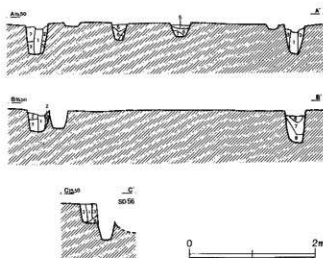
0 2m

第202図 16・17号掘立柱建物跡



SH 16・17

- |  |  |
|--|--|
| 1 黒褐色 (10YR2/2) シェルト質 炭化物・黄褐色土粒子(少) (柱底) |  |
| 2 オリーブ褐色(2.5Y4/6) 粘質 黄褐色土と黒褐色土の互層        |  |
| 3 暗褐色 (10YR3/3) 粘質 黄褐色土粒子(多) 粘付層         |  |
| 4 黄褐色 (2.5Y4/6) 粘質 黄褐色土粒子(多)             |  |
| 5 オリーブ黒色(5Y2/2) 粘質 黄褐色土粒子(少)             |  |
| 6 黒褐色 (10YR2/2) 粘質 黄褐色土粒子(中)             |  |
| 7 褐色 (10YR4/6) 粘質 黄褐色土ブロック(多)            |  |
| 8 黒褐色 (10YR3/2) 粘質 黄褐色土粒子(中) 粘付層         |  |
| 9 暗緑灰色 (0.5G3/1) 砂質 黒褐色土ブロック(少)          |  |



23号掘立柱建物跡 (第208・222図)

P-4・5グリッドに位置していた。18号住居跡を切っていた。19号掘立柱建物跡に切られていた。主軸はN-54°-Eであった。規模は2×2間の総柱で、桁行、梁行共に5.6mであった。柱間寸法は桁行、梁

行共に2.5mであった。各柱穴の平面形は楕円形で、規模は長径76~112cm、深さ38~80cmであった。柱間は4本検出された。覆土に版築状の堆積が認められた。遺物は土師器杯・甕、須恵器高台が出土した。

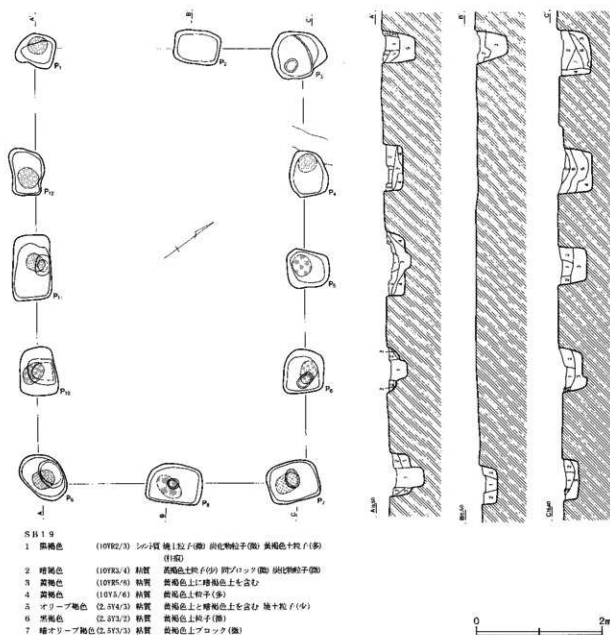
### 24号掘立柱建物跡 (第209図)

O・P-4グリッドに位置していた。46号溝に切られていた。25号掘立柱建物跡に隣接していた。主軸はN-40°-Eであった。規模は2×2間の総柱で、桁行4.6m、梁行3.66mで長方形であった。柱間寸法は桁行2.1m、梁行1.6mであった。各柱穴の平面形は円形で、規模は長径46~62cm、深さ22~50cmであった。柱痕は7本検出された。出土した遺物は、なかった。

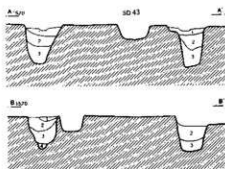
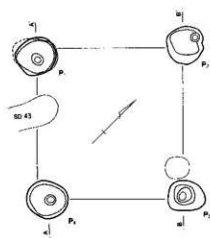
### 25号掘立柱建物跡 (第210図)

P-4グリッドに位置していた。6号横列に平行していた。24号掘立柱建物跡に隣接していた。主軸はN-49°-Eであった。規模は2×2間の総柱で、桁行、梁行共に3.2mであった。柱間寸法は桁行、梁行共に1.45mであった。各柱穴の平面形は円形及び楕円形で、規模は長径22~52cm、深さ12~64cmであった。柱痕は16本検出された。出土した遺物は、なかった。

第208図 19号掘立柱建物跡



第204図 18号掘立柱建物跡

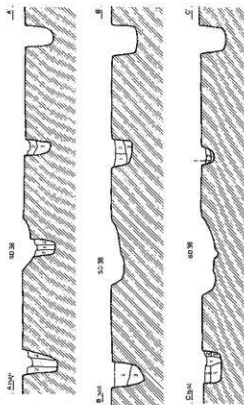
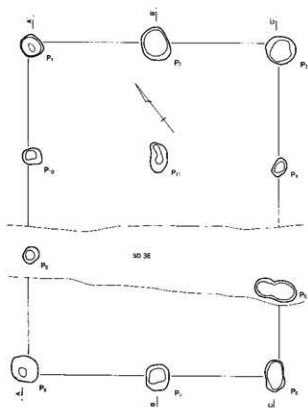


S B 1 8

- 1 赤褐色 (2.513/1) 粘質 焼土・灰化物(少)
- 2 緑黄灰色 (2.514/2) 粘質 締結土と黄褐色土の互層
- 3 黒褐色 (2.513/2) 粘質 締結土と褐色土の膠状雑塊
- 4 黒色 (2.512/1) 粘質 (柱痕)



第205図 20号掘立柱建物跡



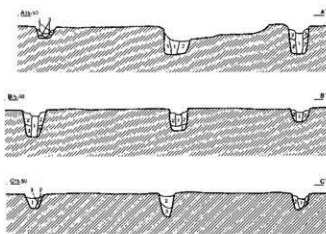
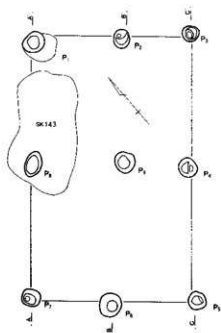
S B 2 0

- 1 赤褐色 (10982/2) シルト質 黄褐色十粒ノ(多) (柱痕)
- 2 暗褐色 (10983/4) 粘質 黄褐色十粒ノ(多)
- 3 黄褐色 (10985/8) 粘質 黄褐色十ブロック(多) 暗褐色十粒ノ(少)





第206図 21号掘立柱建物跡

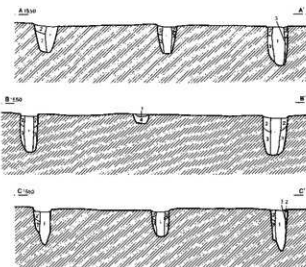
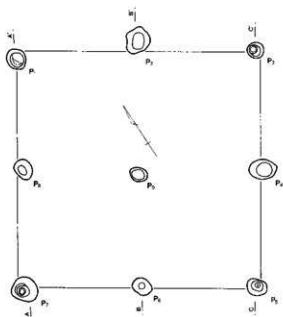


S B 2 1

- 1 黒褐色 (10YR2/2) シルト質 黄褐色土粒子(多) (柱底)
- 2 紅褐色 (10YR3/4) 粘質 黄褐色土粒子、岡ブロック(多)
- 3 黄褐色 (10YR5/6) 粘質 黄褐色土ブロック、暗褐色土を含む

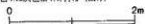


第207図 22号掘立柱建物跡



S B 2 2

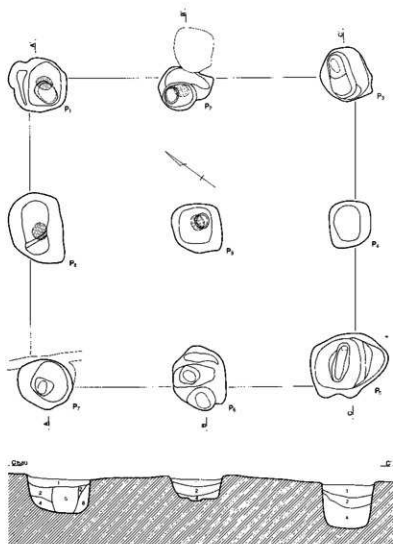
- 1 黒色 (2.5Y2/1) 粘質 炭化物粒子(少) (柱底)
- 2 黒褐色 (2.8Y3/1) 粘質 炭上粒子(微) 炭化物粒子(微)
- 3 黒褐色 (2.8Y3/2) 粘質 黄褐色土に黒褐色土をブロック状に含む
- 4 オリーブ褐色 (2.8Y4/7) 粘質 黄褐色土に灰色粘土を含む (腐芳)



### 26号掘立柱建物跡 (第211図)

O・3・4グリッドに位置していた。8・9号住居跡を切っていた。25・27・28号掘立柱建物跡に隣接していた。また5・6・7号柵列に平行していた。主軸はN-54°-Eであった。規模は3×2間で、桁行4.5m、梁行2.96mであった。柱間寸法は桁行0.9m、梁行1.3mであった。各柱穴の平面形は凹形及び凸凹形で、規模は長径24~98cm、深さ14~56cmであった。柱痕は検出されなかった。出土した遺物は、なかった。

第208図 23号掘立柱建物跡

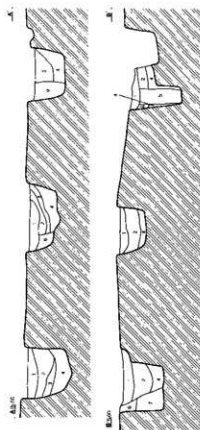


S B 2 3

- |         |                |                                   |
|---------|----------------|-----------------------------------|
| 1 黒褐色   | (2.873/1) 粘質   | 焼土粒子(少) 白色微粒子(少) 暗灰色粘土<br>ゾロツク(少) |
| 2 黒褐色   | (1.0753/1) 粘質  | 焼土粒子(少) 遺物(少) 褐色土粒子(少)            |
| 3 にじみ黄色 | (2.876/2) シルト質 | 黄灰色ナブツクの腐乱層様                      |
| 4 黒色    | (2.872/1) 粘質   | 焼土粒子(多) 黄褐色ナブツク(少)                |

### 27号掘立柱建物跡 (第212図)

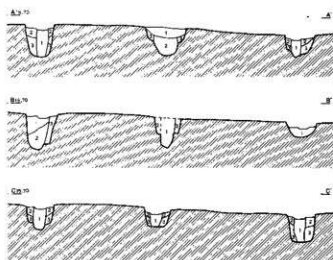
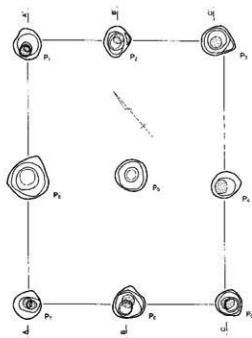
O・P-3グリッドに位置していた。11号住居跡に切られていた。26・28号掘立柱建物跡に隣接していた。また、5・6・7号柵列に平行していた。主軸はN-35°-Wであった。規模は2×2間の総柱で、桁行、梁行共に4.2mであった。柱間寸法は桁行、梁行共に1.8mであった。各柱穴の平面形は凹形及び凸凹形で、規模は長径16~86cm、深さ16~40cmであった。柱痕は検出されなかった。出土した遺物は、なかった。



- |           |              |                        |
|-----------|--------------|------------------------|
| 5 黄灰色     | (2.874/1) 粘質 | 粘性質 焼土粒子、炭化物粒子(多) (柱痕) |
| 6 オリーブ褐色  | (2.874/2) 粘質 | 灰色粘土と黄褐色土の互層 (膠力)      |
| 7 暗オリーブ褐色 | (2.873/2) 粘質 | 灰色粘土(多)                |
| 8 黒褐色     | (2.873/2) 粘質 | 焼土粒子、炭化物粒子(多) 遺物(少)    |
| 9 オリーブ黒色  | (8.73/1) 粘質  | (S J) (1) 粘質           |

0 2m

第209図 24号掘立柱建物跡

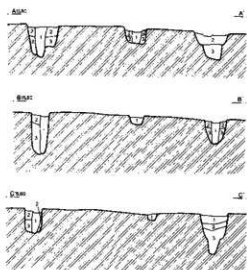
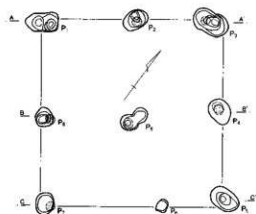


S B 2 4

- 1 黒褐色 (2.513/1) 粘質 焼土粒子(少) 炭化物粒子(少) (柱痕)
- 2 オリーブ褐色 (2.514/3) 粘質 黄褐色土小ブロック(4) 白色炭化物(少)
- 3 黒褐色 (2.513/2) 粘質 黄褐色土粒子(少) 灰色粘土(少)



第210図 25号掘立柱建物跡



S B 2 6

- 1 黒褐色 (2.513/1) 粘質 炭化物粒子(多) (柱痕)
- 2 緑オリーブ褐色 (2.512/3) 粘質 焼土粒子 炭化物粒子(少) 黄褐色土小ブロック(少)
- 3 オリーブ褐色 (2.514/3) 粘質 黄褐色土粒子(多) 灰色粘土(少)



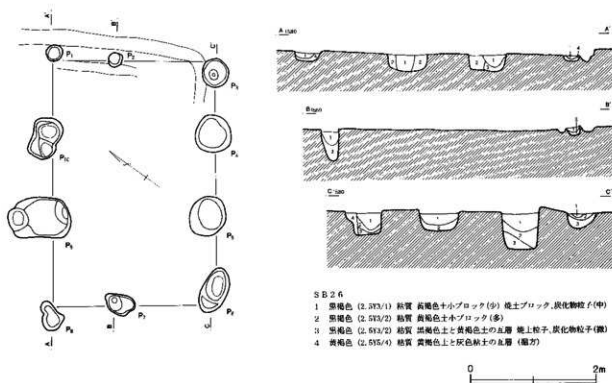
28号掘立柱建物跡 (第213・214・222図)

N・O・3グリッドに位置していた。7・8・9・12号住居跡を切っていた。43号溝に切られていた。主軸はN-41°-Wであった。規模は4×3間で、桁行8.94m、梁行6.7mであった。柱間寸法は桁行2.0m、梁行1.9mであった。各柱穴の平面形は円形及び楕円形で、規模は長径56~122cm、深さ44~86cmであった。

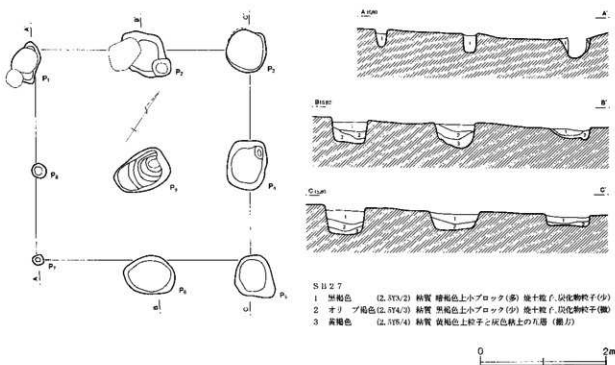
柱痕は柱穴2以外の全ての柱穴から各2本ずつ検出された。いずれも内側の柱痕が薄かった。土層断面観察及び底面柱根据付部の検出状況から、2回の建て替えがあった。また覆土には版築状の堆積が認められ、柱根据付部には灰白色の粘土が堆積していた。

遺物は、土師器杯・無頸壺・甕・甔、須恵器長頸壺が出土した。

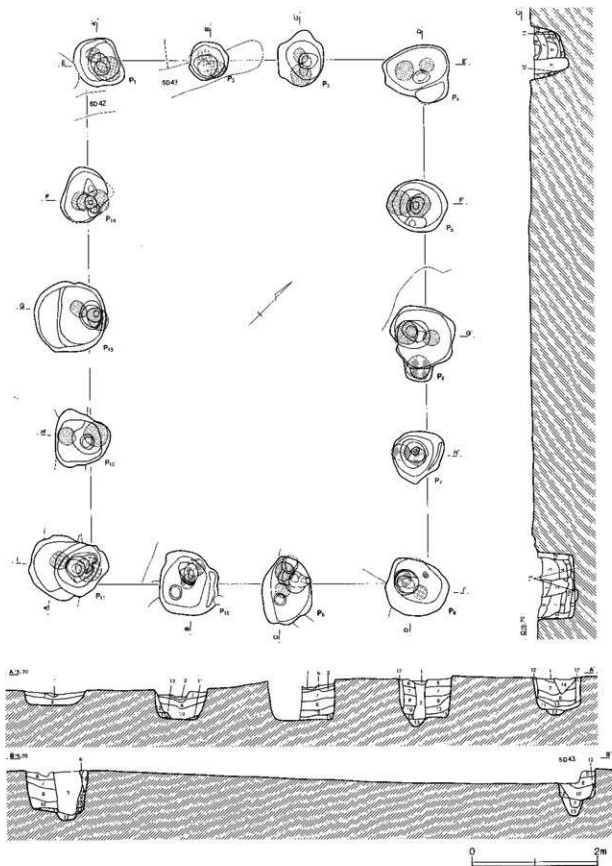
第211図 26号掘立柱建物跡



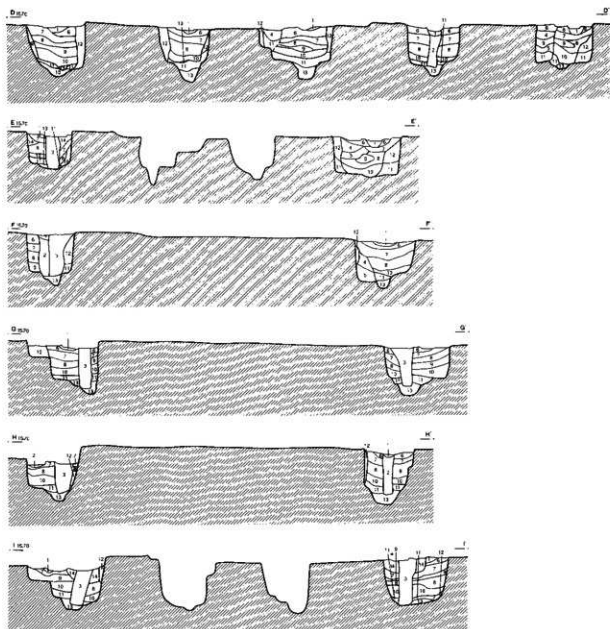
第212図 27号掘立柱建物跡



第213图 28号掘立柱建物跡 (1)



第214図 28号掘立柱建物跡 (2)



5月28日

- |  |   |
|--|---|
| 1 暗灰黄色 (L.5Y4/2) シルト質 白色塵粒子(少) 焼土粒子,炭化物粒子(多) しまり(欠)          | 8 オリーブ褐色 (L.5Y4/3) 粘質 黄褐色土に暗褐色上ブロックを含む          |
| 2 黄褐色 (L.5Y3/2) 粘質 焼土粒子,炭化物粒子(少) しまり(欠) (柱頭)                 | 9 オリーブ褐色 (L.5Y4/4) 粘質 黄褐色上ブロック層 しまり(欠)          |
| 3 黄褐色 (L.5Y3/2) 粘質 焼土粒子,炭化物粒子(多) (柱頭)                        | 10 オリーブ褐色 (5Y3/1) 粘質 粘性强                        |
| 4 暗灰黄色 (L.5Y4/2) 粘質 焼土粒子,炭化物粒子(少) 黄褐色土小ブロック(少) しまり(欠) (柱頭跡取) | 11 黄褐色 (L.5Y5/6) 粘質 黄褐色土と灰色粘土の互層 (部方)           |
| 5 オリーブ褐色 (L.5Y4/3) 粘質 焼土粒子,炭化物粒子(多) 暗褐色土と黄褐色土小ブロックの互層 (柱頭跡取) | 12 黄褐色 (L.5Y5/4) 粘質 黄褐色土に暗褐色土粒子(少) しまり(欠) (焼土?) |
| 6 暗灰黄色 (L.5Y4/2) シルト質 白色塵粒子(多) 焼土粒子,炭化物粒子(少) 塵物(少) 黄褐色土粒子(少) | 13 灰白色 (5Y7/2) 粘質 粘性强 底面に鉄分沈着 しまり(欠)            |
| 7 暗オリーブ褐色 (L.5Y2/3) 粘質 暗褐色土に黄褐色土ブロックを含む                      | 14 オリーブ褐色 (5Y3/2) 粘質 黄褐色土粒子(多) しまり(欠)           |

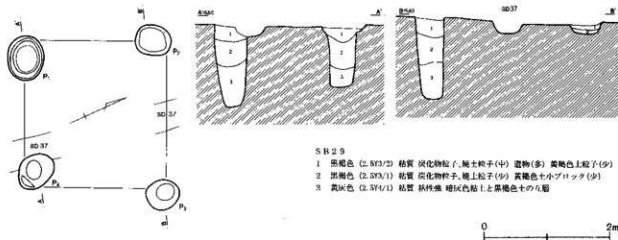
0 2m

### 29号掘立柱建物跡 (第215図)

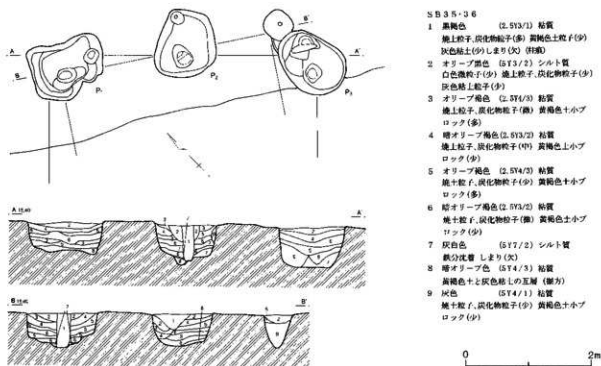
N-2グリッドに位置していた。5号住居跡を切っていた。37号溝に切られていた。主軸はN-68°-Wであった。規模は1×1間で、桁行、梁行共に2.92mであった。

であった。柱間寸法は桁行、梁行共に2.5mであった。各柱穴の平面形は円形で、規模は長径53~70cm、深さ12~130cmであった。柱痕は検出されなかった。出土した遺物は、なかった。

第215図 29号掘立柱建物跡



第216図 35・36号掘立柱建物跡



### 35号掘立柱建物跡 (第216・222図)

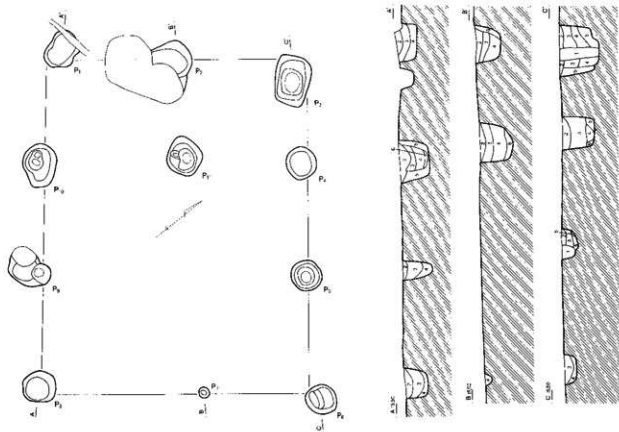
P-1・2グリッドに位置していた。36号掘立柱建物跡を切っていた。また、堀によって遺構の大部分を壊されていた。主軸は推定でN-45°-Wであった。規模は不明で、桁行5.0mであった。柱間寸法は2.0mであった。各柱穴の平面形は方形及び楕円形で、規模は長径108～118cm、深さ50～66cmであった。柱穴1・2より柱痕が検出された。覆土には版築状の堆積が認められた。

遺物は土師器杯・甕のほか、3の須恵器長頸壺底部が柱穴2の柱根据付部から出土した。

### 38号掘立柱建物跡 (第216図)

P-1・2グリッドに位置していた。35号掘立柱建物跡に切られていた。また堀によって遺構の大部分を壊されていた。主軸は推定でN-59°-Wであった。規模は不明で、桁行3.9mであった。柱間寸法は1.8m、であった。各柱穴の平面形は円形で、規模は長径50cm、深さ50cmであった。柱痕は検出されなかった。出土した遺物は、なかった。

第217図 44号掘立柱建物跡



S B 4 4

- 1 黒褐色 (2.513/1) 粘質 炭土粒 (少) 炭化物粒子 (濃) (柱溝)
- 2 暗褐色 (2.514/2) 粘質 炭土粒 (少) 炭化物粒 (中) 暗褐色土粒 (少)
- 3 黒褐色 (2.513/2) 粘質 炭土粒 (少) 炭化物粒 (少) 黄褐色土小ブロック (少)
- 4 黒褐色 (2.513/2) 粘質 炭土粒 (少) 炭化物粒 (少) 黄褐色土粒 (多)
- 5 ナゾブ褐色 (2.514/4) 粘質 灰色粘土と黄褐色土の互層 (層方)
- 6 灰白色 (3.17/1) 粘質 黄褐色土粒 (少)

0 2m



#### 44号掘立柱建物跡 (第217図)

P-5グリッドに位置していた。18号住居跡を切っていた。19号掘立柱建物跡に切られていた。主軸はN-54°-Wであった。規模は2×2間から3×2間へ拡張していた。桁行5.7m、梁行5.0mであった。柱間寸法は桁行1.7m、梁行1.9mであった。各柱穴の平面形は円形及び楕円形で、規模は長径16~80cm、深さ10~63cmであった。柱穴3のみ柱痕が検出された。出土した遺物は、なかった。

#### 45号掘立柱建物跡 (第219図)

P-5グリッドに位置していた。18号住居跡を切っていた。19・22・44号掘立柱建物跡に切られていた。主軸はN-45°-Wであった。規模は3×2間で桁行5.54m、梁行4.0mであった。柱間寸法は桁行1.7m、梁行1.8mであった。各柱穴の平面形は円形及び楕円形で、規模は長径36~78cm、深さ14~60cmであった。柱穴5・6から柱痕が検出された。出土した遺物はなかった。

#### 46号掘立柱建物跡 (第218図)

Q-5グリッドに位置していた。42号住居跡及び47号掘立柱建物跡に隣接していた。主軸はN-43°-Wであった。規模は2×2間で桁行3.54m、梁行3.34mであった。柱間寸法は桁行、梁行共に1.6mであった。各柱穴の平面形は円形で、規模は長径24~42cm、深さ8~64cmであった。柱痕は検出されなかった。出土した遺物はなかった。

#### 47号掘立柱建物跡 (第220・222図)

Q-4グリッドに位置していた。27・31・40・41・43・44号住居跡を切っていた。48号掘立柱建物跡に隣接していた。主軸はN-50°-Wであった。規模は3×2間から4×2間へ拡張していた。桁行8.7m、梁行4.82mであった。柱間寸法は桁行2.05m、梁行1.45mであった。各柱穴の平面形は円形及び楕円形で、規模は長径38~82cm、深さ12~62cmであった。柱穴6・7から柱痕が検出された。

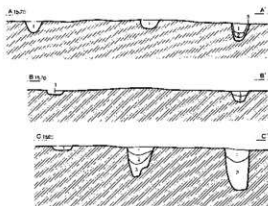
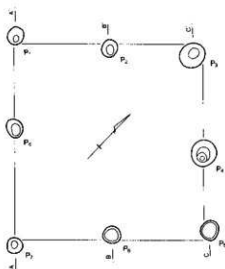
遺物は土師器坏が出土した。

#### 48号掘立柱建物跡 (第221・222図)

Q-3・R-4グリッドに位置していた。25・38・43・44・68・83号住居跡を切っていた。47号掘立柱建物跡に隣接していた。また、柱穴の一部を堀によって壊されていた。主軸はN-45°-Wであった。規模は4×3間から5×3間へ拡張していた。桁行11.74m、梁行6.26mであった。柱間寸法は桁行2.2m、梁行1.95mであった。各柱穴の平面形は楕円形及び長方形でコーナー部はL字形であった。規模は長径50~150cm、深さ26~54cmであった。柱痕は4本が検出された。

遺物は土師器坏、須恵器選が出土した。

第218図 46号掘立柱建物跡

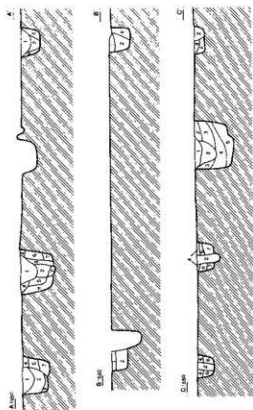
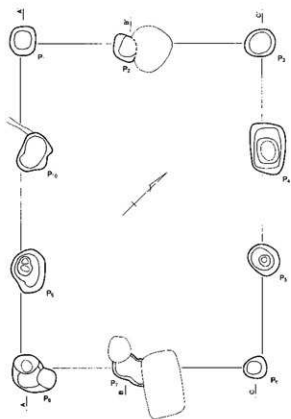


S B 4 6

- 1 黒褐色 (2.513/1) 粘質 焼土粒子(少) 黄褐色土粒子(少)
- 2 黒褐色 (2.513/2) 粘質 暗灰色粘土(多)
- 3 オリーブ褐色(2.514/4) 粘質 灰色粘土と黄褐色土の互層



第219図 45号掘立柱建物跡



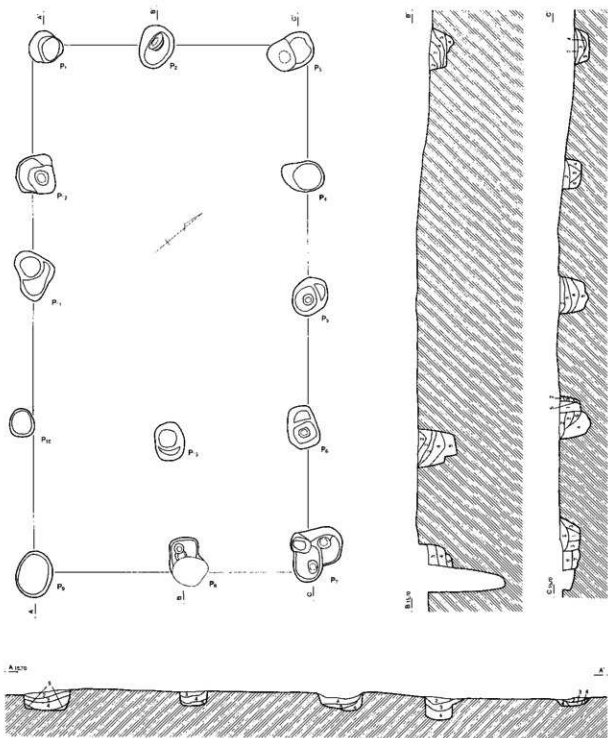
S B 4 5

- 1 黄灰色 (2.514/1) 3mm管 炭化物粒子、焼土粒子(少) 黄褐色土粒子(少) 土まじり(X)
- 2 黒褐色 (2.513/1) 粘質 炭化物粒子(多) (柱底)
- 3 灰オリーブ色(516/2) 粘質 灰白色粘土(多)
- 4 暗灰色 (2.514/2) 粘質 白色炭粒子(少) 焼土粒子、炭化物粒子(4)

- 5 灰色 (514/1) 粘質 暗灰色粘土と黄褐色土の互層
- 6 暗灰色 (2.515/2) 粘質 黄褐色土ブロック(多) 焼土粒子、炭化物粒子(少)
- 7 黒褐色 (2.513/1) 粘質 黄褐色土ブロック(少) 炭化物粒子(微)
- 8 黄褐色 (2.515/4) 粘質 灰色粘土と黄褐色土の互層 (柱方)



第220図 47号掘立柱建物跡

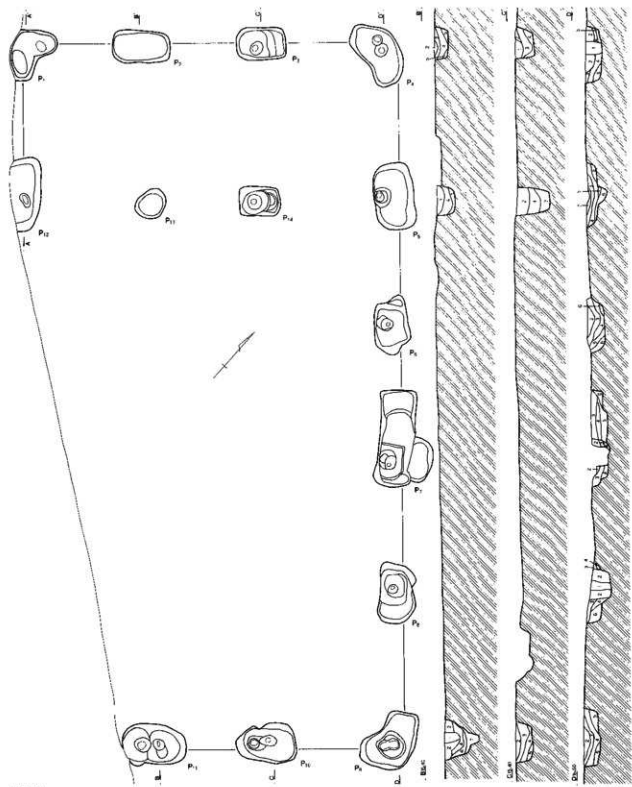


5月4日

- |           |   |
|-----------|---|
| 1 暗灰色     | (2.514/2) 粘質 炭化物粒子(多) 炭褐色土粒子(9) しより(O) (柱頭)             |
| 2 黒褐色     | (2.513/2) 粘質 粘土粒子、炭化物粒子(中)                              |
| 3 暗オリーブ褐色 | (2.512/2) 粘質 粘土粒子、炭化物粒子(9) 炭褐色土小ブロック(9)                 |
| 4 黒褐色     | (2.512/2) 粘質 暗灰色粘土(多) 炭褐色土粒子(少)                         |
| 5 炭褐色     | (2.515/2) 粘質 灰色粘土と炭褐色土の混層(難力)                           |
| 6 黒褐色     | (2.513/2) 粘質 粘土粒子、炭化物粒子(少) 遺物(少) 白色炭化物粒子(少) (SK 216 覆土) |
| 7 黒褐色     | (2.512/2) 粘質 粘土粒子、炭化物粒子(難) 暗灰色粘土(少) (SK 216 覆土)         |

0 2m

第221図 48号掘立柱建物跡



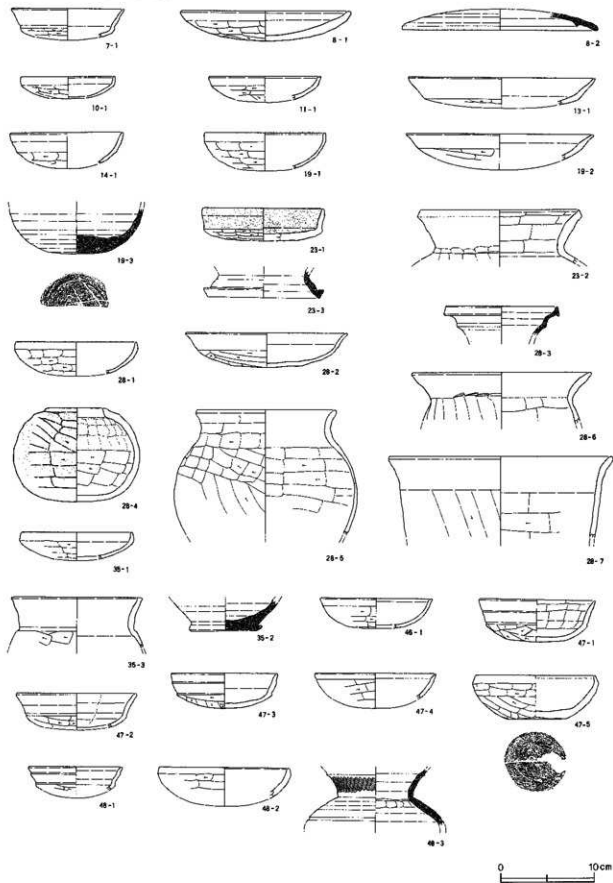
51148

- 1 オリーブ褐色 (5Y3/1) シルト質 炭化物粒子(少) 白色顔料(少) しまり(X)
- 2 オリーブ紫色 (5Y3/1) シルト質 炭化物粒子(多) 白色顔料(少) 遺物含む しまり(X)
- 3 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘質 焼土粒子、炭化物粒子(中) 黄褐色土粒子(少)
- 4 黒褐色 (2.5Y3/2) 粘質 黒褐色土に黄褐色土をブロック状に含む
- 5 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 粘質 黄褐色土に黒褐色土をブロック状に含む
- 6 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘質 黄褐色土と灰色粘土の互層
- 7 灰色 (5Y6/1) 粘質 灰色粘土 炭分沈着



0 2m

第222図 掘立柱建物跡出土遺物



B区掘立柱建物跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
7-1	土師器杯	(12.0)	(3.3)	(10.0)	BEF	3	棕色	5%	ビッド出土
8-1	土師器袋状杯	(18.7)	3.1	(12.0)	BEF	3	にぶい棕色	30%	ビッド出土
8-2	須恵器蓋	(21.0)	-	-	BCF	2	灰白色	5%未満	外面刷毛ヘラケズリ ビッド出土
10-1	土師器杯	(10.0)	(2.3)	(9.9)	BDG	3	棕色	10%	ビッド出土
11-1	土師器杯	(12.0)	(2.8)	(7.8)	BFF	2	にぶい棕色	5%	ビッド出土
13-1	土師器杯	(20.0)	(3.2)	(16.4)	BDE	3	棕色	5%未満	ビッド出土
14-1	土師器杯	(12.0)	(3.8)	(10.6)	ABDE	3	にぶい棕色	5%	ビッド出土
19-1	土師器杯	(13.0)	(4.0)	(8.0)	ABD	3	棕色	10%	ビッド出土
19-2	土師器杯	20.0	3.8	17.4	BD	3	棕色	5%未満	
19-3	須恵器壺	-	-	6.0	Bf	1	灰白色	5%未満	湖西 底面ヘラケズリ×印 ビッド出土
23-1	土師器杯	(12.8)	(3.4)	(12.4)	BCDE	3	にぶい黄棕色	20%	ビッド出土
23-2	土師器甕	(17.0)	-	-	ACDH	3	にぶい棕色	5%未満	ビッド出土
23-3	須恵高台	-	-	12.0	Bf	1	灰白色	5%未満	ビッド出土
28-1	土師器杯	(13.0)	(3.6)	(8.2)	BCD	3	棕色	5%未満	ビッド出土
28-2	土師器杯	(17.2)	3.6	(14.6)	BCD	3	棕色	25%	ビッド出土
28-3	須恵器長頸壺	(12.0)	-	-	Bf	1	灰白色	5%未満	湖西 内面自然釉
28-4	土師器無須壺	(12.0)	(10.0)	6.6	ABCE	4	にぶい黄棕色	40%	外面赤彩 ビッド出土
28-5	土師器甕	15.0	-	-	ABEF	3	棕色	15%	ビッド出土
28-6	土師器甕	(19.0)	-	-	ACEF	3	棕色	5%未満	ビッド出土
28-7	土師器甕	(24.0)	-	-	ABCF	3	にぶい棕色	5%未満	ビッド出土
35-1	土師器杯	(12.0)	(3.0)	(10.0)	BCD	3	棕色	5%	ビッド出土
35-2	須恵器長頸壺	-	-	7.8	Bf	1	灰白色	5%未満	湖西 底面自然釉付着 ビッド出土
35-3	土師器甕	(14.0)	-	-	ACDE	3	にぶい棕色	5%未満	ビッド出土
46-1	土師器杯	(12.0)	(3.2)	(6.4)	BCDE	3	棕色	5%未満	ビッド出土
47-1	土師器杯	(12.3)	4.5	(10.8)	ABDE	3	暗赤褐色	30%	内外面黒色処理 ビッド出土
47-2	土師器杯	(13.0)	(3.9)	(10.8)	BD	3	にぶい棕色	10%	内外面黒色処理 ビッド出土
47-3	土師器杯	(11.4)	(3.7)	(10.2)	BDE	3	にぶい棕色	50%	ビッド出土
47-4	土師器杯	(13.0)	(3.7)	(9.0)	BD	3	にぶい棕色	5%未満	ビッド出土
47-5	土師器杯	(12.8)	4.6	6.0	BD	3	棕色	40%	底面ヘラ削 ビッド出土
48-1	土師器杯	(10.0)	(3.3)	-	BD	3	にぶい棕色	5%未満	内外面黒色処理 ビッド出土
48-2	土師器杯	(14.0)	(4.1)	(10.0)	BD	3	棕色	5%未満	ビッド出土
48-3	須恵器瑤	-	-	-	BCF	1	暗灰色	15%	ビッド出土 東海西部

### (3) 土壌・ビッド

土壌及びビッドについての事実記載は、主に遺物出土状況の説明を要するもの及び、遺構の性格上重要と考えられるもののみを記載することとする。また、各土壌、ビッドの位置及び諸計測値、主軸方位、時期など判明しているものについては、一覧表として掲載した。尚、時期の項目にある縄文の表示は、遺構覆土が縄文時代の遺物を伴う暗褐色の硬く締まった土壌であることから判断した。従って確実な時期を示すものではないことを記しておく。

#### 87号土壌 (第223図)

N-2グリッドに位置していた。4号住居跡を切っ

ていた。平面形は方形で、規模は長軸1.17m、短軸1.12m、深さ0.12mであった。主軸はN-54°-Wであった。覆土には焼土、炭化物が堆積していた。

遺物は土師器甕が出土したが、脆弱なため図示できなかった。

#### 88号土壌 (第223・225図)

N-2グリッドに位置していた。平面形は不整形で、規模は長軸1.9m、短軸1.51m、深さ0.41mであった。主軸はN-22°-Wであった。覆土上層には焼土、炭化物が堆積していた。

遺物は土師器杯が出土した。

#### 88号土壌 (第223・225図)

N-2グリッドに位置していた。平面形は不整形で、規模は長軸1.9m、短軸1.59m、深さ0.07mであった。主軸はN-89°-Eであった。覆土は、暗褐色土が堆積していた。

遺物は、土師器環が出土した。

#### 96号土壌 (第223・225図)

N-4グリッドに位置していた。40号溝に切られていた。平面形は不整形で、規模は長軸2.07m、短軸1.37m、深さ0.40mであった。主軸はN-80°-Wであった。覆土は、暗褐色土が堆積していた。

遺物は、土師器環・甕が出土した。

#### 98号土壌 (第224・225図)

O-2グリッドに位置していた。6号住居跡に隣接していた。平面形は円形で、規模は長軸1.82m、短軸1.7m、深さ0.5mであった。主軸はN-39°-Eであった。覆土上層には焼土及び炭化物の帯状堆積が認められた。

遺物は土師器環、須恵器甕が出土した。

#### 103号土壌 (第224・225図)

O-2グリッドに位置していた。5・6号住居跡に切られていた。平面形は方形で、規模は長軸1.7m、短軸1.31m、深さ0.3mであった。主軸はN-36°-Wであった。覆土は黄褐色土と褐色土の互層であった。

遺物は土師器環が出土した。

#### 104号土壌 (第224・270図)

O-1グリッドに位置していた。21号住居跡を切っていた。平面形は円形で、規模は長軸0.8m、短軸0.76m、深さ0.47mであった。主軸はN-0°であった。覆土には灰白色シルトブロックが堆積していた。

遺物は板碑1が直立の状態、2は倒れた状態で出土した。1の銘文は「弘安六年六月四日」、2は「□元年四月□日」が残っていた。

#### 109号土壌 (第225図)

P-2グリッドに位置していた。179号土壌に隣接していた。底面のみの検出で平面形及び規模は不明であった。覆土には、多量の焼土がブロック状に堆積し

ていた。

遺物は土師器環・甕が覆土より出土した。

#### 110号土壌 (第224・225・267図)

P-4グリッドに位置していた。25号掘立柱建物跡を切って構築していた。平面形は楕円形で、規模は長軸1.26m、短軸0.92m、深さ0.28mであった。主軸はN-31°-Wであった。覆土には焼土及び炭化物が堆積していた。

遺物は土師器環・盤状灰及び底石 (第267図18) が出土した。

#### 112号土壌 (第224・225図)

Q-5グリッドに位置していた。19号住居跡を切っていた。平面形は長楕円形で、規模は長軸5.03m、短軸1.0m、深さ0.7mであった。主軸はN-51°-Wであった。覆土は多量の焼土及び炭化物が帯状に堆積していた。

遺物は土師器環・甕・瓶、須恵器甕が出土した。

#### 117号土壌 (第225・226図)

P-5グリッドに位置していた。38号溝に切られていた。平面形は不整形で、規模は長軸0.94m、短軸0.72m、深さ0.32mであった。主軸はN-36°-Eであった。覆土は黄褐色土と灰色土の互層であった。

遺物は土師器環が出土した。

#### 119号土壌 (第225・226図)

P-6グリッドに位置していた。8号掘立柱建物跡に隣接していた。平面形は楕円形で、規模は長軸2.64m、短軸1.14m、深さ0.32mであった。主軸はN-36°-Eであった。覆土上層には多量の炭化物が堆積していた。

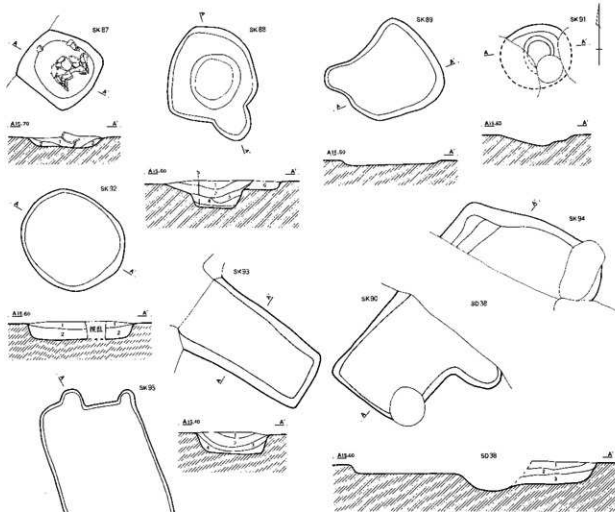
遺物は土師器環・甕が覆土中層から出土した。

#### 122号土壌 (第226・230図)

R-7グリッドに位置していた。平面形は円形で、規模は長軸1.06m、深さ0.26mであった。主軸はN-0°であった。覆土は灰色粘土と暗灰色土の互層であった。

遺物は土師器環・暗紋付杯・甕が出土した。

第223図 土坑・ピット (1)



- SK 87  
 1 黒褐色 (10YR3/1) 粘質 黄土粒子、炭化物粒子(濃)  
 2 黄褐色 (2.5Y5/6) 粘質 炭化物粒子(濃)

- SK 88  
 1 オリーブ黒色 (5Y3/2) 粘質 白色細砂粒(濃) 施土粒子(少)  
 2 オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘質 施土粒子(少) 炭化物粒子(少)  
 3 灰色 (5Y4/1) 粘質 黄褐色土と灰色粘土の互層  
 4 灰色 (5Y4/1) 粘質 黄褐色土をブロック状を含む  
 5 オリーブ色 (5Y5/4) 粘質  
 6 暗灰褐色 (2.5Y4/2) 粘質 暗褐色土粒子(少) (P11 濃土)

- SK 92  
 1 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘質 白色微粒子(少)  
 2 暗黄褐色 (2.5Y4/2) 粘質 暗褐色土層状堆積

- SK 93  
 1 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘質 黄土粒子、炭化物粒子(少) 黄褐色土ブロック(少)  
 2 黒色 (2.5Y2/1) 粘質 施土粒子、炭化物粒子(少) 暗灰色粘土層状堆積  
 3 黒色 (2.5Y2/1) 粘質 黄褐色土と暗灰色粘土の互層  
 4 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘質 黄褐色土粒子(多)

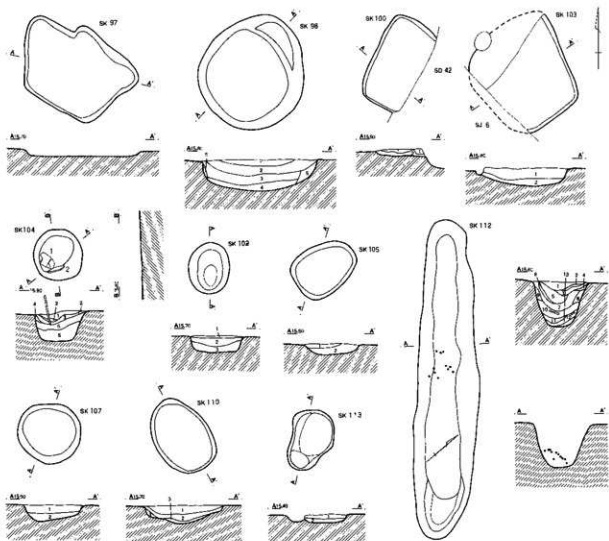
- SK 94  
 1 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘質 白色微粒子(少) 施土粒子、炭化物粒子(少)  
 2 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘質 鉄分比率、施土粒子(濃)  
 3 黄褐色 (2.5Y3/1) 粘質 黄褐色土と暗灰色粘土の互層 炭化物粒子(少)

- SK 95  
 1 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘質  
 2 暗灰色 (2.5Y4/2) 粘質 黄褐色土粒子(少)  
 3 黄褐色 (2.5Y3/1) 粘質 暗褐色土層状堆積  
 4 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘質 黄褐色土ブロック状堆積  
 5 黄褐色 (2.5Y3/1) 粘質 白色微粒子(少)

0 2m



第224図 土壌・ピット (2)



SK 9 8

- 1 暗灰褐色 (2. 514/1) シルト質 白色微粒子(少) 焼土粒子,炭化物粒子(中) 遺物(少)
- 2 黒褐色 (2. 513/1) 粘質 暗褐色土粒子(少) 焼土粒子,炭化物粒子(中)遺物(多)
- 3 黒色 (2. 512/1) 粘質 黄褐色土粒子(少) 焼土粒子,炭化物粒子(少)
- 4 黒褐色 (2. 513/2) 粘質 黄褐色土粒子(中) 焼土粒子,炭化物粒子(中)
- 5 オリーブ褐色(2. 514/3) 粘質 黄褐色土と灰色粘土の互層 (層力)

SK 1 0 0

- 1 暗灰褐色 (10184/2) 粘質 焼土粒子,黄褐色土粒子(少)
- 2 黄褐色 (2. 513/6) 粘質 焼土粒子,黄褐色土粒子(少)

SK 1 0 2

- 1 暗黄灰色 (2. 514/1) 粘質 焼土粒子,炭化物粒子(中)
- 2 暗灰褐色 (2. 514/2) 粘質 褐色土と黄褐色土の互層
- 3 黄褐色 (2. 513/2) 粘質

SK 1 0 3

- 1 黄褐色 (2. 513/1) 粘質 炭化物粒子,焼土粒子(少)
- 2 オリーブ褐色(2. 514/3) 粘質 黄褐色土と灰色粘土の互層

SK 1 0 4

- 1 に近い黄色(2. 516/3) 粘質 炭化物粒子,焼土粒子(少)
- 2 に近い褐色(2. 516/2) 粘質 炭化物粒子(少)
- 3 黄灰色 (2. 517/4) 粘質 灰白色シルトブロック,シルト粒子(少)
- 4 黄褐色 (2. 517/4) シルト質 灰白色シルトブロック,シルト粒子(多)
- 5 黄灰色 (2. 517/4) 粘質 灰白色シルトブロック,焼土ブロック(少)
- 6 黄褐色 (2. 516/2) 粘質 灰白色シルトブロック(少)

SK 1 0 5

- 1 黄褐色 (2. 513/1) シルト質 炭化物粒子,焼土粒子(少)
- 2 黄褐色 (10185/1) シルト質 焼土粒子,凹ブロック(少)

SK 1 0 7

- 1 暗灰褐色 (2. 514/2) 粘質 焼土粒子(多) 炭化物粒子(少)
- 2 オリーブ褐色(2. 514/3) 粘質 黄褐色土粒子(多)

SK 1 1 0

- 1 黄褐色 (2. 513/1) シルト質 焼土粒子(多) 炭化物粒子(多)
- 2 黒色 (2. 512/1) 粘質 炭化物粒子(多)
- 3 オリーブ褐色(2. 514/3) 粘質

SK 1 1 2

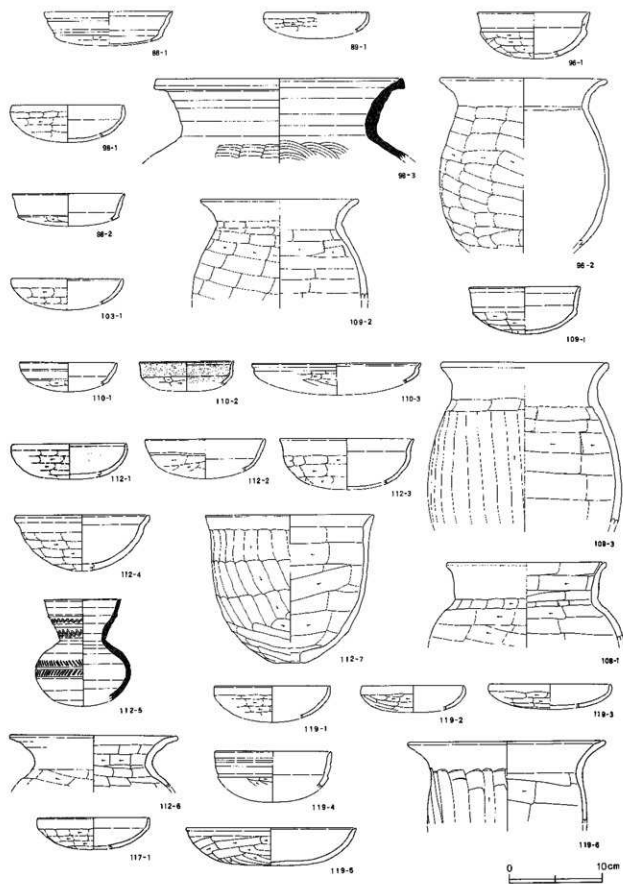
- 1 黄褐色 (10182/1) 粘質 炭化物粒子,焼土粒子(少)
- 2 黄褐色 (10183/1) 粘質 黄色粘土(多)
- 3 黄褐色 (10183/3) 粘質 黄色粘土(少)
- 4 黄褐色 (10183/1) 粘質 炭化物粒子(中) 黄褐色土粒子(少)
- 5 黄褐色 (10183/2) 粘質 焼土粒子(少) 炭化物粒子(中) 遺物(少)
- 6 黄褐色 (10185/6) 粘質 赤褐色土(少) 焼土粒子,炭化物粒子(中)
- 7 黄褐色 (7. 3103/1) 粘質 炭化物粒子(多) 焼土粒子(中) 遺物(多) (しまり(欠))
- 8 黄褐色 (7. 3103/1) 粘質 粘性状 炭化物粒子(中)
- 9 黄褐色 (10183/1) 粘質 粘性状 炭褐色粘土(少)
- 10 黄褐色 (10183/2) 粘質 粘性状 焼土粒子(中) 遺物(多)
- 11 灰色 (10182/1) シルト質 (しまり(欠))
- 12 黄褐色 (10182/2) 粘質 黄褐色土粒子(少) 焼土粒子(少) 遺物(少)
- 13 黄褐色 (10182/2) 粘質 焼土粒子(少)

SK 1 1 3

- 1 黒色 (2. 512/1) シルト質 灰層中に焼土ブロック,黄褐色土ブロックを含む
- 2 暗灰褐色 (2. 513/2) 粘質 暗灰色粘土と黄褐色土ブロックを含む



第225図 土埴・ビット出土遺物(1)



B区土壇出土遺物観察表(1)

番号	器種	口径	器高	底径	胎上	焼成	色調	残存	備考
88-1	土師器環	(13.6)	(3.5)	(11.4)	BC	4	明赤褐色	5%	
89-1	土師器環	(11.0)	2.8	10.0	BD	3	褐色	5%未満	
96-1	土師器環	(12.0)	(5.0)	(5.4)	BDE	3	褐色	25%	
96-2	土師器甕	(18.0)			AEH	4	褐色	20%	
98-1	土師器環	(12.0)	(3.9)	(9.0)	ABD	3	褐色	10%	
98-2	土師器環	(12.0)	(3.5)	(11.0)	ABEF	3	褐色	5%	
98-3	須恵器甕	(26.4)	-	-	BFL	2	灰色	5%未満	南比企
103-1	土師器環	(12.0)	(3.3)	(8.4)	BDFE	3	褐色	5%未満	
108-1	土師器甕	(17.0)	-	-	BEFG	3	にぶい黄褐色	10%	
109-1	土師器環	12.0	5.0	11.2	BEF	4	褐色	70%	
109-2	土師器甕	(16.7)			ABEFH	3	にぶい褐色	10%	
109-3	土師器甕	(18.0)			BEF	3	褐色	20%	
110-1	土師器環	(10.4)	(3.1)	(8.8)	ABD	3	褐色	5%	
110-2	土師器環	(10.0)	(3.1)	(9.8)	BD	3	褐色	5%未満	内外面赤彩
110-3	土師器盤状杯	(18.0)	(3.3)	(17.4)	BDFE	3	浅黄褐色	5%未満	内外面黒色施埋
112-1	土師器環	(12.2)	(3.8)	(8.2)	BF	3	褐色	10%	内外面赤彩
112-2	土師器環	(13.0)	(4.2)	(10.3)	BEF	3	褐色	10%	
112-3	土師器環	(14.2)	(5.4)	(8.0)	BDE	3	褐色	20%	
112-4	土師器環鉢	(14.4)	(5.9)	(6.4)	BDE	3	褐色	30%	
112-5	須恵器甕	8.2	(11.3)	(6.0)	BF	2	灰色	20%	東海西部
112-6	土師器甕	(18.0)			ABEF	3	褐色	5%未満	
112-7	土師器甕	(18.0)	15.6	(3.6)	BDE	3	にぶい褐色	20%	
117-1	土師器環	(12.0)	(3.4)	(11.6)	ABD	3	褐色	20%	
119-1	土師器環	(12.4)	(3.8)	(10.3)	AHD	3	褐色	5%	
119-2	土師器環	(11.0)	(2.9)	(6.6)	ABD	3	にぶい褐色	5%	
119-3	土師器環	(13.0)	(2.7)	(10.0)	BDE	3	褐色	10%	
119-4	土師器環	(12.4)	(5.4)	(11.8)	BD	3	褐色	5%未満	
119-5	土師器盤状杯	18.2	4.0	8.2	BEF	3	褐色	50%	
119-6	土師器長胴甕	(21.0)	-	-	BDE	3	褐色	5%未満	

## 125号土壇(第226・230図)

R-7グリッドに位置していた。平面形は楕円形で、規模は長軸0.92m、短軸0.7m、深さ0.08mであった。主軸はN-02°-Eであった。覆土は暗褐色の硬く締まった土壌であった。

遺物は器厚の厚い壺形土器が潰れた状態で出土した。

## 126号土壇(第227・230図)

R-5グリッドに位置していた。23号住居跡を切っていた。また127号土壇に隣接していた。平面形は楕円形で、規模は長軸1.84m、短軸1.34m、深さ0.24mであった。主軸はN-44°-Wであった。覆土には多量の焼土及び、炭化物が帯状に堆積していた。

遺物は土師器環・盤状杯・小型短頸壺が覆土層から出土した。

## 127号土壇(第227・230・231・267図)

R-5グリッドに位置していた。23号住居跡を切っていた。また、126号土壇に隣接していた。平面形は楕円形で、規模は長軸3.18m、短軸2.02m、深さ0.62mであった。主軸はN-80°-Wであった。覆土には多量の焼土及び、炭化物が帯状に堆積していた。

遺物は土師器環・盤状杯・鉢・壺・甕・台付甕及び、須恵器蓋・長頸壺、磁石(第267図17)が出土した。

## 128号土壇(第227・231図)

R-5グリッドに位置していた。127号土壇に切られていた。平面形は楕円形で、規模は長軸1.0m、深さ0.08mであった。主軸はN-0°であった。

遺物は須恵器高台盤が出土した。

## 132号土壇(第228・231図)

O-4グリッドに位置していた。114号土壇及び38

号溝に切られていた。平面形は不整形で、規模は長軸1.2m、短軸1.07m、深さ0.32mであった。主軸はN-87°-Wであった。覆土は焼土及び炭化物が堆積していた。遺物は土師器環・鉢・壺が、覆土中層から纏まって出土した。

#### 133号土壌 (第226・272図)

Q-5グリッドに位置していた。平面形は隅丸方形で、規模は長軸1.34m、短軸1.23m、深さ0.32mであった。主軸はN-61°-Wであった。

遺物は鉄製の鏝(第272図1)が出土した。

#### 135号土壌 (第228・231図)

P-87グリッドに位置していた。130号土壌を切っていた。また、49号溝に切られていた。平面形は長楕円形で、規模は長軸4.76m、短軸1.62m、深さ0.7mで階段状の掘り込みであった。主軸はN-02°-Wであった。覆土中に黄褐色土が多く含まれていた。

遺物は土師器環・盤状杯・須、須志器環が出土した。

#### 143号土壌 (第229・231図)

Q-8グリッドに位置していた。21号掘立柱建物跡に切られていた。平面形は楕円形で、規模は長軸1.9m、短軸1.07m、深さ0.23mであった。主軸はN-41°-Eであった。覆土は黄褐色土と暗黄褐色土ブロックが堆積していた。

遺物は土師器甕のほか、小型壺(第232図143-1)が横転した状態で出土した。

#### 147号土壌 (第229・231図)

Q-4グリッドに位置していた。44号住居跡を切っていた。平面形は円形で、規模は長軸0.82m、深さ0.43mであった。主軸はN-0°であった。覆土は黄褐色土ブロック及び、炭化物の帯状堆積が認められた。遺物は覆土中位に土師器甕、須志器環が出土した。

#### 148号土壌 (第229・234図)

Q-7グリッドに位置していた。12号掘立柱建物跡内であった。平面形は円形で、規模は長軸1.2m、深さ0.42mであった。主軸はN-0°であった。覆土には黒褐色土ブロックが堆積していた。

遺物は土師器環・盤状杯、須志器環が出土した。

#### 149号土壌 (第229・234図)

Q-5グリッドに位置していた。19号住居跡に隣接していた。平面形は不整形で、規模は長軸2.38m、短軸1.26m、深さ0.48mであった。主軸はN-78°-Wであった。覆土には多量の焼土及び炭化物が堆積していた。遺物は土師器環が覆土上層から出土した。

#### 152号土壌 (第232・234図)

R-6グリッドに位置していた。52号住居跡に切られていた。平面形は楕円形で、規模は長軸2.46m、短軸0.9m、深さ0.40mであった。主軸はN-43°-Wであった。覆土には多量の炭化物、焼土が堆積していた。遺物は土師器環・高環が出土した。

#### 154号土壌 (第232・234図)

S-7グリッドに位置していた。52号溝及び156号土壌に切られていた。平面形は楕円形で、規模は長軸2.0m、短軸1.1m、深さ0.5mであった。主軸はN-89°-Wであった。覆土には多量の炭化物が堆積していた。遺物は土師器高環が出土した。

#### 155号土壌 (第232・234図)

R-4グリッドに位置していた。25号住居跡内であった。平面形は円形で、規模は長軸0.89m、短軸0.7m、深さ0.63mであった。主軸はN-76°-Eであった。遺物は土師器環・甕が覆土中層から出土した。

#### 158号土壌 (第232・234図)

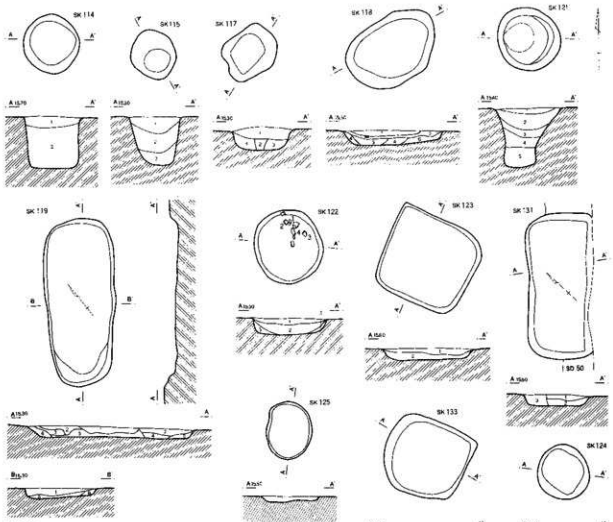
T-7グリッドに位置していた。52号溝に切られていた。平面形は楕円形で、規模は長軸0.78m、短軸0.58m、深さ0.16mであった。主軸はN-64°-Wであった。遺物は土師器甕2個体が横転した状態で出土した。

#### 157号土壌 (第232・270図)

T-6グリッドに位置していた。62号住居跡を切っていた。平面形は不整形で、規模は長軸0.84m、短軸0.7m、深さ0.42mであった。主軸はN-52°-Wであった。覆土上層には多量の焼土、炭化物及び少量の骨片が堆積していた。

遺物は加工された安山岩が覆土上層から出土したほか、直上の包含層中から主尊種子「パン(大日如来)」のみ刻まれた板碑(第270図3)が出土した。

第226図 土坑・ピット(3)



SK 114

- 1 赤褐色 (2.5V3/1) 粘質 焼土粒(少) 暗褐色土ブロック(少)
- 2 黒褐色 (2.5V3/2) 粘質 黄褐色土と黄褐色土の互層

SK 115

- 1 黒褐色 (2.5V3/1) 粘質 焼土粒土、焼土少ブロック(多) 炭化物粒子(少) (骨片)
- 2 黒褐色 (2.5V3/2) 粘質 焼土少ブロック(少) 黄褐色土ブロック(多)
- 3 黄褐色 (2.5V4/1) 粘質 黄褐色土ブロック(少)

SK 117

- 1 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘質 焼土粒土、炭化物粒子(多)
- 2 黒褐色 (2.5Y2/1) 粘質
- 3 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘質 灰色粘土と黄褐色土の互層

SK 118

- 1 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘質 炭化物
- 2 黒色 (2.5Y2/1) 砂質 M、焼土、遺物を含む、こまご(次) 覆層上
- 3 黄褐色 (2.5Y3/1) 粘質 炭化物粒子(少) 灰色粘土に黄褐色土多ブロック状を含む

SK 119

- 1 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘質 灰色粘土と黄褐色土の互層
- 2 黄褐色 (2.5Y3/2) 粘質 黄褐色土に灰色粘土をブロック状に含む

SK 121

- 1 赤褐色 (10YR3/1) 粘質 焼土粒(少) 炭化物粒子(多)
- 2 黄褐色 (10YR2/1) 粘質 炭化物粒子(多) 遺物(少)
- 3 赤褐色 (10YR2/2) 粘質 炭化物粒子(多) 遺物(少)
- 4 暗褐色 (10YR4/3) 粘質 粘性强 鉄分(多) 炭化物粒子(少)
- 5 褐色 (10YR4/4) 粘質 粘性强 鉄分(多) 炭化物粒子(多)
- 6 黄褐色 (10YR2/2) 粘質 黄褐色土粒(多) 炭化物粒子(多)

SK 121

- 1 赤褐色 (2.5Y3/1) 粘質 白色顔料(少) 焼土粒、炭化物粒子(少) 遺物(多)
- 2 黒褐色 (2.5Y3/2) 粘質 焼土粒(少) 遺物(少)
- 3 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘質 炭化物粒子(中)
- 4 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘質 灰色粘土と黄褐色土の互層
- 5 灰色 (2.5Y4/1) 粘質 粘性强

SK 122

- 1 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘質 白色顔料(少) 焼土粒土、炭化物粒子(中)
- 2 黒褐色 (2.5Y3/2) 粘質 白色粘土と暗褐色土の互層 焼土粒土、炭化物粒子(少) 遺物(少)

SK 123

- 3 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘質 (部分)

SK 123

- 1 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘質 白色顔料(少) 焼土粒土(中) 黄褐色土をブロック状に含む
- 2 黒褐色 (2.5Y3/2) 粘質 暗灰色粘土(少) 焼土粒(少)

SK 124

- 1 暗灰色 (2.5Y4/2) 粘質 褐色土粒(少)
- 2 黄褐色 (2.5Y5/4) 粘質 鉄分(中)
- 3 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘質 鉄分(中) 粘性强

SK 125

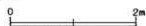
- 1 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘質 焼土粒土(中) 炭化物粒子(中) 遺物(少)

SK 131

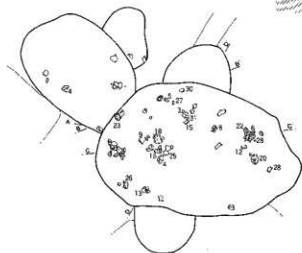
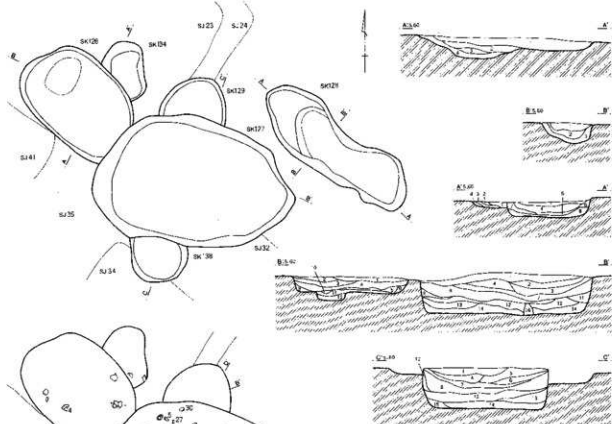
- 1 オリーブ褐色 (5Y5/6) 粘質 黄褐色土粒(少)
- 2 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘質 黄褐色土ブロック(多)
- 3 灰オリーブ色 (5Y5/3) 粘質 黄褐色土と灰色粘土の互層

SK 133

- 1 にぎみ褐色 (7.5YR5/2) 粘質 黄褐色土粒(多) 同ブロック(多) 焼土粒(多)
- 2 褐色 (7.5YR4/2) 粘質 黄褐色土粒(少) 同ブロック(多)
- 3 黄褐色 (10YR5/6) 粘質 黄褐色土粒(多)



第227図 土壌・ピット (4)



- SK 1 2 6
- |    |        |                |                                |
|----|--------|----------------|--------------------------------|
| 1  | 黒褐色    | (10YR5/1) 粘質   | 粘土粒子(多) 炭化物粒子(多)               |
| 2  | 黒褐色    | (10YR5/2) 粘質   | 粘土粒子 炭化物粒子(少)                  |
| 3  | 黒褐色    | (10YR5/3) 粘質   | 黄褐色土粒子(多) 粘土粒子 炭化物粒子(少)        |
| 4  | 赤褐色    | (10YR5/2) シルト質 | 粘性強 黄褐色土粒子(多) 粘土粒子(少) 炭化物粒子(多) |
| 5  | 灰黄褐色   | (10YR4/2) 粘質   | 粘性強 炭化物粒子(少)                   |
| 6  | 黄褐色    | (10YR4/3) 粘質   | 黄褐色土ブロック(多)                    |
| 7  | 褐色     | (10YR4/1) 粘質   | 黄褐色土粒子(少) 炭化物粒子(微)             |
| 8  | にぶい黄褐色 | (10YR4/4) 粘質   | 粘性強 炭化物粒子(少)                   |
| 9  | 褐色     | (10YR4/4) 粘質   | 粘性強 炭化物粒子(少)                   |
| 10 | 黒褐色    | (10YR2/3) 粘質   | 粘土粒子(微)                        |
| 11 | 灰黄褐色   | (10YR4/2) シルト質 | 粘性強 粘土粒子 炭化物粒子(多)              |
| 12 | にぶい黄褐色 | (10YR4/3) 粘質   | 粘性強 炭化物粒子(微)                   |

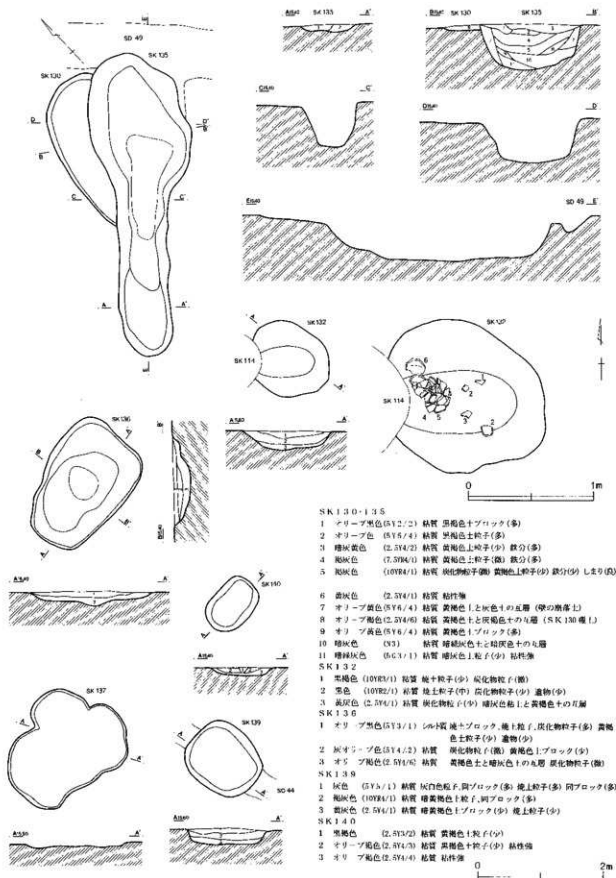


- SK 1 2 7
- |    |        |                |                                    |
|----|--------|----------------|------------------------------------|
| 1  | 黒褐色    | (10YR5/1) 粘質   | 粘土粒子 炭化物粒子(少)                      |
| 2  | 黒褐色    | (10YR5/2) 粘質   | 黄褐色土ブロック(多) 粘土粒子(微) 遺物(多)          |
| 3  | 灰黄褐色   | (10YR4/2) 粘質   | 粘性強 炭化物粒子(多) 遺物(多)                 |
| 4  | 黒褐色    | (10YR2/3) 粘質   | 粘性強 炭化物粒子(微) 粘土粒子(多) 遺物(多)         |
| 5  | 暗褐色    | (10YR3/4) 粘質   | 炭化物粒子(微) 遺物(多)                     |
| 6  | 黒褐色    | (10YR2/3) 粘質   | 粘土粒子 炭化物粒子(微) 遺物(多)                |
| 7  | 暗褐色    | (10YR3/3) シルト質 | 粘性強 炭化物粒子(多) 粘土粒子(少) 遺物(多)         |
| 8  | 黒褐色    | (10YR2/1) 粘質   | 黄褐色土ブロック(多) 炭化物粒子(微)               |
| 9  | 黒色     | (10YR2/1) シルト質 | 炭化物粒子(多)                           |
| 10 | 褐色     | (10YR4/6) 粘質   | 黄褐色土粒子(多)                          |
| 11 | 灰黄褐色   | (10YR4/2) 粘質   | 黄褐色土粒子(多) 炭化物粒子(微)                 |
| 12 | にぶい黄褐色 | (10YR4/3) 粘質   | 粘性強 粘土粒子 炭化物粒子(少)                  |
| 13 | 褐色     | (10YR4/1) シルト質 | 粘性強 粘土粒子(多) 粘土粒子(少) 炭化物粒子(多) 遺物(少) |
| 14 | 黄褐色    | (2.5Y5/3) 粘質   | 粘性強 鉄分(多) 炭化物粒子(少) 遺物(少)           |
| 15 | にぶい黄色  | (2.5Y6/4) 粘質   | 粘性強 鉄分(多) 遺物(少)                    |
| 16 | 暗灰色    | (N3) 粘質        | 粘性強 灰色粘土のブロック状堆積                   |

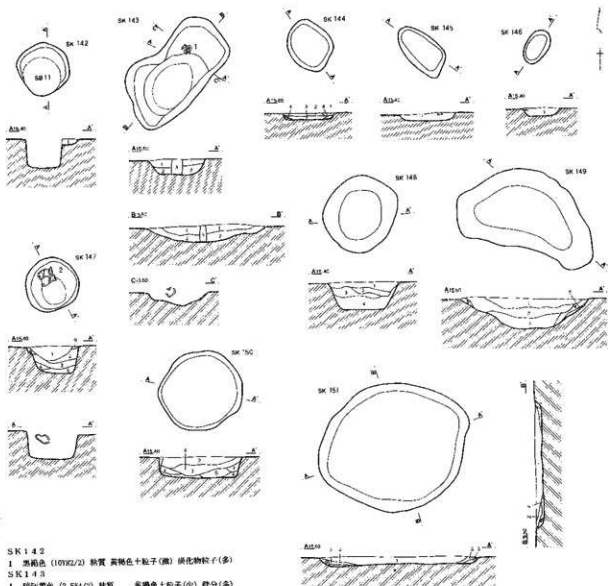
- SK 1 2 8
- |   |        |              |                    |
|---|--------|--------------|--------------------|
| 1 | 黒褐色    | (10YR5/1) 粘質 | 黄褐色土粒子(少) 炭化物粒子(少) |
| 2 | 黒褐色    | (10YR2/2) 粘質 | 黄褐色土粒子(多)          |
| 3 | 暗灰色    | (10YR4/2) 粘質 | 黄褐色土粒子(多)          |
| 4 | にぶい黄褐色 | (2.5Y4/2) 粘質 | 炭化物粒子(微)           |



第228図 土坑・ピット (5)



第229図 土壌・ピット (6)



SK 1 4 2

1 赤褐色 (10YR2/2) 粘質 黄褐色土粒子 (多) 炭化物粒子 (多)

SK 1 4 3

1 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘質 黄褐色土粒子 (少) 鉄分 (多)

2 暗褐色 (2.5Y3/2) 粘質 暗黄褐色土ブロック、暗粘土 (多)

3 暗褐色 (10YR2/2) シルト質 鉄分 (少)

SK 1 4 4

1 黒褐色 (10YR2/2) 粘質 黄褐色土粒子 (多) 炭化物粒子 (多)

2 黒褐色 (10YR3/1) 粘質 黄褐色土粒子 (多) 炭土、炭化物粒子 (少)

3 暗灰色 (10YR4/1) 粘質 炭化物粒子 (多)

4 褐色 (10YR4/4) シルト質 炭化物粒子 (多)

SK 1 4 5

1 オリーブ色 (5Y5/4) 粘質 鉄分比着

SK 1 4 6

1 オリーブ色 (5Y5/4) 粘質 鉄分比着

SK 1 4 7

1 黒褐色 (10YR3/1) 粘質 黄褐色土粒子 (多) 粘土粒子、炭化物粒子 (多)

2 暗褐色 (10YR3/2) 粘質 黄褐色土粒子 (多) 炭化物粒子 (多)

3 暗褐色 (10YR2/3) 粘質 黄褐色土粒子 (少) 炭化物粒子 (多)

4 黄褐色 (10YR2/2) 粘質 黄褐色土ブロック (多)

5 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘質 粘性强 炭化物粒子 (少)

6 褐色 (10YR4/4) 粘質 炭化物粒子 (少)

SK 1 4 8

1 暗褐色 (10YR2/3) 粘質 黄褐色土粒子 (少) 鉄分 (少) 炭化物形状不定 遺物 (少)

2 暗褐色 (2.5Y3/0) 粘質 黄褐色土ブロック (多) 鉄分 (少)

3 暗褐色 (2.5Y3/0) 粘質 黄褐色土粒子 (多) 暗褐色土粒子、暗ブロック (少) 鉄分 (少)

4 黄褐色 (10YR5/0) 粘質 黄褐色土粒子 (多) 粘性强

SK 1 4 9

1 黒褐色 (10YR3/1) 粘質 黄褐色土粒子、暗ブロック (中) 炭化物粒子 (多) 土粒子 (多)

2 暗褐色 (10YR3/4) 粘質 黄褐色土粒子、暗ブロック (多) 炭化物粒子 (多) 黄褐色土粒子 (多)

3 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘質 黄褐色土粒子、暗ブロック (少) 粘土粒子 (多)

4 オリーブ褐色 (2.5Y4/0) シルト質 黄褐色土ブロック (多) 粘土粒子 (多) 炭化物粒子 (多)

5 黄褐色 (2.5Y5/0) 粘質 黄褐色土ブロック (多)

SK 1 5 0

1 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘質 黄褐色土粒子 (多) 炭化物粒子 (少) (断薄上)

2 暗褐色 (10YR3/2) シルト質 粘土粒子 (多) 炭化物粒子 (多)

3 暗褐色 (10YR3/1) 粘質 黄褐色土粒子 (多) 粘土、炭化物粒子 (少)

4 暗褐色 (10YR2/3) 粘質 黄褐色土粒子 (少) 粘土粒子 (多)

5 暗褐色 (10YR3/3) 粘質 黄褐色土粒子 (多) 炭土、炭化物粒子 (少)

6 褐色 (10YR4/4) 粘質 粘性强 炭化物粒子 (少)

SK 1 5 1

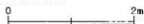
1 黒褐色 (10YR3/2) シルト質 黄褐色土粒子 (多) 炭化物粒子 (多)

2 暗褐色 (10YR2/3) シルト質 黄褐色土粒子 (少) 炭化物粒子 (多)

3 暗褐色 (10YR3/3) シルト質 黄褐色土粒子 (少) 炭化物粒子 (多)

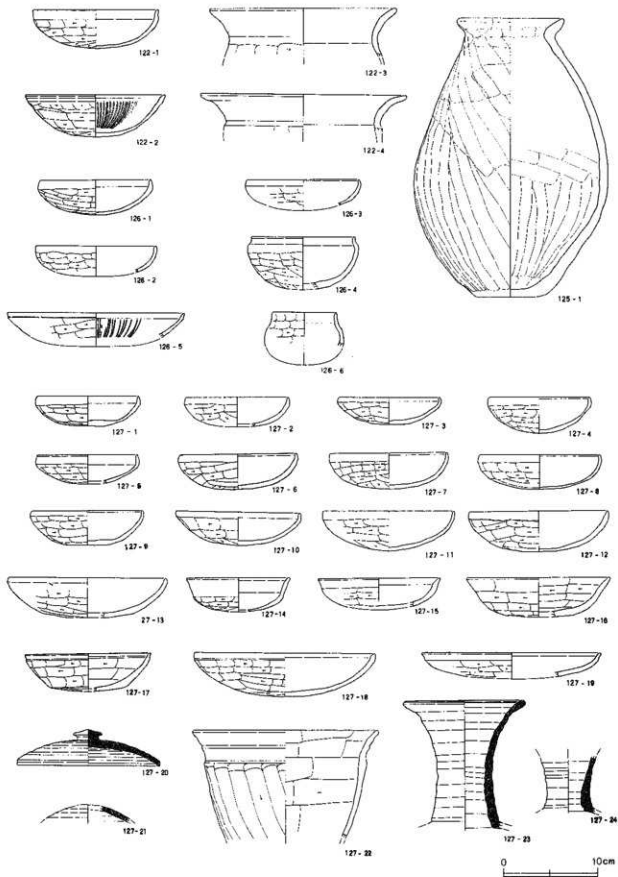
4 褐色 (10YR4/4) 粘質 炭化物粒子 (多)

5 に近い黄褐色 (10YR4/3) 粘質 粘性强 炭化物粒子 (少)

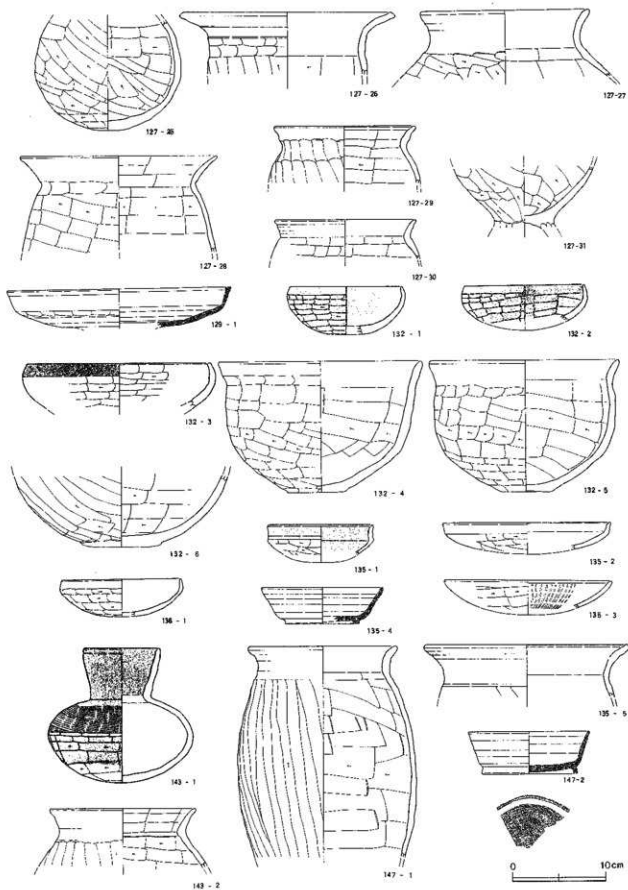




第230図 土壙・ピット出土遺物(2)



第231図 土城・ピット出土遺物(3)



B区土壙出土遺物観察表(2)

番号	器種	口径	器高	底径	胎上	焼成	色調	残存	備考
122-1	上師器杯	13.4	4.1	3.2	ABDE	3	橙色	55%	
122-2	上師器杯	(15.0)	(4.5)	(5.0)	BDE	3	橙色	25%	内面放射暗文
122-3	土師器甕	20.0	-	-	BD	3	にぶい褐色	5%未満	
122-4	土師器甕	(22.0)	-	-	BD	3	にぶい褐色	5%未満	
125-1	帯形土器	11.5	29.6	6.6	AL	4	褐色	70%	
126-1	上師器杯	11.8	3.7	8.8	BD	3	褐色	80%	
126-2	上師器杯	(12.8)	(3.2)	(8.3)	BD	3	褐色	5%	
126-3	土師器杯	(12.0)	(3.3)	(10.4)	ABD	3	にぶい褐色	5%未満	
126-4	土師器杯	(11.0)	(5.6)	(5.8)	BEFL	2	にぶい褐色	30%	
126-5	土師器盤状杯	(19.0)	-	-	ABD	3	にぶい黄褐色	5%未満	内面放射暗文
126-6	土師器短頸壺	(7.0)	-	-	BEF	3	褐色	5%	
127-1	上師器杯	10.8	3.2	3.0	ABDE	3	褐色	80%	
127-2	土師器杯	(11.0)	(3.1)	(6.4)	ABD	3	にぶい褐色	10%	
127-3	土師器杯	10.6	2.9	4.3	BD	3	褐色	40%	
127-4	土師器杯	11.0	3.8	5.4	BD	3	褐色	100%	
127-5	上師器杯	(10.8)	(3.1)	(5.0)	ABD	3	褐色	15%	
127-6	土師器杯	12.3	3.8	8.0	ABD	3	にぶい褐色	70%	
127-7	土師器杯	12.6	3.8	10.0	BD	3	褐色	40%	内面へラ描「×」印
127-8	土師器杯	(13.0)	(4.7)	(9.6)	BD	4	褐色	25%	
127-9	上師器杯	(12.0)	3.6	(4.0)	ABD	3	褐色	30%	
127-10	土師器杯	13.2	3.5	8.0	ABD	3	にぶい褐色	40%	
127-11	土師器杯	(14.0)	4.2	(9.8)	BF	3	褐色	20%	
127-12	土師器杯	(14.8)	4.3	(10.3)	BDE	3	にぶい褐色	30%	
127-13	土師器盤状杯	(17.0)	(3.2)	(9.6)	BDE	3	浅黄褐色	15%	
127-14	上師器杯	(11.0)	(4.6)	(9.6)	ABDE	3	褐色	30%	
127-15	土師器杯	(13.0)	(3.4)	(8.4)	ABDE	3	浅黄褐色	5%	
127-16	土師器杯	(15.4)	(4.2)	(7.4)	BDE	3	浅黄褐色	25%	内面黒色処理
127-17	土師器杯	(13.4)	(4.0)	(7.9)	ABDE	3	淡褐色	40%	
127-18	土師器盤状杯	(19.4)	4.6	(10.6)	BDE	3	にぶい褐色	35%	
127-19	土師器盤状杯	(19.0)	(2.8)	(18.4)	BDE	3	浅黄褐色	5%	
127-20	須恵器蓋	15.3	3.8	-	BF	3	灰白色	80%	湖西 外面自然釉付着
127-21	須恵器蓋	-	-	-	ABEFH	3	にぶい黄褐色	10%	東野(土師質)外面黒色
127-22	土師器鉢	(20.0)	-	-	BEFG	3	褐色	10%	
127-23	須恵器長頸壺	(13.0)	-	-	BF	1	灰白色	10%	
127-24	須恵器長頸壺	-	-	-	BF	2	灰白色	5%未満	東海西部
127-25	土師器壺	-	-	(4.6)	BDE	4	淡赤褐色	25%	丸底
127-26	土師器長胴壺	(23.0)	-	-	BDE	3	褐色	5%未満	
127-27	土師器壺	(18.0)	-	-	BDE	3	褐色	5%未満	
127-28	土師器長胴壺	(21.0)	-	-	BDE	3	にぶい黄褐色	5%	
127-29	土師器長胴壺	(15.0)	-	-	ABF	3	にぶい赤褐色	5%未満	
127-30	土師器長胴壺	(15.0)	-	-	BF	3	褐色	5%未満	
127-31	土師器台付壺	-	-	-	BEF	3	褐色	10%	
129-1	須恵器高台盤	(24.0)	-	-	BEH	2	灰白色	15%	ロクロ成形(折面還元焼成)
132-1	土師器杯	(12.0)	(5.1)	(5.0)	BF	3	褐色	25%	内外面全面赤彩
132-2	土師器杯	(12.8)	(4.8)	(6.0)	BD	3	褐色	20%	内外面赤彩
132-3	土師器鉢	(19.8)	-	-	BDE	3	にぶい褐色	5%未満	外面赤彩
132-4	土師器鉢	21.7	13.9	5.1	ABEFH	3	にぶい褐色	90%	
132-5	土師器鉢	20.0	14.0	7.0	AEHL	3	褐色	65%	
132-6	土師器壺	-	-	(8.2)	ABEFH	3	にぶい褐色	15%	
135-1	土師器杯	(13.1)	(4.0)	(13.2)	BEF	3	にぶい褐色	5%	内外面赤彩
135-2	土師器盤状杯	(18.0)	(3.3)	(17.6)	BF	3	黒色	5%未満	内面放射暗文
135-3	土師器盤状杯	(18.0)	-	(17.2)	BEF	3	褐灰色	5%未満	内面放射暗文
135-4	須恵器高台付杯	(15.0)	3.9	(8.0)	BF	2	灰白色	20%	湖西

B区土壌出土遺物観察表(3)

番号	器種	口径	器高	口径	胎土	焼成	色調	残存	備考
135-5	土師器長胴甕	(21.8)	-	-	BD/F	3	棕色	5%未滴	
136-1	土師器杯	(12.7)	(4.0)	(10.6)	BD	3	棕色	30%	
143-1	土師器小型甕	8.0	14.3	11.2	BEF	3	残黄褐色	90%	内外面赤彩
143-2	土師器甕	15.6	-	-	ABD/EI	3	にぶい棕色	5%	
147-1	土師器長胴甕	16.0	-	-	ABDE	3	棕色	60%	
147-2	須恵器高台付杯	(13.0)	4.5	(10.2)	BF	1	灰白色	25%	湖西 内面へら插 線刻有り

**164号土壌(第232・234・235・266・268図)**

Q-3グリッドに位置していた。41号住居跡に隣接していた。平面形は方形で、規模は長軸1.3m、短軸1.1m、深さ0.24mであった。主軸はN-70°-Wであった。覆土は灰白色土ブロックが堆積していた。

遺物は土師器甕・瓶が潰れた状態で出土したほか、粘土塊(第266図4)、白玉(第268図39)が覆土上層より出土した。

**167号土壌(第233・235図)**

O-2グリッドに位置していた。28号掘立柱建物跡に隣接していた。平面形は円形で、規模は長軸0.8m、深さ1.42mであった。主軸はN-0°であった。覆土には焼土及び、炭化物が堆積していた。

遺物は土師器杯・高杯・甕・瓶が覆土中層より纏まって出土した。

**172・173号土壌(第233・235図)**

P-3グリッドに位置していた。86号住居跡内にあった。172号土壌が173号土壌を切っていた。172号土壌の平面形は円形で、規模は長軸0.87m、短軸0.76m、深さ0.97mであった。主軸はN-65°-Eであった。覆土は暗黄褐色土ブロックが堆積していた。

遺物は173号土壌より土師器杯が出土した。

**174号土壌(第233・235図)**

R-7グリッドに位置していた。53号住居跡に切られていた。平面形は不整形で、規模は長軸2.1m、短軸1.52m、深さ0.47mであった。主軸はN-42°-Eであった。覆土には焼土及び、炭化物が堆積していた。

遺物は土師器杯・高杯・台付甕、須恵器高杯が出土した。

**176号土壌(第233・235図)**

P-2グリッドに位置していた。20号住居跡に隣接していた。平面形は不整形円形で、規模は長軸1.41m、短軸0.9m、深さ1.28mであった。主軸はN-30°-Wであった。覆土には焼土及び、炭化物が堆積していた。

遺物は土師器杯が出土した。

**177号土壌(第233・235図)**

P-2グリッドに位置していた。45号溝に切られていた。平面形は不整形で、規模は長軸1.56m、短軸1.5m、深さ0.31mであった。主軸はN-85°-Wであった。覆土には焼土及び、炭化物が堆積していた。

遺物は須恵器甕が出土した。

**178号土壌(第233・239図)**

P-2グリッドに位置していた。177号土壌に切られていた。平面形は長方形で、規模は長軸1.57m、短軸0.93m、深さ0.2mであった。主軸はN-55°-Wであった。覆土には焼土及び、炭化物が堆積していた。

遺物は土師器盤状杯が出土した。

**179号土壌(第236・239図)**

P-2グリッドに位置していた。177号土壌に隣接していた。平面形は楕円形で、規模は長軸1.95m、短軸0.81m、深さ0.1mであった。主軸はN-53°-Wであった。

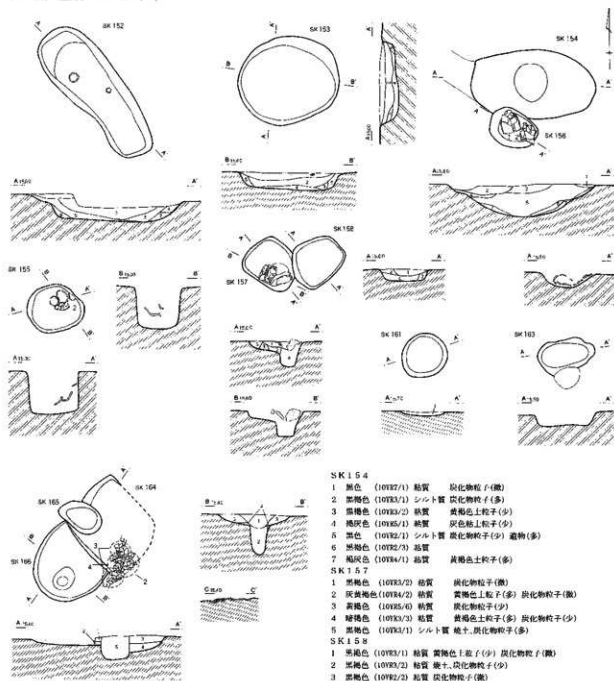
遺物は須恵器蓋が出土した。

**192号土壌(第236・268図)**

Q-3グリッドに位置していた。堀に切られていた。平面形は楕円形で、規模は長軸1.20m、短軸0.5m、深さ0.2mであった。主軸はN-50°-Wであった。覆土には焼土及び、炭化物が堆積していた。

遺物は滑石製紡錘車(第268図26)が出土した。

第232図 土壌・ピット (7)



SK 1 5 2

- 1 棕色 (10YR2/1) 粘質 黄褐色土粒子(多)
- 2 黑褐色 (10YR2/2) 粘質 塊上、炭化物粒子(多) 遺物(多)
- 3 黑褐色 (10YR2/1) シルト質 黄褐色土粒子(少) 炭化物粒子(多)
- 4 灰黄褐色 (10YR6/2) 粘質 灰褐色上ブロック状塊層 炭化物粒子(少)
- 5 灰褐色 (2.5Y4/1) シルト質 塊上粒子(多) 炭化物粒子(少)
- 6 ぶい黄褐色(10YR4/3) 粘質 粘性強 炭化物粒子(多)
- 7 暗褐色 (10YR2/4) 粘質 黄褐色土粒子(多)

SK 1 5 3

- 1 黑褐色 (10YR3/1) 粘質 塊上、炭化物粒子(少)
- 2 黑褐色 (10YR3/2) シルト質 塊上粒子(多) 炭化物粒子(多)
- 3 黑色 (10YR2/1) シルト質 炭化物粒子(多)
- 4 褐色 (10YR4/1) 粘質 粘性強 黄褐色土粒子(多) 炭化物粒子(多)
- 5 褐灰色 (10YR5/1) 粘質 粘性強 黄褐色土粒子(多) 塊上、炭化物粒子(多)

SK 1 5 4

- 1 棕色 (10YR7/1) 粘質 炭化物粒子(多)
- 2 黑褐色 (10YR3/2) シルト質 炭化物粒子(多)
- 3 黑褐色 (10YR3/2) 粘質 黄褐色土粒子(多)
- 4 褐灰色 (10YR5/1) 粘質 灰色土粒子(少)
- 5 黑色 (10YR2/1) シルト質 炭化物粒子(少) 遺物(多)
- 6 黑褐色 (10YR2/3) 粘質
- 7 褐灰色 (10YR4/1) 粘質 黄褐色土粒子(多)

SK 1 5 7

- 1 黑褐色 (10YR3/2) 粘質 炭化物粒子(多)
- 2 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘質 黄褐色土粒子(多) 炭化物粒子(多)
- 3 黑褐色 (10YR3/2) 粘質 炭化物粒子(少)
- 4 暗褐色 (10YR3/2) 粘質 黄褐色土粒子(多) 炭化物粒子(少)
- 5 黑褐色 (10YR3/1) シルト質 塊上、炭化物粒子(多)

SK 1 5 8

- 1 黑褐色 (10YR3/1) 粘質 黄褐色土粒子(少) 炭化物粒子(多)
- 2 黑褐色 (10YR3/2) 粘質 塊上、炭化物粒子(多)
- 3 黑褐色 (10YR2/2) 粘質 炭化物粒子(多)
- 4 黄褐色 (10YR5/6) 粘質 黄褐色土粒子(多) 炭化物粒子(多)

SK 1 6 1

- 1 黑褐色 (2.5Y3/1) 粘質 塊上粒子、炭化物粒子(少) 白色土粒子(少)

SK 1 6 4 - 1 6 5

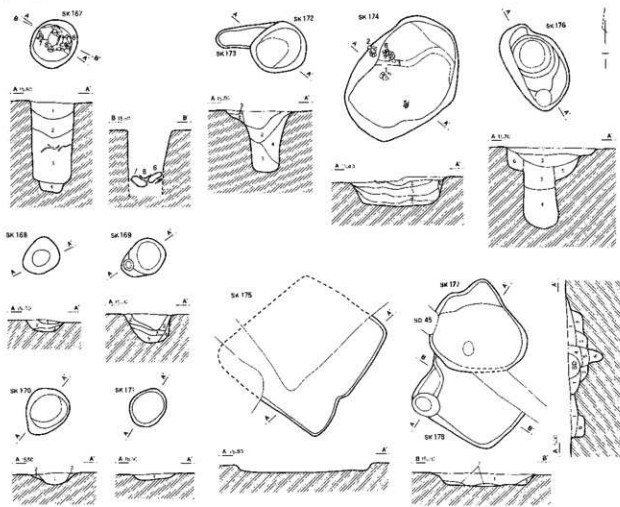
- 1 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘質 暗黄褐色上ブロック(多)
- 2 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘質 暗黄褐色上ブロック(中)
- 3 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘質 灰白色上ブロック(多) 同粒(多)
- 4 暗褐色 (2.5Y3/1) シルト質 灰白色上ブロック(多)
- 5 オリーブ黑色(5Y3/1) 粘質 灰白色上ブロック(少) 同粒(少) 粘黄褐色土ブロック(多)

SK 1 6 6

- 1 褐色 (10Y4/4) 粘質 暗褐色土粒子、同ブロック(多)
- 2 黑褐色 (2.5Y3/2) 粘質 暗褐色土粒子、同ブロック(多) しより(少)
- 3 キーリング褐色(2.5Y4/2) 粘質 暗黄褐色土粒子、同ブロック(多)
- 4 暗褐色 (2.5Y3/3) 粘質 黄褐色土粒子(多)



第233図 土壌・ピット (8)

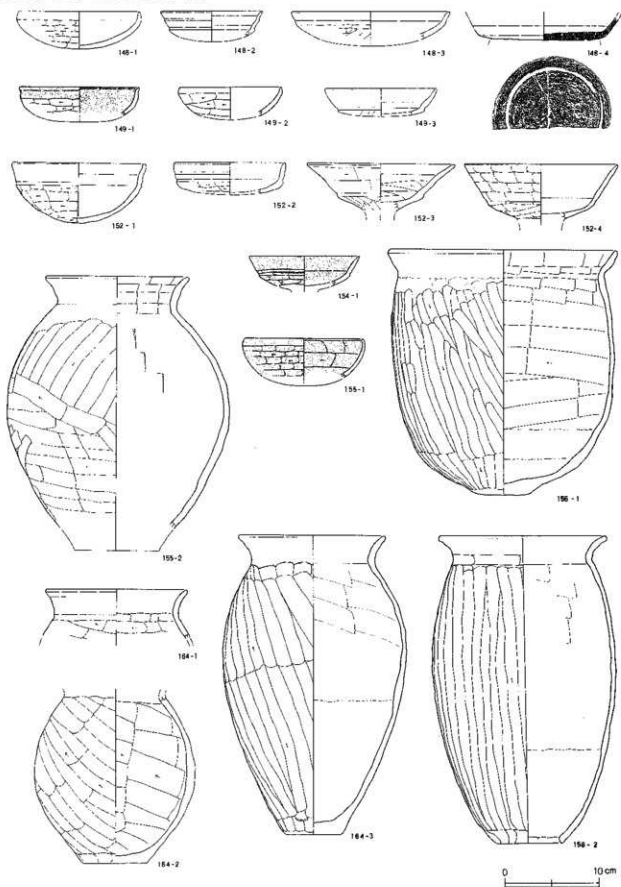


- SK 167
- 1 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘質 白色顔料粒子 (多) 焼土粒子、炭化物粒子 (中) 遺物 (少)
  - 2 黒褐色 (2.5Y3/2) 粘質 焼土粒子、炭化物粒子 (少) 黄褐色土ブロック (少)
  - 3 赤褐色 (2.5Y3/1) 粘質 暗灰黄色土粒子 (中) 黄褐色土粒子 (多) 大型遺物含む
  - 4 黒色 (5Y2/1) シルト質 植物繊維 (少) しまり (中)
- SK 168
- 1 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘質 暗黄褐色土粒子 (多) 焼土粒子 (少)
  - 2 オリーブ褐色 (5Y3/2) 粘質 暗黄褐色土粒子 (少) 焼土粒子 (多)
  - 3 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘質 暗黄褐色土粒子 (多) 腐ブロック (多)
- SK 169
- 1 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘質 暗黄褐色土粒子 (多) 同ブロック (多) 焼土粒子 (少) 灰白色粒子 (多)
  - 2 黒褐色 (2.5Y3/2) シルト質 暗黄褐色土粒子 (多) 焼土粒子 (多) 灰白色粒子 (多)
  - 3 オリーブ褐色 (5Y3/2) 粘質 暗黄褐色土ブロック (多)
  - 4 オリーブ色 (5Y5/4) 粘質 黒褐色土 (少)
  - 5 暗オリーブ色 (5Y4/3) 粘質 暗黄褐色土ブロック (多)
- SK 170
- 1 黒褐色 (2.5Y3/2) 粘質 灰白色粒子 (少) 暗黄褐色土粒子 (少) 焼土粒子 (少)
  - 2 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘質
- SK 171
- 1 黒褐色 (2.5Y3/2) 粘質 灰白色粒子 (少) 暗黄褐色土粒子 (少) 焼土粒子 (少)
- SK 172・173
- 1 灰黄褐色 (10YR4/2) シルト質 焼土粒子 (多) 同ブロック (多) 暗黄褐色土粒子 (多) 同ブロック (多)
  - 2 黒褐色 (10YR3/2) 粘質 焼土粒子 (少) 同ブロック (少) 暗黄褐色土粒子 (多) 同ブロック (多)
  - 3 黒褐色 (10YR2/2) 粘質 焼土粒子 (少) 同ブロック (多) 暗黄褐色土粒子 (多) 同ブロック (多)
  - 4 オリーブ褐色 (2.5Y4/0) 粘質 暗黄褐色土粒子 (少) 同ブロック (多)
  - 5 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/0) 粘質 暗黄褐色土粒子 (少) 同ブロック (多) 焼土粒子 (多)
  - 6 オリーブ褐色 (2.5Y4/0) 粘質 暗黄褐色土粒子 (少) 同ブロック (少)

- SK 174
- 1 黒褐色 (10YR2/2) シルト質 焼土ブロック (多)
  - 2 暗灰色 (10YR4/1) 粘質 暗黄褐色土粒子 (多) 焼土、炭化物粒子 (少)
  - 3 赤褐色 (10YR3/2) シルト質 暗黄褐色土粒子 (少) 焼土、炭化物粒子 (多)
  - 4 黒色 (10YR2/1) シルト質 暗黄褐色土粒子 (少) 炭化物粒子 (多)
  - 5 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘質 暗黄褐色土 (多) 炭分 (多) 焼土、炭化物粒子 (多)
  - 6 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 粘質 黄褐色土、炭化物粒子 (多) (腐食土)
- SK 176
- 1 黄灰色 (2.5Y4/1) シルト質 灰白色粘土上 (少) 白色顔料粒子 (少) 焼土粒子、炭化物粒子 (少)
  - 2 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘質 灰白色粘土小ブロック (中) 焼土粒子、炭化物粒子 (多) 遺物 (多)
  - 3 赤褐色 (2.5Y3/1) 粘質 焼土ブロック (少) 炭化物粒子 (少)
  - 4 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 粘質 暗黄褐色土に黄褐色土ブロックを多量に含む
  - 5 暗黄灰色 (2.5Y4/2) 粘質 暗黄褐色土と灰白色粘土の互層
  - 6 オリーブ褐色 (2.5Y4/0) 粘質 黄褐色土と灰白色粘土の互層 (腐食)
- SK 175
- 1 黄灰色 (2.5Y4/1) シルト質 白色顔料粒子 (少) 焼土粒子、炭化物粒子 (多) 遺物 (少)
  - 2 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘質 黄褐色土ブロック (少) 焼土粒子、炭化物粒子 (多) 遺物 (中) しまり (中)
  - 3 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘質 黄褐色土ブロック (少) 焼土粒子、炭化物粒子 (少) 遺物 (少)
  - 4 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘質 焼土粒子、炭化物粒子 (少) しまり (良) (P1 面上)
  - 5 黒褐色 (2.5Y3/2) 粘質 焼土小ブロック (多) 黄褐色土粒子 (多) しまり (中) (P1 面下)
  - 6 暗黄灰色 (2.5Y4/2) 粘質 暗黄褐色土と黄褐色土の互層 焼土粒子 (少)
  - 7 オリーブ褐色 (2.5Y4/0) 粘質 灰白色粘土と黄褐色土の互層 (腐食)



第234図 土塚・ピット出土遺物(4)







B区土壌出土遺物観察表(4)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	脱成	色調	残存	備考
148-1	土師器杯	(13.0)	4.0	(5.0)	BDE	3	橙色	50%	
148-2	土師器杯	(11.0)	(3.3)	(9.2)	BF	3	にぶい橙色	5%	
148-3	土師器整伏杯	(17.0)	(3.6)	(15.8)	BD	3	橙色	5%未満	
148-4	須恵器杯	-	-	11.7	BF	2	灰白色	20%	底面ヘラ描「x」印
149-1	土師器杯	(12.8)	(3.7)	(12.6)	BF	3	橙色	10%	内外面赤彩
149-2	土師器杯	(10.9)	(3.5)	(7.0)	BDE	3	浅黄橙色	15%	
149-3	土師器杯	(12.0)	(3.0)	(9.2)	ABD	3	橙色	5%	
152-1	土師器杯	14.3	6.3	13.4	BEF	3	橙色	100%	
152-2	土師器杯	(12.0)	(3.4)	(11.4)	BD	3	橙色	5%	
152-3	土師器高杯	(15.8)	-	-	BD	3	明赤褐色	10%	
152-4	土師器高杯	(16.4)	-	-	BEF	3	橙色	20%	
154-1	土師器高杯	(10.8)	-	-	BEFL	4	橙色	10%	内外面赤彩
155-1	土師器杯	(12.8)	(5.0)	-	ABD	3	浅黄褐色	10%	内外面赤彩
155-2	土師器甕	15.3	(29.0)	(9.0)	AEEFG	3	橙色	50%	
156-1	土師器甕	24.5	26.0	6.0	ADEG	3	にぶい橙色	90%	
156-2	土師器長胴甕	18.0	32.6	7.0	AEF	3	橙色	65%	瓶転用?
164-1	土師器甕	15.0	-	-	AEPH	3	橙色	5%未満	
164-2	土師器甕	-	-	7.0	ABDE	3	橙色	30%	
164-3	土師器甕	(15.7)	(31.7)	5.9	BEF	3	橙色	30%	
164-4	土師器甕	24.4	29.1	9.4	ABEFG	3	橙色	50%	
167-1	土師器杯	14.0	4.0	15.0	BDE	3	褐色	60%	
167-2	土師器杯	13.8	3.8	12.9	BDE	3	にぶい橙色	60%	
167-3	土師器杯	(13.0)	(4.3)	(12.0)	BEF	3	浅黄褐色	5%未満	
167-4	土師器高杯	(12.0)	-	-	BDL	4	浅黄褐色	5%未満	内外面赤彩
167-5	土師器高杯	-	-	(10.2)	BEF	4	橙色	20%	内面赤彩
167-6	土師器甕	17.6	24.3	7.3	ABCEH	3	橙色	90%	
167-7	土師器甕	21.2	-	-	ABFG	3	褐色	60%	
167-8	土師器甕	22.4	32.8	8.4	BCE	3	浅黄褐色	70%	
173-1	土師器杯	(11.2)	(3.9)	(9.8)	ABDE	4	灰白色	5%	
173-2	土師器杯	(15.0)	(3.6)	(11.0)	BDE	3	褐色	5%未満	
174-1	土師器杯	11.8	3.5	8.0	ABD	3	褐色	70%	
174-2	土師器杯	(12.9)	(3.6)	(10.0)	BD	3	褐色	25%	
174-3	土師器杯	(12.0)	(4.3)	(7.4)	BDEFG	3	にぶい橙色	15%	
174-4	土師器高杯	-	-	(11.8)	ADF	3	褐色	30%	
174-5	須恵器高杯	12.2	-	-	BF	1	灰白色	10%	陶色
174-6	土師器高台付甕	(12.4)	-	-	BD	4	褐色	5%	内面煤付着
176-1	土師器杯	10.4	3.3	3.4	BD	3	褐色	90%	
176-2	土師器杯	(11.0)	(3.1)	(9.6)	BD	3	褐色	20%	
176-3	土師器杯	11.9	3.6	11.9	BDE	3	にぶい橙色	90%	内外面赤彩
177-1	須恵器甕	(13.8)	-	-	BF	2	灰色	5%未満	南北企

## 208号土壌(第236・239・272図)

R-3グリッドに位置していた。94号住居跡を切っていた。平面形は円形で、規模は長軸1.12m、短軸0.94m、深さ1.58mであった。主軸はN-40°-Eであった。覆土には暗褐色土及び、灰白色土が堆積していた。遺物は土師器杯のほか刀子(第272図12)が出土した。

## 207号土壌(第236・266図)

R-3グリッドに位置していた。70号溝に切られていた。平面形は長方形で、規模は長軸2.6m、短軸1.1

m、深さ0.36mであった。主軸はN-50°-Eであった。覆土には暗黄褐色土が堆積していた。

遺物は羽口(第266図7)が出土した。

## 208号土壌(第236・239図)

R-3グリッドに位置していた。70号溝に切られていた。平面形は長方形で、規模は長軸1.62m、短軸1.1m、深さ0.34mであった。主軸はN-53°-Wであった。覆土には暗褐色土及び、灰白色土が堆積していた。

遺物は土師器杯・碗・無頸壺・甕が出土した。

#### 217号土壌 (第237・239図)

Q-3グリッドに位置していた。93号住居跡を切っていた。平面形は楕円形で、規模は長軸1.1m、短軸0.67m、深さ0.2mであった。主軸はN-51°-Wであった。覆土には焼土及び、炭化物が堆積していた。

遺物は土師器整状杯・甕が出土した。

#### 218号土壌 (第237・239図)

Q-3グリッドに位置していた。93号住居跡を切っていた。平面形は楕円形で、規模は長軸0.94m、短軸0.43m、深さ0.1mであった。主軸はN-46°-Wであった。覆土には焼土及び、炭化物が堆積していた。

遺物は土師器甕、須恵器杯が出土した。

#### 220号土壌 (第237・239図)

Q-5グリッドに位置していた。47号掘立柱建物跡に切られていた。平面形は不整形で、規模は長軸1.77m、短軸1.28m、深さ0.21mであった。主軸はN-37°-Eであった。覆土には焼土及び、炭化物が堆積していた。

遺物は土師器整状杯が出土した。

#### 223号土壌 (第237・239図)

R-9グリッドに位置していた。56号溝に切られていた。平面形は不整形で、規模は長軸1.6m、短軸0.74m、深さ0.24mであった。主軸は不明であった。

遺物は土師器杯、須恵器長頸壺が出土した。

#### 226号土壌 (第237・239図)

S-3グリッドに位置していた。70号溝に切られていた。平面形は長方形で、規模は長軸1.83m、短軸0.77m、深さ0.06mであった。主軸はN-32°-Eであった。覆土は暗黄褐色土が堆積していた。

遺物は土師器高杯が出土した。

#### 227号土壌 (第237・239図)

S-3グリッドに位置していた。70号溝に切られていた。平面形は長方形で、規模は長軸1.84m、短軸1.0m、深さ0.1mであった。主軸はN-42°-Eであった。覆土には焼土及び、炭化物が堆積していた。

遺物は土師器整状杯が出土した。

#### 231号土壌 (第238・239図)

Q-3グリッドに位置していた。68号住居跡内であった。新旧関係は不明であった。平面形は不整形で、規模は長軸1.2m、短軸1.02m、深さ0.37mであった。主軸はN-40°-Wであった。覆土には焼土及び、炭化物が堆積していた。

遺物は土師器杯・甕が覆土上層より出土した。

#### 234号土壌 (第238・239図)

R-4グリッドに位置していた。25号住居跡内であった。新旧関係は不明であった。平面形は方形で、規模は長軸0.98m、短軸0.89m、深さ0.47mであった。主軸はN-21°-Wであった。覆土には焼土及び、炭化物が堆積していた。

遺物は土師器杯及び甕上半部が覆土下層より出土した。

#### 235号土壌 (第238・239図)

R-4グリッドに位置していた。25号住居跡内であった。新旧関係は不明であった。平面形は不整形で、規模は長軸0.78m、短軸0.67m、深さ0.54mであった。主軸はN-45°-Eであった。覆土には焼土及び、炭化物が堆積していた。

遺物は土師器甕が出土した。

#### 237号土壌 (第238・239図)

Q-4グリッドに位置していた。48号掘立柱建物跡に隣接していた。平面形は楕円形で、規模は長軸2.2m、短軸1.26m、深さ0.1mであった。主軸はN-40°-Wであった。覆土には焼土及び、炭化物が堆積していた。

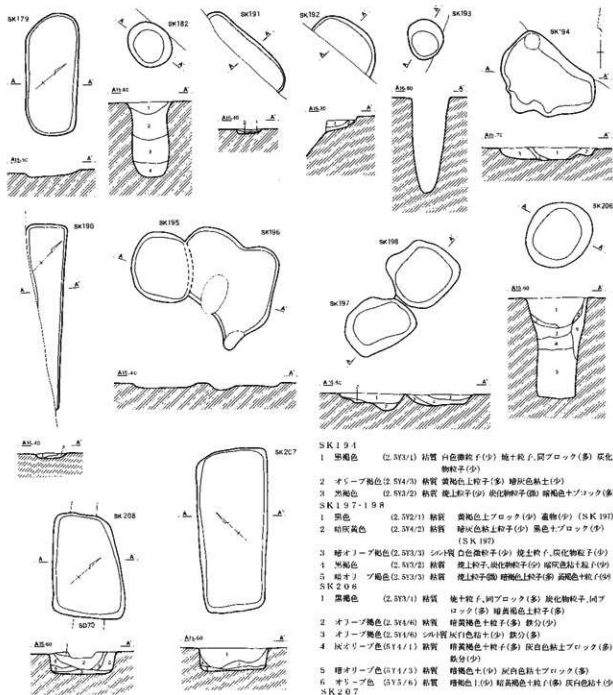
遺物は土師器杯及び台付甕が出土した。

#### ビット089 (第238図)

P-6グリッドに位置していた。8号掘立柱建物跡内であった。新旧関係は不明であった。平面形は不整形で、規模は長軸0.68m、短軸0.57m、深さ1.36mであった。主軸はN-43°-Eであった。覆土には炭化物が堆積していた。

遺物は貝殻及び瓜科植物種子及び表皮が底面より出土した。

第236図 土壌・ピット (9)

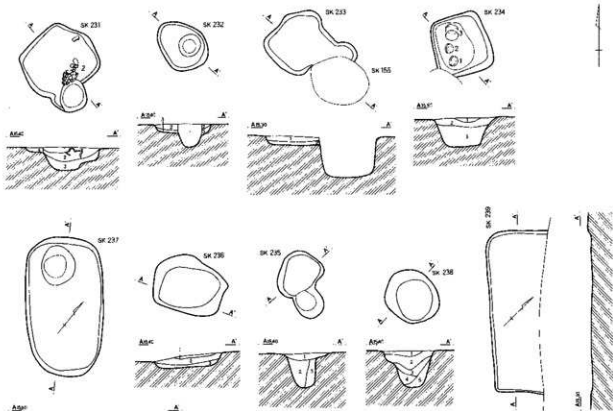


- SK 1 9 1  
 1 黒褐色 (2. 513/1) 粘質 白色塵状土(少) 塊十粒土・同ブロック(多) 炭化物粒土(少)  
 2 オリーブ褐色(2. 514/3) 粘質 黄褐色土粒土(多) 暗灰色粘土(少)  
 3 黒褐色 (2. 513/2) 粘質 塊十粒土(少) 炭化物粒土(多) 暗褐色土ブロック(多)  
 SK 1 9 7 - 1 9 8  
 1 黒色 (2. 512/1) 粘質 黄褐色土ブロック(少) 炭物(少) (SK 197)  
 2 暗灰黄色 (2. 514/2) 粘質 暗灰色粘土粒土(少) 黒色土ブロック(少)  
 (SK 197)  
 3 暗オリーブ褐色(2. 513/3) シルト質 白色塵状土(少) 塊十粒土・炭化物粒土(少)  
 4 黒褐色 (2. 513/2) 粘質 塊十粒土・炭化物粒土(少) 暗灰色粘土粒土(少)  
 5 粘土 ブ褐色(2. 513/3) 粘質 塊十粒土(多) 暗褐色土粒土(少)  
 SK 2 0 6  
 1 黒褐色 (2. 513/1) 粘質 塊十粒土・同ブロック(多) 炭化物粒土・同ブロック(多) 暗褐色土粒土(多)  
 2 オリーブ褐色(2. 514/6) 粘質 暗褐色土粒土(多) 砂分(少)  
 3 オリーブ褐色(2. 514/6) シルト質 灰白色粘土(少) 砂分(多)  
 4 灰オリーブ色(5.14.1) 粘質 暗褐色土粒土(多) 灰白色粘土ブロック(多) 砂分(少)  
 5 暗オリーブ色(5.14.3) 粘質 暗褐色土(少) 灰白色粘土ブロック(多)  
 6 オリーブ色 (5.15.6) 粘質 暗褐色土(少) 暗褐色土粒土(多) 灰白色粘土(少)  
 SK 2 0 7  
 1 オリーブ褐色 (2. 514/3) 粘質 暗褐色土粒土(多) 同ブロック(多) 灰白色土粒土(少)  
 2 暗灰黄色 (2. 514/2) 粘質 暗褐色土粒土(多) 同ブロック(多)  
 3 暗オリーブ褐色(2. 513/3) 粘質 暗褐色土粒土(少)  
 4 オリーブ褐色 (2. 514/4) 粘質 暗褐色土粒土(多) 同ブロック(多)  
 SK 2 0 8  
 1 暗灰黄色 (2. 514/2) 粘質 暗褐色土粒土(多) 灰白色土粒土(多)  
 2 黒褐色 (2. 513/2) 粘質 暗褐色土粒土(多) 灰白色土粒土(多)  
 3 黒褐色 (2. 513/2) 粘質 暗褐色土粒土(多) 灰白色土粒土(多)  
 4 黒褐色 (2. 513/2) 粘質 塊十粒土(多) 灰白色土粒土(多)  
 5 黒褐色 (2. 513/1) 粘質 暗褐色土粒土(多) 同ブロック(多) 灰白色土粒土(少)  
 6 オリーブ褐色(2. 514/3) 粘質 暗褐色土(少)



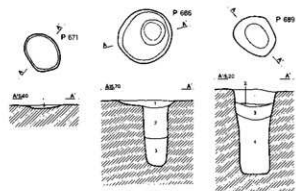


第238図 土壌・ピット (11)



- SK 2 3 1
- 1 黒褐色 (2. 513/1) 粘質 炭化物粒子・堆土粒子(少) 大塊礫(少)
  - 2 灰色 (2. 512/1) 粘質 炭化物粒子・堆土粒子(少)
  - 3 黒褐色 (2. 513/2) 粘質 炭化物粒子・堆土粒子(多) 黄褐色土ブロック(少)
  - 4 オリーブ褐色(2. 514/4) 粘質 灰色粘土と黄褐色土の互層
- SK 2 3 2
- 1 黒褐色 (2. 513/1) 粘質 堆土粒子・炭化物粒子(多) 遺物(少)
  - 2 黒褐色 (2. 513/2) 粘質 白色微粒子(少)
  - 3 オリーブ褐色(2. 514/4) 粘質 灰色粘土と黄褐色土の互層
- SK 2 3 3
- 1 黒褐色 (2. 513/2) 粘質 白色微粒子(少) 炭化物粒子(少)
  - 2 オリーブ褐色(2. 514/4) 粘質 灰色粘土と黄褐色土の互層
- SK 2 3 4
- 1 灰色 (2. 512/1) シルト質 炭化物・堆土粒子(少) しまり(X)
  - 2 黒褐色 (2. 513/1) 粘質 堆土粒子・炭化物粒子(少) 白色微粒子(少)
  - 3 黒褐色 (2. 513/1) 粘質 結核性土ブロック(多) 大型遺物(少)

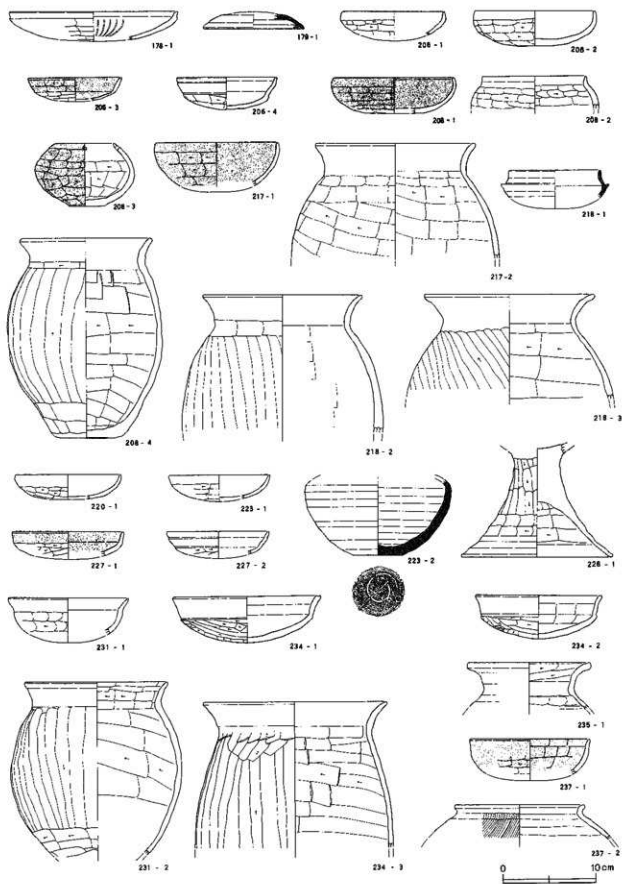
- SK 2 3 5
- 1 暗灰黄色 (2. 514/2) 粘質 堆土粒子・炭化物粒子(少)
  - 2 黒褐色 (2. 513/2) 粘質 堆土粒子・炭化物粒子(中) 黄褐色土ブロック(多) しまり(X)
  - 3 オリーブ褐色(2. 514/4) 粘質 灰色粘土と黄褐色土の互層 (部分)
- SK 2 3 6
- 1 暗灰黄色 (2. 514/2) 粘質 白色微粒子(少) 炭化物・堆土粒子(少)
  - 2 黒褐色 (2. 513/2) 粘質 黄褐色土ブロック(中) 炭化物・堆土粒子(中)
  - 3 オリーブ褐色(2. 514/4) 粘質 灰色粘土と黄褐色土の互層
- SK 2 3 7
- 1 灰色 (2. 512/1) 粘質 炭化物粒子・堆土粒子(少) 黄褐色土粒子(少)
- SK 2 3 8
- 1 黒褐色 (2. 513/2) 粘質 暗褐色土粒子(多) 同ブロック(多)
  - 2 黒褐色 (2. 513/2) 粘質 暗褐色土粒子(多) 同ブロック(多)
  - 3 オリーブ褐色(5. 13/2) 粘質 暗褐色土粒子(少) 同ブロック(多)
  - 4 オリーブ褐色(5. 12/2) シルト質 暗褐色土粒子(少) 同ブロック(少) 堆土粒子(少)
  - 5 オリーブ褐色(5. 13/2) 粘質 暗褐色土粒子(多) 同ブロック(多)



- 地区 P i i s
- P R 7 1
- 1 オリーブ褐色 (5V) 粘質 黄褐色土ブロック(少) 黄褐色土粒子(少)
- P 6 8 6
- 1 黄灰色 (2. 514/1) シルト質 白色微粒子(少) 堆土粒子・炭化物粒子(中)
  - 2 黒褐色 (2. 513/2) 粘質 堆土粒子(多)
  - 3 暗オリーブ褐色(2. 513/3) 粘質 暗褐色土と黄褐色土の小ブロックを多数に含むしまり(X)
- P 6 8 9
- 1 黒褐色 (2. 513/1) 粘質 堆土粒子・炭化物粒子(多) 遺物(少) 結核性土粒子(多)
  - 2 灰色 (7. 514/1) シルト質 鉄分沈着
  - 3 オリーブ褐色 (7. 513/1) 粘質 炭化物粒子(少) 植物繊維(多)
  - 4 結核灰色 (10G74/1) 粘質 植物繊維(少)



第239図 土壇・ピット出土遺物(6)



B区土壌出土遺物観察表(5)

番号	器種	口径	器高	底径	胎上	焼成	色調	残存	備考
178-1	土師器盤状杯	(18.0)	(3.2)	(18.0)	ABEF	3	浅黄褐色	5%未満	内面放射暗文
179-1	須恵器杯蓋	(10.8)	(1.8)	-	BF	1	灰白色	10%	湖西
206-1	土師器杯	(11.0)	(3.1)	(8.2)	ABD	4	褐色	5%未満	
206-2	土師器杯	(13.0)	3.7	(7.2)	ABDE	3	褐色	70%	
206-3	土師器杯	(10.0)	(2.5)	(8.8)	BF	3	明赤褐色	20%	内外面赤彩
206-4	土師器杯	10.6	3.4	9.2	ABE	3	褐色	50%	
208-1	土師器杯	(13.0)	(3.9)	(6.0)	BD	3	にぶい褐色	20%	内外面赤彩
208-2	土師器碗	11.0	-	-	ABEF	4	にぶい褐色	5%	
208-3	土師器小形無頸壺	6.2	6.7	4.7	ABDL	3	褐色	90%	外面赤彩 口縁部穿孔
208-4	土師器甕	14.2	21.2	7.3	ABDE	3	にぶい褐色	90%	
217-1	土師器杯	(13.2)	-	-	ABII	3	褐色	5%未満	内外面赤彩
217-2	土師器甕	(17.1)	-	-	ABDPH	4	褐色	15%	
218-1	須恵器杯	(10.0)	(4.1)	(11.6)	BFL	2	灰色	5%	不明
218-2	土師器甕	(17.0)	-	-	ABEFH	3	褐色	10%	
218-3	土師器甕	(18.2)	-	-	ADH	3	浅黄褐色	5%	
220-1	土師器杯	(11.4)	(2.6)	(7.4)	BDE	3	浅黄褐色	10%	
223-1	土師器杯	(11.0)	(2.8)	(8.0)	BDEG	3	褐色	5%	
223-2	須恵器長頸壺	-	-	5.3	BF	1	灰白色	20%	湖西 底面へう揃「×」印
226-1	土師器高杯	-	-	(16.2)	ABEFL	3	褐色	15%	
227-1	土師器杯	(12.0)	(3.0)	(11.6)	BFG	3	にぶい褐色	5%未満	内外面赤彩
227-2	土師器杯	(11.0)	(2.9)	(9.2)	BDE	3	にぶい褐色	10%	
231-1	土師器杯	(13.0)	(4.8)	(8.0)	BDE	3	褐色	5%	
231-2	土師器甕	15.4	-	-	ABDE	3	にぶい褐色	70%	
234-1	土師器杯	15.8	5.0	14.0	BDE	3	浅黄褐色	100%	
234-2	土師器杯	13.6	4.5	12.4	ABDE	3	浅黄褐色	100%	
234-3	土師器甕	19.7	-	-	ABEF	3	褐色	30%	
235-1	土師器甕	(13.2)	-	-	BDEG	3	褐色	5%未満	
237-1	土師器杯	(13.0)	(4.5)	(9.0)	BD	3	にぶい赤褐色	5%未満	内外面赤彩
237-2	土師器台付甕	14.0	-	-	ABF	3	にぶい褐色	5%未満	

B区土壌一覽表(1)

番号	位置	形態	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	主軸方位	出土遺物	時期	備考
87	N-2	方形	1.17	1.12	0.12	N-54°-W			
88	N-2	不整形	1.90	1.51	0.41	N-22°-W	杯	古墳	二段堀込
89	N-2	不整形	1.90	1.59	0.07	N-89°-E	杯	古代	
90	N-3	不整形	1.76	2.14	0.14	N-37°-E			3D-3Gより旧
91	M-3	不整形	1.00	-	0.12	N-0°			SE22.24より旧
92	N-3	円	1.70	1.47	0.17	N-0°			縄文
93	N-2	長方形	2.20	1.14	0.30	N-54°-W			
94	N-3	長方形	2.52	1.02	0.36	N-63°-W			SD-38より旧
95	O-3	長方形	2.48	1.64	0.10	N-17°-W			
96	N-4	不整形	2.07	1.37	0.40	N-80°-W	杯 甕	古墳	二段掘り込
97	O-4	不整形	1.94	1.37	0.10	N-60°-W			
98	O-2	円	1.82	1.70	0.50	N-39°-E	杯 甕	古代	二段掘り込
99	N-4	方形	1.07	0.64	0.13	N-50°-W			
100	O-1	長方形	1.47	0.80	0.10	N-27°-E			
102	O-2	楕円	0.80	0.66	0.27	N-0°			ST-6より旧
103	O-2	方形	1.70	1.31	0.30	N-36°-W	杯	古代	
104	O-1	円	0.80	0.76	0.47	N-0°			板碑直立出土
105	O-1	楕円	1.06	0.80	0.16	N-56°-E			
107	N-1	円	0.94	-	0.24	N-0°			
109	-	不明	-	-	-	-	杯 甕	古墳	底面のみ

B区土器一覧表(2)

番号	位級	形態	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	主軸方位	出土遺物	時期	備考
110	P-4	楕円	1.26	0.92	0.28	N-31°-W	坏 砥石	古代	
112	Q-5	長楕円	5.03	1.00	0.70	N-51°-W	坏 施 甕 甕	古墳	
113	Q-2	不整形	1.02	0.72	0.12	N-27°-E			
114	O-4	円	0.96	-	0.82	N-0°			
115	N-1	円	0.70	-	0.76	N-0°			
117	P-5	不整形	0.94	0.72	0.32	N-36°-E	坏	古代	
118	P-6	楕円	1.51	1.05	0.22	N-59°-E			
119	P-6	楕円	2.64	1.14	0.18	N-38°-E	坏 甕	古代	
122	R-7	円	1.06	-	0.26	N-0°	坏 甕	古代	
123	O-2	方形	1.47	1.41	0.17	N-63°-W			SJ-20より新
124	R-7	円	0.84	-	0.43	N-0°			
125	R-7	楕円	0.92	0.70	0.08	N-02°-E	壺		縄文
126	R-5	楕円	1.84	1.34	0.24	N-44°-W	坏 短頸壺	古代	SK127より新
127	R-5	楕円	3.18	2.02	0.62	N-80°-W	坏 蓋 鉢 長頸壺 甕	古代	SJ23より新
128	R-5	不整形	2.77	0.77	0.32	N-52°-W			二段掘り込
129	R-5	円	1.00	-	0.08	N-0°	高台盤	古代	
130	P-8	楕円	1.90	0.71	0.10	N-32°-W			SK135より旧
131	Q-8	長方形	2.30	1.03	0.18	N-0°			
132	O-4	不整形	1.27	1.07	0.32	N-87°-W	坏 鉢 壺	古墳	
133	Q-5	隅丸方形	1.34	1.23	0.17	N-61°-W	鉢		
134	R-5	楕円	0.94	0.70	0.22	N-3°-W			
135	P-8	長楕円	4.76	1.62	0.70	N-2°-W	坏	古代	階段状掘り込
136	Q-7	不整形	2.03	1.36	0.26	N-38°-E	坏	古代	二段掘り込
137	S-7	不整形	2.02	1.56	0.06	N-54°-E			
138	R-5	円	0.90	-	0.14	N-0°			
139	O-3	楕円	1.20	1.04	0.24	N-48°-W			SJ11より新
140	Q-8	楕円	0.90	0.63	0.12	N-40°-E			縄文
142	Q-7	円	0.86	-	0.08	N-0°			縄文
143	Q-8	楕円	1.90	1.07	0.23	N-41°-E	小形甕 甕	古墳	SB11より旧 二段掘り込
144	R-5	楕円	0.78	0.68	0.10	N-36°-W			SJ39より新
145	Q-7	楕円	0.90	0.47	0.12	N-53°-W			縄文
146	Q-7	楕円	0.54	0.34	0.14	N-35°-E			
147	Q-4	円	0.82	-	0.43	N-0°	坏 甕	古代	
148	Q-7	円	1.20	-	0.42	N-0°	坏	古代	
149	Q-5	不整形	2.38	1.26	0.48	N-78°-W	坏	古代	
150	R-7	円	1.25	-	0.34	N-0°			
151	S-7	不整形	2.52	2.02	0.13	N-68°-E			
152	R-6	楕円	2.46	0.90	0.40	N-43°-W	坏 高坏	古墳	二段掘り込
153	S-6	楕円	1.61	1.42	0.30	N-84°-W			
154	S-7	楕円	2.00	1.10	0.50	N-89°-W	高坏	古墳	
155	R-4	円	0.89	0.70	0.63	N-75°-E	坏 甕	古墳	SJ45より旧
156	T-7	楕円	0.78	0.58	0.16	N-64°-W	甕	古墳	SJ62より古
157	T-6	不整形	0.84	0.70	0.42	N-52°-W			Pit有り
158	T-6	不整形	0.84	0.70	0.20	N-52°-E			
161	O-4	円	0.72	-	0.04	N-0°			
163	O-1	楕円	0.90	0.46	0.18	N-83°-E			
164	Q-3	方形	1.30	1.10	0.24	N-42°-W	甕 甕	古墳	SK165より旧
165	Q-3	楕円	0.71	0.44	0.36	N-70°-W			SK164より新
166	Q-3	不整形	0.94	1.01	0.62	N-38°-E			Pit有り
167	O-2	円	0.80	-	1.42	N-0°	坏 高坏 甕 甕	古墳	二段掘り込
168	P-2	不整形	0.60	0.50	0.16	N-62°-E			
169	P-2	楕円	0.70	0.52	0.46	N-57°-E			Pit有り
170	Q-2	円	0.78	0.67	0.20	N-36°-E			



B区土構一覧表(3)

番号	位置	形態	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	土軸方位	出土遺物	時期	備考
171	Q-3	円	0.64	0.54	0.08	N-35°-E			
172	P-3	円	0.87	0.76	0.97	N-65°-E			SK173より新
173	P-3	楕円	0.60	0.33	0.14	N-89°-W	坏	古墳	SK172より旧
174	R-7	不整形	2.10	1.52	0.47	N-42°-E	坏 高坏	古墳	二段掘り込
175	P-2	方形	2.08	2.00	0.14	N-35°-E			
176	P-2	不整形円	1.41	0.90	1.28	N-30°-W	坏	古墳	二段掘り込
177	P-2	不整形	1.56	1.50	0.31	N-85°-W	甕	古代	SD-45より旧
178	P-2	長方形	1.57	0.93	0.20	N-55°-W	坏	古代	SD-45より旧
179	P-2	楕円	1.95	0.81	0.10	N-53°-W	蓋	古墳	
182	O-2	円	0.76	-	1.17	N-0°			
190	Q-3	長方形	2.92	0.62	0.08	N-41°-W			
191	Q-3	楕円	1.62	0.34	0.04	N-47°-W			
192	Q-3	楕円	1.20	0.50	0.20	N-50°-W	紡錘車		
193	N-1	円	0.64	-	1.51	N-0°			
194	O-4	不整形	1.57	1.20	0.20	N-50°-W			
195	P-2	不整形	1.10	1.00	0.07	N-04°-E			
196	P-2	不整形	1.62	1.58	0.10	N-61°-W			
197	Q-5	楕円	1.10	0.80	0.28	N-70°-E			
198	Q-5	不整形	1.04	1.01	0.18	N-40°-E			
206	R-3	円	1.12	0.94	1.58	N-40°-E	坏 刀子	古代	
207	R-3	長方形	2.60	1.10	0.36	N-50°-E	羽口		
208	R-3	長方形	1.62	1.10	0.34	N-53°-W	坏 甕 甕	古墳	SD70より旧
211	R-2	長方形	1.70	0.94	0.30	N-48°-W			SD70より旧
215	Q-3	円	0.90	-	0.14	N-0°			SJ-93より新
217	Q-3	楕円	1.10	0.67	0.20	N-51°-W	甕		SJ-93より新
218	Q-3	楕円	0.94	0.43	0.10	N-46°-W	坏 甕	古墳	SJ-93より新
219	Q-3	長方形	2.98	1.32	0.18	N-49°-E			SJ-83より旧
220	Q-5	不整形	1.77	1.28	0.21	N-37°-E	坏	古代	SB-47より旧
221	Q-9	不整形	2.32	1.34	0.16	N-45°-E			
222	R-9	円	0.92	-	0.13	N-38°-W			
223	R-9	不整形	1.60	0.74	0.24	不明	坏 長頸甕	古代	
226	S-3	長方形	1.83	0.77	0.06	N-32°-E	高坏	古墳	
227	S-3	長方形	1.84	1.00	0.10	N-42°-E	坏	古墳	
228	R-2	長方形	2.36	1.20	0.38	N-52°-W			
230	R-3	長方形	1.13	0.90	0.20	N-32°-E			
231	Q-3	不整形	1.20	1.02	0.37	N-48°-E	坏 甕	古墳	二段掘り込
232	Q-3	楕円	0.90	0.75	0.16	N-57°-W			PII有り
233	R-4	不整形	1.04	0.83	0.17	N-49°-W			SK-155より旧
234	R-4	方形	0.98	0.89	0.47	N-21°-W	坏 甕	古墳	二段掘り込
235	R-4	不整形	0.78	0.67	0.54	N-45°-E	甕		
236	R-4	楕円	1.17	0.92	0.21	N-70°-W			
237	Q-4	楕円	2.20	1.26	0.10	N-40°-W	坏 台付甕	古墳	
238	R-2	円	0.90	0.78	0.60	N-0°			
239	R-2	長方形	2.52	0.80	0.04	N-48°-W			
P671	P-2	楕円	0.62	0.50	0.04	N-38°-W			
P686	P-2	円	0.88	-	1.06	N-0°			二段掘り込
P689	P-6	不整形	0.68	0.57	1.36	N-43°-W			SB8内側

#### (4) 井戸跡

##### 21号井戸跡 (第240図)

遺構説明の前に井戸跡掘り込み面の基盤土層の土層説明を記す。

- I. 黄褐色粘質土 遺構確認面の基盤土壌
- II. 黄灰色土 シルト質土壌
- III. 青灰色 シルト質土壌 (水位停滞面)

N-3グリッドに位置していた。38号溝及び4号住居跡を切っていた。平面形は円形で、規模は長径2.32m、短径1.94m、深さ3.08mであった。掘り込みはロート状で、底面は平坦であった。覆土上層は炭化物の帯状堆積が認められ、下層には粘質土が堆積していた。遺物の出土は、なかった。

##### 22号井戸跡 (第240図)

M-3グリッドに位置していた。24号井戸跡に隣接していた。また91号土壌を切っていた。平面形は不整円形で、規模は長径1.38m、短径1.22m、深さ1.42mであった。掘り込みはほぼ垂直で、底面は平坦であった。覆土上層には灰白色砂粒が含まれ、下層には褐色土ブロックが堆積していた。出土した遺物は、なかった。

##### 23号井戸跡 (第240図)

M-3グリッドに位置していた。22号井戸跡に隣接していた。平面形は円形で、規模は長径1.12m、短径1.08m、深さ2.02mであった。掘り込みはほぼ垂直で、底面は丸底であった。覆土上層には黄褐色土が堆積し、下層には植物繊維が堆積していた。出土した遺物は、なかった。

##### 24号井戸跡 (第240図)

M-32グリッドに位置していた。22号井戸跡に隣接していた。また、91号土壌を切っていた。平面形は円形で、規模は長径1.36m、短径1.25m、深さ1.57mであった。掘り込みはほぼ垂直で、底面は平坦であった。覆土上層には炭化物が堆積し、下層には粘質土が堆積していた。

覆土中層より加工され、表面が焼けた安山岩が多量に出土した。

##### 25号井戸跡 (第240図)

N-4グリッドに位置していた。平面形は円形で、規模は径1.16m、深さ1.89mであった。掘り込みはほぼ垂直で、底面は平坦であった。覆土には炭化物が含まれていた。出土した遺物は、なかった。

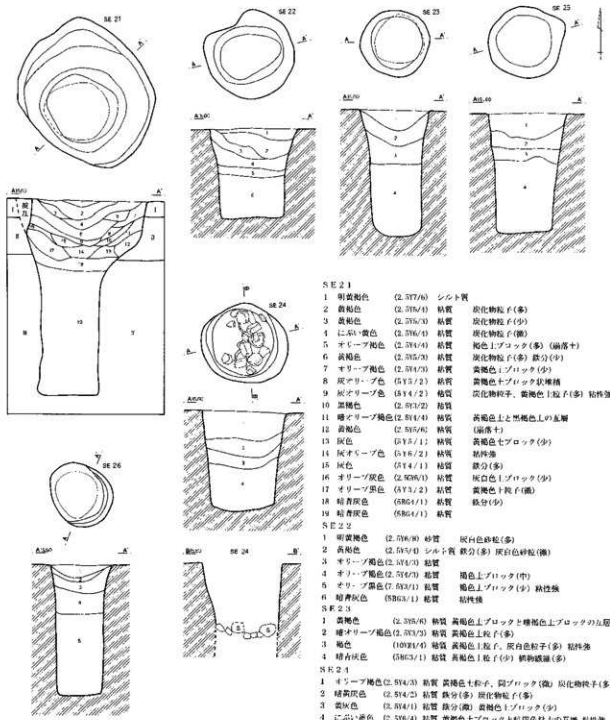
##### 26号井戸跡 (第240図)

N-2グリッドに位置していた。41号溝に切られていた。平面形は不整円形で、規模は長径1.1m、短径0.94m、深さ2.06mであった。掘り込みは垂直で、底面は平坦であった。覆土は粘質土が主体を占め、下層には植物繊維が堆積していた。出土した遺物は、なかった。

##### 27号井戸跡 (第241図)

P-4グリッドに位置していた。26号住居跡を切って構築していた。平面形は円形で、規模は長径1.94m、短径1.9m、深さ1.76mであった。掘り込みはロート状で、底面は平坦であった。断面観察の結果埋没過程の中で再利用されたと考えられる。覆土上層には炭化物の帯状堆積が認められ、下層は粘質土が堆積していた。出土した遺物は、なかった。

第240図 井戸跡 (1)



SE 21

- |    |                   |      |                     |
|----|-------------------|------|---------------------|
| 1  | 明炭褐色 (2.517/6)    | シルト質 | 炭化物粒子(多)            |
| 2  | 黄褐色 (2.515/4)     | 粘質   | 炭化物粒子(少)            |
| 3  | 黄褐色 (2.515/3)     | 粘質   | 炭化物粒子(少)            |
| 4  | にんじょう色 (2.516/4)  | 粘質   | 炭化物粒子(多)            |
| 5  | オリーブ褐色 (2.514/4)  | 粘質   | 褐色土ブロック(多) (崩落土)    |
| 6  | 黄褐色 (2.515/3)     | 粘質   | 炭化物粒子(多) 鉄分(少)      |
| 7  | オリーブ褐色 (2.514/3)  | 粘質   | 黄褐色土ブロック(少)         |
| 8  | 灰オリーブ色 (5.13/2)   | 粘質   | 黄褐色土ブロック状堆積         |
| 9  | 灰オリーブ色 (5.14/2)   | 粘質   | 炭化物粒子、黄褐色土粒子(多) 粘性强 |
| 10 | 黒褐色 (2.513/2)     | 粘質   |                     |
| 11 | 暗オリーブ褐色 (2.514/4) | 粘質   | 黄褐色土と黒褐色土の互層 (崩落土)  |
| 12 | 黄褐色 (2.515/4)     | 粘質   | 黄褐色土ブロック(少)         |
| 13 | 灰色 (5.13/1)       | 粘質   | 粘性强                 |
| 14 | 灰オリーブ色 (5.14/2)   | 粘質   | 鉄分(多)               |
| 15 | 灰色 (5.14/1)       | 粘質   | 灰白色土ブロック(少)         |
| 16 | オリーブ灰色 (2.509/1)  | 粘質   | 黄褐色土粒子(多)           |
| 17 | オリーブ灰色 (5.13/2)   | 粘質   | 鉄分(少)               |
| 18 | 暗青灰色 (5.861/1)    | 粘質   |                     |
| 19 | 暗青灰色 (5.861/1)    | 粘質   |                     |

SE 22

- |   |                  |      |                |
|---|------------------|------|----------------|
| 1 | 明炭褐色 (2.516/0)   | 砂質   | 灰白色砂粒(多)       |
| 2 | 黄褐色 (2.515/4)    | シルト質 | 灰白色砂粒(多)       |
| 3 | オリーブ褐色 (2.514/3) | 粘質   |                |
| 4 | オリーブ褐色 (2.514/3) | 粘質   | 褐色土ブロック(中)     |
| 5 | オリーブ褐色 (7.513/1) | 粘質   | 褐色土ブロック(少) 粘性强 |
| 6 | 暗青灰色 (5.863/1)   | 粘質   | 粘性强            |

SE 23

- |   |                   |    |                      |
|---|-------------------|----|----------------------|
| 1 | 黄褐色 (2.515/4)     | 粘質 | 黄褐色土ブロックと暗褐色土ブロックの互層 |
| 2 | 暗オリーブ褐色 (2.513/2) | 粘質 | 黄褐色土粒子(多)            |
| 3 | 褐色 (1.0091/4)     | 粘質 | 黄褐色土粒子、灰白色粒子(多) 粘性强  |
| 4 | 暗青灰色 (5.863/1)    | 粘質 | 黄褐色土粒子(多) 粘性强        |

SE 24

- |   |                  |    |                          |
|---|------------------|----|--------------------------|
| 1 | オリーブ褐色 (2.514/3) | 粘質 | 黄褐色土粒子、同ブロック(黄) 炭化物粒子(多) |
| 2 | 暗炭褐色 (2.514/2)   | 粘質 | 鉄分(多) 炭化物粒子(多)           |
| 3 | 黄褐色 (2.514/1)    | 粘質 | 鉄分(多) 炭褐色土ブロック(少)        |
| 4 | にんじょう色 (2.516/4) | 粘質 | 黄褐色土ブロックと暗褐色土の互層 粘性强     |

SE 25

- |   |                  |    |                          |
|---|------------------|----|--------------------------|
| 1 | 暗オリーブ褐色 (5.14/3) | 粘質 | 黄褐色土粒子(少) 炭化物粒子(中) 遺物(少) |
| 2 | 暗オリーブ褐色 (5.14/2) | 粘質 | 黄褐色土粒子(少) 炭化物粒子(中) 遺物(少) |
| 3 | 灰色 (5.14/1)      | 粘質 | 鉄分(少)                    |
| 4 | 暗オリーブ褐色 (5.13/1) | 粘質 | 黄褐色土粒子(多) 炭化物粒子(多)       |

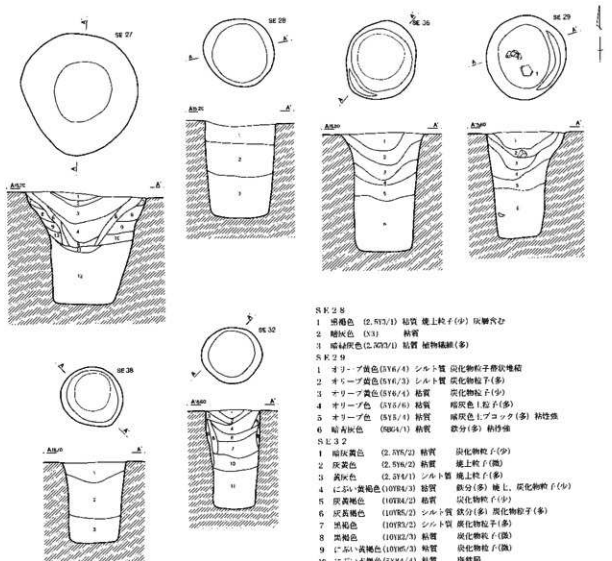
SE 26

- |   |                 |      |         |
|---|-----------------|------|---------|
| 1 | 灰白色 (5.17/2)    | 粘質   | 炭酸鈣     |
| 2 | オリーブ褐色 (5.13/1) | 粘質   | 炭酸鈣     |
| 3 | 灰色 (7.514/1)    | シルト質 | 鉄分比多    |
| 4 | 暗炭褐色 (1.0075/2) | 粘質   |         |
| 5 | 暗炭褐色 (1.0071/1) | 粘質   | 植物繊維(多) |

SE 26

- |   |                 |      |         |
|---|-----------------|------|---------|
| 1 | 灰白色 (5.17/2)    | 粘質   | 炭酸鈣     |
| 2 | オリーブ褐色 (5.13/1) | 粘質   | 炭酸鈣     |
| 3 | 灰色 (7.514/1)    | シルト質 | 鉄分比多    |
| 4 | 暗炭褐色 (1.0075/2) | 粘質   |         |
| 5 | 暗炭褐色 (1.0071/1) | 粘質   | 植物繊維(多) |

第241図 井戸跡(2)



SE 27

- 1 オリーブ黄色(516/3) 粘質 炭化物粘状堆積
- 2 灰色 (512/1) シルト質 炭化物粘状堆積
- 3 灰オリーブ色(514/2) 粘質 灰白色粘土と緑褐色土の互層
- 4 灰色 (515/1) 粘質 粘状堆 磁面炭化物粘状堆積
- 5 灰色 (514/1) 粘質 植物繊維(少)
- 6 灰オリーブ色(516/1) 粘質 灰白色粘土(多)
- 7 暗褐色色 (2,512/2) 粘質
- 8 黒褐色 (2,513/1) シルト質 灰粘層
- 9 灰オリーブ色(514/2) 粘質
- 10 灰色 (514/1) 粘質
- 11 青灰色 (1086/1) 粘質 粘状堆
- 12 暗褐色色 (1051/1) 粘質 粘状堆

SK 28

- 1 黒褐色 (2,513/1) 粘質 焼上粘土(少) 灰層穴心
- 2 暗灰色 (53) 粘質 植物繊維(多)
- 3 暗緑灰色(2,502/1) 粘質 植物繊維(多)

SK 29

- 1 オリーブ黄色(516/4) シルト質 炭化物粘状堆積
- 2 オリーブ黄色(516/3) シルト質 炭化物粘状堆積
- 3 オリーブ黄色(516/4) 粘質 炭化物粘状堆積
- 4 オリーブ色 (516/6) 粘質 暗灰色土(粘)(多)
- 5 オリーブ色 (515/1) 粘質 暗灰色土ブロック(多) 粘状堆
- 6 暗褐色色 (086/1) 粘質 鉄分(多) 粘状堆

SK 32

- 1 暗灰黄色 (2,515/2) 粘質 炭化物粘状(少)
- 2 灰黄色 (2,516/2) 粘質 焼上粘土(微)
- 3 黄灰色 (2,514/1) シルト質 焼上粘土(多)
- 4 にじみ-黄褐色(1078/3) 粘質 鉄分(多) 焼上、炭化物粘状(少)
- 5 暗黄褐色 (1078/2) 粘質 炭化物粘状(少)
- 6 灰黄褐色 (1078/5) シルト質 鉄分(多) 炭化物粘状(多)
- 7 暗褐色 (1078/2) シルト質 炭化物粘状(多)
- 8 黒褐色 (1078/3) 粘質 炭化物粘状(微)
- 9 にじみ-黄褐色(1078/5) 粘質 炭化物粘状(微)
- 10 にじみ-赤褐色(518/4) 粘質 炭状堆
- 11 オリーブ黒色(1013/1) 粘質 鉄分(少) 炭化物粘状(微)

SE 36

- 1 暗オリーブ褐色(2,513/3) 粘質 白色塵粒子(微) 焼上、炭化物粘状(少)
- 2 暗褐色 (2,512/2) 粘質 焼上、炭化物粘状(中) 遺物(多)
- 3 暗褐色 (2,513/1) 粘質 焼上、炭化物粘状(少) 黄褐色土ブロック(少)
- 4 灰オリーブ色 (514/2) 粘質 暗灰色粘土と黄褐色土ブロックの互層
- 5 暗灰色 (083) 粘質 植物繊維(少)
- 6 暗灰色 (1086/1) シルト質 暗灰色粘土と黄褐色土の互層

SE 38

- 1 暗オリーブ褐色(2,513/3) 粘質 白色塵粒子(少) 焼上、炭化物粘状(中) 遺物(少)
- 2 暗褐色 (2,512/2) 粘質 焼上粘土、黄ブロック(少) 炭化物粘状(微)
- 3 灰色 (514/1) 粘質 植物繊維(少)



### 28号井戸跡 (第241図)

O-5グリッドに位置していた。1号周溝状遺構を切っていた。平面形は円形で、規模は径1.14m、深さ1.5mであった。掘り込みは垂直で、底面は平坦であった。覆土上層には焼土が堆積し、下層には植物繊維が堆積していた。出土した遺物は、なかった。

### 29号井戸跡 (第241・242図)

R-4グリッドに位置していた。38・39号住居跡を切っていた。平面形は円形で、規模は径1.3mで、深さ1.66mであった。掘り込みは一部テラスをもち、垂直で、底面は平坦であった。覆土上層には炭化物が堆積し、下層には粘質土が堆積していた。

遺物は片口鉢のほか、破砕された安山岩が出土した。

### 32号井戸跡 (第241図)

S-6グリッドに位置していた。56号住居跡を切っていた。平面形は円形で、規模は径0.9m、深さ1.56mであった。掘り込みはほぼ垂直で、底面は平坦であった。覆土には炭化物が多量に含まれていた。出土した遺物は、なかった。

### 36号井戸跡 (第241・242図)

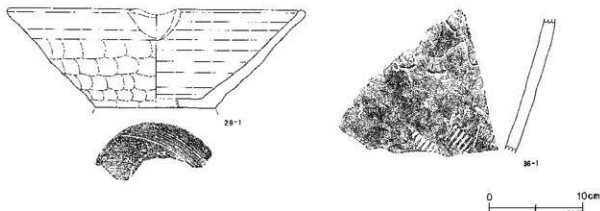
O-2グリッドに位置していた。20号住居跡に隣接していた。平面形は円形で、規模は長径1.22m、短径1.12m、深さ1.9mであった。掘り込みは垂直で、底面は平坦であった。覆土上層には焼土及び炭化物が堆積し、下層には植物繊維が堆積していた。

遺物は中世の甕が出土した。

### 38号井戸跡 (第241図)

O-2グリッドに位置していた。12号住居跡を切っていた。平面形は円形で、規模は長径1.02m、短径0.96m、深さ1.29mであった。掘り込みは垂直で、底面は平坦であった。覆土上層には焼土及び炭化物を含み、下層には植物繊維が堆積していた。出土した遺物は、なかった。

第242図 井戸跡出土遺物



B区井戸跡出土遺物観察表

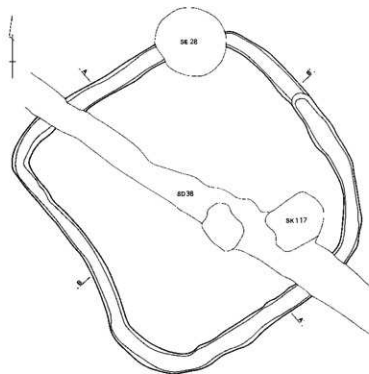
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
29-1	片口鉢	(32.0)	9.8	(13.0)	BCF	2	灰白色	25%	(中世)
36-1	甕	-	-	-	B	1	黒褐色	5%未満	(中世)

## (5) 方形周溝状遺構

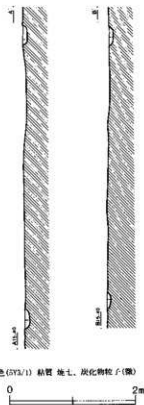
### 1号方形周溝状遺構 (第243図)

O・P-5グリッドに位置していた。29号井戸跡及び38号溝に切られていた。平面形は南側コーナーがやや張り出す、隅丸方形の一周する溝であった。主軸はN-40°-Wで、溝間長軸幅は4.12m、短軸幅は3.86m

第243図 方形周溝状遺構



であった。溝幅は38cm、深さ8cmで、断面逆台形であった。覆土には微量の焼土及び、炭化物が含まれていた。周溝内には柱穴が複数確認されたが、いずれも本遺構に伴うものでないと判断した。出土した遺物は、なかった。



## (6) 溝・堀・柵列

### 37号溝 (第244・245・249・254・260図)

M・3~Q・4グリッドに位置していた。北端は、調査区外に、南端は44号住居跡手前で立ち上がっていた。また、O・2グリッドで屈曲していた。主軸はN-15°-E及びN-50°-Wで直線であった。規模は幅0.6m、深さ0.2m、断面は箱形で底面は平坦であった。覆土は黄褐色土ブロックが堆積していた。

遺物は須恵器壺が出土した。

### 38号溝 (第244・246・248・251・252・254・260図)

N・2~R・9グリッドに位置していた。西端は、調査区外に東側は調査区に沿ってC区へ続いていた。4・7号住居跡を切っていた11・12・14号掘立柱建物跡を切っていた。主軸はN-58°-Wで微高地形に沿

っていた。規模は幅1.1m、深さ0.4mで、断面逆台形であった。覆土には多量の炭化物が堆積していた。

遺物は土師器杯・須恵器杯・蓋・播鉢のほか、土製紡錘車 (第266図23) が出土した。

### 39号溝 (第244・254図)

M・4~N・4グリッドに位置していた。底面近くで検出したため一部のみ残存していた。北側は調査区外に南側は38号溝手前で立ち上がっていた。また、37号溝に平行していた。主軸はN-21°-Eで直線であった。規模は幅0.3m、深さ0.15mで、断面U字形であった。覆土は粘質土が堆積していた。出土した遺物は、なかった。

#### 40号溝 (第244・246・254図)

N・3～N・4グリッドに位置していた。西端は3号住居跡手前で、東端は96号土壌で立ち上がっていた。39号溝を切っていた。主軸はN-57°-Wで直線であった。規模は幅0.5m、深さ0.5mで、断面V字形であった。覆土は黄褐色土ブロックが堆積していた。出土した遺物は、なかった。

#### 41号溝 (第244・245・247・249図)

M・2～Q・3グリッドに位置していた。北端は、調査区外に、南端は37号溝手前で立ち上がっていた。また、O・2グリッドで屈曲していた。37号溝に平行していた。主軸はN-17°-E及びN-55°-Wで直線であった。規模は幅0.65m、深さ0.3mで、断面は逆台形形で底面は平坦であった。覆土は黄褐色土が堆積していた。出土した遺物は、なかった。

#### 42号溝 (第244・245・254・260・266・271図)

N・1～Q・1グリッドに位置していた。両端は、調査区外に続いていた。21・46・47号住居跡を切っていた。また、堀に切られていた。堀以南では掘り込みが大きくなり、掘り替えが行なわれていた。主軸はN-18°-Eで蛇行していた。規模は幅1.2m、深さ0.6mで、断面逆台形であった。覆土上層は粘質土が堆積していた。

遺物は土師器杯・高杯、須恵器鉢・甕、中世の鉢・青磁碗(第271図3)のほか、土錘(第266図13)、土玉(第266図16)が出土した。

#### 43号溝 (第244・245・246・247・254・267図)

O・2～3グリッドに位置していた。北側は7号住居跡内で立ち上がり、南側は37号溝に接続していた。7・12号住居跡を切っていた。主軸はN-23°-Eで湾曲していた。規模は幅0.4m、深さ0.2mで、断面逆台形であった。覆土は37号溝と同一であった。

遺物は磨石(第267図3)が出土した。

#### 44号溝 (第247・254図)

O・3グリッドに位置していた。底面近くで検出したため一部のみ残存していた。37号溝に平行していた。また、11・12・36号住居跡を切っていた。主軸はN-

50°-Wで直線であった。規模は幅0.4m、深さ0.15mで、断面逆台形であった。覆土は37号溝と同一であった。出土した遺物は、なかった。

#### 45号溝 (第245・247・254図)

P・1～2グリッドに位置していた。底面近くで検出したため一部のみ残存していた。37号溝に平行していた。また、15号住居跡を切っていた。主軸はN-55°-Wで直線であった。規模は幅0.3m、深さ0.15mで、断面箱形であった。覆土は37号溝と同一であった。出土した遺物は、なかった。

#### 46号溝 (第248・249・254・260・272図)

N・5～Q・3グリッドに位置していた。北東側は調査区外に南西側は83号住居跡で立ち上がっていた。38号溝及び、26・42・83・93号住居跡を切っていた。主軸はN-37°-Eで直線であった。規模は幅0.65m、深さ0.45mで、断面U字形であった。覆土は粘質土が堆積していた。

遺物は土師器杯・鉢・甕のほか、釘(第272図14)が出土した。

#### 47号溝 (第251・254図)

P・7～8グリッドに位置していた。底面近くで検出したため一部のみ残存していた。49号溝に平行していた。主軸はN-41°-Wで直線であった。規模は幅0.45m、深さ0.1mで、断面箱形であった。覆土は粘質土が堆積していた。出土した遺物は、なかった。

#### 49号溝 (第251・252・254図)

P・8～Q・9グリッドに位置していた。西側は調査区外に、東側は56号溝に切られていた。また50号溝にも切られていた。主軸はN-41°-Wで直線であった。規模は幅0.75m、深さ0.3mで、二段掘り込みであった。覆土は粘質土が堆積していた。

遺物は174号土壌で出土した須恵器高杯の一部が出土した。

#### 50号溝 (第251・253・254・260図)

Q・9～S・8グリッドに位置していた。東端は調査区外に続き、西側は元荒川旧河道によって切られていた。49号溝を切り38・51号溝に切られていた。主軸

はN-50°-Eで調査区内を大きく蛇行していた。規模は幅0.7m、深さ0.1mで、断面箱形であった。覆土は粘質土が堆積していた。

遺物は須恵器杯が出土した。

#### 51号溝 (第251・252・255図)

P・8~Q・7グリッドに位置していた。西端は調査区外に続き、東側は56号溝によって切られていた。49号溝と平行していた。主軸はN-46°-Wで直線であった。規模は幅0.6m、深さ0.2mで、断面箱形であった。覆土は粘質土が堆積していた。出土した遺物は、なかった。

#### 52号溝 (第250・255図)

R・4~T・7グリッドに位置していた。西端は43号住居跡で立ち上がり、東側は56号溝に切られていた。53号溝と平行していた。主軸はN-58°-Wで直線であった。規模は幅0.3m、深さ0.15mで、断面箱形であった。覆土は粘質土が堆積していた。出土した遺物は、なかった。

#### 53号溝 (第250・255図)

R・4~S・5グリッドに位置していた。底面のみの検出で一部残存していた。52号溝と平行していた。主軸はN-58°-Wで直線であった。規模は幅0.3m、深さ0.15mで、断面箱形であった。覆土は粘質土が堆積していた。出土した遺物は、なかった。

#### 56号溝 (第252・253・255図)

Q・9~T・7グリッドに位置していた。調査区を横断する溝であった。南端は元荒川旧河道によって大部分が壊されていた。57・58・59・61号溝と平行していた。主軸はN-45°-Wで直線であった。規模は幅2.2m、深さ0.7mで、断面V字形及び、逆台形であった。土層観察の結果、計5回の掘り替えが行なわれていた。56E溝は断面のみで平面図状には存在していない。56Cは堀とはほぼ同一の覆土をもつ溝であった。56A・B・Dは57・58・59・61号溝とはほぼ同一の覆土であった。遺物は土師器小破片が出土したが図示し得るものはなかった。

#### 57・58・59・61号溝 (第252・253・256・260図)

R・10~T・7グリッドに位置していた。56号溝に平行していた。南端は元荒川旧河道によって壊されていた。主軸はN-45°-Wで直線及び僅かに蛇行していた。規模は幅0.3~0.6m、深さ0.1~0.2mで、断面箱形及びU字形であった。覆土には炭化物が堆積していた。56号溝とはほぼ同一覆土をもつ溝であった。

遺物は57号溝より土師器杯・壺が出土した。

#### 68号溝 (第247・256図)

P・2~Q・3グリッドに位置していた。底面のみの検出で一部残存していた。45号溝と平行していた。主軸はN-52°-Wで直線であった。規模は幅0.2m、深さ0.15mで、断面箱形であった。覆土は粘質土が堆積していた。出土した遺物は、なかった。

#### 69号溝 (第247図)

P・3~4グリッドに位置していた。底面のみの検出で一部残存していた。52号溝と平行していた。5号欄列に平行していた。主軸はN-37°-Eで直線であった。規模は幅0.2m、深さ0.1mで、断面U字形であった。覆土は粘質土が堆積していた。出土した遺物は、なかった。

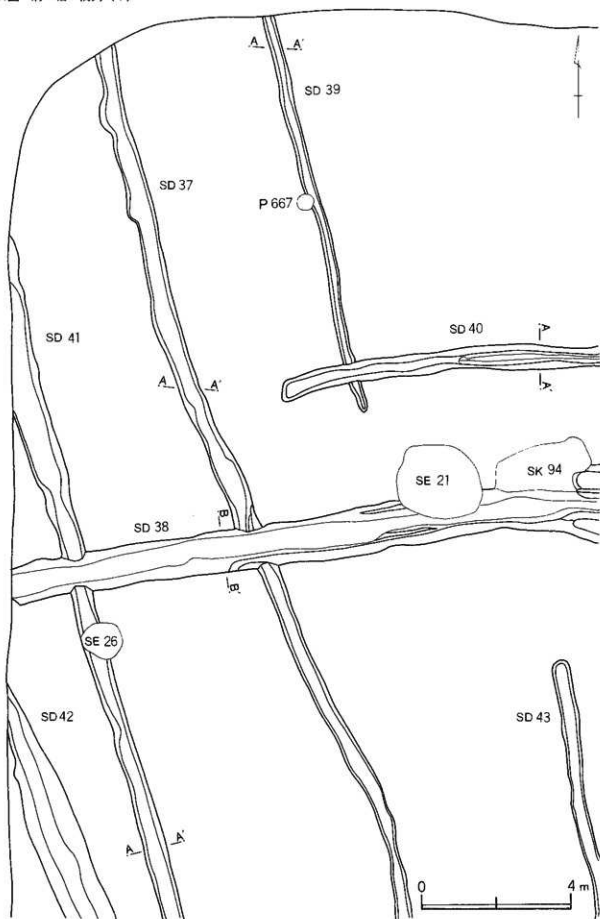
#### 70号溝 (第247・250・260図)

Q・1~S・4グリッドに位置していた。元荒川旧河道に平行していた。全ての遺構を切っていた。主軸はN-55°-Wで僅かに蛇行していた。規模は幅0.3m、深さ0.2mで、断面箱形であった。覆土は粘質土が堆積していた。

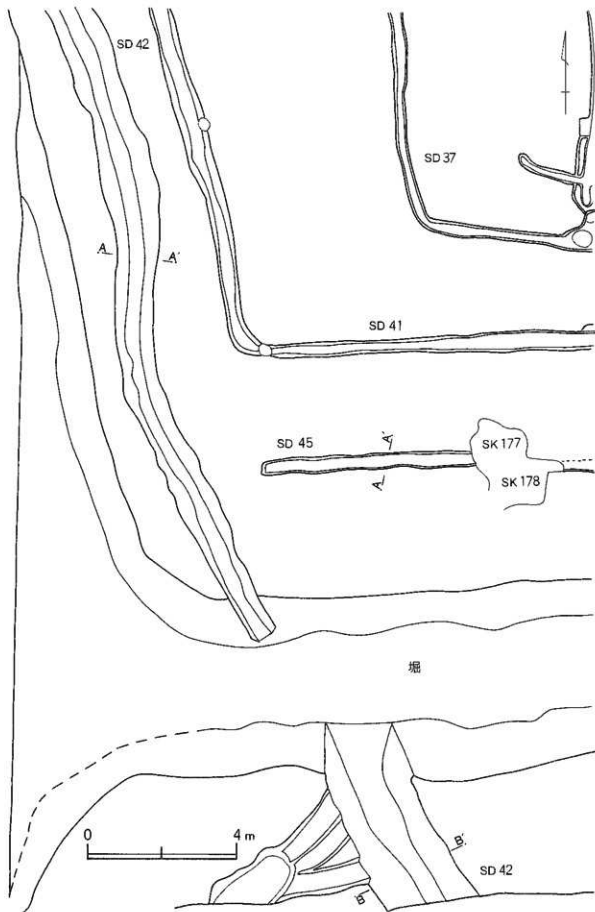
遺物は土師器杯、須恵器蓋が出土した。

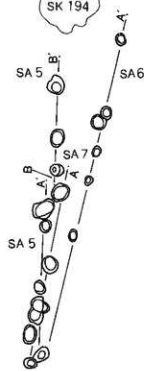
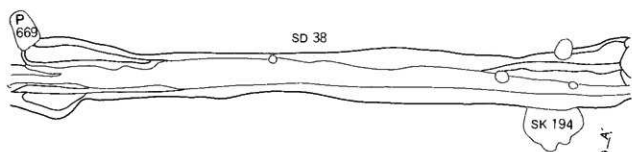
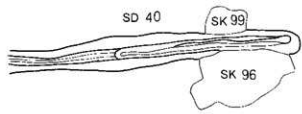


第244図 溝・堀・柵列 (1)

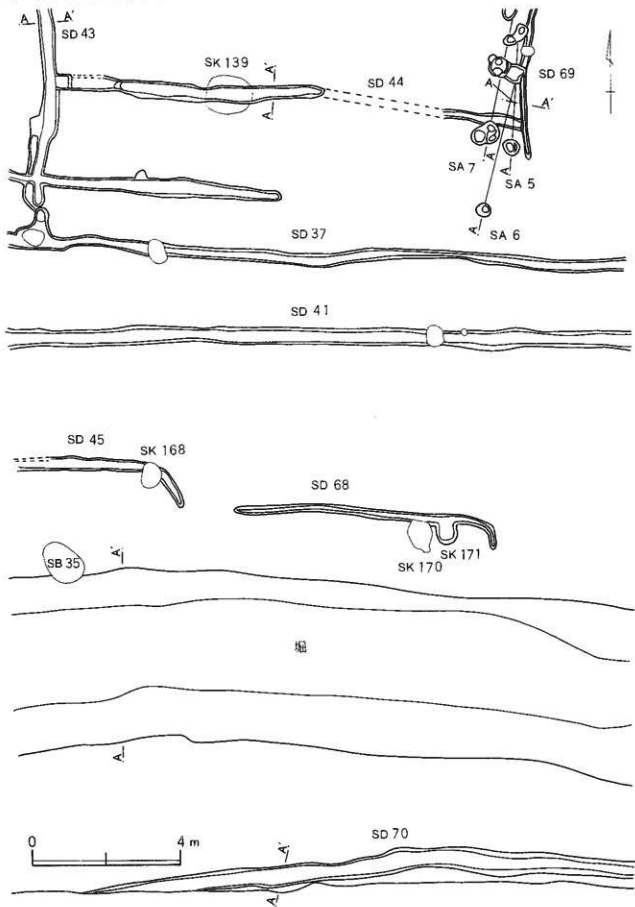


第245図 溝・堀・橋列 (2)

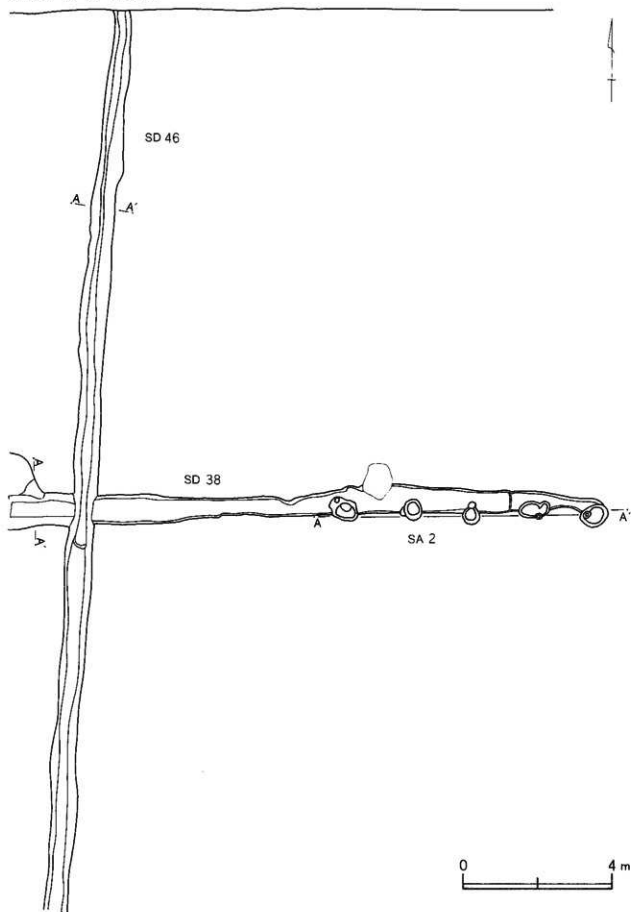




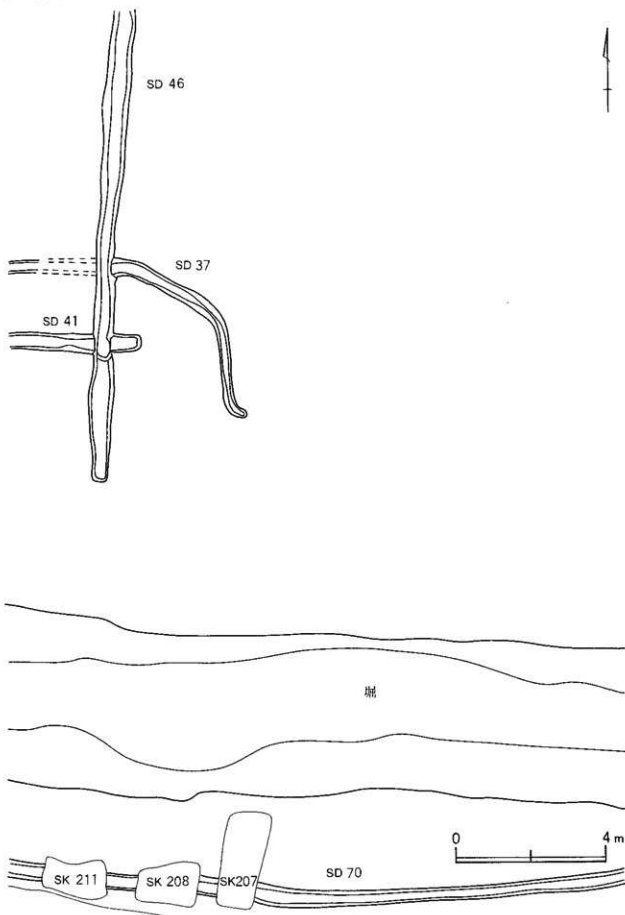
第247图 溝・堤・欄列 (4)



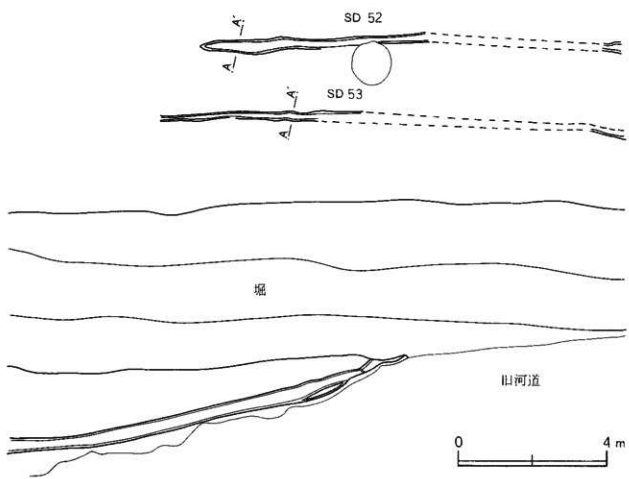
第248図 溝・堀・柵列 (5)



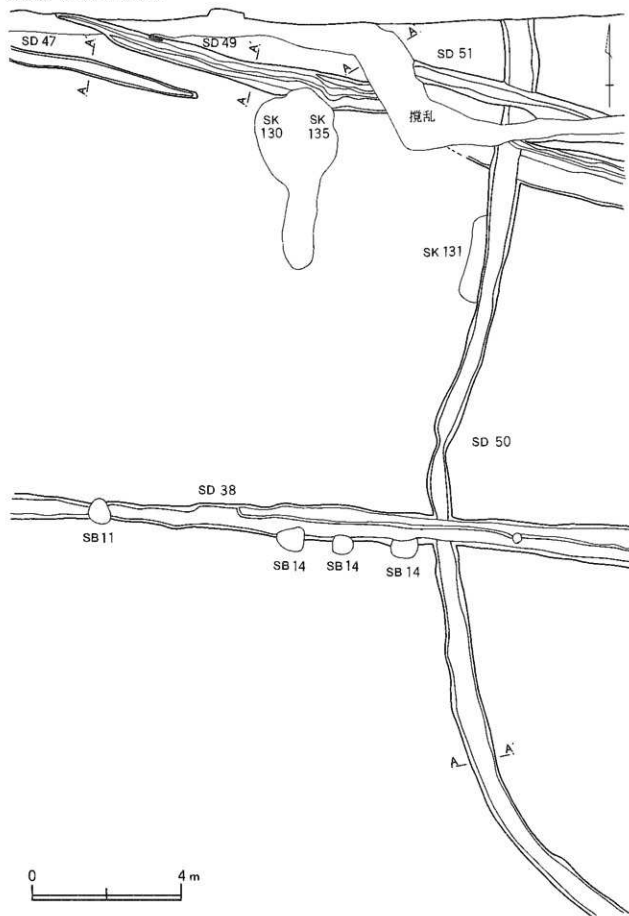
第249圖 溝・堀・槽列 (6)



第250図 溝・堀・横列(7)

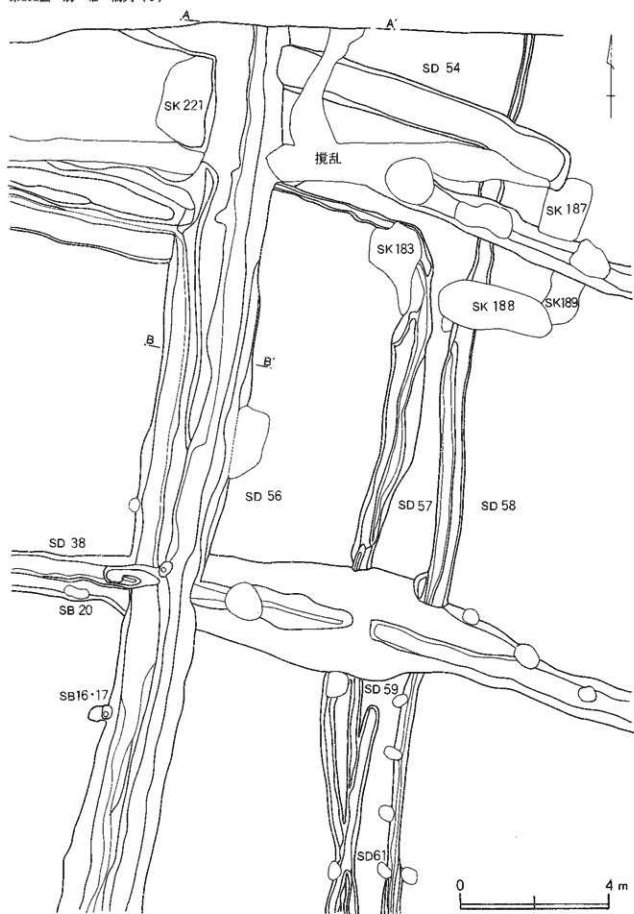


第251図 溝・境・欄列(8)

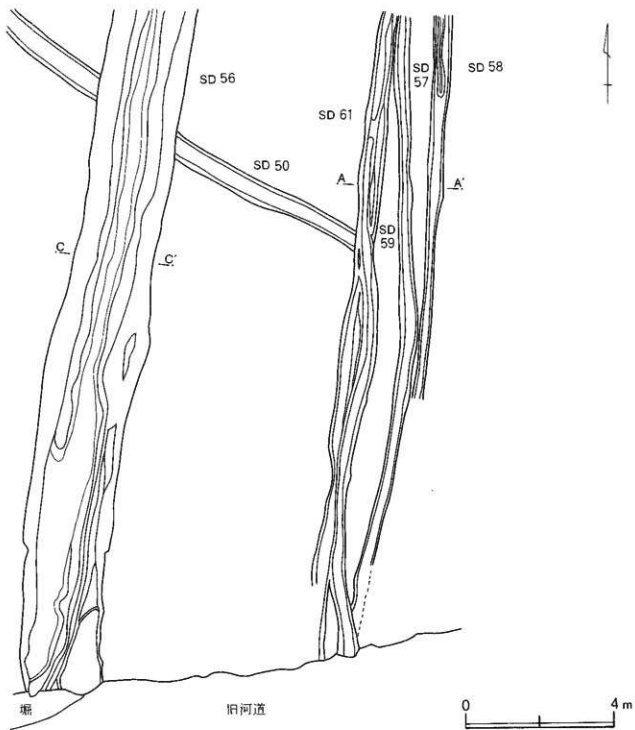




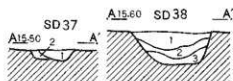
第252図 溝・堀・横列(9)



第253圖 溝・堤・欄列 (10)



第254図 溝・堀・欄列 (11)

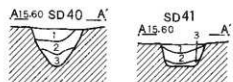


SD 3 7

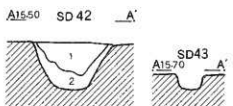
- 1 灰オリブ色(5Y4/2) 粘質 黄褐色土ブロック(少) 白色微粒子(多)
  - 2 暗オリブ色(5Y4/3) 粘質 黄褐色土ブロック(多) 白色微粒子(多)
- SD 3 8



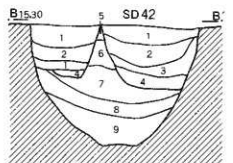
- 1 灰オリブ色(5Y4/2) 粘質 鉄分(少) 黄褐色土ブロック(少) 遺物(多)
  - 2 灰色 (7.5Y4/1) 粘質 鉄分(多) 炭化物粒子(多)
  - 3 暗オリブ色(7.5Y4/3) 粘質 焼上、炭化物、黄褐色土粒子(少)
- SD 4 0



- 1 灰オリブ色(5Y7/2) 粘質 粘性强
  - 2 灰色 (5Y5/1) 粘質 鉄分沈着
  - 3 灰色 (5Y4/1) 粘質 黄褐色土ブロック(少)
- SD 4 1



- 1 暗灰黄色(2.5Y4/2) 粘質
  - 2 黒褐色 (2.5Y3/2) 粘質 鉄分沈着
  - 3 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘質 黄褐色土(多) 鉄分層状堆積
- SD 4 2



- 1 黒褐色 (2.5Y3/1) シルト質 灰白色微粒子(少)
  - 2 黒色 (2.5Y2/1) シルト質 暗褐色土ブロック状堆積
  - 3 黒色 (2.5Y2/1) シルト質 鉄分沈着
  - 4 オリブ黒色(5Y2/1) 粘質 暗褐色土と灰色粘土の互層
  - 5 灰色 (5Y4/1) 粘質
  - 6 灰色 (5Y5/1) 粘質 鉄分沈着
  - 7 暗緑灰色 (10G3/1) シルト質
  - 8 暗青灰色 (5BG3/1) 粘質
  - 9 暗青灰色 (5BG4/1) 粘質 しまり(良)
- SD 4 6



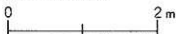
- 1 黄灰色 (2.5Y5/1) 粘質 黄褐色土粒子(多)
  - 2 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘質 焼上、炭化物粒子(少) 鉄分沈着
  - 3 暗黄灰色(2.5Y4/2) 粘質 灰色粘土と黄褐色土の互層
- SD 4 7



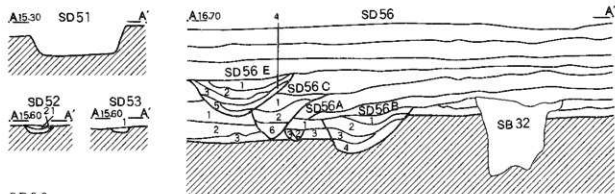
- 1 暗オリブ色(5Y4/3) 粘質 黄褐色土ブロックと暗褐色土の互層
- SD 4 9



- 1 暗オリブ色(5Y4/3) 粘質 鉄分(多) 黄褐色土粒子(微)
  - 2 オリブ色 (5Y5/6) 粘質 灰色土粒子(少)
  - 3 灰オリブ色(5Y5/3) 粘質 鉄分(多) 粘性强
- SD 5 0
- 1 オリブ褐色(2.5Y4/6) 粘質 黄褐色土ブロック(多)



第255図 溝・堀・欄列 (12)



SD 5 2

1 黒褐色(2.6Y3/1) 砂質 粘土粒子(少)

2 黄灰色(2.6Y4/1) 粘質 炭化物粒子(少)

SD 5 6 A

1 暗褐色(10YR3/4) 粘質 黄褐色土粒子(多) 灰白色微粒子(多)

2 褐色(10YR4/4) 粘質 黄褐色土粒子、同ブロック(多) 鉄分(少)

3 黄褐色(10YR5/6) 粘質 黄褐色土に暗褐色土粒子多量含む鉄分(少)

SD 5 6 B

1 オリブ色(5Y5/4) 粘質 黄褐色土粒子(少)

2 暗オリブ色(5Y4/4) 粘質 黄褐色土粒子(多) 同ブロック(少)

3 オリブ褐色(5Y4/2) 粘質 黄褐色土粒子(少)

4 暗灰黄色(2.6Y4/2) 粘質 黄褐色土粒子(多)

5 暗灰黄色(2.6Y4/2) 粘質 黄褐色土粒子、同ブロック(少)

SD 5 6 C

1 浅黄色(5Y7/4) 粘質 鉄分(微) オリブ黄褐色土粒子(少)

2 褐色(5YR4/1) 粘質 オリブ黄褐色土粒子に灰オリブ粒子含む

3 褐色(5YR4/1) 粘質 オリブ黄褐色土粒子(多)

4 褐色(5YR5/1) 粘質 灰色土粒子(多)

5 褐色(5YR5/1) 粘質 灰色土粒子にオリブ黄褐色土粒子(少) 鉄分(多)

6 灰オリブ色(5Y5/2) 粘質 灰色土粒子にオリブ黄褐色土粒子(微) 鉄分(微)

7 灰色(5YR4/1) 粘質 灰色土粒子に黄褐色土ブロック(多) 鉄分(多)

8 オリブ灰色(7.5Y5/3) 粘質 灰色土ブロック(微)

SD 5 6 D

1 灰オリブ色(5Y6/2) 粘質 オリブ黄褐色土粒子(多) 鉄分(多)

2 灰色(5Y4/1) 粘質 オリブ黄褐色土粒子(少) 鉄分(多)

SD 5 6 E

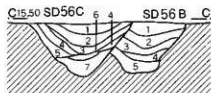
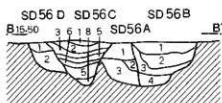
1 オリブ黄色(5Y6/3) 砂質 砂質土ブロック状堆積 鉄分(微)

2 オリブ黄色(5Y6/3) 砂質 砂質土帯状堆積 鉄分(微)

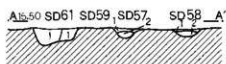
3 灰オリブ色(5Y5/3) 粘質 オリブ黄褐色土粒子(少) 鉄分(多)

4 灰オリブ色(5Y5/3) 砂層 鉄分(多)

5 灰オリブ色(5Y4/1) 粘質 鉄分(少)



第256図 溝・堀・柵列 (13)



SD57

1 暗オリーブ色 (5Y4/3) 粘質 炭化物粒子 (少)

2 オリーブ色 (5Y5/6) 粘質 炭化物粒子 (少) 暗褐色土粒子 (少)  
SD58

1 暗オリーブ色 (5Y4/3) 粘質 炭化物粒子 (少)

2 オリーブ色 (5Y5/6) 粘質 暗褐色土ブロック (少)  
SD59

1 暗オリーブ色 (5Y4/3) 粘質 黄褐色土ブロック (多)  
SD61

1 灰オリーブ色 (5Y4/2) 粘質 炭化物粒子 (少) 黄褐色土ブロック (多)  
SD68

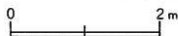
1 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘質

2 灰オリーブ色 (5Y4/2) 粘質 灰白色微粒子 (少)

3 暗オリーブ色 (5Y4/3) 粘質 暗黄褐色土ブロック (多)  
SD70

1 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 粘質 焼土粒子 (微) 灰白色微粒子 (多)

2 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘質 焼土粒子 (多) 暗黄褐色土粒子 (少)



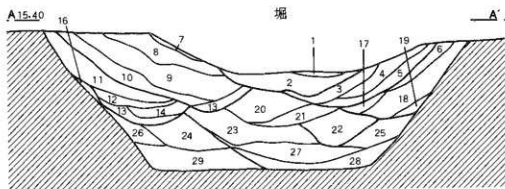
堀 (第245・247・249・250・257図)

P・0～T・6グリッドに位置していた。西端は南北方向に延びる旧河道に接続していた。東側はS・5グリッドより先を元荒川旧河道によって壊されていたが、56号溝に接続する部分までは確認することができた。また周囲の住居跡・土壇などの遺構を全て切っていた。主軸はN-50°-Wで直線であった。規模は幅4.55m、深さ1.4mで、断面逆台形であった。土層断

面観察の結果、7回の掘り替えが行なわれていたことが判明した。覆土は上層に灰色の砂質及び、シルト質土が堆積し、中層には青灰色の粘質土、下層には植物繊維を含んだ砂質土が堆積していた。土壌の堆積状況から常時通水していたことはなかったと考えられる。

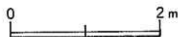
遺物は加工された焼灰岩が1点のみ出土した。

第257図 溝・堀・欄列 (14)



堀

- |    |                  |      |                       |
|----|------------------|------|-----------------------|
| 1  | 灰オリブ色 (7.5Y5/2)  | 砂質   | 川砂                    |
| 2  | 灰オリブ色 (7.5Y6/2)  | 砂質   | 砂粒と粘質土の互層 鉄分沈着        |
| 3  | 灰色 (10Y5/1)      | 粘質   | 茶褐色土粒子、灰色粘土粒子(少)      |
| 4  | 灰色 (10Y5/1)      | シルト質 | 茶褐色土粒子、灰色粘土粒子(少)      |
| 5  | 灰色 (10Y5/1)      | 粘質   | 茶褐色土粒子、灰色粘土粒子(多)      |
| 6  | オリーブ黒色 (5Y3/1)   | 粘質   | 黒褐色土と灰色粘土の互層          |
| 7  | 灰白色 (5Y7/2)      | シルト質 | 砂粒(少) 鉄分(少)           |
| 8  | 灰白色 (5Y7/2)      | 粘質   | 鉄分(多)                 |
| 9  | 灰オリブ色 (5Y6/2)    | シルト質 | 茶褐色土粒子(少) 鉄分(少)       |
| 10 | 灰オリブ色 (5Y5/2)    | シルト質 | 炭化物粒子(微)              |
| 11 | オリーブ黒色 (5Y3/2)   | 粘質   | 黒褐色土粒子と灰色粘土粒子の互層      |
| 12 | 灰色 (5Y5/1)       | 粘質   | 灰色粘土粒子(多)             |
| 13 | 灰色 (5Y6/1)       | 粘質   | 炭化物粒子、明灰色粘土粒子(微) 鉄分沈着 |
| 14 | 灰色 (N6)          | 粘質   | 褐色土粒子、灰白色粘土粒子(少)      |
| 15 | 灰色 (N5)          | 粘質   | 灰色粘土粒子(多) 鉄分沈着        |
| 16 | オリーブ褐色 (2.5Y4/6) | 粘質   | 黒褐色土と黄褐色土の互層 (崩落土)    |
| 17 | 灰オリブ色 (5Y6/2)    | 粘質   | 明灰粘質土粒子、褐色土粒子(少)      |
| 18 | オリーブ黒色 (5Y3/1)   | 粘質   | 黒褐色土ブロックと褐色土の互層 (埋土)  |
| 19 | オリーブ褐色 (2.5Y4/6) | 粘質   | 褐色土と黄褐色土の互層 (埋土)      |
| 20 | 青灰色 (5B6/1)      | 粘質   |                       |
| 21 | 青灰色 (5B6/1)      | 粘質   | 砂質土帯状堆積               |
| 22 | 暗青灰色 (5B6/1)     | 砂質   | 暗灰色粘質土と砂質土の帯状互層堆積     |
| 23 | 青灰色 (5B6/1)      | シルト質 |                       |
| 24 | 暗緑灰色 (10GY4/1)   | 粘質   |                       |
| 25 | 青灰色 (5B6/1)      | 粘質   |                       |
| 26 | オリーブ色 (5Y5/6)    | 粘質   | 暗灰色粘質土に黄褐色土を含む(崩落土)   |
| 27 | 青灰色 (5B6/1)      | 粘質   | 植物繊維、炭化物粒子(中)         |
| 28 | 暗青灰色 (5B6/1)     | 砂質   |                       |
| 29 | 暗灰色 (N3)         | 粘質   |                       |



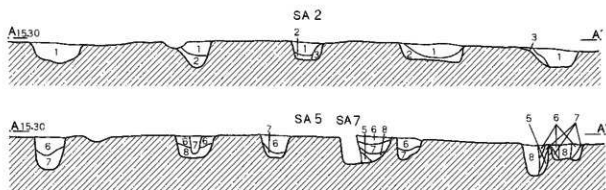
## 2号横列 (第248・258図)

P・5～P・6グリッドに位置していた。19号掘立柱建物跡に平行していた。また、38号溝に切られていた。柱穴は5本検出された。主軸はN-52°-Wで直線であった。各柱穴の平面形は円形で、規模は径50～85cm、深さ20～35cmであった。底面から柱の掘付部が検出された。覆土は灰色粘質土が堆積していた。出土した遺物はなかった。

## 5号横列 (第246・247・259図)

O・4～P・3グリッドに位置していた。6号横列及び25・26・27号掘立柱建物跡に隣接していた。また7号横列を切っていた。柱穴は10本検出された。主軸はN-42°-Eで直線であった。各柱穴の平面形は円形で、規模は径30～60cm、深さ10～60cmであった。覆土は黄褐色土ブロックが堆積していた。出土した遺物は、なかった。

第258図 溝・堀・横列 (15)



### SA 2

1 黄灰色 (2.5Y5/1) 粘質 焼土、炭化物粒子(微) 暗褐色土粒子(少)

2 暗灰黄色(2.5Y5/2) 粘質 暗灰色粘土と黄褐色土の互層(掘方)

3 黄褐色 (2.5Y5/3) 粘質 灰色粘土と黄褐色土の互層(掘方)

### SA 5

1 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘質 焼土、炭化物粒子(少)

2 黒褐色 (2.5Y3/2) 粘質 焼土ブロック(少) 黄褐色土ブロック(多) しまり(欠)

3 黒褐色 (2.5Y3/2) シルト質 焼土粒子(少) 黄褐色土ブロック(多) しまり(欠)

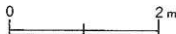
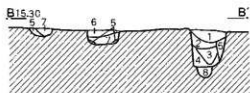
4 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘質

5 オリーブ褐色(2.5Y4/3) 粘質 灰色粘土と黄褐色土の互層(掘方)

6 オリーブ黒色(5Y2/2) 粘質 焼土、炭化物粒子(少) 灰白色微粒子(少)

7 オリーブ黒色(5Y3/2) 粘質 焼土、炭化物粒子(中) 黄褐色土粒子(微)

8 灰色 (5Y4/1) 粘質 炭化物粒子(多) 暗褐色土粒子(少) しまり(欠)



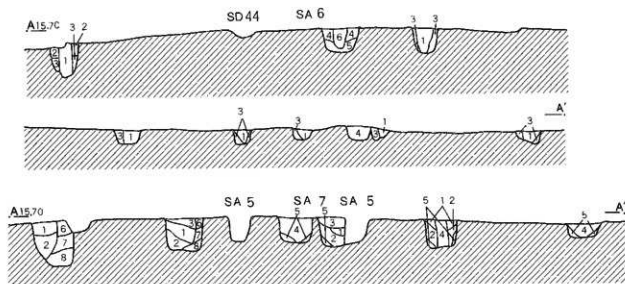
6号欄列 (第248・249・259図)

O・4～P・3グリッドに位置していた。5・7号欄列及びび25・26・27号掘立柱建物跡に隣接していた。柱穴は10本検出された。主軸はN-60°-Eで直線であった。各柱穴の平面形は円形で、規模は径20～55cm、深さ15～40cmであった。覆土は焼土及び、炭化物が堆積していた。出土した遺物は、なかった。

7号欄列 (第246・247・258図)

O・4～P・3グリッドに位置していた。6号欄列及びび25・26・27号掘立柱建物跡に隣接していた。また、5号欄列に切られていた。柱穴は6本検出された。主軸はN-45°-Eで直線であった。各柱穴の平面形は円形で、規模は径40～60cm、深さ20～60cmであった。覆土は黄褐色土ブロックが堆積していた。出土した遺物は、なかった。

第259図 溝・堀・欄列 (16)

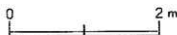


SA 6

- 1 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘質 焼土、炭化物粒子(少) 黄褐色土粒子(中) しまり(欠)
- 2 黒褐色 (2.5Y3/2) 粘質 焼土、炭化物粒子(微) 黄褐色土ブロック(少)
- 3 オリーブ褐色(2.5Y4/3) 粘質 灰色粘土と黄褐色土の互層
- 4 オリーブ黒色(5Y2/2) 粘質 焼土、炭化物粒子(少) 灰白色微粒子(少)
- 5 オリーブ黒色(5Y3/2) 粘質 焼土、炭化物粒子(微) 黄褐色土粒子(中)
- 6 灰色 (5Y4/1) 粘質 炭化物粒子(多) 暗褐色土粒子(少) しまり(欠)

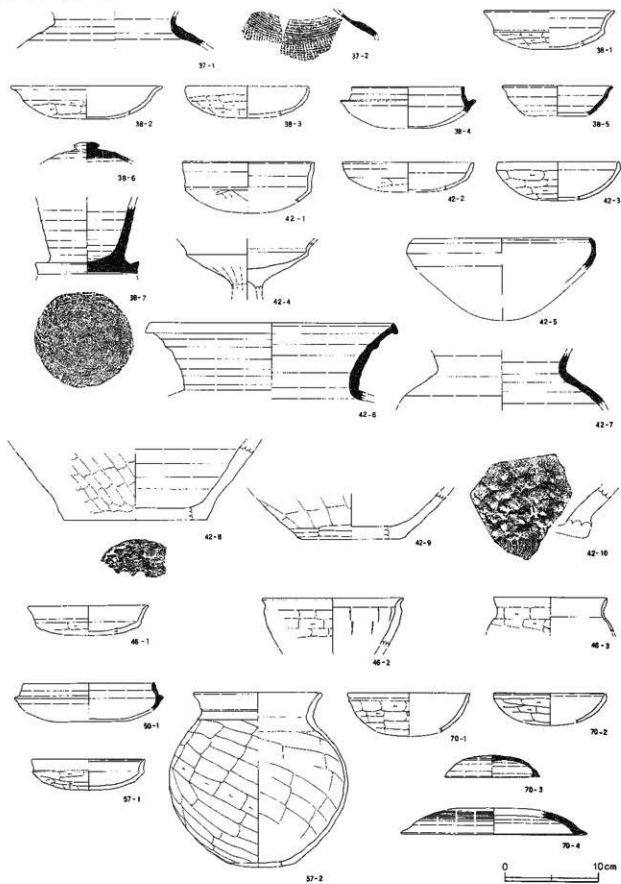
SA 7

- 1 黒褐色 (2.5Y3/2) 粘質 焼土、炭化物粒子(少) 黄褐色土ブロック(多)
- 2 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘質 焼土、炭化物粒子(微) 黄褐色土ブロック(多)  
しまり(欠)
- 3 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3) 粘質 焼土、炭化物粒子(多) 暗褐色土粒子(少) 遺物(少)
- 4 黒色 (2.5Y2/1) 粘質 焼土炭化物粒子(中)





第260図 溝出土遺物



B区溝出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
37-1	須恵器広口壺	-	-	-	BF1	2	灰白色	5%未満	南比企
37-2	須恵器甕	-	-	-	BC	2	灰色	5%未満	東海
38-1	土師器杯	(14.0)	(4.1)	(11.9)	BE	3	浅黄褐色	10%	
38-2	土師器杯	(16.2)	(3.5)	(13.6)	BFL	4	にぶい橙色	10%	
38-3	土師器杯	(13.2)	(3.4)	(11.8)	DE	3	橙色	30%	
38-4	須恵器杯	(12.0)	(4.5)	(14.5)	BF	2	灰白色	5%未満	不明
38-5	須恵器杯	(11.8)	(4.2)	(6.7)	B	2	灰色	5%	南比企
38-6	須恵器蓋	-	-	(6.0)	BFL	2	灰白色	10%	不明
38-7	須恵器鉢鉢	-	-	10.6	BFL	1	暗灰色	40%	南比企
42-1	土師器杯	(14.0)	(5.5)	(13.6)	BF	3	明赤褐色	5%	
42-2	土師器杯	(14.0)	(3.2)	(12.8)	BEF	3	橙色	5%未満	
42-3	土師器杯	(13.0)	(4.1)	(10.4)	ABD	3	橙色	20%	
42-4	土師器高杯	-	-	-	BEF	3	橙色	20%	ビット出土
42-5	須恵器鉢	18.9	-	-	BI	1	灰白色	5%未満	不明
42-6	須恵器甕	26.0	-	-	BF	2	灰色	5%未満	
42-7	須恵器甕	-	-	-	BF	1	灰白色	5%未満	不明
42-8	鉢	-	-	(15.2)	BF	2	灰白色	10%	(中世)
42-9	鉢	-	-	(11.4)	ABCE	3	にぶい黄褐色	5%	(中世)
42-10	鉢(底部)	-	-	-	ABC	1	にぶい赤褐色	5%未満	(中世)
46-1	土師器杯	(13.0)	(3.1)	(11.4)	BEF	3	表 黒色	5%	表面黒色処理?
46-2	土師器鉢	(15.0)	-	-	BCL	4	橙色	5%	
46-3	土師器甕	(12.0)	-	-	BG	4	橙色	5%未満	
50-1	須恵器杯	(14.0)	(4.1)	(15.9)	BF	2	灰白色	5%未満	不明
57-1	土師器杯	(12.0)	3.3	(11.9)	BE	3	褐色	20%	
57-2	土師器壺	13.8	18.5	7.0	BEF	3	橙色	90%	
70-1	土師器杯	(13.0)	(4.6)	(6.4)	BDE	4	橙色	15%	
70-2	土師器杯	(12.0)	(3.4)	(6.8)	BD	3	橙色	10%	
70-3	須恵器杯蓋	(10.0)	2.3	-	BF	2	灰色	20%	湖西
70-4	須恵器蓋	(20.0)	-	-	BF	1	灰色	5%未満	湖西

## VII 遺構外出土遺物

### (1) 縄文・弥生時代出土土器 (第261図)

各調査区のグリット及び遺構に混入して出土したものを一括して図示した。但し図版番号4(144号土壌出土)、19(145号土壌出土)、23(146号土壌)の土器はQ-7グリットに纏まって検出された、暗褐色の硬く締まった覆土をもつ、浅い土壌状の落ち込みの中から出土したものである。この落ち込みについては、遺跡の立地と環境の項でも記したが、本遺跡の陸成化の時期と繋がる問題であるが、遺構・遺物の検出状況から判断して、当該時期にすでに本遺跡が陸成化していたものとしておきたい。

1・2は帯縄文系の平縁深鉢形土器口縁部破片である。口唇部に縄文を施文し以下に沈線で区画している。後期安行1式に該当する。3は器形不詳であるが台付鉢形土器口縁部の可能性がある。2条のやや幅広い刻み目をもち以下が屈曲している。時期は後期後葉が考えられる。4は、入組文系の平縁深鉢形土器口縁部破片である。口唇部に山形の突起が付き、沈線で区画し以下に入組文を施文している。晩期安行3b式にあたる。5は総山系波状口縁深鉢形土器口縁部破片である。山形の小波状下に刺突を伴う2条の横走沈線を描き、以下に円文及び菱形文を描いている。時期は晩期安行3c期にあたる。6は入組文系の小波状口縁深鉢形土器口縁部破片である。波頂部に合わせて沈線により入組文を施文している。時期は晩期安行3b式にあたる。7は平縁深鉢形土器口縁部破片である。口縁部文様帯は沈線により崩れた菱形文を施文している。時期は晩

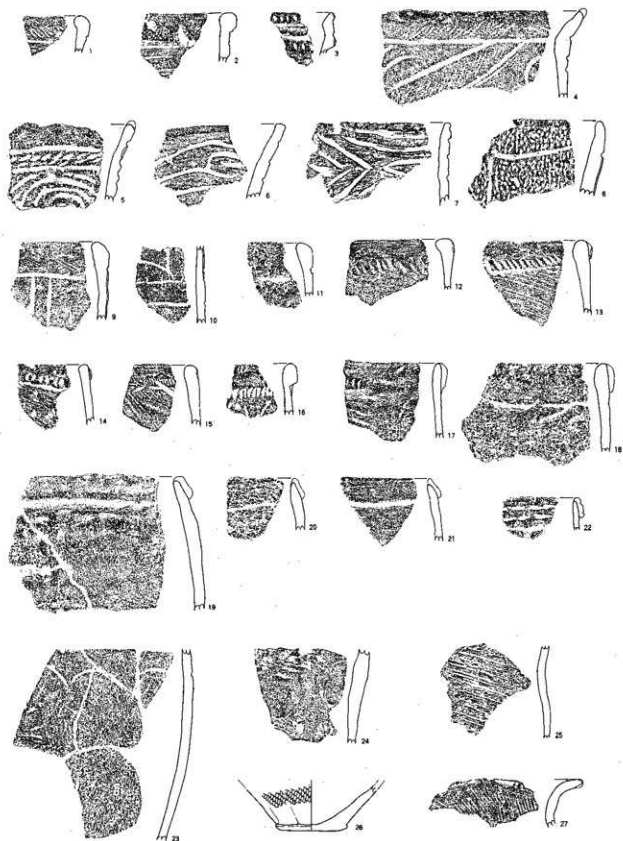
期安行3d式にあたる。8は平縁深鉢形土器口縁部破片である。器面全面に棒状工具による刺突を施し沈線による区画文を施文している。時期は晩期安行3c式にあたる。9・10・11は総山系の平縁深鉢形土器口縁部及び胴部破片である。9には区画沈線内に細密沈線が充填されている。時期は晩期安行3b～c式に属すると考えられる。

12・13・14・15・16は紐線文系の平縁深鉢形土器口縁部破片である。12及び15の隆帯は形骸化している。また14は魚鱗状の隆帯である。15は肥厚した口縁下に押し引きによる刺突列を施文している。時期は後期安行1式から晩期安行3b式に属すると考えられる。

17～22は折り返し口縁で、内湾する粗製深鉢形土器である。口縁部は幅広い隆帯を張付けている。また、22は隆帯内に2条の刺突列を施文している。時期は晩期安行式に属すると考えられる。23は深鉢形土器胴部破片である。沈線により連続弧状文を施文している。時期は晩期安行3c～d式にあたる。

24は無文の深鉢形土器胴部破片である。25は条痕文系深鉢形土器胴部破片である。時期は不詳である。26は深鉢形土器底部破片である。底部近くまで縄文が施文されている。また底部が突出している。27は条痕文を施文する壘形土器口縁部破片である。口唇部に工具による押しえが認められる。時期は弥生時代中期後半に属すると考えられる。

第261圖 遺構外出土遺物（縄文・弥生式土器）



0 10 cm

## (2) 埴輪 (第262図)

埴輪片が、後世の井戸・溝・土塀などの覆土中に流れ込んだ状態で少量出土した。

1は寄棟造りの塚形埴輪の屋根と思われる破片である。図示した右端が緩い曲面となっていることから、隅部に近い破片と考えられる。また左端の軒先に接して直線的な切り込みがあり、入口部あるいは透孔の一部と考えられる。成形は垂直に延びる壁体の上端に断面三角形の突帯を貼り付けて軒を表現している。屋根の外側はタテハケ調整の後、軒先に幅広のヨコナデを加え、ヘラ先で連続三角文を描く。内面はナナメハケを施し、粘土紐の巻き上げ痕が明瞭である。胎土は長石、石英などの砂粒を多く含み、赤色粒子、角閃石粒の混入が目立つ。焼成は良好で、堅く焼き上がっている。色調は橙褐色を呈する。

2～6は円筒埴輪の破片である。いずれも小片ばかりで全体の器形などは不明である。そのため普通円筒埴輪、朝顔形埴輪の区別は判断としない。

2は最下段の破片で、復元底径約14cm、残高7.7cmを測る。器形はわずかに外傾して立ち上がる。外面調整は1次調整のタテハケを施した後、基部のみに時計回りの2次調整のヨコハケを施している。ヨコハケに用いた工具の幅は4.4cmほどで、条数は23～24本である。なお、タテハケも同一の工具を使用しているものと思われる。内面調整は、斜め方向の指ナデを丁寧に施した後、基部にヨコナデを加えている。成形は幅6cmほどの基部の上に幅2～3cmの粘土紐を巻き上げ、内面に粘土紐の巻き上げ痕を残す。胎土は砂粒を多く含み、赤色粒子、角閃石粒の混入が目立つ。焼成は良好で、色調は内外面とも浅黄褐色、断面は灰褐色である。内面には暗褐色の焼きムラが認められる。

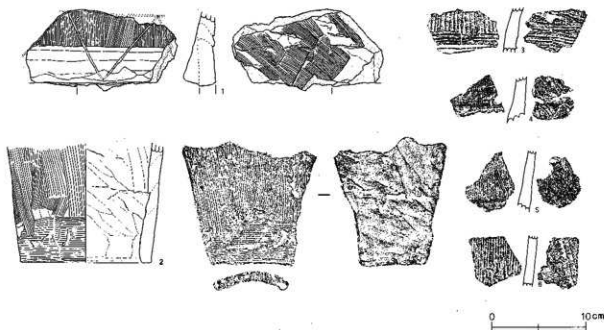
3は外面に1次調整のタテハケ後、同一工具を用いて2次調整のB種ヨコハケを施した破片である。ハケ

目は幅2cmあたり4本と非常に粗く、断面形は匙面を呈する。ヨコハケは逆時計回りに施され、工具を止めたさいの工具跡が縦の条線として良く残る。ヨコハケはかなり力強く施しているため、工具の端部が器面に轆状の2mmほどの段差として明瞭に残っている。また図示した下端部にヨコナデが一部見られることから突帯付近の破片と考えられる。内面調整は外面と同一の工具を用いた目の粗いヨコハケを丁寧に施す。胎土は砂粒と小礫を多量に含み、混和材として長石粒、角閃石粒、赤色粒子、雲母粒を混入している。焼成は良好である。色調は内外面共にふい橙褐色で、断面は灰褐色である。

4は突帯周辺の破片である。外面調整はタテハケを施し、図示した下端に突帯貼付時のヨコナデが残る。ハケ目は幅2cmあたり9～10本と細かい。内面調整はナナメハケを弱く施す。胎土は細砂粒を多く含み、赤色粒子、角閃石粒の混入が目立つ。焼成はやや不良。色調は内外面共乳白色で、器肉が厚いため断面は黒褐色である。

5は突帯周辺の破片である。外面調整はタテハケを施し、図示した下端に突帯貼付時のヨコナデが一部見られる。ハケ目は幅2cmあたり10本とやや細かい。内面調整はナデを丁寧に施している。胎土は砂粒の混入が多く、赤色粒子と石英粒子を含む。焼成はやや不良で外面に焼きムラが認められる。色調は橙褐色である。

6は復原径が小さいことから、最下段の破片と考えられる。外面調整はタテハケで、ハケ目は幅2cmあたり7～8本である。内面調整は斜め方向の指ないし木口状工具によるナデを強く施している。胎土の特徴は5に近似しており、砂粒を多く含み、赤色粒の混入が目立つ。焼成は普通。色調は外面が赤褐色で、内面が褐色である。



(3) 古墳時代以降出土遺物 (第263・264・265図)

B区グリッド及び上部遺物包含層より出土した遺物を一括して図示した。上部包含層から出土した遺物については、調査区脇を流れる元荒川の氾濫に伴う流入再堆積の可能性も考えられるが、多くは遺構上部覆土に伴う遺物であったと考えられる。

1は内湾口縁環である。身が深く、口縁はヨコナデで、以下を横位ヘラケズリである。全面赤色塗彩である。2・3は須恵器杯蓋模倣環である。身はやや深く口縁部直下でやや外反している。縁は凹線により造り出している。4は須恵器杯身模倣環である。口縁部が内傾し口端部内側に凹線が巡る。また内面に暗紋状のヘラミガキが施されている。本遺跡での出土頻度は低い。5は外反口縁環である。口縁部に横位ヘラケズリが残る。また縁は削り取られている。また、身が厚い。6~10は須恵器杯蓋模倣環である。口縁部がやや強く外反している。7・8は外反度が強く、口端部を平直におさめ色調が灰白色である。所謂「小針型杯」及び「埼玉型杯」と呼ばれている杯に類似する。11~14は有段口縁環である。11のように身の大きいものは本遺

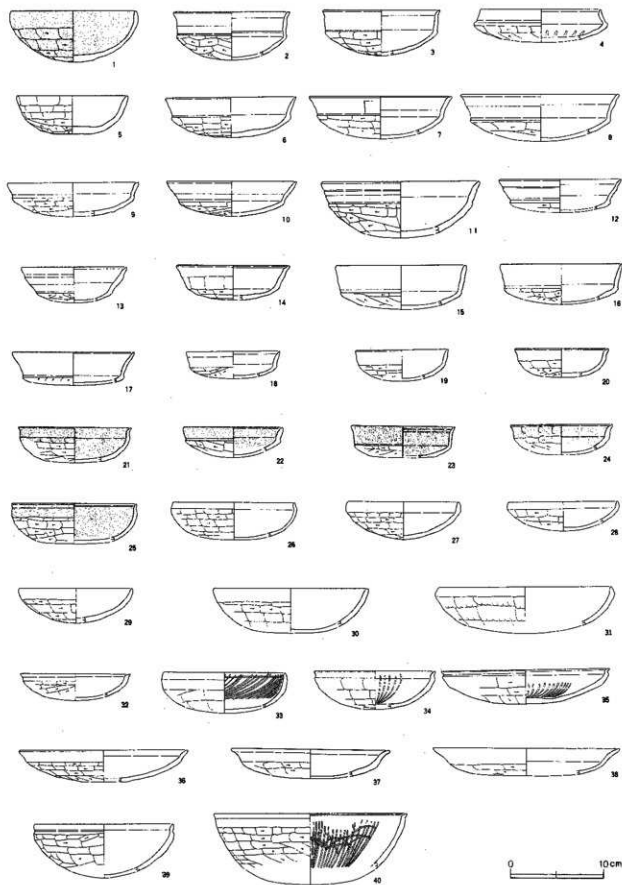
跡ではまれで、口縁径が1cm前後のものが大半を占める。また、14は段部及び縁が形骸化している。15~17は須恵器杯蓋模倣環である。口縁部は直立して外反し、縁はケズリによって造り出している。また、17は薄手で身が浅い。19・20は所謂「比企型杯」の模倣と考えられる。19は縁を設けず、20は口端部内面に凹線を巡らしている。いずれも赤色塗彩されていない。21~25は比企型杯である。身は小ぶりで浅い。21・25は縁をもたないタイプである。また23・24は縁が形骸化している。いずれも全面赤色塗彩されている。26~31は内屈口縁環である。法量の小さいものから大きなものまで出土している。口縁部はヨコナデ、体部は横位ヘラケズリである。26は、浅い縁が造り出されている。31は、ヘラケズリが器面が硬い状態で行なわれている。32は小ぶりの盤状杯である。口端部が強く外反している。33~35は暗紋付杯である。33は内面斜位に施文されている。34・35は盤状杯である。いずれも放射暗紋が施文されている。36~38は身が浅く口縁部が強く外反する大型の杯である。いずれも口縁部をヨコナデ、

体部をヘラケズリを施し、稜は形骸化している。39は碗である。口縁部が内湾ぎみに直立して稜をもつ。体部は横位ヘラケズリである。40は大型の胎紋付杯である。口端部内面に凹線を巡らし、内面に稚拙な放射胎紋及び螺旋胎紋を施文している。口縁部外面はヨコナデ、体部は横位ヘラケズリである。焼成が非常に堅緻である。所謂畿内系胎紋杯の模倣であると考えられる。41～44は高杯である。41・42は坏部で口縁部が大きく外反している。いずれも内外面赤色塗彩である。また、43の脚部には円形の透穴が設けられている。45～51は須恵器杯である。45は174号土壇出土の長脚高杯と同一個体の可能性がある。46は大型の杯であるが、本来は杯蓋の形態を取っている。底部は凹輪ヘラ切である。49は底部凹輪ヘラ切である。50は底部凹輪ヘラ切で口縁部の立ち上がりが急であることから碗が考えられる。52～55は須恵器蓋である。52・53・54はかえりが付くが54は造り出しが僅かである。つまりは扁平の宝珠形である。56は明瞭なかえりを持たず稜を造り出している。外面肩部に多条の凹線が巡っている。57は須恵器

台付長頸壺である。台部に櫛溝波状文を施文し透を設けている。58・59は須恵器壺口縁部破片である。58は頸部凹線間に櫛齒状工具による縦位の刺突列を施文している。59は頸部に篋描「×」印が付いている。60～63は須恵器壺破片である。60は丸底で61・62には高台が付いている。64は土師器短頸壺である。胴部が大きく張っている。65～73は土師器壺である。65～67は胴部上半が大きく張り出している。68～71は口縁部が大きく外反し胴部の張り出しは弱い。72は口縁部が僅かに外反し砲弾状である。74～76は土師器甗である。74は大きく外反している。また76の口縁部は直線状に立ち上がる。77は中世壺口縁部破片である。

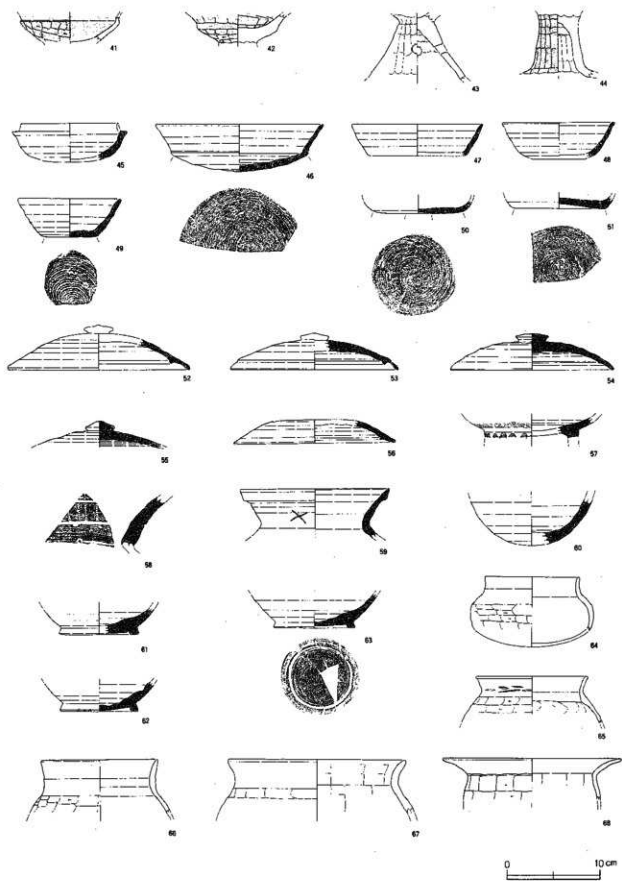
このほか、土製品として土玉(第266図17)、土錘(第266図10)が出土した。石製品としては、凝灰岩製の砥石(第267図19・20・21・22)、石製模造品(剣形)(第268図28)及び、白玉(第268図40・42～49)が出土した。鉄製品としては、北米銭(第272図17)「熙寧元寶(篆書体)一初鑄1068」が出土した。また、青磁(第271図2・8)が遺物包含層上層より出土した。

第263图 遺構外出土遺物 (古墳時代以降1)

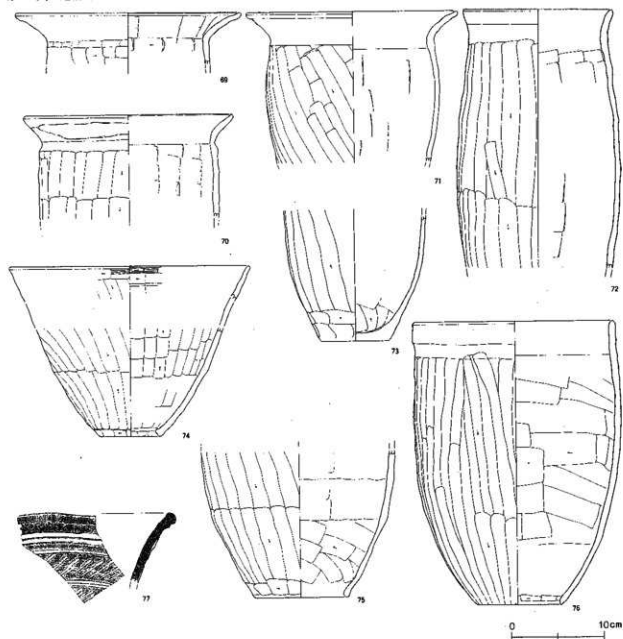




第264図 遺構外出土遺物 (古墳時代以降2)



第265図 遺構外出土遺物（古墳時代以降 3）



B区遺構外出土遺物観察表 (1)

番号	器種	口径	器高	底径	胎上	焼成	色調	残存	備考
1	土師器杯	13.4	5.4	11.7	ABCG	3	橙色	80%	内外面赤彩
2	土師器杯	(12.0)	(5.1)	(11.8)	BE	3	にぶい橙色	20%	
3	土師器杯	12.6	4.9	12.0	BCE	3	橙色	20%	
4	土師器杯	(12.8)	(3.5)	(14.3)	ABD	3	にぶい橙色	5%	内面暗文状の調整
5	土師器杯	(12.0)	4.1	(10.0)	BDE	3	橙色	25%	
6	土師器杯	(14.1)	4.3	(12.7)	BCG	3	明赤褐色	40%	
7	土師器杯	(15.2)	(4.5)	(13.6)	ABEF	2	橙色	10%	
8	土師器杯	(17.0)	(5.0)	(15.1)	BEF	3	浅黄褐色	10%	
9	土師器杯	(14.0)	(3.6)	(13.0)	BFF	4	橙色	15%	
10	土師器杯	(14.0)	(3.7)	(11.4)	ABEL	4	浅黄褐色	15%	

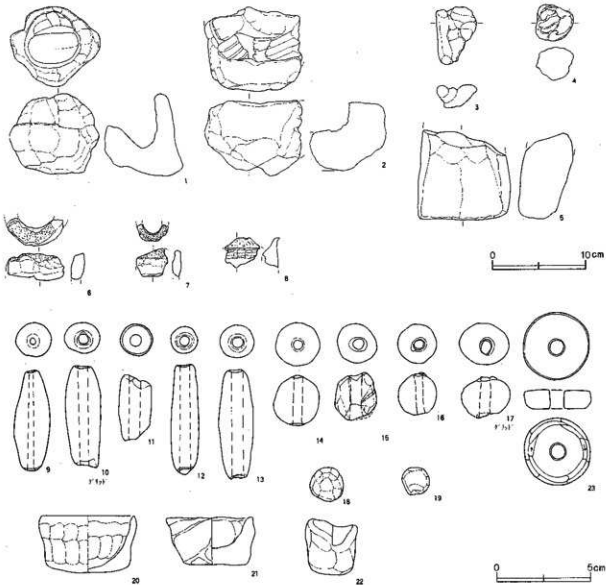
B区遺構外出土遺物観察表(2)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
11	上師器杯	(17.0)	(6.0)	(15.4)	ABDE	3	橙色	20%	
12	十師器杯	(13.0)	(3.5)	(10.8)	BCD	4	明赤褐色	5%	
13	七師器杯	(11.3)	(3.8)	(8.2)	BCD	3	にぶい橙色	10%	
14	土師器杯	(10.2)	(3.7)	(9.8)	BD	3	淡橙色	10%	
15	上師器杯	(14.0)	(4.7)	(13.0)	AE	4	橙色	10%	
16	十師器杯	(13.0)	(3.8)	(12.2)	BEF	3	橙色	5%未満	
17	七師器杯	(13.0)	(3.5)	(10.9)	ABEF	3	にぶい橙色	5%未満	
18	土師器杯	(10.1)	(2.9)	(9.4)	BEF	3	にぶい橙色	20%	
19	上師器杯	(10.0)	(3.3)	(9.3)	BEF	2	明赤褐色	15%	
20	土師器杯	(10.0)	(3.0)	(9.2)	BEF	3	明赤褐色	5%	
21	十師器杯	(12.1)	(3.7)	(10.3)	BCE	3	明赤褐色	10%	内外面赤彩
22	土師器杯	(10.6)	(3.2)	(10.2)	BE	3	橙色	15%	内外面赤彩
23	上師器杯	(11.0)	(3.4)	(10.2)	BCD	3	明赤褐色	10%	内外面赤彩
24	上師器杯	(11.0)	(3.2)	(10.2)	BFL	3	橙色	10%	内外面赤彩
25	十師器杯	(13.3)	(4.2)	(11.9)	BE	3	明赤灰色	15%	内外面赤彩
26	土師器杯	(13.0)	(4.0)	(10.4)	BD	3	橙色	10%	
27	上師器杯	(12.0)	4.0	(10.5)	ABD	3	橙色	40%	
28	上師器杯	(11.8)	(3.1)	(10.6)	ADE	3	にぶい橙色	10%	
29	土師器杯	(12.1)	(3.7)	(10.5)	BCF	4	橙色	30%	
30	土師器杯	(16.6)	(4.7)	(12.0)	BC	4	赤色	5%未満	
31	土師器杯	(18.3)	(4.9)	(14.6)	CD	3	にぶい橙色	10%	
32	上師器杯	(11.6)	(2.8)	(9.3)	BDE	3	橙色	5%	
33	十師器杯	(13.0)	(4.3)	(13.0)	ABDF	3	橙色	10%	放射暗文斜位
34	土師器杯	(13.0)	(4.1)	(11.9)	BI	3	浅黄褐色	10%	放射暗文
35	土師器盤状杯	(18.0)	3.6	(16.1)	BD	3	浅黄褐色	20%	放射暗文
36	土師器盤状杯	(18.0)	(3.4)	(16.3)	DE	4	にぶい橙色	20%	
37	上師器盤状杯	(17.0)	(3.1)	(14.2)	BDE	4	橙色	10%	
38	土師器盤状杯	20.0	2.9	16.4	ACD	3	橙色	5%未満	
39	土師器鉢	(15.0)	(5.7)	(6.8)	BCD	3	にぶい橙色	20%	
40	上師器鉢	(20.6)	(7.6)	-	ABEL	2	明赤褐色	10%	放射、螺旋暗文
41	上師器高杯	-	-	-	ABCL	3	橙色	10%	内外面赤彩
42	土師器高杯	-	-	-	ABCG	3	橙色	10%	内外面赤彩
43	土師器高杯(脚部)	-	-	-	ACL	3	橙色	20%	
44	上師器高杯(脚部)	-	-	-	BEF	3	明赤褐色	10%	
45	須恵器杯	(10.4)	(3.3)	(12.3)	BF	1	灰白色	5%	
46	須恵器杯	(18.0)	5.0	(14.8)	ACPL	3	灰白色	30%	
47	須恵器杯	(14.0)	(3.4)	(10.8)	BF	1	灰白色	5%未満	湖西
48	須恵器杯	(12.0)	(3.9)	(5.8)	BFI	2	灰白色	10%	南比企
49	須恵器杯	(11.0)	4.0	(6.4)	BFI	2	灰色	40%	南比企
50	須恵器碗	-	-	9.2	BFI	3	灰白色	10%	南比企
51	須恵器杯	-	-	(10.0)	BF	2	灰色	10%	不明 転用碗の可能性有り
52	須恵器杯蓋	(19.6)	-	-	BFL	2	灰色	10%	湖西
53	須恵器杯蓋	18.0	-	-	ABF	2	灰色	30%	
54	須恵器杯蓋	(17.4)	3.9	6.1	BL	2	灰色	60%	
55	須恵器蓋	-	-	-	BF	1	灰白色	30%	湖西 自然釉
56	須恵器蓋	(17.2)	-	(8.6)	BF	1	灰白色	10%	未野
57	須恵器台付長頸壺	-	-	-	BP	1	灰色	5%未満	陶土 脚部透有り
58	須恵器壺(頸部)	-	-	-	BCF	2	浅黄褐色	5%未満	不明
59	須恵器壺	(16.0)	-	-	BF	1	灰色	5%未満	不明 頸部ヘラ插「X」印
60	須恵器壺	-	-	(5.3)	BI	1	灰色	5%未満	南比企
61	須恵器長頸壺(底部)	-	-	8.6	BF	1	灰白色	5%未満	
62	須恵器長頸壺(底部)	-	-	(8.2)	BP	1	灰白色	5%未満	湖西
63	須恵器長頸壺(底部)	-	-	(8.6)	BP	1	灰白色	5%未満	湖西

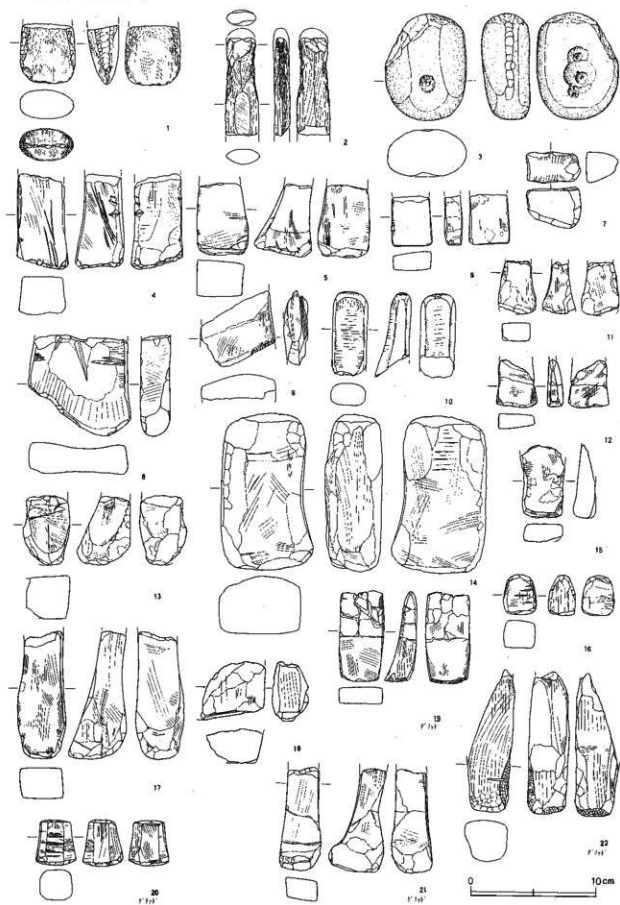
B区通橋外出土遺物観察表 (3)

番号	器種	口径	器高	底径	胎上	焼成	色調	残存	備考
64	土師器短頸甕	(10.2)	(7.4)	(12.3)	ABCE	3	にぶい橙色	20%	
65	土師器台付甕	12.0	-	-	BEF	3	明赤褐色	5%未滿	内面全面煤付着
66	土師器甕	(12.4)	-	-	BCDE	3	にぶい橙色	10%	
67	土師器甕	(19.0)	-	-	AFG	3	にぶい橙色	5%未滿	蜜母多量含
68	土師器長胴甕	(19.0)	-	-	CEI	3	橙色	5%未滿	
69	土師器長胴甕	(24.0)	-	-	ABEG	3	明赤褐色	5%未滿	
70	土師器長胴甕	(22.4)	-	-	BCE	3	明赤褐色	10%	
71	土師器甕	22.7	-	-	BDF	3	橙色	25%	
72	土師器長胴甕	16.0	-	-	BEF	3	橙色	60%	
73	土師器甕	-	-	7.1	ABCFH	3	橙色	5%	
74	土師器甕	(26.0)	(18.0)	6.5	ABCE	3	にぶい黄橙色	20%	
75	土師器甕	-	-	10.0	BCEFH	3	黄橙色	25%	
76	土師器甕	21.2	30.2	9.0	BDE	3	橙色	80%	
77	須恵器甕	(27.0)	-	-	B	1	にぶい赤褐色	5%未滿	陶色

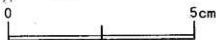
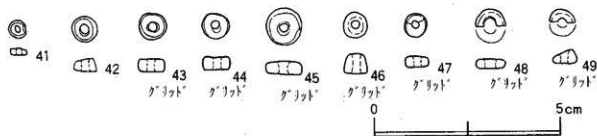
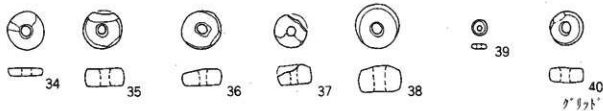
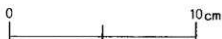
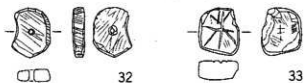
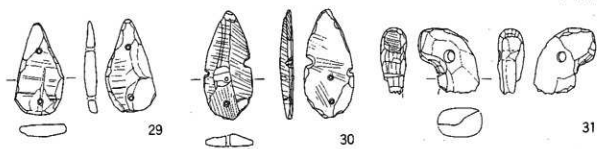
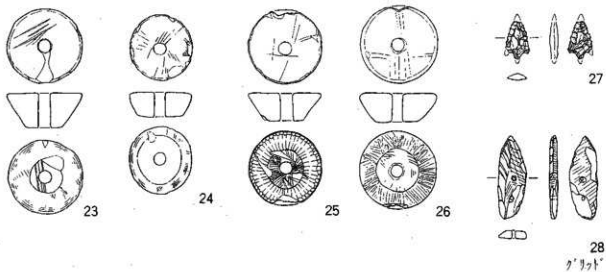
第266図 出土土製品



第267図 出土石製品 (1)



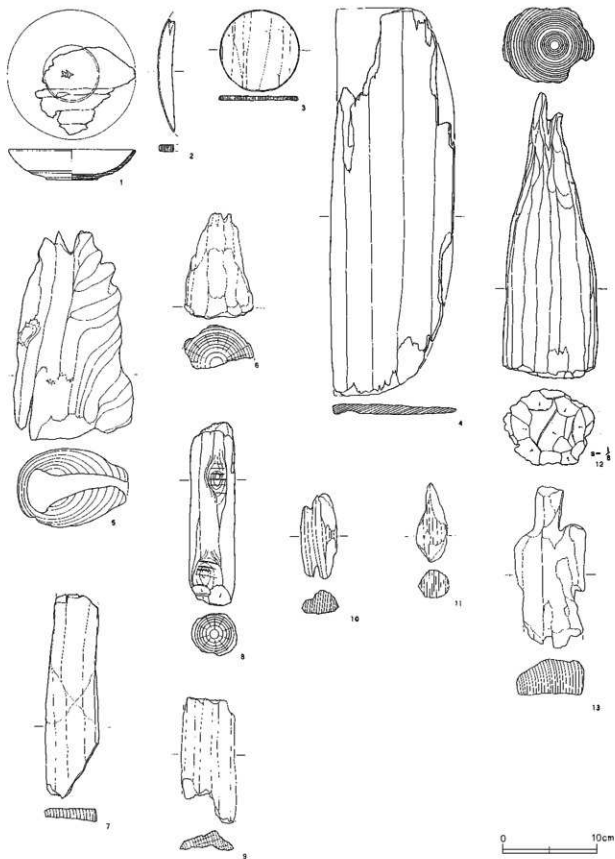
第268図 出土石製品 (2)



石製品一覽表

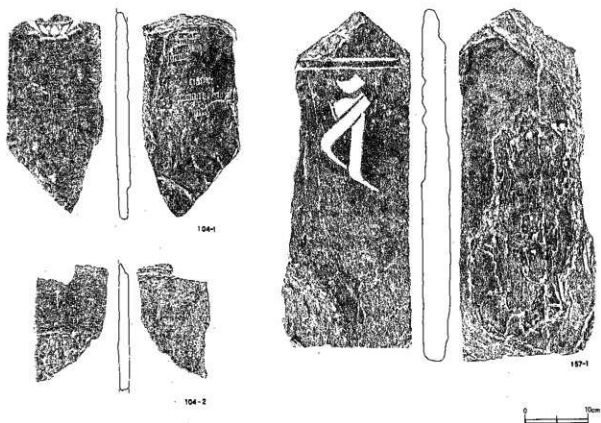
番号	出土地点	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	備考
1	A-SD18	蛤刃磨製石斧	(6.2)	5.8	3.1	201.22	緑泥片岩	欠損
2	B-SJ93	石棒	(10.3)	3.5	1.6	109.19	緑泥片岩	欠損
3	B-SD43	凹石	11.3	8.5	5.0	723.50	安山岩	
4	A-SK24 覆土・上層	砥石	(9.4)	5.0	4.2	390.80	凝灰岩	半欠
5	A-SK13	砥石	(7.6)	5.5	3.7	309.11	凝灰岩	半欠
6	A-SE21	砥石	5.3	4.1	1.9	78.19	凝灰岩	半欠
7	A-SJ26	砥石	5.8	3.0	3.9	101.54	凝灰岩	石質 砂岩
8	A-SD17	砥石	10.7	10.6	3.2	430.17	砂岩	
9	D-SD5,6,7	砥石	(5.7)	7.9	(2.5)	159.56	凝灰岩	欠損
10	D-SD1	砥石	(8.9)	3.7	2.3	142.30	砂岩	
11	B-SJ20	砥石	(5.6)	3.0	1.9	66.19	凝灰岩	半欠
12	B-SJ21	砥石	(5.0)	3.9	1.6	41.52	凝灰岩	欠損後も使用
13	B-SJ25	砥石	(7.4)	(4.6)	4.5	240.77	凝灰岩	半欠
14	B-SJ26 No.1	砥石	16.6	8.7	6.1	1476.65	凝灰岩	
15	B-SJ47 No.1	砥石	7.7	4.2	1.9	89.75	凝灰岩	半欠
16	B-SJ64,65 P.2	砥石	4.2	3.4	2.9	60.17	凝灰岩	完存
17	B-SK127	砥石	(13.5)	5.6	3.2	425.43	凝灰岩	半欠
18	B-SK110	砥石	(6.3)	(6.0)	(3.6)	149.12	凝灰岩	全面欠損 再利用
19	B-O-3G	砥石	9.7	4.6	1.7	158.35	凝灰岩	
20	B-N-57G	砥石	4.8	3.5	3.2	109.50	凝灰岩	完存
21	B-O-3G	砥石	(11.0)	3.4	2.2	237.15	凝灰岩	半欠
22	B-O-2G	砥石	(15.1)	(4.6)	4.4	348.67	砂岩	欠損
23	A-SE23	紡錘車	3.9	4.0	1.8	36.41	滑石	
24	B-SJ11 No.1	紡錘車	3.6	3.3	1.3	23.70	滑石	
25	B-SJ18 No.14	紡錘車	3.9	1.5	4.0	29.02	滑石	
26	B-SK192	紡錘車	4.1	1.5	4.1	39.88	滑石	
27	B-G	有茎石鏃	2.0	1.1	0.4	0.77	チャート	先端・基部欠損
28	B-G	石製模造品剣形	4.5	1.5	0.4	4.08	滑石	穿孔2
29	B-SJ18 覆土	剣形	4.9	2.5	0.6	9.72	滑石	穿孔2
30	B-SJ57 No.18	石製模造品剣形	5.8	2.5	0.6	12.68	滑石	穿孔2 半孔2
31	D-SD6	子持勾玉	(3.5)	2.2	1.4	15.20	滑石	欠損
32	B-SJ18	石製品	2.6	2.8	0.6	6.37	滑石	穿孔1
33	B-SJ46,47	石製品(線刻)	2.5	2.1	1.0	10.52	滑石	線刻
34	D-SD6	白玉	0.9	-	0.5	0.52	滑石	
35	D-SD6	白玉	1.0	-	0.5	0.90	滑石	
36	D-SD6	白玉	1.0	-	0.4	0.83	滑石	
37	D-SD6	白玉	1.0	-	0.2	0.39	滑石	
38	B-SJ14	白玉	1.2	-	0.7	1.71	滑石	
39	B-SK164	白玉	0.4	-	0.1	0.04	滑石	
40	B-G	白玉	0.9	-	0.4	0.39	滑石	
41	B-SJ93	白玉	0.5	-	0.2	0.05	滑石	
42	B-P-4G	白玉	0.7	-	0.3	0.23	滑石	
43	B-G	白玉	0.7	-	0.3	0.22	滑石	
44	B-G	白玉	0.7	-	0.3	0.29	滑石	
45	B-G	白玉	1.0	-	0.4	0.47	滑石	
46	B-G	白玉	0.7	-	0.5	0.30	滑石	
47	B-G	白玉	0.7	-	0.3	0.32	滑石	
48	B-G	白玉	0.8	-	0.2	0.20	滑石	欠損
49	B-G	白玉	0.7	-	0.3	0.11	滑石	欠損

第269図 出土木製品

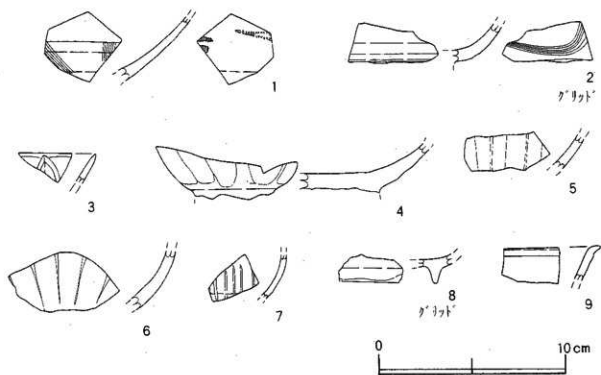




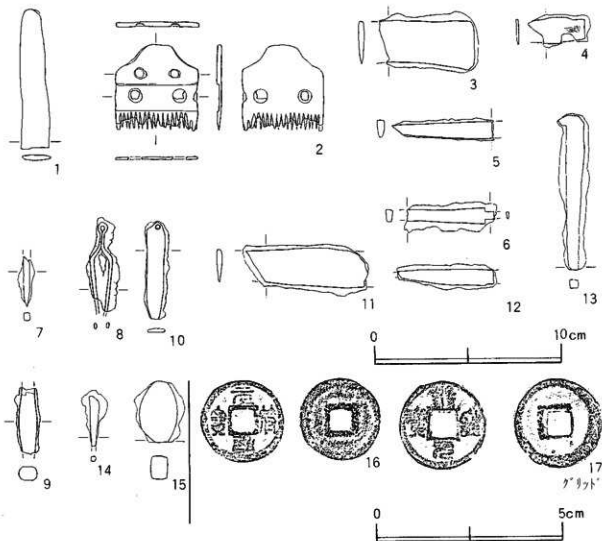
第270図 出土板碑



第271図 出土磁器



第272図 出土鉄製品・古銭



## VIII まとめ

### 平成8年度整理・報告範囲の成果について

今年度報告範囲は検出された竪穴住居跡93軒、獨立柱建物跡45棟、土壇25基、井戸跡61基、柵列1条、溝85条等の遺構および出土遺物についてである。築道下遺跡の発掘調査は平成9年度まで継続される予定であり、本報告では遺跡調査総面積の1/7に相当する部分の遺構について掲載するにすぎない。したがって築道下遺跡の全体像は次年度以降の整理・報告をまって把握すべきであろう。

そこで本報告のまとめとして、古墳時代後期から奈良時代にかけての集落の変遷を中心に据え、これに該期の出土遺物について若干の問題点を提起しておきたい。また、中世の遺構・遺物については、井戸跡および土壇から注目すべき遺物が出土しているが、遺構の中心部が次年度以降の整理・報告範囲にはいることから本報告のまとめとしては記述を省くこととする。

今年度報告範囲における集落の開始期としては、B区112号土壇出土の須恵器遺物および、174号土壇出土須恵器有蓋高坏が相当し、概ね5世紀後半に位置づけられる。

また、最も古い様相を示す住居跡として22・83・92・93号住居跡があげられる。83号住居跡出土坏は全面を赤彩する丸底の内湾口縁坏である。口径は12cm前後のもの14cm前後のもの2種類があり口唇部が薄手で内屈する特徴を持っている。また内面に暗紋状のヘラミガキが認められる坏が含まれる。83-14の土師器有段口縁坏伴出例から時期を繰下げる見解もあるが、83-13の口唇部が外反する坏を含め、現段階では、泉式土師器の様相を残す坏として集落開始期に位置づけおきたい。

このほか、22・93号住居跡からは有段脚の高坏が出土していることから、該期に含まれると考えられる。周辺域での同期の遺跡として、吹上町袋・台遺跡3号住居跡および、鴻巣市新屋敷遺跡49号墳があげられる。

これに続いて、5・18・39・41号住居跡があげられ

る。18号住居跡出土須恵器蓋模倣坏は口縁の立ち上がりだけが僅かに外反するもののおよそ垂直である。また甕には粗いハケ調整が施されているものが含まれている。41号住居跡においても同様にハケ調整を残す甕が出土している。39号住居跡は41号住居跡を切っており後続する住居跡と考えられる。また5号住居跡も出土遺物から該期に含まれるものと考えられる。該期の周辺遺跡として鴻巣市中三谷遺跡21号住居跡があげられる。

以上の住居跡をもって集落第Ⅰ期として位置づけ、概ね6世紀初頭から前半にあてたい。

集落第Ⅱ期を代表する住居跡として25号住居跡をあげる。出土した須恵器蓋模倣坏は明瞭な稜をもち、口縁部の立ち上がりだけが「ハ」の字に外反し、口端部に沈線を巡らしている。口径は12~16cmでばらつきがある。これらの坏の特徴としては、焼成が堅緻で精選された胎土および色調が灰白色系を呈することがあげられる。

行田市教育委員会による小針遺跡の発掘調査では類似する坏が多く出土している。また、これらの坏を埼玉古墳を中心地域として分布することから、所謂「埼玉型坏」ないし、「小針型坏」として認識されている。このほか、25号住居跡からは把手付の甕が伴出している。

該期の住居跡としては15・38・43・94・95・96号住居跡があげられる。また、6号住居跡、40号住居跡、56号住居跡においても住居跡の新旧関係および出土遺物から、該期に含まれるものと考えられる。該期の周辺遺跡として行田市小針遺跡3・6号住居跡、深谷市新屋敷東遺跡51号住居跡、妻沼町道ヶ谷戸遺跡があげられる。

これに後続する住居跡として47号住居跡があげられる。出土した須恵器蓋模倣坏は焼成および、色調から「小針型坏」の形態を残しているが、口径がやや大型化し身が浅くなる傾向を示している。また、これに47

—3の須恵器坏身模倣坏および、47—4の黒色を呈する有段口縁坏が搬出していることから、やや新しい様相を示しているものと考えられる。このほか、42号住居跡においても30号住居跡との新旧関係から該期に含まれると考えられる。

以上の住居跡をもって集落第Ⅱ期に位置づけ、概ね6世紀後半にあてたい。

第Ⅲ期を代表する住居跡として14号住居跡があげられる。須恵器坏蓋模倣坏は「小針型坏」が含まれ、口径が大きくなると共に口縁部の外反角度が増している。また、14—2の口縁端部がやや強く外反する坏および、有段口縁坏が伴う。有段口縁坏は口径の大型化と身が浅くなる傾向にある。14—5・6は須恵器坏身模倣坏で5には内外面の赤彩が認められる。

該期に含まれる住居跡として21・28・27・30・48・62・75号住居跡があげられる。このうち、62号住居跡からは天井部に稜を残す須恵器坏蓋および、全面赤彩された土師器大型坏が出土している。また、75号住居跡では特殊な須恵器蓋が出土している。

これに後続する住居跡の代表として55号住居跡があげられる。須恵器盖模倣坏は、「小針型坏」が含まれるほか、有段口縁坏、赤彩された「比企型坏」が出土している。口径にばらつきが認められるが径の縮小化傾向が窺える。また、55—8のような「北武蔵型内屈口縁坏」を想定させる形態の坏および、須恵器坏H蓋が伴出している。壘は胴部が強く張り広口のものと、口縁部が「く」字に強く外反し胴部が張らず直線的にすばまるものとの二つの形態が認められる。

該期の住居跡として20・26・80・99号住居跡があげられる。このうち、26号住居跡についてはより新しい様相をもつものと考えられるが、17号住居跡および30号住居跡との新旧関係から該期の範疇に含まれるものとする。同様に99号住居跡も次期にまで継続する様相を示していると考えられる。

以上の住居跡をもって集落第Ⅲ期に位置づけ、概ね7世紀前半にあてたい。

集落第Ⅳ期を代表する住居跡として98号住居跡があ

げられる。この段階の各種の坏の口径は10—11cmに縮小し、また平底化する傾向が認められる。98—5・6の「比企型坏」のほか、「北武蔵型内屈口縁坏」が登場する。また、口唇部に稜をもつ半球形の坏および須恵器坏身模倣坏が伴出している。壘は口縁部の外反が進み器厚が薄くなるとともに、長胴化している。これに98—26の口縁部が垂直に立ち太い台部が付く台付壘が出土している。

該期の住居跡として8・13・11・17・19・23・33・34・52・53・54・59・65・79・89号住居跡があげられる。このうち、8号住居跡からは須恵器坏Hおよび同蓋が出土している。

これに後続する住居跡の代表として57号住居跡があげられる。土師器坏は「北武蔵型内屈口縁坏」の口径に小型のものと大型のものと2種類が認められるようになる。また57—8のように口縁部が大きく「ハ」字に外反する坏および57—9の内面暗紋を施す盤状坏が伴出する。このほか、碗状の大型坏が含まれるなど器形の多様化が認められる。

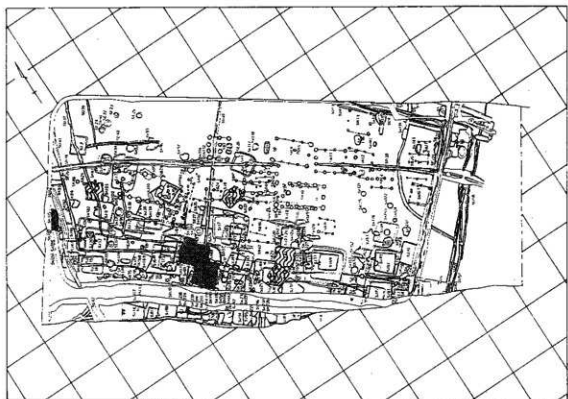
須恵器は57—11の宝珠つまみのかえり蓋、57—12の環状つまみの大型のかえり蓋、57—10の坏Bなどが出土している。また、10・11は胎土より湖西産であり、12は南比企産である。

壘は口縁部の外反度合がさらに強まり口縁下に弱い稜をもつもの、口端部を外削ぎ状にするものが認められる。

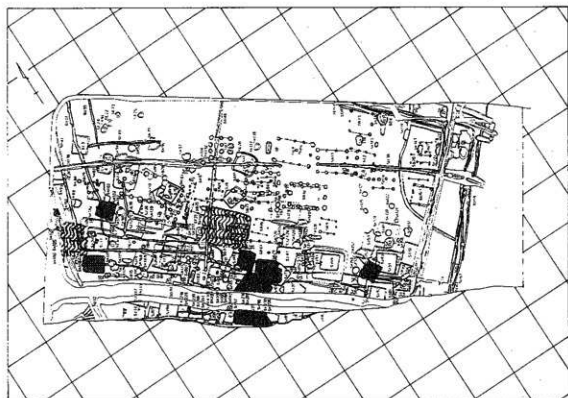
該期の住居跡として4・7・12・32・64・69・97号住居跡があげられる。また周辺遺跡として行田市小敷田遺跡、熊谷市北島遺跡、深谷市東川端遺跡があげられる。

以上の住居跡をもって集落第Ⅳ期に位置づけ、概ね7世紀後半から8世紀初頭にあてたい。

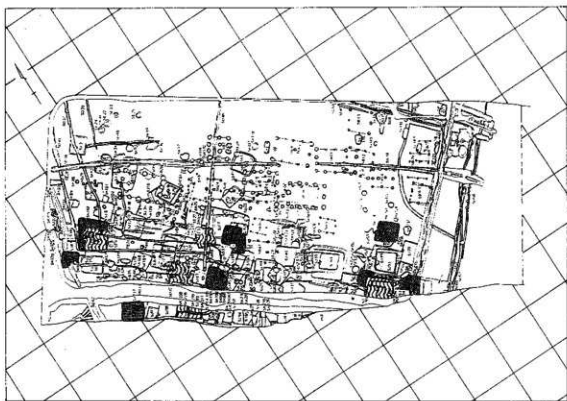
これに後続する住居跡としてA区1号住居跡があげられる。土師器坏は1のように口縁部がやや開くと同時に器形の大型化および、平底化が認められる。これに4の内面放射線紋坏が伴出している。また須恵器は坏Aが出土し、いずれも底部回転糸切り周辺削りて



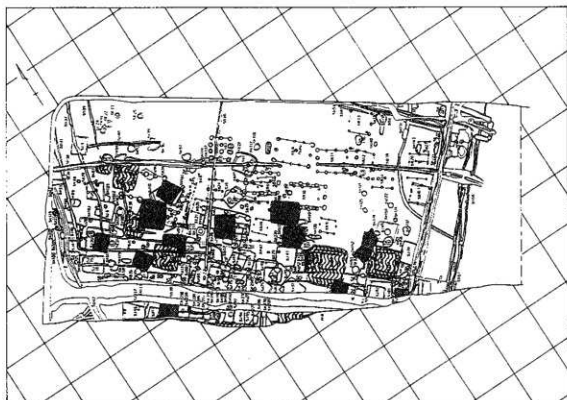
集落第Ⅰ期



集落第Ⅱ期



集落第Ⅲ期



集落第Ⅳ期

ある。なを、9には逆「Z」字状の墨書が認められ、該期の墨書土器としては県内でも有数のものである。また、蓋はボタン状つまみをもつむかえり蓋および、環状つまみの蓋が含まれている。このほか、14の湖西産の長頸壺も伴出している。

該期の住居跡は同住居跡1軒のみであるが、A区8・13号井戸跡から同期の遺物が多量に出土している。

これらの遺構から出土した遺物をもって集落第V期に位置づけ、概ね8世紀前半にあてたい。

以上各時期の集落変遷を代表となる住居跡を中心として記述してきたが、ここで改めておおまかな集落変遷を概観してみたい。

今年度報告範囲での集落は概ね立地状から、3グループをもって変遷している状況が窺える。第1グループは重複住居跡群(2)および周辺住居跡、第2グループは重複住居跡群(3・4・5)および周辺住居跡、第3グループは重複住居跡群(7)である。このうち第3グループには次年度以降の報告予定の住居跡も含まれ、今後に再検当すべき余地がのこされている。しかしながら第3グループ以外では集落開始期から1ないし2軒で推移している。集落第II期では第3グループに居住がはじまり、また、第2グループの住居跡が増加する。一方第III期にはいと第1グループの居住域の減少が認められる。さらに、第IV期では第1・2グループの居住域の縮小化と各グループ間の領域への新たな住居跡の進出が認められる。またこれに並行し

て、掘立柱建物が構築されるようになる。

以上の集落変遷の経過から、今年度報告範囲内では集落の画期を第II期および第IV期に求めることができる。

このほか、遺構および遺物について2点ほど提起しておきたい。第1点は32号住居跡である。この住居跡は長幅6.42あり大型の住居跡である。また柱穴は6本あり、しっかりした堀方である。このような大型住居跡の類例として川越市光山遺跡第53号住居跡をあげることができる。出土遺物からもほぼ同期と考えられ、多くの掘立柱建物跡を伴う集落として共通する部分もっている。今後の調査例の増加を待って一般住居跡、掘立柱建物跡などの比較検討を行ない、本例のような大型住居跡の性格づけを試みる必要があると考えられる。

第2点はA区ビット55から出土した須恵器漆壺である。県内での出土例の分析については、宮龍由紀子氏が埼玉考古第32号誌上で詳細に報告している。それによれば、「宮都以外の古墳時代末から奈良時代前半=評制段階の東日本出土の漆運搬容器は官衙関連の遺跡から出土する傾向が高い。また、漆工房は鋳造工房と一体となって機能していたことが看取できた。」として出土遺跡の性格並びに漆の利用法を想定している。

本出土例もこれらの事象をふまえ今後集落の性格を検討する中で重要な資料となるであろう。

## 引用・参考文献

- 浅野 晴樹 1989 『北島遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第31集
- 井上 尚明 1988 「7世紀における集落の再編成とその背景」『埼玉県誌研究考古第20号』
- 井上 尚明 1994 『光山遺跡群』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第137集
- 井上 尚明 1995 「考古学からみた集家遺跡」『地方官衙とその周辺』シンポジウム3 日本考古学協会
- 大沢 昌弘他 1982 『袋・台遺跡』吹上町埋蔵文化財調査報告書
- 大谷 徹 1996 『新屋敷遺跡C区』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第175集
- 斉藤 国夫 1990 『小針遺跡-第3次調査報告書-』行田市遺跡調査会報告書第2集
- 斉藤 国夫 1981 『小針北遺跡』行田市遺跡調査会報告書第1集
- 坂口 一 1991 「土師器型式変化の要因-群馬県における出現期の須恵器模倣土師器の様相-」『研究紀要8』群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 白田 正子 1996 「古墳時代中期後葉における土器編年細分案-牛久地域を取りあげて-」『茨城県考古学協会誌第8号』茨城県考古学協会
- 関 和彦編 1994 『古代東国の民衆と社会』名著出版
- 瀬瀬 芳之 1990 『東川端遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第94集
- 田中 広明 1992 『新屋敷東・本郷前東遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第111集
- 田中 広明 1996 「関東西部における律令制成立までの土器様相と歴史的動向-群馬・埼玉県を中心として-」『東国土器研究第4号』東国土器研究会
- 田部井 功・金子 貞士他 1977 『鵜池・武良内・高畑』埼玉県遺跡発掘調査報告書第11集
- 富田 和夫 1994 『稲荷前遺跡(B・C区)』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第145集
- 中島 洋一 1993 『西谷遺跡・築道下遺跡(1、2次)』行田市遺跡調査会報告書第3集
- 比田井克仁 1985 「7世紀における多摩地方の土器様相-多摩ニュータウン地域の検討のために」『研究論集Ⅲ』東京都埋蔵文化財センター
- 坂野 和信・富田 和夫 1996 「飛鳥時代の関東と畿内-北関東における7世紀の土器様相-」『東アジアにおける古代国家成立期の諸問題』シンポジウム・イン・矢吹 国際古代シンポジウム実行委員会
- 細田 勝・富田 和夫 1989 『中三谷遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第76集
- 宮嶋由紀子 1996 「大宮市根切遺跡出土漆付着土器をめぐって」『埼玉考古第32号』埼玉考古学会
- 山崎 武 1981 『生田塚遺跡』鴻巣市遺跡調査会報告書第2集
- 吉田 稔 1991 『小敷田遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第95集
- 埼玉 県 1987 『荒川 人文Ⅰ』荒川総合調査報告書2



# 付編 築道下遺跡出土土器胎土分析

縄第四紀地質研究所

井上 巖

## X線回折試験及び化学分析試験

### 1 実験条件

#### 1-1 試料

分析に供した試料は第1表胎土性状表に示す通りである。

X線回折試験に供する遺物試料は洗浄し、乾燥したのちに、メノウ乳鉢にて粉碎し、粉末試料として実験に供した。

化学分析は土器をダイヤモンドカッターで小片に切断し、表面を洗浄し、乾燥後、試料表面をコーティングしないで、直接電子顕微鏡の鏡筒内に挿入し、分析した。

#### 1-2 X線回折試験

土器胎土に含まれる粘土鉱物及び造岩鉱物の同定はX線回折試験によった。測定には日本電子製JDX-820X線回折装置を用い、次の実験条件で実験した。

Target:Cu, Filter:Ni, Voltage:40kV, Current:30mA, ステップ角度:0.02°

計数時間:0.5秒。

#### 1-3 化学分析

元素分析は日本電子製5300LV型電子顕微鏡に2001型エネルギー分散型蛍光X線分析装置をセットし、実験条件は加速電圧:15KV、分析法:スプリント法、分析倍率:200倍、分析有効時間:100秒、分析指定元素10元素で行った。

## 2 X線回折試験結果の取扱い

実験結果は第1表胎土性状表に示す通りである。

第1表右側にはX線回折試験に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の組織が示してあり、左側には、各胎土に対する分類を行った結果を示している。

X線回折試験結果に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の

各々に記載される数字はチャートの中に見られる各鉱物に特有のピークの強度を記載したものである。

電子顕微鏡によって得られたガラス量とX線回折試験で得られたムライト (Mullite)、クリストバライト (Cristobalite)等の組成上の組合せとによって焼成ランクを決定した。

### 2-1 組成分類

#### 1) Mont-Mica-Hb三角ダイアグラム

第1図に示すように三角ダイアグラムを1~13に分割し、位置分類を各胎土について行い、各胎土の位置を数字で表した。

Mont, Mica, Hbの三成分の含まれない胎土は記載不能として14にいれ、別に検討した。三角ダイアグラムはモンモリロナイト (Mont)、雲母類 (Mica)、角閃石 (Hb)のX線回折試験におけるチャートのピーク強度をパーセント (%)で表示する。

モンモリロナイトはMont/Mont+Mica+Hb\*100でパーセントとして求め、同様にMica, Hbも計算し、三角ダイアグラムに記載する。

三角ダイアグラム内の1~4はMont, Mica, Hbの3成分を含み、各辺は2成分、各頂点は1成分よりなっていることを表している。

位置分類についての基本原則は第1図に示す通りである。

#### 2) Mont-Ch, Mica-Hb菱形ダイアグラム

第2図に示すように菱形ダイアグラムを1~19に区分し、位置分類を数字で記載した。記載不能は20として別に検討した。

モンモリロナイト (Mont)、雲母類 (Mica)、角閃石 (Hb)、緑泥石 (Ch)の内、a) 3成分以上含まれない、b) Mont, Chの2成分が含まれない、c) Mica, Hbの2成分が含まれない、の3例があ

る。

菱形ダイアグラムはMont-Ch、Mica-Hbの組合せを表示するものである。Mont-Ch、Mica-HbのそれぞれのX線回折試験のチャートの強度を各々の組合せ毎にパーセントで表すもので、例えば、Mont/Mont+Ch\*100と計算し、Mica、Hb、Chも各々同様に計算し、記載する。

菱形ダイアグラム内にある1~7はMont、Mica、Hb、Chの4成分を含み、各辺はMont、Mica、Hb、Chのうち3成分、各頂点は2成分を含んでいることを示す。

位置分類についての基本原則は第2図に示すとうりである。

## 2-2 焼成ランク

焼成ランクの区分はX線回折試験による鉱物組成と、電子顕微鏡観察によるガラス量によって行った。

ムライト (Mullite) は、磁器、陶器など高温で焼かれた状態で初めて生成する鉱物であり、クリストバライト (Cristobalite) はムライトより低い温度、ガラスはクリストバライトより更に低い温度で生成する。

これらの事実に基づき、X線回折試験結果と電子顕微鏡観察結果から、土器胎土の焼成ランクをI~Vの5段階に区分した。

- a) 焼成ランクI: ムライトが多く生成し、ガラスの単位面積が広く、ガラスは発泡している。
- b) 焼成ランクII: ムライトとクリストバライトが共存し、ガラスは短冊状になり、面積は狭くなる。
- c) 焼成ランクIII: ガラスのなかにクリストバライトが生成し、ガラスの単位面積が狭く、葉状断面をし、ガラスのつながりに欠ける。
- d) 焼成ランクIV: ガラスのみが生成し、原土 (素地土) の組織をかなり残している。ガラスは微小な葉状を呈する。
- e) 焼成ランクV: 原土に近い組織を有し、ガラスは殆どできていない。

以上のI~Vの分類は原則であるが、胎土の材質、

すなわち、粘土の良悪によってガラスの生成量は異なるので、電子顕微鏡によるガラス量も分類に大きな比重を占める。このため、ムライト、クリストバライトなどの組合せと全く異なる焼成ランクが出現することになるが、この点については第1表の右端の備考に理由を記した。

## 3) 化学分析結果の取り扱い

化学分析結果は酸化物として、ノーマル法 (10元素全体で100%になる) で計算し、化学分析表を作成した。化学分析表に基づいてSiO<sub>2</sub>-Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>、Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-MgO、K<sub>2</sub>O-CaOの各図を作成した。これらの図をもとに、土器類を元素の面から分類した。

## 3 X線回折試験結果

### 3-1-1 タイプ分類

第1表胎土性状表には分析委託10点、基準土器7点、原土3点を記載してある。タイプ分類はこれらの土器と原土でおこない、第3表タイプ分類一覧表を作成した。

第3表に示すように土器胎土はA~Cの3タイプに分類された。

Aタイプ: Mont、Mica、Hbの3成分を含み、Ch 1成分に欠ける。

Bタイプ: Mica 1成分を含み、Mont、Hb、Chの3成分に欠ける。

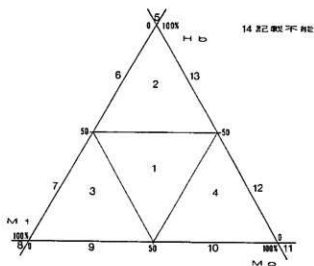
Cタイプ: Mont、Mica、Hb、Chの4成分に欠ける。須恵器は高温で焼成されているために鉱物が分解し、ガラスに変質している。そのため、4成分が検出されない。

最も多いタイプはCタイプで、17個の須恵器のうち15個が該当する。Bタイプは2個で、未野の須恵器で、焼成温度が幾分低い。原土はすべてAタイプで、土層断面上の差はない。

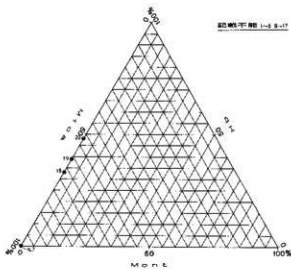
3-2-2 石英 (Qt) - 斜長石 (Pl) の相関について

土器胎土に含まれる砂の粘土に対する混合比は粘土の材質、土器の焼成温度と大きな関わりがある。土器を制作する過程で、ある粘土にある量の砂を混合し

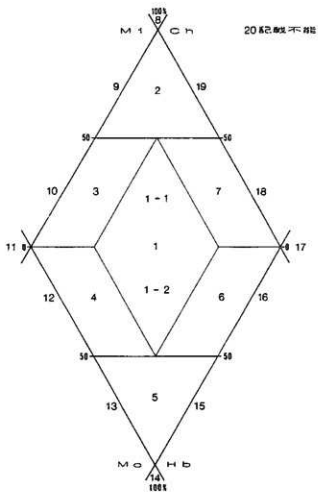
第1図 三角ダイヤグラム  
位置分類図



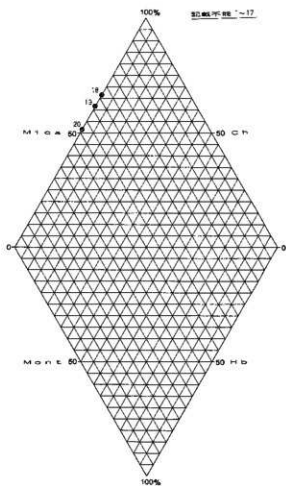
第3図 Mo-MI-Hb  
三角ダイヤグラム



第2図 菱形ダイヤグラム  
位置分類図



第4図 Mo-Ch, MI-Hb  
菱形ダイヤグラム





て素地上を作るということは個々の集団が持つ土器制作上の固有の技術であると考えられる。

自然の状態における各地の硯は固有の石英と斜長石比を有している。この比は後背地の地質条件によって各々異なってくるものであり、言い換えれば、各地の硯はおのおの固有の石英と斜長石比を有していると言える。

第5図Qt-P1図に示すようにI～Ⅲの3グループと“その他”に分類された。

Iグループ：築道下遺跡出土の8世紀前期の末野の須恵器と原土が集中する。とくに築道下-6と7は焼成温度が低いもので、斜長石の強度が高いのが特徴である。

IIグループ：6世紀後期の末野窯址の須恵器と埴輪壺が集中し、8世紀前期の比企型坏と末野の坏が共存し、群馬の須恵器も混在する。

IIIグループ：8世紀前期の湖西の須恵器が集中する。“その他”：群馬の須恵器で、石英の強度が低く異質である。

8世紀前期の末野の須恵器はIとIIの2グループに分れ、IIグループのものは6世紀後期の末野窯址と同じグループにあり、関連性が何われる。8世紀前期の比企型坏もIIグループにあり、組成的には類似性が高いのが特徴である。

#### 4 化学分析結果

第2表化学分析表に示すように、築道下遺跡の須恵器を化学分析した。既分析の末野窯址の埴輪壺と須恵器と対比した。

分析結果に基づいて第6図SiO<sub>2</sub>-Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>図、第7図Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-MgO図、第8図K<sub>2</sub>O-CaO図を作成した。

##### 4-1 SiO<sub>2</sub>-Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>の相関について

第6図SiO<sub>2</sub>-Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>図に示すようにI～Ⅳの4グループに分類された。Iグループには6世紀後期の末野窯址の須恵器と埴輪壺が集中し、8世紀前期の末野の須恵器が共存し、比企型坏が混在する。IIグループには群馬の須恵器が集中し、原土と共存する。IIIグループは8世紀前期の湖西が集中し、末野、比企、群馬の

須恵器と混在する。Ⅳグループは末野窯址の須恵器と湖西が混在する。

末野窯址の須恵器と埴輪壺は集中度が高く、Iグループにあり、比企-12は常に同じ組成を示す。

##### 4-2 Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-MgOの相関について

第7図Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-MgO図に示すように、I～Ⅲの3グループと“その他”に分類された。

Iグループには湖西が集中し、末野、群馬、末野窯址の須恵器が共存する。IIグループには原土が集中する。IIIグループには末野窯址の須恵器と埴輪壺が集中し、末野の須恵器、比企の須恵器、群馬の須恵器は共存する。“その他”は末野窯址-9で、Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>とMgOの値が高く異質である。

##### 4-3 K<sub>2</sub>O-CaOの相関について

第8図K<sub>2</sub>O-CaO図に示すように、I～Ⅲの3グループと“その他”に分類された。Iグループには末野窯址の須恵器と埴輪壺が集中し、比企型坏と群馬の坏が混在する。IIグループには原土が集中し、末野の須恵器、比企の須恵器、群馬の須恵器が混在する。IIIグループには湖西の須恵器が集中し、末野の須恵器と共存し、群馬の須恵器が混在する。“その他”は末野-6で、K<sub>2</sub>Oの値が高いのが特徴である。

#### 5 湖西について

築道下遺跡出土の湖西の須恵器は参考図5～8図に見られるように湖西窯址群のうち12世紀前期の山口第17窯と筒川第1窯の堯と類似する分析値を有することが図から読み取れる。

築道下遺跡出土の湖西の須恵器は8世紀前後のものであるが山口と筒川の堯の周辺にも8世紀前後の堯があり、それらとの関連性がある可能性が考えられる。

#### 6 まとめ

1) 土器胎土はA～Cの3タイプに分類され、Aタイプは原土、Bタイプは焼成温度の低い末野の須恵器、Cタイプは高温で焼成された須恵器で、鉱物が分解してガラス化したものに分類された。

2) X線回折試験に基づくQt-P1相関では築道下遺跡の末野の須恵器はIグループとIIグループに分

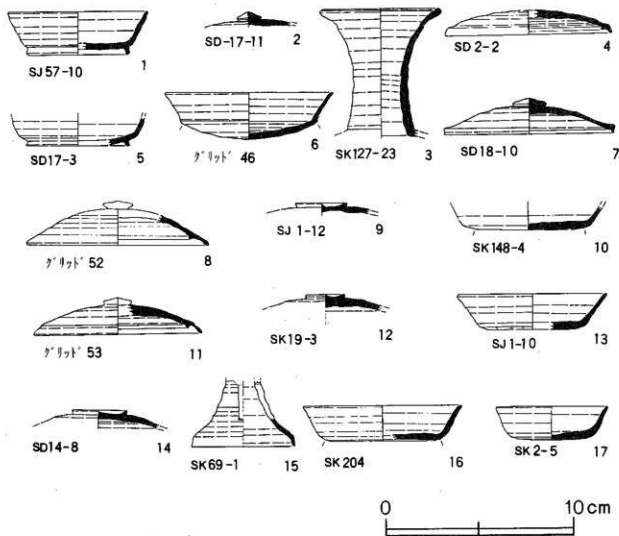
れ、2種類ある。Iグループの須恵器は焼成温度が低いもので斜長石の強度が高い。IIグループの末野の須恵器は末野窯址の須恵器と埴輪壺が集中するこのグループにあり、関連性があると推察される。湖西の須恵器はIIIグループに集中し、明らかに異質である。群馬の土器はIIグループに集中し、末野窯址の須恵器と共存する。

3) 化学分析結果でも築道下遺跡出土の末野の須恵器は末野窯址の須恵器が集中するグループのはいるもの

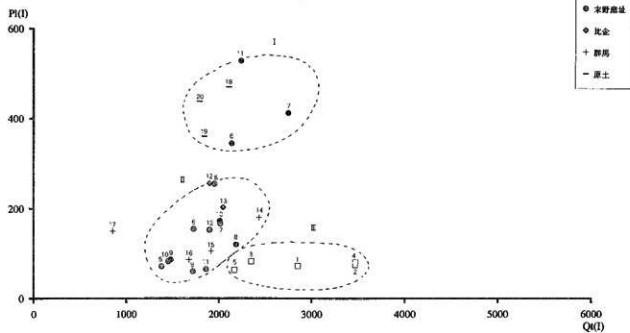
のと異なるグループにはいるものと2種類ある。

この結果はQt-P1の相関と同じ傾向を示す。湖西は明らかに分析値が異なり末野窯址の須恵器、末野の須恵器とは異なり、明らかに別の胎土である。群馬の須恵器はSiO<sub>2</sub>-Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>の相関において末野窯址と湖西の中間に位置し、明らかに両者とは異なる組成を呈する。比企型坏のうち築道下-12の比企型坏は分析値が末野窯址の須恵器と大変に類似しており、分析値としては築道下-12は末野窯址を指向している。

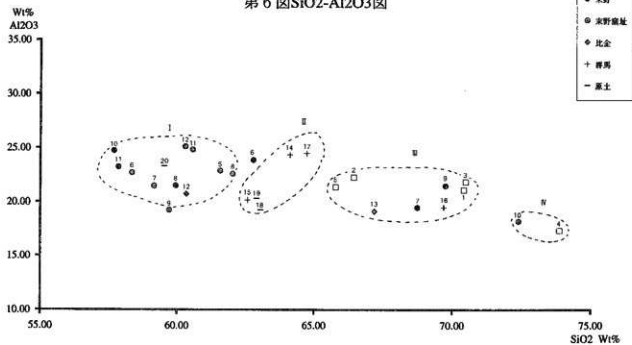
#### 分析資料遺物実測図



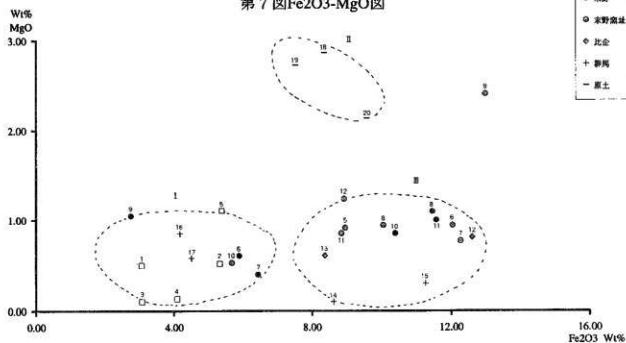
第5图Qt-P I图



第6图SiO<sub>2</sub>-Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>图



第7図 Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-MgO図



第8図 K<sub>2</sub>O-CaO図

